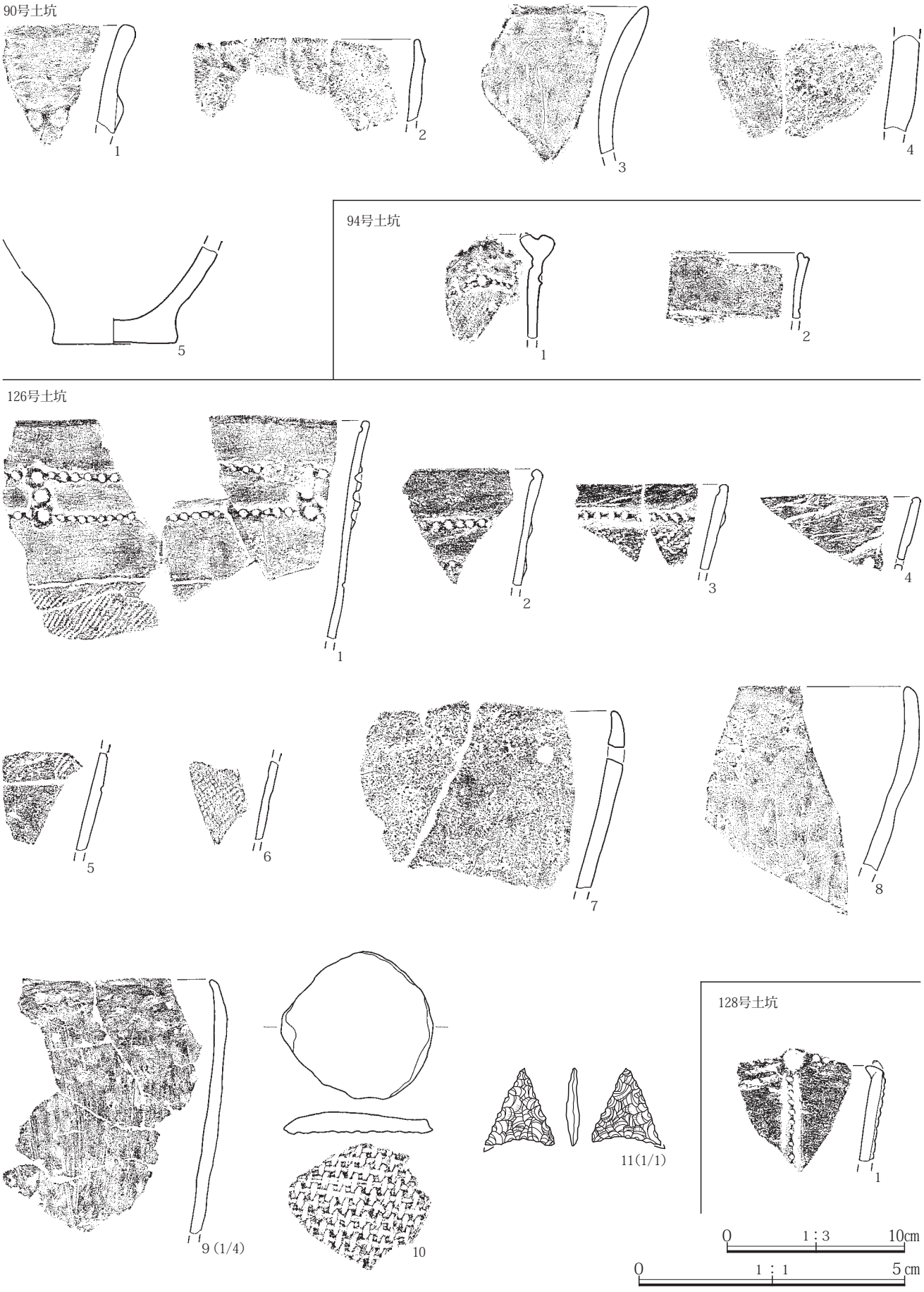
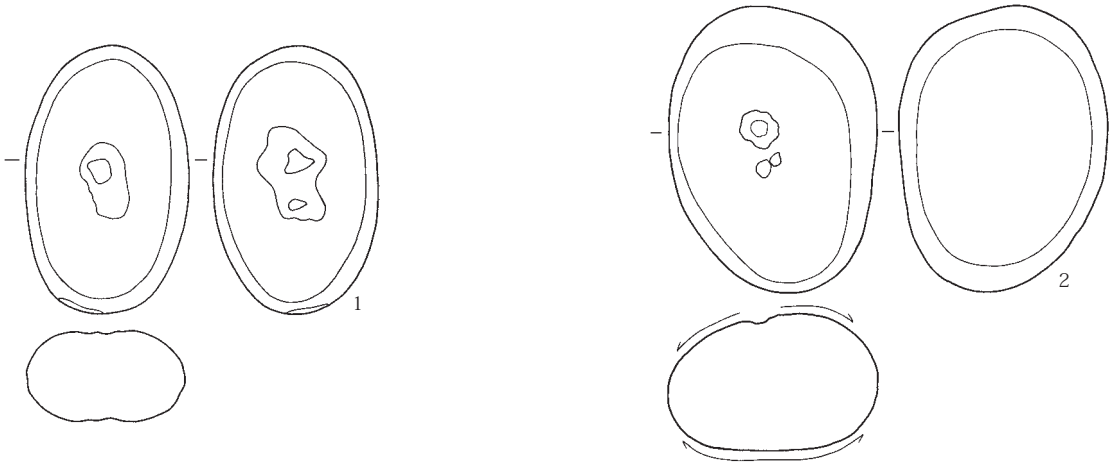
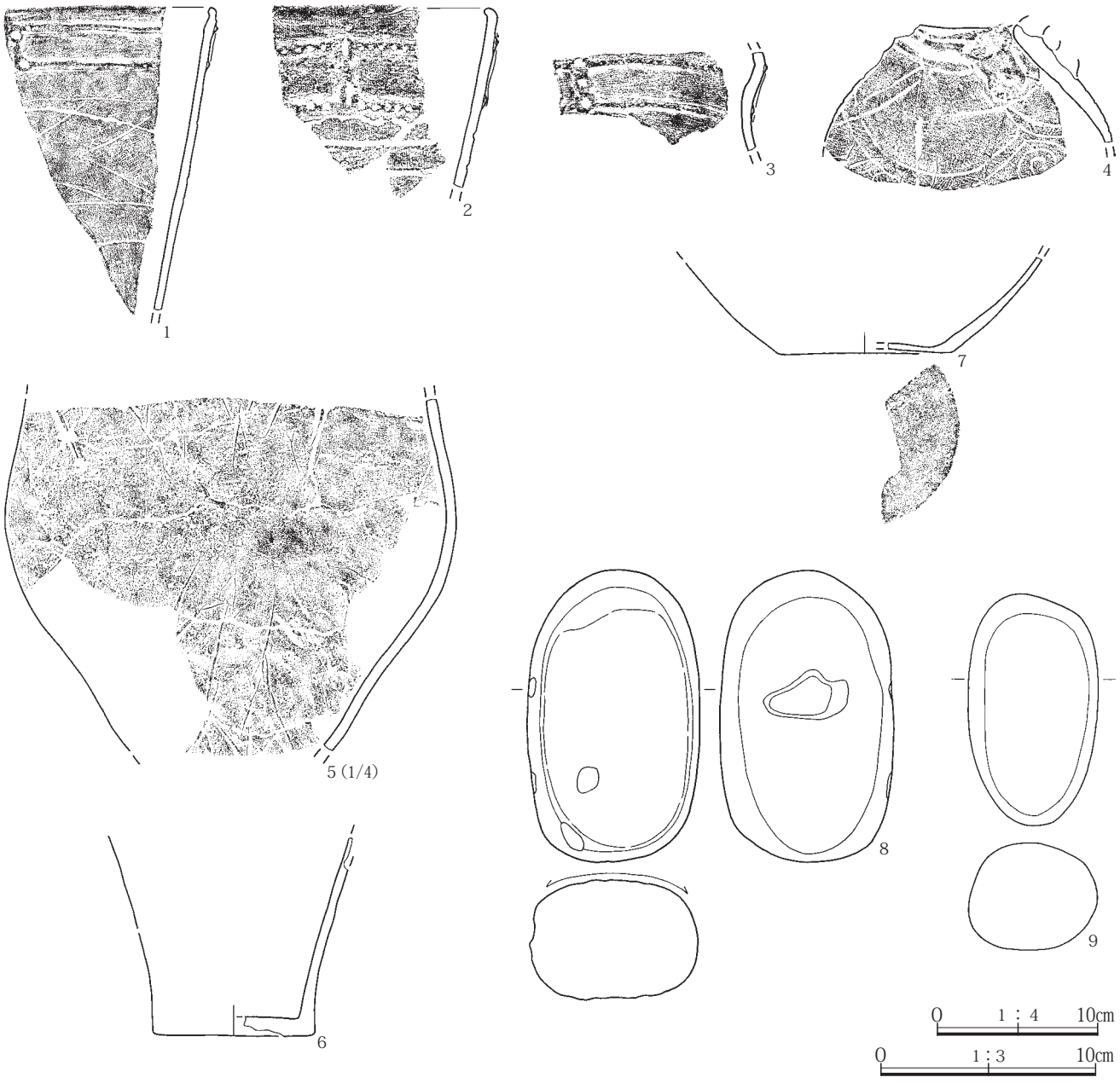


第295図　Ⅴ区土坑出土遺物（１）

131号土坑

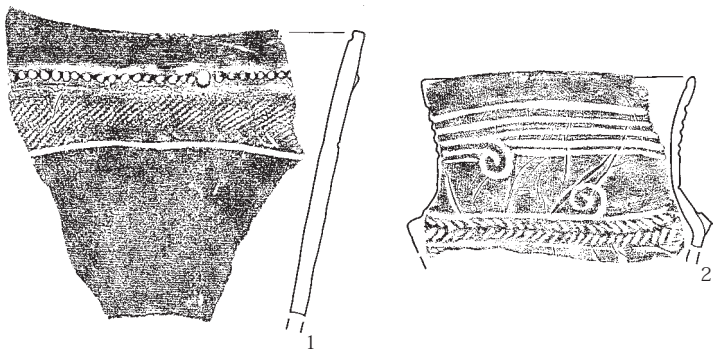


132号土坑

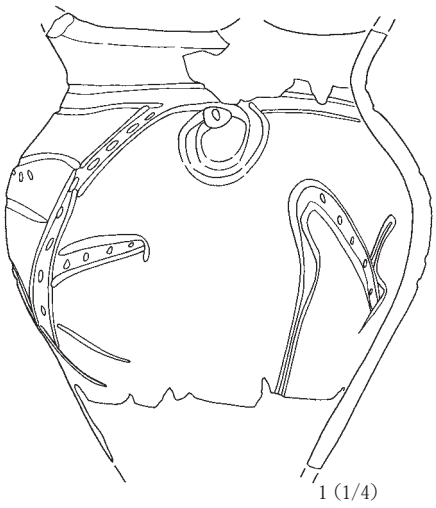


第296図　Ｖ区土坑出土遺物（２）

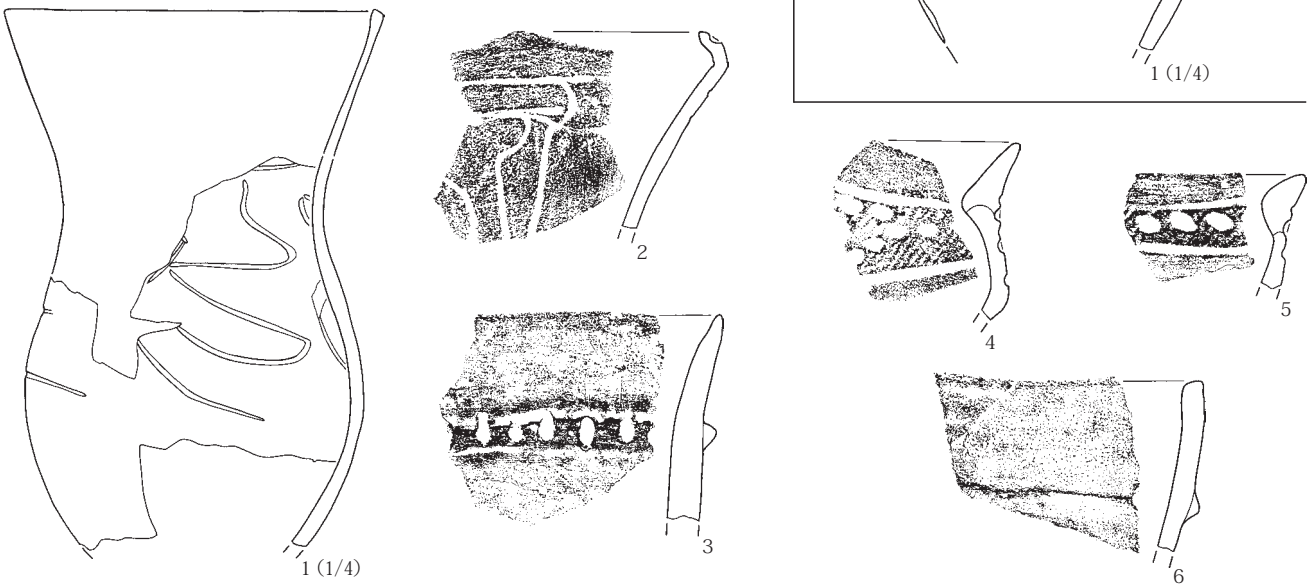
133号土坑

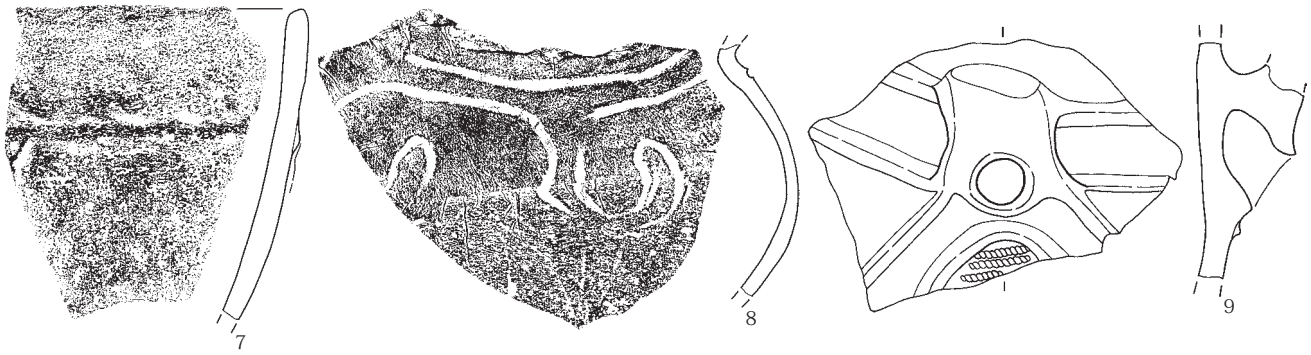


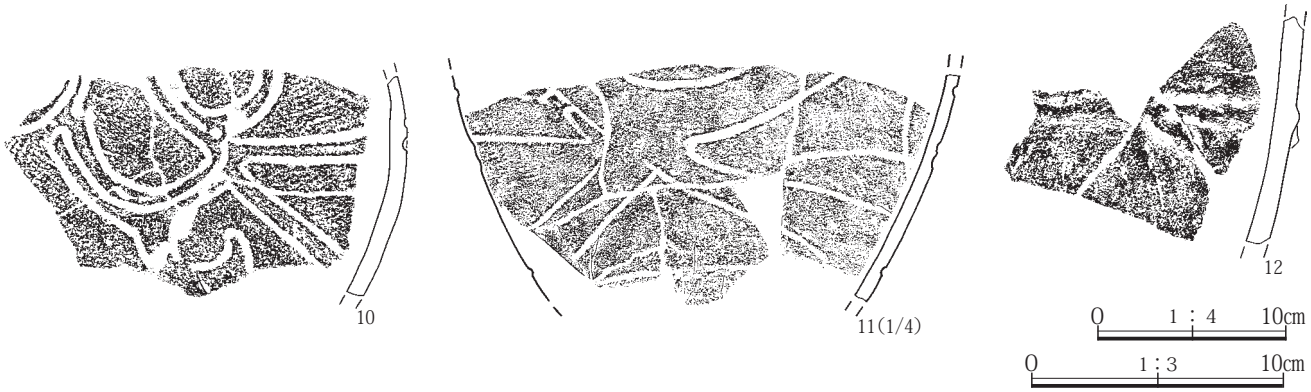
134号土坑



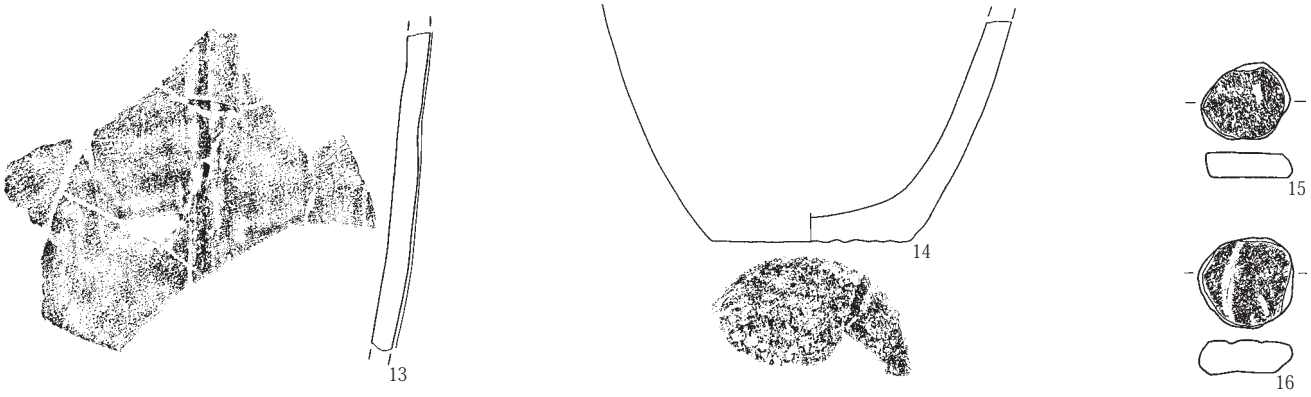
135号土坑



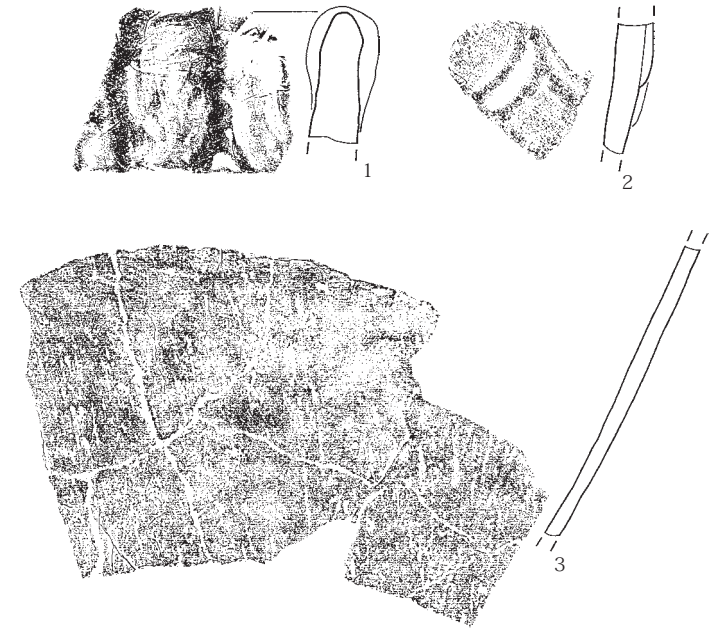




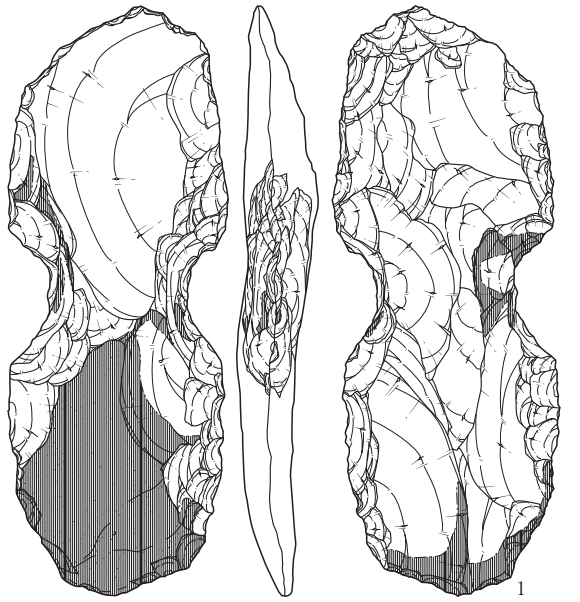
第297図　Ⅴ区土坑出土遺物（３）



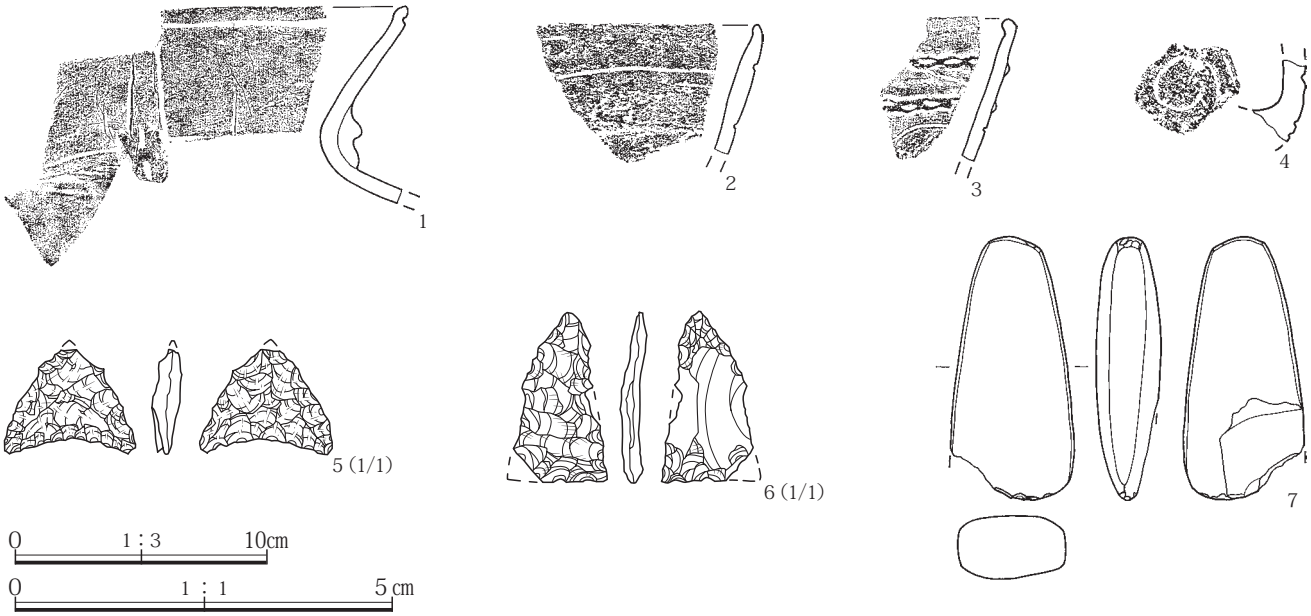
136号土坑



137号土坑



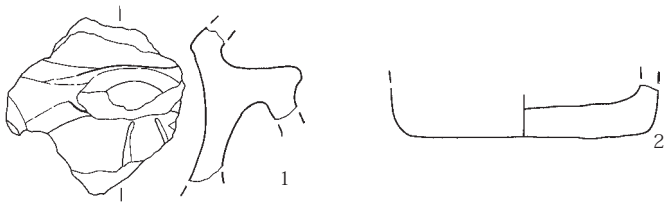
138号土坑



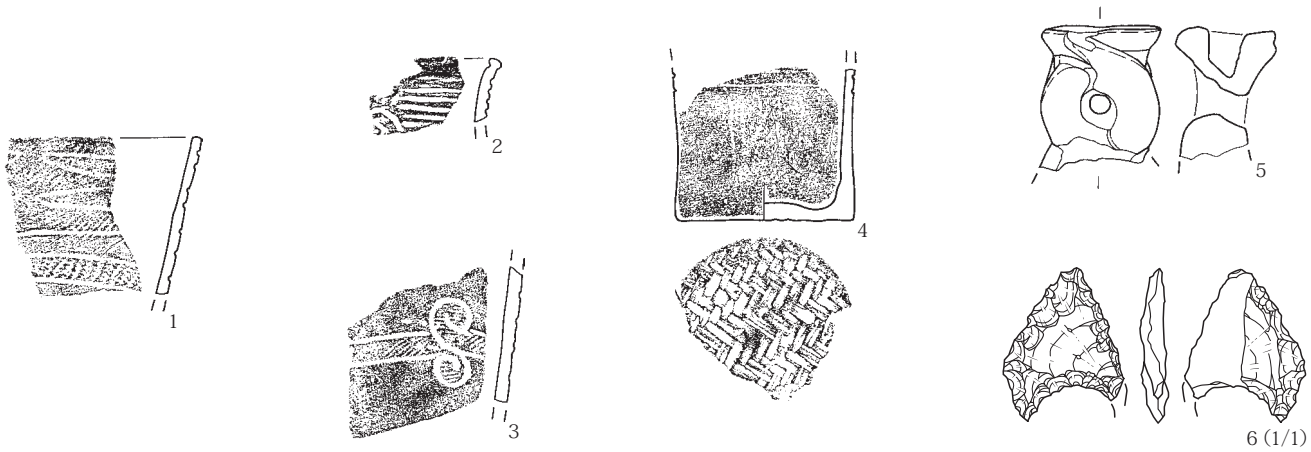
第298図　Ｖ区土坑出土遺物（４）

139号土坑

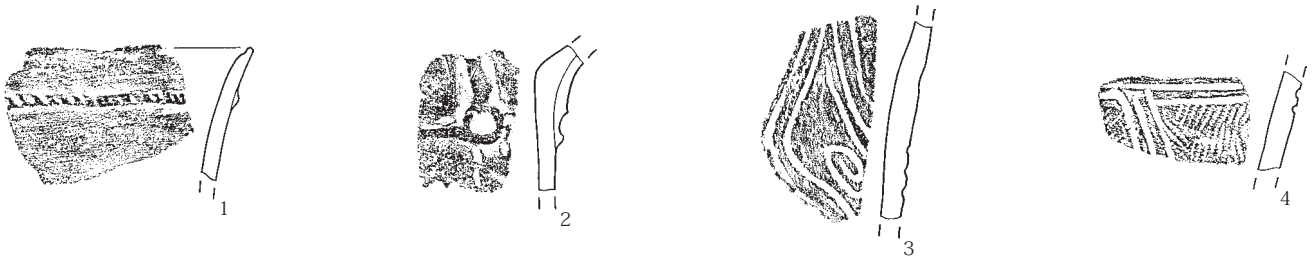
140号土坑



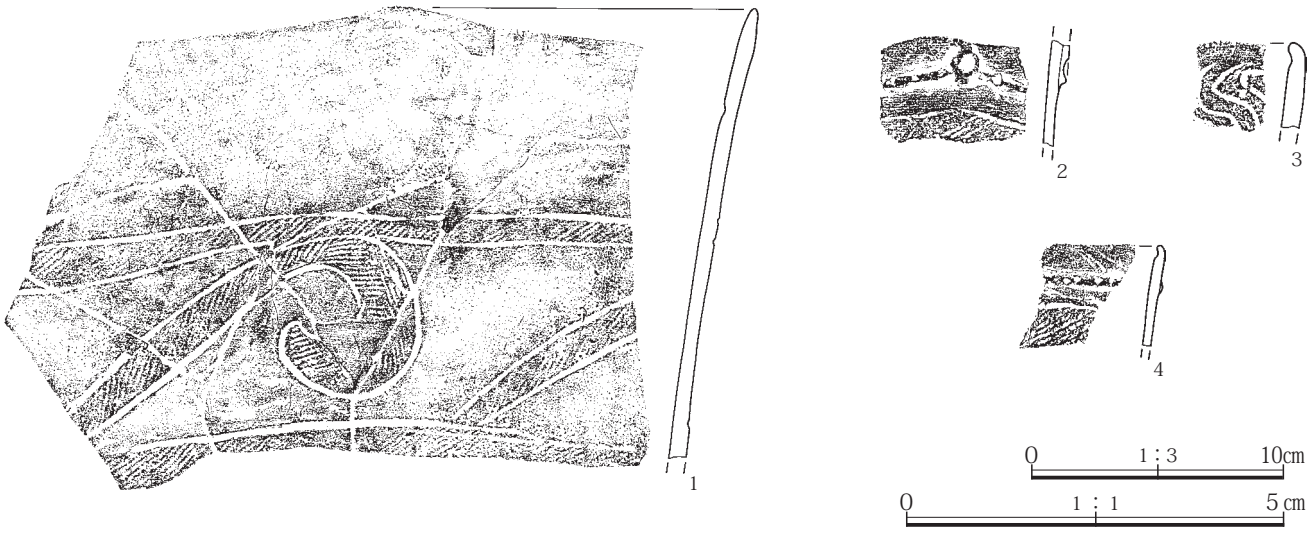
141号土坑



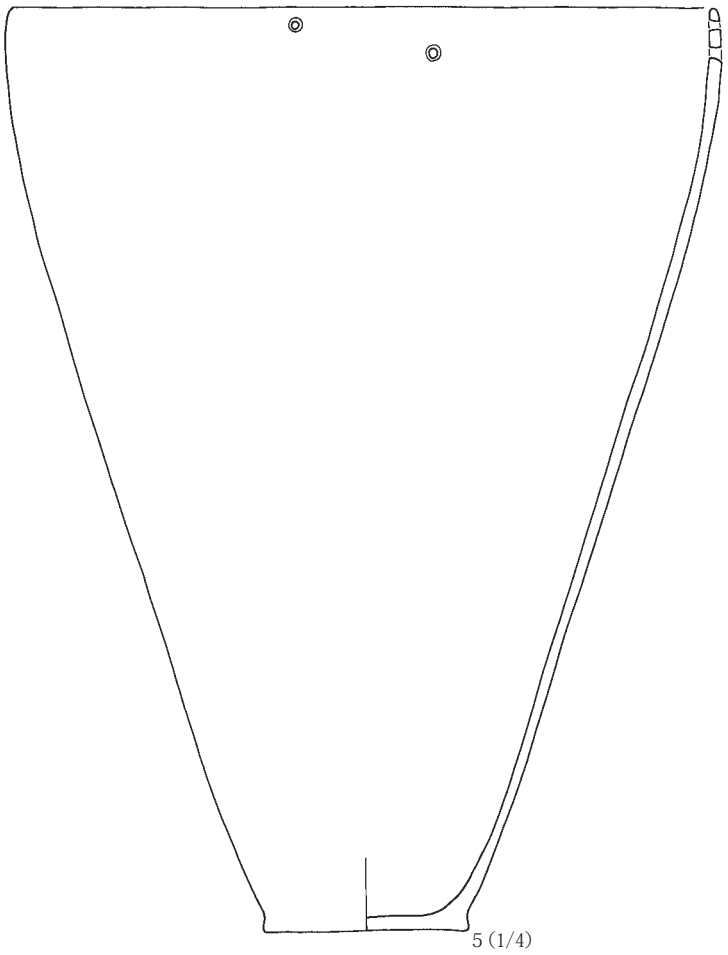
142号土坑

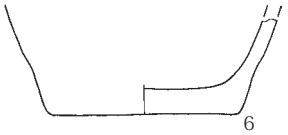


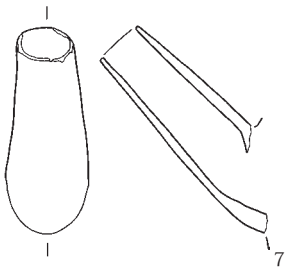
143号土坑

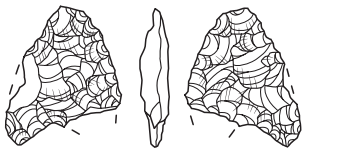


第299図　Ⅴ区土坑出土遺物（５）

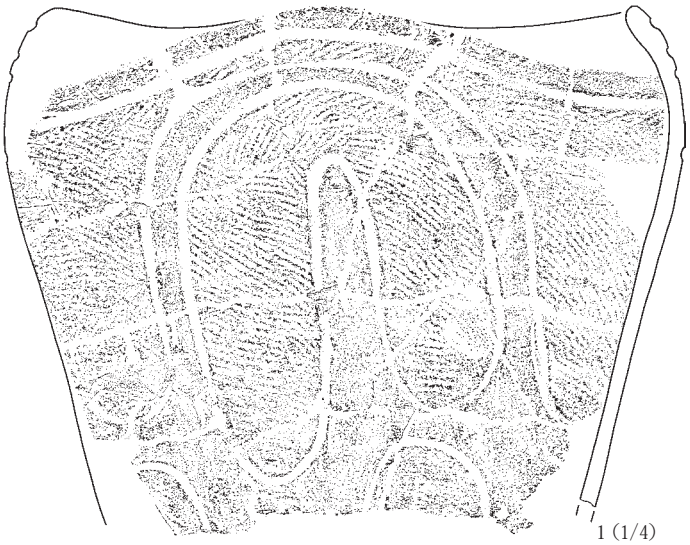


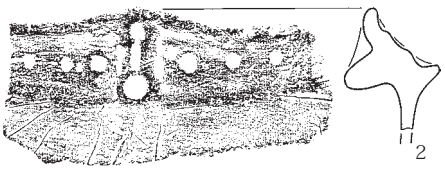


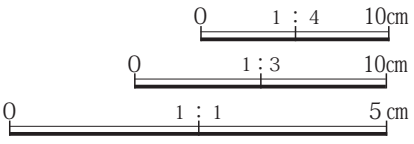




144号土坑



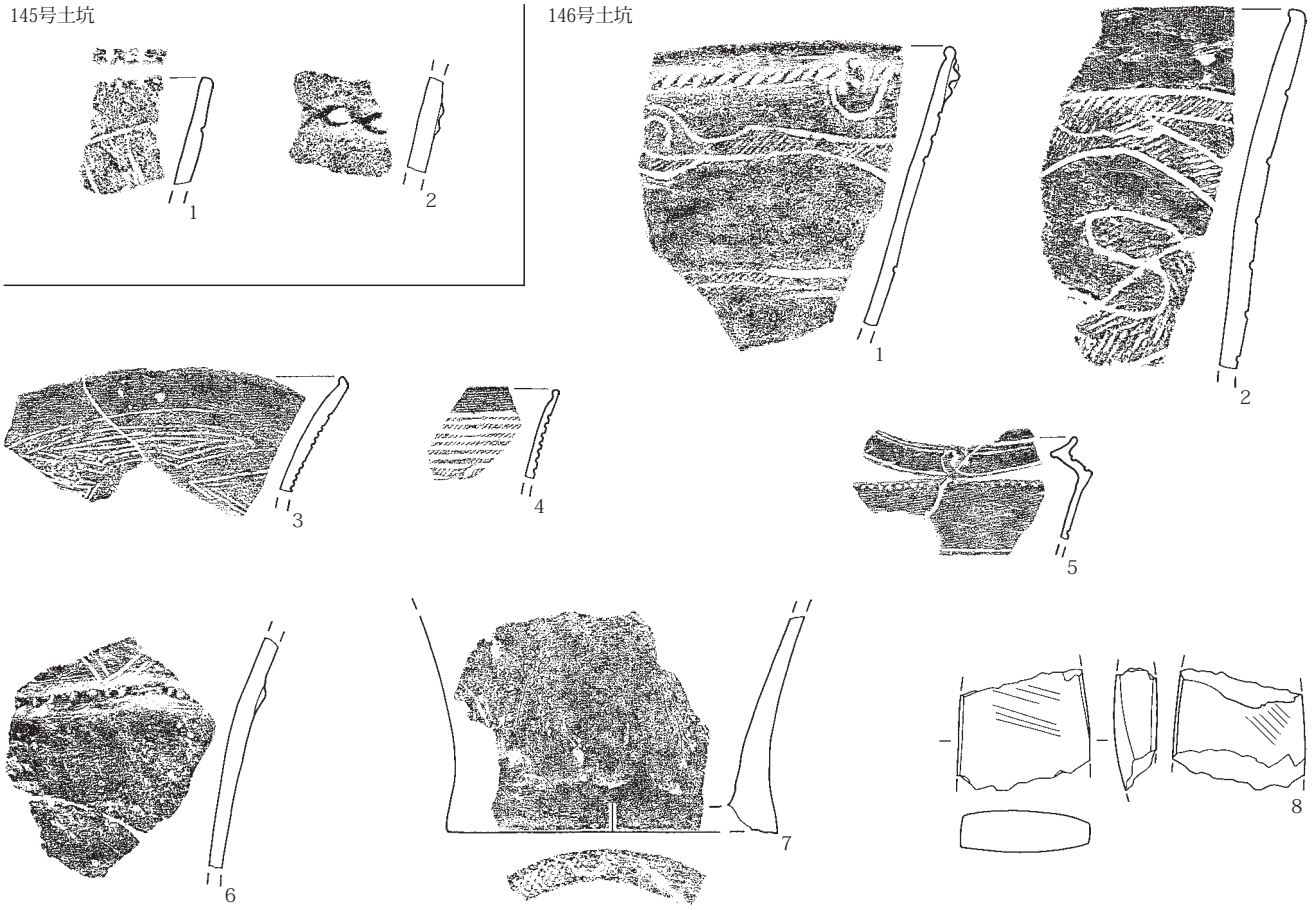




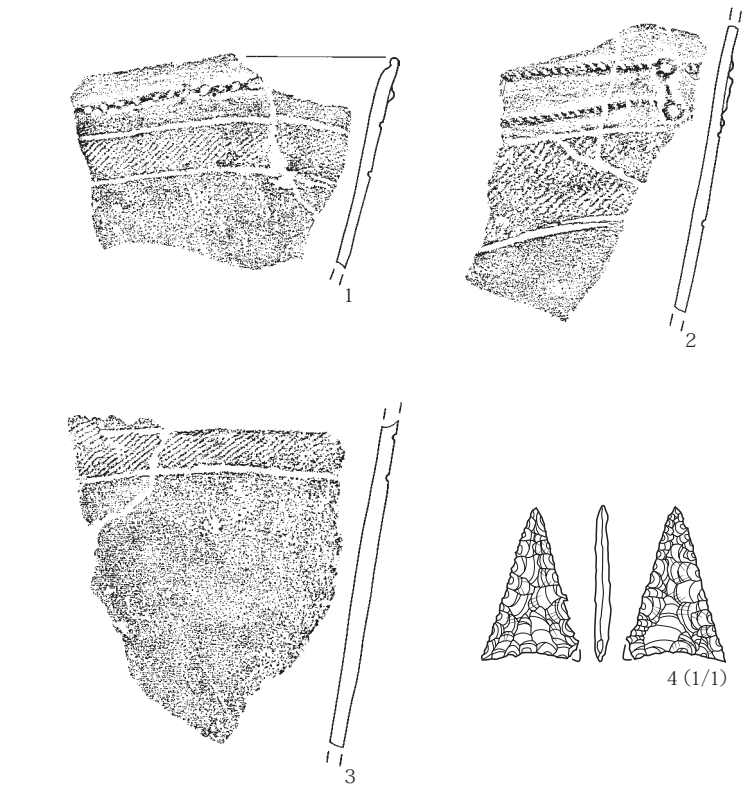
第300図　Ｖ区土坑出土遺物（６）

145号土坑

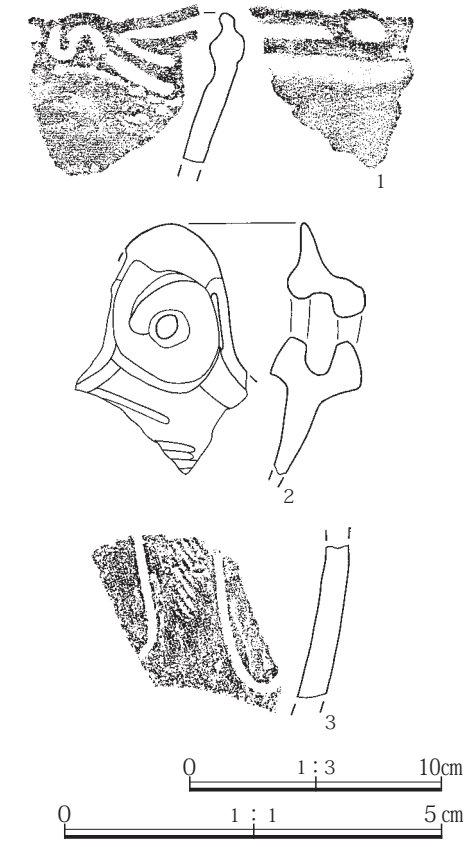
146号土坑



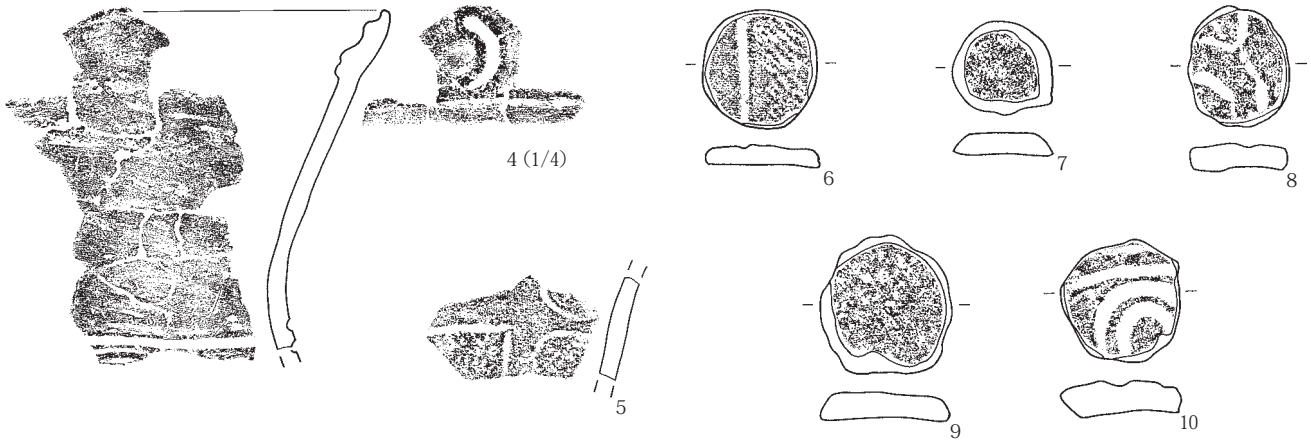
147号土坑



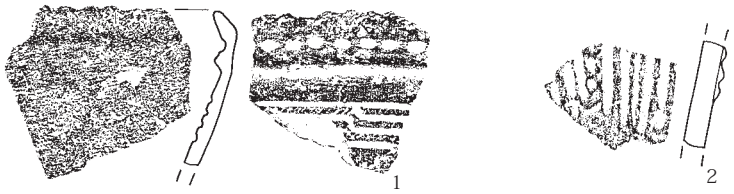
148号土坑



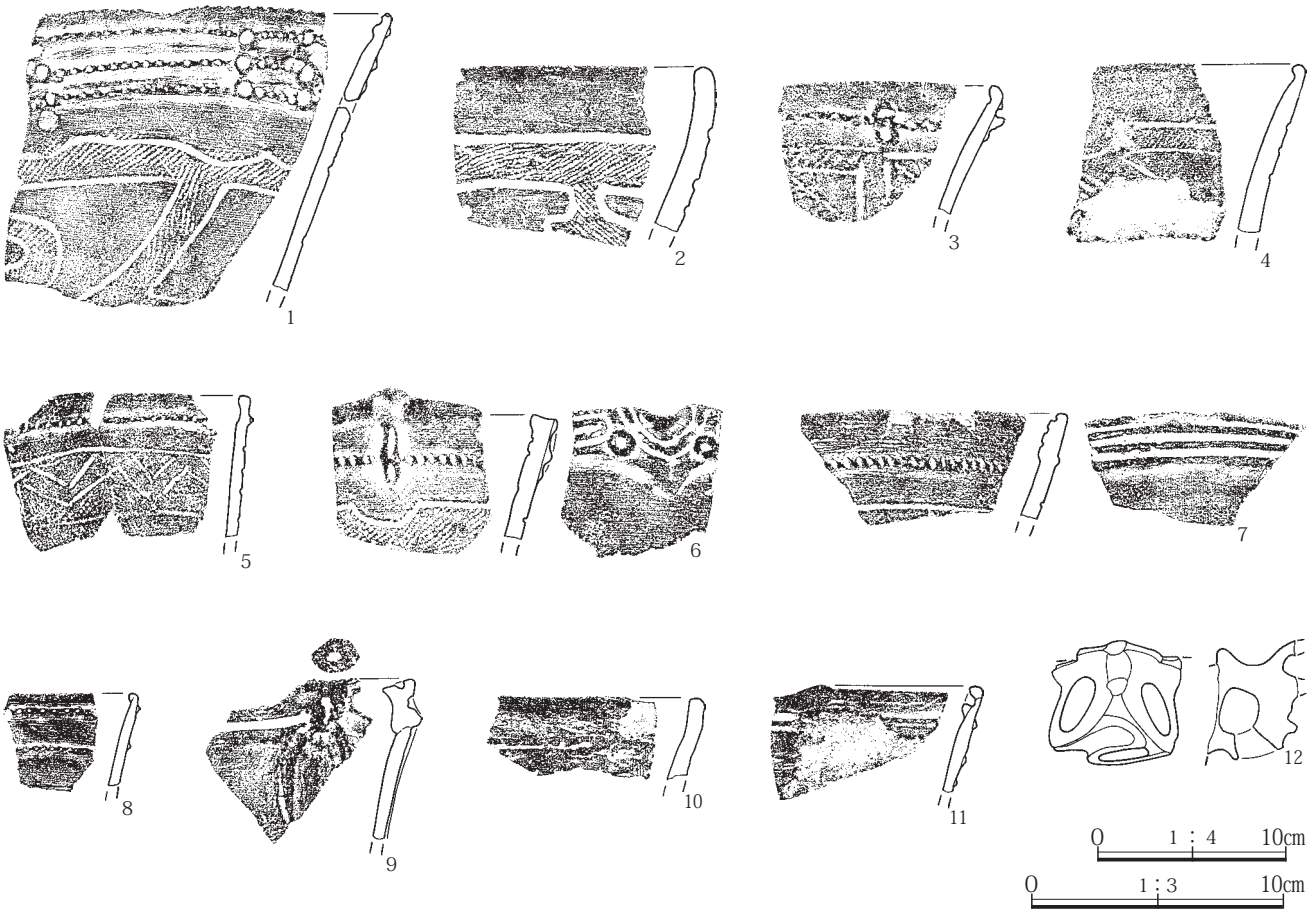
第301図　Ⅴ区土坑出土遺物（７）



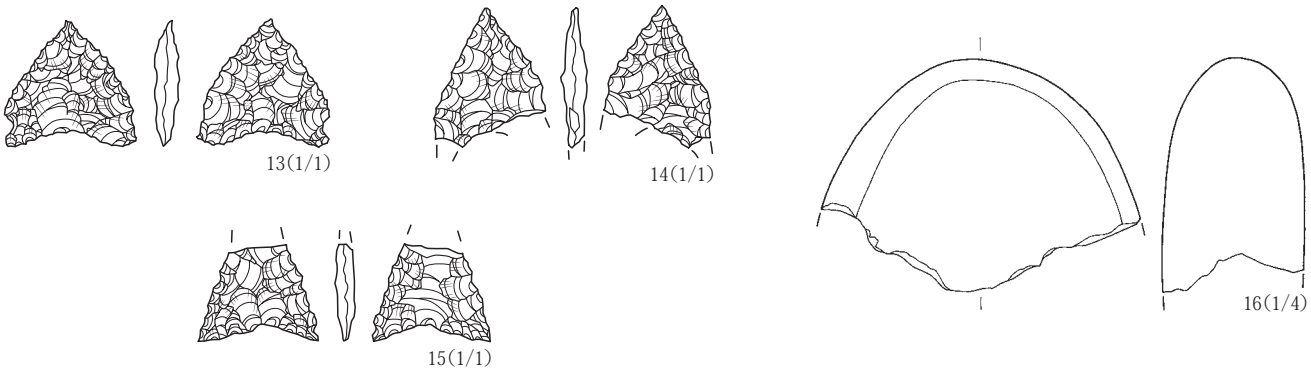
149号土坑



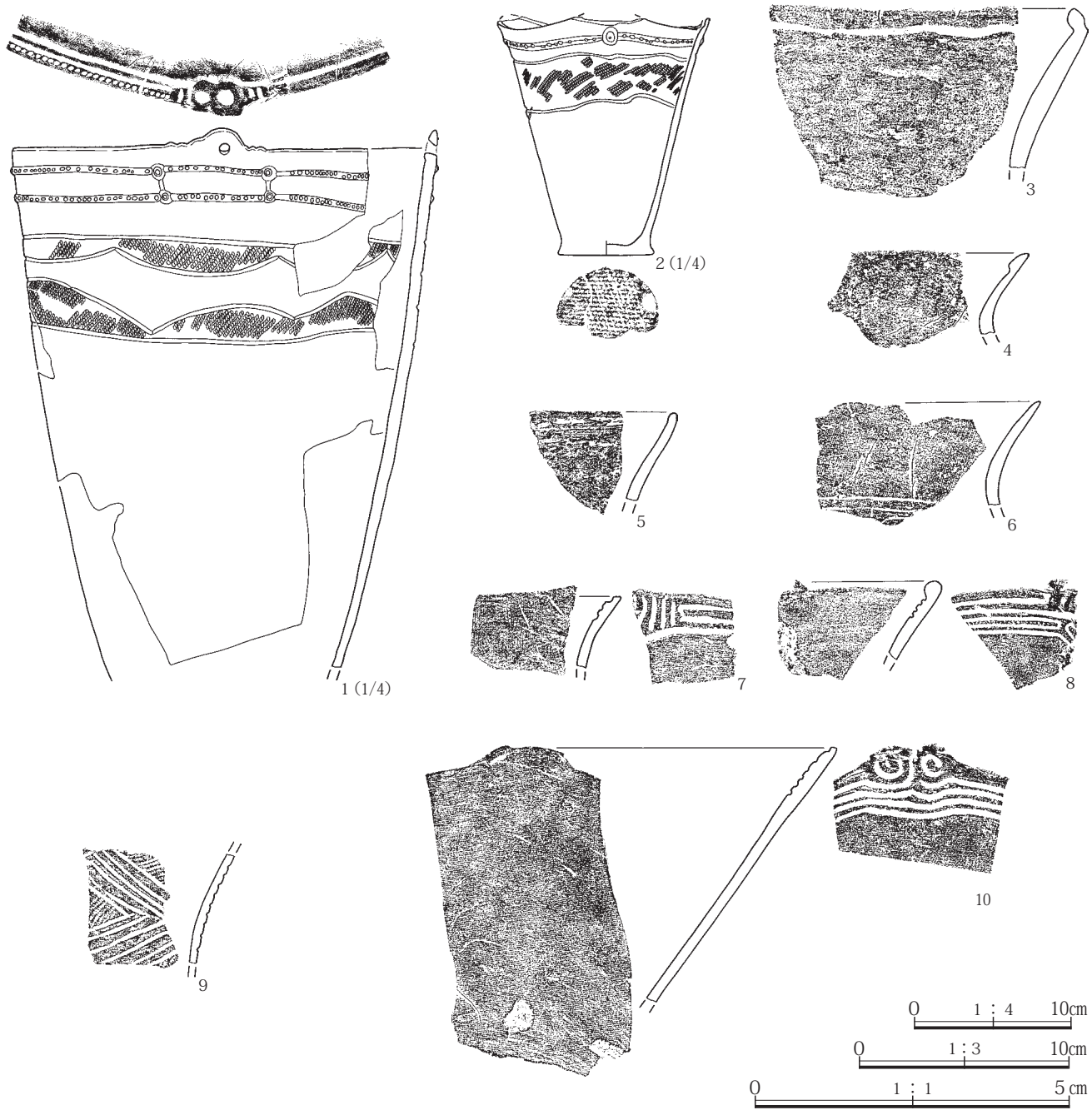
150号土坑



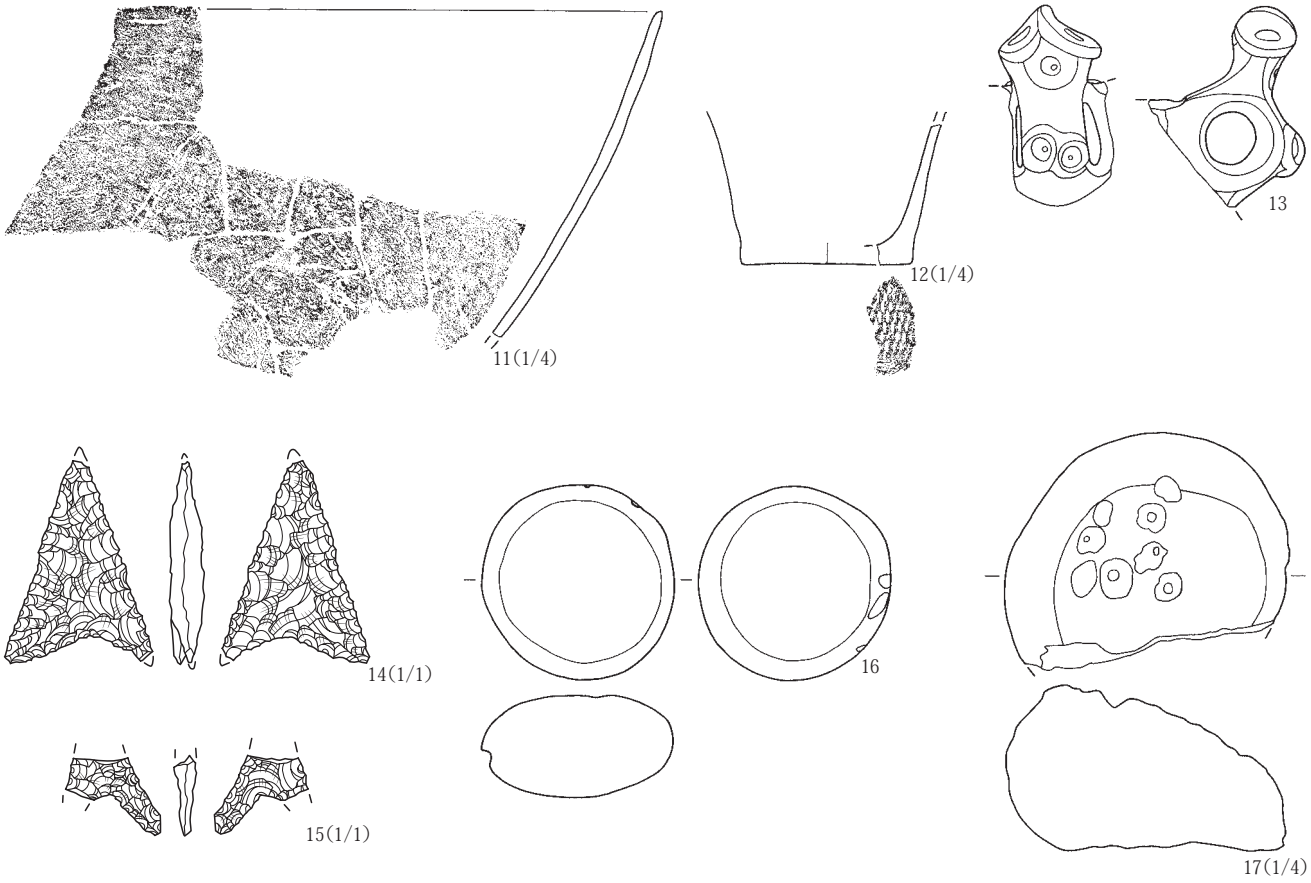
第302図　Ｖ区土坑出土遺物（８）



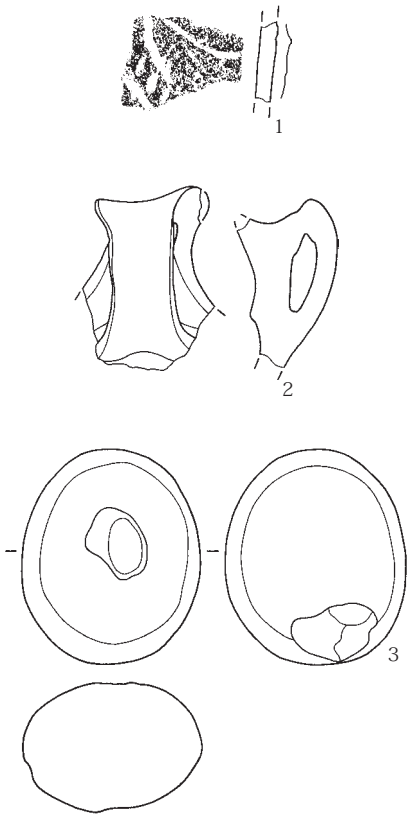
151号土坑



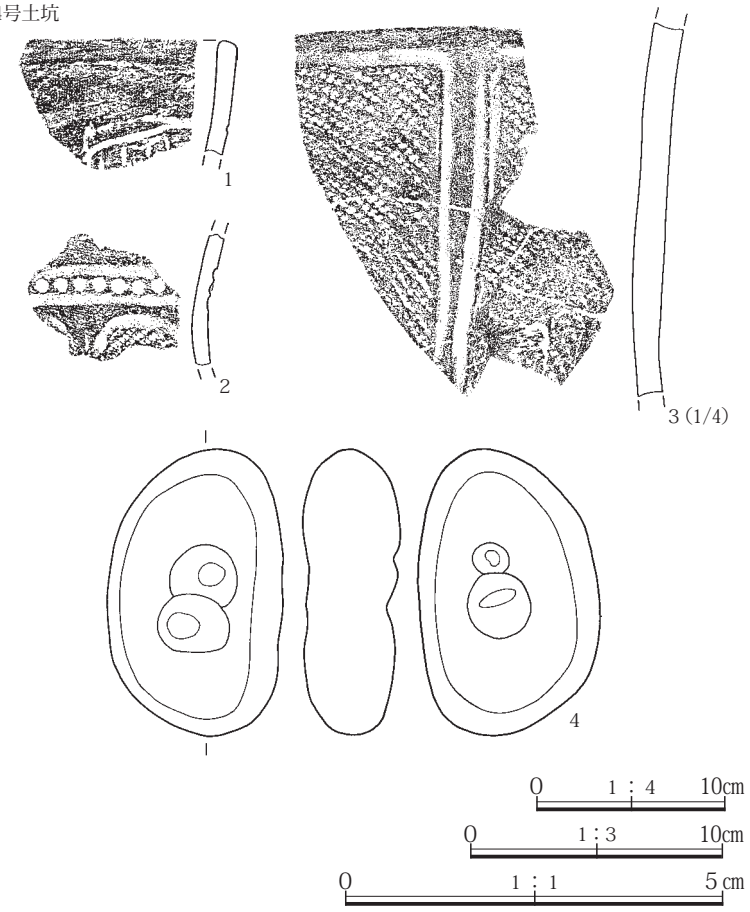
第303図　Ⅴ区土坑出土遺物（９）



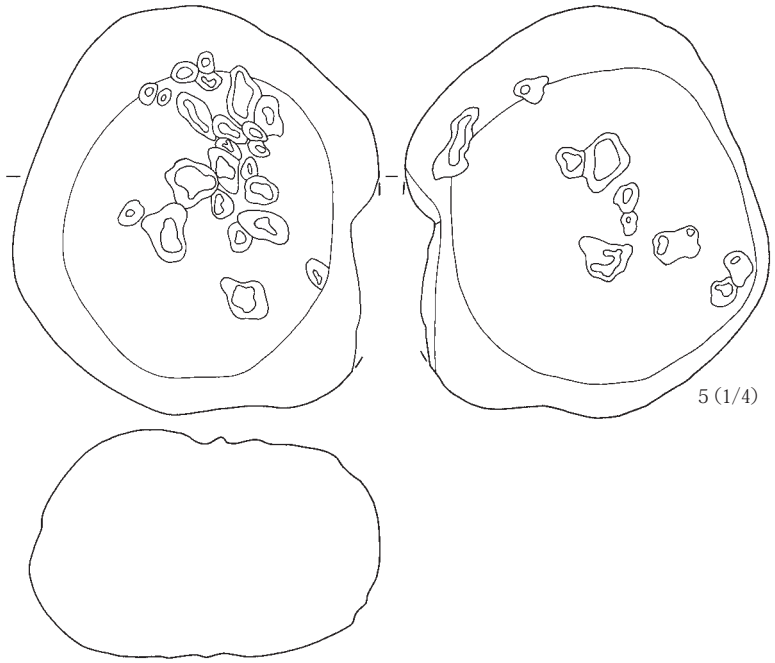
153号土坑



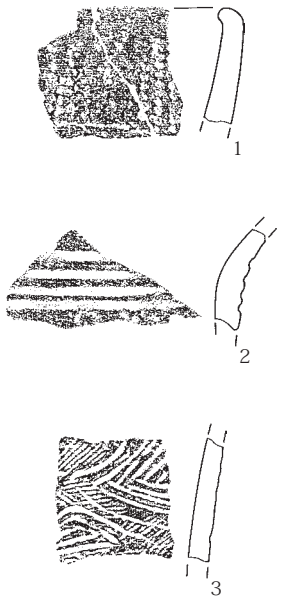
154号土坑



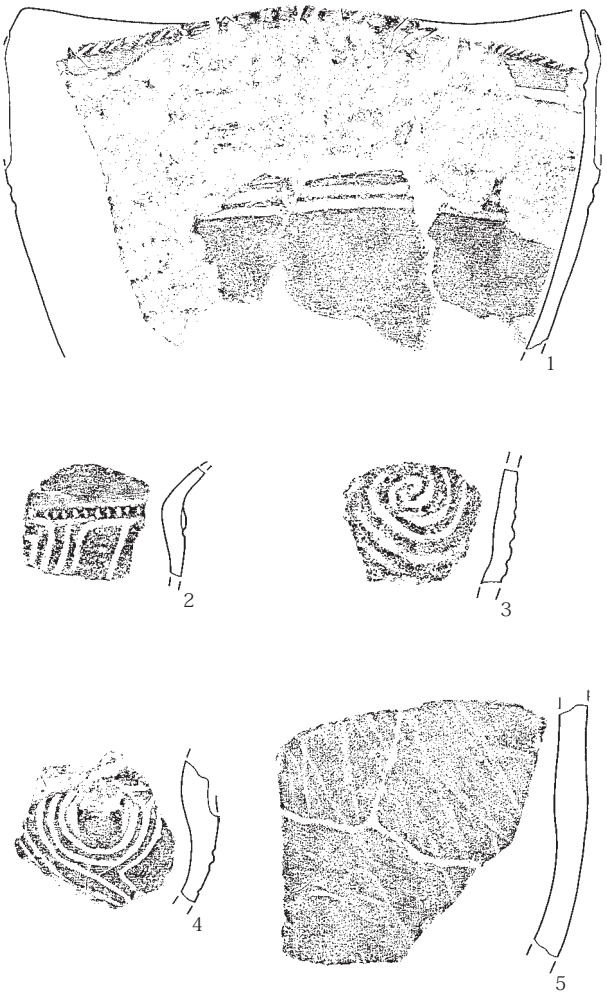
第304図　Ｖ区土坑出土遺物（10）



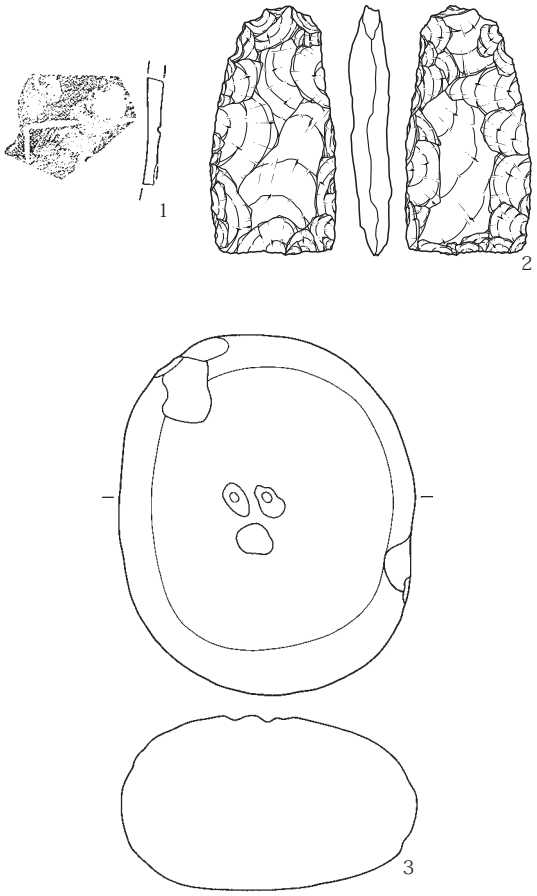
155号土坑



156号土坑



157号土坑

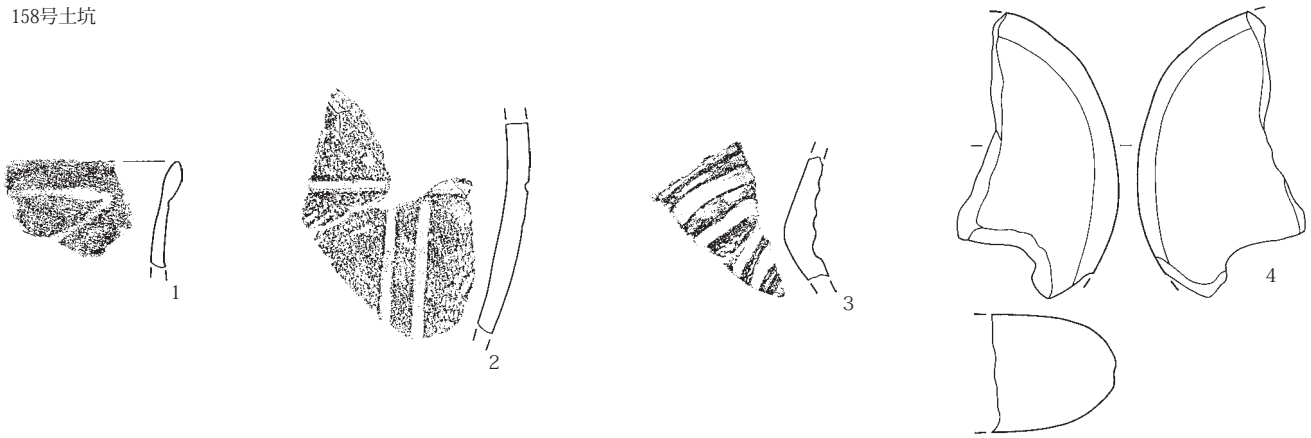


0　1：4　10cm

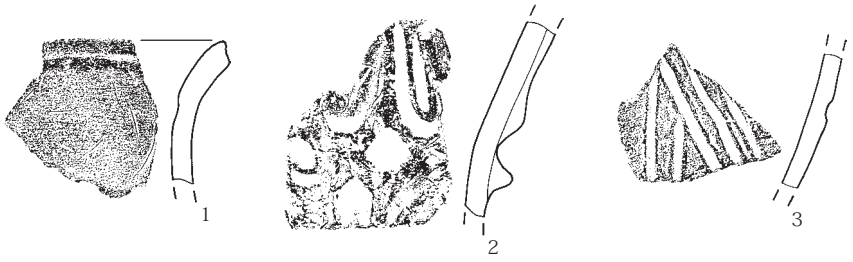
0　1：3　10cm

第305図　Ⅴ区土坑出土遺物（11）

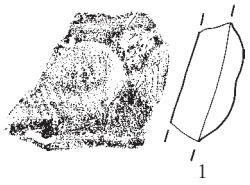
158号土坑



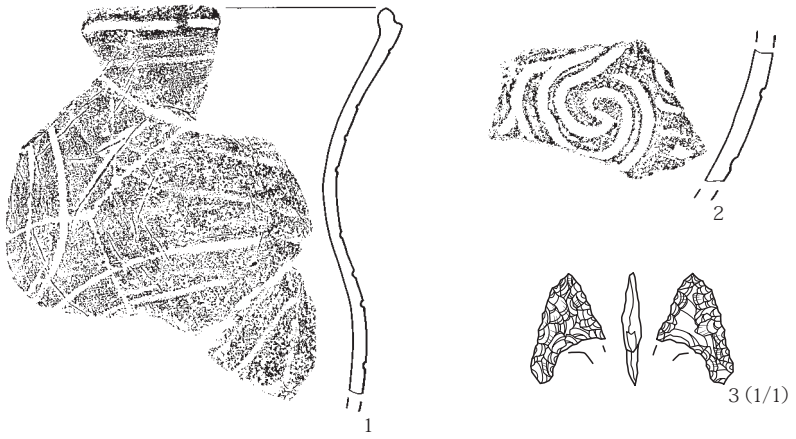
160号土坑



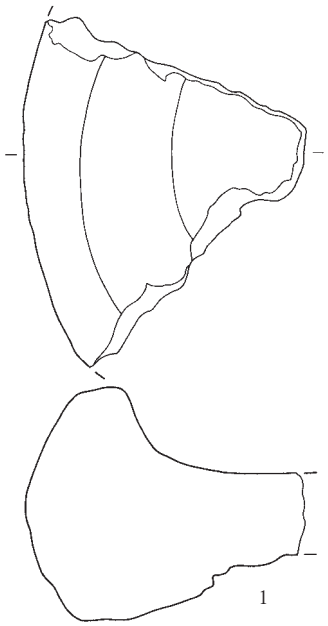
161号土坑



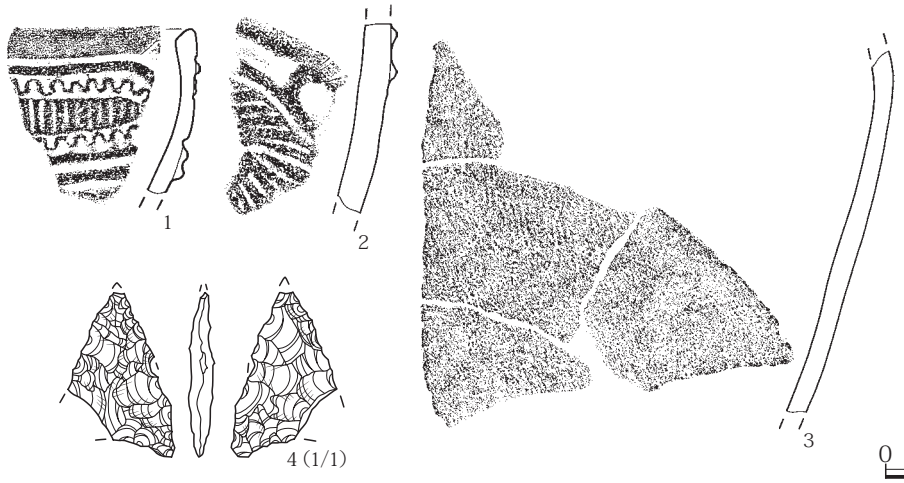
162号土坑

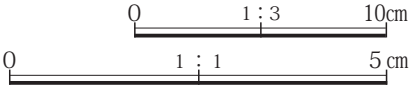


163号土坑



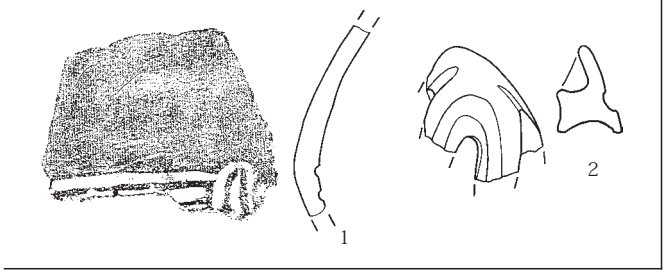
164号土坑



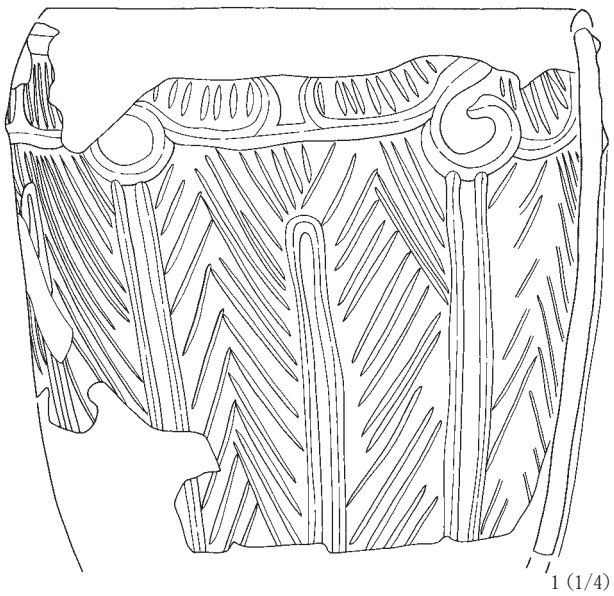


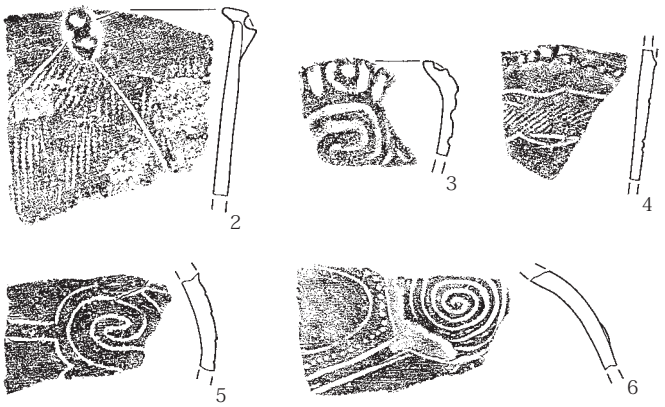
第306図　Ｖ区土坑出土遺物（12）

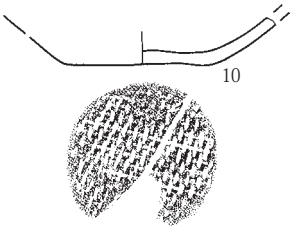
165号土坑

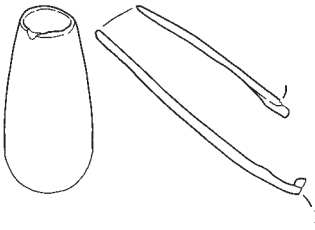


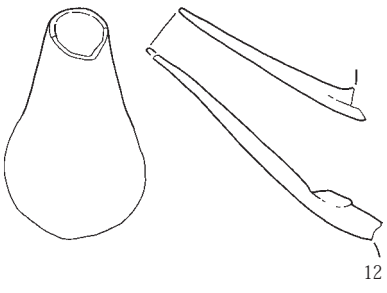
166号土坑

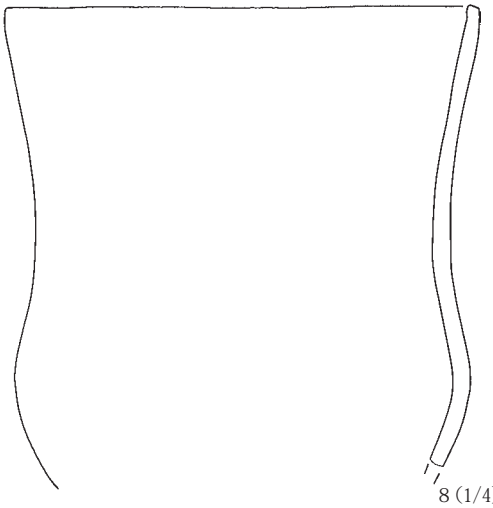


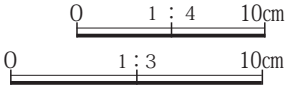




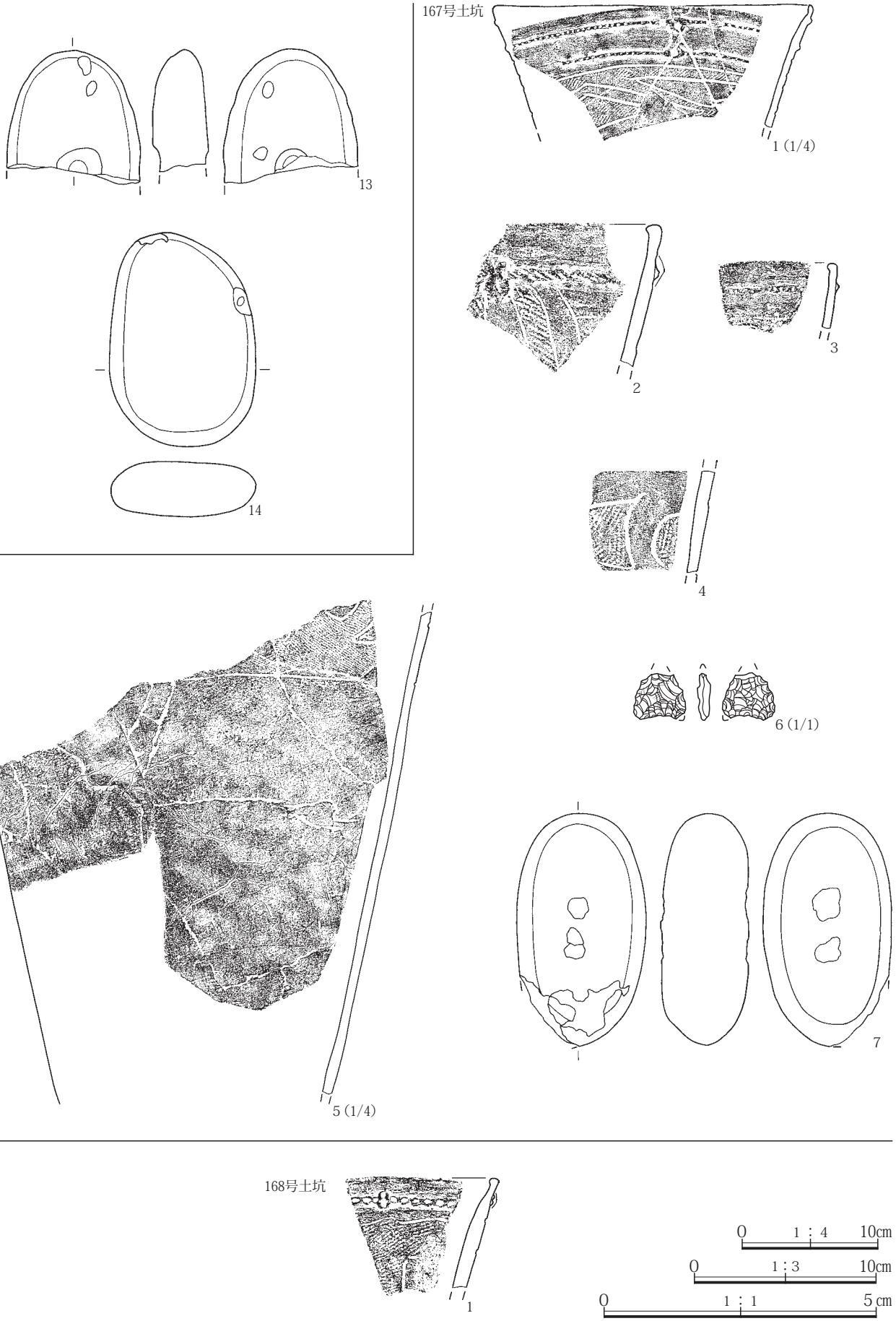






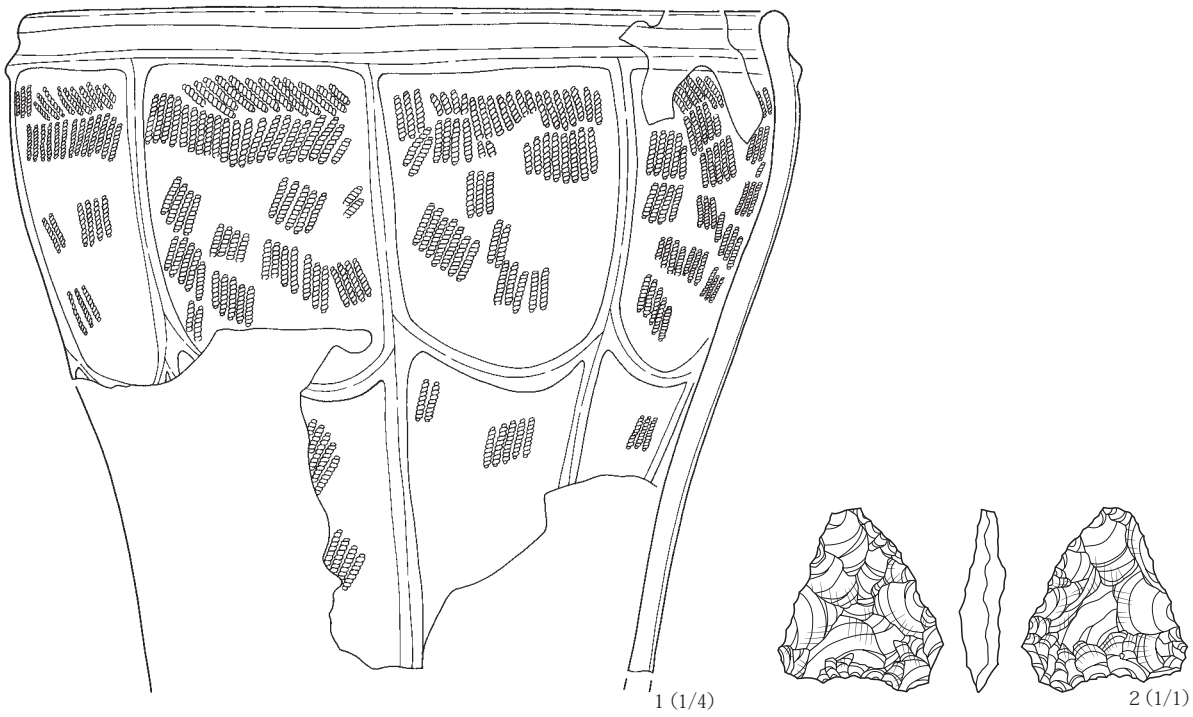


第307図　Ⅴ区土坑出土遺物（13）

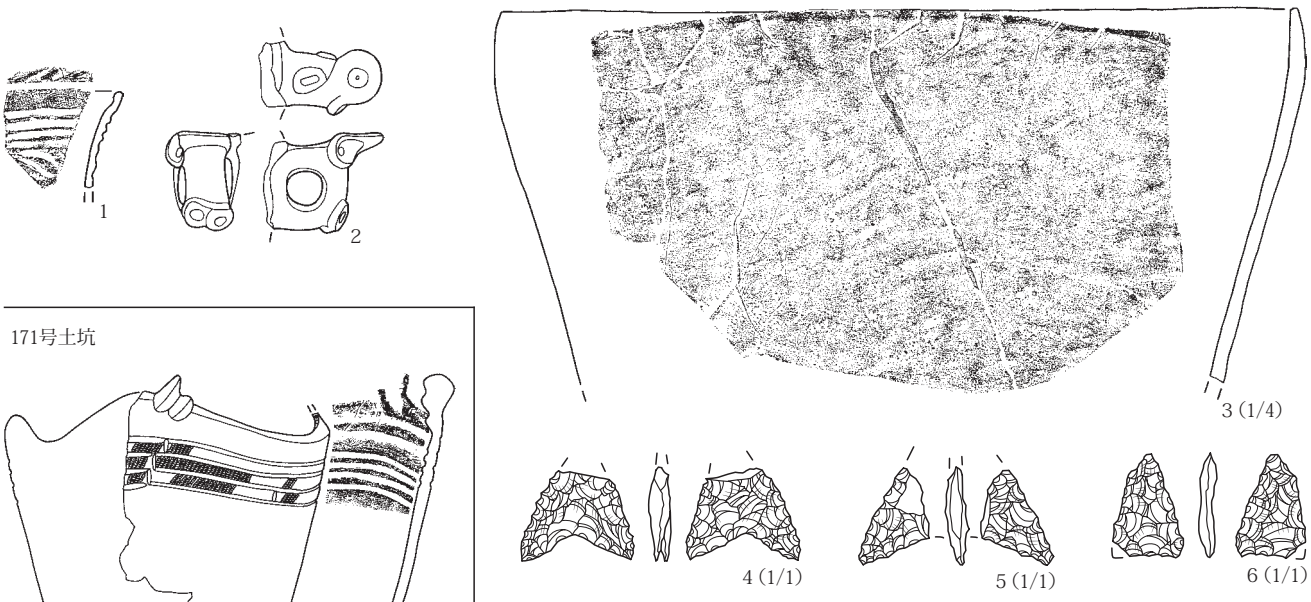


第308図　Ｖ区土坑出土遺物（14）

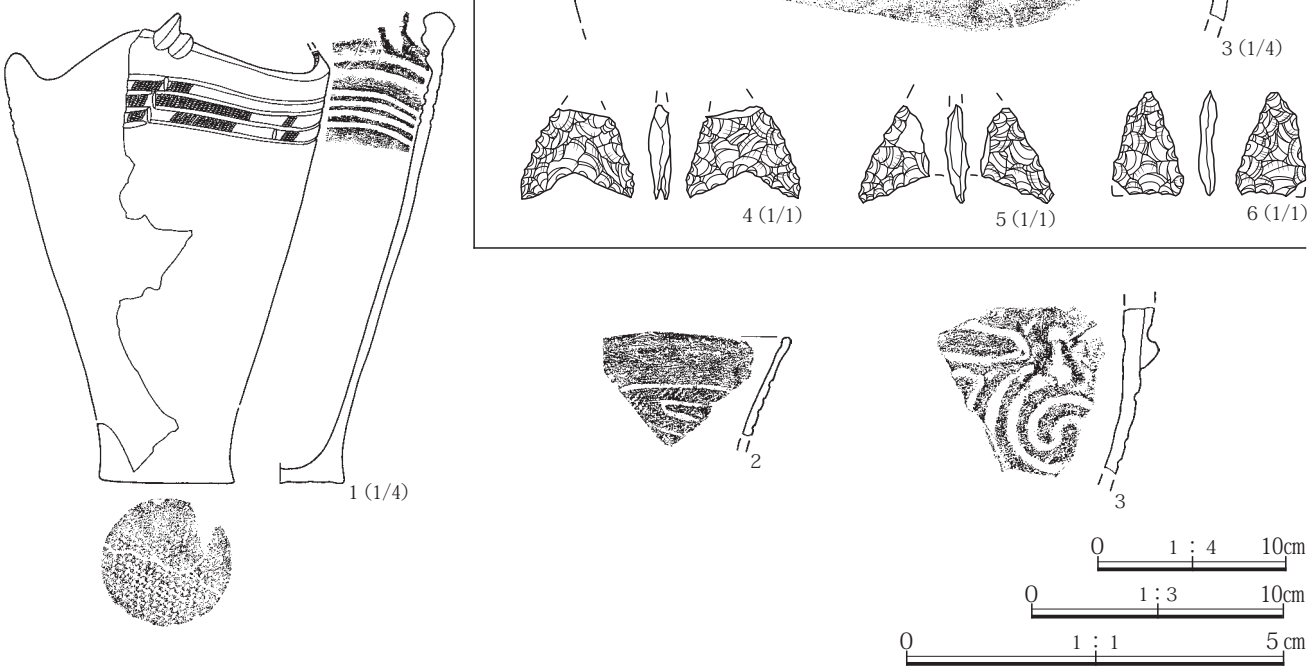
169号土坑



170号土坑

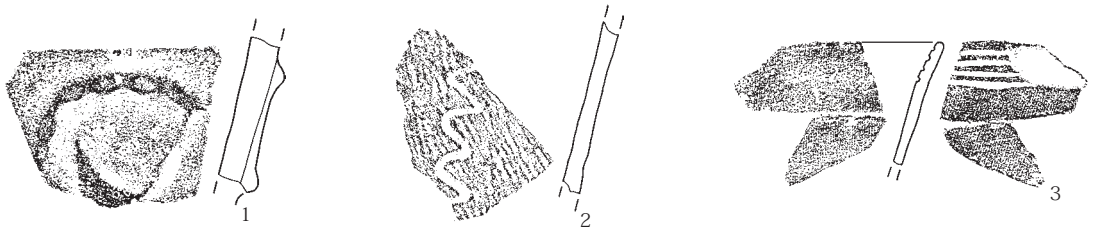


171号土坑

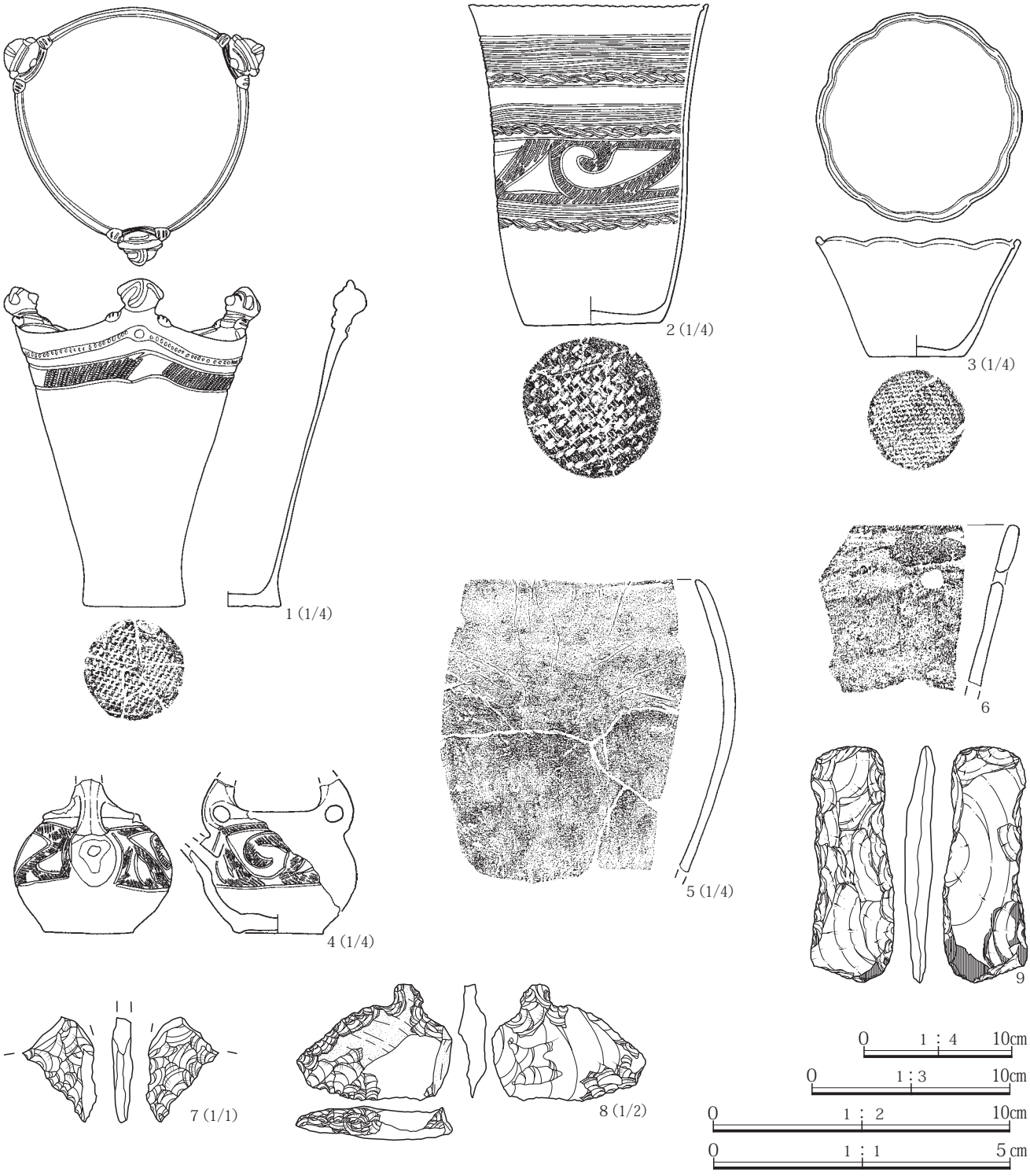


第309図　Ⅴ区土坑出土遺物（15）

172号土坑

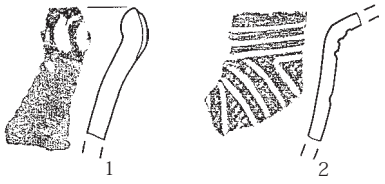


173号土坑

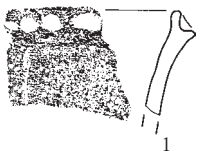


第310図　Ｖ区土坑出土遺物（16）

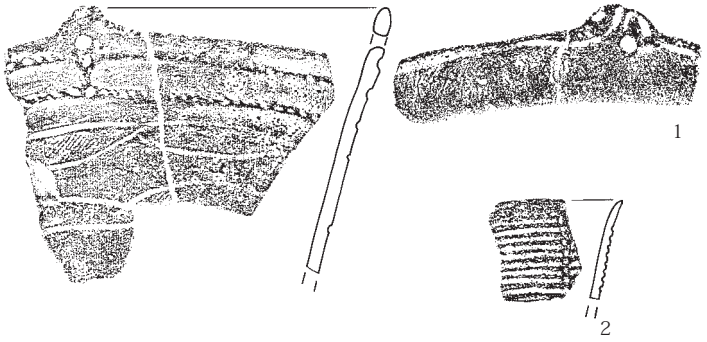
174号土坑



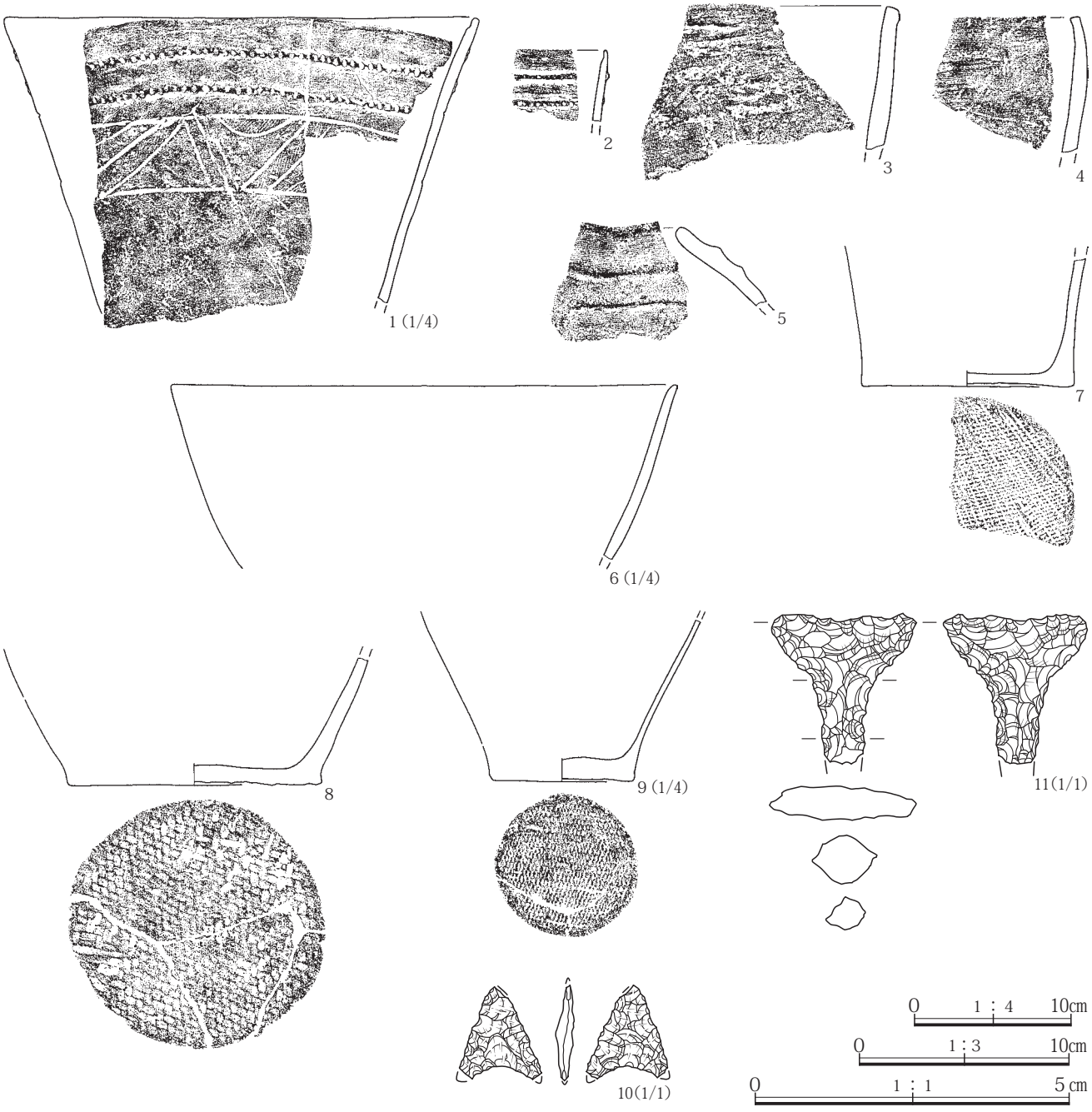
175号土坑



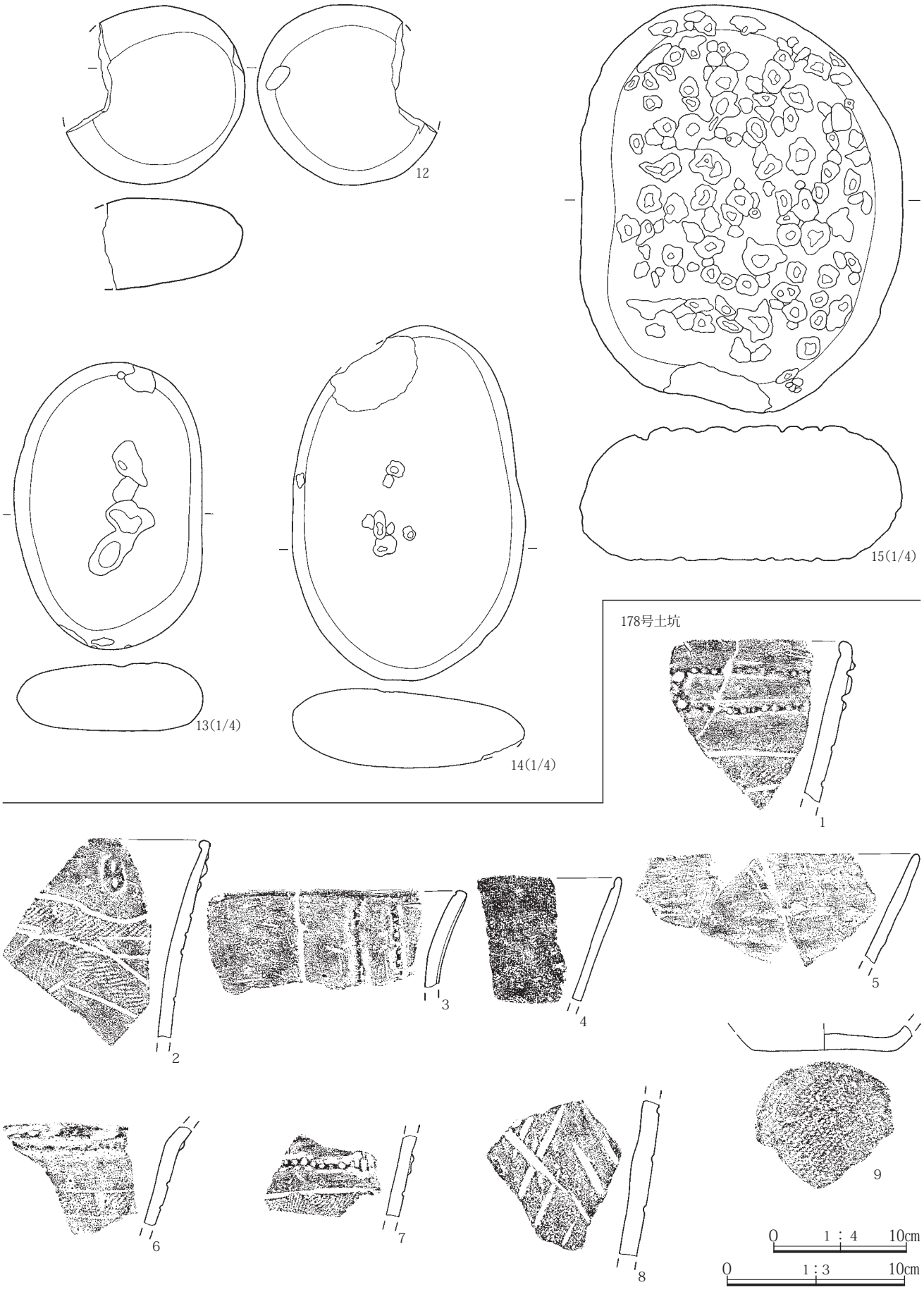
176号土坑



177号土坑

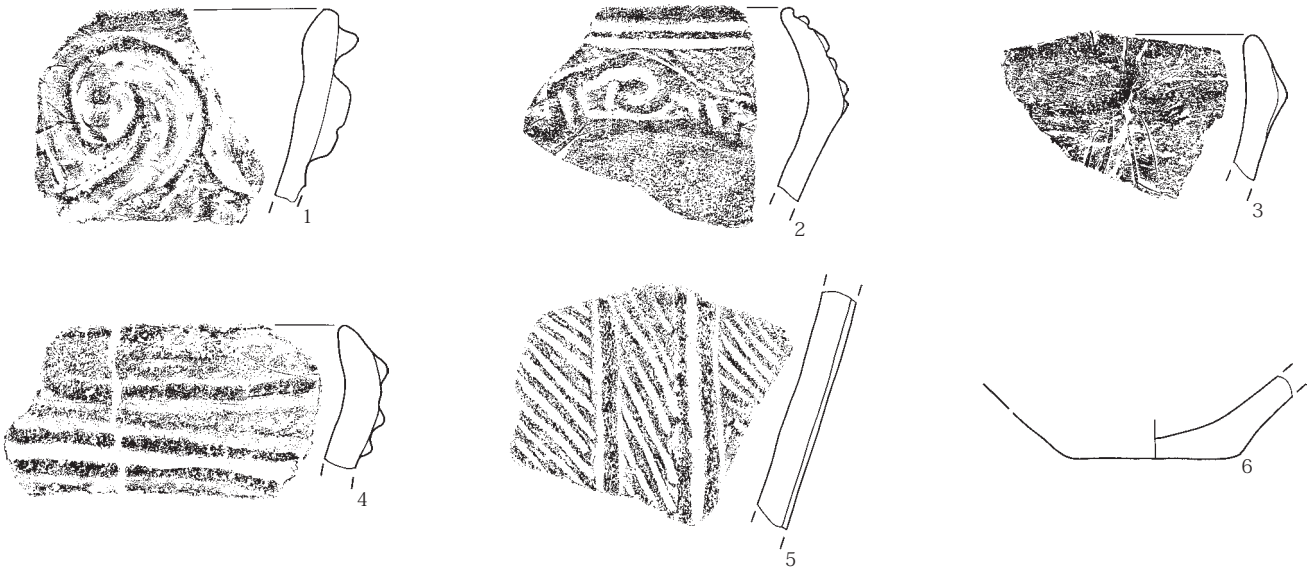


第311図　Ⅴ区土坑出土遺物（17）

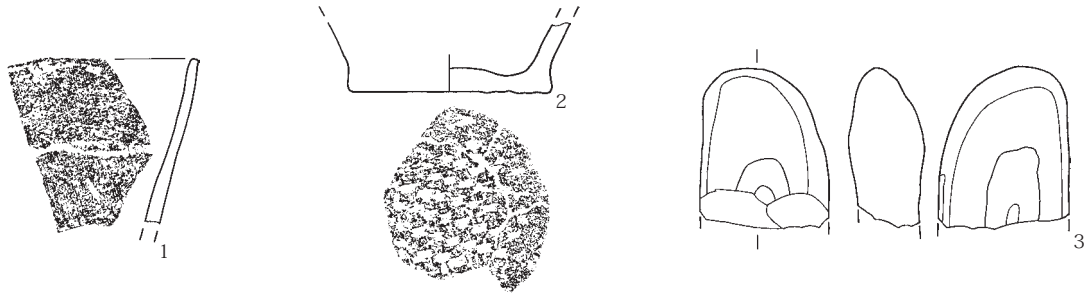


第312図　Ⅴ区土坑出土遺物（18）

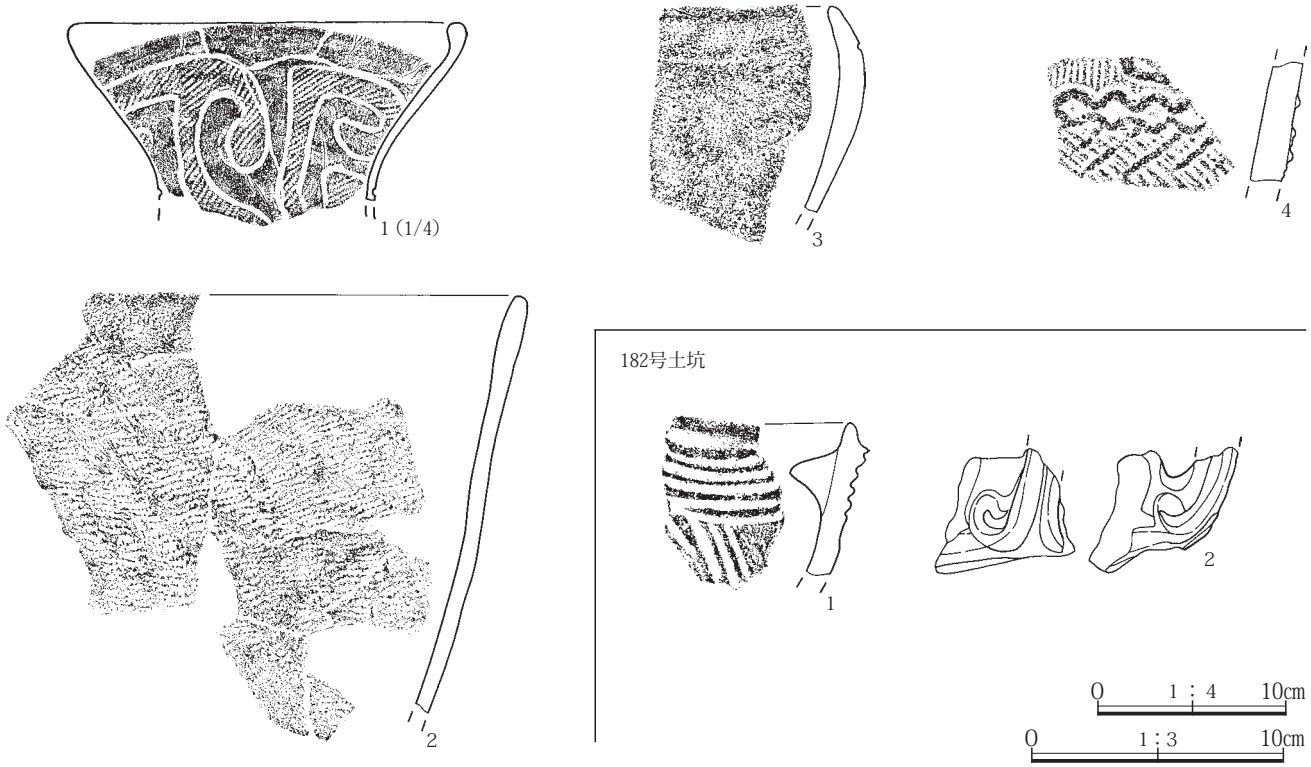
179号土坑



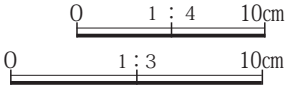
180号土坑



181号土坑

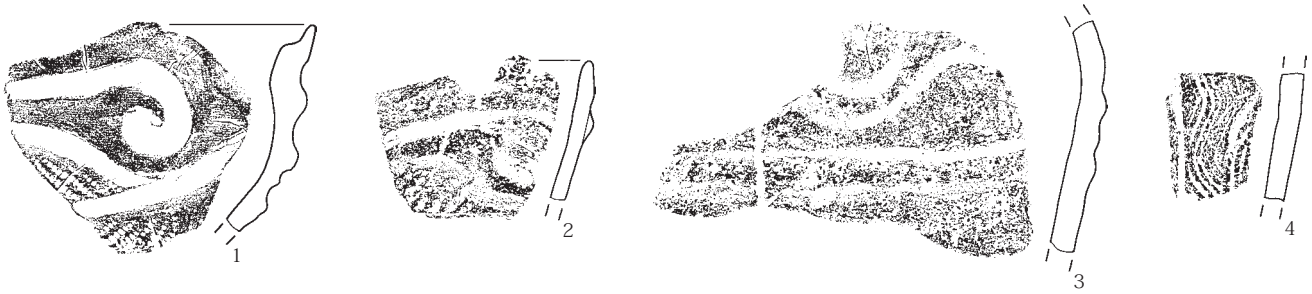


182号土坑

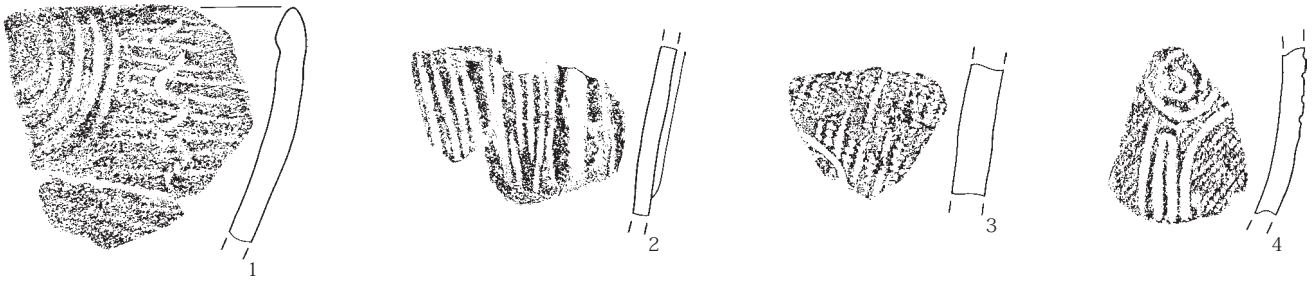


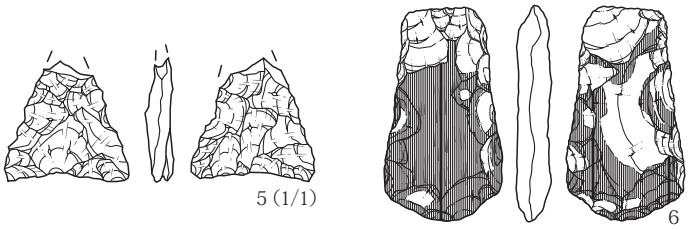
第313図　Ⅴ区土坑出土遺物（19）

183号土坑

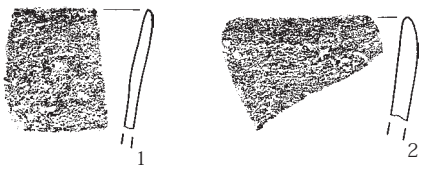


184号土坑

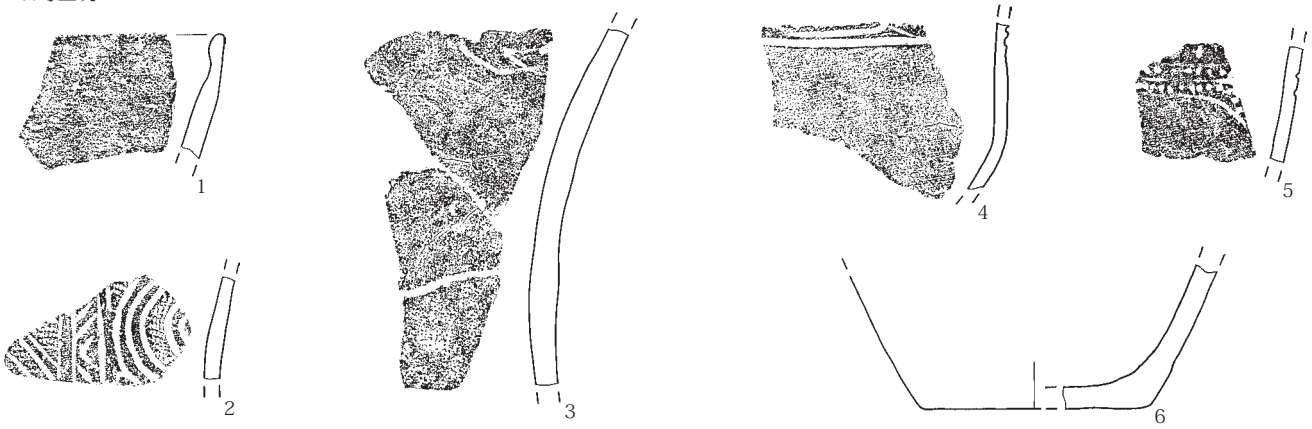




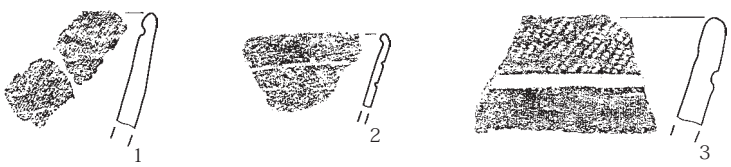
185号土坑



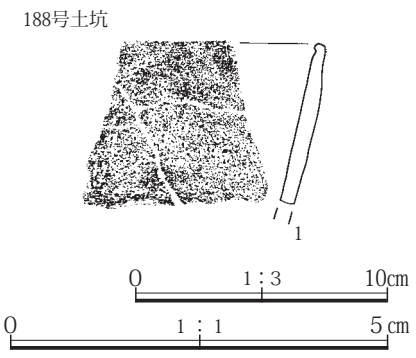
186号土坑



187号土坑

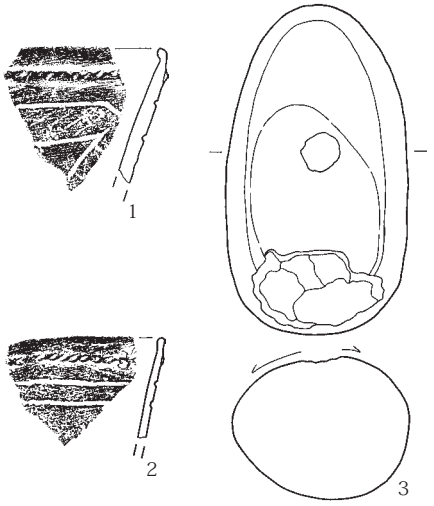


188号土坑

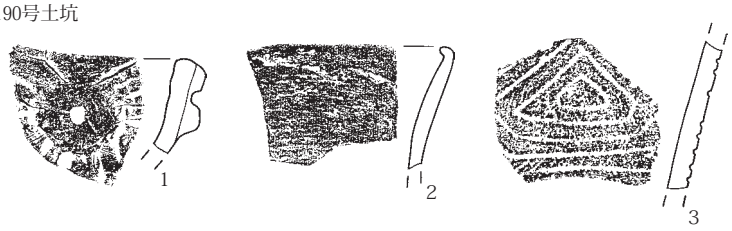


第314図　Ｖ区土坑出土遺物（20）

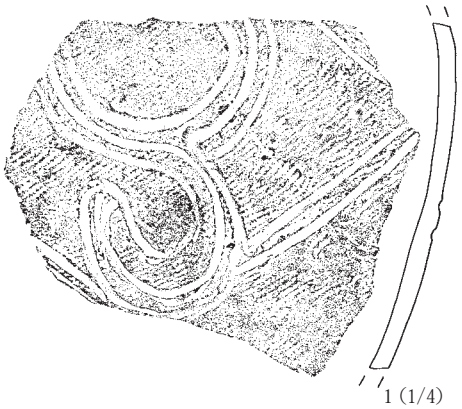
189号土坑



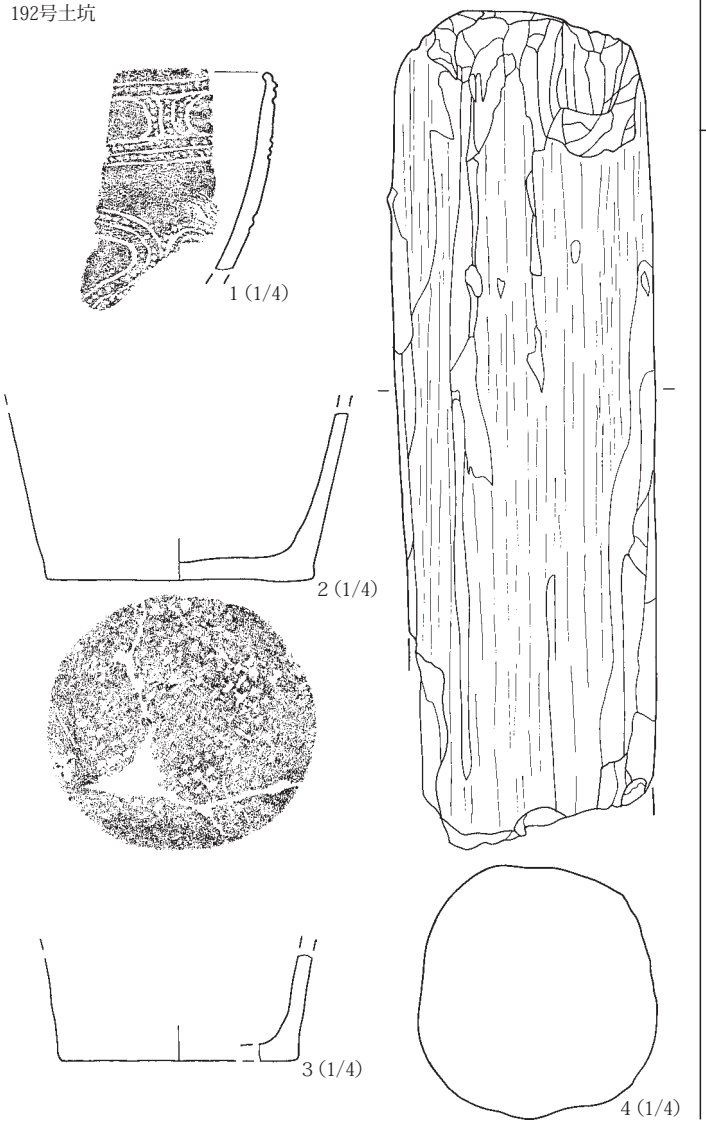
190号土坑



191号土坑

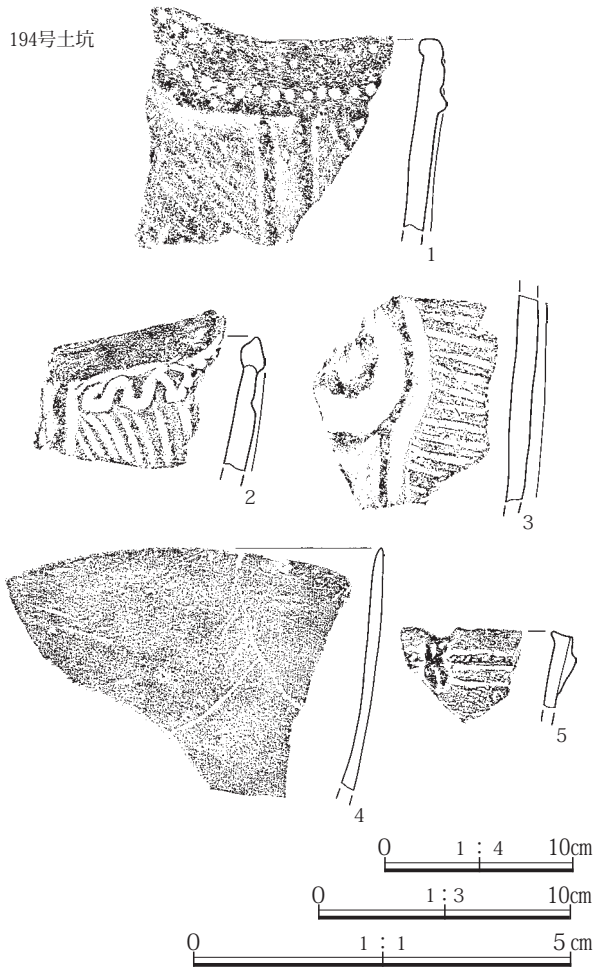


192号土坑

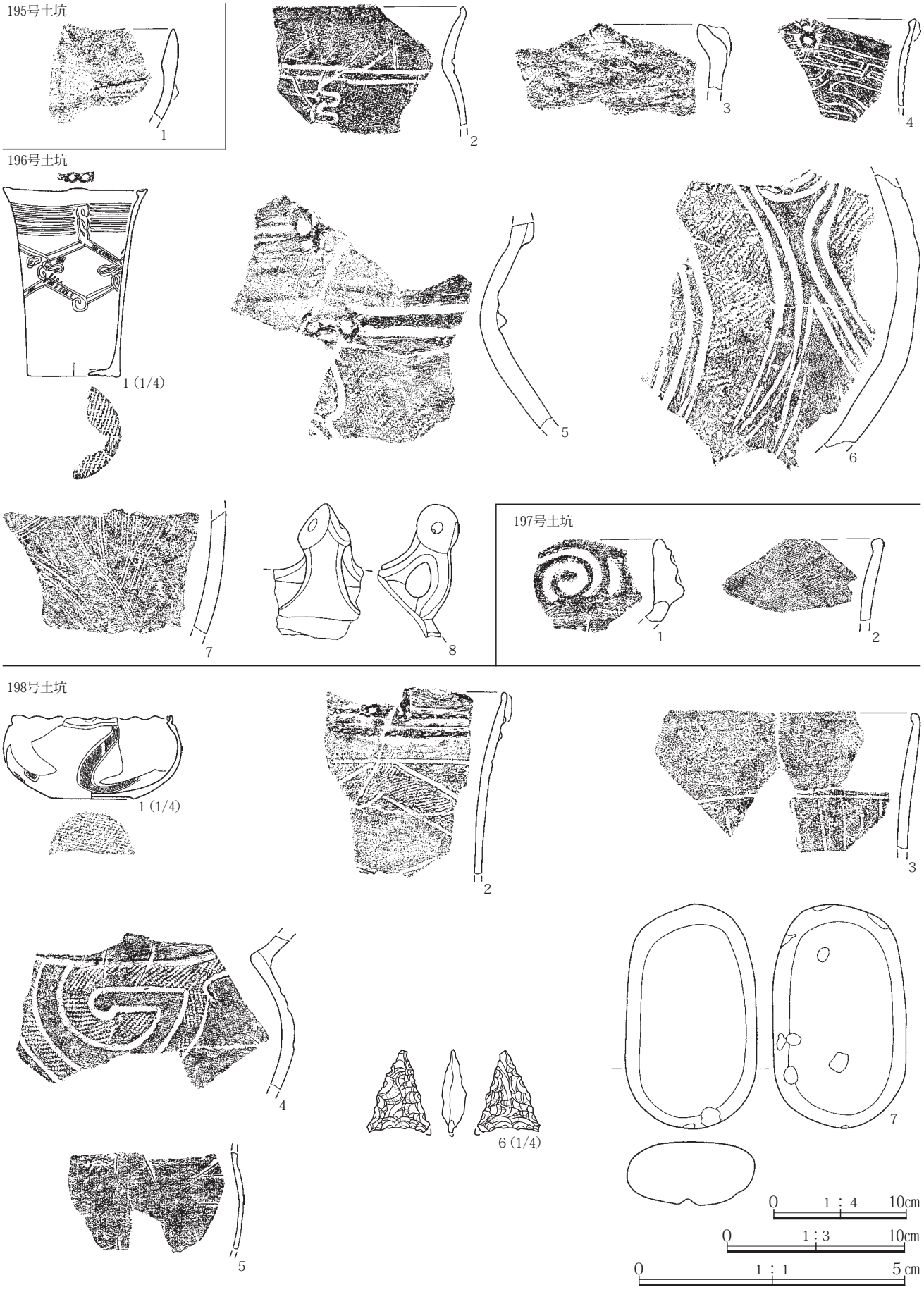


193号土坑

194号土坑

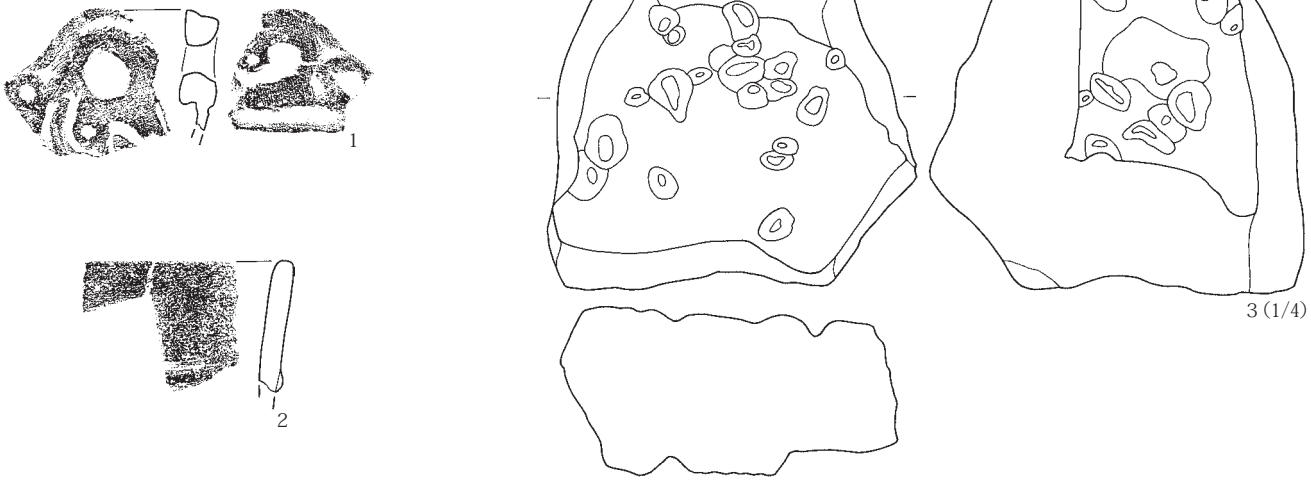


第315図　Ⅴ区土坑出土遺物（21）



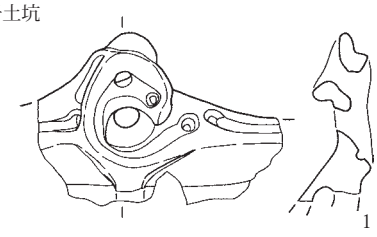
第316図　Ｖ区土坑出土遺物（22）

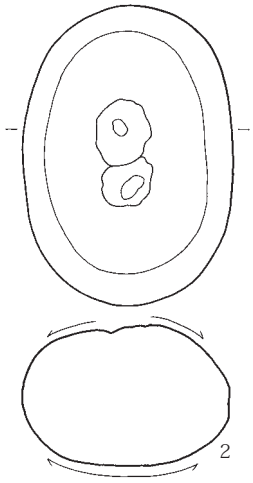
199号土坑



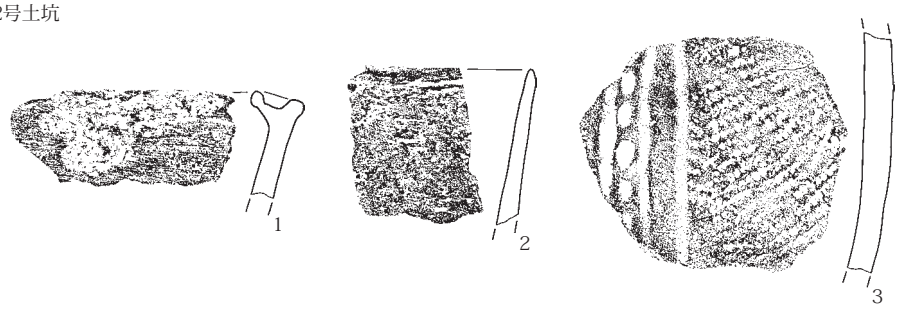
200号土坑

201号土坑

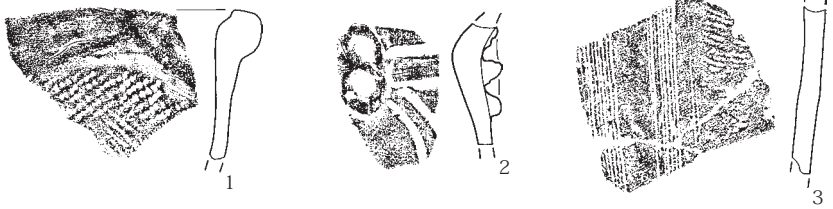




202号土坑

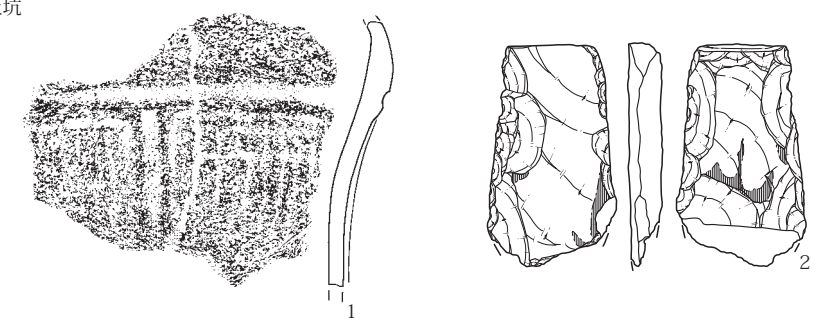


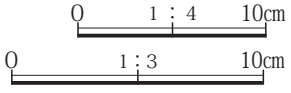
203号土坑



204号土坑

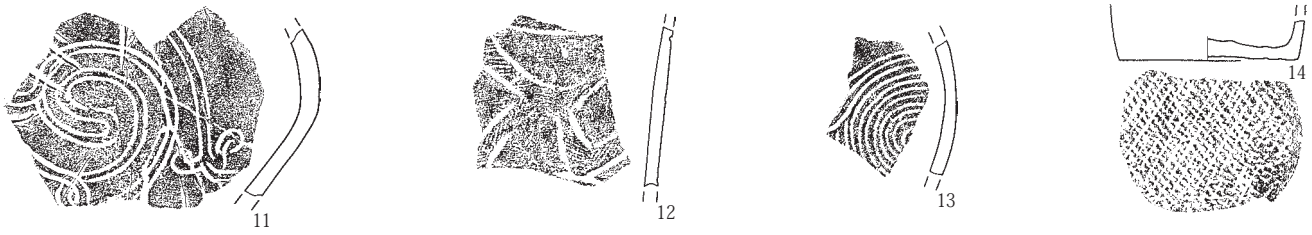
205号土坑



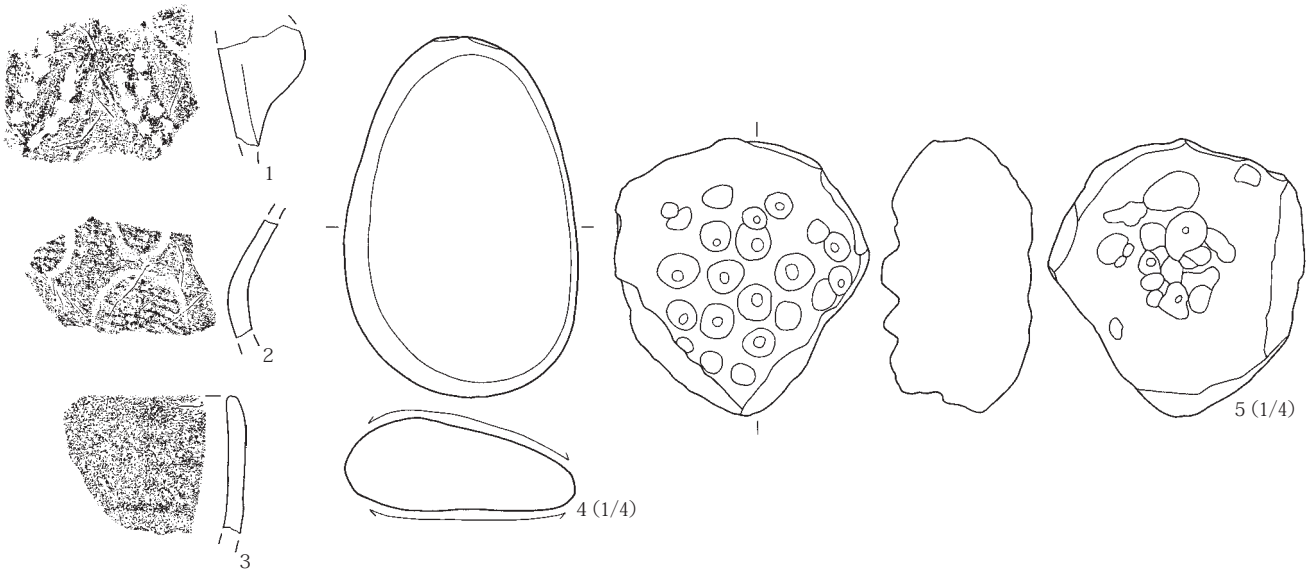


第317図　Ⅴ区土坑出土遺物（23）

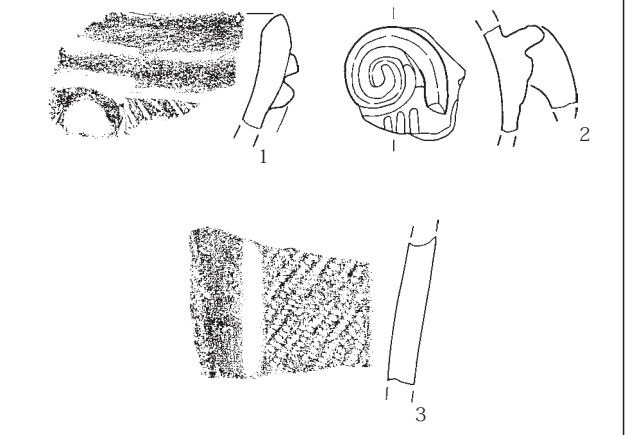
第318図　Ｖ区土坑出土遺物（24）



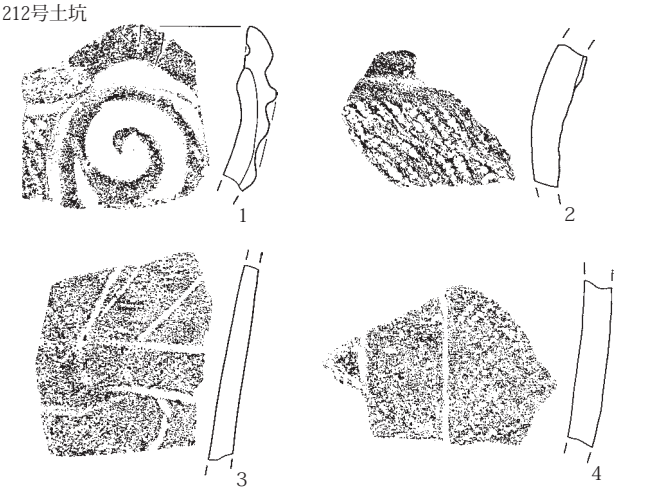
210号土坑



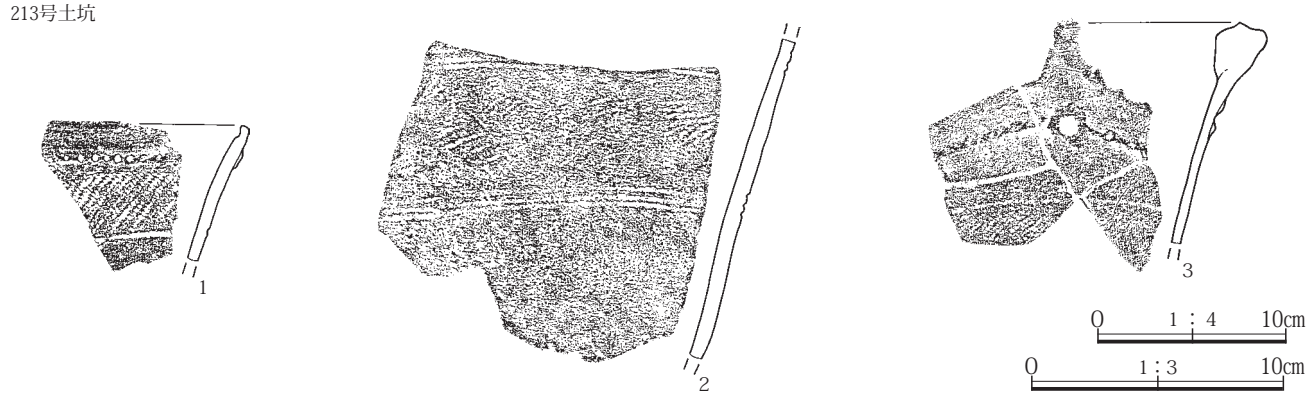
211号土坑



212号土坑

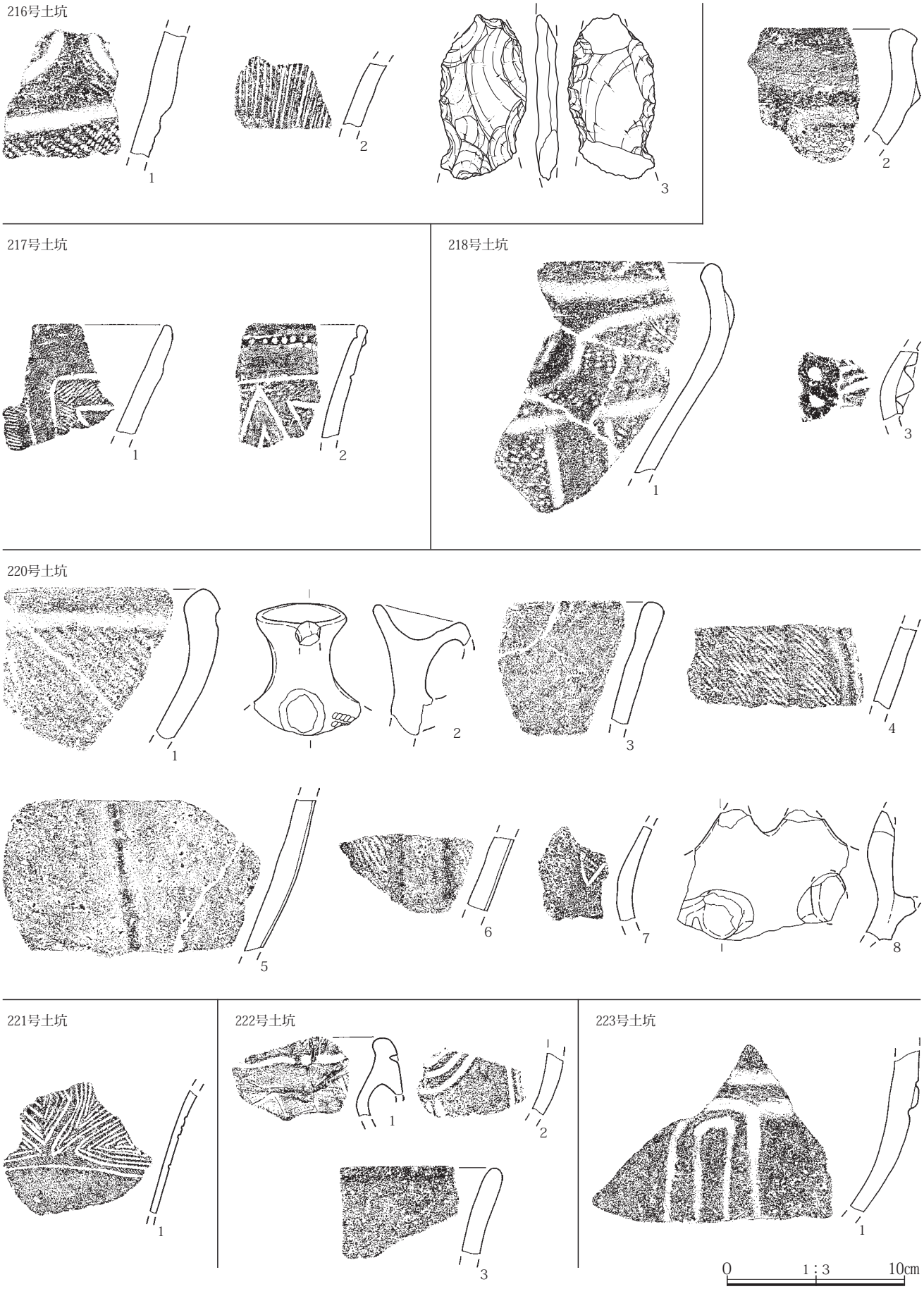


213号土坑



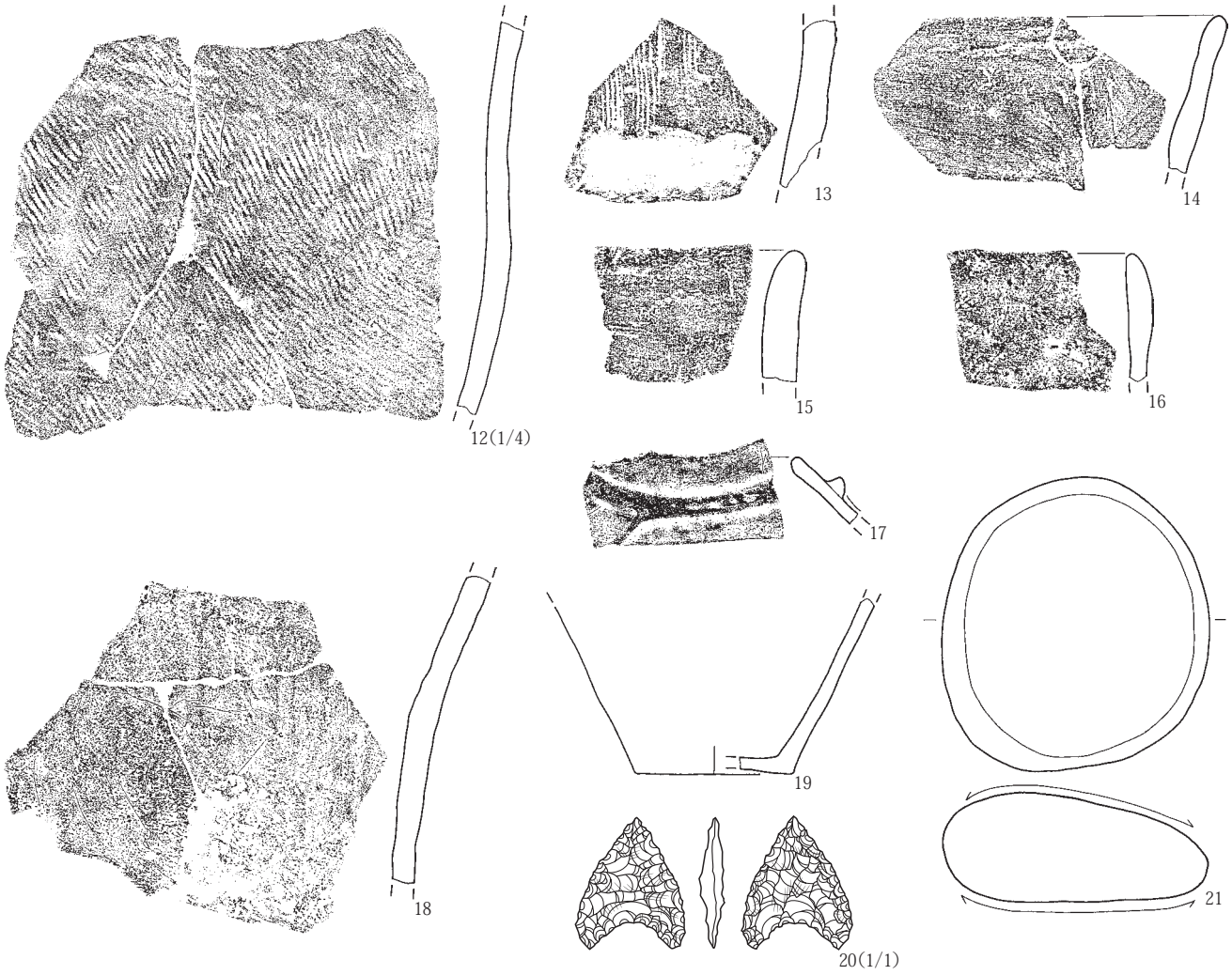
第319図　Ⅴ区土坑出土遺物（25）

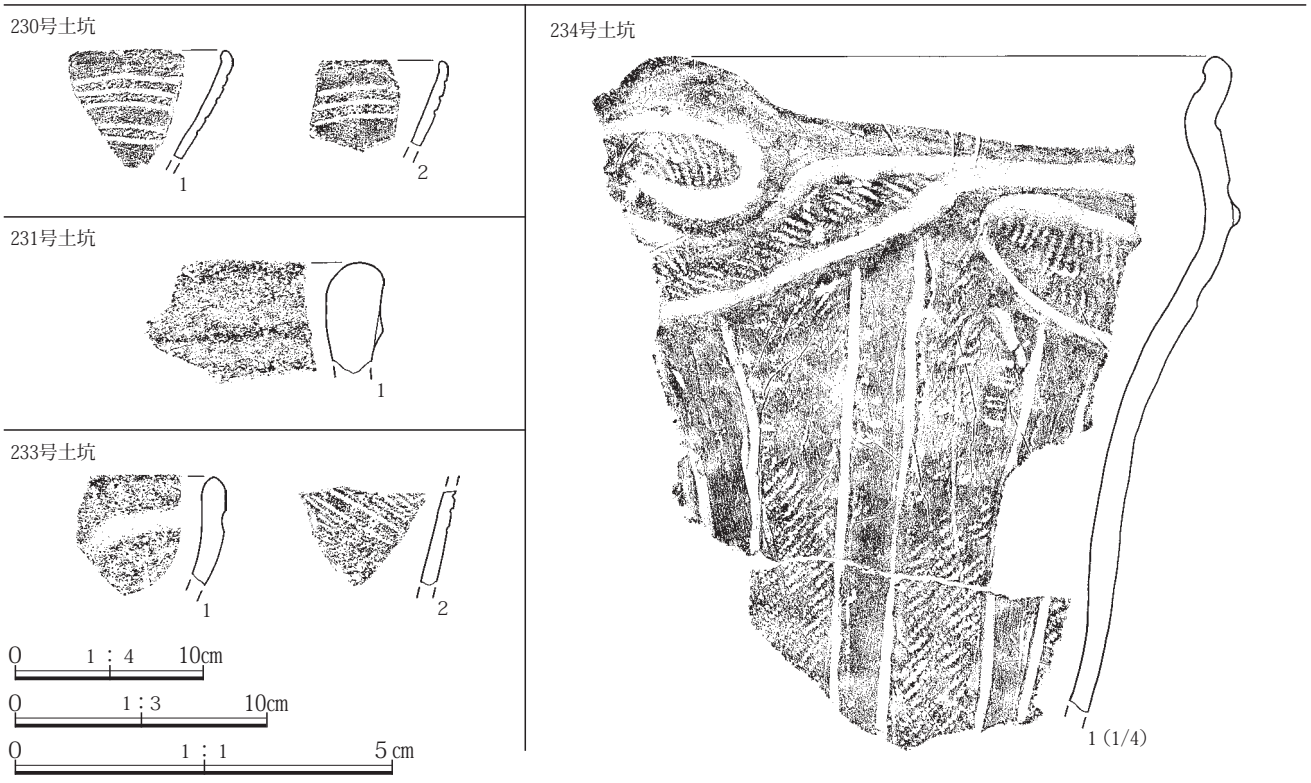
第320図　Ⅴ区土坑出土遺物（26）



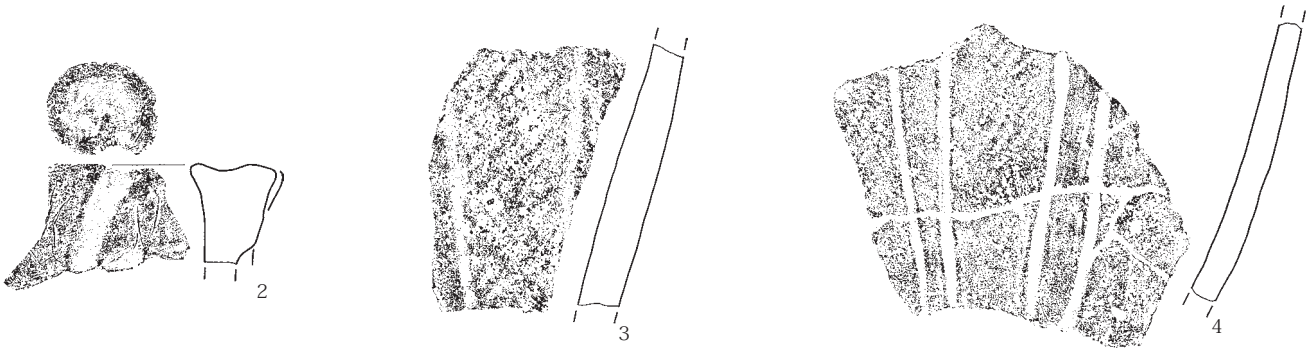
第321図　Ⅴ区土坑出土遺物（27）

第322図　Ⅴ区土坑出土遺物（28）

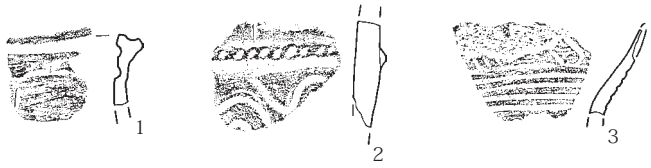




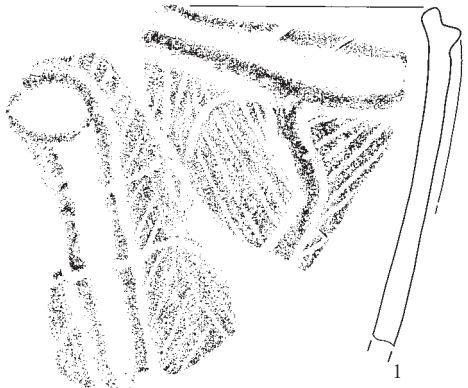
第323図　Ⅴ区土坑出土遺物（29）

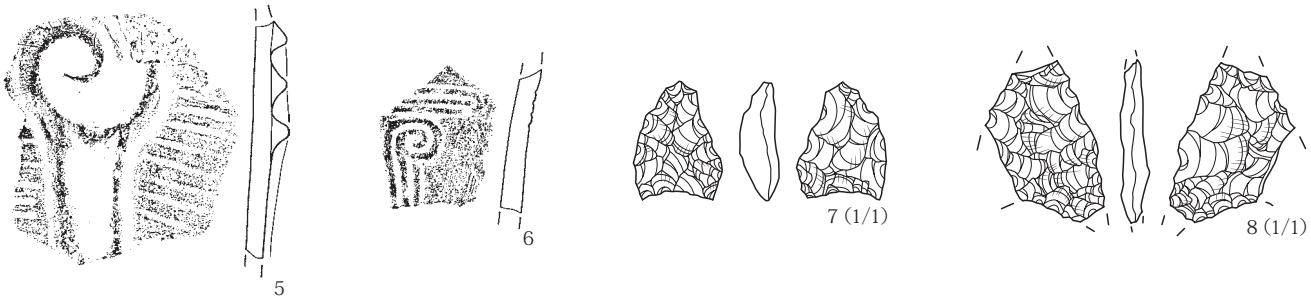


235号土坑

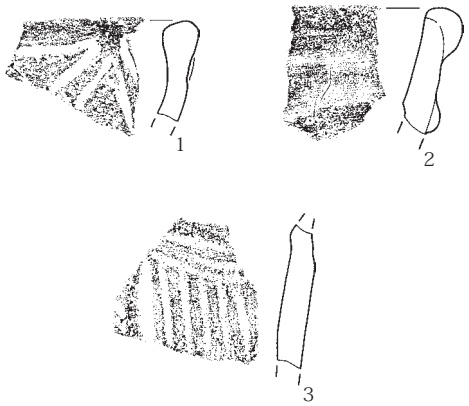


236号土坑

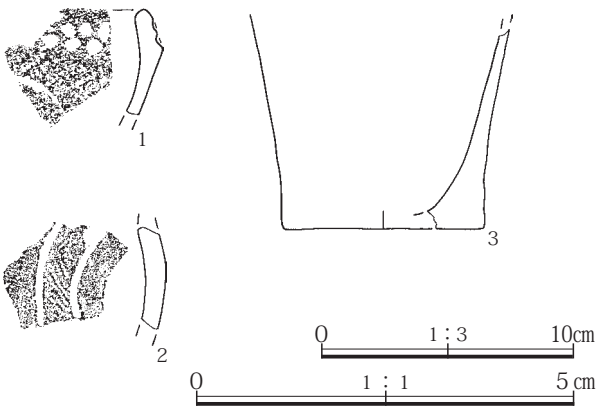




237号土坑

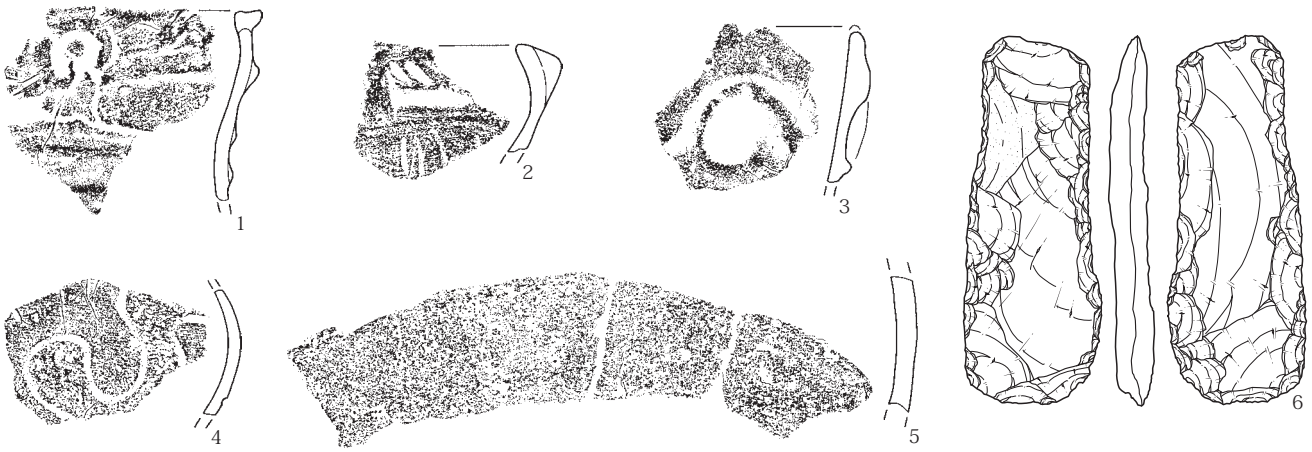


238号土坑

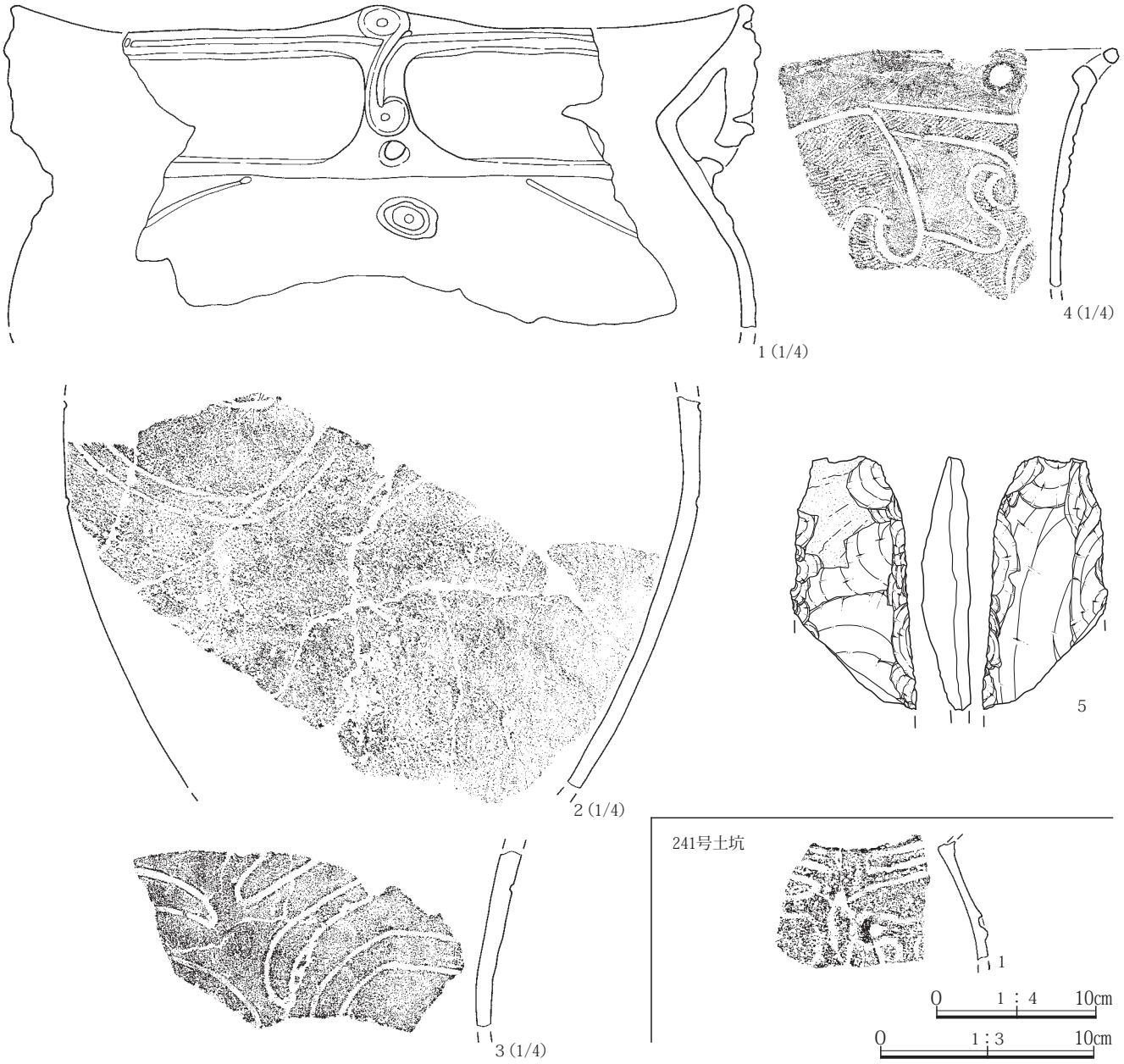


第324図　Ｖ区土坑出土遺物（30）

239号土坑



240号土坑

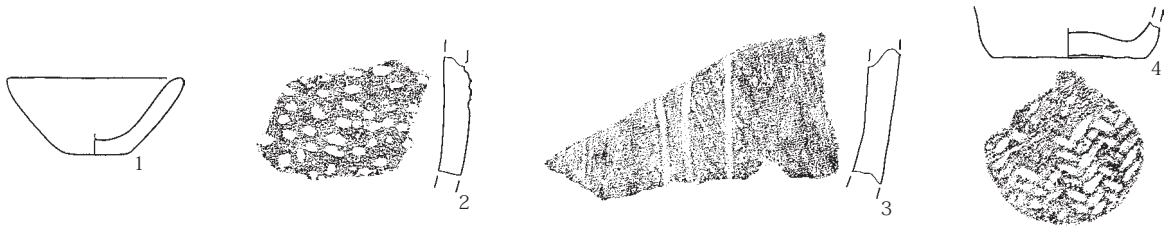


241号土坑

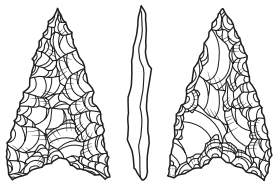
第325図　Ⅴ区土坑出土遺物（31）

242号土坑

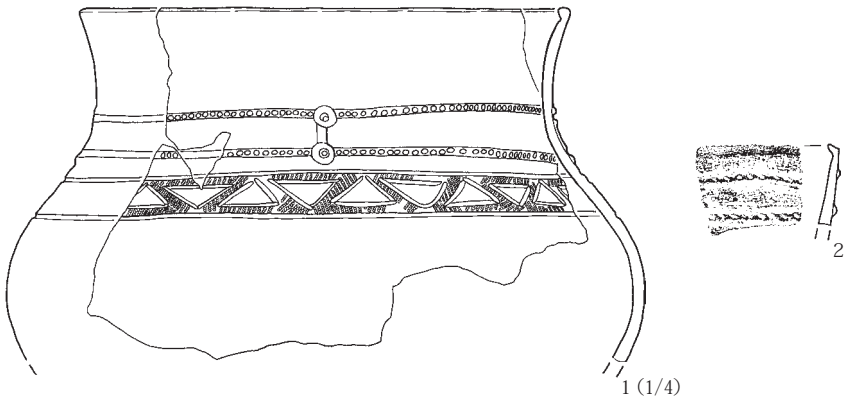
243号土坑



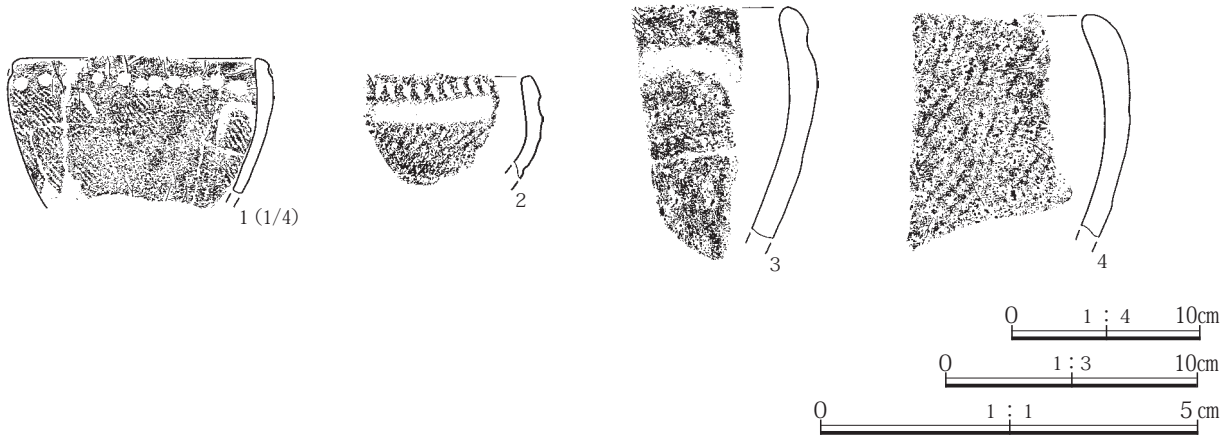
244号土坑



245号土坑



246号土坑



第326図　Ⅴ区土坑出土遺物（32）

X=61416 5 6 X=61424 7 8 X=61432 9 10 X=61440 11 12 X=61448 13 X=61464 17 18 X=61472 19 20 X=61480 21 22 X=61488 23

W

V Y=-101084

U

T Y=-101076

S

R Y=-101068

Q

P Y=-101060

O

N Y=-101052

M

L Y=-101044

K

J Y=-101036

11号配石
1号列石
2号列石
B
B'
8号列石
3号列石
4号列石
15号配石
16号配石
A
A'
13号配石
7号配石
6号配石
17号配石
8号配石
9号配石
21号配石
5号配石
20号配石
10号配石
23号配石
4号配石
3号配石
18号配石
2号配石
14号配石
1号配石
25号配石
22号配石
5号列石
1号風倒木
19号配石
26号配石
6号列石
24号配石
27号配石
28号配石
31号配石
29号配石

0 1:200 5m

第327図　V区列石・配石全体図

（3）列石

東宮遺跡Ⅴ区では、１号から８号までの８基の列石遺構が確認された。これらの列石は、竪穴建物など一連の遺構に伴うと判断できる。

列石が作られている地形は、およそ西から東に向かって緩やかに傾斜しており、構築された列石は等高線に添うように、幾重にも直線または弱い弧状を呈すように構築されている。

東側に作られた列石ほど弧の半径が小さく、弧より弧状に作られている。この列石の東、調査区外に弧の中心があると推察される。

ここでは、竪穴建物および配石など他の遺構に伴うと思われる観点から、これらの列石について報告する。

発見されたこれらの列石のうち、１～４号列石は、平成28年度に発掘調査が実施され、第１面、２面の調査終了後、３面の調査を開始した当初に確認されたものである。

発掘調査の結果、より正確な調査が必要と判断され、平成29年度から平成30年度にかけて、１～４号列石の再調査とその後新たに検出された、５～８号列石の調査を実施した。

このうち、排水溝掘削時に確認した７号列石については、列石ではなく、最終的には31号配石としたため、欠番とした。

Ⅴ区の調査に関しては、調査区内は地山と考えられた山崩れによる堆積土中に大量の礫が含まれているが、表土を掘削した段階ではまだ意向確認面に達していないため、手掘りで礫混じりの覆土を除去しながら遺構検出を行った。

列石の上部は礫混じり土の上層にあたる暗褐色土中にあり、一部天明畑耕作土の直下に至るものもあった。
竪穴建物等の他の遺構は、これら列石の調査の進展に付随して列石の周辺部で確認されたものが多く、東側が列石に繋がる状況を示すものが多かった。

列石の構築材については、地山土中に含まれる粗粒輝石安山岩亜角礫を使用している状況が窺えるが、他から持ち込まれた川原石なども多く使用されている。特に列石の上部に使われた状況が確認されている。

また、各列石の出土遺物や堆積土層などの観察から、６号→５号→３号の順に構築された可能性がある。

ここで扱う列石は、調査時に与えた遺構名であり、後に記述する配石遺構などと重複するものもあり、判断に迷う部分もあるが、原則的に調査時の番号を踏襲している。

１号列石（第327・324図、PL.110）

位置　Ⅴ区41Ｕ・Ⅴ－15グリッド。

経過　調査区３面発掘当初に確認された遺構である。多くの遺物が集中する中に確認されたものである。大型の川原石が部分的に並ぶ。

重複　４号竪穴建物の北壁周礫と考えられる。

平面形状　西から東に向かって弧状に礫が並ぶ。集積された比較的大型礫の範囲は比較的よく整っており、列状に配されている。４号竪穴建物の北側壁に沿うように検出されていることから、竪穴建物壁に沿って組まれた礫と判断される。走行もほぼ東西に向いており、弱い弧状を示す。

下部構造　確認されていない。竪穴建物の壁に沿って並ぶ。

主軸方位　Ｎ－100°－Ｗ。

規模　長さ4.8m、幅0.5m。

埋没土層　黒褐色土主体。

出土遺物　礫中及びその下部から、後期前半期を中心とする土器片、石器類が出土している。

重複する４・26号竪穴建物、及び隣接する32号竪穴建物から供給された可能性が高い。

所見　当初列石と判断し付番したが、精査の結果、最終的には４号竪穴建物の北側壁周礫と判断した。

比較的大きな礫を弧状に配列し、東端部分はやや乱れている。東に位置する２号列石も４号竪穴建物の張り出し部に付帯するものと考えられる。

４号竪穴建物の壁に巡らされた弧状礫群と判断される。他の列石とは明らかに走行が異なる。

２号列石（第327・324図、PL.110）

位置　Ⅴ区41Ｔ－15グリッド。

経過　本遺跡の３面発掘当初に確認された遺構である。

重複　11・26・32号竪穴建物と重複。

平面形状　南から北やや東に向かって弧状に延びている。列状に規則的な配列が認められる。

下部構造　確認されていない。

主軸方位　Ｎ－26°－Ｅ。

規模　長さ3.5m、幅1.0m。

遺物　周囲から土器片、石片出土。重複する竪穴建物から供給された可能性が高い。

所見　４号竪穴建物の張り出し部から左右に延びる列石と判断される。反対側にも同様の列石が部分的ではあるが認められる。東に位置する11号竪穴建物にの西壁部分に接するように、ハの字に延びている。

３号列石（第327・328・330・331図、PL.110～113）

位置　Ⅴ区41Ｑ～Ｓ－９～20グリッド。

経過　本遺跡の発掘当初に確認された遺構である。Ⅴ区最上位部に作られている。

重複　３・11号・５・28・38号竪穴建物の張り出し部（入り口部）が接している。また、明確ではないが、６号・７号・14号竪穴建物なども同時存在の可能性がある。

平面形状　列石はかなり崩れた部分も見られるが、幅１～1.5mに集積された礫が、南から北に向かって約50mの長さで緩やかな弧状に延びている。

集積された礫の範囲は比較的よく整っており、列状に並べたり組んだりしたような規則的な配列が認められる。特に５号・７号竪穴建物間の組み方は、大きな礫を切り土部分に隙間なく１列に並べ、その上に礫を小口積みしている。

４号列石・25号配石が付随する。上下段の比高は約0.8mである。

下部構造　部分的にはかなり鋭角に切り土した状況が伺える。

主軸方位　Ｎ－５°－Ｅ。

規模　長さ50m、幅2.0m、高さ0.8m。

埋没土層　岩片多く含む黄褐色土主体。

遺物　礫中及びその下部から、後期および中期の土器と石器類が出土している。

所見　やや弧状を呈し、ほぼ南北に主軸を持つ。南端部分は礫の数が希薄になっているが、後世の耕作などにより、抜かれた石も多いとみられる。中心部分はかなり大きな礫が用いられ、所々に立石とみられる石が存在している。用いられた石は、粗粒輝石安山岩亜角礫で、30～60cmの礫が多い。また、多くの川原石も使用されている。大型礫の多くは、地山土中に含まれる礫と同質である。地山を切り土して大型礫を並べ、その上に小口積みを行って構築している部分も見られる。

列石上段には同時に存在していたとみられる竪穴建物が複数確認されており、列石下段部分には、複数の配石が構築されている。立石を伴うもの、中心に丸石を据えたものなどが見られる。

付帯する竪穴建物の時期などから後期前半と考えられる。

４号列石（第327・328図、PL.114）

位置　Ⅴ区41Ｒ・Ｓ－17～19グリッド。

経過　本遺跡の発掘当初に確認された遺構である。

重複　16号配石と重複。

平面形状　集積された礫が、弧状にのびている。集積された礫の範囲は比較的よく整っており、中心部の礫は規則的な配列が認められる。３号列石上段部に枝分かれするように作られている。

下部構造　確認されていない。

主軸方位　Ｎ－25°－Ｅ。

規模　長さ６m、幅1.0m。

遺物　礫中及びその下部から、後期前半期を中心とする土器と石器類が出土している。

重複する４・26号竪穴建物、及び隣接する32号竪穴建物から供給された可能性が高い。

所見　３号列石の上位北西側に並行して作られ、長さ約８mの弧状を呈す。当初は３号列石に付随して構築された列石と考えたが、北西に接する７号竪穴建物の張り出し部から左右に延びた列石と考えられる。

５号列石（第327・329・330・331図、PL.114・115）

位置　Ⅴ区41Ｏ～Ｑ－９～20グリッド。

経過　３号列石の検出を受け、東に向かって設定した複数の確認トレンチにおいて存在を確認した経緯がある。

重複　上段ほぼ中央、３号列石に挟まれた位置に12号竪穴建物が検出されている。同時期の存在とみられる。

平面形状　３号列石の東側約８ｍ離れて並行するように作られている。中央部は僅かに弧状を呈し、南側については鈎状に大きく屈曲する場所が見られ、その南側は直線的に７ｍ程石が並び、終結している。

北側については、やはり鈎状に屈曲した部分から北側約10mについてはほぼ直線に作られており、さらにその先の列石はやや弧状に並び端部には、風倒木による攪乱が見られ、不明瞭になっている。

全体形状は幅約1.5mに集積された礫が、ほぼ南から北に向かって約45mの長さで、鈎状部を伴う直線部と、僅かな弧を描く部分とで構成されている。

集積された礫は一部崩れてはいるものの、比較的よく整っており、列状、あるいは積み上げたような規則的な配列が認められる。

南端部の鈎状の張出部構造を境に、南側の列石は切り土部分に大きな石を並べ、その上にやや小振りの石を載せた構造で作り方に違いが見られる。

下部構造　列石構築時に地山を切り土しているとみられるが、掘方面は緩やかで、３号程には明確な掘削状況は確認できなかった。

主軸方位　Ｎ－６°－Ｅ。

規模　長さ45m、幅1.5m、高さ0.8m。

遺物　礫中及びその下部から、後期前半を中心とする土器が出土している。

石器は各種見られるが、周辺遺構に帰属するものが多いと思われる。

所見　３号列石とほぼ同時期に構築されたと考えられる。構築時期は後期前半と思われる。

列石南端部に作られている鈎状構造に関しては、不明な点が多いものの、これを境に列石の作り方に違いが認められることから、時期差がある可能性も考えられる。

また、鈎状構造と列石の接点部に置かれた大きな礫は、列石中最大で、重さは350kgを超える。列石上下を渡すように、斜めに置かれ、表面は比較的平らで、通路として機能していた可能性も考えられる。

列石点数　609点（検出部のみ）

総重量　14264.8kg

平均重量　23.42kg

６号列石（第327・332・333図、PL.116）

位置　Ⅴ区41Ｋ・Ｌ－13～23グリッド。

経過　検出された列石の内最も下位に作られている。川原石を主体にやや崩れて広がった状況を示す。

重複　74・83・84・85号竪穴建物が重複するが、いずれも列石よりも古い。18・19号竪穴建物は付随して造られたものと考えられる。また70号竪穴建物もほぼ同時期の可能性がある。

平面形状　最大幅約２ｍに集積された礫が、緩やかな弧状を呈し、ほぼ南北に約45mの長さで延びている。一部列石が途切れている部分が見られ、東端部は直線状である。

３・５号列石に比して使用されている礫は小振りで、集積された礫の範囲は比較的よく整っており、列状に並べられた場所や、組んだような規則的な配列が認められる。列石の下段側は全体にやや崩れたように広がる状況が見られる。

下部構造　礫を除去した状況では、３号・５号に比して地山を切土したような様子は殆ど見られなかった。比高も僅かである。また幅も部分的に広く、崩れた状況も見られる。

主軸方位　Ｎ－４°－Ｅ。

規模　長さ43m、幅1.5m、高さ0.6m。

遺物　礫中及びその下部から、後期初頭から前半を中心とする土器と石器類が出土している。

所見　構築時期は周囲に検出された土器から、後期初頭～前半と考えられ、３・５号よりも一段階古いと考えられる。

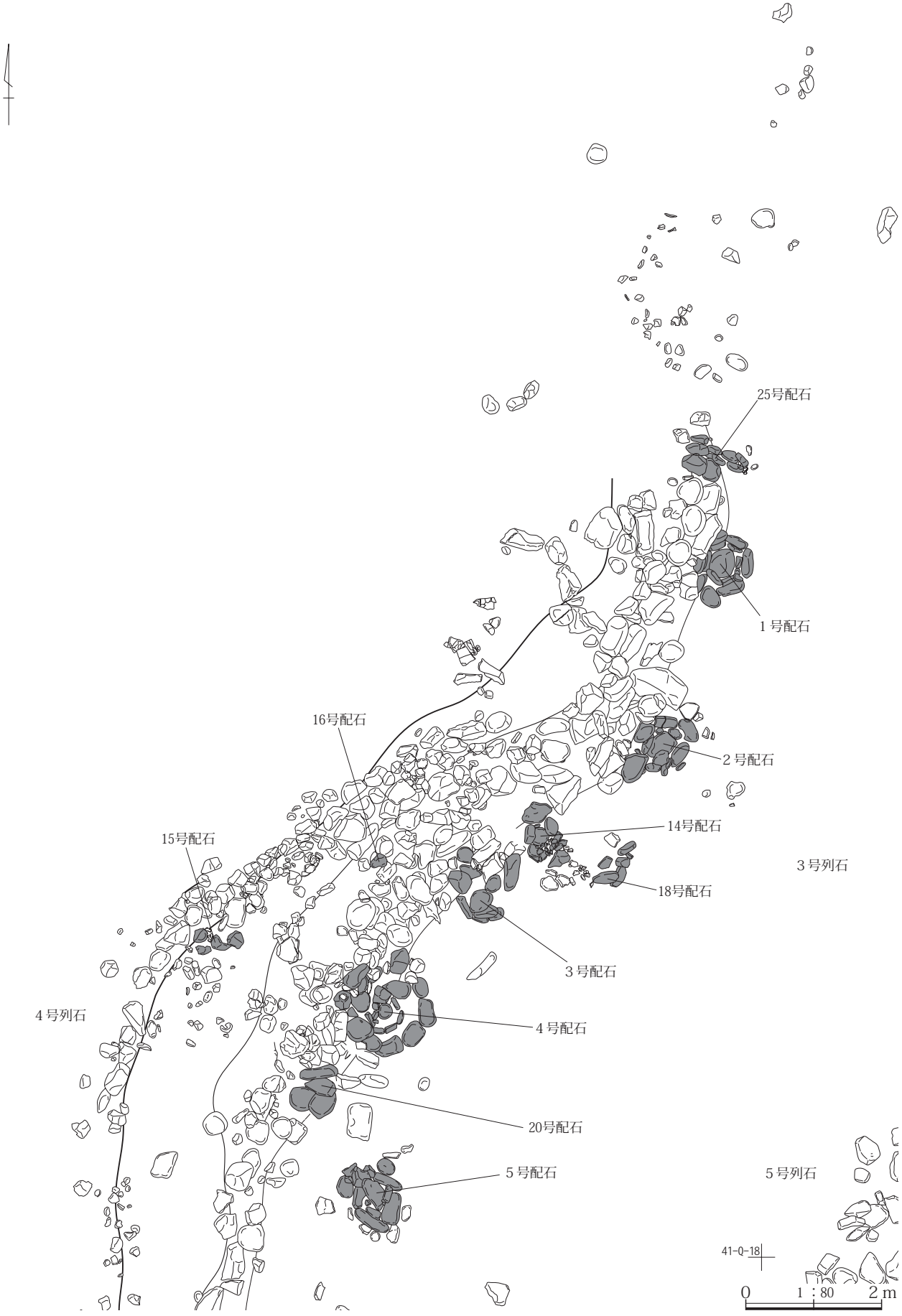
18号竪穴建物が弧状になった頂点部に位置し、同時期に構築されたものと考えられる。また北側の列石が東にやや突出する部分には19号竪穴建物が作られている。

列石の途切れた部分の東に77号竪穴建物が見られ、ほぼ同時期に比定される。

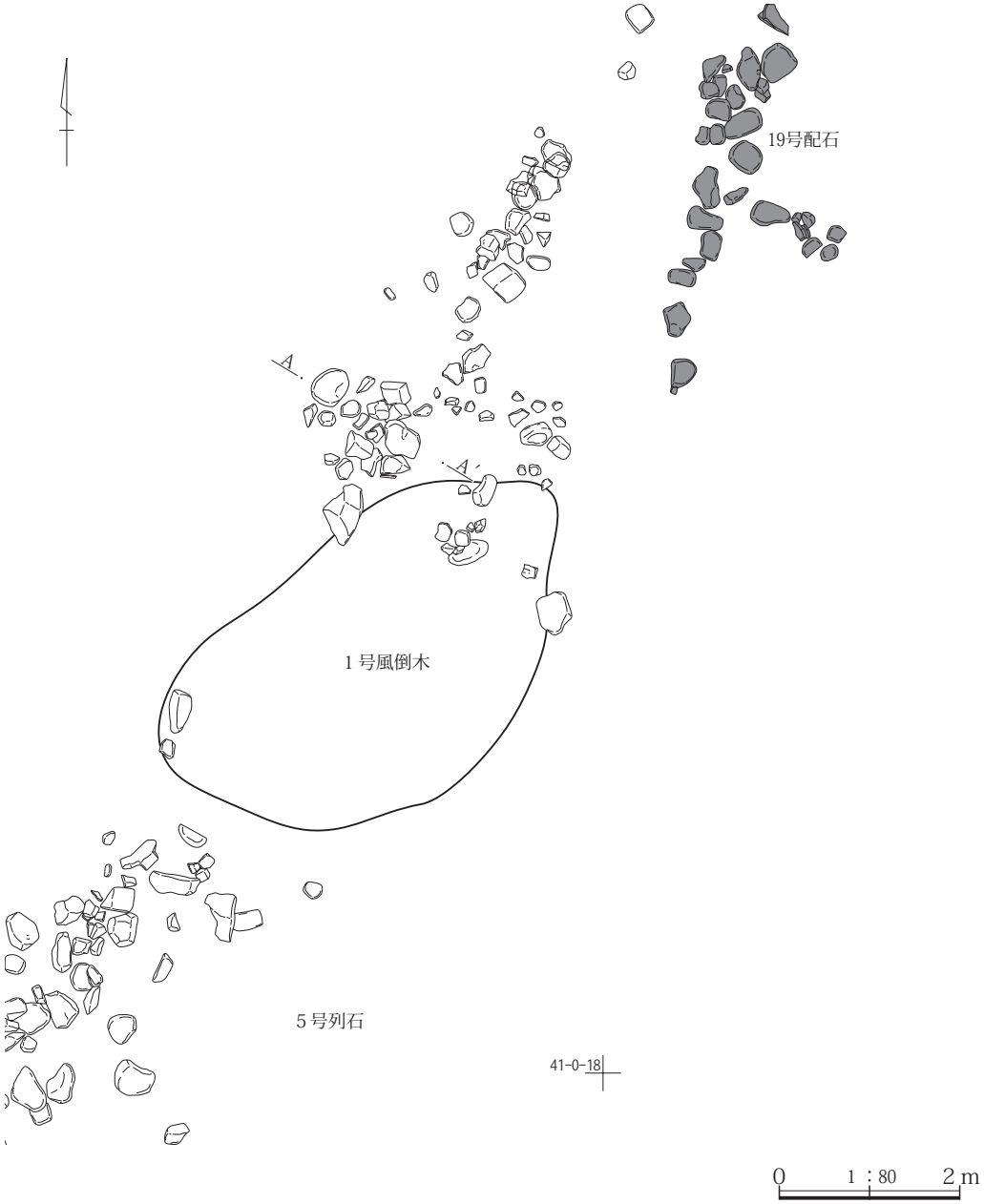
列石点数　922点

総重量　9340.9kg

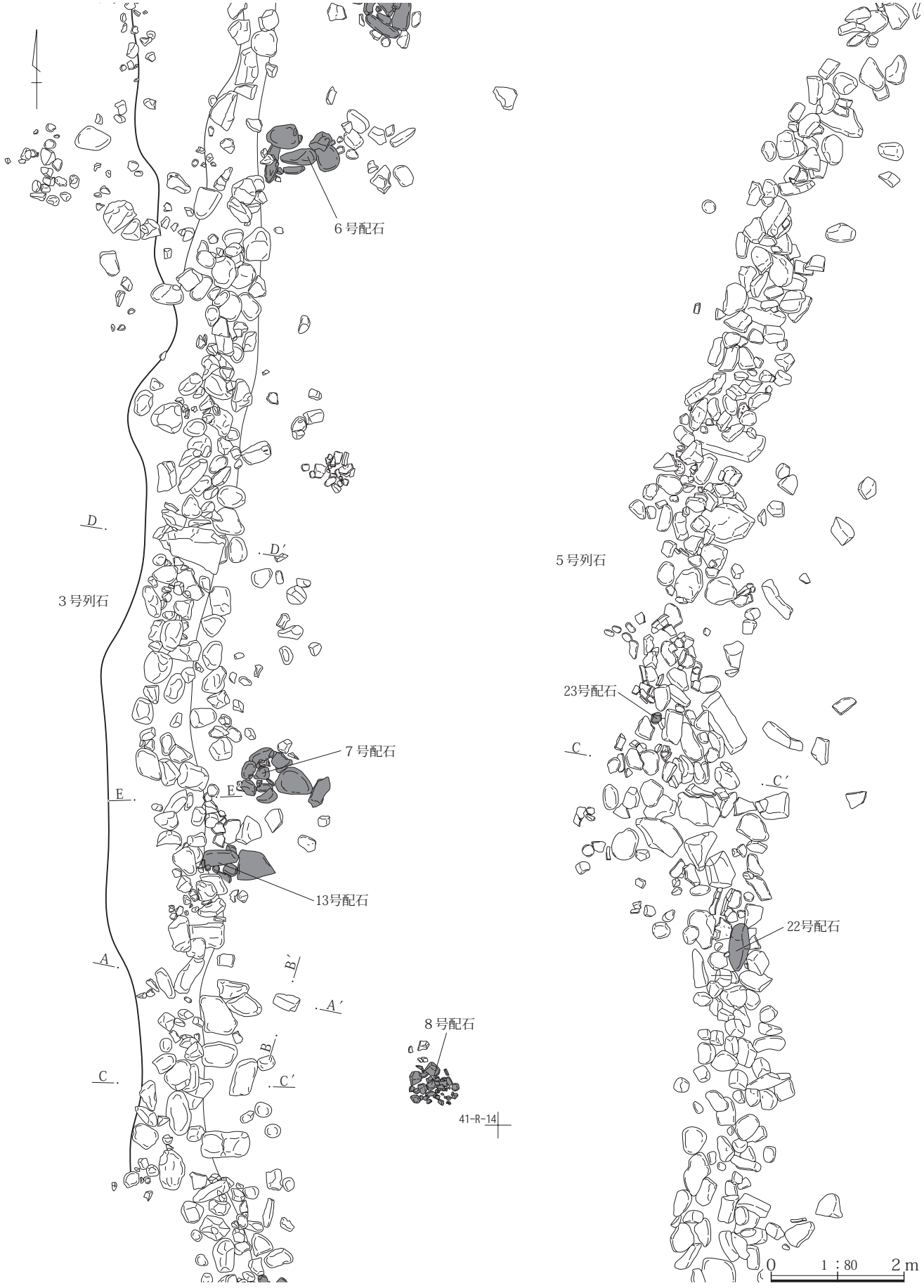
平均重量　10.13kg



第328図　Ｖ区３～５号列石・配石（１）

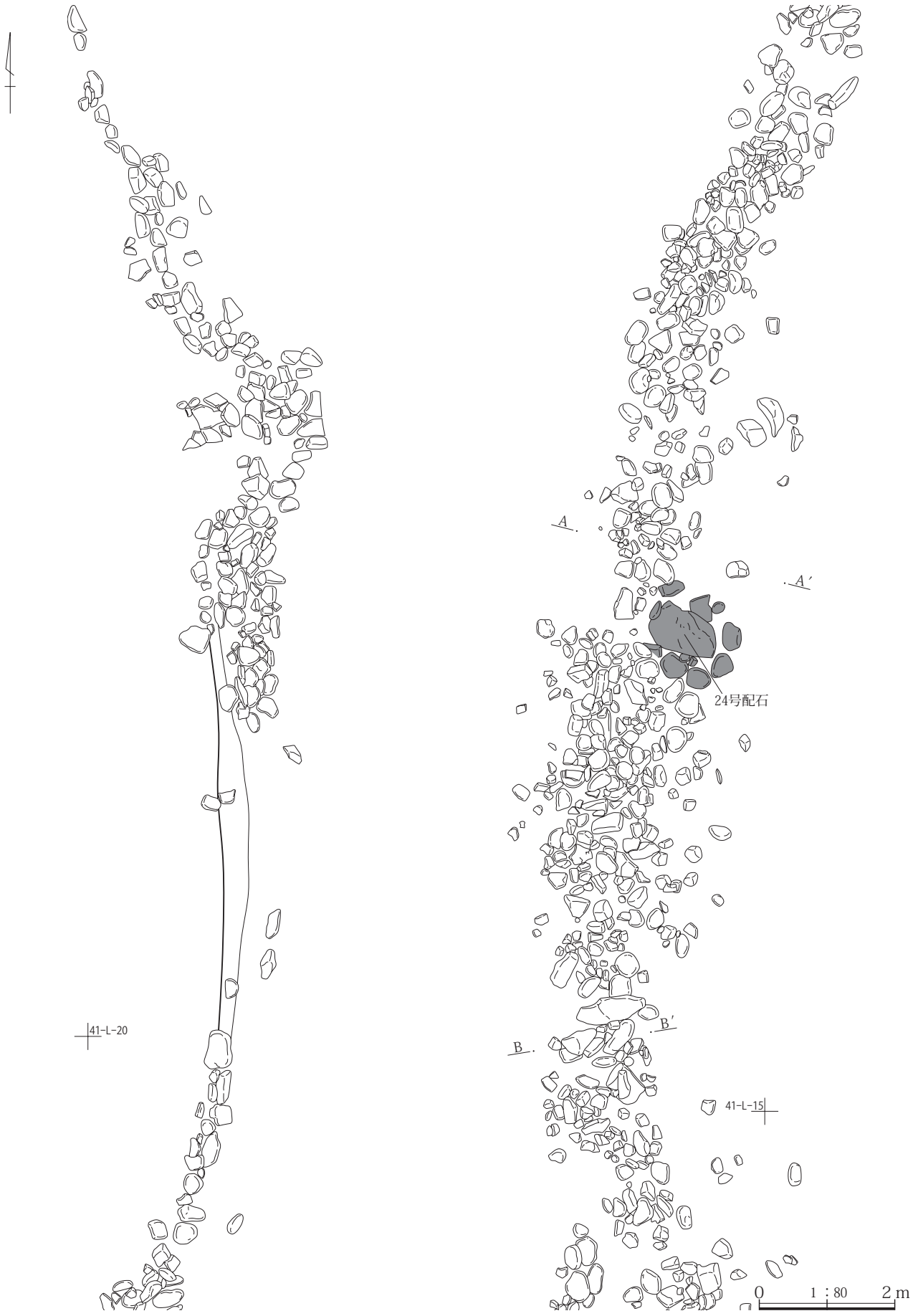


第329図　Ⅴ区３～５号列石・配石（２）



第330図　Ⅴ区３～５号列石・配石（３）

第331図　Ⅴ区３～５号列石・配石（４）



第332図　Ⅴ区６号列石　配石（１）

第333図　Ⅴ区６号列石　配石（２）

７号列石　欠番（31号配石）

位置　41区Ｉ・Ｊ－18グリッド。

経過　排水溝の掘削時に礫を確認し、列石としたが、拡張後の調査で、配石（31号）であることが判明したため欠番とする。

８号列石（第327・324図、PL.116）

位置　Ⅴ区41Ｓ・Ｔ－６・７グリッド。

経過　本遺跡の調査延長をうけて確認された遺構である。一連の遺構となる可能性が高いことから、列石として記載した。

重複　なし。

平面形状　長さ約４mにわたって並ぶ礫が、ほぼ南北に直線状に延びている。大型の礫も含まれ、部分的に切り土された状況も伺える。

両端部は礫の検出は無いものの、段差が見られることからさらに前後に延びていたことも考えられ、削平されてしまった可能性が高い。

下部構造　確認されていない。

主軸方位　Ｎ－６°－Ｅ。

規模　長さ4.0m、幅0.8m、高さ0.3m。

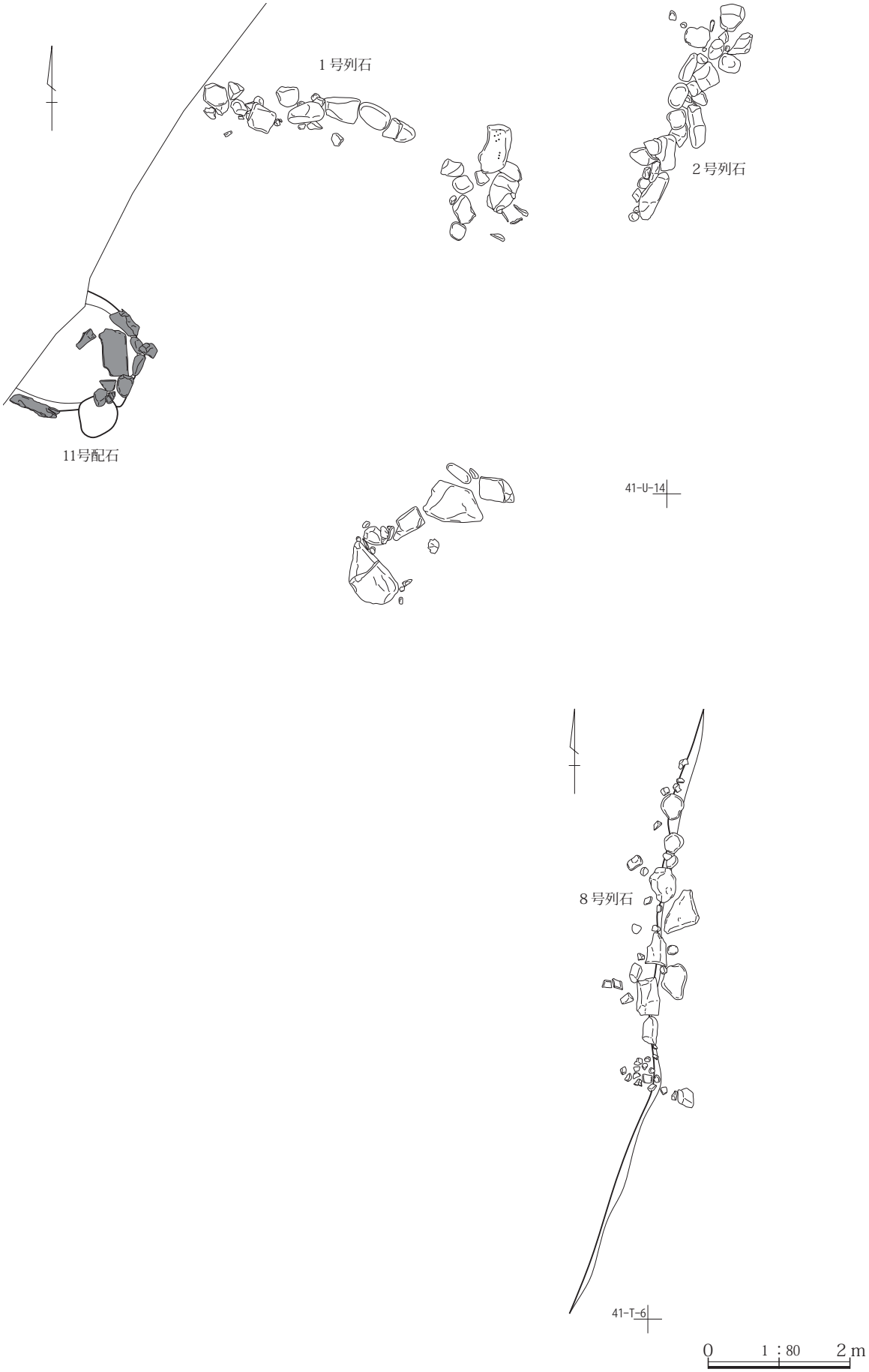
遺物　礫中及びその下部から、後期前半期の土器が出土している。

所見　周辺部に竪穴建物は確認されなかった。使われた礫は、輝石安山岩亜角礫で、地山土中に含まれる礫と同質である。岩片多く含む黄褐色砂礫層で埋まる。

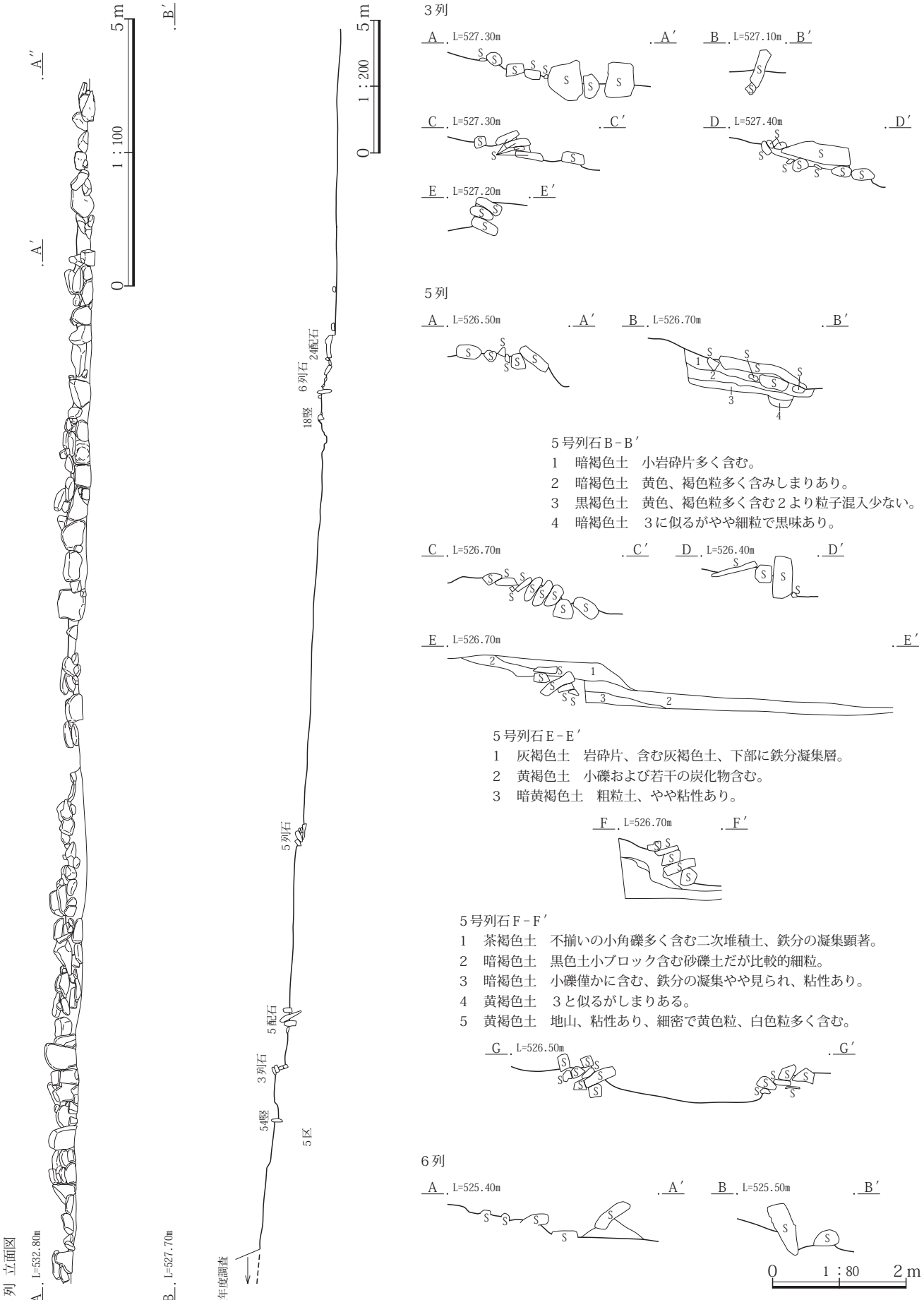
３号列石の南端部から約10m離れた位置に作られている。方向はやや西に数mずれており、両者が連続する可能性は低い。

同時に存在していたものと思われるが、一段上位に構築されていたと考えられる。北に延長すると、１号竪穴建物の接合部付近に当っていることから、関連も想定される。

列石の時期については、周辺から出土した土器を見る限りでは後期前半か。



第334図　Ⅴ区１・２・８号列石



第335図　Ⅴ区列石・配石立面・断面図

（４）配石遺構

平成28年度の調査において、列石確認当初から、付帯して構築された複数の配石が確認されていた。

その後、平成29、30年度に拡張された調査区内において、新たな列石の検出が見られ、これら列石に付帯するものや近接して構築された配石も相次いで検出された。これらは、列石とともに一連の礫を組み合わせて構築された遺構として調査されたものである。

縄文時代の配石遺構として認定できたのは、列石としたものを除き、29基である。これらの中には様々な要素を含んだ遺構があり､明らかに配石墓と認められるもの、竪穴建物に伴うもの、土坑とすべきもの、判断に苦慮するものなども含まれている。

遺跡全体での分布を見ると、列石に付帯して作られたもの（特に３号列石下縁部分）や、竪穴建物をはじめとする他の遺構と粗密に付随しながら、調査区の東半分に多く検出された。

列石にともなう配石の中には、列石の機能の一部として構築されたものであろうと推察されるものがかなり見られる。他の遺構に伴わず、単独で存在する配石の中には出土遺物も少なく、時期の特定が難しいものも多く見られる。

配石の構築材としての礫は、地山土中に含まれる粗粒輝石安山岩亜角礫を一部使用するが、多くは他から持ち込んだ川原石を使用している。

配石の形状はいくつかに分類される。

１、円礫を中央に据え周囲を礫で取り巻くもの。
２、柱状の礫を立石として周りに礫を配すもの。
３、列石中の立石。
４、礫を円形ないしは方形に並べたもの。
５、礫を意図的に列状に並べたもの（列石とは異なる）。
６、不規則な集積であるが人為的なもの。

以上に分類できるが、構築後に崩れたり、壊されたりして明確に分別できないものも見られる。

配石下の遺構に関しては、明確なものは２号配石下に検出された１号配石土坑のみで、これ以外には見られなかった。

出土遺物に関しては、検出作業を行う中で多くの土器や石器が見られたが、明らかに構築時のものとの判断は困難であるため、多くは遺構外として扱っている。

１号配石（第328・336図、PL.117・207）

位置　Ⅴ区41Q－20グリッド、３号列石の北端部に付帯して作られている。

重複　なし。

平面形状　３号列石の南側下段部に付帯して構築される。中央部に径40㎝程の円礫を据え、周囲に長さ30㎝前後の棒状の礫を囲うように並べ、さらに外側にはより大きな細長い礫を巡らし囲う。

主軸方位　Ｎ－77°－Ｗ。

規模　長軸1.1m、短軸0.8m。

下部構造　石を据えるための浅い掘方は見られたが、土坑等の施設は確認できなかった。

遺物　周囲に後期の土器片が出土している。

所見　中央に川原石の円礫を据え、周囲をやや細長い礫で２重に囲う構造である。列石の下段部にやや突き出す位置に付帯して構築されている。掘方としての掘り込みは見られるが、明確な下部構造は確認されなかった。

列石側には礫を階段状に積み重ねた状況が観察されたことから関連性が窺われ、列石と同時時に構築されたものと考えられる。時期は後期前半と思われる。

２号配石（第328・336図、PL.117・207）

位置　Ⅴ区41Q－19・20グリッド、３号列石の東側下段部に位置する。

重複　１号配石土坑が下部で検出された。

平面形状　中央部に長さ40㎝、幅35㎝のやや大きく偏平な川原石を置き、周囲を小振りの川原石で囲い、さらに外側をやや大きな川原石で囲っている。

３号列石の下段部に付帯して構築されており、列石側には大きな角礫が上部を囲うよう据えられていた。

規模　長軸0.90m、短軸0.85m。

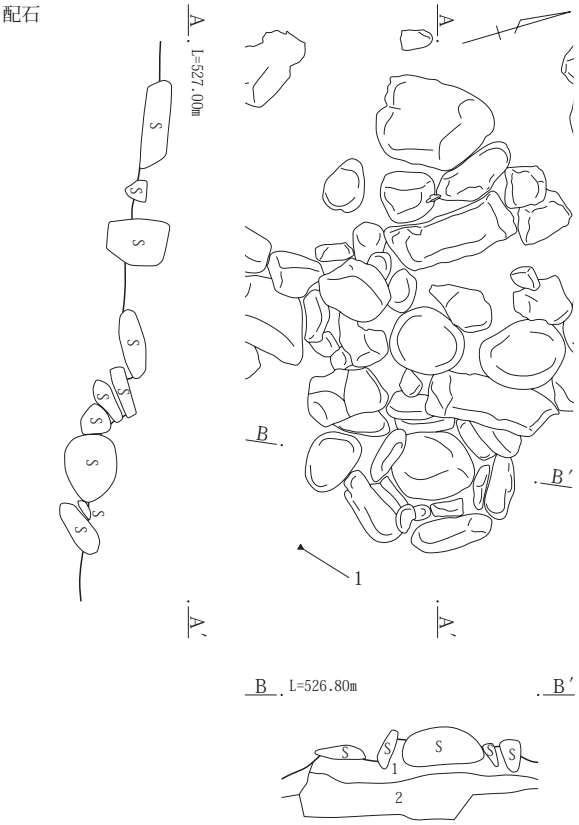
主軸方位　Ｎ－52°－Ｗ。

下部構造　直下に１号配石土坑が検出された、主軸をほぼ同じにとり、３号列石の大型角礫が上部に冠された状況が窺われる。軸線上には６号竪穴建物が構築されている。

遺物　出土遺物は、僅かに土器片が出土している。

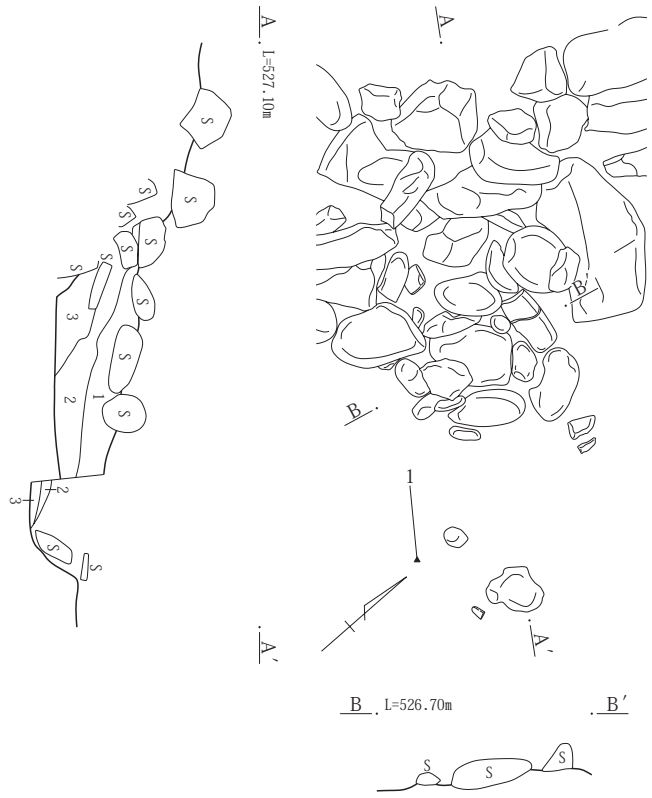
所見　配石のうち、唯一下部に土坑が構築されていたもので、３号列石、２号配石、１号配石土坑は同時期に構築されたものと考えられる。

１配石



１号配石
1　黄褐色土　白色、黄色粒多く含みやや粘性あり。
2　黄褐色土　１と似るがやや黄色味強く粘性強い。

２配石



２号配石
1　黒褐色土　黄色粒多く含みやや黒味あり。
2　暗褐色土　黄色粒、若干の炭化物含む。
3　暗褐色土　黄色粒含む砂粒土、炭化物含まず。

0　1：40　1m

第336図　Ⅴ区配石（１）

東宮遺跡における列石、配石の構築過程や意味を考える上で、重要な所見と考えられる。時期は後期堀之内２式期と考えられる。

３号配石（第328・337図、PL.118）

位置　Ⅴ区41Ｒ－19グリッド。

重複　なし。

平面形状　かなり壊れている状況で、組まれていたと思われる、川原石数個が本来の位置に残っていると思われる他は、動いた礫が点在する状況であった。東側にやや細長い礫が横倒しになって検出されている。

主軸方位　不明。

規模　長軸（1.15）m、短軸（0.7）m。

下部構造　特に認められなかった。

遺物　出土遺物は、土器片、石片が僅かに点在。

所見　３号列石に付帯して構築されたものと考えられるが、かなり壊れた状況であったため、構築時の形状は不明だが、東側にやや離れて、倒れた状態で検出された細長い礫は立石と考えられる。

中央に立石を据え周囲を囲う形態の配石であったとものと想定される。

４号配石（第328・337図、PL.118）

位置　Ⅴ区41Ｒ－18グリッド。

重複　なし。

平面形状　中央に円礫を置き、周囲を長角礫で囲み、さらに外側を大きな川原石で囲っている。中央の円礫周りには小円礫が入れ込まれていた。

主軸方位　Ｎ－95°－Ｗ。

規模　長軸1.5m、短軸1.1m。

下部構造　配石を構築するために掘り込まれた落ち込みを認めたが、明確な土坑は確認できなかった。

遺物　土器片および石器類が出土。

所見　中央に円礫を置き、周りを二重に囲う形態で、内側の礫は小振りな角礫および偏平な円礫を用い、外側はやや大きい川原石を使用する。円礫の周囲には小石が入れられていた。

３号列石の下段に位置し、列石と一体となる構造を呈す。円礫を中心に礫を巡らしており、円礫の周囲に小礫を配した構造である。構築時期は列石と同時期と考えられ、後期前半であろう。

５号配石（第328・338図、PL.118）

位置　Ⅴ区41Ｒ－18グリッド。

重複　なし。

平面形状　大型の偏平な川原石を横方向に立て、ほぼ方形に組んだ中に、細長い礫を立て立石とし、周りには根固め用の小礫を詰め込んでいる。さらには、方形に組んだ石の外側にも押さえとして置かれた礫が複数個検出されている。

主軸方位　Ｎ－69°－Ｗ。

規模　長軸0.80m、短軸0.75m、立石長さ0.9m。

下部構造　構築時の掘方土坑が確認された、ほぼ１層で埋まり、遺物は検出されなかった。僅かに土器片、角礫などが出土している。

遺物　周辺で僅かに土器片が出土。

所見　方形に組んだ礫の中央に長さ約90㎝の細長い礫を立てた立石である。

検出時、立石は北西にやや倒れた状況であったが、本来であれば、地面からの高さは60㎝以上であったと考えられる。３号列石からは南東側に約２m離れて構築されている。

６号配石（第330・339図、PL.118・207）

位置　Ⅴ区41Ｒ－17グリッド。

重複　なし。

平面形状　中央に細長い川原石を立て、周りを方形に礫で囲う形状と考えられるが、一部礫が動いており明確な形は不明である。また手前側には偏平な石が検出されている。

主軸方位　Ｎ－89°－Ｗ。

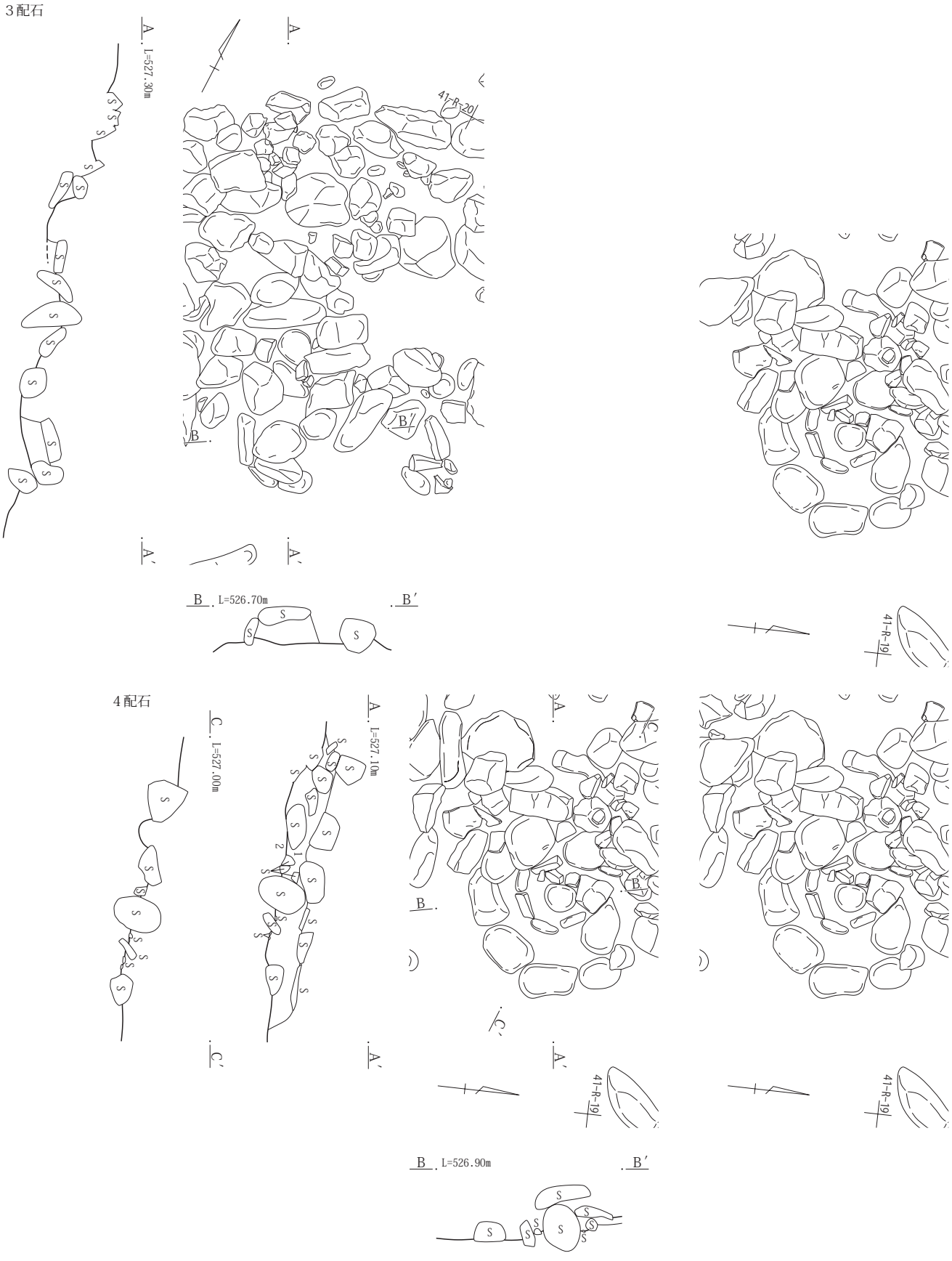
規模　長軸1.1m、短軸0.7m。立石長さ0.6m。

下部構造　掘り込みは認められなかった。

遺物　周囲に若干の土器片、剥片が見られた。

所見　立石を伴う配石遺構である、構造的には５号配石と同様と考えられる。検出時立石は南に倒れかかった状態で、取り巻く礫も一部が残っていたのみである。

手前に置かれた平石は、立石周りに立っていたものが倒れた可能性もある。３号列石から東へ約１m離れて位置している、北側約2.5m離れて、同様の構造を持つ５

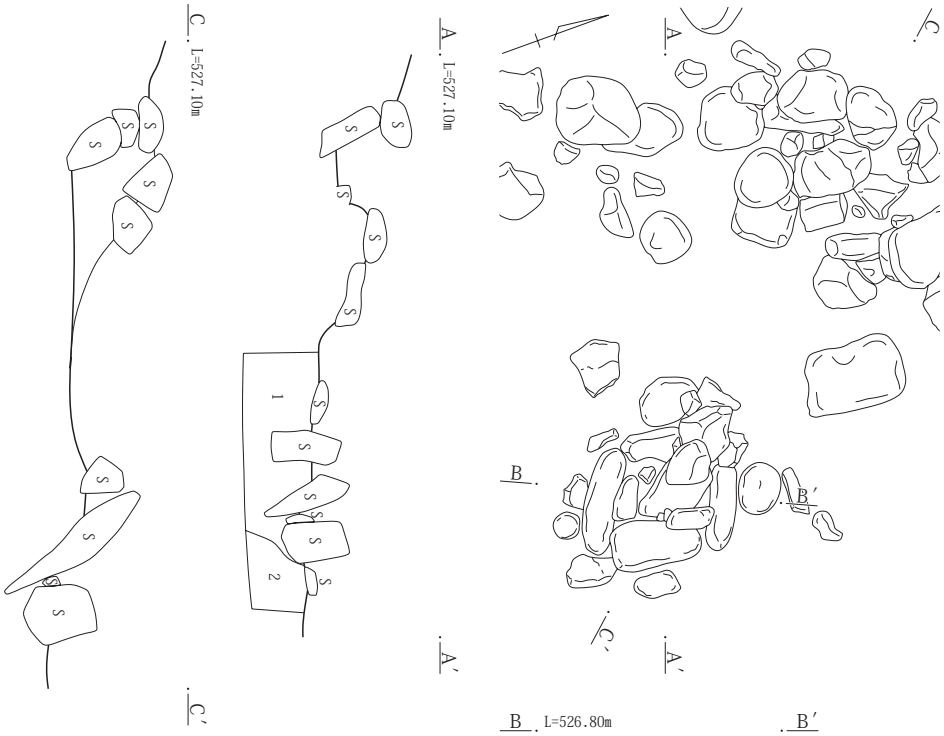


４号配石
1　黒褐色土黄色粒、褐色粒含みやや粗粒。
2　黒褐色土黄色粒、褐色粒（大）含み粗粒、しまりあり。

0　1：40　1m

第337図　Ⅴ区配石（２）

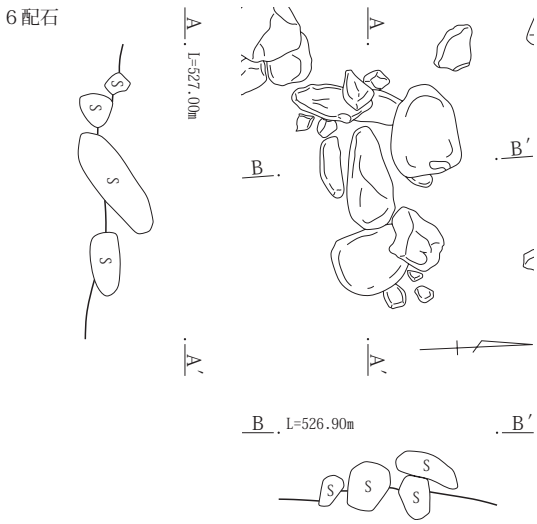
５配石

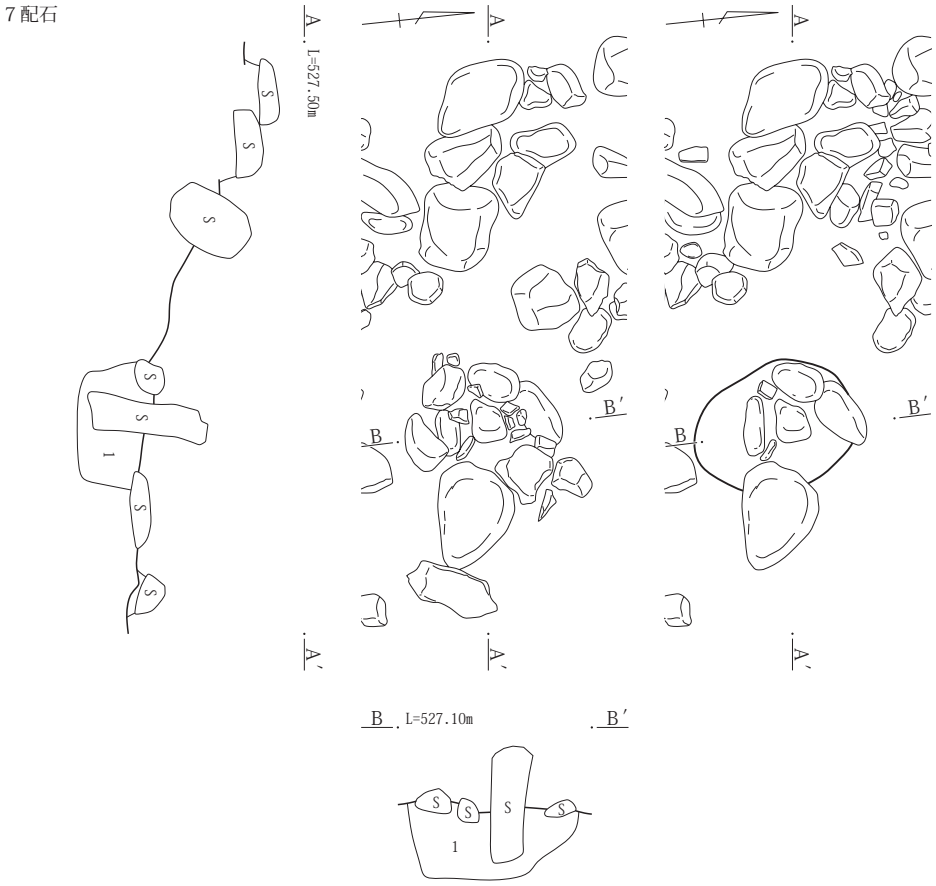


５号配石
1　黒褐色土　小礫、黄色粒多く含み粗粒。
2　黄褐色土　黄色砂粒土主体としましまりあり。

0　1：40　1m

第338図　Ⅴ区配石（３）





7号配石
1　黒褐色土　小礫、黄色粒多く含み粗粒。

0　1：40　1m

第339図　Ⅴ区配石（4）

号配石が位置する。作りは５号に比して、かなり貧弱さが窺える。手前におかれた扁平な礫が特徴的である。

７号配石（第330・339図、PL.119）
位置　Ⅴ区41Ｒ－15グリッド。
重複　なし。
平面形状　角柱状の礫を立て、周りを川原石で囲う構造である。手前側（南）にはやや偏平な川原石を面が平らになるように据えている。
主軸方位　Ｎ－84°－Ｗ。
規模　長軸1.1m、短軸0.85m、立石長0.6m（地上部０.35m）。
下部構造　立石を埋め込むための、掘方土坑が検出された。径65㎝、深さ35㎝である。
遺物　僅かに土器片が出土。
所見　立石を中心に据え、周りに川原石を配す構造であるが、置かれた礫は、やや離れており、５号配石のように立石を直接補強する機能はないとみられる。これは、立石がやや小さいためか。また、手前に置かれた礫は上面平らに置かれており、祭壇的な用途を示唆している。

３号列石の東側に近接するが、付帯して作られた様子は窺えなかった。立石構造の５号・６号配石からは南に10m以上離れて位置する。手前に平石を据えた構造は６号と同じである。また、立石が他の配石に比べ深く埋め込まれていた。

８号配石（第330・340図、PL.119）
位置　Ⅴ区41Ｒ－14グリッド。
重複　15号竪穴建物の北側に重複。
平面形状　確認時は地山礫が集まった状況で、一見炉にも見えたが、炉石としての並びも確認できず、焼土等も無かったことから配石遺構とした。

不揃いに礫が集中し、不定形な円形に広がる。
主軸方位　不明。
規模　長軸0.75m、短軸0.70m、深さ0.50m。
下部構造　詰め込まれた礫を除くと最終的には、規模、長径1.6m、短径1.45m、深さ0.5mの土坑となる。
遺物　下部に検出した土坑から、後期の土器、大型石棒片などが出土。
所見　当初、炉と考え調査を進めたが、大小の地山礫と縦位の礫を組み合わせて、その中に礫を詰め込んだような様子も見られたことから配石遺構と認定した。

最終的には上層に土器片および礫が多く入り込んだ、径約0.70m、深さ約0.50mの土坑と考えられる。

９号配石（第331・340図、PL.119）
位置　Ⅴ区41Ｑ－10グリッド。
重複　なし。
平面形状　やや大きな川原石が２個とその東に近接して同様の川原石が確認された。周囲には小振りの礫が配されている。
主軸方位　不明。
規模　長軸1.15m、短軸0.75m。
下部構造　浅い土坑状の掘り込みが確認された。長軸1.5ｍ程で深さは0.2mである。中央部分地山が高まっていることから、２基の土坑となる可能性がある。
遺物　出土遺物は僅かに土器片が見られる。
所見　川原石が不規則に据えている状況から配石とした。明確な下部遺構は見られず、遺物も無いため、性格は不明である。10号配石が２ｍ程南に位置する。

３号列石からは2.5m程東に位置する。他の川原石を用いたものとは趣を異にする。

10号配石（第331・341図、PL.120）
位置　Ⅴ区41Ｑ－９・10グリッド。
重複　なし。
平面形状　中央に倒れた偏平な川原石を置き、周りにはやや細長い礫を矩形に配置する。

立石の可能性もあるが、礫の長さは45㎝でやや短い。
主軸方位　Ｎ－14°－Ｗ。
規模　長軸0.95m、短軸0.75m。
下部構造　径約1.1mの不定円形で深さ0.35mの土坑が検出された。底部中央に大型の礫が検出されている。
遺物　僅かに土器片出土。
所見　矩形に組んだ礫の中にやや大きい平石が据えられた立石構造であろう。ただし立石とみられる石は偏平でなおかつ、南端に位置する。他の立石とは形状を異にする。

３号列石から東に1.5m離れている、南２ｍに位置する９号配石との関連を窺わせる。

11号配石（第334・341図、PL.120）

位置　Ⅴ区41Ⅴ・W－14グリッド。

重複　４号竪穴建物の西側に重複。竪穴建物を切って構築されている。当初、西側は調査区外に在り未調査であった。後日調査を行ったが、明確な遺構は確認できなかった。

平面形状　大型の板状礫および川原石を縦にして、壁に立て並べた長円形の土坑と考えられる。手前側の一部底面に平石が敷かれている。

主軸方位　Ｎ－78°－Ｗ。

規模　長軸（1.5）m、短軸2.0m、深さ0.75m。

下部構造　一回り大きな掘方土坑が確認されたが、遺物等はほとんど見られない。

埋没土層　埋土は小角礫を多く含んだ黒褐色土主体で、ほぼ１層が確認された。検出時には上部に小礫がまとまって確認されている。

遺物　覆土中より後期の土器片出土。

所見　扁平で大きな角礫と長円礫を壁に縦に並べ、組み合わせて、その中に礫を詰め込んだような形状が見られたことから遺構と認定した。

　完掘できていないために、確証はないものの、形態的には配石土坑とみられる。

12号配石　欠番（60号竪穴建物の炉）

位置　Ⅴ区41Ｏ－20グリッド。

所見　検出当初には配石としたが、位置、形状、断面観察等から、後日確認された60号竪穴建物の炉と判断した。

13号配石（第330・342図、PL.120）

位置　Ⅴ区41Ｒ・Ｓ－14・15グリッド。

重複　３号列石中に在り。

平面形状　立石と囲う礫および手前側に平石が置かれている。３号列石の一部を構成していたものと考えられる。

下部構造　明確な土坑等は確認されなかった。

主軸方位　Ｎ－85°－Ｗ。

規模　長軸1.55m、短軸1.13m。

遺物　出土遺物は周辺に土器片出土。

所見　３号列石の下段部に付帯して作られる。立石は検出時には手前側に傾いた状態で、取り囲んで角礫が置かれる。また手前側には偏平な川原石と板状の礫が据えられていた。立石は大型で細長い川原石で、長さ約75㎝である。

14号配石（第328・342図、PL.121）

位置　Ⅴ区41Ｑ－19グリッド。

重複　３号列石の下段部に付帯する。左側1.5m離れて３号配石、東側１ｍには18号配石が位置する。

平面形状　３号列石の下段部に付帯、中央に頭部が丸い礫を深く埋め置き、周囲に小礫を配し、外側を棒状の角礫、川原石などで囲っている。

下部構造　浅い掘方が確認された。

主軸方位　Ｎ－35°－Ｗ。

規模　長軸1.12m、短軸0.67m。

遺物　周辺に土器片が僅かに見られた。

所見　列石の下辺部に作られている。長卵形の川原石の、丸みを持った頭部を上にして埋め、小振りの礫で囲い、丸石周りに小石を詰めている。列石構築時に作られたものと思われる。時期は後期前半に比定される。

15号配石（第328・342図、PL.121）

位置　Ⅴ区41Ｒ・Ｓ－19グリッド。

重複　３号列石と４号列石との間に在り。

経過　列石周囲の礫を取り除く過程で、立石状の遺構として確認付番した。他の立石と形状を異にする。

平面形状　４号列石を構成する石列内に位置、やや長めの角礫を立石としている。基部に角礫を配している。立石としたが、埋め込まれた部分は浅い。

下部構造　特に掘り込み等は見られない。

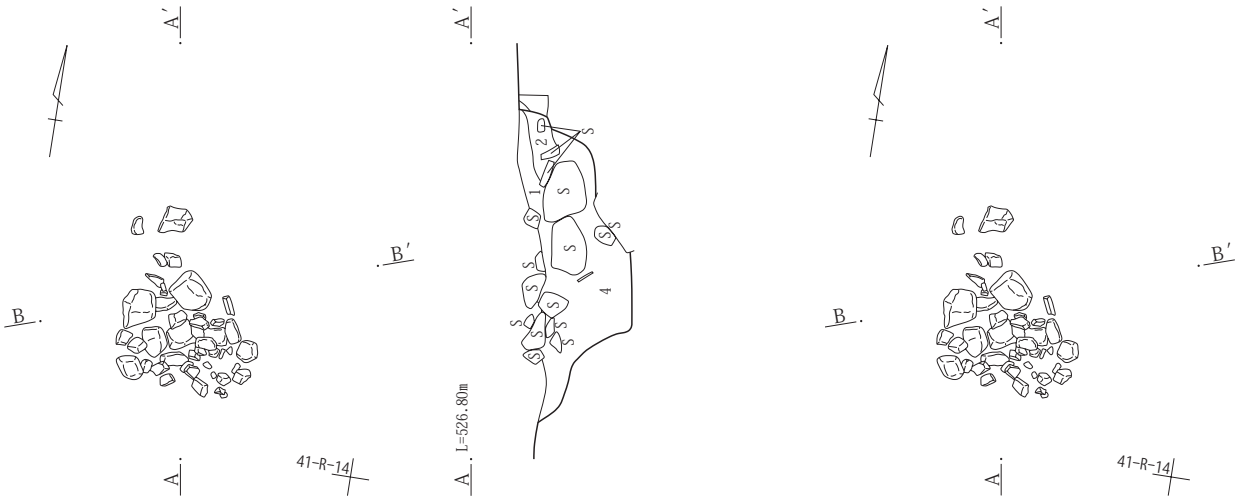
主軸方位　不明。

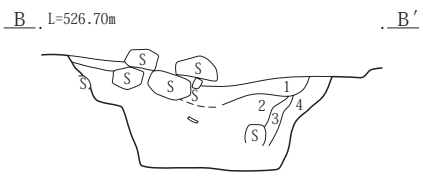
規模　長軸0.6m、短軸0.45m。

遺物　周辺に土器片出土。

所見　列石中にある立石と考えたが、他の立石と比して貧弱である。基部周囲に検出された礫も規則性に欠ける。立石を意識していたかは不明である。

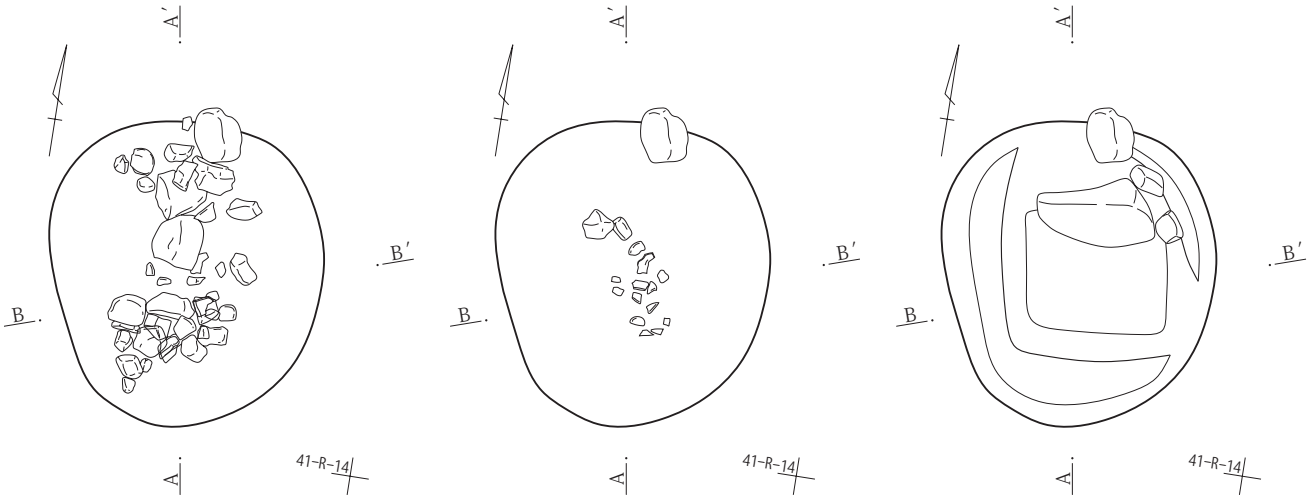
８配石





８号配石

1　暗褐色土　黄白色粒多く含む。
2　暗褐色土　黒味があり、黄白色粒含みやや細粒で礫を混入、若干の粘性あり。
3　暗黄褐色土　黄色粒含む粘性およびしまりあり。
4　暗黄褐色土　３と似るがやや黄色粒が多く、しまりあり。



９配石

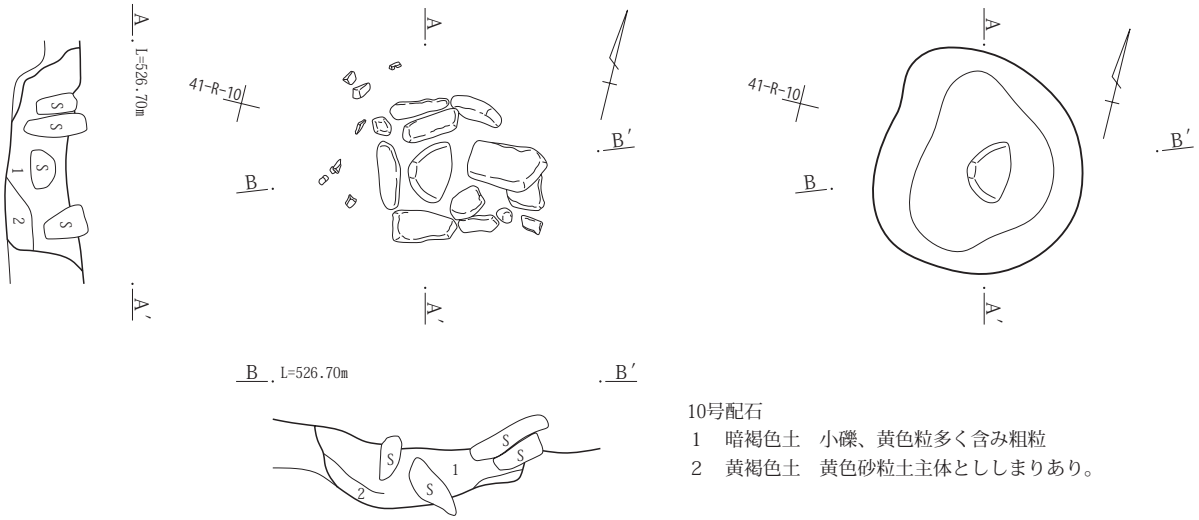
９号配石

1　暗黄褐色土　褐色粒子多く含み、粗粒でややしまりあり。
2　暗黄褐色土　１よりやや黄色味があり、しまりあり。

0　1：40　1m

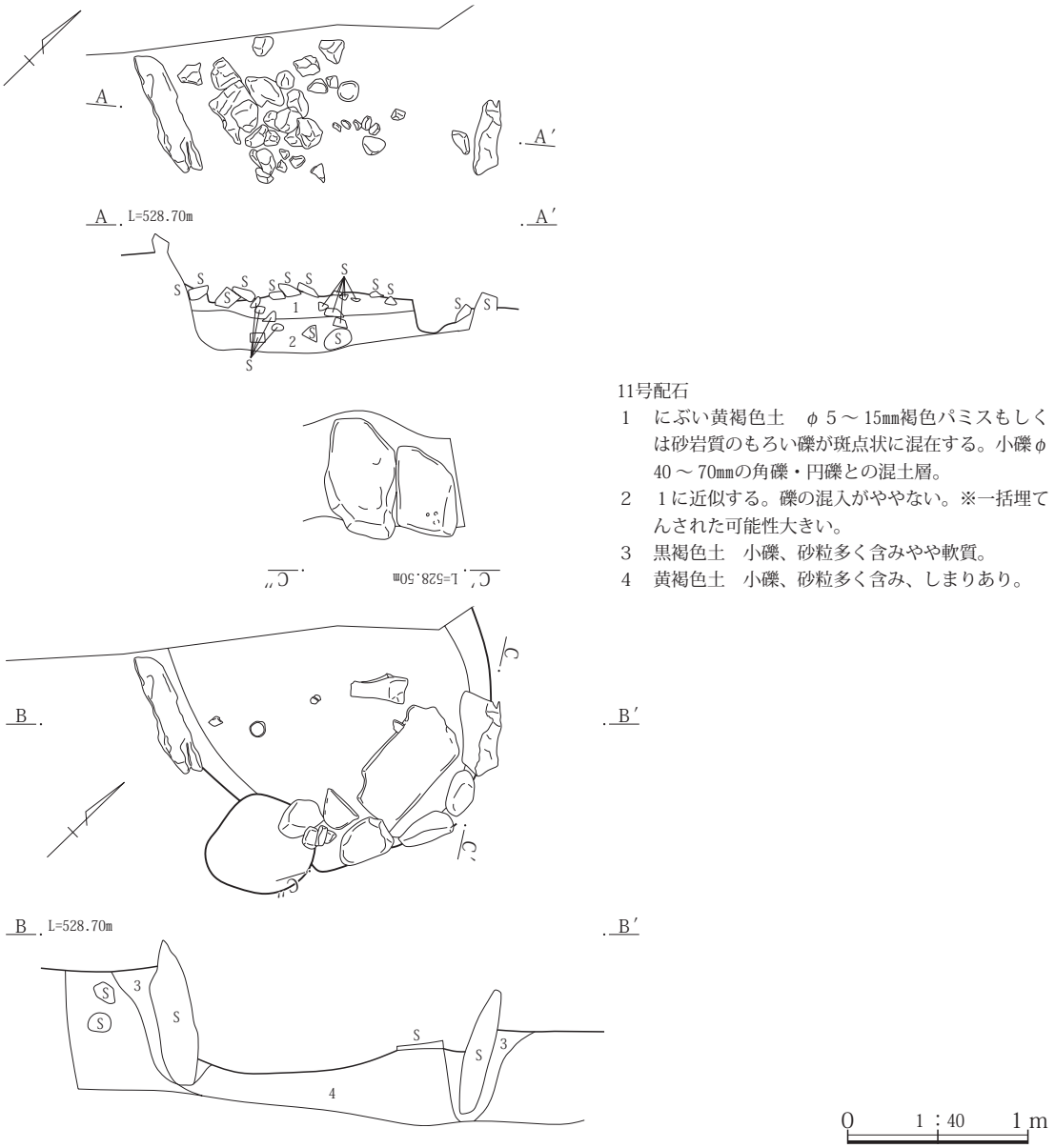
第340図　Ⅴ区配石（５）

10配石



10号配石
1　暗褐色土　小礫、黄色粒多く含み粗粒
2　黄褐色土　黄色砂粒土主体とししまりあり。

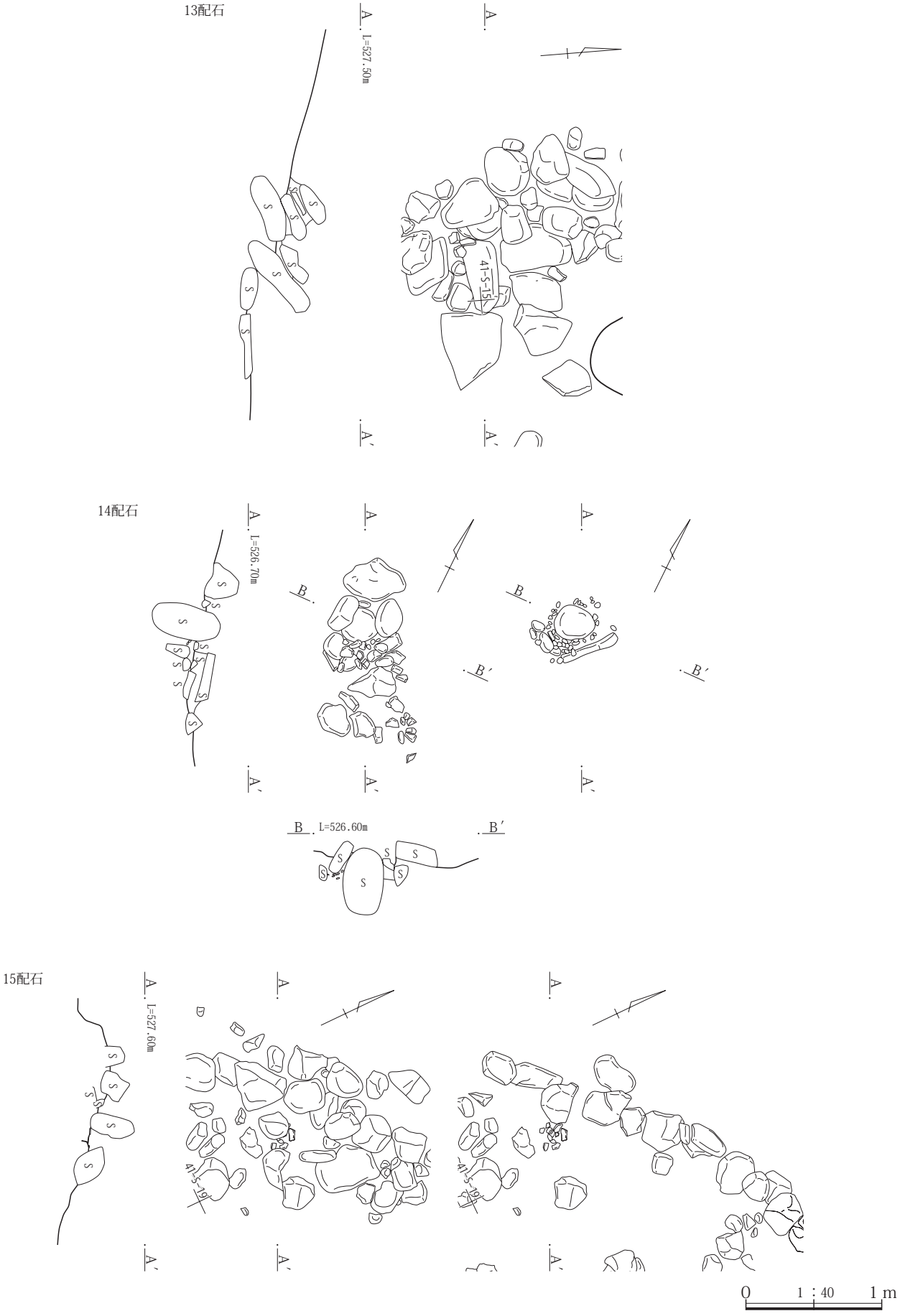
11配石



11号配石
1　にぶい黄褐色土　φ５～15㎜褐色パミスもしくは砂岩質のもろい礫が斑点状に混在する。小礫φ40～70㎜の角礫・円礫との混土層。
2　１に近似する。礫の混入がややない。※一括埋てんされた可能性大きい。
3　黒褐色土　小礫、砂粒多く含みやや軟質。
4　黄褐色土　小礫、砂粒多く含み、しまりあり。

0　1：40　1m

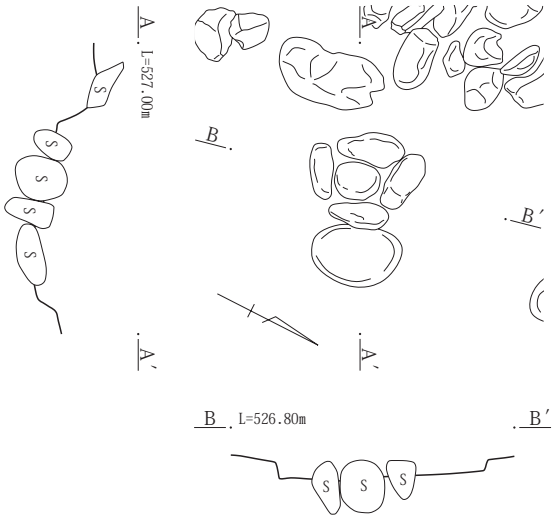
第341図　Ⅴ区配石（６）


13配石
A
L=527.50m
A′
41-S-15
14配石
L=526.70m
B
B′
L=526.60m
15配石
L=527.60m
41-S-19
0
1：40
1m

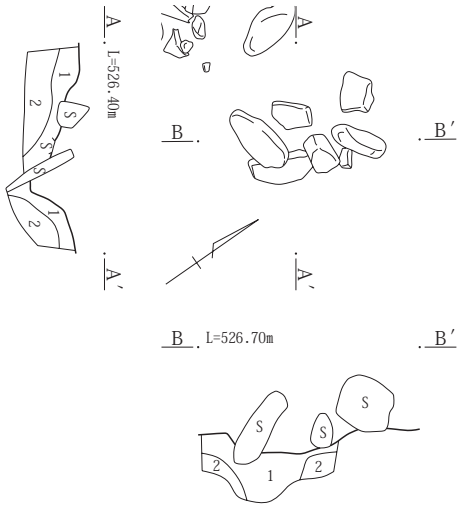
第342図　Ⅴ区配石（7）

16配石

17配石



18配石



18号配石
1　灰褐色土　黄色土を多く含みしまりあり。
2　暗黒褐色土　砂礫を多く含み粗粒。

0　1：40　1m

第343図　Ⅴ区配石（８）

16号配石（第328・343図、PL.121）

位置　Ⅴ区41Ｒ－19グリッド。

重複　４号列石と重複。

経過　４号列石と３号列石の接点部に位置、不定型な礫を立てて、周囲に角礫が見られる、15号と似た形状である。

平面形状　頭部が屈曲した礫を立石としている、周りに礫が据えられているが、配置に規則性は認められない。

下部構造　明確な掘方は認められず。

主軸方位　不明。

規模　長軸0.5m、短軸0.45m。

遺物　出土遺物は土器片が僅かに見られたのみである。

所見　周囲に列石に関わる礫が多く、またいずれも原位置を留めていないものがほとんどであった。そうした中にあって、立石状の形態から配石遺構とした。

17号配石（第331・343図、PL.122）

位置　Ⅴ区41Ｒ－12グリッド。３号列石の下段側やや離れて位置する。

重複　なし。

経過　３号列石の精査途中に確認、ほぼ埋没した状態で検出された。

平面形状　中央に丸石を据え、周りを４個の川原石で四角（台形）に囲い、手前にやや偏平な円礫を平らに据えた構造である。丸石周りに小礫等は見られない。

下部構造　浅い掘方を確認した。

主軸方位　Ｎ－115°－Ｗ。

規模　長軸0.82m、短軸0.62m。

遺物　出土遺物は、殆ど見られない。

所見　丸石周りに礫を配す構造である。３号列石の下段に位置している。手前側の円礫を含め、全体がかなり土で覆われていた状況で、他の配石の様に露出した状態とは異なるようである。

18号配石（第328・343図、PL.122）

位置　Ⅴ区41Ｑ－19グリッド。

重複　なし。

経過　人為的に礫を組み合わせた配置が見られ、平石が埋め込まれた状況などから、遺構と判断した。

平面形状　川原石を組み合わせた様子と、平石を半分以上立てに埋め込んだ状況が観察された。

下部構造　掘方と思われる不定型な土坑が確認されたが遺物は見られず。

主軸方位　不明。

規模　長軸0.80m、短軸0.48m。

遺物　出土遺物は、殆ど無し。

所見　配置された礫は明瞭な配石構造は認められなかったが、構成していた礫が部分的に移動したことも考えられる。平石については一部が埋まった状態で検出されていることから遺構とした。

19号配石（第329・344図、PL.122）

位置　Ⅴ区41Ｎ－19・20グリッド。

重複　なし。

経過　５号列石の北端に位置、当初列石の一部と考えたものの、礫の配置状況や、列石ラインとはやや離れており、使用されている礫の違いから配石と認定した。

平面形状　南北方向に長軸を持った列状に石が置かれ、部分的に広がりを持つ。礫はやや偏平な川原石を用い、上面を平らにして敷くように置かれている。特に立石等は伴わない。

下部構造　土坑等は確認されなかった。

主軸方位　Ｎ－13°－Ｅ。

規模　長軸4.38m、短軸1.80m。

遺物　出土遺物はなし。

所見　川原石が列状に配置されるものの、石の向き等に規則性は認められない。北端部分にはややまとまって礫が見られたが、特徴的な丸石や立石などは見られなかった。

20号配石（第328・344図、PL.122）

位置　Ⅴ区Ｒ－18。

重複　なし。

経過　３号列石の手前に位置。大きな角礫を立て、周りには支えるように礫が囲う状況が見られたことから遺構と認定した。

平面形状　大型の角礫を立石としている。周囲に置かれた礫も大型である。立石の頭部は欠損しているものと見られる。

下部構造　土坑等は認められない。

主軸方位　不明。

規模　長軸0.72m、短軸0.70m。

遺物　出土遺物はなし。

所見　３号列石の手前、４号配石の南西側約２mに近接して構築されている。立石と思われる礫は大型角礫で、頭部欠損が見られる。下部は浅く埋め込まれた状況であった。殆ど規格性は認められない。

21号配石（第331・344図、PL.123）

位置　Ⅴ区41Ｒ・Ｓ－13。

重複　15号竪穴建物の西側に重複。

経過　３号列石の東側精査中に検出。川原石が立石状に埋め込まれ、挟むように川原石が据えられていたことから遺構と認定した。

平面形状　３号列石の東側､15号竪穴建物の西側に位置。列石に伴うと思われる大型の角礫を東に位置し、川原石を立てて押さえるように左右に２個の礫が据えられる。使用されている礫は少ない。かなり土で埋まった状態で確認された。

下部構造　若干の礫を埋める際の掘方は見られたが、土坑などは認められず。

主軸方位　不明。

規模　長軸0.50m、短軸0.42m。

遺物　出土遺物は見られず。

所見　３号列石の東側に在り、かなり埋まった状態で確認された。立石状に埋められた川原石と、これを押さえるように、基部に２個の川原石が確認されている。竪穴建物の壁際に重複するが、前後関係は不明である。列石と同時期あるいは、古く位置づけられる。

22号配石（第330・345図、PL.123）

位置　Ⅴ区41Ｑ－14グリッド。

重複　５号列石中に位置。

経過　５号列石中に位置する、立石と見られる大型の礫が倒れた状態で検出されたため、遺構と認定した。

平面形状　５号列石の一部として構成され、立石として認定される。

下部構造　特に認められず。

主軸方位　不明。

規模　長軸0.70m、短軸0.30m。

遺物　出土遺物は、周囲に僅かな土器片が出土。

所見　大型の川原石が斜めになった状態で確認され、周辺の礫とは様相を異にしている。石は長さ約70㎝で径は25㎝程である。列石の上段には12号竪穴建物が位置し、張り出し部の右側前方に当たる。列石内の立石と考えられる。

23号配石（第330・345図、PL.123）

位置　Ⅴ区41Ｑ－15グリッド。

重複　５号列石内、および12号竪穴建物の正面に位置する。

経過　列石中に角礫が立った状態で確認されたことから遺構と認定した。

平面形状　列石の上段部、12号竪穴建物の入り口部に在り、角礫利用の立石として配置されている。周囲には大小の礫が見られるが、列石を構成する礫との区別は困難である。

下部構造　明瞭な掘方は確認されず。

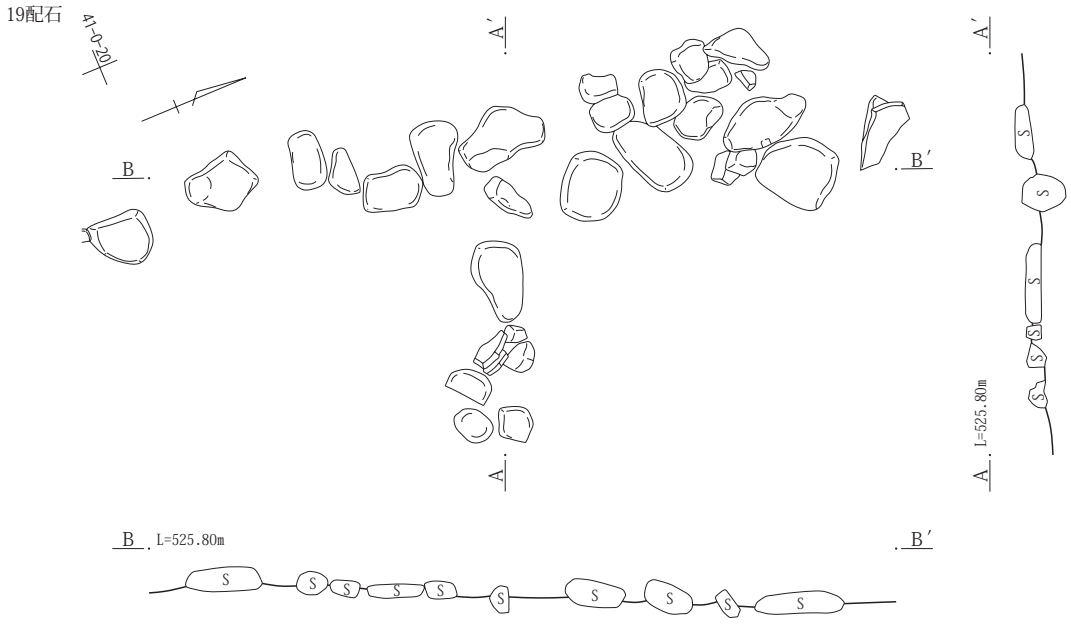
主軸方位　不明。

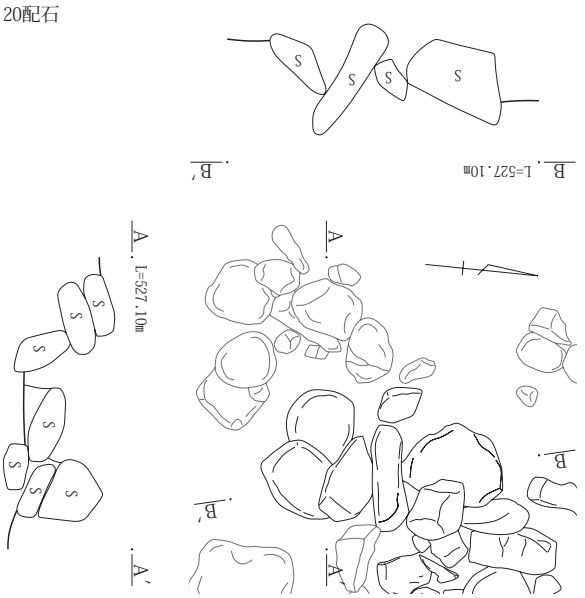
規模　長軸0.22m、短軸0.18m。

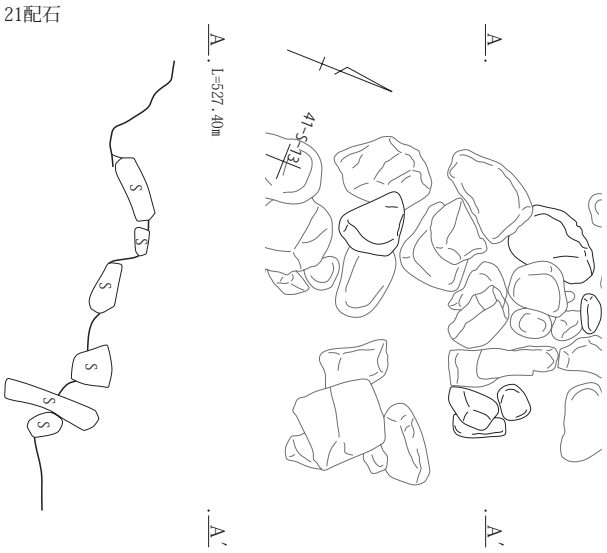
遺物　出土遺物は、周囲に僅かに土器片が見られたのみである。

所見　周囲を礫で囲まれており、単独の立石と思われるが、竪穴建物の前面に位置していることから、関連が想定される。

使用された礫はやや細長い角礫で上部は欠損している状況が認められる。下部も余り深くは埋められず、周囲の礫によって押さえられた状況を呈す。



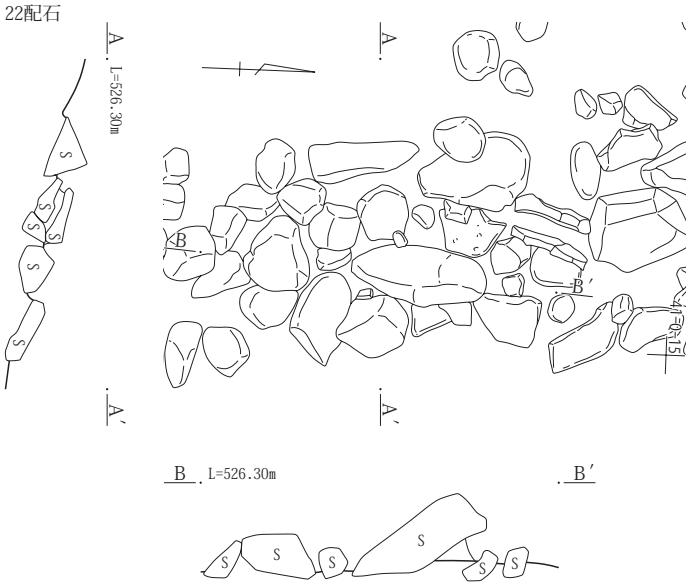




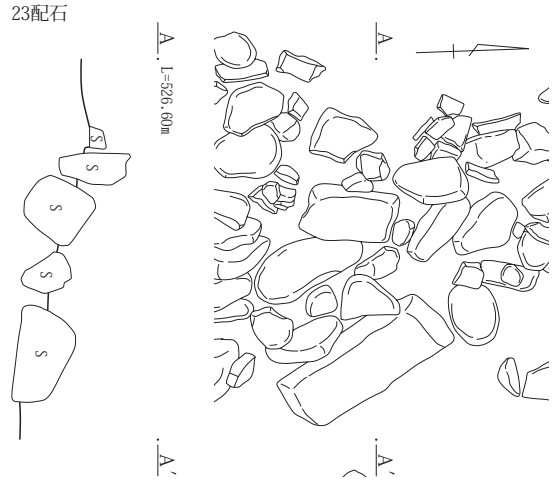
0　1：40　1m

第344図　Ⅴ区配石（9）

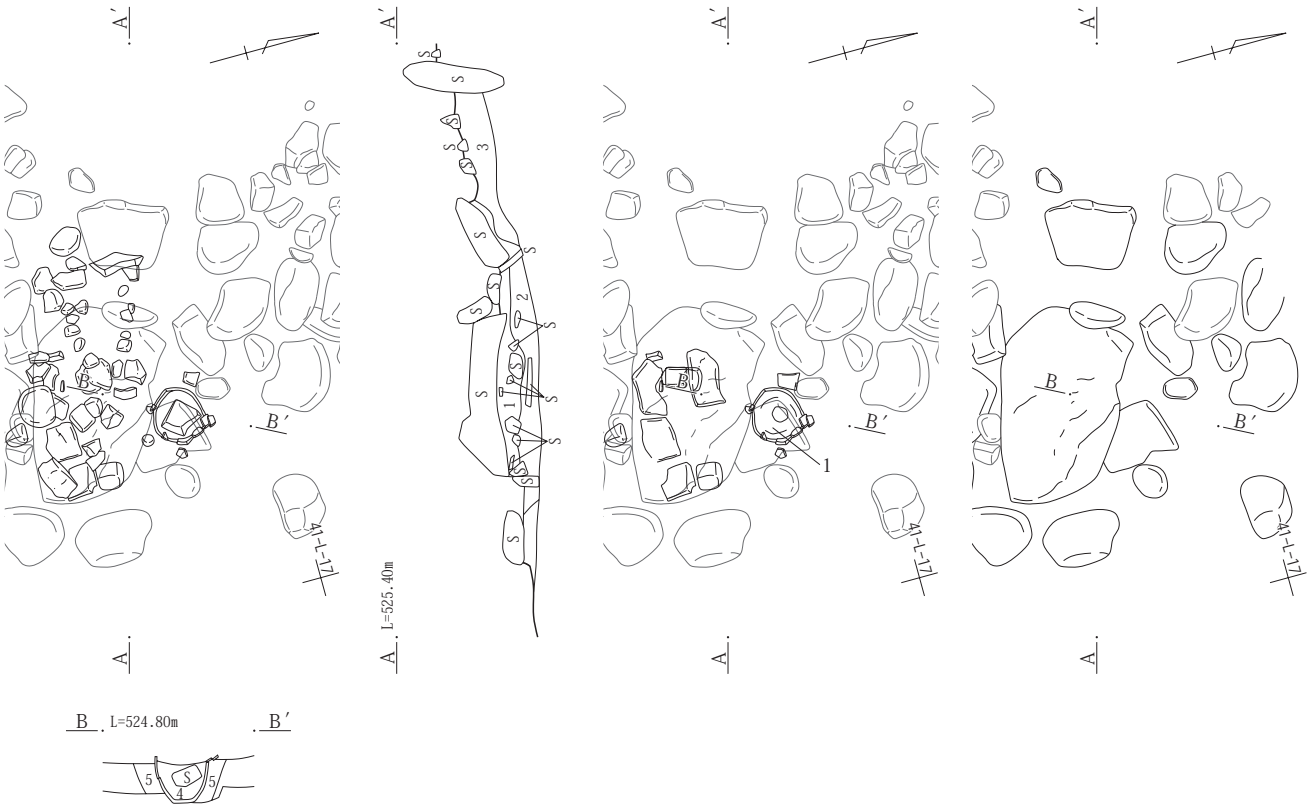
22配石



23配石



24配石

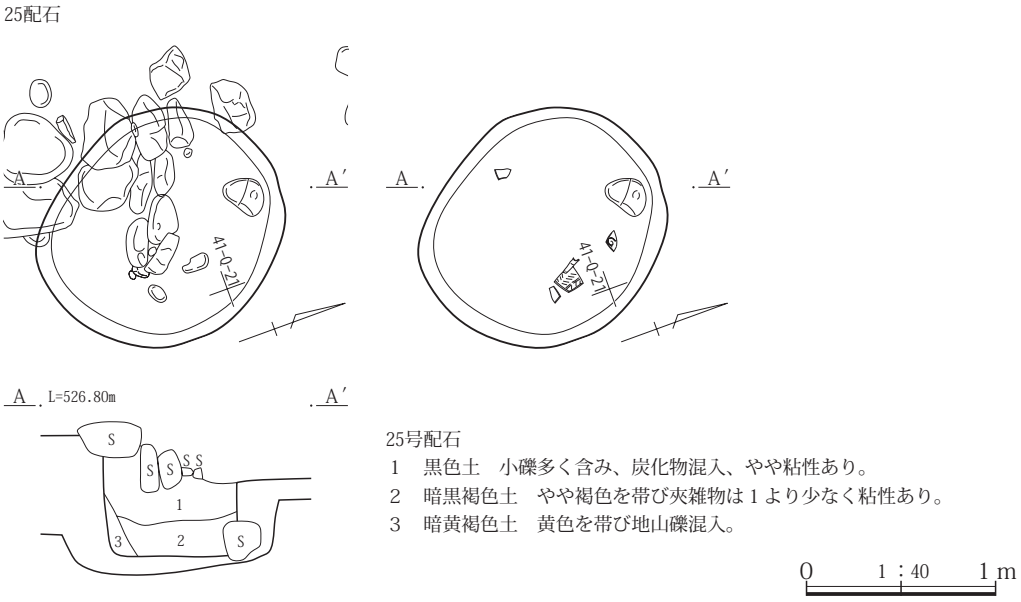


24号配石

1　黒色土　多量の炭化物含み軟質土主体。
2　暗黄褐色土　細流で、黄色粒を多く含む。
3　黄褐色土　黄色粒、白色粒、岩砕片を含みしまる。
4　暗褐色土　若干の炭化物含む。
5　黄褐色土　少量の炭化物含む、地山粗粒土含みやや粘性あり。

0　1：40　1m

第345図　Ⅴ区配石（10）



第346図　Ⅴ区配石（11）

24号配石（第332・345図、PL.123・207）

位置　Ⅴ区41Ｌ－16グリッド。

重複　18号竪穴建物の前面、６号列石中に位置する。

経過　６号列石精査中に大きな礫の周りに、偏平な川原石を含む大小の礫が配されていたことから、配石遺構と認定した。

平面形状　大型角礫の比較的平らな面を上にし、周りに角礫さらに外側には偏平な亜円礫を取り巻く様に配置した構造である。

下部構造　大型礫の下部において埋め甕が確認された。

主軸方位　Ｎ－75°－Ｗ。

規模　長軸1.95m、短軸1.30m。

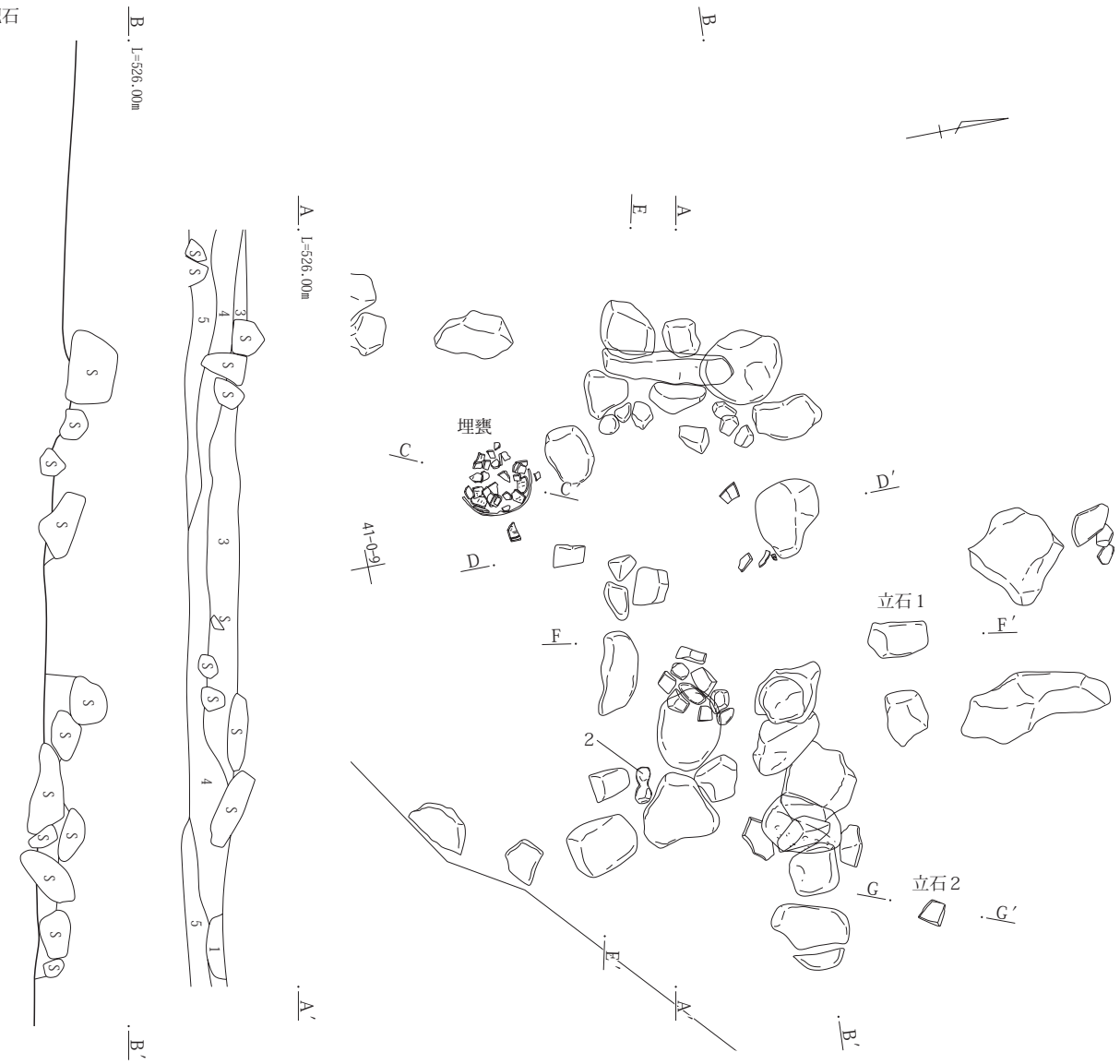
遺物　出土遺物は、土器片が下部および周辺において出土。埋甕は礫の端に確認されている。

所見　中央の角礫は長さ105㎝、幅65㎝である。周囲に敷かれた礫は平らな面を上にして取り巻く様に配されており、一部板状の礫なども含まれている。

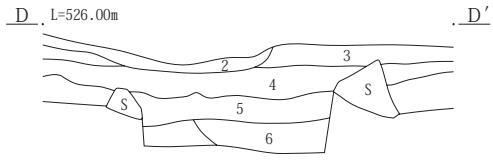
配石は18号竪穴建物の正面に在り、何らかの関連が想定される。

また右側には立石と見られる石も検出されている。大型礫の右側下位に埋め甕が検出されている。

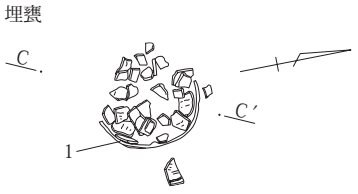
埋甕は口縁部を欠くものの、底部まで残っている。18号竪穴建物の主軸上に位置していることも興味深い所見である。時期は、後期初頭か。



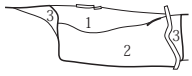
26号配石Ａ－Ａ′　Ｄ－Ｄ′
1　黄褐色土　鉄分の凝集目立つ。
2　灰黄褐色土　鉄分目立ち小礫混入。
3　茶褐色土　粒状土、粒子やや粗くしまりあり。
4　赤灰褐色土　鉄分凝集みられ細粒でやや粘性あり。
5　灰褐色土　灰色でグライ化みられる粘性あり。
6　赤灰褐色土　黄色岩砕片多く含む？Ａ全体に鉄分凝集みられる。



0　1：40　1m



26号配石埋甕Ｃ－Ｃ′
1　茶褐色土　鉄分凝集目立つ粗粒土、若干の炭化物含む。
2　暗褐色土　粘性土、炭化物含みしまりあり。
3　暗褐色土　白色粒含む粗粒土。



0　1：30　1m

第347図　Ⅴ区配石（12）

26号配石立石１・２　F-F′　G-G′
1　黄褐色土　鉄分の凝集目立つ。
2　灰黄褐色土　鉄分目立ち小礫混入。
3　茶褐色土　粒状土、粒子やや粗くしまりあり。
4　赤灰褐色土　鉄分凝集みられ細粒でやや粘性あり。
5　灰褐色土　灰色でグライ化みられる粘性あり。
6　赤灰褐色土　黄色岩砕片多く含む？Ａ全体に鉄分凝集みられる。

0　1：40　1m

第348図　Ｖ区配石（13）

25号配石（第328・346図、PL.124）

位置　Ⅴ区41Q－20・21グリッド。

重複　３号列石北端部。

経過　３号列石の北端に列石と直行方向に、川原石を２列縦に並べた礫の組み合わせが見られたことから、遺構と認定した。

平面形状　列石の末端部に２列の礫集石。３号列石に付随か。

下部構造　土坑が検出されている。土器片出土。

主軸方位　Ｎ－65°－Ｗ。

規模　長軸1.24m、短軸0.35m。

遺物　列石周辺から土器片、下部土坑中からも土器片等出土。

所見　接してはいるものの、３号列石の石とは大きさ、形状が異なり、礫の配置の仕方が異なっている。何らかの意図によって構築された物と考えられる。列石がここで途切れていることにも注目する必要があろう。直下には土坑が確認されている。時期は、後期前半に比定される。

26号配石（第327・347図、PL.124・125・207）

位置　Ⅴ区41Ｎ・Ｏ－９グリッド。

重複　なし。

経過　平成29年度未調査となっていた電柱敷き部分の下面で確認した。当初礫の配置から敷石竪穴建物の張り出し部分の可能性を考え、調査を進めたが、竪穴建物と認定できなかったこと、礫の配置には人為的な意図が認められたことから、最終的には配石遺構とした。

平面形状　西側部分に礫の州中部が在り、そこから東に列石上に石が並ぶ形状である。また、周囲にも角礫が見られるが規則性は無い。

下部構造　礫を除去後、配石内にいくつかの土坑を確認したが、本址に伴うものか確認できなかった。

　また、本址に関連すると思われる埋甕が左脇に検出されている。埋甕は深鉢を倒置し、中には小礫が入れ込まれていた。

主軸方位　Ｎ－78°－Ｗ。

規模　長軸3.65m、短軸1.52m。

遺物　本址に伴うものと思われる埋甕が出土。また土器片や石器なども出土している。

所見　比較的大型の礫のまとまりと東に延びた石列を含め配石遺構とした。一見敷石竪穴建物の張り出し部に見えるが、竪穴建物とは判断できなかった。周囲にも礫が見られ、一部並ぶ様子も見られるものの不揃いで明確な遺構とは判断し得なかった。また礫の高さも一定ではなかった。さらに、埋め甕が南側に近接して検出されている、半周以上する深鉢を逆位に埋め、中には破片が落ち込んだ状態で出土している。また、立石と思われる礫が２基確認されている。東に延びる２本の石列右脇に長さ50㎝、左に30㎝の礫を縦に埋めている。

　本址については、定型的な形としてはとらえられず、極めて不整形な形状であるが、埋め甕、立石を伴うことから何らかの意図を持って構築されたものと考えられる。時期は、後期前半期に比定される。

27号配石（第333・349図、PL.126）

位置　Ⅴ区41Ｋ－12グリッド。

重複　なし。

経過　６号列石の南端部の調査を進める中で確認された。ほぼ円形に礫を廻らしている。

平面形状　比較的大きな川原石をほぼ円形に並べた中に、小石を多量に入れている。

下部構造　詰め込まれた礫を除くと内径約1.2m、短径1.0mの土坑状になっている。礫に混じって僅かに土器片出土。

主軸方位　Ｎ－59°－Ｗ。

規模　長軸1.88m、短軸1.78m。

遺物　出土遺物は、後期前半期の土器片、及び石片である。

所見　６号列石の南側延長線上に位置している、列石が切れた南端部から、３m程離れて検出された。主に川原石を丸く配し、土を入れた上に小石を入れている。

　周囲には石が点在する程度で、配石自体はやや浮いた位置に在り、列石との連続性は窺えない。川原石を１段ないし２段にして、ほぼ円形に廻らした中に小石を入れ込んだ構造は、４号・14号配石などに見られるが、本址は一回り大きく、中央部に丸石が見られない。時期は後期に比定される。

28号配石（第327・349図、PL.126）

位置　Ⅴ区41Ｋ－16グリッド。

重複　なし。

経過　６号列石の前面部分の精査中に検出した、礫をほぼ方形に配した構造である。

平面形状　角礫を含む礫をほぼ方形に配す。礫は27号などに比べ、やや小振りである。内部は礫を含まない土で埋まる。

下部構造　掘方以外､特に掘り込まれた様な落ち込みは、確認できなかった。

主軸方位　Ｎ－31°－Ｗ。

規模　長軸1.60m、短軸1.55m。

遺物　出土遺物は、後期を中心とした土器及び石器である。

所見　構造は27号配石に似ているが、外枠の礫はやや不揃いで、配置もやや乱雑な感じが窺える。周囲にめぐらされた礫はやや小振りで、部分的に途切れている。

内部には小石は見られない。配石の位置は西側に６号列石を挟んで18号竪穴建物の軸線上に位置する。時期は後期に比定される。

29号配石（第327・350図、PL.127）

位置　Ⅴ区41Ⅰ－17グリッド。

重複　なし。

経過　３面掘削作業中に立石頭部を検出、周囲を慎重に掘り下げて全容を確認した。

平面形状　西端に立石を有す。川原石を上面平らに、ほぼ円形ないしは亀甲形に並べる。

下部構造　下部に浅い不定型な土坑が確認されたが遺物は殆ど見られず、埋土も均質である。

主軸方位　Ｎ－107°－Ｗ。

規模　長軸2.32m、短軸2.0m。立石高約0.4m。

遺物　出土遺物は､土器片が僅かに見られたのみである。

所見　西側の６号列石からは、約10m離れて検出された。立石を伴う配石遺構である。他の立石を持つ配石遺構が、立石を取り巻く構造で礫が配置されているのとは異なり、立石からやや離れて複数の礫が面を作るように配置されている。

礫は川原石を主体とし、敷き方は密接せず、やや間隔を置いている。

本址はその東側に立つと、立石を通して、ほぼ弧状に作られている６号・５号・３号列石のほぼ中心線上にあり、その延長線上には、天狗山と呼ばれる山の頂上を望むことができる。

30号配石　欠番（80号竪穴建物張り出し）

位置　Ⅴ区41Ｊ－17・18グリッド。

所見　29号配石の北に確認された、礫がやや間隔を持つＵ字状に配列されていたことから配石遺構として付番した。

比較的大きな川原石がＵ字状に並び、北西側に大きな角礫が埋まり込んだ状況で確認されている。

長軸3.0m、短軸（2.8）m、深さ0.35mの規模で、土器片、石器が僅かに出土。礫を円形に配した配石と考えたが、調査を進める中で、北西側に主体部と考えられる遺構の存在が確認されたことから、柄鏡型の竪穴建物と認定、配石ではなく80号竪穴建物の張り出し部分とし、欠番とした。

31号配石（第327・350図、PL.127）

位置　Ⅴ区41Ⅰ・Ｊ－18グリッド。

重複　なし。

経過　80号竪穴建物の東側、調査区の東端に検出。一部は調査区外に延びるか。

平面形状　偏平な川原石を主体に10個ほどの礫を密接して配す。礫上面をほぼ平らに置いている。

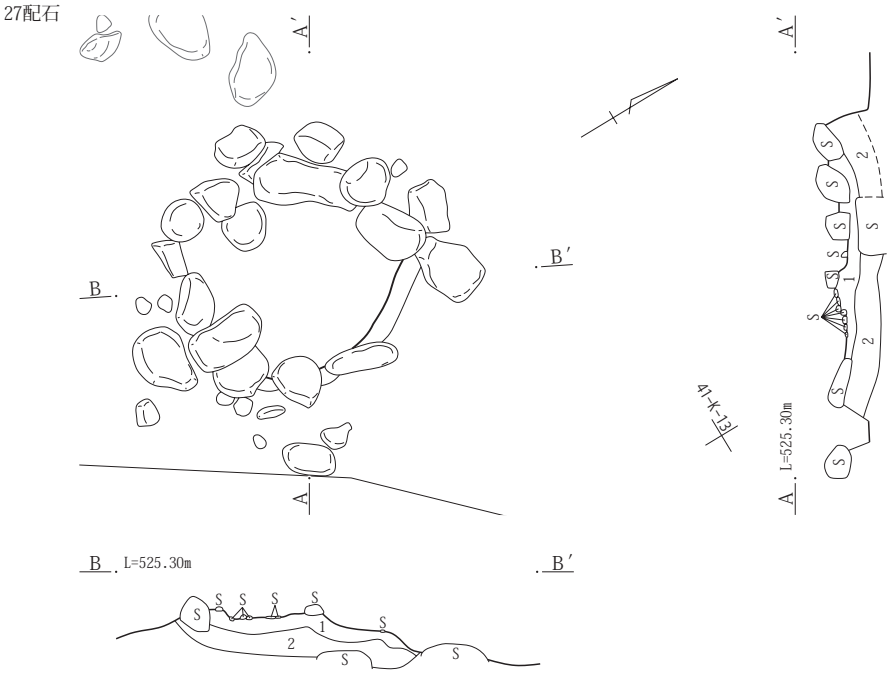
下部構造　土坑等は確認されなかった。

主軸方位　Ｎ－99°－Ｗ。

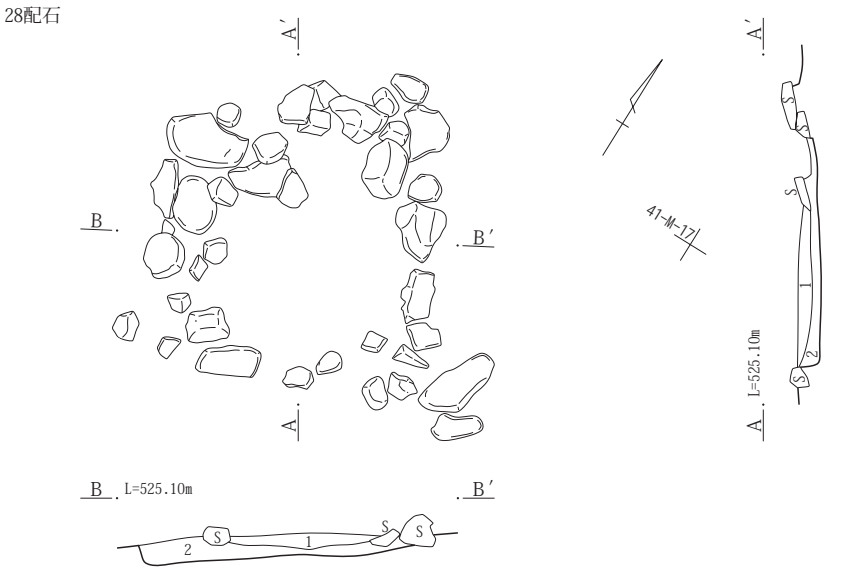
規模　長軸1.10m、短軸1.0m。

遺物　周辺で中期から後期の土器片が出土。

所見　偏平な川原石を主体に10個ほどの礫を密接させ、礫面を平らに配置している。下部に土坑等は確認されなかった。石の置き方は29号配石に似る。遺構はさらに北に延びている可能性がある。



27号配石
1　黒褐色土　小礫（川原石）多く含む粗粒土黒味あり。
2　黄褐色土　黄色粒主体でしまりあり。

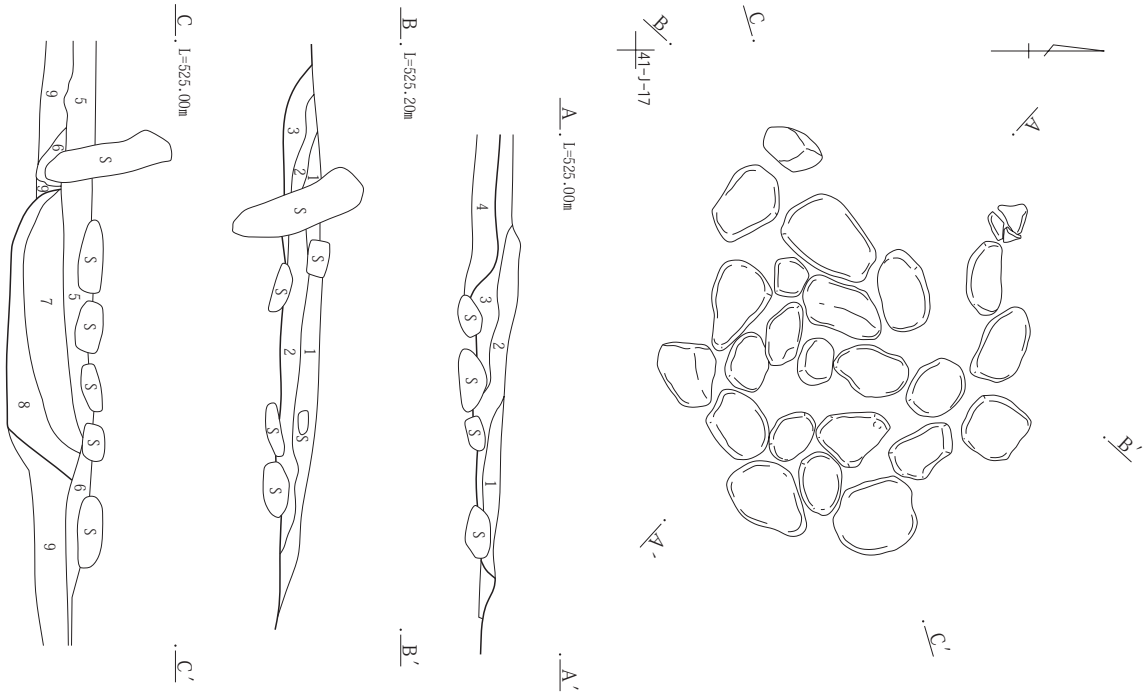


28号配石
1　黒褐色土　炭化物、黄色粒多く含む。
2　暗褐色土　炭化物少なくやや粘性あり。

0　1：40　1m

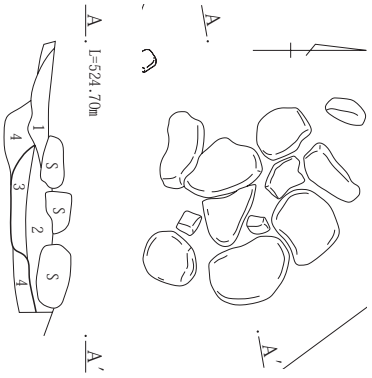
第349図　Ⅴ区配石（14）

29配石



29号配石
1　黄褐色土　黄色粒、若干の炭化物含む。
2　暗褐色土　黄色粒やや少なくやや粘性あり。
3　暗褐色土　２と似るが細流でより粘性あり。
4　黒色土　炭化物多く含む。
5　暗褐色土　細粒で少量の炭化物を含む。
6　暗褐色土　５と似るがやや黒味を帯びるやや粘性あり。
7　黄褐色土　粗粒土主体で粘性弱い。
8　黄褐色土　７と近似するがやや粘性あり。
9　黄褐色土　細粒土、やや粘性、しまりあり。

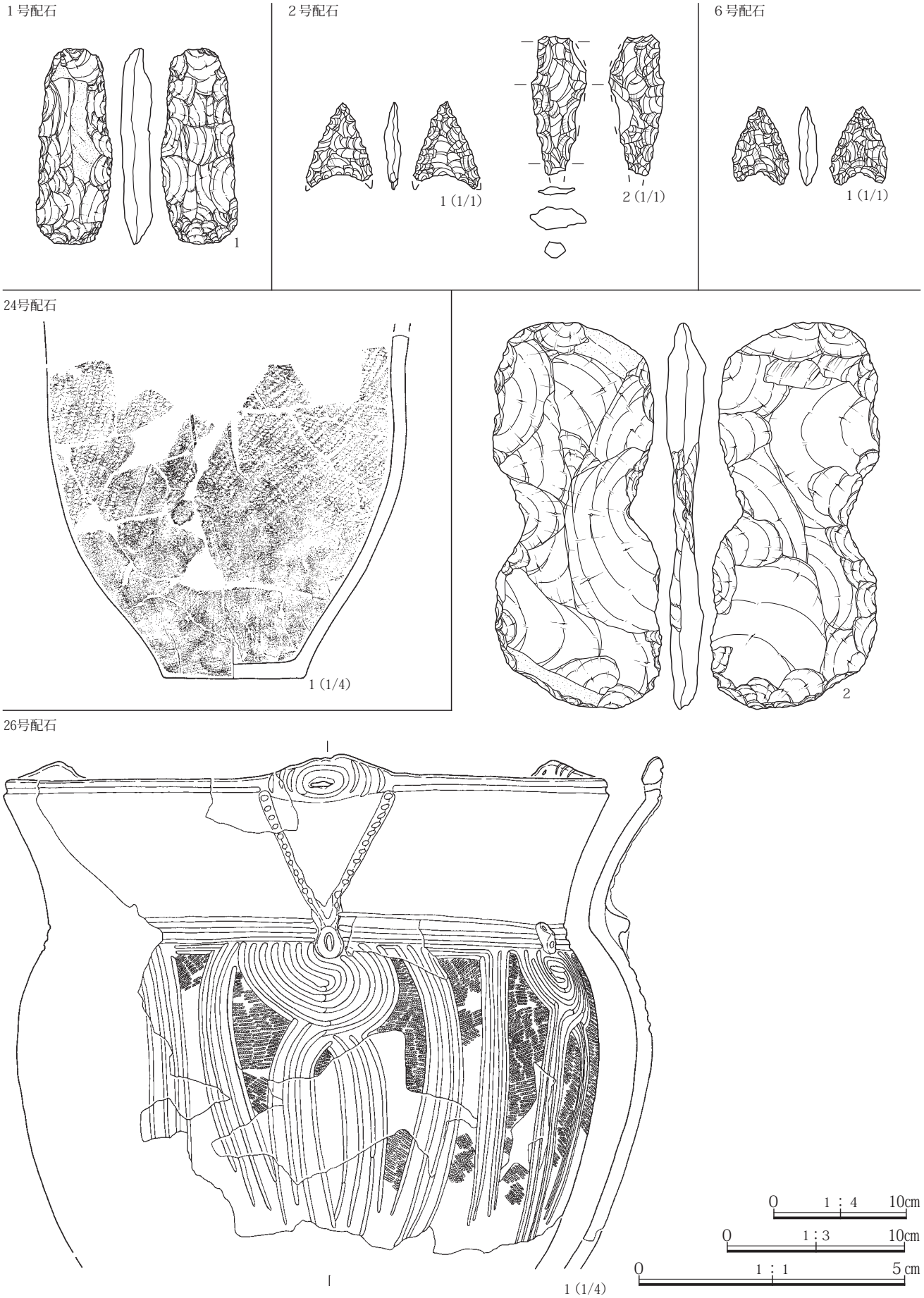
31配石



31号配石
1　黄褐色土　攪乱土。
2　暗褐色土　細粒で若干の小礫混入。
3　暗褐色土　粗粒土、小角礫含む。
4　黄褐色土　３と近似、粗粒土、小角礫含み粘性あり。

0　1：40　1m

第350図　Ⅴ区配石（15）



第351図　Ⅴ区配石出土遺物

（5）配石土坑

本遺跡において検出された配石土坑は２基であるが、１号は長方形の掘方を持ち、壁に礫を立て並べた構造を有すもので、一部に蓋状の礫が据えられている。さらに本遺構の上部には配石が構築されていたことから、関連が窺われ、列石、配石との有機的な関連を考える上でも極めて重要な発見といえるものである。

４号竪穴建物内に重複して検出された11号配石も、同様の遺構であった可能性が高い。

２号配石土坑としたものに関しては、77号竪穴建物内に作られており、掘り込みと周囲に置かれた礫から想定したが、残存状態は悪い。

１号配石土坑（第352・353図、PL.128・207）

位置　41区Ｑ－19・20グリッド。

重複　３号列石の下縁、西側部分の上に２号配石遺構が構築されている。さらに、２号配石の左右にハの字に置かれた大型の礫の配置からも、同時期に構築された可能性が高い。

経過　２号配石下部の断ち割り調査を行ったところ、東側部分の一部に土坑状の落ち込みと、壁に据えられた平石が確認されたことから確認された。

配石下部に掘削範囲を広げ調査を行う中で、蓋石状の平石と掘り込まれた長方形の土坑の両脇に縦に据えられた平石が確認された。

平面形状　長方形の掘り込みと、奥側、両壁に立て並べた平石で石棺状の構造を有す。手前側には石は検出されなかった。壁に立てられた石は一部抜けている部分もある。また、奥側の配石下部にあたる部分に、厚さ４㎝程の平石が置かれており、蓋状の構造を示す。手前側についてはこうした平石は確認されていない。

主軸方位　Ｎ－40°－Ｗ。

規模　長軸1.90m、短軸1.0m、深さ0.40m。

遺物　出土遺物は少ない、後期前半期の土器片が出土している。

所見　北西側半分ほどが、２号配石の下に位置する。

配石下にあたる部分には蓋石状の平石が検出されていることから、下部遺構の保護を意図したものと推察される。

形状はほぼ長方形を呈しており、奥壁、両側壁に石を立て並べた配石墓と考えられる。

深さは約25㎝で、底面には石は確認されなかった。Ⅴ区の配石下で確認された配石墓と考えられる遺構は唯一である。

本址は２号配石の下部に位置。また３号列石の北端寄りにある。４号列石が３号列石につながる部分で、列石の幅が最も広くなっている場所でもある。

列石が東側に僅かに突き出た場所に構築されていた。左右に点在する、他の配石下部にはこうした遺構は確認されていない。

時期は、後期前半期に比定される。

２号配石土坑（第354・355図、PL.129・207）

位置　41区Ｊ・Ｋ－20グリッド。

重複　77号竪穴建物の南西部に重複、本遺構が新しい。

経過　礫が楕円形に配列され、内部に掘り込みが認められたことから、配石土坑とした。最終的に２基の土坑が重複と考えられた。

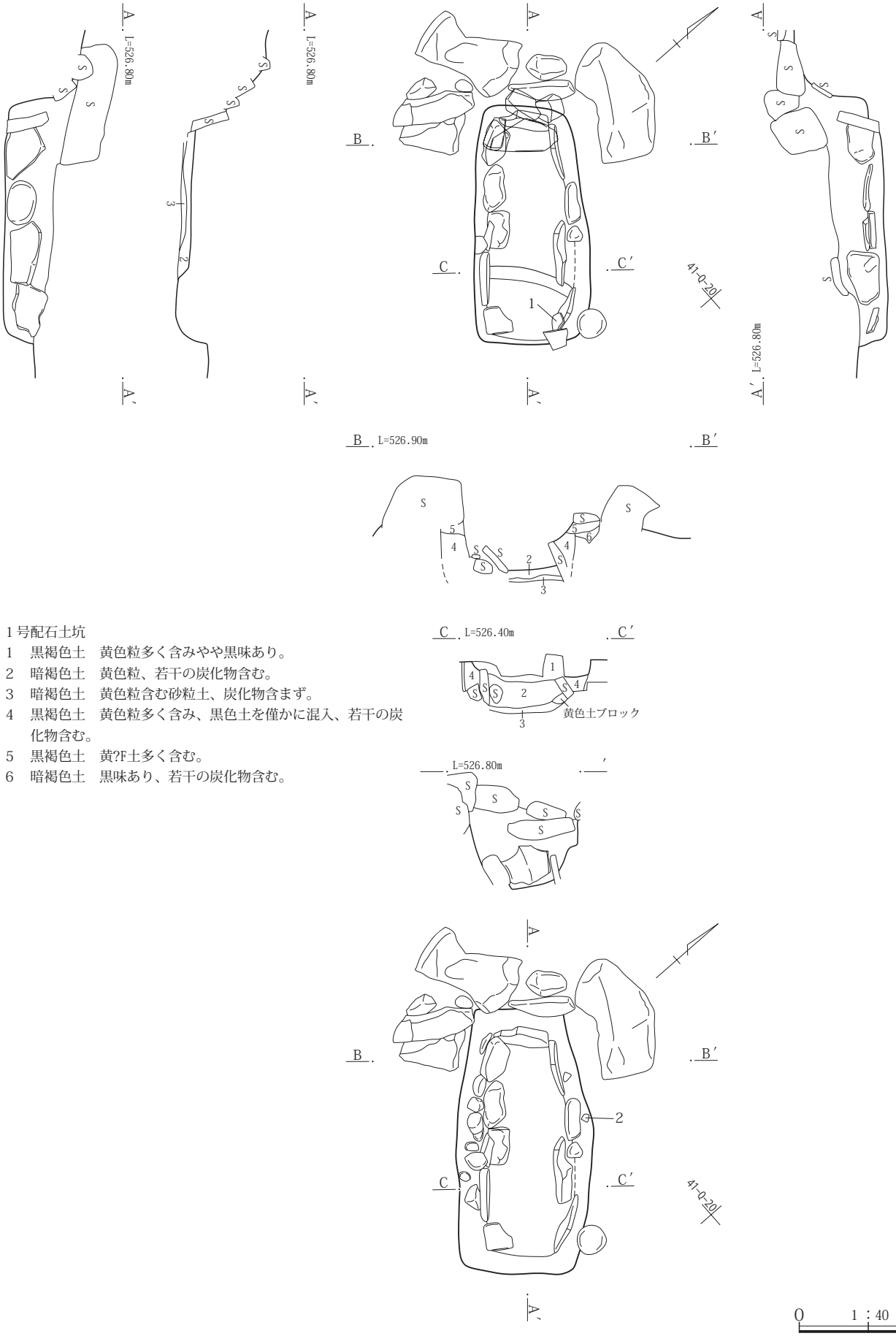
平面形状　長円形、２基の土坑が重複していたことが確認された。

主軸方位　Ｎ－43°－Ｗ。

規模　長軸（1.9）m、短軸1.0m、深さ0.3m。

遺物　後期初頭～前半期の土器片が多く出土している他、石器片も見られる。

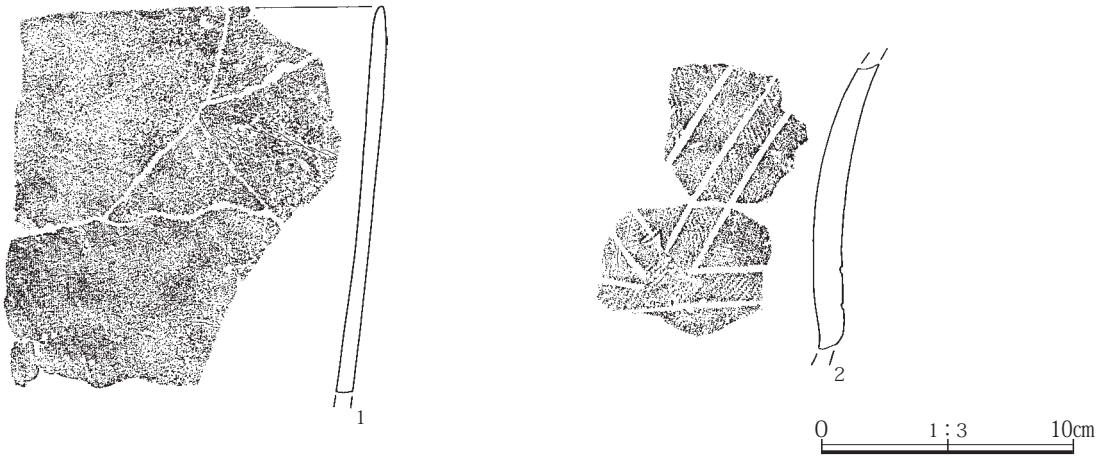
所見　周囲に川原石が矩形に巡ることから、配石墓の可能性を考え調査を進めたが、南東部に円形の土坑が重複し、一部を壊す。このため全様確定には至らず。時期は後期前半か。



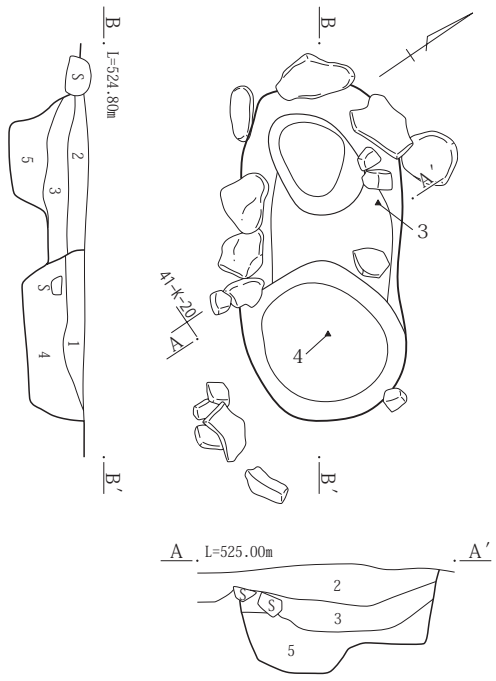
1号配石土坑
1　黒褐色土　黄色粒多く含みやや黒味あり。
2　暗褐色土　黄色粒、若干の炭化物含む。
3　暗褐色土　黄色粒含む砂粒土、炭化物含まず。
4　黒褐色土　黄色粒多く含み、黒色土を僅かに混入、若干の炭化物含む。
5　黒褐色土　黄?F土多く含む。
6　暗褐色土　黒味あり、若干の炭化物含む。

0　1：40　1m

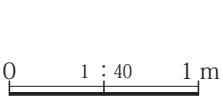
第352図　Ⅴ区１号配石土坑



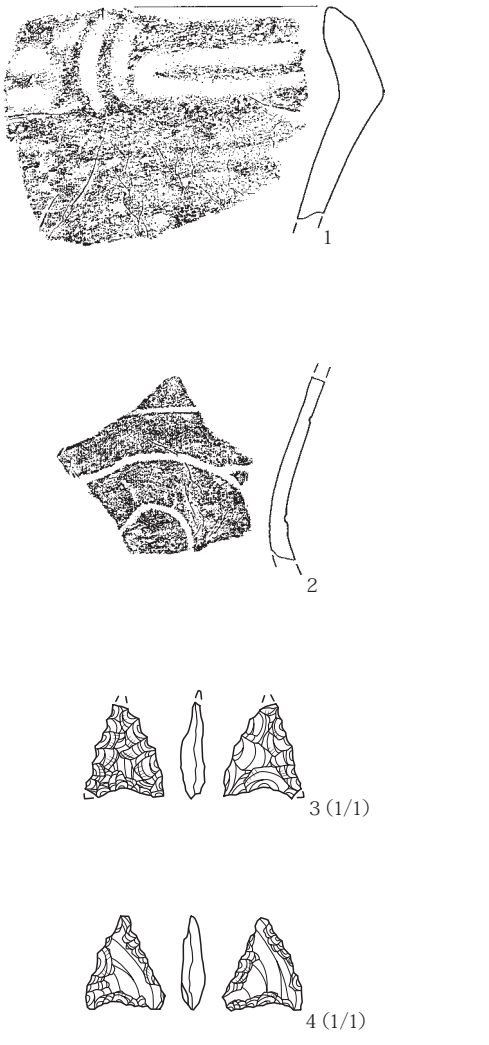
第353図　Ⅴ区１号配石土坑出土遺物



２号配石土坑
1　黒褐色土　黄色粒、小礫多く含み炭化物混入。
2　黒褐色土　小礫、炭化物含み黄色土含む。
3　暗褐色土　黄色土をブロック状に含むやや粘性あり。
4　黒褐色土　炭化物礫を含む。
5　黄褐色土　黄色粘性土主体。



第354図　Ⅴ区２号配石土坑



第355図　Ⅴ区２号配石土坑出土遺物

（6）埋甕

竪穴建物内に付帯する埋甕、および配石等に関連すると思われるものを除き記載。

遺構外出土遺物のうち、比較的大型品について、紛らわしいものも存在するが、明らかに単独埋置されたと考えられるものとした結果､認定した１基のみを記載する。

１号埋甕（第356・357図、PL.129・208）

位置　41区Ｏ－15グリッド、５号と６号列石間に位置。周囲には遺構は見られない。

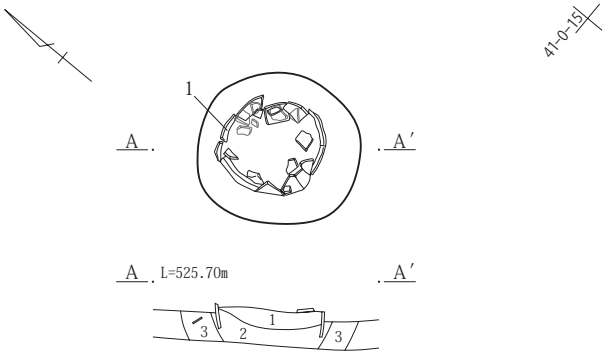
重複　なし。

規模　径（40.0）cm、残高（32.0）cm。

埋没土層　埋甕内には黄褐色土が堆積。若干の炭化物混入する層が確認された。

遺物　深鉢の胴部がほぼ全周、口縁部および胴部過半を欠く。内部から遺物の出土は無い。

所見　単独の埋め甕である。周囲に若干の角礫が見られるのみである。川原石等は検出されなかった。また、焼土なども確認されなかった。浅い掘り込みを伴う。検出時には、破片が内側に落ち込んだ状況が見られた。時期は後期初頭。



１号埋甕
1　暗褐色土　黄褐色で小礫含む、細粒でややしまりあり。
2　黒褐色土　黒味あり僅かに炭化物含む。
3　黒褐色土　砂質で比較的均質。

0　1：30　1m

第356図　Ⅴ区１号埋甕

0　1：4　10cm

第357図　Ⅴ区１号埋甕出土遺物

（7）焼土

調査区内において確認された焼土に関しては、性格不明なものが多く、時期的に新しくなるものも含まれる。また削平された炉の痕跡などが見られる。

以下、焼土として報告するがものに関しては、縄文時代に比定されると考えられるものである。なお、11・12・14号は欠番である。

９号焼土（第358図）
位置　41区Ｓ－11グリッド。
重複　10号竪穴建物。
主軸方位　－。
規模　長軸1.0m、短軸0.80m、深さ0.20m。
遺物　土器片が出土。
所見　不定形な広がりを持ち、中央部にピット状の掘り込み。10号竪穴建物の炉と判断した。

10号焼土（第358・359図、PL. 208）
位置　41区Ｔ・Ｕ－15・16グリッド。
重複　32号竪穴建物。
主軸方位　Ｎ－０°。
規模　長軸0.98m、短軸0.59m、深さ0.16m。
遺物　縄文土器片10点（中期後半～後期前半）が出土したが、ほとんど小破片のため１点のみ掲載とした。
所見　32号建物内にあり、不定型な広がりと土器片が見られた。

13号焼土（第358図）
位置　41区Ｓ－10グリッド。
重複　120号土坑と重複。また１号竪穴建物の張り出し部に重複。
主軸方位　Ｎ－５°－Ｗ。
規模　長軸1.32m、短軸0.90m、深さ0.1m。
遺物　なし。
所見　一部120号土坑（中近世）に切られている。

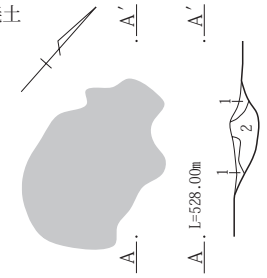
15号焼土（第358図、PL.129）
位置　41区Ｍ－15・16グリッド。
重複　なし。
主軸方位　Ｎ－47°－Ｅ。
規模　長軸1.54m、短軸0.65m、深さ0.12m。
遺物　大型の礫および縄文土器片。
所見　６号列石の西側に検出。長円形に炭化物混じりの焼土範囲が広がり、焼けた角礫がほぼ中央に検出された。焼土はまばらに含まれ、全体にやや汚れた感じであるが、礫の周囲下部において、発色の良い焼土層が厚く認められた。竪穴建物の炉の可能性も考えたが、周囲の状況から単独の焼土遺構とした。出土遺物から時期は縄文時代と考えられる。

16号焼土（第358図、PL.129）
位置　41区Ｍ－13グリッド。
重複　なし。
主軸方位　Ｎ－５°－Ｗ。
規模　長軸2.55m、短軸1.40m、深さ0.22m。
遺物　礫および縄文土器片。
所見　角礫を中心に焼土が不定長円形に広がる。遺物は中央部帯状に見られ、焼土および炭化物もやや多く認められる。周辺部に向かって焼土は薄くなり、外形は判然としない。特に掘方は見られず、礫の配置も企画性は認められない。時期は出土遺物から縄文時代と考えられる。

17号焼土（第358図、PL.129）
位置　41区Ｔ－15グリッド。
重複　32号竪穴建物と重複。
主軸方位　Ｎ－65°－Ｗ。
規模　長軸1.52m、短軸1.0m、深さ0.1m。
遺物　縄文土器片。
所見　32号竪穴建物、121号土坑と重複位置にある。不定形に広がる焼土の中央部が黒く落ち込む。レベル的にはやや下がっており、炉の下部とも考えられるが、前述した竪穴建物、土坑との関連は無いと思われ、新しくなるものと考える。

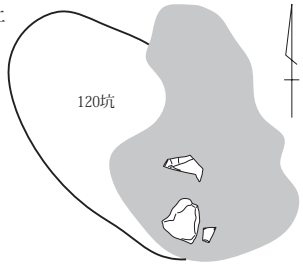
18号焼土（第358・359図、PL.129・130・208）
位置　41区Ｑ－21グリッド。
重複　14・42号竪穴建物。
主軸方位　－。
規模　長軸0.58m、短軸0.5m、深さ0.08m。
遺物　縄文土器片。

10焼土

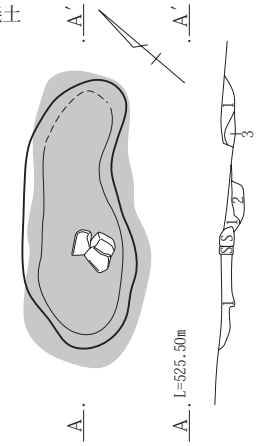


10号焼土
1　にぶい黄褐色土　φ２㎜の灰色パミス焼土粒を含む。
2　暗黄褐色土　岩砕片多く含みしまりあり、若干の焼土粒混入。

13焼土



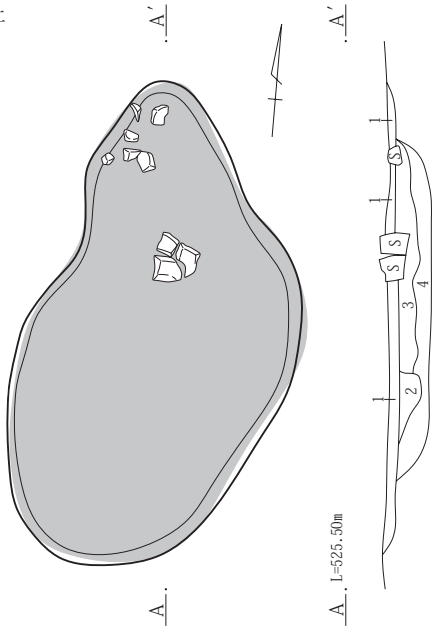
15焼土



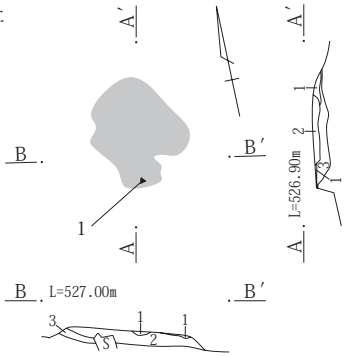
15号焼土
1　暗茶褐色土　焼土、炭化物、小焼骨片含む。
2　茶褐色土　焼土粒、粘質小土塊含む。
3　暗赤褐色土　焼土粒、炭化物含み粘質でしまりあり。

16号焼土
1　赤褐色土　焼土粒、焼土ブロック含みしまりあり。
2　黒褐色土　黒味あり、軟質で若干の炭化物含む。
3　暗茶褐色土　所々に焼土ブロックを認める、しまりあり。
4　黄褐色土　やや色調淡く、焼土化弱い。

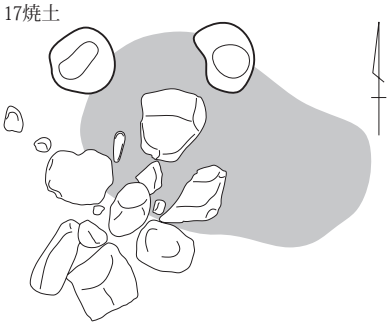
16焼土



18焼土

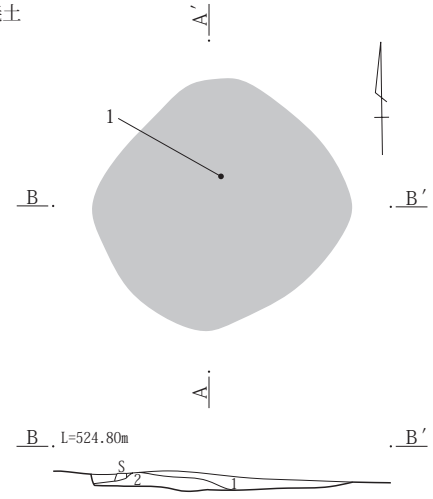


17焼土



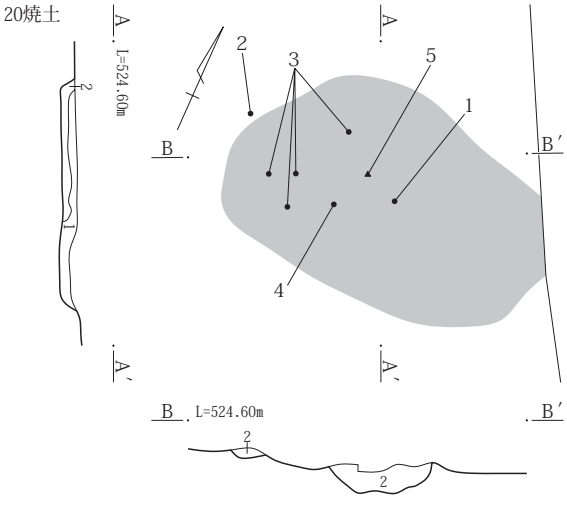
18号焼土
1　赤褐色土　焼土ブロック。
2　灰褐色土　黄色粒多く含む、若干の焼土を含む。
3　灰褐色土　２と同質であるが焼土やや多く含み、しまりあり。

19焼土



19号焼土
1　暗茶褐色土　焼土、炭化物、小焼骨片含む。
2　茶褐色土　焼土粒、粘質小土塊含む。

20焼土



20号焼土
1　赤褐色土　焼土主体で若干の炭化物含む。
2　淡赤褐色土　細粒で焼土多く含む。

0　1：40　1m

第358図　Ⅴ区焼土

所見　14号・42号竪穴建物と重複位置にある。ほぼ円形に広がる焼土が確認された。ブロック状に見られ、あまり発色は良くない。炉になる可能性は低い。

19号焼土（第358・359図、PL.130・208）

位置　41区Ｊ－20グリッド。

重複　77号竪穴建物内。

主軸方位　－。

規模　長軸1.36m、短軸1.30m、深さ0.1m。

遺物　礫および土器の小片が多く出土。

所見　レンズ状に堆積した焼土が隅丸方形に広がる。竪穴建物と重複するが、前後関係は不明である。小焼骨片を含む。

20号焼土（第358・359図、PL.130・208）

位置　41区Ｉ－18グリッド。

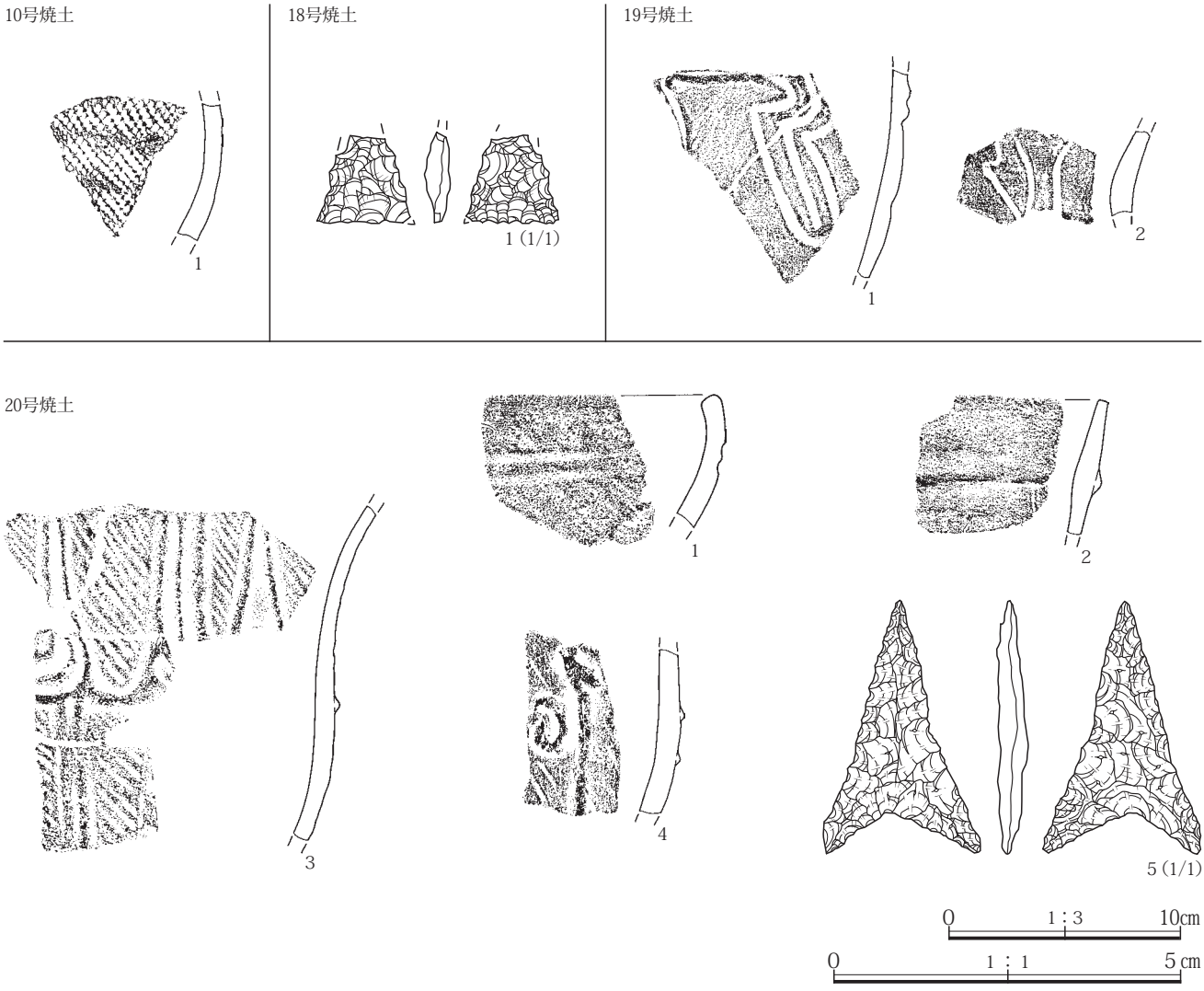
重複　80号竪穴建物の張り出し部を切って構築されている。

主軸方位　Ｎ－72°－Ｗ。

規模　長軸（1.25）m、短軸1.1m、深さ0.15m。

遺物　土器片、石鏃。

所見　長円形に焼土が広がり、ほぼ中央に円形に掘り込まれた土坑が確認されている。土坑上層および上端肩部には焼土が厚く認められた。炉石等は認められなかったが、炉の下部残存の可能性が高い。竪穴建物としては確認できなかった。



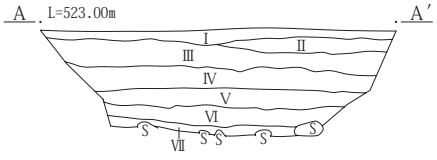
第359図　Ｖ区焼土出土遺物

２　Ⅵ区から発見された遺構と遺物

Ⅴ区の北東に位置するⅥ区については、１面とした天明泥流面で検出した畑、および２面の調査で検出した土坑、ピットについては、東宮遺跡（４）において報告を行っている。

３面以下の調査は、トレンチによる遺構の確認を行った。調査の結果、３面での遺構は確認されず、４面において集礫が確認された。人頭大の礫を中心にやや高まりを持った集石である。

出土遺物は中期の土器片が見られた。



１号トレンチ
Ⅰ　暗褐色土　φ２～10㎜の灰白・褐色・明褐色パミスを含む。粘性あり。
Ⅱ　明褐色土　Ⅰに近似　黄味が強い。
Ⅲ　灰黄褐色土　灰白・褐色・明褐パミス含む。炭化物・砂岩質の礫が点在、やや粘性あり。
Ⅳ　灰黒褐色土　φ２～５㎜の褐色・灰白色パミスを含む。粘質土。
Ⅴ　暗褐色土　φ２～10㎜の灰白・褐色パミスを含む粘質土。粘性締りあり。
Ⅵ　黒色土　φ２～３㎜の灰白・褐色パミスを少量含む粘質土。
Ⅶ　灰黄褐色土　大小の集積礫（川原石）面を埋める。やや粗粒の砂質土。

0　1：100　5m

第360図　Ⅵ区トレンチ配置図

３　Ⅴ・Ⅵ区遺構外出土遺物

調査区内においては､数多くの遺構外遺物が出土した。時期の異なる遺構の重複により、帰属遺構の判定が極めて困難な遺物も多く、遺構外とせざるを得ないものが多数存在する。また、調査時には遺構と認定したものの、その後の精査において欠番とした遺構も多く、これらにおいて出土した遺物については、遺構外出土遺物として扱った。

本節ではこうした遺構外出土土器について概観しておきたい。

（１）土器（第362～391図、PL.208～228）

東宮遺跡で出土した土器のうち約７割を超えるものが遺構外出土遺物である。これらの土器については、時期的に遺構との齟齬は見られず、中期後半から後期前半期のものが大半を占めている。

以下に出土した土器をⅠ～Ⅵ期に分類し､概要を記す。

Ⅰ期　中期後半に比定されるものである。加曾利Ｅ３式期に比定されるもので、口縁部楕円文、体部には垂下沈線による縦位区画による縄文帯を構成、蕨手文などの垂下沈線文を伴うものも見られる。

また同期の信州系の土器も見られ、隆帯および斜位沈線の充填文で飾る。

Ⅱ期　中期末葉に比定される。加曾利Ｅ４式期に相当する一群の土器である。遺構数は少ないが、調査区内に点在して確認された。土器は口縁部文様が失われ、胴部文様とつながる上下文様が主となる。

Ⅲ期　後期初頭、称名寺式期１式および２式期の土器群である。１式期の土器は沈線による縦位懸垂文、渦巻文を描き、口縁部に突起を有すものも多い。新潟地方の土器である、刺突文文様を特徴とする三十稲場式土器なども混在する。

Ⅳ期　後期前半期の土器群である。形式としては堀之内１式、２式期に比定される。これらの時期の遺構も最も多く確認されており、本区における列石、配石を構築する主体的な時期といえる。遺構の重複（建て替え）も多くみられる。

口縁部に突起、刺突文、沈線を有し、複数沈線による垂下文様を描くものや、縄文地文に曲線文様を配すものなどが見られる。また口縁部に横位刻み隆線と、８字状添付文、胴部に沈線による幾何学文様を描くものが多く見られる。

また、磨り消し文様を多く描く注口土器は口縁部に一対の把手を有し、動物意匠文などが見られる。

Ⅴ期　後期中葉、加曾利ｂ１式期に比定される。量的には少なく、遺構に関してもあまり多くは見られないものの、西側部分においては遺構に伴うものも確認されている。

調査区の上位部分、３号列石周辺に多く出土が見られる傾向が窺え、土坑なども複数が点在する。

遺構の時期が標高の高い方向へ行くほど、新しくなってゆく傾向と合致する。

Ⅵ期　弥生時代中期前半～中葉に比定されるもの。

この時期に比定されるものについては、数点のみである。遺構については確認されなかった。中期前半期に比定される甕の口縁部片で、沈線による変形工字文、三角文を描くもの、また口縁部に刻みを有し、胴部内外面に縦位の刷毛目を施すものがあり、後者は北陸系のものと思われる。

（２）石器（第392～399図、PL.229～232）

石器は総数1,400点以上が出土。すべてを図化するにはいたらなかった。

器種は石鏃、石錐、打製石斧、磨製石斧、磨石、凹石、石皿､石棒､装身具類である｡石鏃は出土点数が最も多く、無茎石鏃がほとんどであり、有茎のものはほとんど見られない。石材は黒曜石が最も多く、次いでチャート、黒色安山岩、黒色頁岩などである。ごく少数であるが、局部磨製鏃も見られる。

石錐は摘みを有すものと、棒状のものに大別でき、不定形品も見られる。

打製石斧の出土も多く、短冊型、撥型、分銅型が見られる。大きさは長さ10～15㎝のものが主対を占める中、

土掘り具である20㎝を超える大型品も少数ながら出土している。

磨製石斧は小型品も見られるが、10㎝前後の中型品を中心とする。小型品は定角式を主体にする。また欠損品が半数以上を占めており、刃部片も多い。

磨石、凹石については最も多くみられる器種である。川原石を利用し、両面を使用面としているものが多く、極めて平滑な状態の使用面が残るものが多い。

また、磨り面に浅いくぼみを有すものが多く、両面に１対ずつ穿たれているものが多い。被熱しひび割れたものも多く見られる。細長い形状のものは、凹穴が深い傾向が見られる。こうした磨石、凹石類に関しては、竪穴建物からも多く出土している。

やや大型の円礫の平面を使用したものも見られ、いわゆる台石類も出土している。

磨石とセット関係である石皿の出土も多くみられるが、欠損品が多い。

石錘の出土も注目される。遺構外出土遺物としては２点であるが、後期前半期の竪穴建物からも４点の出土が見られる。

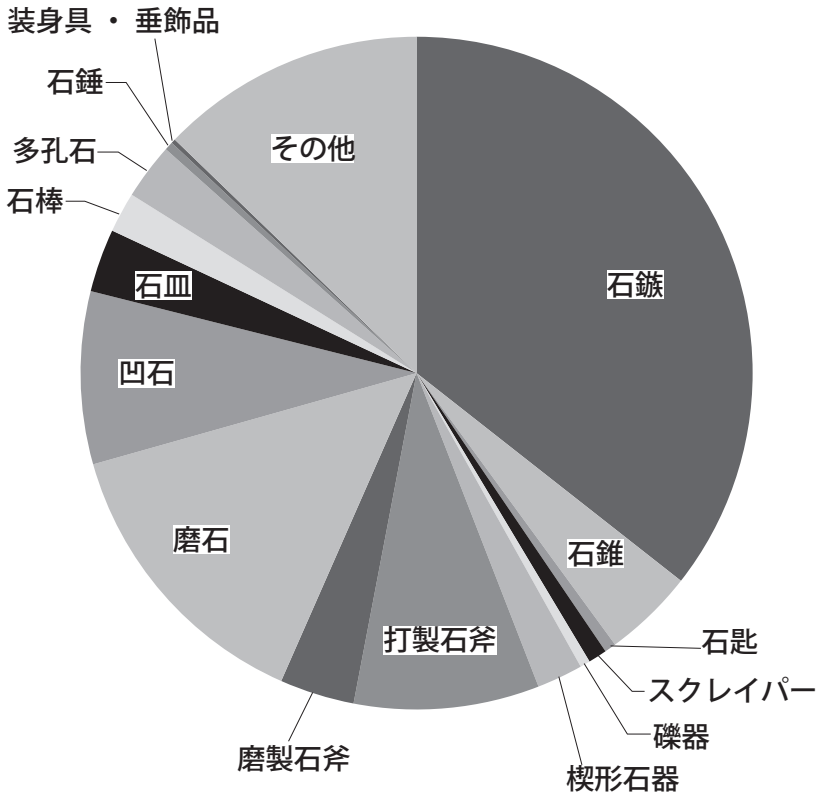
形状は長さ数㎝の楕円形小礫の両端部に、紐掛け用の切込みを作出する。切込みは磨り切りによるものの他、打撃により作り出しているものもある。ちなみに、紐掛け用の溝が十字に切られ、中央に穴が穿たれた土錘も１点出土している。

石棒類は極めて小型のものから大型品まで、規格にばらつきが見られる。また形状も有頭のもの、棒状のものがあり石材は緑色片岩製が多い。

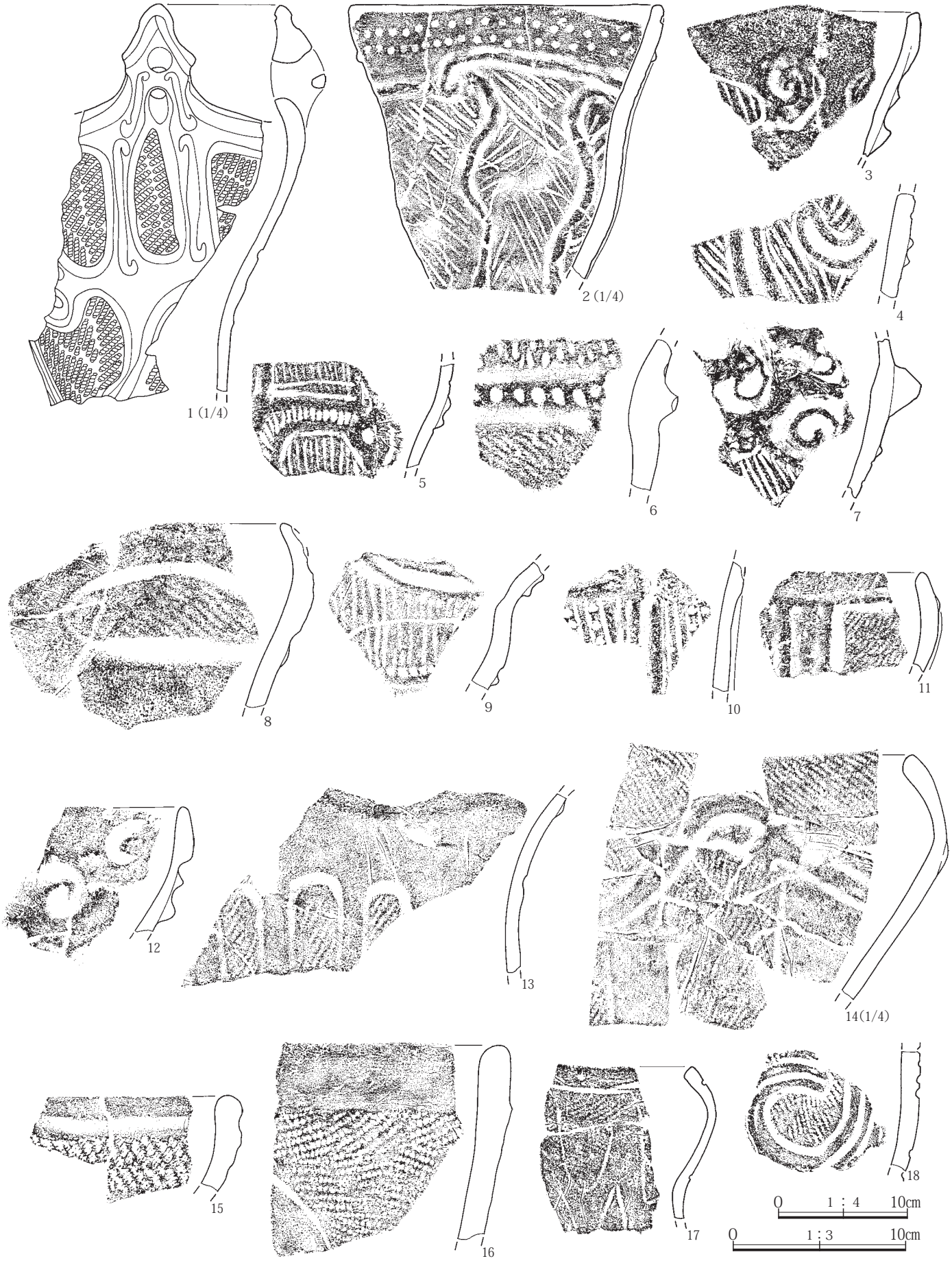
大型品についてはデイサイト、珪質頁岩、輝石安山岩製などが石材として用いられ、これらも欠損したものが多く、一部に被熱したものも見られる。

多孔石は不定形な自然礫を利用し、１面ないしは複数面に逆円錘形の穴を複数穿つものである。

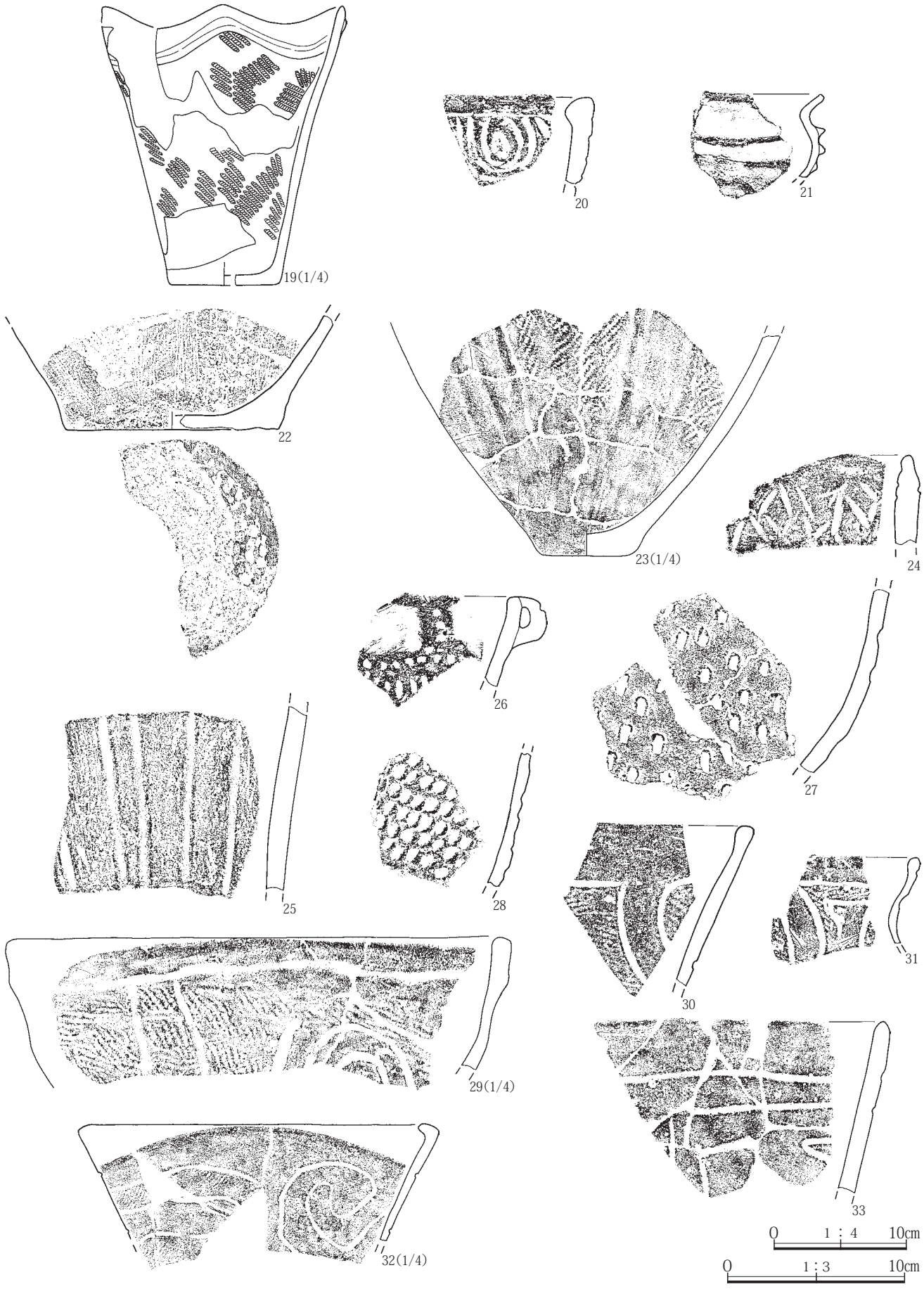
装身具は、遺構外より２点のみの出土で、勾玉状を呈し、円孔を持つ。石材は葉ろう石、蛇紋岩が用いられている。



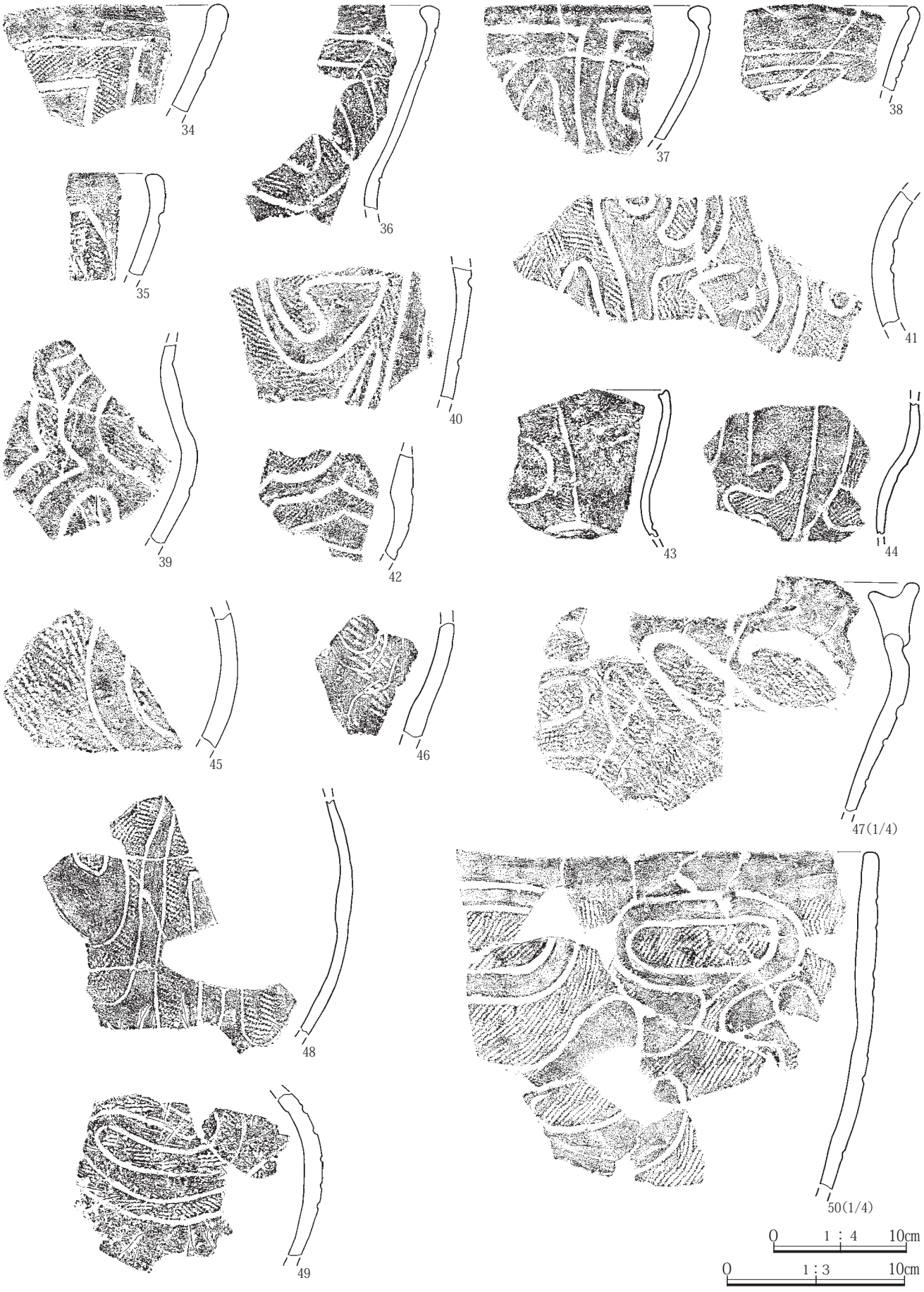
第361図　Ⅴ区出土石器組成図



第362図　Ⅴ区遺構外出土遺物（１）

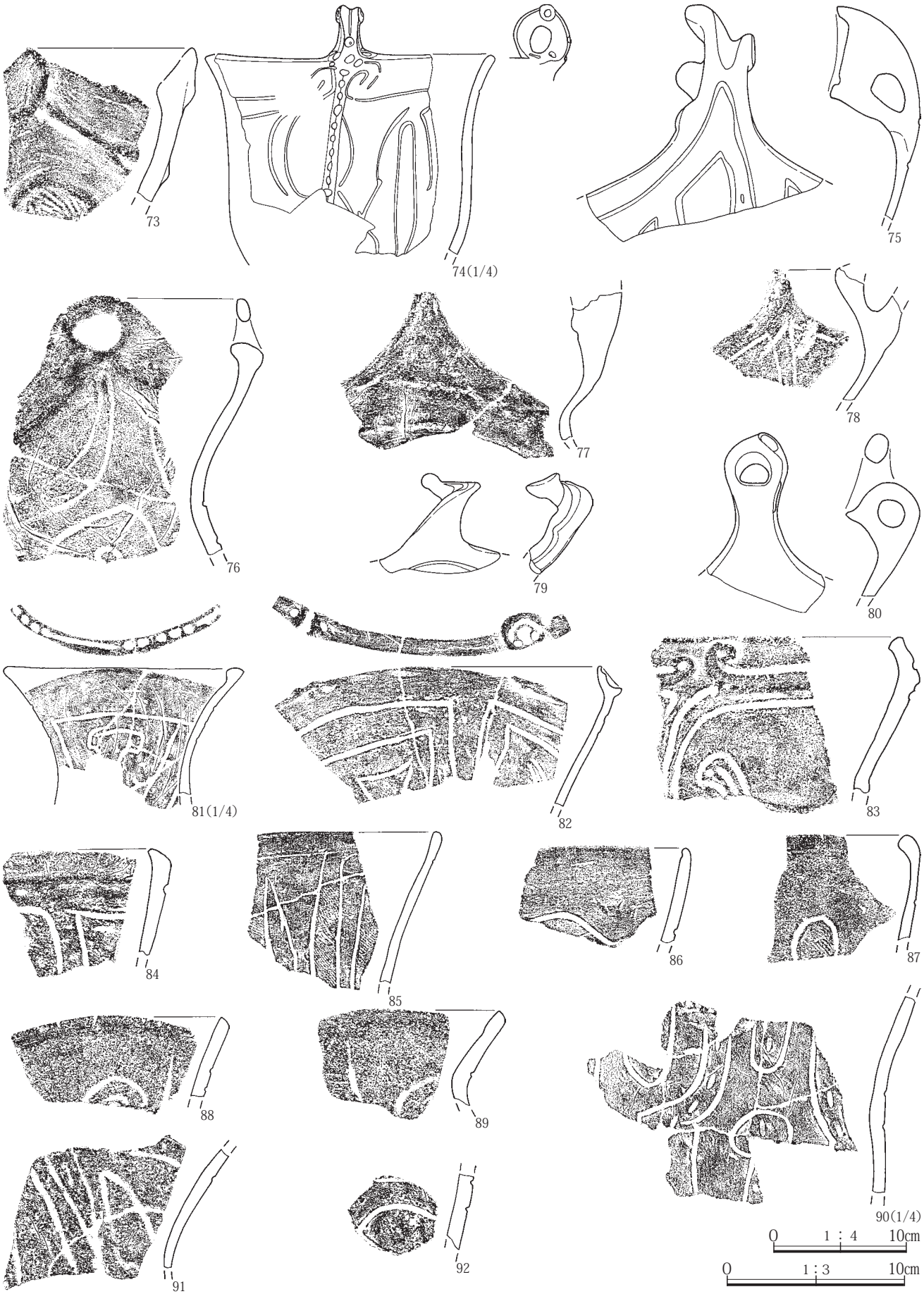


第363図　Ⅴ区遺構外出土遺物（２）



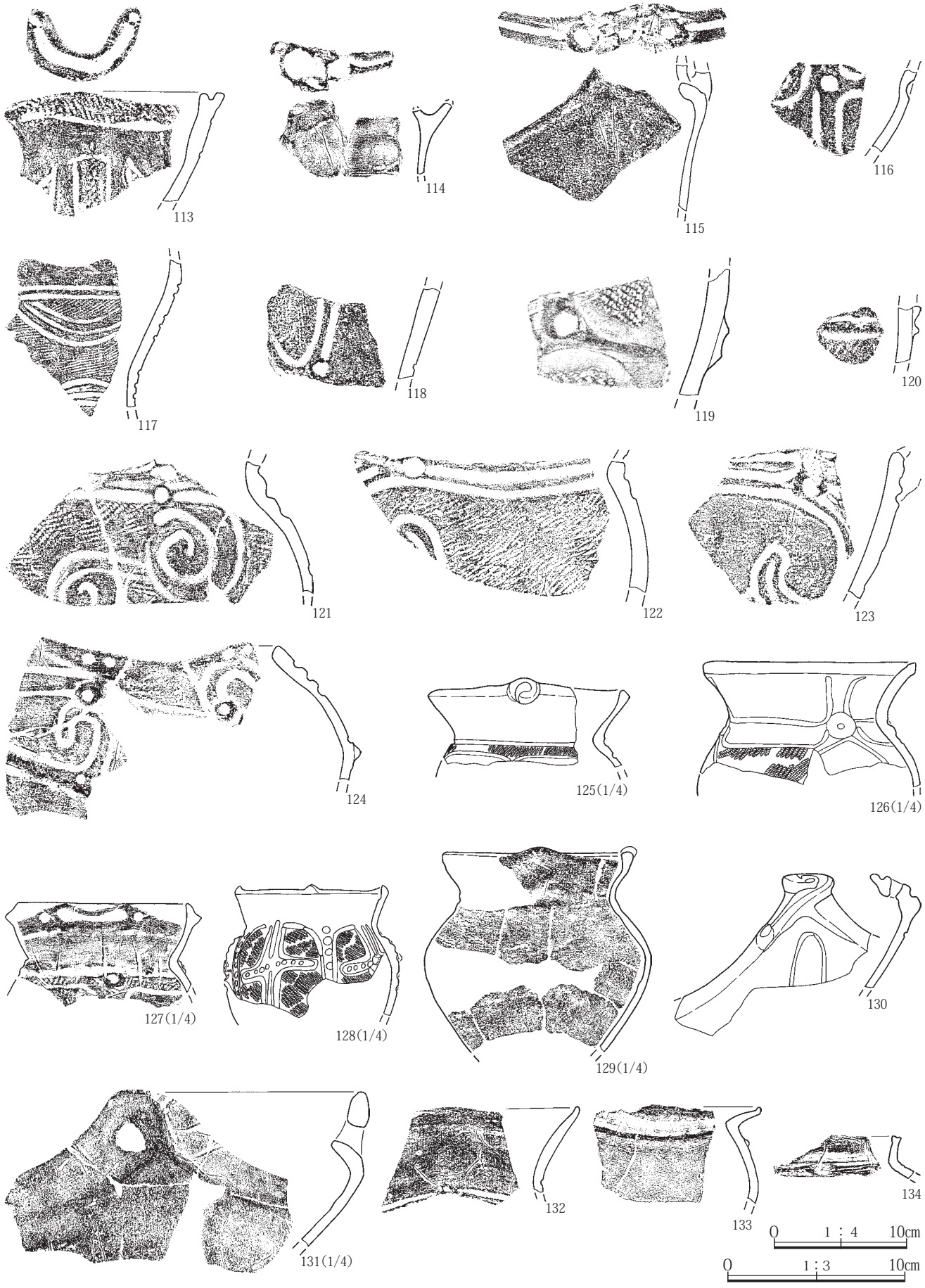
第364図　Ⅴ区遺構外出土遺物（３）

第365図　Ⅴ区遺構外出土遺物（４）

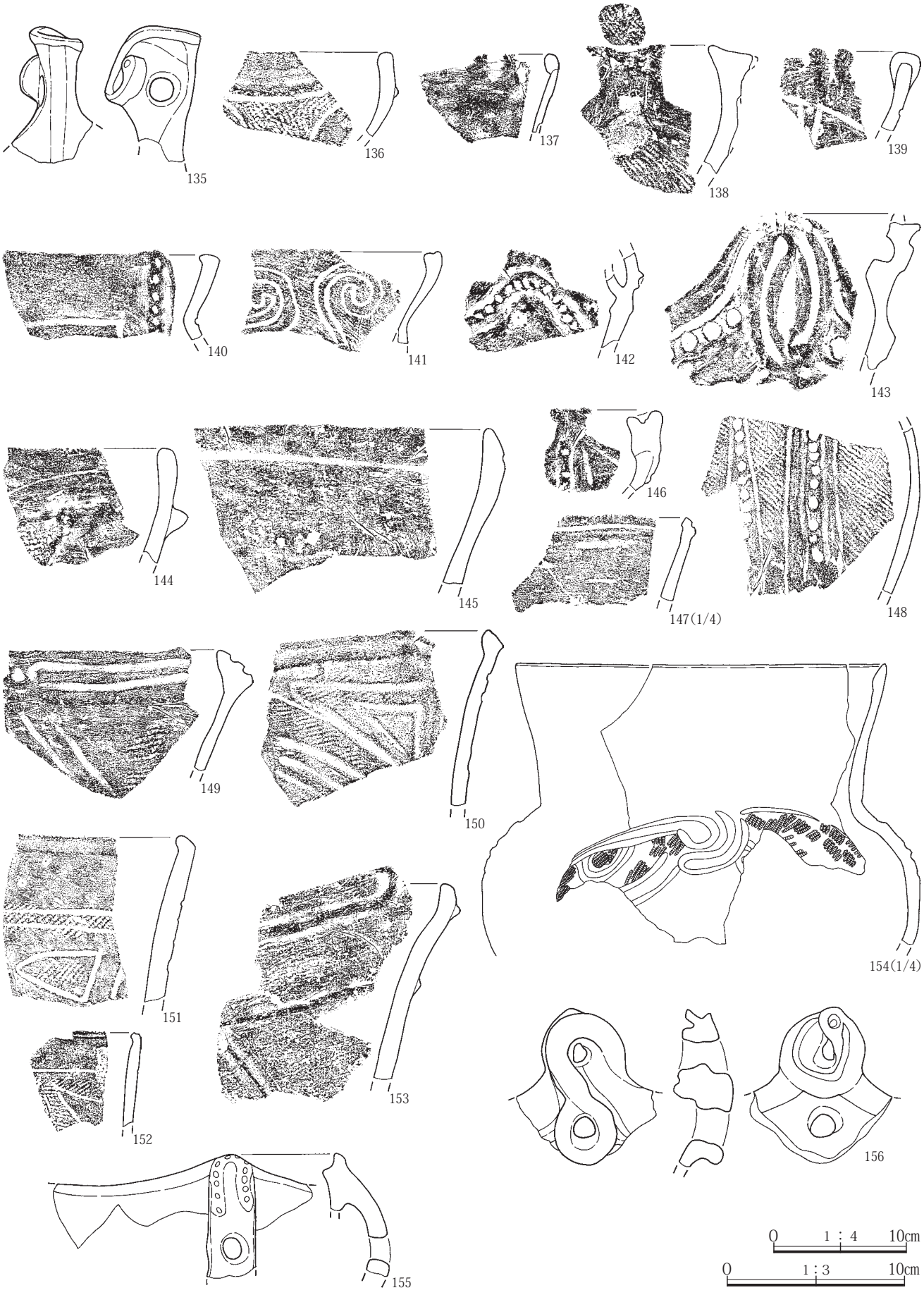


第366図　Ⅴ区遺構外出土遺物（５）

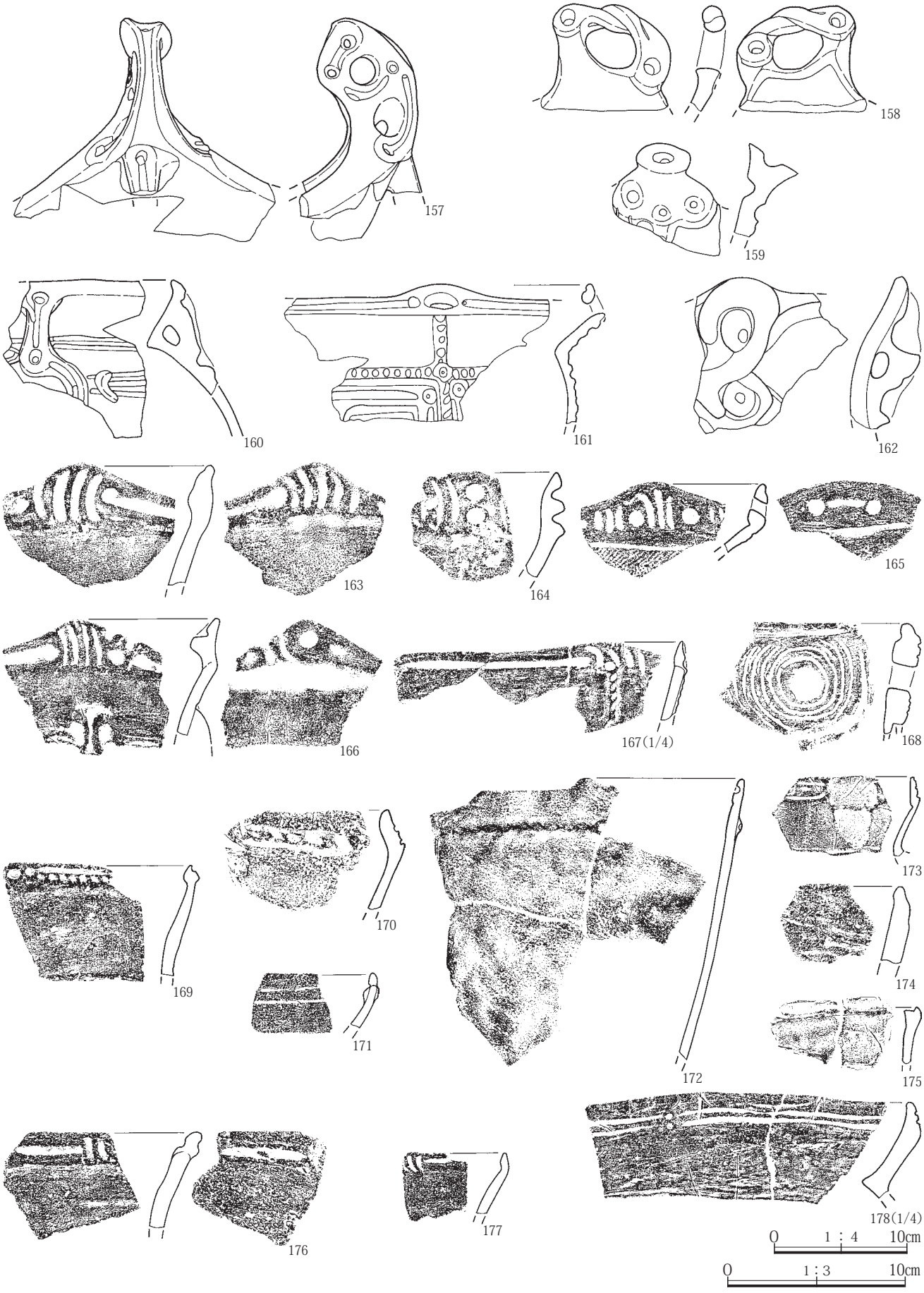
第367図　Ⅴ区遺構外出土遺物（６）



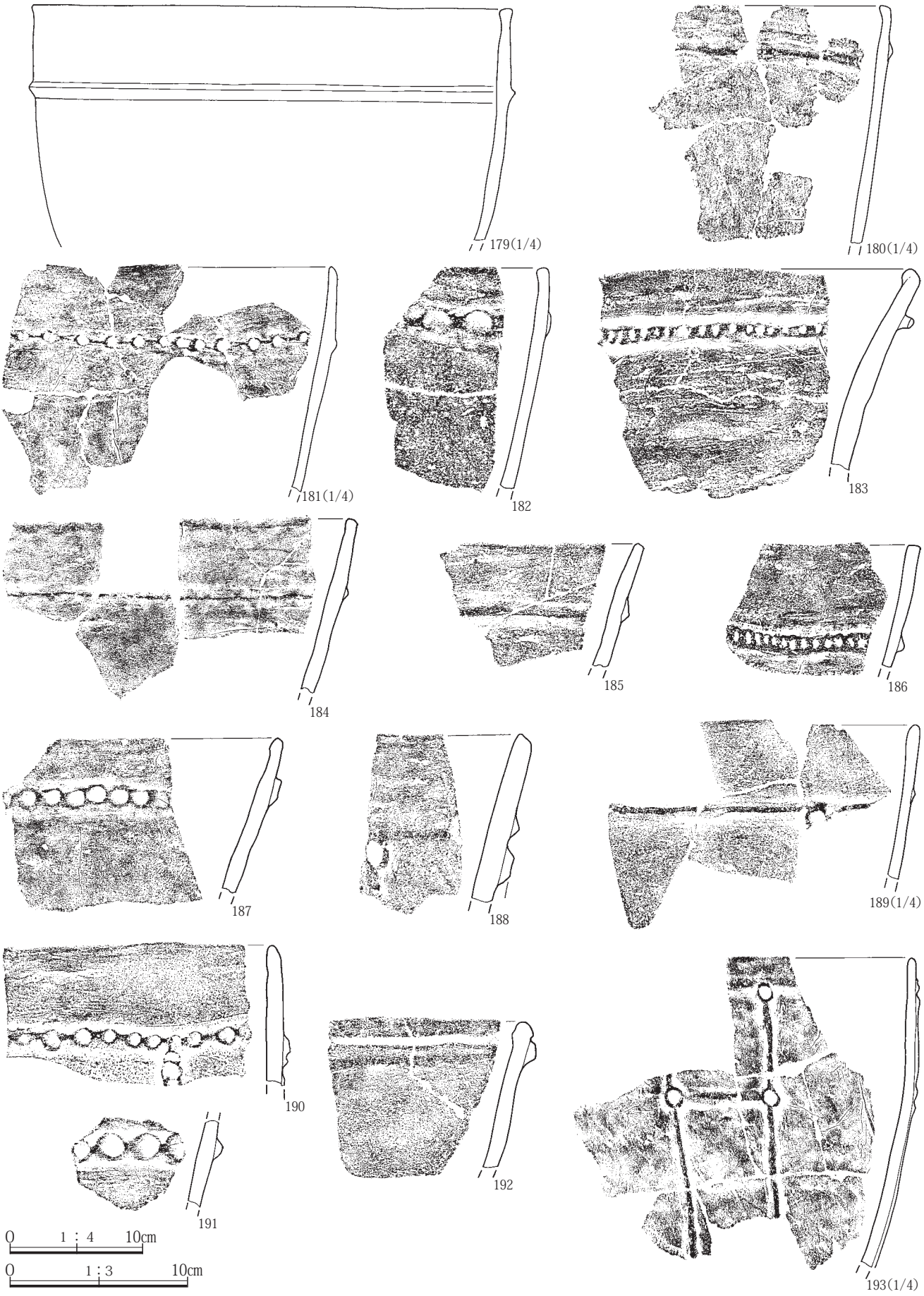
第368図　Ｖ区遺構外出土遺物（７）



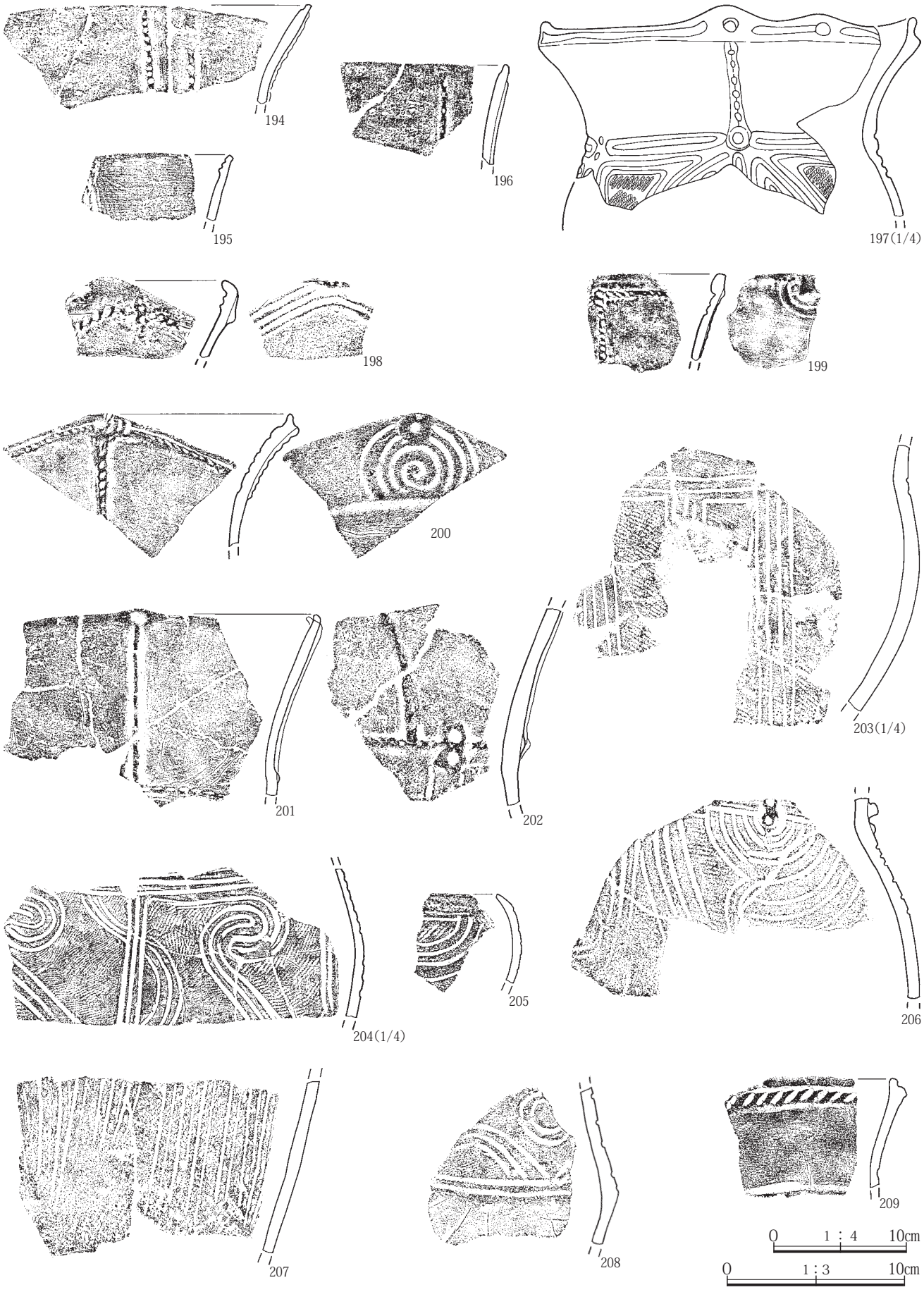
第369図　Ⅴ区遺構外出土遺物（８）



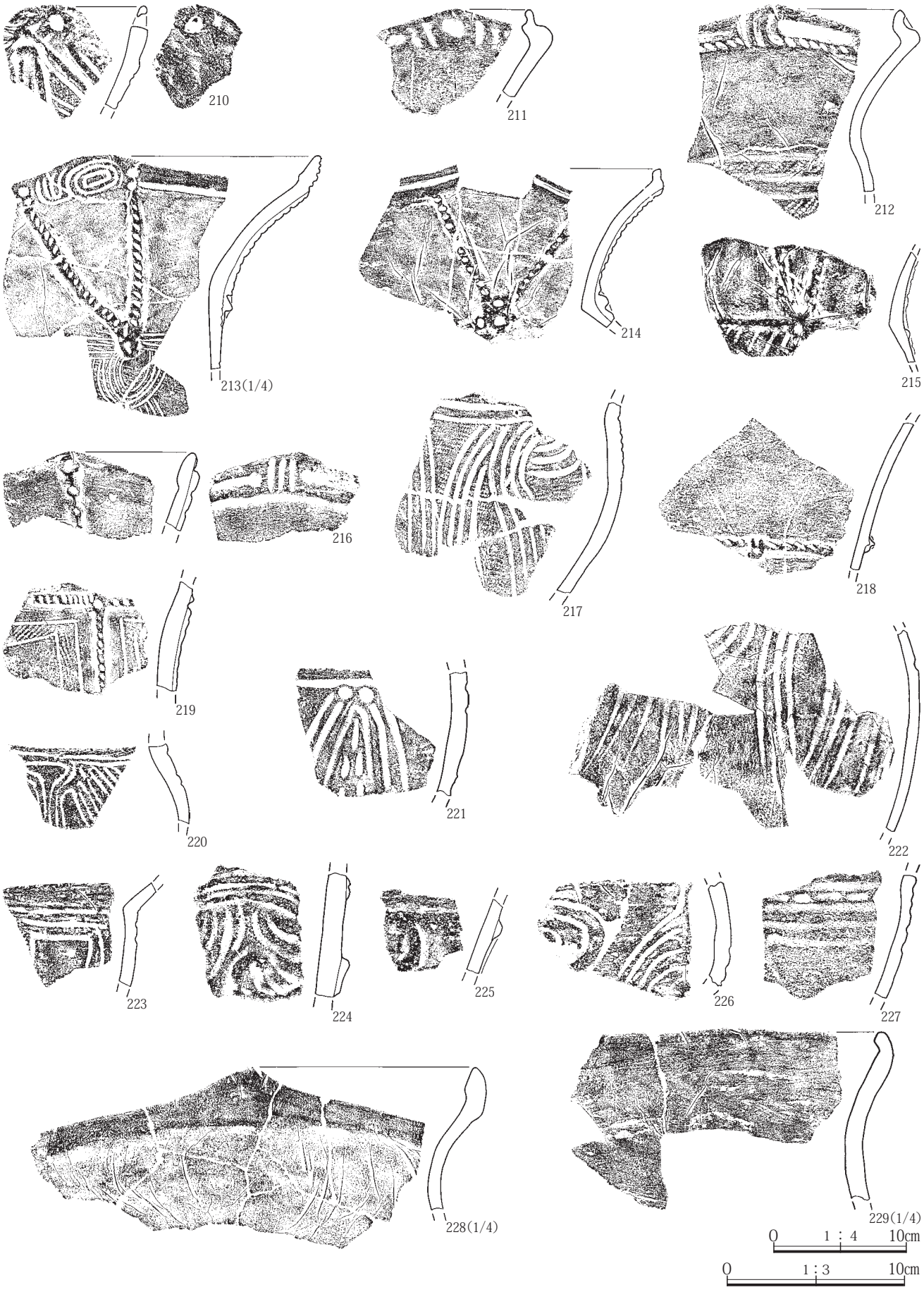
第370図　Ｖ区遺構外出土遺物（９）



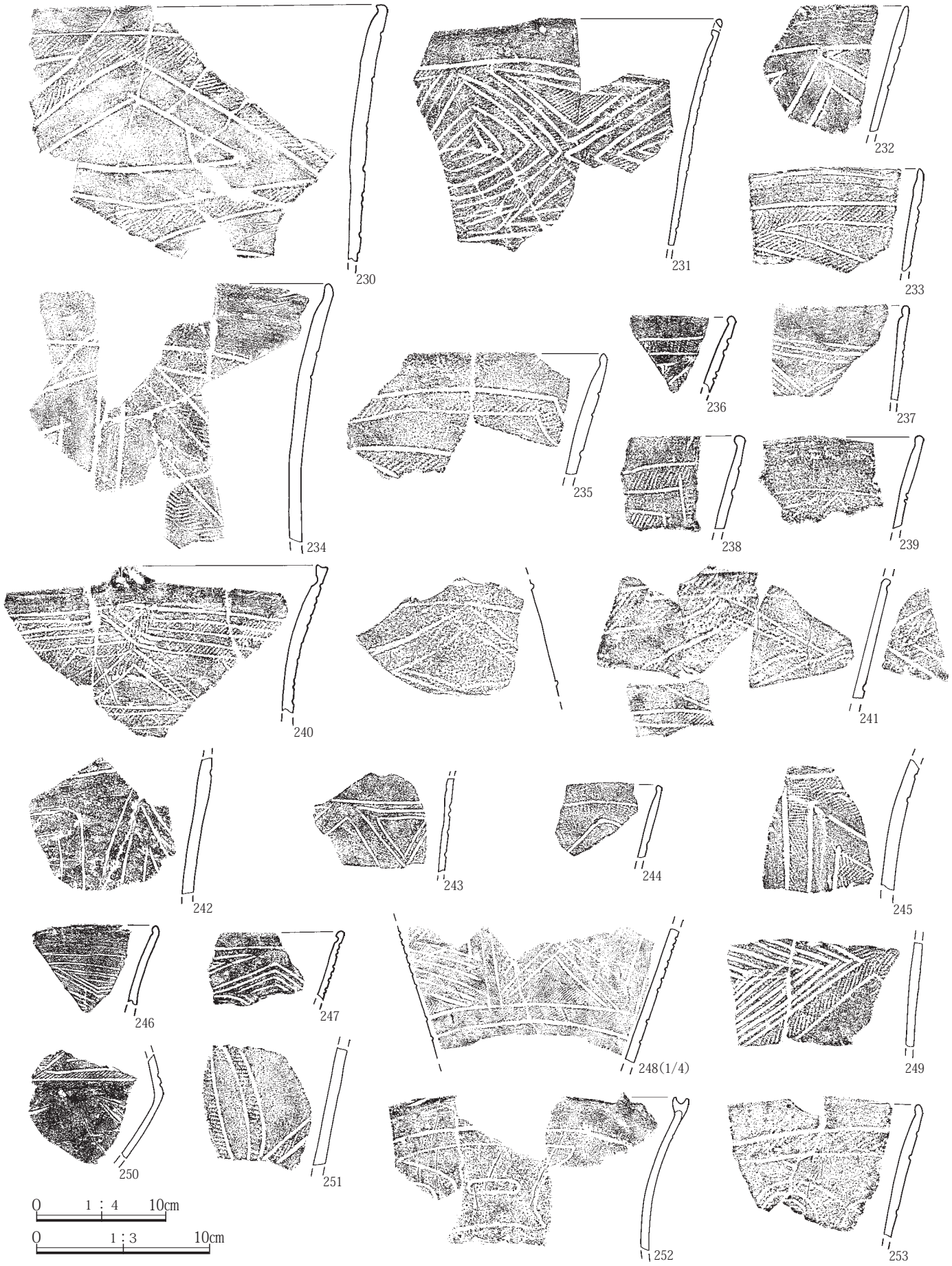
第371図　Ⅴ区遺構外出土遺物（10）



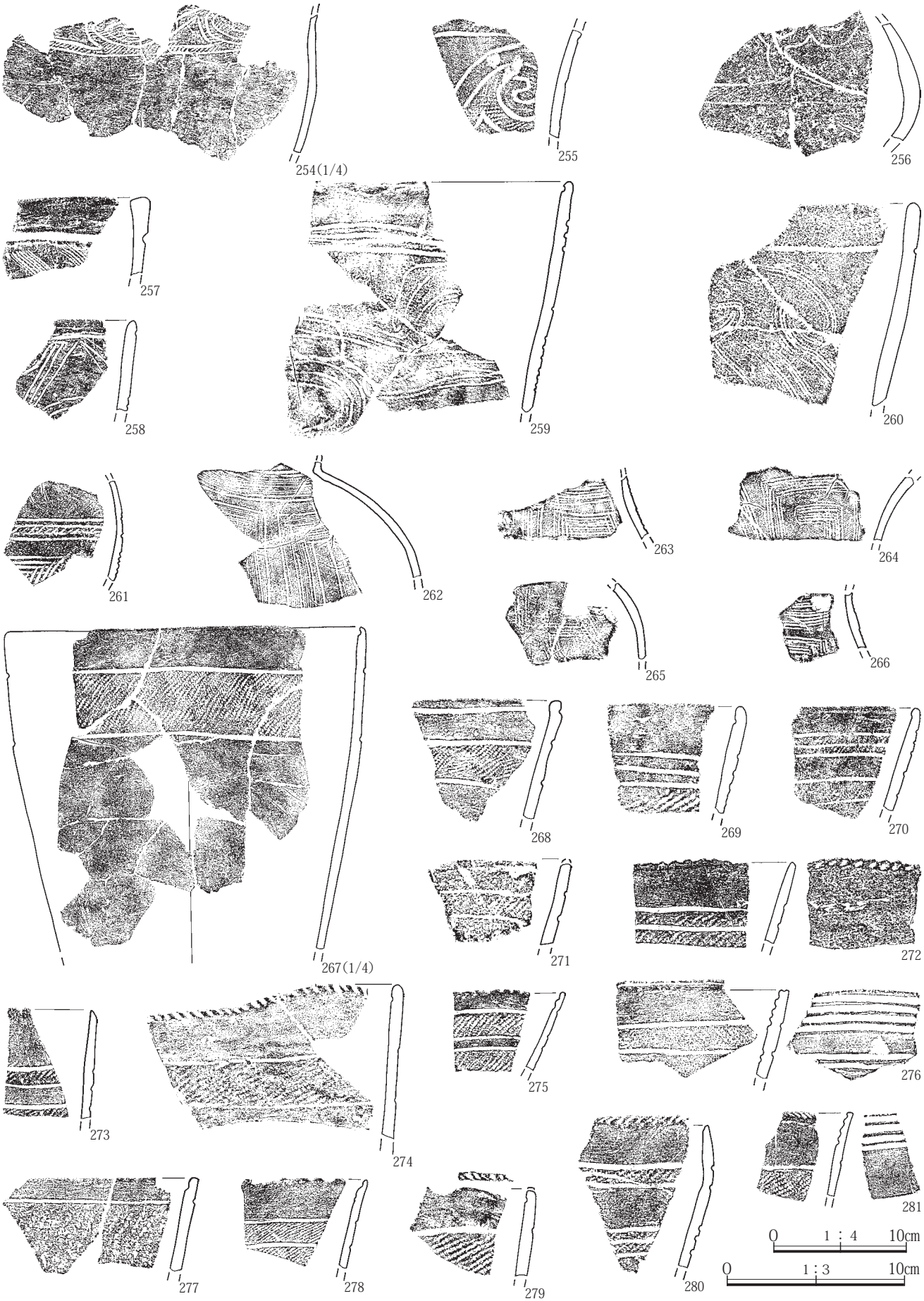
第372図　Ｖ区遺構外出土遺物（11）



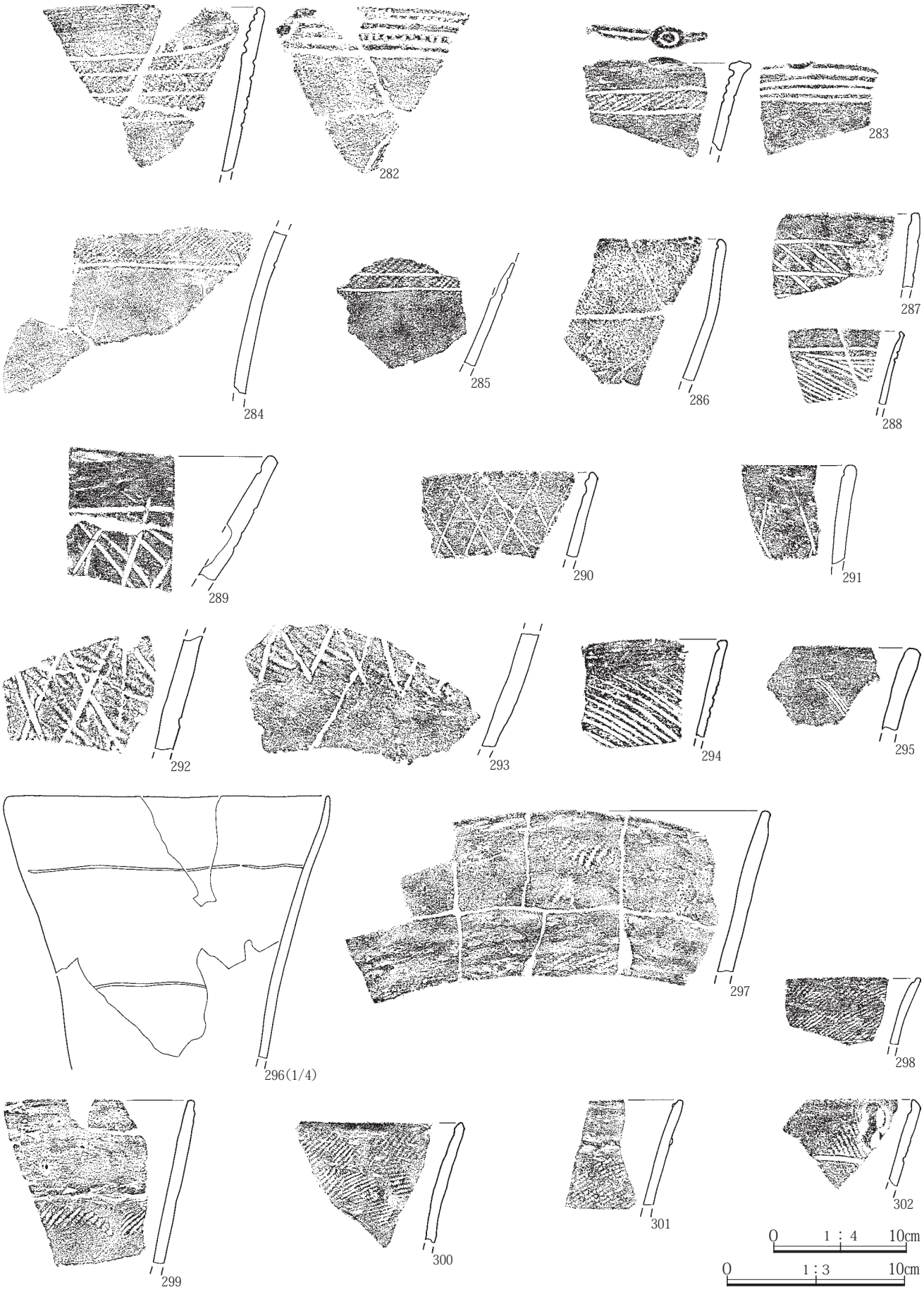
第373図　Ⅴ区遺構外出土遺物（12）



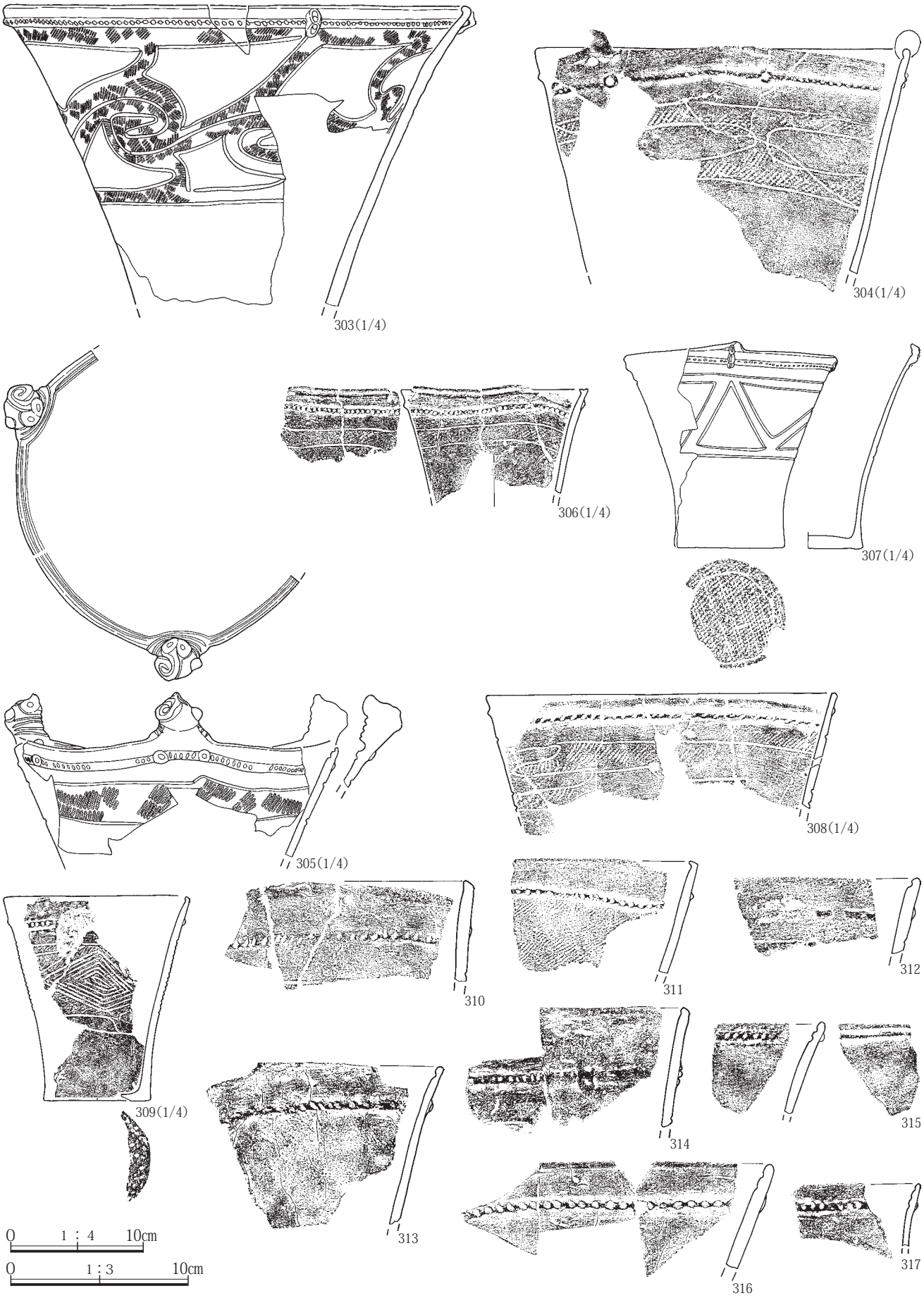
第374図　Ⅴ区遺構外出土遺物（13）



第375図　Ⅴ区遺構外出土遺物（14）

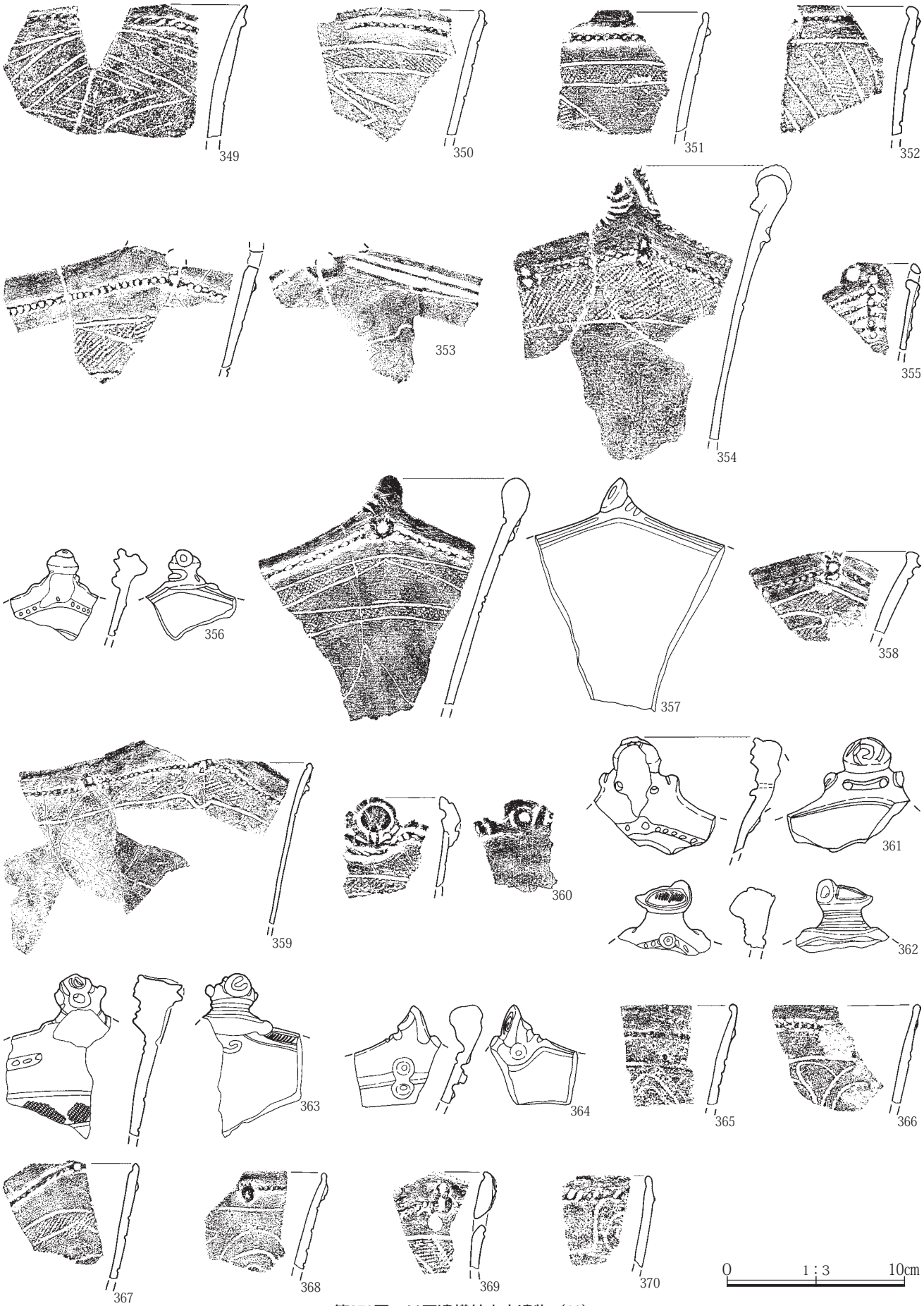


第376図　Ｖ区遺構外出土遺物（15）

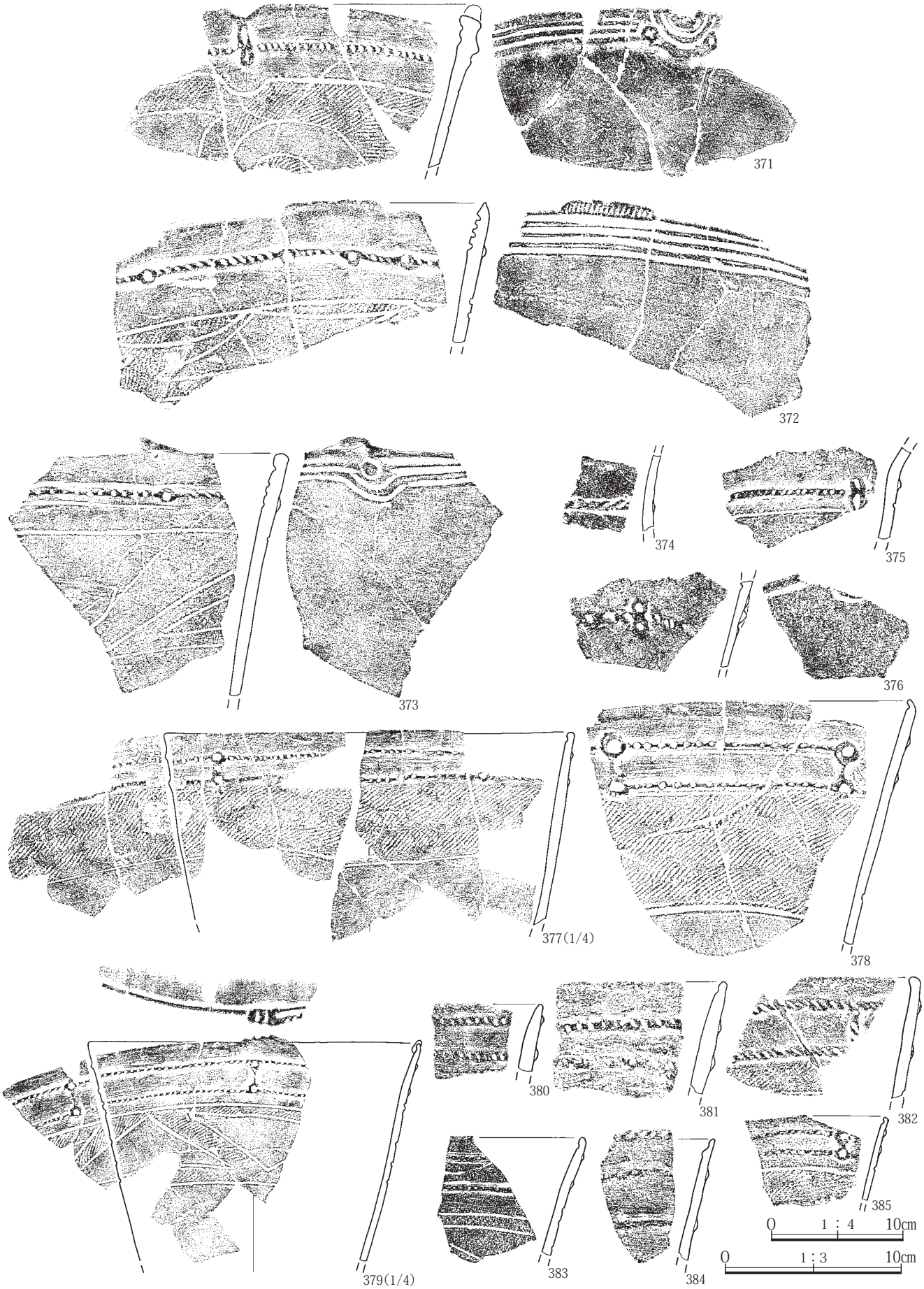


第377図　Ⅴ区遺構外出土遺物（16）

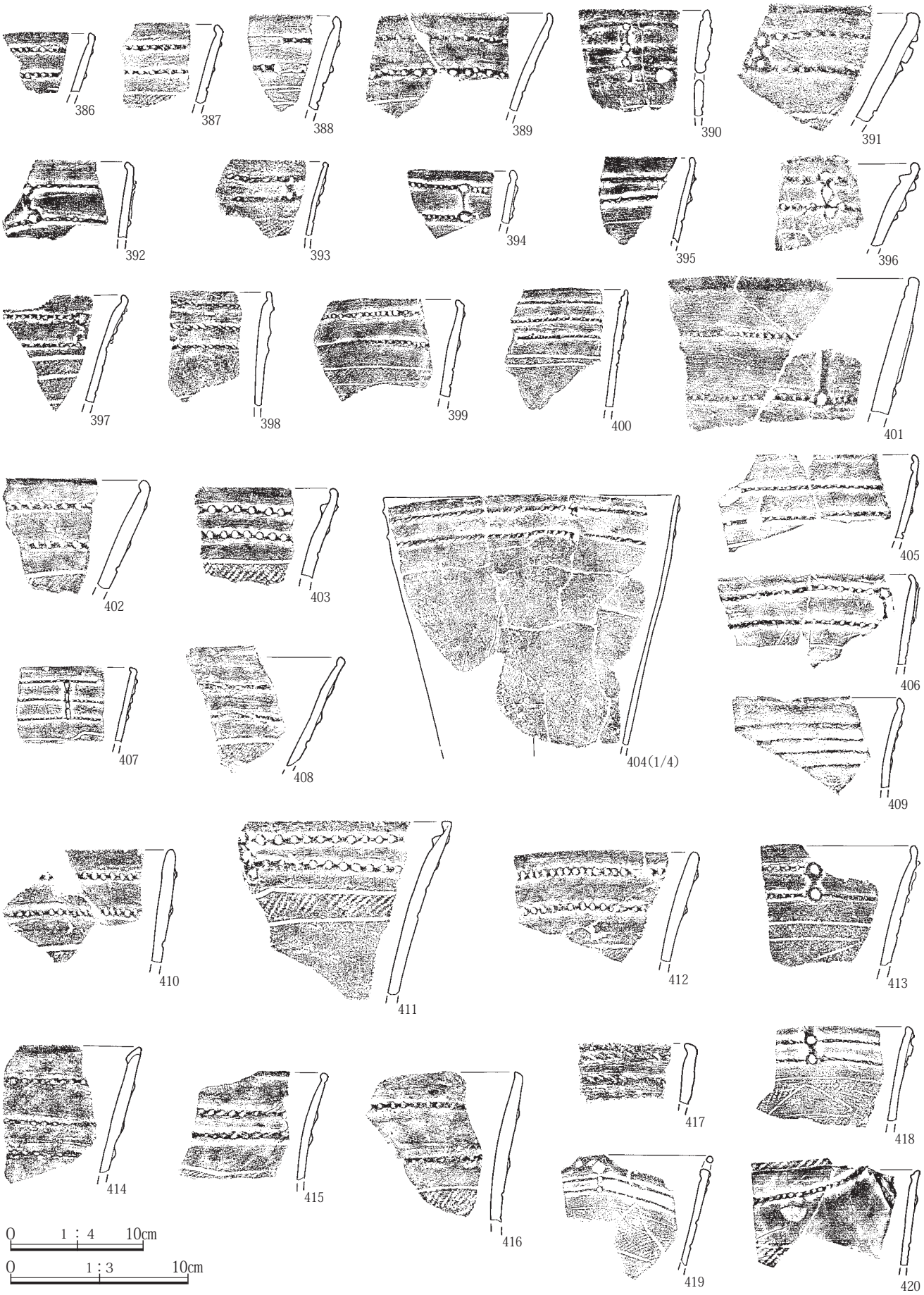
第378図　Ｖ区遺構外出土遺物（17）



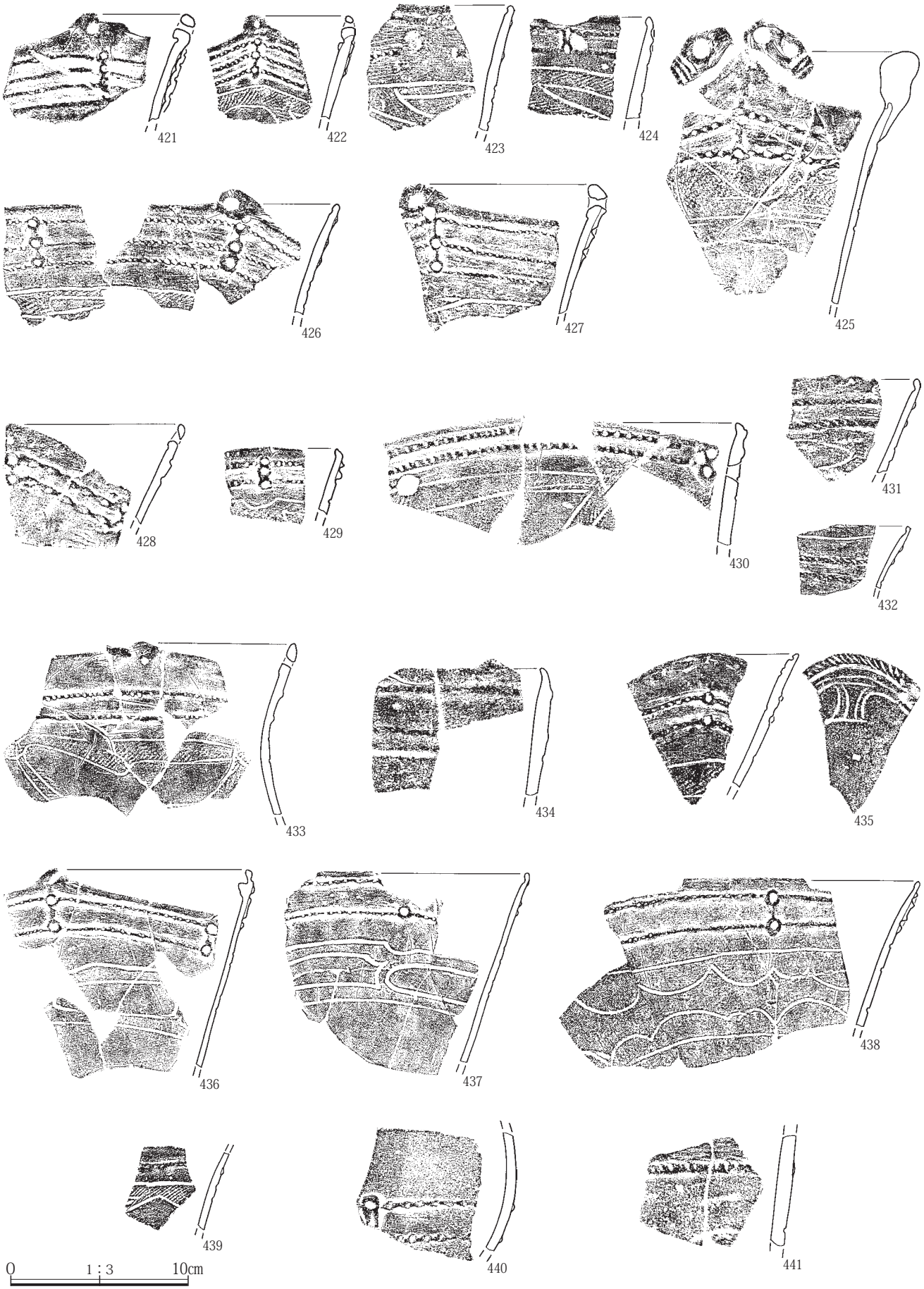
第379図　Ⅴ区遺構外出土遺物（18）



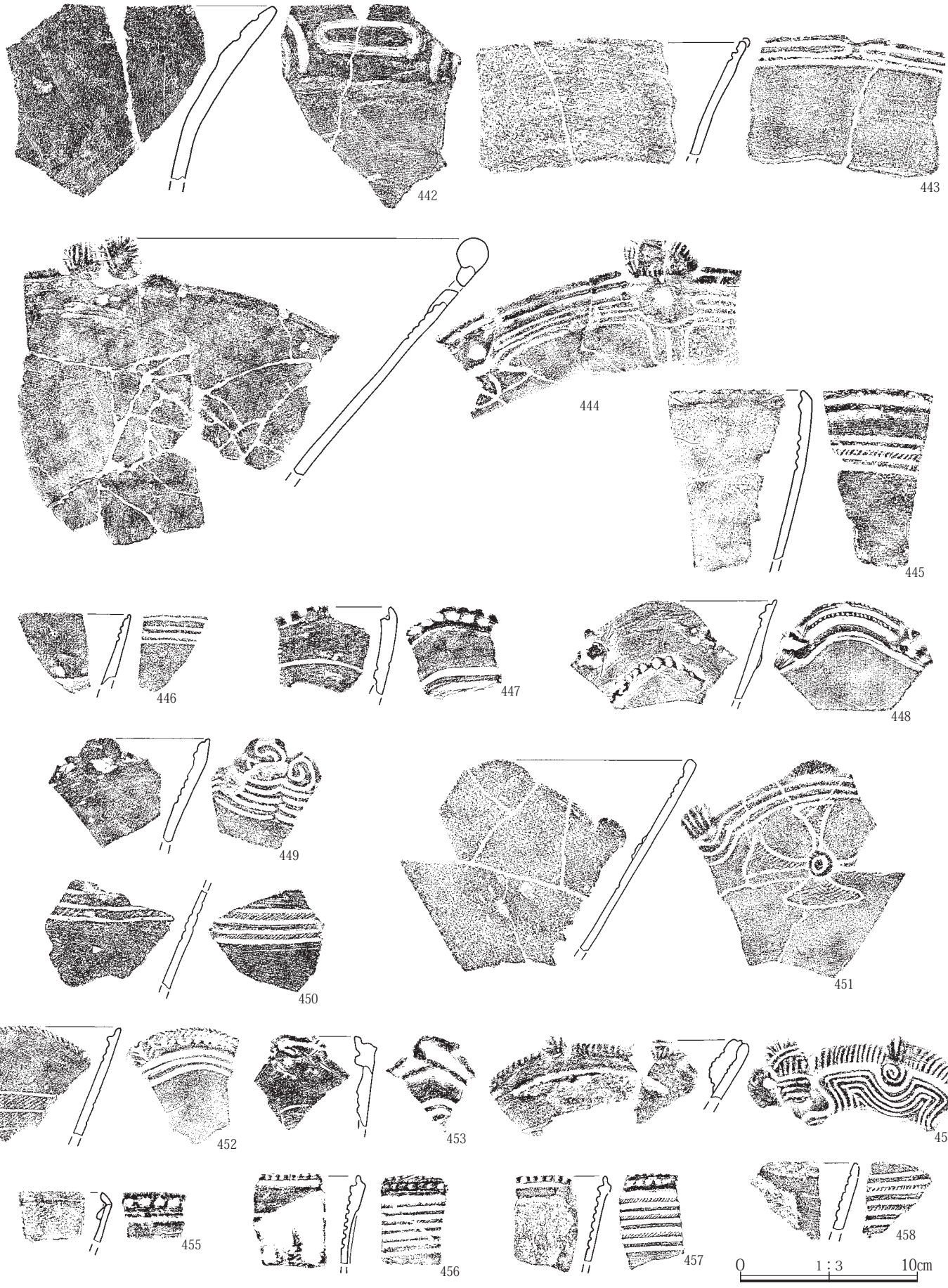
第380図　Ⅴ区遺構外出土遺物（19）



第381図　Ⅴ区遺構外出土遺物（20）

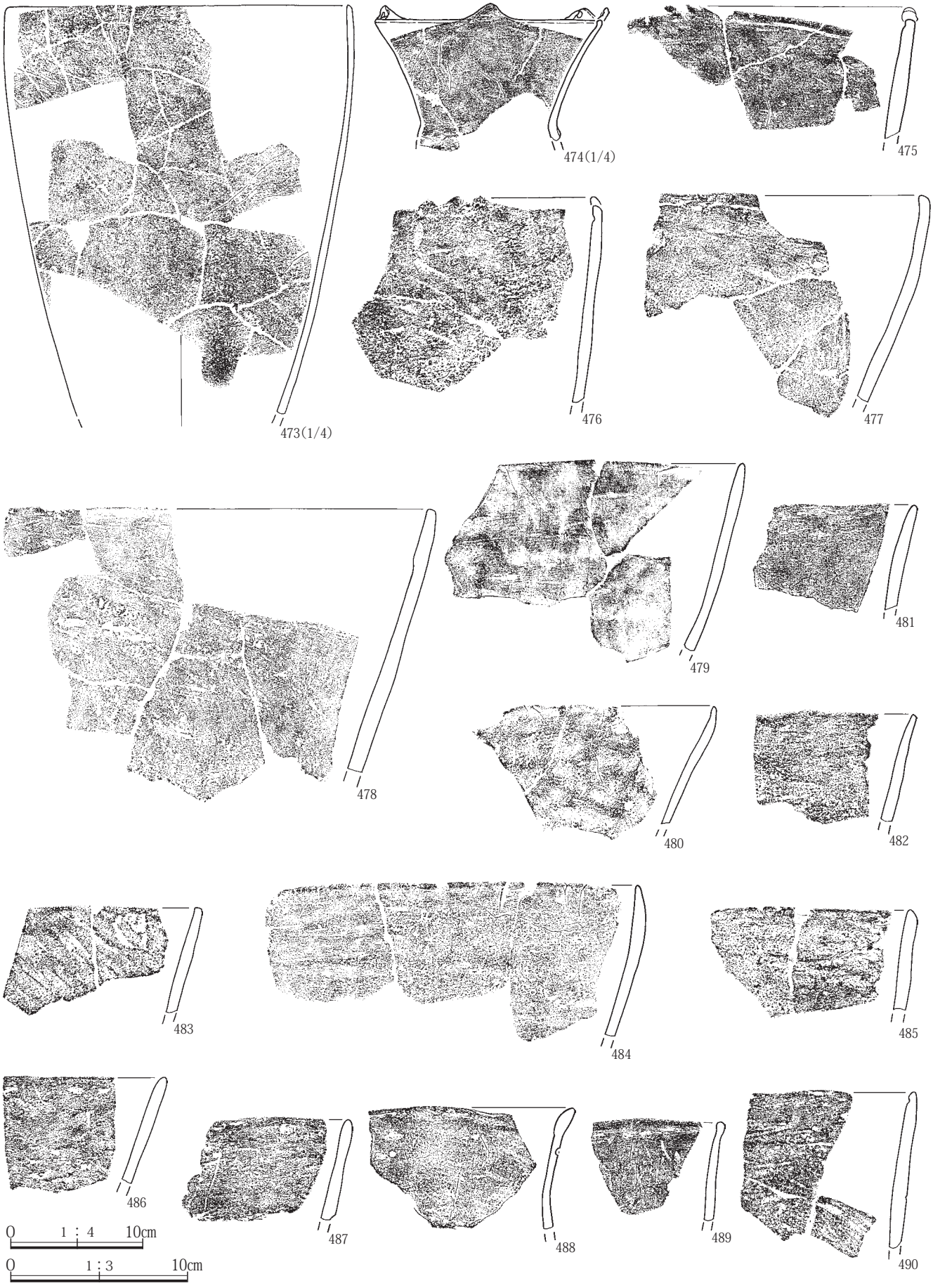


第382図　Ｖ区遺構外出土遺物（21）

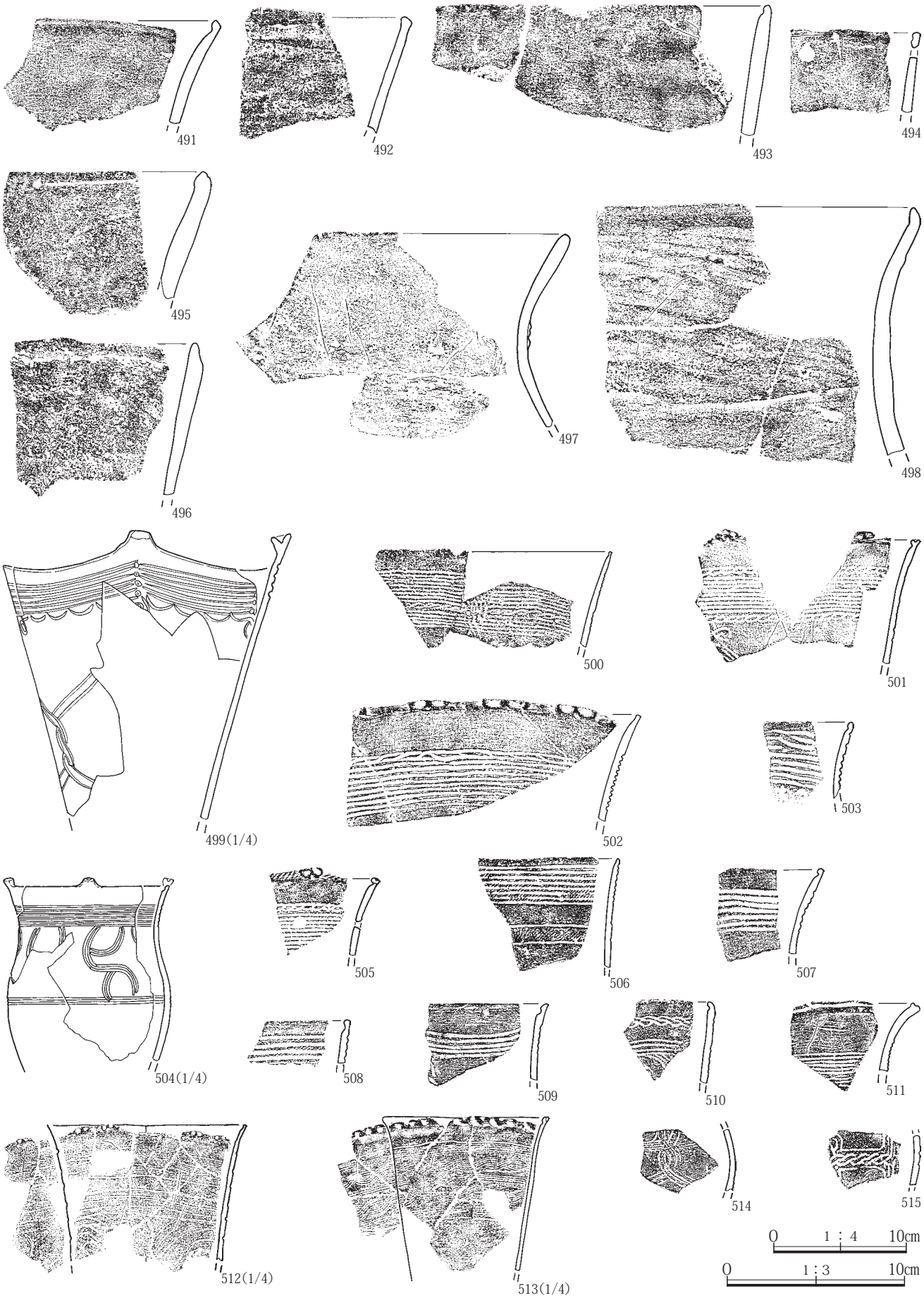


第383図　Ⅴ区遺構外出土遺物（22）

第384図　Ｖ区遺構外出土遺物（23）

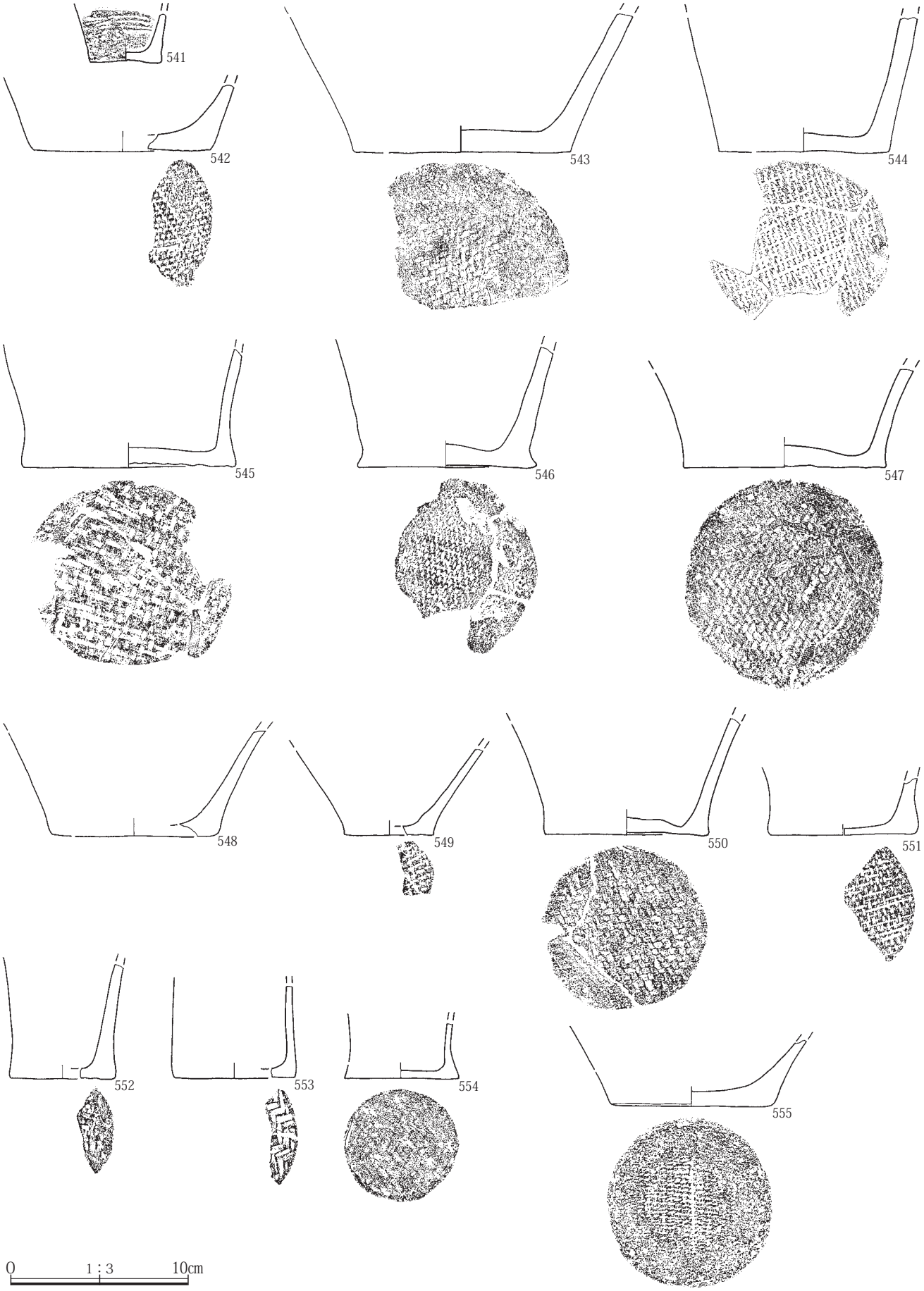


第385図　Ⅴ区遺構外出土遺物（24）

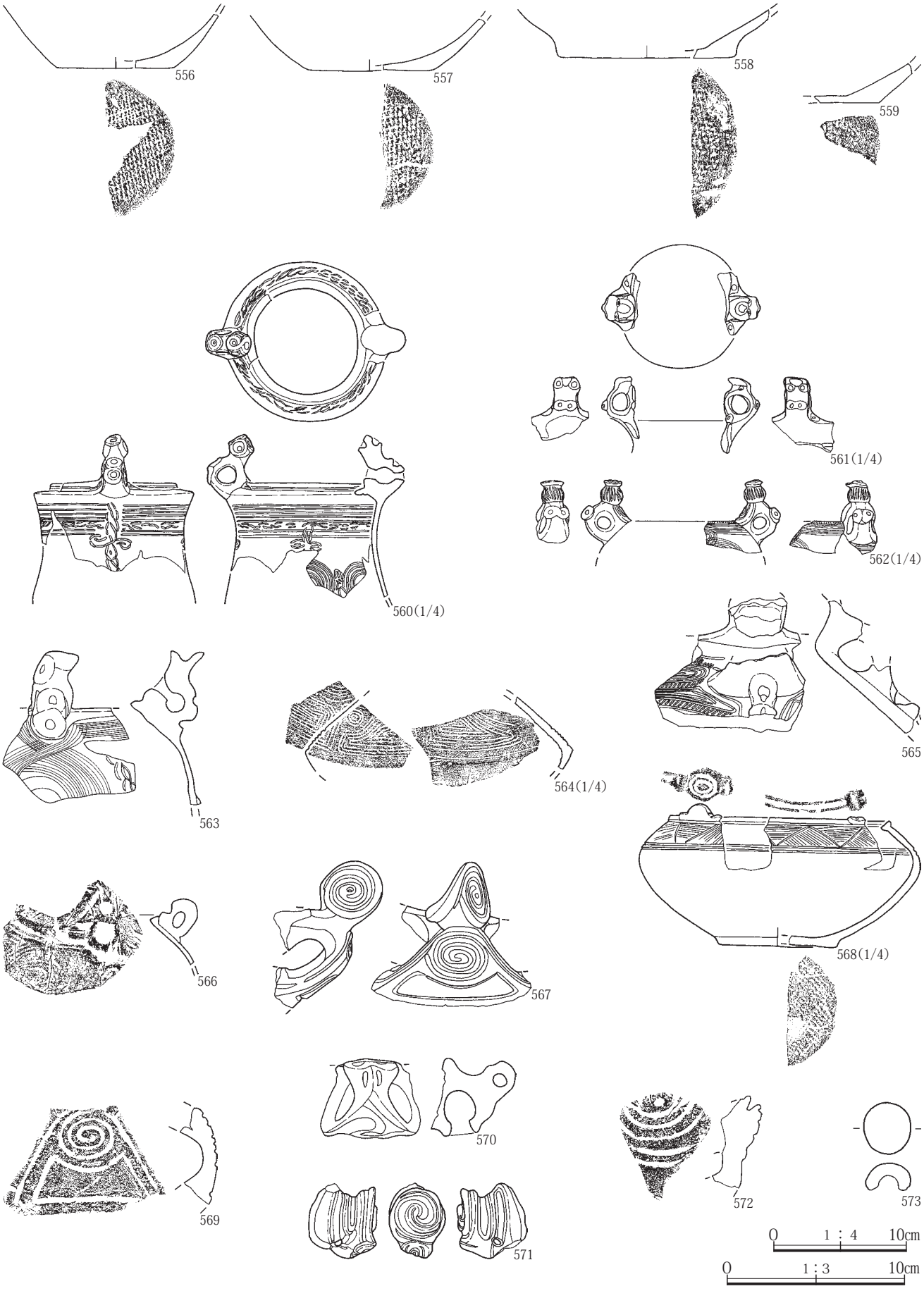


第386図　Ｖ区遺構外出土遺物（25）

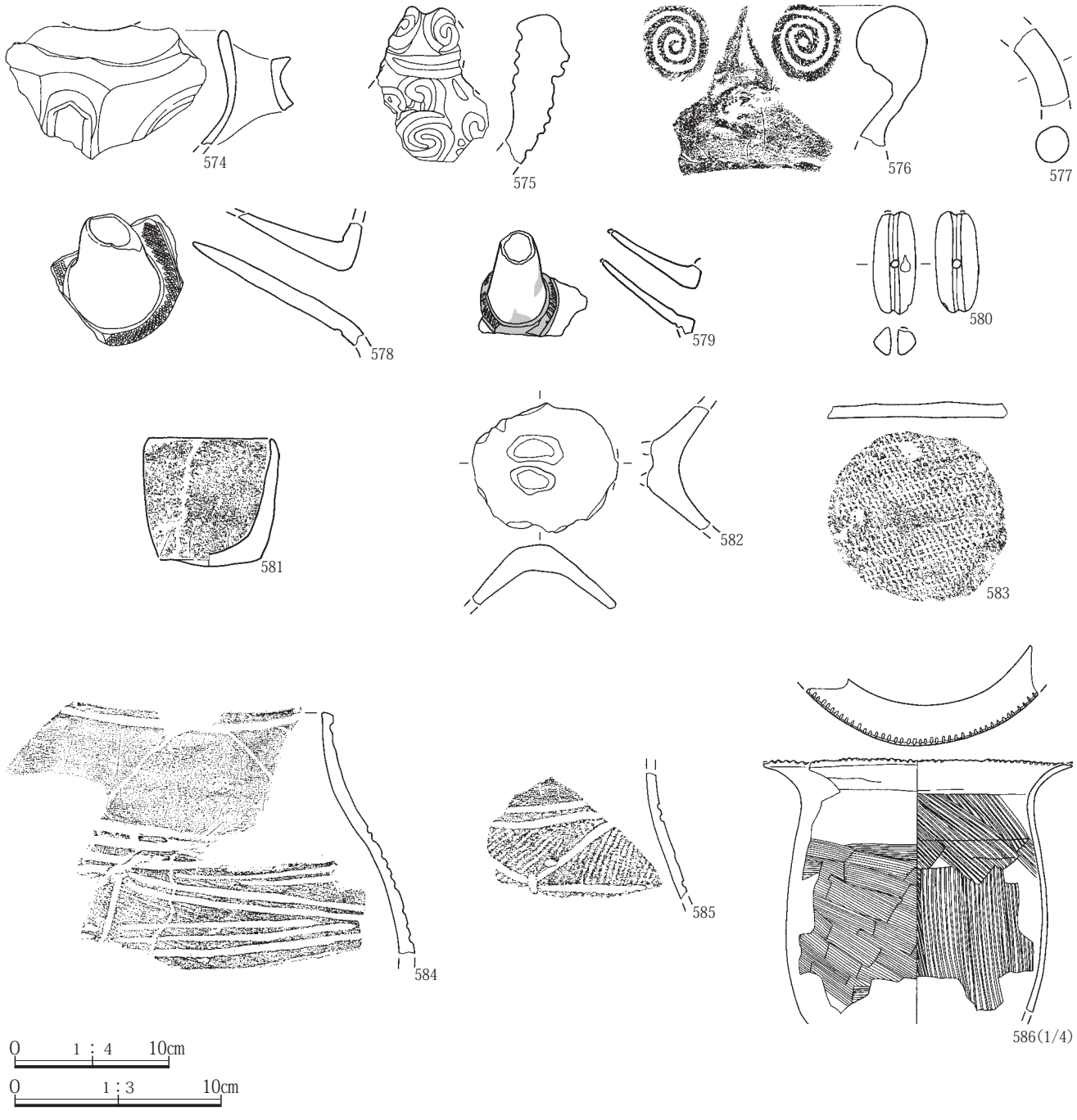
第387図　Ⅴ区遺構外出土遺物（26）



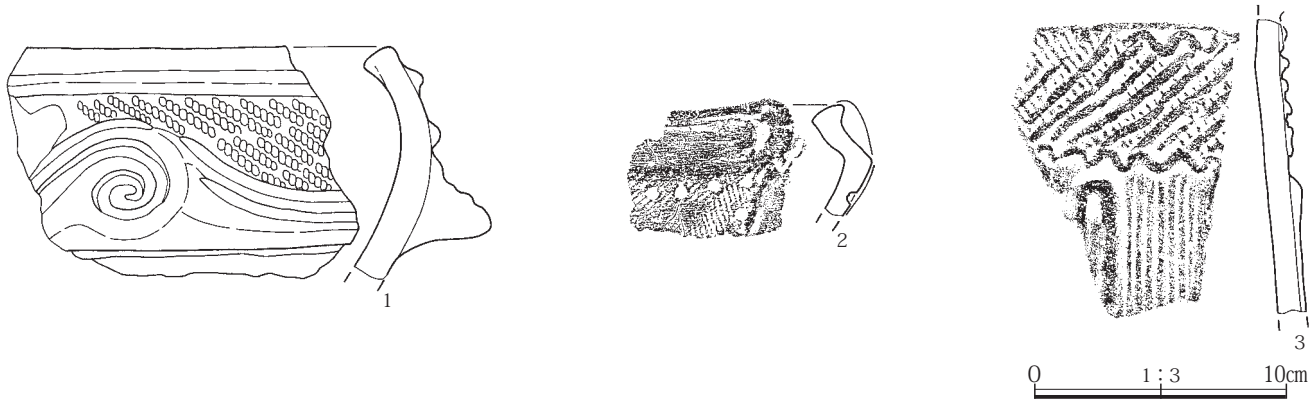
第388図　Ｖ区遺構外出土遺物（27）



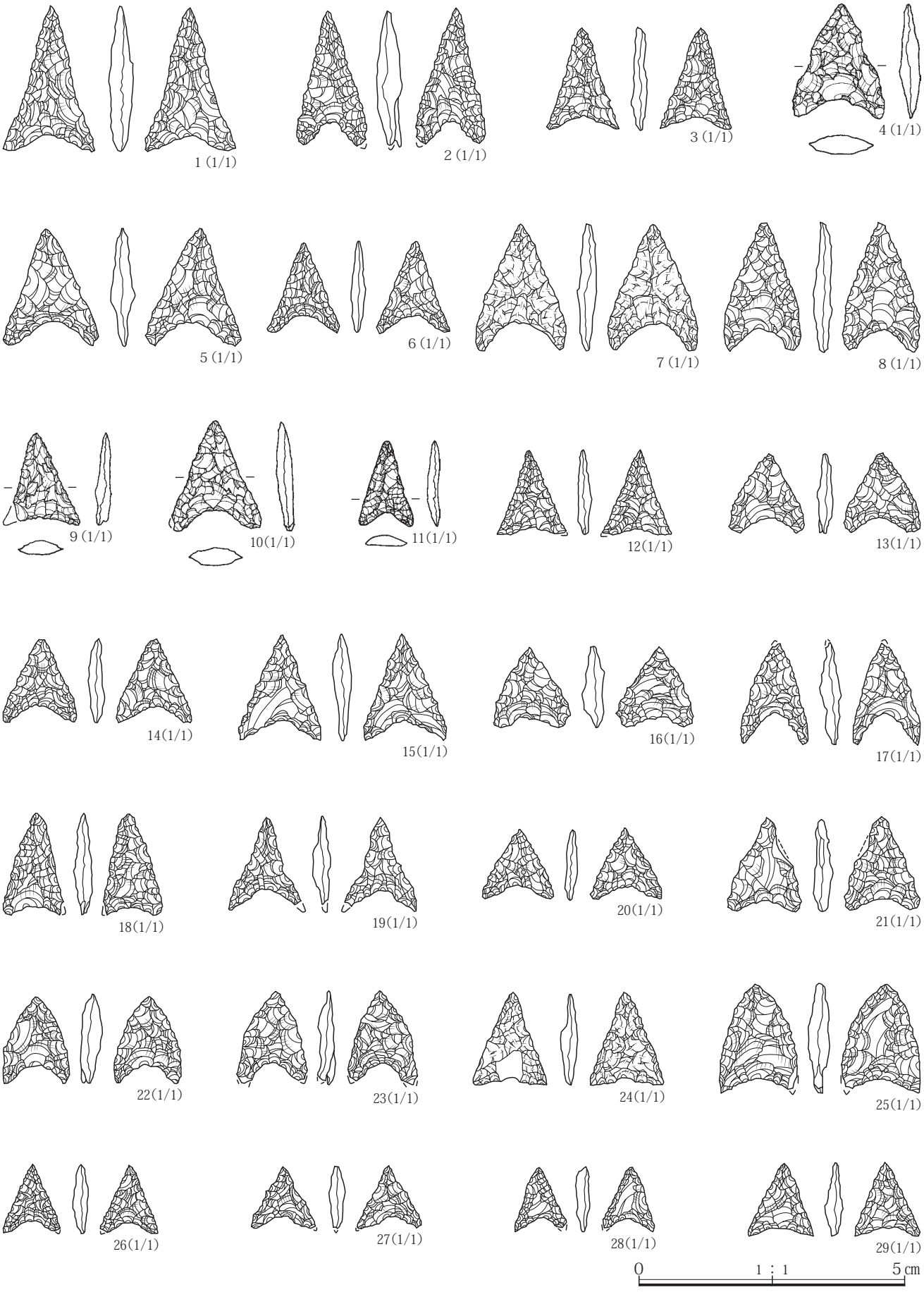
第389図　Ⅴ区遺構外出土遺物（28）



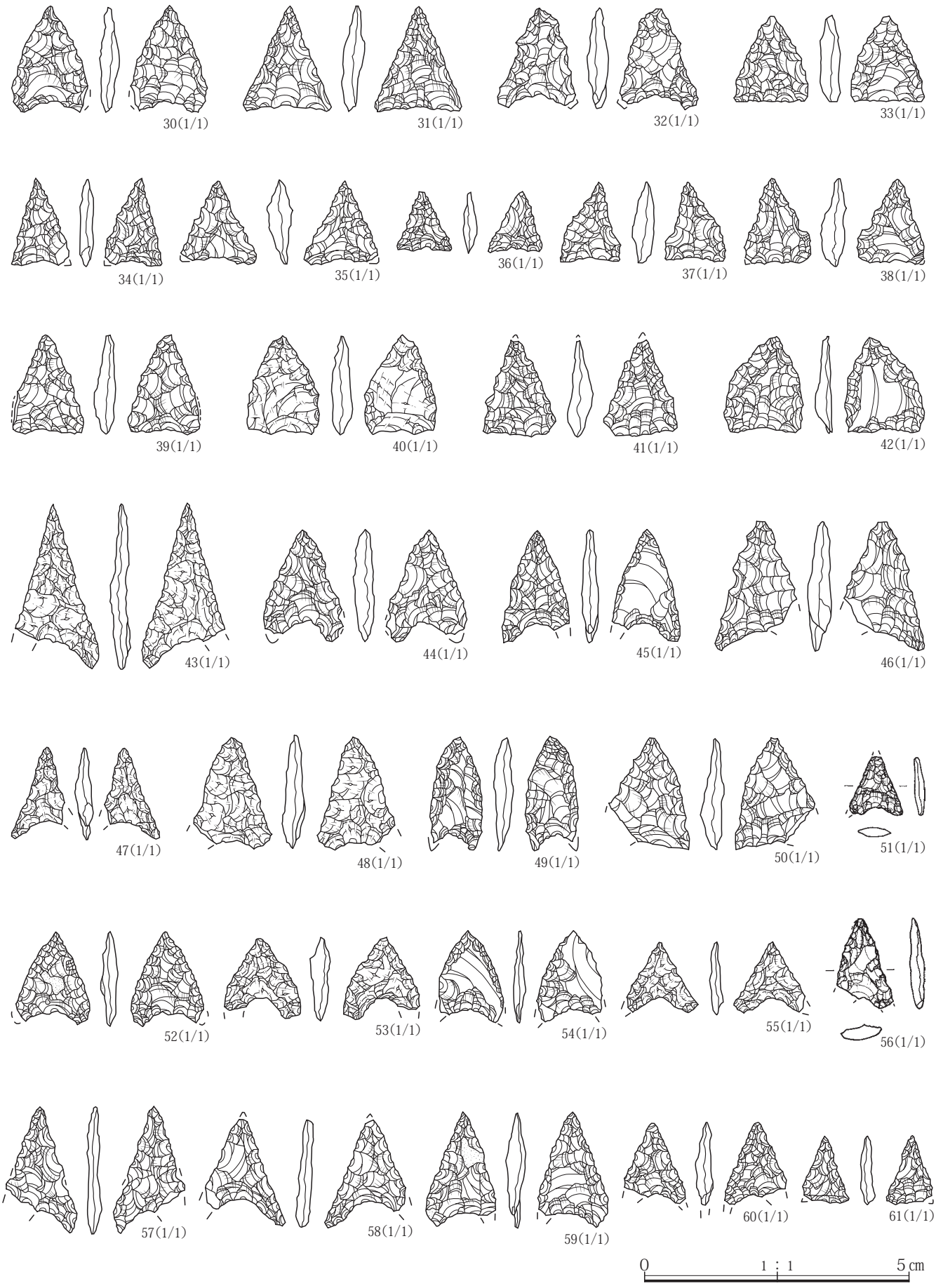
第390図　Ⅴ区遺構外出土遺物（29）



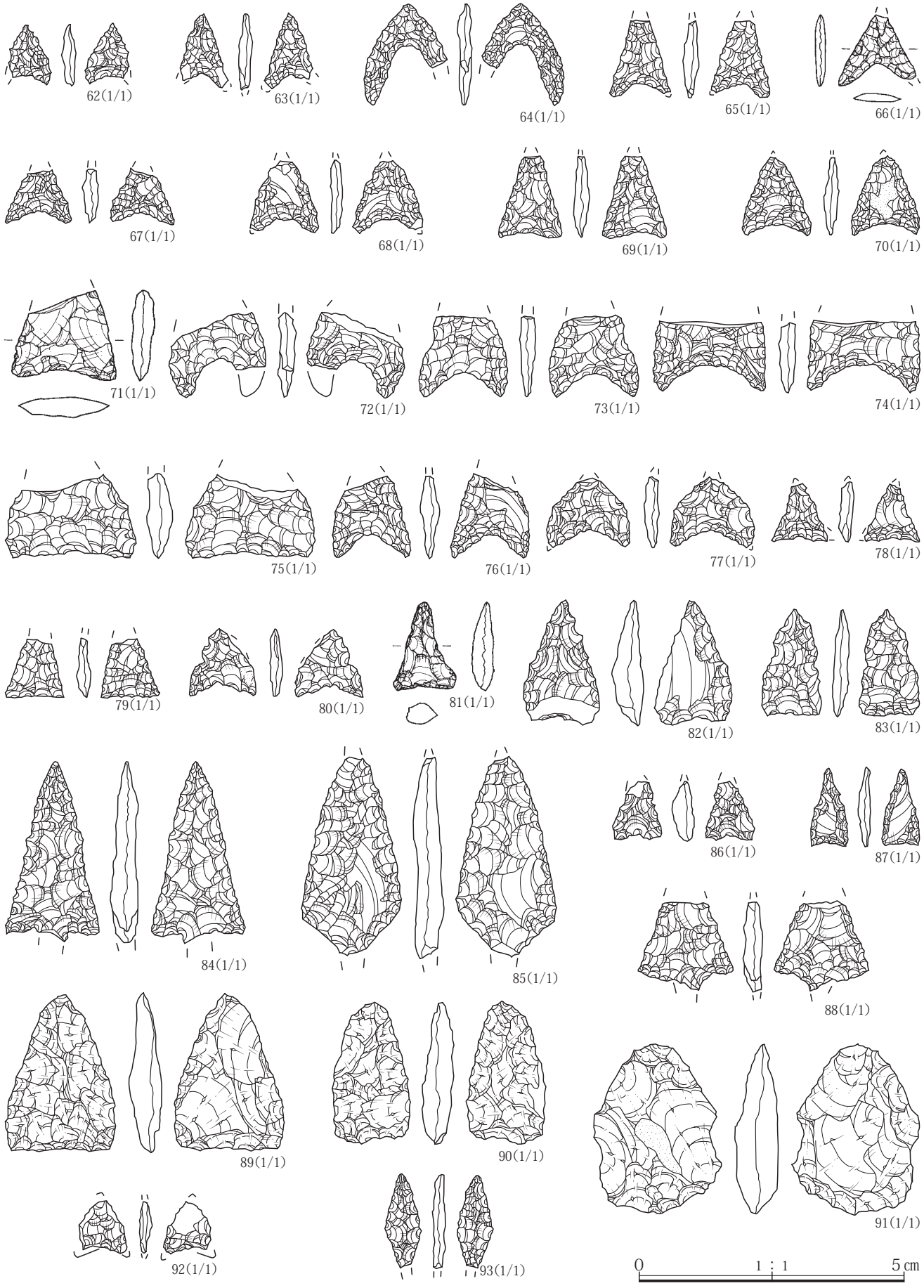
第391図　Ⅵ区遺構外出土遺物



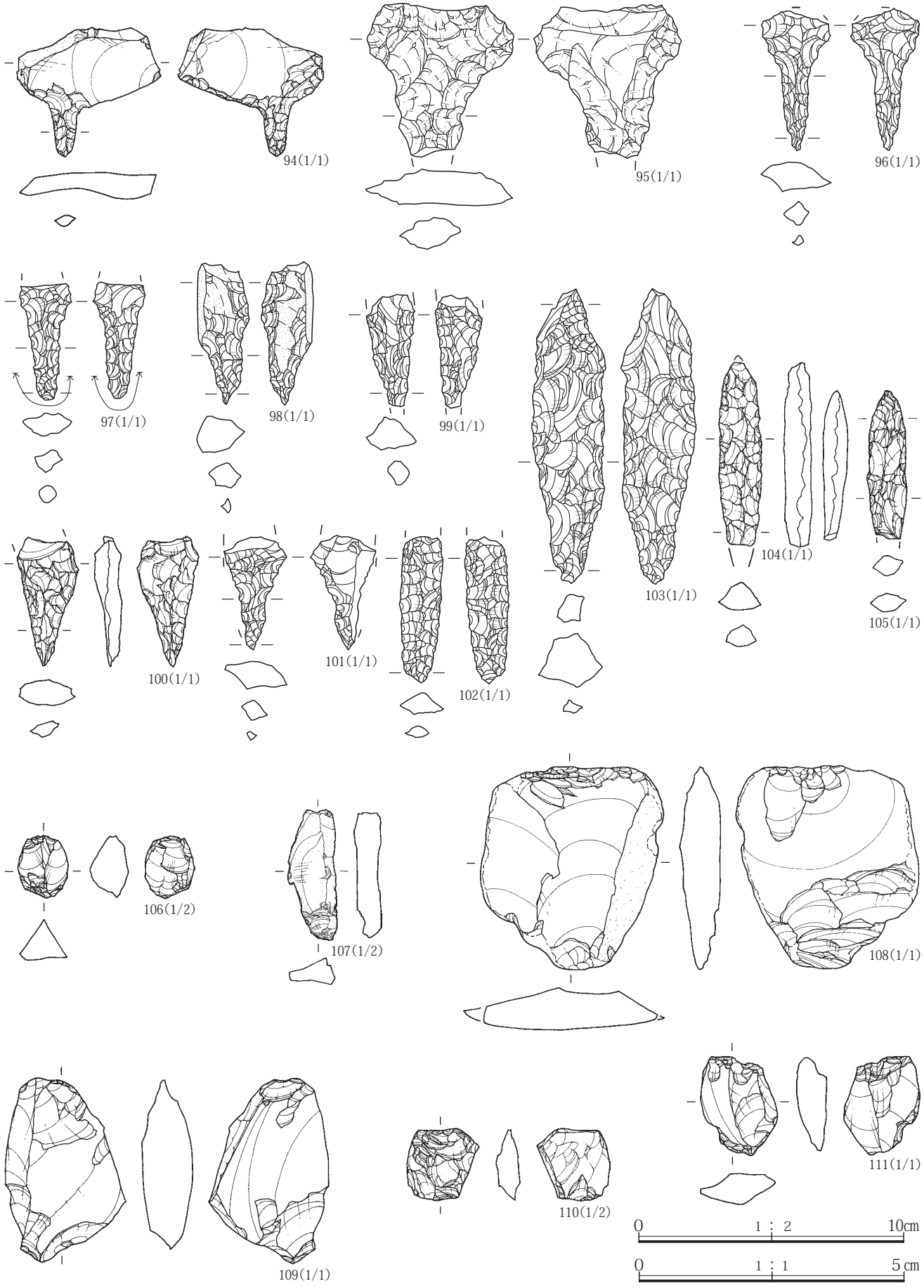
第392図　Ⅴ区遺構外出土遺物（30）



第393図　Ｖ区遺構外出土遺物（31）



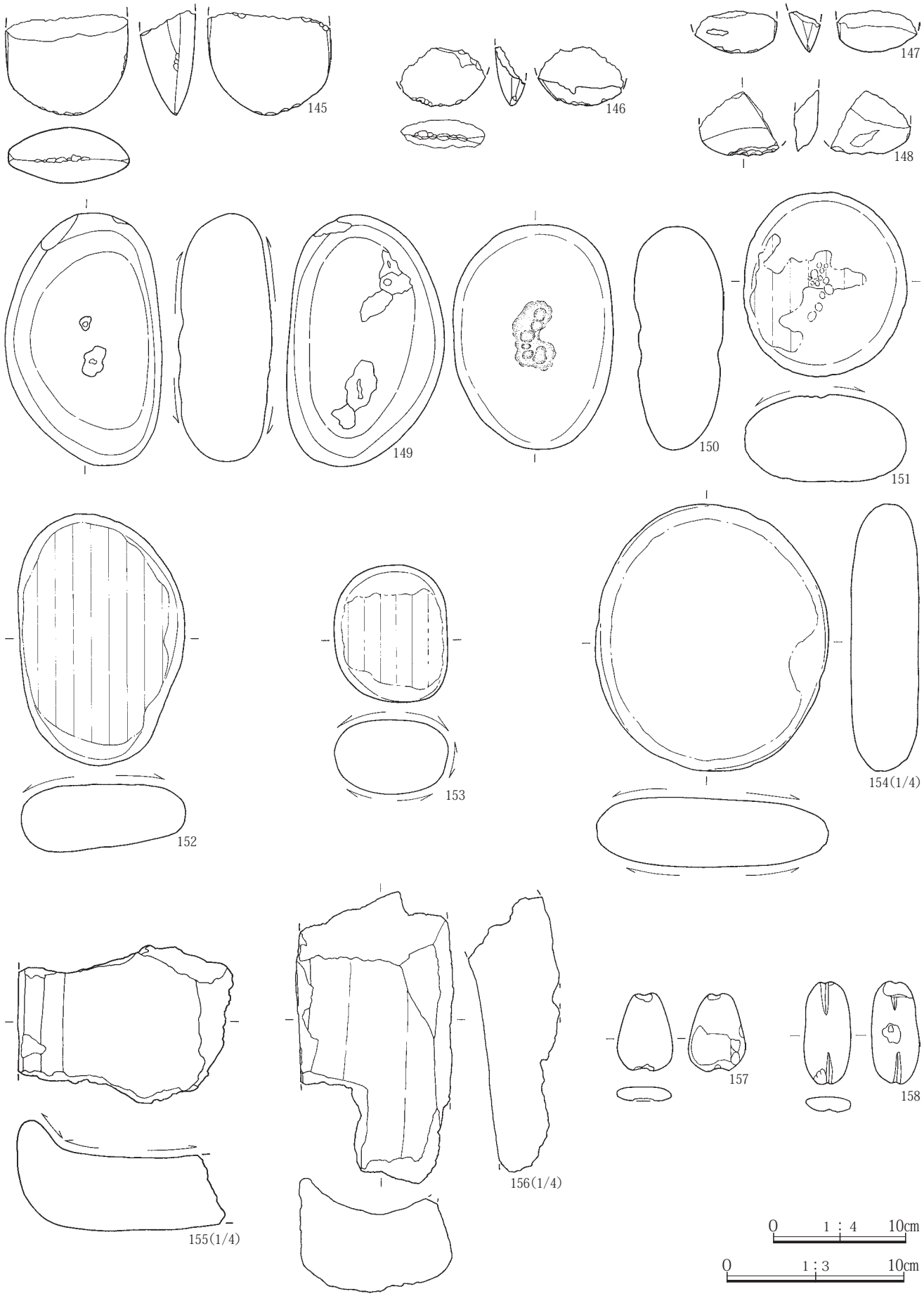
第394図　Ⅴ区遺構外出土遺物（32）



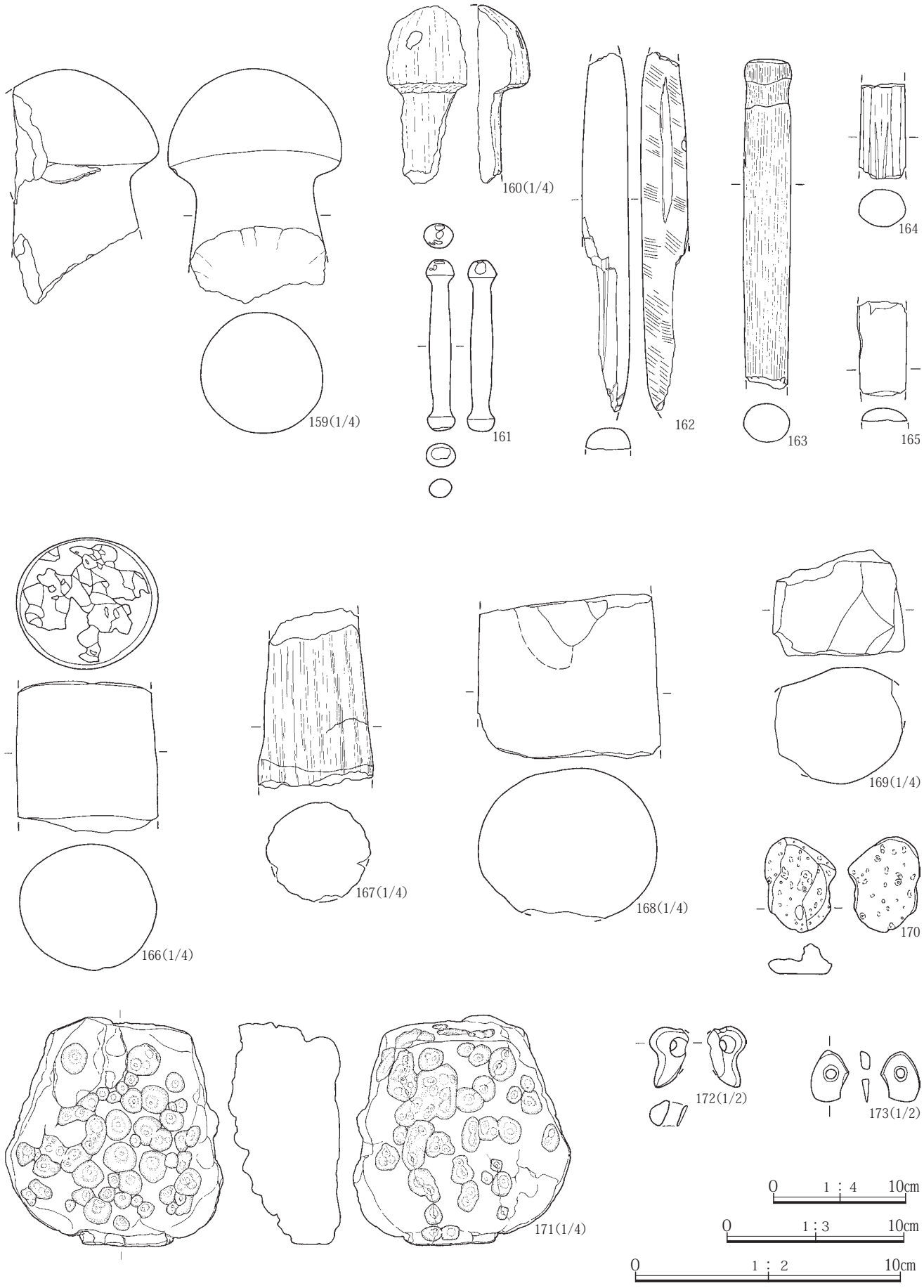
第395図　Ｖ区遺構外出土遺物（33）

第396図　Ⅴ区遺構外出土遺物（34）

第397図　Ⅴ区遺構外出土遺物（35）



第398図　Ⅴ区遺構外出土遺物（36）



第399図　Ⅴ区遺構外出土遺物（37）

第３表　第３・４面　Ｖ区　遺物観察表

１号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第７図 PL.131	1	縄文土器 深鉢	口縁～胴部	口	18.0			//	口縁が開く器形、口縁部に２本の連続押圧文有す隆帯が巡り、４カ所に連結８字状文、以下沈線による磨り消し縄文帯で三角文を交互に組み合わせる、三角文は無文と山形重沈線文を交互に配す。	後期前葉
第７図 PL.131	2	縄文土器 深鉢	口縁部					精製/良/暗茶褐色	口縁下に連結する並行細隆線文、以下沈線文。	後期前葉
第７図 PL.131	3	縄文土器 深鉢	口縁部					精製/良/灰黒色	口唇部肥厚、口縁下に横位紐線文、以下沈線文様内縄文充填。	後期前葉
第７図 PL.131	4	縄文土器 深鉢	口縁部					精製/良/黒褐色	口唇部内屈、横位沈線文内充填縄文。	後期前葉
第７図 PL.131	5	縄文土器 深鉢	口縁部					精製/良/暗茶褐色	口縁部山形に突起、円孔有す、突起部側面に渦巻き文、内面沈線文、刺突文有す、横位並行紐線文巡らし、８字状文で連結。	後期前葉、７と同一個体
第７図 PL.131	6	縄文土器 深鉢	口縁部					精製/良/暗灰褐色	口縁部内傾、横位沈線から縦位沈線文様に充填縄文。	後期前葉
第７図 PL.131	7	縄文土器 浅鉢	口縁部					精製/良/茶褐色	口唇部に２カ所の指頭押圧、外面無文、内面に横位沈線巡る。	後期前葉
第７図 PL.131	8	縄文土器	胴部					精製/良/暗褐色	沈線により横位連続三角文描き、三角文内と外枠内交互に充填縄文。	後期前葉
第７図 PL.131	9	縄文土器 深鉢	胴部					精製/良/暗灰褐色	口縁部内傾、沈線による矩形文描き、充填縄文。	後期前葉
第７図 PL.131	10	縄文土器 深鉢	胴部					微砂粒/良/灰黄褐色	斜位、縦位の並行沈線文。	後期前葉
第７図 PL.131	11	縄文土器 深鉢	胴部					微砂粒/良/灰黄褐色	横位、縦位の並行沈線文。	後期前葉
第７図 PL.131	12	縄文土器 深鉢	胴部					微砂粒/良/灰黄褐色	横位、縦位の並行沈線文。	後期前葉
第７図 PL.131	13	縄文土器 深鉢	底部	底	14.4			//	底部片、やや厚手で無文、底部網代痕。	炉体土器
第７図 PL.131	14	剥片石器 石鏃	ほぼ完形	長 幅	1.4 1.2	厚 重	0.4 0.2	流紋岩//	凹基、抉り浅く小振りで粗い作り、器面やや風化、模造品か。	
第７図 PL.131	15	剥片石器 石鏃	欠損	長 幅	(0.7) 1.1	厚 重	(0.2) (0.2)	黒曜石//	小型凹基無茎鏃、押圧剥離による両面加工が認められる、先端部を欠く。	
第７図 PL.131	16	礫石器 磨製石斧	欠損	長 幅	(8.9) (4.0)	厚 重	(1.3) (69)	変質蛇紋岩//	側面、基部上端部は研磨成形により稜が作り出されている、表面平滑に研磨、刃部欠損、被熱している。	
第７図 PL.131	17	剥片石器 磨製石斧	1/3	長 幅	(7.6) (5.1)	厚 重	2.6 151	変質蛇紋岩//	全体的に多方向の細かい擦痕が散在し加工痕と考えられる。丁寧な研磨整形によって器形を整えている。	
第７図 PL.131	18	礫石器 凹石	完形	長 幅	13.5 6.8	厚 重	4.5 618	粗粒輝石安山岩//	表裏面に縦方向に連続する凹みが認められる。表裏面に部分的な磨り面が認められる。上端には敲打痕が集中する。	
第７図 PL.131	19	礫石器 磨石	完形	長 幅	6.7 6.9	厚 重	2.5 159	粗粒輝石安山岩//	円礫を利用すると考えられる。表面のほぼ全面に磨り面が認められる。	
第８図 PL.131	20	礫石器 石皿	完形	長 幅	19.8 11.1	厚 重	6.4 1728	デイサイト//	表裏面はほぼ平坦でありほぼ全面に磨り面が認められる。亜円礫を利用する。	
第８図 PL.131	21	礫石器 多孔石	完形	長 幅	20.9 12.3	厚 重	9.1 958	軽石//	軟質かつ多孔質な石質である。表面を中心に不定型の孔が多数認められる。その他の部分は自然面か判断できない。	

２号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第11図 PL.131	1	縄文土器 深鉢	口縁～胴部	口	37.3			砂粒含む/良/黄褐色	４単位の渦巻き小突起有す、突起左脇に円文、口縁部隆帯による楕円渦巻き区画、胴部縦位磨り消し縄文帯、蕨手文描く。	埋甕、内面胴上位に煤が帯状に巡る
第11図 PL.131	2	縄文土器	口縁～胴部	口	36.8			砂粒含む/良/灰黄褐色	４単位の波状口縁、微隆帯による渦巻文、舌状垂下文描き、縄文充填施文。	中期後葉
第12図 PL.132	3	縄文土器 深鉢	口縁～胴部	口	30.0			砂粒含む/普通/茶褐色	口縁部やや内湾、無文帯画す横位隆帯から懸垂隆帯により胴部を区画、さらに渦巻き懸垂文描く、区画内には縄文施文。	中期末葉
第12図 PL.132	4	縄文土器 深鉢	口縁～胴部	口	34.0			砂粒含む/良/明黄褐色	沈線による縦楕円文を上下２段連続に描き、内部に縄文充填施文。	中期後葉
第12図 PL.132	5	縄文土器 深鉢	口縁～胴部	口	25.0			砂粒含む/普通/明黄褐色	口縁部に浅い凹線巡らし、以下２本沈線で波状文、末端部渦巻き文描く、胴部２本沈線による逆Ｕ字状文、間に波状垂下文。	炉体土器、中期末葉
第12図 PL.132	6	縄文土器 深鉢	口縁～胴部	口	27.0			砂粒含む/良/黒茶褐色	横位楕円文描き、連続弧状文充填施文、楕円文間には上下に押圧文、以下広狭の逆Ｕ状文交互に描き、幅広文内には縦位矢羽根沈線文充填する、さらにそれらの間には２本単位の背合わせ蕨手垂下文。	中期後葉
第13図 PL.132	7	縄文土器 深鉢	口縁～胴部	口	33.0			砂粒含む/普通/灰褐色	口縁部やや内湾、無文帯画す横位隆帯から懸垂隆帯により胴部を区画、さらに渦巻き懸垂文描く、区画内には縦位の短沈線文充填施文。	中期末葉、３と同じ文様構成で胴部文様のみ異なる

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第13図 PL.132	8	縄文土器 深鉢	口縁～胴部	口	25.6			砂粒含む/普通/短 黄褐色	４単位の波状突起、円孔有し、尖端部欠く、波頂からの垂下沈線、および沈線による渦巻き文、粗く縄文施文。	中期末葉
第13図 PL.132	9	縄文土器 深鉢	口縁～胴部	口	20.0			砂粒含む/良/暗褐色	口縁部丸みを持って内湾、胴部単位有す縦位条線文。	中期後葉
第13図 PL.132	10	縄文土器 深鉢	口縁～胴部					白色粒含む/普通/ 淡黄褐色	４単位波状口縁、低い隆線による曲線垂下文、縄文施文。	中期後葉
第13図 PL.132	11	縄文土器 深鉢	口縁部					白色粒含む/良/茶 褐色	口縁部横位沈線、横位波状文、逆Ｕ字状文描き、口縁下、文様内縄文充填。	中期後葉
第13図 PL.133	12	縄文土器 深鉢	口縁～胴部					砂粒含む/普通/茶 褐色	口縁部楕円渦巻き文、胴部逆Ｕ字状文、蕨手垂下文、区画文内縄文施文。	中期後葉
第13図 PL.133	13	縄文土器 深鉢	口縁～胴部					砂粒含む/普通/茶 褐色	口縁部楕円渦巻き文、胴部逆Ｕ字状文、蕨手垂下文、区画文内縄文施文。	中期後葉
第13図 PL.133	14	縄文土器 深鉢	口縁～胴部					白色粒含む/普通/ 淡黄褐色	４単位波状口縁、低い隆線による曲線垂下文、縄文施文。	中期後葉
第13図 PL.133	15	縄文土器 深鉢	把手					砂粒含む/普通/淡 黄褐色	中央が凹む環状把手、隆帯による区画文描くか。	中期後葉
第13図 PL.133	16	縄文土器 深鉢	底部	底	11.6			砂粒多く含む/普 通/明灰褐色	底部。	中期後葉
第14図 PL.133	17	剥片石器 石鏃	ほぼ完形	長 幅	1.3 1.3	厚 重	0.3 (0.4)	流紋岩//	小型平基無茎鏃、押圧剥離による両面加工が認められる、片面が僅かに肥厚。	
第14図 PL.133	18	礫石器 磨石	完形	長 幅	10.1 7.8	厚 重	5.8 710	粗粒輝石安山岩//	一端が平坦な礫利用、両面に使用痕、打撃による浅い凹み有す、側縁部に打痕。	

３号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第20図 PL.133	1	縄文土器 深鉢	口縁～胴部	口	24.0			微砂粒/良/茶褐色	口縁部大きく開く、口唇部に横位沈線、以下無文部画す、口縁から細隆線垂下し横位の細隆線に繋がり接点には８字添付文、下部には弧状文、縄文充填の曲線文描く。	後期前葉
第20図 PL.133	2	縄文土器 深鉢	口縁～胴部	口	12.7			精製/良/黒褐色	薄手の作り、多段沈線文巡らし、無文帯をはさみ、並行する沈線文間に、磨り消し縄文による横位連続渦巻き文描く。	後期前葉
第20図 PL.133	3	縄文土器 深鉢	口縁～胴部	口 底	10.6 7.4	高	19.0	精製/良/茶褐色	細身の器形、Ｌ字状の沈線で画した横位多段縄文施文帯が連続する、以下無文、口縁内面には小貼付文、５本の多段沈線が巡る、底部網代痕。	後期中葉
第20図 PL.133	4	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒多く含む/普 通/黒褐色	口縁下横位沈線、以下渦巻き文様描く。	後期前葉
第20図 PL.133	5	縄文土器 深鉢	口縁～胴部	口	15.4			精製/良/黒褐色	４単位の波状突起が付くものと思われるが、突起部は欠損、口縁下に横位刺突細隆線巡り、下位に沈線による横位縄文帯が描かれる、ＬＲ横位、以下無文。	後期前葉
第20図 PL.133	6	縄文土器 深鉢	口縁～胴部	口	30.0			精製/良/暗黒褐色	口縁部沈線による横位縄文帯、以下無文、口縁内側に凹線巡る。	後期前葉
第20図 PL.133	7	縄文土器 深鉢	口縁部	口	18.0			微砂粒/良/黒褐色	横位沈線による磨り消し縄文帯、縄文帯間に連続（）状文、口縁部小波状を呈し突起が付くものと思われる。	後期中葉
第20図 PL.133	8	縄文土器 深鉢	口縁部	口	27.0			微砂粒/良/灰白色	４本の横位沈線間を縦位沈線で複数箇所で繋ぐ。	後期中葉
第20図 PL.133	9	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒含む/良/淡黄 褐色	口唇部内屈、沈線による三角文描く、補修孔あり。	後期前葉
第20図 PL.133	10	縄文土器 深鉢	口縁部					砂礫粒多く含む/ 普通/黒褐色	口縁部に８字添付文有す横位細線文、以下沈線による矩形磨り消し文様描く。	後期前葉
第20図 PL.134	11	縄文土器 深鉢	胴部					微砂粒/良/黄褐色	横位沈線、横位沈線、連続刺突文、以下胴部無文。	後期前葉
第21図 PL.134	12	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/灰白色	上下に沈線で画した縄文帯、間に２本単位の沈線による連続三角文描く。	後期前葉
第21図 PL.134	13	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/茶褐色	口縁部短く外反、横位隆帯状に円形文。	後期前葉
第21図 PL.134	14	縄文土器 深鉢	口縁部					精製/良/淡褐色	波頂部に斜めに円形突起、側面に円文、片側に沈線、波頂下の円形文から左右に刺突細隆線延びる、以下磨り消し縄文文様。	後期前葉
第21図 PL.134	15	縄文土器 浅鉢	口縁部					精製/良/灰褐色	波頂部に突起、突起上部に屈曲した隆線が付され内側に円形文、左右に小突起が付く、外面突起下に隆線が垂下し８字状文から左右に２本の細隆線が延びる。	後期前葉
第21図 PL.134	16	縄文土器 深鉢	口縁部					精製/良/黒褐色	円形突起有す、側面に渦巻き文、口唇部沈線、および沈線施文の楕円文、突起下に８字状文、横位細隆線、以下沈線による曲線文描く。	後期前葉
第21図 PL.134	17	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/淡褐色	口縁部やや外反、並行する横位細隆線。	後期前葉
第21図 PL.134	18	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/黒褐色	口縁部内傾する小突起、円孔、縦位の沈線文付す、以下横位沈線矩形の磨り消し縄文文様。	後期前葉
第21図 PL.134	19	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/淡黄褐色	横位細隆線、以下沈線による矩形文。	後期前葉
第21図 PL.134	20	縄文土器 深鉢	口縁部					精製/良/灰褐色	口縁に付された8字状添付文から横位、縦位の細隆線。	後期前葉

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第21図 PL.134	21	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/灰黒色	横位細隆線、欠落するが8字添付文か、以下磨り消し縄文による三角意匠文描く。	後期前葉
第21図 PL.134	22	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/赤褐色	口縁部に８字状添付文、以下沈線による磨り消し文様、内面口唇部に連続押圧文、沈線文。	後期前葉
第21図 PL.134	23	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/黒褐色	平行刻み隆線を８字添付文で連結、口唇部内面に凹線。	後期前葉
第21図 PL.134	24	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/灰褐色	内傾し山形に高まる肥厚口縁、刻み状の沈線、弧状文様、円形文付す、斜めに垂下する細隆線見られる。	後期前葉
第21図 PL.134	25	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/普通/黄褐色	沈線による三角文内を横位沈線で充填、内面口縁に沈線。	後期前葉
第22図 PL.134	26	縄文土器 深鉢	口縁部					精製/良/黒褐色	沈線文様による磨り消し縄文、内面多段沈線。	後期前葉
第22図 PL.134	27	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/黒褐色	口縁部連続刻み、横位複数並行沈線文、内面連続刺突文、隆線、沈線文。	後期前葉
第22図 PL.134	28	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/灰褐色	口唇部に沈線、以下多段沈線文。	後期前葉
第22図 PL.134	29	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/黄褐色	内傾し山形に高まる肥厚口縁、刻み状の沈線、弧状文様、円形文付す、斜めに垂下する細隆線見られる。	後期後葉
第22図 PL.134	30	縄文土器 深鉢	口縁部				0	微砂粒/良/黒色	口縁下に横位細隆線、以下沈線による三角形意匠文様。	後期前葉
第22図 PL.134	31	縄文土器 深鉢	頸部					砂粒含む/普通/黄褐色	横位沈線、８字状文添付、以下沈線による渦巻き文。	後期前葉
第22図 PL.134	32	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/淡黄褐色	２本単位の横位沈線に瘤状貼付文、下位に縄文充填の弧状文描く。	後期前葉
第22図 PL.134	33	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/茶褐色	沈線による矩形文様描く。	後期後葉
第22図 PL.134	34	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒含む/良/黒色	上下横位沈線間に縄文施文後、波状文様描く。	後期前葉
第22図 PL.134	35	縄文土器 注口	口縁部					微砂粒/良/灰褐色	口縁部内傾し、口唇部は平らに押さえられ、僅かに外に突き出る、沈線により、磨り消し曲線文様描く。	後期前葉
第22図 PL.134	36	縄文土器 深鉢	胴部					微砂粒/良/赤褐色	沈線による縦位連続木葉文様描く、文様内沈線充填、以下横位沈線、細隆線が巡り、以下無文。	後期前葉
第22図 PL.134	37	縄文土器 深鉢	頸部					砂粒含む/良/茶褐色	口縁部外反か、横位刺突文隆線巡る、以下、沈線による縦位連続木葉文様描く。	後期前葉
第22図 PL.135	38	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/普通/茶褐色	縦位の沈線文。	後期前葉
第22図 PL.135.	39	縄文土器 深鉢	胴部					微砂粒/良/赤褐色	沈線による縦位連続木葉文様描く、文様内沈線充填、以下横位沈線、細隆線が巡り、以下無文。	後期前葉
第22図 PL.135	40	縄文土器 深鉢	胴部					微砂粒/良/淡褐色	沈線による三角意匠文様。	後期前葉
第22図 PL.135	41	縄文土器 深鉢	胴部					微砂粒/良/灰黒色	横位沈線、横楕円文か。	後期前葉
第23図 PL.135	42	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/黒色	沈線による曲線文、磨り消し縄文。	後期前葉
第23図 PL.135	43	縄文土器 注口土器	把手					微砂粒/良/黒色	磨り消し縄文による矩形文様。	後期前葉
第23図 PL.135	44	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/灰黒色	沈線による矩形文様か。	後期前葉
第23図 PL.135	45	縄文土器 深鉢	胴部					精製/良/黒色	三角、菱形文様意匠の磨り消し縄文。	後期前葉
第23図 PL.135	46	縄文土器 深鉢	口縁部	口	11.0			微砂粒/良/茶褐色	やや内湾する器形、口唇部平らに作られ浅い沈線が巡る、外面無文。	後期前葉
第23図 PL.135	47	縄文土器 深鉢	口縁部	口	30.0			砂粒/良/灰褐色	縄文ＲＬを横位全面施文。	後期前葉
第23図 PL.135	48	縄文土器 深鉢	口縁部					精製/良/黒褐色	口縁部連続刻み、横位の並行沈線文、内面連続刺突文、沈線による多段磨り消し縄文。	後期前葉
第23図 PL.135	49	縄文土器 深鉢	口縁部					精製/良/黒褐色	波状を呈す、口縁部連続刻み有す、外面横位磨り消し縄文による文様描き、内面刺突文、隆線が巡る。	後期前葉
第23図 PL.135.	50	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/黒褐色	僅かに波状を呈す、口縁部連続刻み有す、外面横位沈線文、内面刺突文、横位並行沈線間に斜めの連続刻み。	後期前葉
第23図 PL.135	51	縄文土器 深鉢	口縁部					精製/良/黒褐色	口縁部連続刻み、横位の並行沈線文、内面連続刺突文、沈線による多段磨り消し縄文。	後期前葉
第23図 PL.135	52	縄文土器 浅鉢	口縁部					精製/良/黒褐色	突起部欠損か、脇に瘤状文、外面無文、内面突起下円形文、口縁部に刻み有す隆線巡り、以下横位複数沈線が円形文に沿うように描かれる。	後期前葉
第23図 PL.135	53	縄文土器 注口土器	胴部					微砂粒/良/黄褐色	肩部分、くの字に内傾、横位複数沈線巡る。	後期前葉
第23図 PL.135	54	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒含む/普通/黒色	無文、整形時の条線残る、補修孔あり。	後期前葉
第23図 PL.135	55	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒含む/普通/黒褐色	無文。	後期前葉
第23図 PL.135	56	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/淡橙褐色	無文。	後期前葉

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第23図 PL.135	57	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒含む/普通/褐色	無文。	後期前葉
第23図 PL.135	58	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/黒色	無文、口縁内面に凹線巡る。	後期後葉
第24図 PL.135	59	縄文土器 深鉢	口縁～胴部					砂粒含む/良/赤茶褐色	頸部やや括れ口縁が開く、無文。	後期前葉
第24図 PL.135.	60	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒含む/普通/明黄褐色	無文胴部。炉内、上部欠け口部分熱による還元化顕著。	後期前葉
第24図 PL.135	61	縄文土器 深鉢	胴部					微砂粒/良/茶褐色	無文胴部、磨き痕見られる。	後期前葉
第24図 PL.135	62	縄文土器 深鉢	底部	底	12.6			砂粒/良/茶褐色	無文底部、底部網代痕。	後期前葉
第24図 PL.135	63	縄文土器 浅鉢	底部	底	6.2			砂粒/良/茶褐色	底部片、やや薄手で底部網代痕見られる。	後期前葉
第24図 PL.135	64	縄文土器 深鉢	底部	底	9.0			精製/良/茶褐色	無文底部、底部が張り出す、底部網代痕。	後期前葉
第24図 PL.136	65	縄文土器 深鉢	底部	底	11.0			砂粒/良/淡黄褐色	底部片。	後期前葉
第24図 PL.136	66	縄文土器 深鉢	底部	底	11.0			微砂粒/良/茶褐色	無文、底部網代痕。	後期前葉
第24図 PL.136	67	縄文土器 深鉢	底部	底	7.0			微砂粒/良/灰茶褐色	底部網代痕。	後期前葉
第24図 PL.136	68	縄文土器 注口土器	口縁～胴部	口	12.0			精製/良/灰黒褐色	口縁部は直立気味に立ち上がり、胴部は球形、注口部分欠損、口縁下および胴下半部に連続する斜めの短沈線文充填した２本の横位沈線文、その間には細沈線による重菱形文、鈎状文様を描く。	後期前葉
第24図 PL.136	69	縄文土器 注口土器	口縁部	口	8.0			精製/良/黒色	口縁部短く外傾、沈線文、細刺突文。	後期前葉
第24図 PL.136	70	縄文土器 注口土器	胴部					微砂粒/良/黄褐色	沈線により重矩形文様描く。	後期前葉
第24図 PL.136	71	縄文土器 注口土器	注口部					精製/良/黒色	注口部、半分を欠損、基部太く短い、胴部には沈線による渦巻き文様。	後期前葉
第25図 PL.136	72	縄文土器 注口土器	注口部					精製/良/黒色	注口中位でやや膨らむ、上下に沈線による渦巻き意匠文様描く。	後期前葉
第25図 PL.136	73	縄文土器 注口土器	注口部					微砂粒/普通/灰白色	基部太く尖端部は細くなる。	後期前葉
第25図 PL.136	74	縄文土器 注口土器	注口部					微砂粒/良/茶褐色	注口部、半分を欠損。	後期前葉
第25図 PL.136	75	縄文土器 注口土器	把手					精製/良/茶褐色	環状把手、頂部は捻れ上端部丸く凹む、環状部内面に円孔。	後期前葉
第25図 PL.136	76	縄文土器 注口	突起･口縁部					精製/良/茶褐色	注口土器の口縁部、環状突起は頭部が円形に作られ、刺突文、沈線文で飾られる、内側に円孔、口縁部には沈線および連続刻み文、外面沈線文、研磨痕あり。	後期前葉
第25図 PL.136	77	縄文土器 注口土器	把手					精製/良/黄褐色	下部広がる橋状把手、頂部は三角に尖り両側は丸く作られ渦巻き文描く、頸部はくの字に屈曲。	後期前葉
第25図 PL.136	78	縄文土器 蓋	把手部欠損					砂粒/良/黄茶褐	把手部分を欠いている、基部周りを沈線巡らし、両側に浅い刺突文さらに外側に長い弧状楕円文描く、それぞれの両端に刺突文配す、裏側は無文で良く研磨されている。	後期前葉
第25図 PL.136	79	縄文土器 土製円盤	完形					砂粒/良/灰褐色	角が残る楕円形。	後期
第25図 PL.136	80	縄文土器 土製円盤	完形					砂粒/良/茶褐色	無文、小型品。	後期
第25図 PL.136	81	縄文土器 土製円盤	完形					砂粒/良/茶褐色	無文、やや楕円形。	後期
第25図 PL.136	82	剥片石器 石鏃	完形	長 幅	2.2 1.4	厚 重	0.3 (0.4)	チャート//	凹基、抉りは浅く円形、小振りで丁寧な作り、側縁に新しい欠けあり。	
第25図 PL.136	83	剥片石器 石鏃	完形	長 幅	2.4 1.4	厚 重	0.4 0.8	チャート//	凹基、抉りは浅い山形、細身で中央部やや厚みを有す、側縁部の作りは丁寧で剥離は細かい。	
第25図 PL.136	84	剥片石器 石鏃	ほぼ完形	長 幅	(1.9) 1.2	厚 重	0.3 (0.4)	チャート//	凹基、抉りはやや浅く、細身で、丁寧な作り。	
第25図 PL.136	85	剥片石器 石鏃	ほぼ完形	長 幅	1.5 (1.3)	厚 重	0.3 (0.3)	黒曜石//	凹基、抉りは浅い山形、小型で丁寧な作り。	
第25図 PL.136	86	剥片石器 石鏃	欠損	長 幅	1.1 (0.9)	厚 重	0.3 (0.3)	赤碧玉//	極めて小型の凹基無茎鏃、押圧剥離による両面加工が認められる、先端部、片脚を欠く。	
第25図 PL.136	87	剥片石器 石鏃	ほぼ完形	長 幅	(1.4) (1.3)	厚 重	0.3 (0.3)	黒曜石//	凹基、抉りは山形で脚の先端部やや細く仕上げる、片脚端部、先端部を僅かに欠く小型品。	
第25図 PL.136	88	剥片石器 石鏃	欠損	長 幅	(2.1) (1.8)	厚 重	0.4 (0.9)	黒色頁岩//	凹基無茎鏃、抉り深く、片脚を欠く、押圧剥離による両面加工が認められる。	
第25図 PL.136	89	剥片石器 石鏃	ほぼ完形	長 幅	(1.6) 1.3	厚 重	0.4 (0.5)	黒曜石//	凹基、片面に主要剥離面広く残す、側縁部に粗い剥離調整。	
第25図 PL.136	90	剥片石器 石鏃	ほぼ完形	長 幅	1.9 (1.5)	厚 重	0.3 0.5	黒曜石//	凹基無茎鏃、押圧剥離による両面加工が認められる。両側縁は鋸歯状を呈する。	
第25図 PL.136	91	剥片石器 石鏃	ほぼ完形	長 幅	1.9 2.1	厚 重	0.7 1.0	流紋岩//	やや不整形な凹基無茎鏃、粗い作りで、歪みあり、未製品か。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第25図 PL.136.	92	剥片石器 石鏃	完形	長 1.9 幅 1.6		厚 0.7 重 1.3		黒曜石//	平基無茎鏃、肥厚した剥片の周囲を粗く調整、未製品とみられる。	
第25図 PL.136	93	剥片石器 石鏃	欠損	長 1.4 幅 1.7		厚 0.5 重 (1.0)		チャート//	平基三角形で一頂点部が肥厚、未製品か。	
第25図 PL.136	94	剥片石器 石鏃	完形	長 2.0 幅 1.7		厚 0.5 重 1.4		チャート//	基部やや張り出す平基、中央部やや厚みあり。	
第25図 PL.136	95	剥片石器 石鏃	欠損	長 (2.1) 幅 (1.5)		厚 0.4 重 (1.0)		チャート//	基部斜めに欠損、片面に主要剥離面広く残す、未製品か。	
第25図 PL.136	96	剥片石器 石錐	欠損	長 4.0 幅 0.6		厚 0.6 重 (1.4)		褐色碧玉//	角状の縦長剥片の一端を錐部として作出、錐部はやや丸みを有す断面三角形で、基部については無調整。	
第26図 PL.136	97	剥片石器 スクレイパー	完形	長 15.0 幅 7.8		厚 2.2 重 210		黒色頁岩//	大型品、木葉状を呈す。弧状を呈す下辺部に、両面からの押圧剥離による粗い刃部が作出される。	
第26図 PL.136.	98	剥片石器 打製石斧	2/3	長 (9.0) 幅 4.9		厚 1.3 重 (58)		黒色頁岩//	短冊形、表裏面の刃部付近には摩滅が認められ使用痕の可能性がある。裏面には上部折断面からの剥離痕が集中し折断後の再加工が認められる。	
第26図 PL.136	99	剥片石器 磨製石斧	4/5	長 (8.6) 幅 (4.4)		厚 2.2 重 (148)		変玄武岩//	丁寧な研磨整形によって器形を整えている。	
第26図 PL.136	100	礫石器 磨製石斧	欠損	長 (11.6) 幅 5.4		厚 3.3 重 (348)		変玄武岩//	刃部両側縁部に稜が見られる、蛤刃型か、基部、刃部欠損。	
第26図 PL.136	101	礫石器 磨製石斧	ほぼ完形	長 10.1 幅 4.6		厚 2.6 重 220		変玄武岩//	小型蛤刃、側縁部の稜は不明瞭、刃部は使用による摩耗、全体に風化顕著。	
第26図 PL.136	102	礫石器 磨石	完形	長 10.4 幅 9.5		厚 5.4 重 835		粗粒輝石安山岩//	やや厚手で扁平な円礫利用、両面に使用痕、浅い凹み有す。	
第26図 PL.136	103	礫石器 凹石	完形	長 12.1 幅 9.2		厚 3.7 重 650		粗粒輝石安山岩//	扁平な亜円礫、両面に一対の凹み穴。	
第26図 PL.136	104	礫石器 凹石	ほぼ完形	長 12.7 幅 6.7		厚 4.0 重 510		粗粒輝石安山岩//	やや扁平な楕円礫利用、両面に２個一対の浅い凹みを有す。	
第26図 PL.137	105	礫石器 磨石	欠損	長 12.5 幅 7.4		厚 2.9 重 430		粗粒輝石安山岩//	小判型の礫利用、両面使用、浅い凹み有す、被熱、両面に部分的な欠損あり。	
第27図 PL.137	106	礫石器 磨石	完形	長 9.9 幅 (8.1)		厚 4.0 重 485		粗粒輝石安山岩//	扁平な円礫利用、両面に使用痕、浅い凹み有す。	
第27図 PL.137	107	礫石器 凹石	完形	長 7.6 幅 6.4		厚 5.7 重 400		粗粒輝石安山岩//	不定型で表面ザラつく石材、一面に浅い不整形な凹みが一対見られる。	
第27図 PL.137	108	礫石器 凹石	完形	長 10.9 幅 9.1		厚 4.3 重 503		粗粒輝石安山岩//	表裏面の中央に浅鉢状の凹みがそれぞれ１カ所認められる。側面部には敲打痕が集中する。	
第27図 PL.137	109	礫石器 凹石	欠損	長 (10.8) 幅 (5.0)		厚 (4.0) 重 (328)		粗粒輝石安山岩//	両面に凹み穴、側面端部を大きく欠損。	
第27図 PL.137	110	礫石器 磨石	2/3	長 (10.9) 幅 (10.0)		厚 3.2 重 (489)		粗粒輝石安山岩//	表裏面のほぼ全面に磨り面が認められる。	
第27図 PL.137	111	礫石器 石皿	欠損	長 8.8 幅 10.5		厚 5.2 重 (685)		粗粒輝石安山岩//	表面は浅く窪み、裏面は平坦で打撃による凹み穴、石皿の欠損品か。	
第27図 PL.137	112	礫石器 磨石	欠損	長 (6.6) 幅 (7.5)		厚 (3.8) 重 (320)		粗粒輝石安山岩//	扁平な円礫、半分を欠く、両面に使用痕、側縁部に打痕あり、被熱。	
第27図 PL.137	113	礫石器 凹石	欠損	長 (6.0) 幅 (6.7)		厚 (3.0) 重 (169)		粗粒輝石安山岩//	扁平礫利用、両面に凹み穴、ほぼ半分に欠損。	
第27図 PL.137	114	礫石器 多孔石	完形	長 17.8 幅 14.8		厚 10.0 重 3396		粗粒輝石安山岩//	表面に漏斗状の孔が多数認められる。その他の部分は自然面であるか判断できない。	
第28図 PL.137	115	礫石器 石皿	不明	長 (11.8) 幅 (8.1)		厚 (6.0) 重 (663)		粗粒輝石安山岩//	表面に磨り面が認められ非常に滑らかである。裏面は曲面で構成され整った形態であり研磨整形されている可能性がある。	
第28図 PL.137	116	軽石製品 砥石	欠損	長 (3.0) 幅 (4.3)		厚 (1.6) 重 (8.0)		軽石//	両面は平らで使用面とみられる、側縁円く成形される。	
第28図 PL.137	117	石製品 石棒	完形	長 24.8 幅 2.5		厚 2.4 重 252.6		緑色片岩//	全体的に滑らかであり整った形態であることから研磨整形されていると考えられる。	
第28図 PL.137	118	礫石器 石棒	欠損	長 (7.2) 幅 2.0		厚 1.9 重 (45)		緑色片岩//	先端部がやや細く作られた丸棒状の石棒片。	
第28図 PL.137	119	礫石器 石棒	ほぼ完形	長 (18.4) 幅 2.5		厚 1.9 重 195.0		珪質頁岩//	短軸側の側面が平らに摺られた断面楕円形、先端はやや細く扁平となる、基部断面は斜めで平らに処理される、表面は良く研磨されている。	

４号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第32図 PL.137	1	縄文土器 深鉢	口縁～胴部	口	45.0			砂粒多く含む/良/茶褐色	口縁に横位沈線、押圧文有す隆線が垂下し頸部横位の沈線に繋がる、以下胴部には複数の斜行沈線文、地に浅い縄文施文、原体太く施文は不規則。	後期前葉
第32図 PL.137.	2	縄文土器 深鉢	口縁～胴部	口	19.0			精製/良/灰黒褐色	口縁下に横位多段沈線文、所々で弧状沈線、刺突文で区切られる、さらに並行沈線による捻り文様が垂下。	後期前葉
第32図 PL.137	3	縄文土器 深鉢	口縁～胴部	口	16.0			精製/良/黒色	口縁に沿って刻み細隆線、４カ所に８字状貼付文、下磨り消し縄文による区画文描き、貼付文下位に渦巻き状懸垂文。	後期前葉
第32図 PL.137	4	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/黒色	口縁下に８字状意匠の円形竹管文、起点にして横位、斜位の沈線が伸びる。	後期前葉

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第32図 PL.137	5	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/暗茶褐色	口縁内傾、屈曲部に連続の横位刺突文。	後期前葉
第32図 PL.137	6	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/黒褐色	小波状部に円形文、左右に沈線による弧状文。	後期前葉
第32図 PL.137	7	縄文土器 深鉢	口縁部	口	11.6			微砂粒/良/黒褐色	口縁外傾し小波状を呈す、波頂部には複数の円形刺突文、短沈線文、さらに８字状貼付文垂下し、貼付文から続く短沈線の両側に弧状の沈線文、地文に斜位集合沈線、縄文横位羽状施文し、波状垂下文見られる。	後期前葉
第32図 PL.137	8	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒含む/良/茶褐色	小波状部には両面からの押圧円形文、周囲に沈線による弧状文、刺突文、左右に延びる沈線文間には連続の刺突文、波頂下から２本の刻み隆帯が垂下し、頸部の横位沈線に繋がる、以下渦巻き文様を描く。	後期前葉
第32図 PL.137	9	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/黄橙色	小波状、口縁部に横位沈線巡り、口縁から頸部にかけ縦位の集合沈線で埋める。	後期前葉
第32図 PL.137	10	縄文土器 深鉢	口縁～胴部					微砂粒/良/黒褐色	口縁部に沈線、横位連続短沈線が見られる、以下集合沈線による垂下文、刺突文。	後期前葉
第32図 PL.138	11	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/灰褐色	波状口縁、波頂部に円孔、刺突文、横位多段沈線文描き、端部が跳ね上がる区画沈線文様、以下沈線で画す横位縄文帯。	後期前葉
第32図 PL.138	12	縄文土器 浅鉢	口縁部					微砂粒/良/淡黄褐色	口縁部内側への折り込み部に、隆帯状の８字状文貼付、沈線による矩形磨り消し縄文。	後期前葉
第32図 PL.138	13	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/淡橙黄色	口縁部やや内傾、端部は平らに押さえられ、沈線巡る、横位沈線、渦巻き懸垂文描く。	後期前葉
第32図 PL.138	14	縄文土器 深鉢	口縁部					精製/良/黒色	波頂部に8字状文突起、以下、横位集合沈線状に（）状沈線文。	後期中葉
第32図 PL.138	15	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/茶褐色	磨り消し縄文による三角文様。	後期前葉
第32図 PL.138	16	縄文土器 鉢	口縁部					微砂粒/良/黄褐色	口唇部に指頭による押圧、上位に沈線、内面に円形文配す、外面８字状貼付文から細隆線左右に延びる以下、磨り消し縄文による曲線文様。	後期前葉
第32図 PL.138	17	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/淡橙黄色	口縁部やや内傾、端部は平らに押さえられ、沈線付される、外面沈線による曲線文描き縄文充填。	後期前葉
第32図 PL.138	18	縄文土器 深鉢	口縁部					精製/良/黒色	口縁端部内屈、刺突文有す細隆線に８字状文、以下沈線による磨り消し縄文文様描く。	後期前葉
第32図 PL.138	19	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/黒褐色	波状突起、キノコ状で両脇の小瘤文から細隆線延び尖端部に円形文、外面は細隆線が口縁に沿って延び、８字状の垂下隆線文、突起内面には横位刺突文列を沈線で四角に囲い横位の隆線が口縁に沿って走る。	後期前葉
第33図 PL.138	20	縄文土器 深鉢	口縁～胴部					砂粒/普通/淡黄褐色	口縁に横位２条の刻み細隆線文巡らす、一部に縦位の刺突文有す細隆線を付し、その間には長方形の細隆線で画した口縁部突起が見られる、胴部には横位沈線下に並行沈線による曲線文が描かれる。	後期前葉
第33図 PL.138	21	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/淡褐色	口縁部に横位刻み隆線、以下磨り消し縄文による曲線文様。	後期前葉
第33図 PL.138	22	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/黄褐色	口縁部に８字状貼付文有す横位刻み隆線、以下磨り消し縄文による矩形文様。	後期前葉
第33図 PL.138	23	縄文土器 深鉢	口縁部					精製/良/黒褐色	口縁部に２本の細隆線、以下沈線による沈線文。	後期前葉
第33図 PL.138	24	縄文土器 深鉢	口縁～胴部					砂粒/良/暗茶褐色	口縁部に２本の横位細隆線を口縁から垂下する、連続の８字状文で繋ぐ、以下磨り消し縄文による三角文、曲線文描く。	後期前葉
第33図 PL.138	25	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/黒色	斜めの刻み有す横位細隆線に円形文、以下磨り消し縄文による矩形文様か。	後期前葉
第33図 PL.138	26	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/茶褐色	口縁部に２本の押圧細隆線。	後期前葉
第33図 PL.138	27	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/茶褐色	口縁部に押圧文細隆線、以下沈線による磨り消し縄文文様。	後期前葉
第33図 PL.138	28	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/黄褐色	口縁部に刻み有す横位細隆線、以下磨り消し縄文による矩形文様描く。	後期前葉
第33図 PL.138	29	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/黒褐色	口縁部に刻み有す横位細隆線、以下磨り消し縄文による横位文様描く。	後期前葉
第33図 PL.138	30	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/黒褐色	口縁部に刻み有す横位細隆線、以下磨り消し縄文による矩形文描く。	後期前葉
第33図 PL.138	31	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/黒褐色	口縁部に横位細隆線、以下磨り消し縄文による曲線文描く。	後期前葉
第33図 PL.138	32	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/暗茶褐色、内面黒色	口縁部に横位細隆線、以下沈線文描く。	後期前葉
第33図 PL.138	33	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/暗茶褐色、内面黒色	口縁部に横位細隆線、以下横位矩形沈線文描く。	後期前葉
第33図 PL.138	34	縄文土器 深鉢	口縁部					精製/良/黄褐色 内面黒色	口縁に押圧有す小突起、円孔あり、口縁に沿って細隆線、以下沈線による曲線文様描く。	後期前葉
第33図 PL.138	35	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/黄褐色	横位縄文帯間に連弧文描く、内面沈線。	後期前葉

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第33図 PL.138	36	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/黒褐色	口縁部直立気味、胴部は丸み有す、口縁部、胴上位に多段横位沈線文。	後期前葉
第33図 PL.138	37	縄文土器 深鉢	口縁部					精製/良/黒色	口唇部刻み、横位磨り消し縄文、内面刺突文、隆線、やや間隔を持って３本の沈線。	後期前葉
第33図 PL.138	38	縄文土器 深鉢	頸部					砂粒/良/黒褐色	横位の刻み細隆線文。	後期前葉
第33図 PL.138	39	縄文土器 深鉢	頸部					砂粒/良/黒色	横位２本の細隆線文を８字状文２本で連結か、以下沈線による曲線文。	後期前葉
第33図 PL.138	40	縄文土器 深鉢	口縁部					精製/良/茶褐色	口縁が開く器形、口縁から刻み有す垂下隆線。	後期前葉
第34図 PL.138	41	縄文土器 深鉢	口縁～胴部					砂粒/普通/黒褐色	口縁部に山形の小突起、胴部無文。	後期前葉
第34図 PL.138	42	縄文土器 深鉢	口縁～胴部	口	33.0			砂粒/良/淡茶褐色	無文、口縁部に折り返し痕。	後期前葉
第34図 PL.139	43	縄文土器 深鉢	口縁～胴部	口 底	23.5 10.5	高	24.0	砂粒/良/黒褐色	無文だが、擦痕状の沈線見られる、底部網代痕。	後期前葉
第34図 PL.139	44	縄文土器 深鉢	口縁～胴部	口	22.0			砂粒/良/黒褐色	無文土器。	後期前葉
第34図 PL.139	45	縄文土器 深鉢	口縁～胴部					砂粒/良/茶褐色	無文、小波状口縁か。	後期前葉
第34図 PL.139	46	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/暗褐色	無文。	後期前葉
第34図 PL.139	47	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/淡黄褐色	無文。	後期前葉
第34図 PL.139	48	縄文土器 深鉢	口縁～胴部					砂粒/良/淡黄褐色	無文、小波状口縁か。	後期前葉
第34図 PL.139	49	縄文土器 深鉢	口縁～胴部					砂粒/良/淡茶褐色	無文大型土器、口縁部から頸部にかけ横位の整形痕目立ち、頸部に段を有す。	後期前葉
第34図 PL.139	50	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/灰褐色	無文。	後期前葉
第34図 PL.139	51	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/茶褐色	２本単位の細沈線斜めに走る、内面に浅い沈線巡る。	後期前葉
第34図 PL.139	52	縄文土器 深鉢	口縁～胴部					砂粒/良/黒褐色	無文、比較的薄手。	後期前葉
第34図 PL.139	53	縄文土器 深鉢	口縁～胴部					微砂粒/良/黄褐色	小型無文土器。	後期前葉
第34図 PL.139	54	縄文土器 深鉢	口縁部					精製/良/黒色	波頂部に８字状文突起、以下、横位集合沈線状に（）状沈線文。	後期中葉
第35図 PL.139	55	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒多く含む/普通/橙褐色	無文、口縁部肥厚し刻み有す。	後期前葉
第35図 PL.139	56	縄文土器 浅鉢	口縁部					微砂粒/良/黒色	口縁部に指頭による折り込み、沈線、円形文付される、内面口縁下に沈線、隆線巡る。	後期前葉
第35図 PL.139	57	縄文土器 浅鉢	口縁部					精製/良/黄褐色	口縁部に指頭による押圧あり、外面無文、内面口縁下横位３本の隆線、一部が沈線で切られている。	後期前葉
第35図 PL.139	58	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/褐色	無文、整形痕残る。	後期前葉
第35図 PL.139	59	縄文土器 浅鉢	口縁～胴部					微砂粒/良/黒褐色	無文、波状口縁、内面口縁部に刻み文沈線が巡る、波頂部に刺突文有す小瘤文付し、以下同心円文描き下位にも円形刺突文。	後期前葉
第35図 PL.139	60	縄文土器 注口土器か	胴部					砂粒/良/黒色	無文胴部、注口土器か。	後期前葉
第35図 PL.139	61	縄文土器 深鉢	底部	底	10.0			砂粒/良/茶褐色	底部網代痕。	後期前葉
第35図 PL.139	62	縄文土器 深鉢	底部	底	7.0			微砂粒/良/黒褐色	無文底部、底部網代痕。	後期前葉
第35図 PL.139	63	縄文土器 深鉢	底部	底	6.8			微砂粒/良/暗茶褐色	無文、底部網代痕。	後期前葉
第35図 PL.139	64	縄文土器 深鉢	底部	底	11.0			砂粒/良/茶褐色	底部網代痕、摩耗あり。	後期前葉
第35図 PL.139	65	縄文土器 注口土器	把手					精製/良/淡黄褐色	三角形の橋状把手、三角部分には縦位刺突文列の左右に斜位沈線を充填、尖端部は内側に向かう動物意匠文か、頭頂部、両側面には沈線で囲った円形文、尖端部には刺突文。	後期前葉
第35図 PL.140	66	縄文土器 注口土器	注口部					精製/良/灰褐色	尖端に向かってやや細くなる、尖端部欠損、二次被熱か。	後期前葉
第35図 PL.140	67	縄文土器 注口土器	胴部					砂粒/良/黒褐色	沈線による矩形文様、縄文充填、胴下半部無文。	後期前葉
第35図 PL.140	68	縄文土器 注口土器	胴部					微砂粒/良/黒色	沈線による矩形文、楕円文、渦巻き文様描く、文様外周に細かい刺突文。	後期前葉
第35図 PL.140	69	縄文土器 注口土器	胴部					微砂粒/良/黒色	沈線による矩形文、楕円文、渦巻き文様描く、文様外周に細かい刺突文。	後期前葉
第35図 PL.140	70	縄文土器 注口土器	胴部					微砂粒/良/黒色	沈線による矩形文、楕円文、渦巻き文様描く、文様外周に細かい刺突文。	後期前葉

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第35図 PL.140	71	縄文土器 注口土器	把手					精製/良/灰黒色	環状把手上端部欠損、把手は板状の作りで胴部側が広く作られる、両脇には沈線文。	後期前葉
第35図 PL.140	72	縄文土器 深鉢	突起					微砂粒/良/黒褐色	突起、上部が凹み刺突文を有す円形文が下部に巡る。	後期前葉
第35図 PL.140	73	縄文土器 深鉢	突起					微砂粒/良/黒褐色	突起、上部楕円形で凹み渦巻き文描かれる、下部に円孔。	後期前葉
第36図 PL.140	74	剥片石器 石鏃	完形	長 1.5 幅 1.1		厚 0.3 重 0.2		黒曜石//	凹基無茎鏃、押圧剥離による両面加工が認められる。	
第36図 PL.140	75	剥片石器 石鏃	完形	長 1.6 幅 1.3		厚 0.4 重 0.5		黒曜石//	平基無茎鏃、押圧剥離による両面加工が認められる。表面の中央に節理面が認められる。	
第36図 PL.140	76	剥片石器 石鏃	ほぼ完形	長 (1.7) 幅 1.4		厚 0.4 重 0.5		流紋岩//	凹基無茎鏃、抉り浅く、押圧剥離による両面加工が認められる、先端を僅かに欠く。	
第36図 PL.140	77	剥片石器 石鏃	完形	長 2.0 幅 1.8		厚 0.5 重 1.1		黒色安山岩//	凹基無茎鏃、圧剥離による両面加工が認められる。	
第36図 PL.140	78	剥片石器 石鏃	完形	長 1.8 幅 1.4		厚 0.3 重 0.5		チャート//	凹基、抉りは浅い山形で、均整のとれた形状、小振りで両面からの押圧剥離加工。	
第36図 PL.140	79	剥片石器 石鏃	欠損	長 1.7 幅 (1.1)		厚 0.4 重 (0.3)		黒曜石//	凹基無茎鏃、やや小型で押圧剥離による両面加工が認められる、片脚を欠く。	
第36図 PL.140	80	剥片石器 石鏃	ほぼ完形	長 2.3 幅 1.9		厚 0.4 重 0.7		流紋岩//	凹基無茎鏃、抉り浅く弧状を呈す、両脚の肩が張る形状、押圧剥離による両面加工が認められる。	
第36図 PL.140	81	剥片石器 石鏃	完形	長 1.6 幅 1.2		厚 0.2 重 0.2		チャート//	凹基無茎鏃、押圧剥離による両面加工が認められる。両側縁は鋸歯状を呈する。	
第36図 PL.140	82	剥片石器 石鏃	完形	長 1.3 幅 1.2		厚 0.2 重 0.2		黒曜石//	凹基無茎鏃、抉り浅い山形、小型品で作りは丁寧。	
第36図 PL.140	83	剥片石器 石鏃	完形	長 2.0 幅 1.6		厚 0.6 重 1.6		黒曜石//	凹基無茎鏃、片面中央部高まり、未製品か。	
第36図 PL.140	84	剥片石器 石鏃	欠損	長 1.0 幅 (1.2)		厚 0.3 重 (0.2)		黒曜石//	小型凹基無茎鏃、脚が開き短身鏃、押圧剥離による両面加工が認められる。	
第36図 PL.140	85	剥片石器 石鏃	完形	長 1.1 幅 1.2		厚 0.2 重 0.2		流紋岩//	平基無茎鏃、押圧剥離による両面加工が認められる。	
第36図 PL.140	86	剥片石器 石鏃	欠損	長 (1.0) 幅 (1.4)		厚 0.3 重 (0.3)		黒曜石//	凹基無茎鏃、脚が開く形状、押圧剥離による両面加工が認められる、先端部を欠く。	
第36図 PL.140	87	剥片石器 石鏃	欠損	長 (1.9) 幅 (0.9)		厚 (0.4) 重 (0.6)		流紋岩//	石鏃先端部片、やや細身の作り、押圧剥離による両面加工が認められる、基部欠損。	
第36図 PL.140	88	剥片石器 石錐	完形	長 3.6 幅 0.8		厚 0.6 重 1.5		流紋岩//	両端が尖る紡錘状を呈す、押圧剥離による両面加工が認められる。	
第36図 PL.140	89	剥片石器 石錐(ドリル)	完形	長 2.1 幅 0.7		厚 0.3 重 0.3		黒曜石//	表裏面の中央に素材剥片段階の剥離面を残す。小型剥片素材と考えられる。周辺部に両面加工を加えることで尖頭部を作出する。	
第36図 PL.140	90	剥片石器 石錐	ほぼ完形	長 (2.5) 幅 (0.8)		厚 0.4 重 0.9		チャート//	棒状錐、錐部押圧剥離による両面加工が認められる、断面はレンズ状。	
第36図 PL.140	91	剥片石器 楔形石器	完形	長 1.9 幅 1.2		厚 0.6 重 (1.4)		流紋岩//	表裏面に両極剥離痕が集中する。	
第36図 PL.140	92	剥片石器 打製石斧	4/5	長 (12.0) 幅 (4.3)		厚 1.7 重 (72)		黒色頁岩//	撥形、表面に素材剥片の主要剥離面を大きく残す。大型の横長剥片を素材とする。	
第36図 PL.140	93	剥片石器 打製石斧	完形	長 12.6 幅 7.2		厚 2.0 重 174		黒色頁岩//	分銅型、表面に素材剥片の主要剥離面を大きく残す。大型の横長剥片を素材とする。裏面の一部に自然面を残し円礫を利用する。	
第36図 PL.140	94	剥片石器 磨製石斧	p3 1/3	長 (6.6) 幅 (4.1)		厚 (2.2) 重 (103)		変玄武岩//	全体的に多方向の細かい擦痕が散在し加工痕と考えられる。丁寧な研磨整形によって器形を整えている。	
第36図 PL.140	95	礫石器 凹石	1/2	長 (6.8) 幅 (6.9)		厚 3.6 重 (217)		粗粒輝石安山岩//	表裏面に凹みがそれぞれ1カ所認められる。表面の一部と裏面のほぼ全面に磨り面が認められる。上端部には敲打痕がある。	
第36図 PL.140	96	礫石器 凹石	完形	長 12.8 幅 7.2		厚 4.6 重 613		粗粒輝石安山岩//	表面に連続する凹みが認められる。裏面には凹みが2カ所認められる。下端及び左側面には敲打痕が認められる。	
第36図 PL.140	97	礫石器 磨石	ほぼ完形	長 (12.1) 幅 6.1		厚 4.1 重 471		粗粒輝石安山岩//	表裏面のほぼ全面に磨り面が認められる。裏面の中央部に敲打痕が僅かに認められる。	
第36図 PL.140	98	礫石器 磨石	完形	長 16.3 幅 6.0		厚 6.4 重 1041		ひん岩//	亜円礫を利用する。表面のほぼ全面に磨り面が認められる。	
第36図 PL.140	99	礫石器 石棒	欠損	長 (10.7) 径 2.6		厚 - 重 (131)		黒色片岩//	棒状で製作時の磨りによる稜線が認められる、両端を欠く。	
第37図 PL.140	100	礫石器 石錘	完形	長 6.1 幅 3.5		厚 1.1 重 42.7		緑色準片岩//	上下端部に断面Ｖ字状の加工痕が認められる。扁平な円礫を利用する。	
第37図 PL.140	101	礫石器 石錘	完形	長 5.1 幅 3.1		厚 1.3 重 34.4		変玄武岩//	扁平な小型長円礫の両端部に、擦り切りにより紐掛け溝。	
第37図 PL.140	102	礫石器 石皿	欠損	長 (3.8) 幅 -		厚 - 重 (51)		粗粒輝石安山岩//	縁は平らで角を持つ器形、石皿の破片とみられる。	製品？
第37図 PL.140	103	礫石器 装飾品の未製品か		長 3.7 幅 2.7		厚 1.2 重 18.4		ぎょくずい//	小扁平礫、光沢あり。	

5号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第40図 PL.140	1	縄文土器 深鉢	完形	口 底	13.0 7.0	高	18.3	精製/良/黒褐色	口縁平面形は丸みを持った菱形状を呈す、底部からやや外傾しほぼ直線的に立ち上がる、４単位の波状を呈す、口唇端部僅かに内傾し連続の刻み、外面横位多段沈線文が横Ｓ字状文により、10単位に画される、内面には隆帯を伴う連続刺突文が全周し、下位には３本の沈線が巡り沈線文間に部分的に縄文が見られる、底部に網代痕。	後期中葉
第40図 PL.140	2	縄文土器 深鉢	口縁部					精製/良/黒褐色	横位４本の沈線巡る、口縁部僅かに内傾し刻み有す、内面連続刺突文と隆帯が巡り、以下沈線で横位細縄文帯が４帯画される。	後期中葉
第40図 PL.140	3	縄文土器 深鉢	口縁～胴部					白色粒多く含む/普通/淡褐色	３本の沈線で横位縄文帯が無文部挟んで２段描かれる、それぞれの所々縦Ｓ字状文で区切られる、口縁部に細かな刻みおよび小突起、刻み文、口縁内面には4本の横位沈線。	後期中葉
第40図 PL.141	4	縄文土器 深鉢	口縁～胴部	口	15.0			精製/良/黒褐色	やや外傾して直線的に立ち上がる器形、薄手の土器、口唇部に間隔を空けて刻み、斜め連続の短沈線が重なり合って横位施文され文様帯を構成、上段部は横位細条線で埋めている。無文部を挟んで、１段目も同様の文様帯、３段目は横位縄文帯から斜めに走る縄文帯、さらにその起点部から渦巻き懸垂文が描かれる、最下段には上位の文様帯と同様で、細条線文様が充填。	後期前葉
第40図 PL.141	5	縄文土器 深鉢	口縁～胴部					精製/良/黒褐色	横位２本沈線文、口縁部に２個一対の小突起・対の突起間内面には刺突文、以下刻み隆線複数沈線文、補修孔あり。	後期前葉
第40図 PL.141	6	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/黒褐色	口縁部ややすぼまり直立気味、口縁部小突起、横位多段沈線文。	後期前葉
第40図 PL.141	7	縄文土器 深鉢	口縁部					精製/良/黒褐色	横位集合沈線文多段施文か、口縁部に８字状の貼付文状小突起、口唇内面に連続刻み。	後期前葉
第40図 PL.141	8	縄文土器 深鉢	口縁～胴部					砂粒/普通/黄褐色	口縁部の無文部やや狭い、頸部に刻み隆線文が巡る、以下複数沈線による横位、斜位文様。	後期前葉
第40図 PL.141	9	縄文土器 深鉢	口縁部					白色粒多く含む/普通/灰褐色	沈線による縄文充填、矩形文描く。	後期中葉
第41図 PL.141	10	縄文土器 深鉢	口縁～胴部					精製/良/淡黄褐色	直線的に立ち上がる、横位の連続刺突文列が２条巡る、口縁部内面に隆帯、および３本の沈線。	後期前葉
第41図 PL.141	11	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/灰褐色	平行刻み細隆線、８字状貼付文、以下横位文様帯。	後期前葉
第41図 PL.141	12	縄文土器 深鉢	口縁部					精製/良/黒褐色	横位２本の細隆線を縦８字状文で連結、以下三角意匠の磨り消し縄文。	後期前半
第41図 PL.141	13	縄文土器 深鉢	口縁部					精製/良/灰黒褐色	口縁部に２本の細隆線、以下横位磨り消し縄文帯。	後期前葉
第41図 PL.141	14	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/暗褐色	平行刻み細隆線、８字状貼付文。	後期前葉
第41図 PL.141	15	縄文土器 0	胴部					砂粒/良/黒色	横位刻み隆線、斜位沈線、縄文施文。	後期前葉
第41図 PL.141	16	縄文土器 深鉢	口縁～胴部					微砂粒、雲母/良/暗茶褐色	波頂部に環状突起、直下には８字状貼付文付し左右に押圧文細隆線が延びる、さらに下には沈線による縄文帯が巡る、沈線帯には、波頂下に山形の凹みが見られる。	後期前葉
第41図 PL.141	17	縄文土器 浅鉢	口縁部					微砂粒/良/茶褐色	無文、口縁に瘤状の小突起、内面４本の多段沈線巡る。	後期前葉
第41図 PL.141	18	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/普通/黒褐色	無文。	後期前葉
第41図 PL.141	19	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒多く含む/普通/黒褐色	口縁部外傾、無文。	後期前葉
第41図 PL.141	20	縄文土器 深鉢	口縁部					精製/良/黄褐色	無文。	後期前葉
第41図 PL.141	21	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/灰黒褐色	無文。	後期前葉
第41図 PL.141	22	縄文土器 浅鉢	口縁部					砂粒/良/茶褐色	無文、口縁部小突起、内面渦巻き文、横位隆帯。	後期前葉
第41図 PL.141	23	縄文土器 浅鉢	口縁部					微砂粒/良/黒褐色	口縁に横８字状貼付文、内面に刺突文、刻み隆線、以下複数の沈線、縦位の短沈線、沈線間連続の刻み。	後期中葉
第41図 PL.141	24	縄文土器 深鉢	突起					砂粒/良/黒褐色	突起上に８字状隆線文、以下８字状文から左右に細隆線文。	後期前葉
第41図 PL.141	25	縄文土器 深鉢	突起					砂粒/良/茶褐色	頭に刺突文有す円形文、円孔あり。	後期前葉
第41図 PL.142	26	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/普通/淡黄褐色	無文胴部、粗製土器。	後期前葉
第41図 PL.142	27	縄文土器 深鉢	底部	底	8.0			精製/良/茶褐色	無文底端部は張る、底部網代痕。	後期前葉
第41図 PL.142	28	縄文土器 深鉢	底部	底	11.6			砂粒/良/淡褐色	無文、底部網代痕。	後期前葉
第41図 PL.142	29	縄文土器 深鉢	底部	底	12.0			砂粒多く含む/普通/灰黄褐色	風化顕著、底部網代痕。	後期前葉

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第42図 PL.142	30	縄文土器 深鉢	底部	底	8.0			砂粒/良/茶褐色	無文で底端部が張る、底部網代痕、上部欠け口部分還元化。	炉内
第42図 PL.142	31	縄文土器 深鉢	底部	底	13.0			微砂粒/良/茶褐色	無文で底端部が張る、底部網代痕。	後期前葉
第42図 PL.142	32	縄文土器 深鉢	底部	底	10.8			砂粒、白色粒/良/茶褐色	無文底部、網代痕。	後期前葉
第42図 PL.142	33	縄文土器 浅鉢	底部	底	9.6			微砂粒/良/茶褐色	胴部は大きく開く、底部網代痕、外縁部分すり減り顕著。	後期前葉
第42図 PL.142	34	縄文土器 浅鉢	底部	底	5.2			微砂粒/良/灰色	底部径小さく胴部は開く、底部網代痕。	後期前葉
第42図 PL.142	35	縄文土器 鉢	底部	底	9.0			微砂粒/良/橙褐色	底部を丸くくり抜き転用か。	後期前葉
第42図 PL.142	36	縄文土器 注口土器	胴部					精製/良/淡黄褐色	算盤玉状の胴部、集合沈線により横位斜位の区画を描き、刺突文、S字状文描く。	後期前葉
第42図 PL.142	37	縄文土器 注口土器	突起					精製/良/黒褐色	環状把手、８字状文、内面側に円孔あり。	後期前葉
第42図 PL.142	38	縄文土器 注口土器	突起					精製/良/灰黒色	環状突起、上部に８字状の装飾隆帯、内面側に円孔あり。	後期前葉
第42図 PL.142	39	縄文土器 深鉢	突起					砂粒/良/茶褐色	突起上に８字状隆線文。	後期前葉
第42図 PL.142	40	縄文土器 注口土器	注口部					精製/良/茶褐色	注ぎ口はやや大きい、付け根部に沈線巡る。	後期前葉
第42図 PL.142	41	縄文土器 注口土器	注口部					精製/良/灰黒色	一部剥落、上部に沈線文。	後期前葉
第42図 PL.142	42	剥片石器 石鏃	完形	長 幅	1.5 0.8	厚 重	0.3 0.3	黒曜石//	小型凹基無茎鏃、抉り山形、両面からの押圧剥離。	
第42図 PL.142	43	剥片石器 石鏃	4/5	長 幅	(1.3) (1.1)	厚 重	0.3 (0.2)	流紋岩//	凹基無茎鏃、押圧剥離による両面加工が認められる。	
第42図 PL.142	44	剥片石器 石鏃	完形	長 幅	1.1 0.8	厚 重	0.2 0.1	流紋岩//	平基無茎鏃、押圧剥離による両面加工が認められる。表裏面の中央に素材剥片段階の剥離面を残す。小型剥片素材と考えられる。	
第42図 PL.142	45	剥片石器 石鏃	ほぼ完形	長 幅	1.1 (0.8)	厚 重	0.3 (0.1)	黒曜石//	凹基無茎鏃、押圧剥離による両面加工が認められる。	
第42図 PL.142	46	剥片石器 石鏃	ほぼ完形	長 幅	1.6 1.2	厚 重	0.4 0.4	黒曜石//	凹基無茎鏃、器底部中央に小さく抉り、押圧剥離による両面加工が認められる、中央部が肥厚、側縁にガジリ。	
第42図 PL.142	47	剥片石器 石鏃	ほぼ完形	長 幅	1.5 1.0	厚 重	0.2 0.2	黒曜石//	凹基無茎鏃、押圧剥離による両面加工が認められる。小型品、片脚の先端部を僅かに欠く。	
第42図 PL.142	48	剥片石器 石鏃	完形	長 幅	1.5 0.7	厚 重	0.3 0.2	黒曜石//	きわめて小型細身の凹基無茎鏃。	
第42図 PL.142	49	剥片石器 石鏃	欠損	長 幅	(2.2) (1.6)	厚 重	(0.4) (0.7)	黒曜石//	凹基無茎鏃、押圧剥離による両面加工が認められる。片脚部分欠く。	
第42図 PL.142	50	剥片石器 石鏃	欠損	長 幅	(1.7) (1.4)	厚 重	0.4 (0.5)	流紋岩//	基部を剥離欠損、両面加工により成形。	
第42図 PL.142	51	剥片石器 石鏃	欠損	長 幅	1.9 1.4	厚 重	0.6 (1.3)	チャート//	平基無茎鏃、押圧剥離による両面加工が認められる、未製品か。	
第42図 PL.142	52	剥片石器 石鏃	ほぼ完形	長 幅	2.3 1.8	厚 重	0.5 1.9	チャート//	押圧剥離による両面加工が認められる、未製品か。	
第43図 PL.142	53	剥片石器 石錐(ドリル)	2/3	長 幅	(2.1) 1.2	厚 重	0.3 (0.5)	流紋岩//	全体的に押圧剥離による両面加工が認められる。先端部欠損。	
第43図 PL.142	54	剥片石器 石錐(ドリル)	完形	長 幅	3.0 1.2	厚 重	0.8 2.0	流紋岩//	裏面に素材剥片の主要剥離面を大きく残す。上側面に素材剥片の打面を残す。押圧剥離による両面加工によって尖頭部を作出する。	
第43図 PL.142	55	剥片石器 打製石斧	完形	長 幅	9.6 4.4	厚 重	2.1 112	ひん岩//	短冊形、粗粒の石材であり全体的に風化が認められる。	
第43図 PL.142	56	剥片石器 打製石斧	ほぼ完形	長 幅	10.8 8.3	厚 重	2.4 174.0	黒色頁岩//	分銅型、やや薄手の作りで短身。	
第43図 PL.142	57	剥片石器 打製石斧	欠損	長 幅	(7.9) (8.2)	厚 重	3.3 (264)	黒色頁岩//	分銅型の刃部または基部か、厚みがあり片面に素材礫の自然面残り摩耗見られる。	
第43図 PL.142	58	礫石器 磨製石斧	完形	長 幅	3.6 1.1	厚 重	0.7 4.1	変質蛇紋岩//	小型細身で、基部は細く、中央部が僅かに膨らむ、刃部は薄く丁寧に作られる。	
第43図 PL.142	59	礫石器 磨製石斧	完形	長 幅	5.6 3.2	厚 重	1.0 30	変質蛇紋岩//	小型定角式、短身で刃部やや広がる。	
第43図 PL.142	60	礫石器 磨石	完形	長 幅	17.7 9.3	厚 重	5.6 1425	粗粒輝石安山岩//	やや大きな長円礫利用、表面に小さな凹み穴が数個直線的に配される、片面は磨り面で使用により平滑。	
第43図 PL.142	61	礫石器 磨石	完形	長 幅	11.7 8.4	厚 重	4.6 600	粗粒輝石安山岩//	やや扁平な楕円礫利用、両面使用面で極めて浅い凹み穴が見られる。	
第43図 PL.142	62	礫石器 磨石	完形	長 幅	13.8 8.0	厚 重	3.2 615	粗粒輝石安山岩//	一端がやや緩やかな扁平楕円礫、表面は全体に僅かに凹んだ使用面、裏面は磨り面としての使用痕顕著で、中央に浅い打痕あり、両側縁部にも打痕。	
第43図 PL.142	63	礫石器 磨石	完形	長 幅	11.6 8.2	厚 重	6.1 861.9	粗粒輝石安山岩//	やや偏平な楕円礫利用、両面使用か、片面は強く被熱、黒く変色発泡し、ひび割れ顕著。	
第43図 PL.142	64	礫石器 凹石	完形	長 幅	14.3 7.8	厚 重	6.1 1023	粗粒輝石安山岩//	表面に凹みが２カ所認められる。裏面の中央部に磨り面が認められる。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第43図 PL.142	65	礫石器 凹石	完形	長 16.3 幅 8.2		厚 3.8 重 747		粗粒輝石安山岩//	表裏面に凹みがそれぞれ２カ所認められる。表面の凹みは浅鉢状を呈し明瞭である。表面のほぼ全面及び裏面の上下端付近に磨り面が認められる。	
第44図 PL.142	66	礫石器 磨石	完形	長 20.2 幅 10.3		厚 5.8 重 2050		粗粒輝石安山岩//	やや大きな長円礫利用、両面共に使用により平滑、凹み穴は見られない。	
第44図 PL.142	67	礫石器 磨石	完形	長 14.3 幅 10.0		厚 5.8 重 1258.8		変質安山岩//	偏平な楕円礫利用、両面使用により平滑。	
第44図 PL.143	68	礫石器 磨石	完形	長 11.5 幅 8.6		厚 5.6 重 901.1		粗粒輝石安山岩//	偏平礫利用、両面使用により平滑。	
第44図 PL.143	69	礫石器 磨石	完形	長 11.8 幅 8.8		厚 5.3 重 909		粗粒輝石安山岩//	表裏面のほぼ全面に磨り面が認められる。表裏面では左右両側面との境界付近に僅かに稜が形成される。下端部に敲打痕が集中する。	
第44図 PL.143	70	石製品 軽石製品	完形	長 11.8 幅 6.7		厚 2.2 重 97		軽石//	表裏面と左右側面との境界付近に稜が形成される。全体的に研磨によって整形されている。	
第44図 PL.143	71	礫石器 軽石製品	ほぼ完形	長 (7.9) 幅 4.1		厚 1.4 重 (13.3)		軽石//	なすび型の板状に研磨成形、上位に両面からの穿孔による穴が空けられている、下端部を僅かに欠損、砥石か。	
第44図 PL.143	72	礫石器 軽石製品	欠損	長 8.5 幅 5.7		厚 3.4 重 (38.0)		軽石//	やや扁平な楕円形に成形、片面が浅く窪む。	
第44図 PL.143	73	礫石器 多孔石	ほぼ完形	長 15.2 幅 13.6		厚 9.0 重 (2330)		粗粒輝石安山岩//	下面がほぼ平らな不定型礫利用、上部に10個程の凹み穴を穿つ。	
第44図 PL.143	74	礫石器 石皿	不明	長 (10.5) 幅 810.9)		厚 7.0 重 (624)		粗粒輝石安山岩//	表面に磨り面が認められ非常に滑らかである。左側面は曲面で構成されるが整った形態であり研磨整形されている可能性がある。裏面には漏斗状の孔が多数認められる。	
第44図 PL.143	75	礫石器 多孔石	完形	長 36.2 幅 23.1		厚 13.2 重 11600		粗粒輝石安山岩//	表裏面に浅鉢状の孔が多数認められる。その他の部分には自然面が広範囲に認められ亜円礫を利用する。	

６号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第47図 PL.143	1	縄文土器 深鉢	口縁～胴部	口 29.0				砂粒/良/茶褐色	胴部直線的に立ち上がる、口縁に３本の押圧文有す瘤状貼付文、胴部は縄文施文後、縦位・斜位の並行沈線を描き、菱形文様を表出する、口縁部内面４本の横位沈線巡る。	後期前葉
第47図 PL.143	2	縄文土器 深鉢	口縁～底部					精製/良/黒色	波頂部に内面を向く横8字状文突起、並行沈線により波頂下に縦Ｓ字状文描き、文様上下から左右に沈線文が延び、三角文を描き、その下側頂点部にもＳ字状文。	後期前葉
第47図 PL.143	3	縄文土器 深鉢	口縁～底部					精製/良/黒色	波頂部に内面を向く横8字状文突起、並行沈線により波頂下に縦Ｓ字状文描き、文様上下から左右に沈線文が延び、三角文を描き、その下側頂点部にもＳ字状文。	後期前葉
第47図 PL.143	4	縄文土器 深鉢	口縁～胴部	口 12.0				微砂粒、雲母、石英粒/良/黒色	口縁部外反、三角の突起状波状口縁、口縁部の稜線明瞭、肩部に横位刺突文列巡らし、以下縄文ＬＲ横位施文。	後期前葉
第47図 PL.143	5	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/淡褐色	口縁部内傾、２本の横位沈線間に連続押圧文、以下無文。	後期前葉
第47図 PL.143	6	縄文土器 深鉢	口縁部					精製/良/灰白色	横8字状突起、円孔２カ所、横位の多段沈線間に縦位刺突文列。	後期前葉
第47図 PL.143	7	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/灰褐色	口縁部内屈、連続刻み文。	後期前葉
第47図 PL.143	8	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/黒色	横位刻み隆線、８字状文貼付、沈線で画した縄文帯垂下。	後期前葉
第47図 PL.143	9	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/灰黄褐色	口縁部内屈、沈線下に連続刻み文。	後期前葉
第47図 PL.143	10	縄文土器 深鉢	口縁部					精製/良/黄褐色 内面黒色	小波状、側面部に楕円文、瘤状突起、以下2本の細隆線を８字状文で繋ぐ。	後期前葉
第47図 PL.143	11	縄文土器 深鉢	口縁部					精製/良/黒褐色	横位縄文帯、内面に多段沈線文。	後期前葉
第47図 PL.143.	12	縄文土器 深鉢	突起					精製/良/黒褐色	口縁部突起文、８字状文を組み合わせ、３個の円孔を有す。	後期前葉
第47図 PL.143	13	縄文土器 突起						微砂粒/良/茶褐色	突起部分、貼付文か。	後期
第47図 PL.143	14	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/黒褐色	口縁内屈し、外面に凹線、以下無文。	後期前葉
第47図 PL.143	15	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/黄褐色	無文薄手、口縁内面に沈線。	後期前葉
第47図 PL.143	16	縄文土器 深鉢	底部	底 12.0				微砂粒/良/黒褐色	底部網代痕。	後期前葉
第47図 PL.143	17	縄文土器 深鉢	底部	底 5.8				白色砂粒/良/茶褐色	小型の底部、底部網代痕。	後期前葉
第47図 PL.143	18	剥片石器 石鏃	欠損	長 (1.9) 幅 1.7		厚 0.4 重 (1.1)		細粒輝石安山岩//	凹基無茎鏃。やや薄手で左右非対称、先端部を欠く。	
第47図 PL.143	19	剥片石器 石鏃	欠損	長 (1.0) 幅 1.3		厚 0.3 重 (0.2)		黒色頁岩//	凹基無茎鏃、やや脚が開く、小型薄手で先端部を欠く。	
第47図 PL.143	20	剥片石器 楔形石器	完形	長 1.9 幅 0.9		厚 0.7 重 0.8		流紋岩//	表裏面に両極剥離痕が集中する。右側面の剥離面は両極加撃に伴う剪断面である。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第47図 PL.143	21	礫石器 凹石	1/2	長 (8.2)	厚 (4.8)	幅 (6.9)	重 (370)	粗粒輝石安山岩//	表面に凹みが２カ所認められる。表裏面の一部に磨り面が認められる。上端部には敲打痕が集中する。	
第47図 PL.143	22	礫石器 磨石	完形	長 9.7	厚 5.2	幅 7.3	重 500	粗粒輝石安山岩//	やや扁平な楕円礫、両面に凹み穴。	

７号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第49図 PL.144	1	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒　雲母・石英粒/良/黒色	口縁部くの字に外反頸部に２本の横位沈線上に８字状以下左右弧状に沈線垂下、口縁部に小突起あり。	後期前葉
第49図 PL.144	2	縄文土器 深鉢	頸部					砂粒/良/淡褐色	頸部に刻み有す細隆線巡り以下沈線文。	後期前葉
第49図 PL.144	3	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/黄褐色	小波状部、円孔、弧状短沈線、内面渦巻き文描く。	後期前葉
第49図 PL.144	4	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/茶褐色	口縁部内屈し凹線巡り、小波状部に円孔、補修孔あり。	後期前葉
第49図 PL.144	5	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/黄褐色	小波状部、円文中心に沈線、左右に２個一対の刺突文付し、左右に2本の沈線が口縁部に延びる、縦位沈線。	後期前葉
第49図 PL.144	6	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/黒褐色	沈線による連続波状文、三角文描き、縄文充填。	後期前葉
第49図 PL.144	7	縄文土器 浅鉢	口縁部					精製/良/黒褐色	口縁部内屈し浅い刻み有す、外面無文、内面刺突文列、隆帯が巡り、さらに４・３・４本の複数横位沈線文、それぞれ沈線間に斜位の連続刻み文と、縦沈線で区切る。	後期前葉
第49図 PL.144	8	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/黒色	無文。	後期前葉
第49図 PL.144	9	縄文土器 注口土器	胴部					精製/良/灰黒色	下半部がやや膨らむ算盤玉状の胴部、横位隆帯巡り、隆線による弧状文が付される。	後期前葉
第49図 PL.144	10	縄文土器 注口土器	口縁～胴部	口 10.0				精製/良/茶褐色	球形の胴部に注口が付く、口縁部に直立気味の環状突起、外側に沈線、内面８字意匠の円孔、直下に急角度の注口が付く、基部断面はやや偏平、沈線が巡る、胴部は２本又は４本単位の細沈線により口縁部からの懸垂渦文、曲線文様描く、体中位に横位沈線巡る、口縁部は強くくの字に折れ、口唇部僅かに立ち上がり斜行刻み。	後期中葉
第49図 PL.144	11	縄文土器 ミニチュア	完形	口 4.0	高 6.5	底 3.5		微砂粒/良/茶褐色	筒状のミニチュア土器、無文で内面に輪積み痕が残る。	後期前葉
第49図 PL.144	12	剥片石器 石鏃	完形	長 1.8	厚 0.3	幅 1.1	重 0.5	流紋岩//	凹基無茎鏃、裏面の中央に素材剥片段階の剥離面を残す。押圧剥離による両面加工が認められる。左側縁は鋸歯状を呈する。	
第49図 PL.144	13	剥片石器 石鏃	完形	長 1.4	厚 0.3	幅 1.1	重 0.3	チャート//	凹基無茎鏃、押圧剥離による両面加工が認められる。右側縁は鋸歯状を呈する。	
第49図 PL.144	14	剥片石器 石鏃	完形	長 1.3	厚 0.3	幅 1.3	重 0.3	黒曜石//	小型の凹基無茎鏃、両面からの押圧剥離で作り出す、均整のとれた形状。	
第49図 PL.144	15	剥片石器 石鏃	欠損	長 (2.5)	厚 0.4	幅 (1.7)	重 (1.3)	細粒輝石安山岩//	凹基無茎鏃、押圧剥離による両面加工が認められる、先端部、両脚を欠損。	
第49図 PL.144	16	剥片石器 石鏃	2/3	長 (1.8)	厚 0.4	幅 (1.9)	重 (1.2)	細粒輝石安山岩//	凹基無茎鏃、押圧剥離による両面加工が認められる。表面の上部に先端の折断面を打面とする微細な剥離痕が僅かに認められる。	
第49図 PL.144	17	剥片石器 石匙	完形	長 4.0	厚 0.6	幅 2.8	重 4.2	珪質頁岩//	裏面に素材剥片の主要剥離面を大きく残す。縁辺部に僅かに二次加工を加えることで整形している。	
第49図 PL.144	18	剥片石器 打製石斧	完形	長 10.6	厚 1.5	幅 4.5	重 105	粗粒輝石安山岩//	撥形、表面の刃部付近に部分的な摩滅が認められ使用痕の可能性がある。	
第49図 PL.144	19	石製品 石棒	不明	長 (14.9)	厚 (2.4)	幅 (6.7)	重 (333)	緑色片岩//	外面は比較的滑らかな曲面で構成されており研磨整形されている。	

８号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第51図 PL.144	1	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒多く含む/普通/茶褐色	３本の垂下刺突文列。	後期初頭
第51図 PL.144	2	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒多く含む/普通/茶褐色	波頂部は筒状突起、上部に対向Ｃ状文、外面沈線により懸垂文様描き縄文充填。	後期初頭
第51図 PL.144	3	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/普通/茶褐色	波頂部に刺突文、口縁に巡る沈線から曲線文描く。	後期初頭
第51図 PL.144	4	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/淡茶褐色	横位隆線巡り、口縁無文部を画す。	後期初頭
第51図 PL.144	5	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/淡茶褐色	横位隆線巡り、口縁無文部を画す。	後期初頭
第51図 PL.144	6	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒多く含む/普通/茶褐色	並行沈線による曲線文描き縄文充填、器面風化。	後期初頭
第51図 PL.144	7	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/黄褐色	横位隆線に円形貼付文、垂下隆線。	後期初頭

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第51図 PL.144	8	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/黄褐色	横位隆線に円形貼付文、垂下隆線。	後期初頭
第51図 PL.144	9	縄文土器 深鉢	底部	底	10.0			砂粒/良/黄褐色	底部片、内面に煤付着。	炉体土器
第51図 PL.144	10	縄文土器 腕輪	1/5					砂粒/良/茶褐色	土製腕輪片、表面に縄文施文。	後期か
第51図 PL.144	11	礫石器 磨石	欠損	長 幅	11.4 8.1	厚 重	4.0 620	変質安山岩//	扁平な楕円礫利用、両面使用により平滑、側縁部僅かに欠損。	

９号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第53図 PL.145	1	縄文土器 深鉢	口縁～胴部	口	40.0			砂粒/良/橙褐色	口縁部隆帯による楕円渦巻き文、中を縦位集合沈線、縄文で交互に充填施文、胴部は２本または３本単位の垂下沈線文で分割し、間には縄文施文。	中期後葉
第53図 PL.145	2	縄文土器 深鉢	口縁部	口	35.0			雲母、石英粒/良/暗茶褐色	口縁部に断面三角の隆帯で縦連結渦巻き文、左右に延びた刺突文伴う並行隆帯間に、渦文、楕円文組み合わせ文描く、楕円文内には縦位集合沈線、胴部には両端渦文、弧状集合沈線文。	中期後葉
第53図 PL.145	3	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/普通/灰褐色	隆帯による渦巻き楕円文。	中期後葉
第53図 PL.145	4	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/普通/灰褐色	隆帯による渦巻き楕円文。	中期後葉
第53図 PL.145	5	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒多く含む/普通/茶褐色	横位隆帯から隆帯による懸垂文。	中期末
第53図 PL.145	6	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/普通/黄褐色	隆帯により渦文基調の文様描き縄文充填。	中期後葉
第53図 PL.145	7	縄文土器 深鉢	口縁・胴部					微砂粒/良/暗褐色	波状口縁、波頂部欠損、口縁に沿って低い隆帯、波頂下には隆線と幅広凹線が対弧状垂下、間隙を縄文で埋める。	中期末
第53図 PL.145	8	縄文土器 深鉢	口縁・胴部					微砂粒/良/暗褐色	波状口縁、波頂部欠損、口縁に沿って低い隆帯、波頂下には隆線と幅広凹線が対弧状垂下、間隙を縄文で埋める。	中期末
第53図 PL.145	9	縄文土器 深鉢	胴部～底部	底	7.4			砂粒/普通/茶褐色	隆帯による８本の垂下文、中に縦位隆線文を持つものが渦巻き文と1つ置きに見られる、文様間には斜行沈線文。	中期後葉
第54図 PL.145	10	剥片石器 石鏃	欠損	長 幅	(1.5) 1.2	厚 重	0.3 (0.4)	チャート//	小型の凹基無茎鏃、抉り浅く基部が僅かに肥厚する、先端部、側縁に新しい欠損あり。	
第54図 PL.145	11	剥片石器 石鏃	完形	長 幅	1.8 1.3	厚 重	0.3 0.4	黒曜石//	凹基無茎鏃、抉りは円く、身全体に僅かに反りが見られる。	
第54図 PL.145	12	剥片石器 石鏃	ほぼ完形	長 幅	(1.7) 1.7	厚 重	0.3 (0.6)	チャート//	凹基無茎鏃、やや脚が開く形状、先端部僅かに欠く。	
第54図 PL.145	13	剥片石器 石鏃	欠損	長 幅	(1.3) 2.0	厚 重	0.4 (0.5)	黒曜石//	凹基無茎鏃、浅い山形の抉りで、両側縁部はやや円みを有す、押圧剥離による両面加工が認められる、先端部を欠く。	
第54図 PL.145	14	剥片石器 楔形石器	0 4/5	長 幅	2.6 2.7	厚 重	0.6 (2.8)	黒曜石//	表裏面に両極剥離痕が集中する。表裏面すべての剥離面が両極加撃により生じた剥離面と判断される。	
第54図 PL.145	15	剥片石器 打製石斧	欠損	長 幅	(12.0) 5.0	厚 重	1.2 126	細粒輝石安山岩//	短冊型、僅かに刃部が幅広でやや薄手の作り、刃部一部欠損し使用痕見られる。	
第54図 PL.145	16	礫石器 磨石	完形	長 幅	13.6 6.5	厚 重	5.1 735	粗粒輝石安山岩//	細長い長円礫利用、表面平滑で浅い２カ所の凹み穴有す、両端部打痕見られる、煤僅かに付着。	
第54図 PL.145	17	礫石器 磨石	欠損	長 幅	(8.8) 6.7	厚 重	3.5 (259)	粗粒輝石安山岩//	扁平な長円礫利用、両面に浅い凹み穴、半分欠損、僅かに煤付着。	

10号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第56図 PL.145	1	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/普通/黄褐色	横位隆帯。	後期初頭
第56図 PL.145	2	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/普通/黒褐色	横位沈線、以下縄文施文か。	後期初頭
第56図 PL.145	3	縄文土器 深鉢	突起					微砂粒/良/黒色	波頂部突起片、内面に刺突文、円形文。	後期初頭
第56図 PL.145	4	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/普通/茶褐色	磨り消し縄文。	中期末
第56図 PL.145	5	縄文土器 深鉢	胴部					微砂粒/良/暗灰黒色	垂下沈線文。	後期前葉
第56図 PL.145	6	縄文土器 深鉢	胴部					微砂粒/良/暗灰黒色	垂下沈線文。	後期前葉
第56図 PL.145	7	縄文土器 土製円盤						砂粒/普通/茶褐色	やや不定形。	後期
第56図 PL.145	8	縄文土器 土製円盤						砂粒/普通/茶褐色	小型品。	後期

11号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第60図 PL.146	1	縄文土器 深鉢	口縁～胴部	口	47.0			砂粒/良/灰黄褐色	波状口縁、波頂部欠損、円文、短沈線、口縁に沈線文、波頂下から押圧隆線垂下し頸部の横位押圧隆線に繋がる、交点部に８字状文、以下胴部に４本単位の沈線による、渦文、垂下弧状文を描く。	後期前葉
第60図 PL.146	2	縄文土器 深鉢	口縁～胴部	口	17.8			砂粒/普通/淡黄褐色	口縁３カ所に小突起文、両面から円形刺突文、下位に隆起８字状文貼付、さらに上向きのＣ字状文を描く、間には長楕円文描き刺突文で埋める、以下縄文施文し、刺突文を伴う波状懸垂文描く。	後期前葉
第60図 PL.146	3	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/茶褐色	小波状、両面に円文、刺突文、以下押圧隆線文垂下。	後期初頭
第60図 PL.146	4	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/茶褐色	口縁部、横位並行沈線間に刺突文。	後期初頭
第60図 PL.146	5	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/普通/茶褐色	小波状突起有す、斜行刻み有す突起文、波頂下には刺突文有す隆帯文が頸部まで垂下、頸部刺突文伴う横位沈線。	後期前葉
第60図 PL.146	6	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/普通/黒色	横位多段沈線文、以下複数沈線による幾何学文様描く。	後期前葉
第60図 PL.146	7	縄文土器 深鉢	口縁部					精製/良/灰黒色	口縁部外反、端部が短く立つ、端部側縁に円形文付し左右に弧状沈線、さらに沈線が延びる、以下無文。	後期前葉
第60図 PL.146.	8	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒多く含む/良/茶褐色	小波状突起部、両面に押圧円文、刺突文。弧状文で囲う、以下押圧文有す垂下隆線。	後期前葉
第60図 PL.146	9	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/灰黒色	口縁部内傾、小波状部に円孔、周りには円文、弧状文、以下懸垂渦文、地には縄文施文。	後期前葉
第60図 PL.146	10	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/灰黒色	口縁部内傾、小波状部に円孔、周りには円文、弧状文、以下懸垂渦文、地には縄文施文。	後期前葉
第60図 PL.146	11	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/黒褐色	口縁部小突起、円孔有し両面に刺突文、以下押圧細隆線垂下。	後期前葉
第60図 PL.146	12	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/黒褐色	頸部くの字に折れる、口縁部小波状で円孔有す、上位に沈線挟んで刺突文、以下端部に円形文持つ隆線垂下、周りを弧状沈線文、文様間は細縄文で埋める。	後期前葉
第60図 PL.146	13	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/黒褐色	口縁に横位沈線巡る、以下縦位斜位の垂下沈線文。	後期前葉
第60図 PL.146	14	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/茶褐色	口縁部に沈線、沈線内に３個の円形刺突文付し、そこから３本の沈線垂下、やや離れて２本が垂下し、間に縦位矢羽根状沈線文を充填。	後期前葉
第60図 PL.146	15	縄文土器 深鉢	突起					微砂粒/良/灰黒色	波頂部の環状突起、先端は尖る、左右に複数の刺突文、以下縄文施文。	後期初頭
第61図 PL.146	16	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/普通/黒褐色	大型土器の胴部、縦位、斜位の垂下沈線文。	後期前葉
第61図 PL.146	17	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/普通/黒褐色	頸部横位沈線、以下３本単位の垂下沈線文。	後期前葉
第61図 PL.146	18	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/茶褐色	縄文地文、３本単位の沈線により縦位、斜位の懸垂文。	後期前葉
第61図 PL.146	19	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/茶褐色	２本の８字状文貼付、下部に上向きＣ字状文。	後期前葉
第61図 PL.146	20	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/黒褐色	両側に円形文有す肥厚貼付文、これを巡る弧状文描き、さらに横位楕円文内に連続円形刺突文、以下曲線文間に縄文充填。	後期前葉
第61図 PL.146	21	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/茶褐色	縄文地文、垂下沈線文。	後期前葉
第61図 PL.147	22	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒多く含む/普通/暗茶褐色	３・４本単位の沈線による渦巻き文、斜行懸垂文。	後期前葉
第61図 PL.147	23	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒多く含む/普通/暗茶褐色	３・４本単位の沈線による渦巻き文、斜行懸垂文。	後期前葉
第61図 PL.147	24	縄文土器 深鉢	口縁・胴部					砂粒多く含む/普通/淡黄褐色	口縁下に横位沈線、沈線による渦文、曲線文様描く。	後期前葉
第61図 PL.147	25	縄文土器 深鉢	口縁・胴部					砂粒多く含む/普通/淡黄褐色	口縁下に横位沈線、沈線による渦文、曲線文様描く。	後期前葉
第61図 PL.147	26	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/茶褐色	波状口縁、波頂部欠損、円孔あり、沈線による重菱形文。	後期前葉
第61図 PL.147	27	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/黒色	波状口縁、波頂部に刺突文、左右に沈線延びる。	後期前葉
第61図 PL.147	28	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/黒色	口縁部内屈、沈線巡る。	後期前葉
第62図 PL.147	29	縄文土器 浅鉢	口縁部					精製/良/茶褐色	円形突起、頂部に隆線、円形貼付文、下位に円孔、左右に刺突文有す貼付文、外面は刺突文有す並行細隆線を８字状文で連結、以下無文帯を挟んで沈線区画の横位縄文帯。	後期前葉
第62図 PL.147	30	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/黄褐色	横位並行する刺突文細隆線文、以下沈線による幾何学文か。	後期前葉
第62図 PL.147	31	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/黄橙色	横位平行細隆線を刺突文隆線で繋ぐ。	後期前葉

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第62図 PL.147	32	縄文土器 深鉢	口縁部・突起					精製/良/黒色	波頂部に突起、キノコ状の上部に両端膨らむＣ状隆線文、波頂下に８字状文、左右に刻み有す細隆線が延びる、内文は円形文から左右に沈線。	後期中葉
第62図 PL.147	33	縄文土器 深鉢	口縁部・突起					精製/良/黒色	波頂部に突起、キノコ状の上部に両端膨らむＣ状隆線文、波頂下に８字状文、左右に刻み有す細隆線が延びる、内文は円形文から左右に沈線。	後期中葉
第62図 PL.147	34	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/赤褐色	斜格子状沈線文帯描きその上に、３本の横位沈線で文様帯を構成。	後期前葉
第62図 PL.147	35	縄文土器 浅鉢	口縁部					精製/良/暗褐色	口縁に小突起文、外面無文で研磨される、内面突起文下に横楕円枠文、両端に円孔、刻み文で繋ぐ、左右に延びる横位の沈線文帯、楕円枠文下では沈線がＵ字状に落ち込み中には渦文。	後期中葉
第62図 PL.147	36	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/黒褐色	沈線による斜格子文。	後期前葉
第62図 PL.147	37	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/灰褐色	横位縄文帯、以下２本沈線で連続三角文、口縁内面横位沈線。	後期前葉
第62図 PL.147	38	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/灰黒色	口縁に刻み、外面横位多段沈線、内面3本の横位沈線。	後期前葉
第62図 PL.147	39	縄文土器 深鉢	口縁部					精製/良/黒褐色	口縁部連続刻み、横位の並行沈線文、内面連続刺突文、沈線による多段磨り消し縄文。	後期前葉
第62図 PL.147	40	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/茶褐色	多段横位沈線、内面口縁に横位沈線。	後期前葉
第62図 PL.148	41	縄文土器 深鉢	口縁部					精製/良/黒色	口縁部に斜行刻み、以下横位集合沈線、無文帯下には横位縄文帯。	後期中葉
第62図 PL.148	42	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/茶褐色	口唇部僅かに瘤状肥厚、上部に刺突文有す、沈線文描き縄文充填。	後期前葉
第62図 PL.148	43	縄文土器 深鉢	口縁・胴部					砂粒/普通/黄褐色	磨り消し縄文により幾何学文描く、口縁内面に横位沈線。	後期前葉
第62図 PL.148	44	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/黒褐色	口縁部に刻み、３本の横位沈線間に２本沈線による連続山形文。	後期前葉
第62図 PL.148	45	縄文土器 深鉢	口縁部					精製/良/黒褐色	口縁部に刻み、横位多段並行沈線文、口縁部内面沈線。	後期前葉
第62図 PL.148	46	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/茶褐色	口縁部に４本横位沈線、細縄文ＬＲ施文後弧状垂下文。	後期前葉
第62図 PL.148	47	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/茶褐色	口縁部に４本横位沈線、細縄文ＬＲ施文後弧状垂下文。	後期前葉
第62図 PL.148	48	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/灰黒色	無文口縁。	後期後葉
第62図 PL.148.	49	縄文土器 鉢	口縁部					微砂粒/良/黒色	大きく口縁が開く、頸部に沈線巡る、口縁内面に横位沈線。	後期前葉
第62図 PL.148	50	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/茶褐色	沈線で画した横位縄文帯、口縁内面横位沈線。	後期中葉
第62図 PL.148	51	縄文土器 深鉢	口縁・胴部					砂粒/良/茶褐色	口縁下に沈線で画した横位縄文帯、縄文ＬＲ横位充填施文。	後期前葉
第63図 PL.148	52	縄文土器 深鉢	口縁～胴部	口	19.2			精製/良/灰黒褐色	３カ所の小波状口縁、口縁平面形は丸みを有す三角形、外面波頂下に並行沈線による連続８字状文、これらを横位5本の多段沈線文で繋ぐ、下段部僅かに縄文施文見られる、以下無文、補修孔あり、内面も同様の横位多段沈線文、波頂下部分には渦文、多段沈線文には縦位切り分け文、下位には丸い垂下Ｊ字文、内外面良く研磨される。	後期中葉
第63図 PL.148	53	縄文土器 深鉢	胴部					精製/良/黒色	横位磨り消し縄文帯を繋ぐように円形文、捻れ文描く。	後期前葉
第63図 PL.148	54	縄文土器 深鉢	口縁～胴部	口	31.0			砂粒/良/淡黄褐色	無文大型深鉢。	後期前葉
第63図 PL.148	55	縄文土器 深鉢	頸部～胴部					砂粒/良/茶褐色	横位細隆線上に８字状貼付文。	後期前葉
第63図 PL.148	56	縄文土器 深鉢	口縁～胴部					微砂粒/良/茶褐色	口縁に押圧による凹み、内面に横位沈線、下位部に８字状貼付文と横位細隆線。	後期前葉
第63図 PL.148	57	縄文土器 深鉢	口縁・胴部					砂粒/良/茶褐色	口縁下に沈線で画した横位縄文帯、縄文ＬＲ横位充填施文。	後期前葉
第63図 PL.148	58	縄文土器 深鉢	胴部					微砂粒/良/灰褐色	無文胴部、内面煤付着。	後期中葉
第63図 PL.148	59	縄文土器 浅鉢	口縁部					微砂粒/良/茶褐色	突起部欠損か、外面無文、内面突起下円孔、以下横位複数沈線が円形文に沿うように描かれる。	後期前葉
第64図 PL.149	60	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/茶褐色	無文。	後期前葉
第64図 PL.149	61	縄文土器 深鉢	底部	底	12.0			砂粒/普通/橙茶褐色	無文、底部網代痕、内面下位に煤付着。	後期前葉
第64図 PL.149	62	縄文土器 深鉢	底部	底	8.8			砂粒多く含む/普通/橙茶褐色	無文、底部網代痕。炉内。	後期前葉
第64図 PL.149	63	縄文土器 深鉢	底部	底	9.4			砂粒/良/茶褐色	無文底部。	後期前葉
第64図 PL.149	64	縄文土器 深鉢	底部	底	9.5			砂粒/普通/茶褐色	底部網代痕。	後期前葉

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第64図 PL.149	65	縄文土器 浅鉢	底部	底	6.6			微砂粒/普通/黒褐色	無文底部片、底部網代痕。	後期前葉
第64図 PL.149	66	縄文土器 器台か	脚部	底	6.0			精製/良/黒色	底端部大きく張り、外反して立ち上がる、下位に横位2本沈線、上位に円孔か、底部は円環状で網代痕あり、外面良く研磨される、上部欠損しており形状は不明な点が多い。	後期中葉か
第64図 PL.149	67	縄文土器 深鉢	底部	底	5.4			精製/良/黒褐色	横位沈線、曲線文描く、底部網代痕。	小型土器、後期前葉
第64図 PL.149	68	縄文土器 深鉢	底部	底	5.3			砂粒/良/茶褐色	網代痕有す底部、土製円板に転用か。	後期前葉
第64図 PL.149	69	縄文土器 台付き土器	台部					砂粒/良/茶褐色	脚台部片か底面部が丸く盛り上がる、脚部が広がり透かし孔有すか、側縁部に円孔、沈線文。	後期
第64図 PL.149	70	縄文土器						砂粒/良/茶褐色	円形の貼付文か。	後期前葉
第64図 PL.149	71	縄文土器 蓋	胴部	径	9.0			砂粒/良/橙茶褐色	円形の蓋、甲高で上部に把手状のつまみが付されていたものと思われるが、欠損している。	後期
第64図 PL.149	72	剥片石器 石鏃	ほぼ完形	長 幅	2.6 1.8	厚 重	0.7 1.1	流紋岩//	平基無茎鏃、厚みあり鋭利さは見られず、非実用品、器面風化。	
第64図 PL.149	73	剥片石器 石鏃	完形	長 幅	2.7 1.3	厚 重	0.4 0.8	流紋岩//	凹基無茎鏃、押圧剥離による両面加工が認められる。	
第64図 PL.149	74	剥片石器 石鏃	4/5	長 幅	(1.5) 1.2	厚 重	0.3 (0.3)	黒曜石//	凹基無茎鏃、表裏面の中央に素材剥片段階の剥離面を残す。小型剥片素材と考えられる。押圧剥離によって整形する。左脚部を僅かに舌状に作出する。	
第64図 PL.149	75	剥片石器 石鏃	欠損	長 幅	(1.2) (1.4)	厚 重	0.2 (0.3)	黒曜石//	凹基無茎鏃、抉り深い、押圧剥離による両面加工が認められる、片脚、先端部僅かに欠く。	
第64図 PL.149	76	剥片石器 石鏃	ほぼ完形	長 幅	(1.4) 1.3	厚 重	0.3 0.3	チャート//	小型凹基無茎鏃、抉り浅く薄手の作り。	
第64図 PL.149	77	剥片石器 石鏃	完形	長 幅	1.5 1.2	厚 重	0.2 0.2	チャート//	小型平基無茎鏃、薄手作り。	
第64図 PL.149	78	剥片石器 石匙	完形	長 幅	5.1 5.3	厚 重	1.5 29.6	珪質頁岩//	横型、角の取れた台形で上部に肉薄のつまみが付く、片側が厚く、刃は下縁部に作出される。	
第64図 PL.149	79	礫石器 多孔石	完形	長 幅	18.0 18.6	厚 重	9.9 3612	珪質変質岩//	表裏面に漏斗状あるいは浅鉢状の孔が多数認められる。その他の部分には自然面であり円礫を利用する。	
第65図 PL.149	80	礫石器 磨石	完形	長 幅	13.2 7.4	厚 重	3.7 670	粗粒輝石安山岩//	小判型の礫利用、両面使用、浅い凹み有す。	
第65図 PL.149	81	礫石器 磨石	完形	長 幅	10.0 8.4	厚 重	7.0 822	石英閃緑岩//	表面の中央部に磨り面が認められる。側面部を中心に敲打痕が散在する。	
第65図 PL.149	82	礫石器 石皿	欠損	長 幅	(7.8) (8.6)	厚 重	(6.9) (388)	粗粒輝石安山岩//	側面部は底部からやや外傾して立ち上がり、縁は厚み無く高く作られる、作業面は平らに成形されている、縁部分の欠損品。	
第65図 PL.149	83	礫石器 石棒	欠損	長 幅	(16.3) 2.7	厚 重	(2.2) (240)	緑色片岩//	断面は僅かに楕円を呈し、先端部は細くなり、端部は平らに仕上げられている。	
第65図 PL.149	84	礫石器 石棒	欠損	長 径	(13.4) 2.6	厚 重	- (206)	緑色片岩//	丸棒状で両端を欠く。	

12号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第68図 PL.150	1	縄文土器 深鉢	口縁～胴部	口	12.5			砂粒/良/黒褐色	３単位の円形突起、突起下に円形文、それぞれの円形文から、左右に刺突文有す隆線文延びて繋ぐ、以下横位沈線で画した縄文帯。	後期前葉
第68図 PL.150	2	縄文土器 深鉢	口縁部					精製/良/黒色	波頂部に突起、側面に円形文、裏面に半貫通の円孔、波頂下に連続８字状文描く、左右に縄文帯延び、下位には横位沈線、内面２本凹線。	後期中葉
第68図 PL.150	3	縄文土器 深鉢	胴部					微砂粒/良/暗褐色	並行横位細隆線文。	後期前葉
第68図 PL.150	4	縄文土器 深鉢	胴部					微砂粒/良/黒色	沈線による矩形文。	後期前葉
第68図 PL.150	5	縄文土器 深鉢	底部	底	11.0			砂粒/良/暗茶褐色	底部に網代痕。	後期前葉
第68図 PL.150.	6	縄文土器 深鉢	底部	底	7.0			精製/良/茶褐色	底部に網代痕。	後期前葉
第68図 PL.150	7	縄文土器 注口土器	把手					微砂粒/良/黄褐色	丸棒状で、端部膨らみ＜状の沈線を密接全周、口縁接合部に円孔。	後期中葉
第68図 PL.150	8	剥片石器 石鏃	欠損	長 幅	1.7 (1.0)	厚 重	0.3 0.4	流紋岩//	凹基無茎鏃、抉り浅く脚も短い、押圧剥離による両面加工が認められる、片脚を欠く。	
第68図 PL.150	9	剥片石器 石匙	未製品	長 幅	3.7 1.9	厚 重	0.9 5.2	流紋岩//	小型石匙の未製品か、厚手の粗く作り出した身の上部につまみ部が見られる。	
第68図 PL.150	10	剥片石器 石匙	完形	長 幅	5.9 3.0	厚 重	0.9 13.6	黒色頁岩//	縦型、木の葉形を呈す剥片上部に短くつまみが作出される、刃部は片側に稜が残り厚くなっている、薄くなった側に刃部が作出される。	
第69図 PL.150	11	礫石器 磨石	完形	長 幅	10.8 7.6	厚 重	4.8 650	粗粒輝石安山岩//	扁平な楕円礫、使用面平滑で片面側に浅い凹み有す。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第69図 PL.150	12	礫石器 磨石	完形	長	9.6	厚	5.6	粗粒輝石安山岩//	不定型な礫を利用、使用面平滑、一部煤付着。	
				幅	8.7	重	740			
第69図 PL.150	13	礫石器 磨石	完形	長	12.4	厚	5.4	粗粒輝石安山岩//	扁平な円礫利用、片面がやや膨らむ、両面使用面で平滑。	
				幅	11.9	重	975			
第69図 PL.150	14	礫石器 磨石	完形	長	11.2	厚	4.1	粗粒輝石安山岩//	扁平な不定楕円礫、両面使用面、側縁部に打痕、被熱。	
				幅	8.2	重	590			
第69図 PL.150	15	礫石器 磨石	完形	長	11.4	厚	3.5	粗粒輝石安山岩//	扁平な不定楕円礫、両面使用面、被熱。	
				幅	6.8	重	480			
第69図 PL.150	16	礫石器 磨石	完形	長	6.1	厚	3.8	粗粒輝石安山岩//	小振りの円礫、表面ざらつく、砥石として利用か。	
				幅	5.2	重	117			
第69図 PL.150	17	礫石器 磨石	欠損	長	10.0	厚	(5.7)	粗粒輝石安山岩//	やや扁平な円礫、使用面平滑、被熱か、割れている。	
				幅	9.8	重	(690)			
第69図 PL.150	18	礫石器 磨石	ほぼ完形	長	17.1	厚	4.9	粗粒輝石安山岩//	棒状礫の比較的平らな面を使用面としている、両端部に打痕。	
				幅	5.3	重	800.0			

13号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第71図 PL.150	1	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/黒褐色	口縁部無文、頸部横位隆帯。	後期前葉
第71図 PL.150	2	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/黒褐色	両端部にＣ状文有す橋状把手、両脇に沈線による楕円文か。	後期初頭
第71図 PL.150	3	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/普通/黒褐色	横位隆帯、以下縄文。	後期初頭
第71図 PL.150	4	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/茶褐色	縦位並行沈線で胴部分割、縄文施文後沈線による対向蕨手文。	中期後葉

14号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第74図 PL.150	1	縄文土器 深鉢	胴部～底部	底	0 5.0	0 0	0 0	微砂粒/良/茶褐色	小振りの底部から膨らみを持って帯上がる、肩部からの渦巻き文、波状文、Ｊ字状文、短沈線文等の懸垂文描く、地文縄文施文。	炉体土器、後期前葉
第74図 PL.150	2	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/黒褐色	波頂部に円孔、および円形文、円孔横には重弧状文、以下無文。	後期前葉
第74図 PL.150	3	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/茶褐色	口縁部に円形突起組み合わせのＣ字状文、左右に沈線に挟まれた縄文帯が延びる、下位には沈線文か。	後期前葉
第74図 PL.150	4	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/灰褐色	口縁部に２個の円形文、横位刻み隆線文、以下縄文施文。	後期前葉
第74図 PL.150	5	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/普通/黒褐色	波頂部、２重円形文、周囲に円形刺突文。	後期前葉
第74図 PL.150	6	縄文土器 深鉢	口縁部		0 0	0 0	0 0	砂粒/良/茶褐色	波状口縁部、波頂部から押圧文隆帯が垂下。	後期前葉
第74図 PL.150	7	縄文土器 深鉢	口縁～胴部	口	10.0			砂粒/良/黒褐色	頸部括れ、口縁は外反、胴部横位沈線文下は曲線文および縄文施文。	後期前葉
第74図 PL.150	8	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/灰褐色	横位沈線から沈線による懸垂曲線文。	後期初頭
第74図 PL.150	9	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/普通/黄褐色	横位沈線文。	後期前葉
第74図 PL.151	10	縄文土器 深鉢	口縁～胴部					砂粒/良/黒褐色	口縁は短く外反、縄文地文胴部に２本沈線による曲線垂下文様。	後期初頭から前葉
第74図 PL.151	11	縄文土器 深鉢	口縁部		0 0	0 0	0 0	砂粒/良/黒褐色	口縁に並行２本の細隆線文、これを繋ぐ２本の８字状隆線、以下、上下に弧状文描き縄文充填施文。	後期前葉
第74図 PL.151	12	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/暗赤褐色	口縁部に無文帯画す横位沈線、以下幾何学文描き縄文充填施文、口縁内面直下に横位沈線。	後期中葉
第74図 PL.151	13	縄文土器 深鉢	口縁部		0 0	0 0	0 0	砂粒/良/茶褐色	横位沈線で画した縄文帯ＬＲ横位。	後期前葉
第74図 PL.151	14	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/灰茶褐色	口縁部に小突起、以下横位沈線による重縄文帯、突起下部には縦位区切り沈線。	後期中葉
第74図 PL.151	15	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/黒褐色	口縁部短く内傾、隆線巡り以下、沈線による集合弧状文、斜行平行線文で埋める。	後期前葉
第74図 PL.151	16	縄文土器 深鉢	胴部					精製/良/黒色	横位沈線、横位の流れＳ字状文、連続対向弧状文、左右に並行沈線文、渦文。	後期中葉
第74図 PL.151	17	縄文土器 深鉢	口縁部	口	10.0			砂粒/良/黒褐色	直立気味の胴部、無文、口縁内面に沈線。	後期前葉
第75図 PL.151	18	縄文土器 深鉢	突起					精製/良/暗茶褐色	波頂部にキノコ状の円形突起、外面に円形文、細隆線文。	後期中葉
第75図 PL.151	19	縄文土器 深鉢	突起					砂粒多く含む/普通/茶褐色	波頂部は筒状突起、上部に対向Ｃ字状文、外面沈線により懸垂文様描き縄文充填。	後期初頭
第75図 PL.151	20	縄文土器 深鉢	口縁部					精製/良/淡黄褐色	波頂部の橋状突起、波頂部脇と突起下位に円孔。	後期前葉
第75図 PL.151	21	縄文土器 深鉢	底部	底	7.4			微砂粒/良/茶褐色	底部網代痕。	後期前葉

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第75図 PL.151	22	縄文土器 深鉢	底部	底	8.0			微砂粒、褐色粒/良/茶褐色	無文底部片。	後期
第75図 PL.151	23	剥片石器 石鏃	欠損	長 幅	(1.4) 1.1	厚 重	0.2 (0.1)	黒色頁岩//	小型平基無茎鏃、押圧剥離による両面加工が認められる、側縁部鋸歯状、先端部僅かに欠く。	
第75図 PL.151	24	剥片石器 石鏃	欠損	長 幅	(1.4) (1.5)	厚 重	0.4 0.6	黒曜石//	先端部片、押圧剥離による両面加工が認められるが作りはやや粗い。	
第75図 PL.151	25	剥片石器 石鏃	欠損	長 幅	1.8 (1.3)	厚 重	0.4 (0.6)	黒曜石//	両面からの押圧剥離手作りだす、基部を欠く。	
第75図 PL.151	26	剥片石器 石鏃	欠損	長 幅	1.4 (1.2)	厚 重	0.3 0.4	チャート//	押圧剥離による両面加工が認められる先端部片。	
第75図 PL.151	27	剥片石器 打製石斧	ほぼ完形	長 幅	12.8 6.0	厚 重	2.1 157.3	黒色頁岩//	縦長の分銅型、上端部は細く尖る、抉りは浅い。	
第75図 PL.151	28	剥片石器 打製石斧	完形	長 幅	12.7 6.6	厚 重	2.1 214.1	黒色頁岩//	縦長の分銅型、上端部は細く、抉りは浅い。	
第75図 PL.151	29	礫石器 磨製石斧	ほぼ完形	長 幅	7.5 3.4	厚 重	1.3 64.7	変質蛇紋岩//	定角式、研磨成形、刃部欠損。	
第75図 PL.151	30	礫石器 磨製石斧	ほぼ完形	長 幅	6.2 3.9	厚 重	2.2 106	変玄武岩//	小型厚手の定角式、短身で風化顕著。	
第75図 PL.151	31	礫石器 磨製石斧	欠損	長 幅	(8.2) (4.0)	厚 重	2.4 (144.8)	変輝緑岩//	研磨成形、両面に膨らみ有す、刃部欠損。	
第75図 PL.151	32	礫石器 磨石	完形	長 幅	13.5 8.2	厚 重	3.4 660	溶結凝灰岩//	扁平な楕円礫、使用面平滑で両面に極めて浅い２個一対の凹み有す。	
第75図 PL.151	33	礫石器 凹石	完形	長 幅	10.1 6.7	厚 重	4.6 508.5	粗粒輝石安山岩//	やや偏平な楕円礫利用、両面に２個一対の浅い凹み穴。	
第75図 PL.151	34	礫石器 凹石	完形	長 幅	8.1 6.0	厚 重	3.3 128.6	粗粒輝石安山岩//	偏平な楕円礫利用、両面に不定型な凹み穴。	
第75図 PL.151	35	礫石器 磨石	完形	長 幅	12.1 10.6	厚 重	6.8 1270	粗粒輝石安山岩//	やや大ぶりの円礫利用、片面はやや平坦で浅い打痕状の凹みあり。	
第75図 PL.151	36	礫石器 凹石	ほぼ完形	長 幅	(12.1) 7.3	厚 重	5.1 (650.8)	変質安山岩//	やや偏平な長円礫利用、１面に２個、裏面には複数の連続する不定型な凹み穴。	
第75図 PL.151	37	礫石器 凹石	欠損	長 幅	(13.2) 7.9	厚 重	4.9 (848.8)	粗粒輝石安山岩//	やや偏平な長円礫利用、両面に２個一対の浅い凹み穴。	
第75図 PL.151	38	礫石器 磨石	完形	長 幅	12.0 8.4	厚 重	5.4 885	粗粒輝石安山岩//	不定型な楕円礫、片面側に使用痕。	
第75図 PL.151	39	礫石器 磨石	完形	長 幅	6.6 6.5	厚 重	4.0 218	粗粒輝石安山岩//	小円礫利用、両面に使用痕。	
第75図 PL.151	40	礫石器 磨石	欠損	長 幅	(12.2) 16.6	厚 重	6.5 (1930)	粗粒輝石安山岩//	大ぶりの扁平円礫、両面使用、浅い小凹み穴が複数見られる。	

15号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第78図 PL.152	1	縄文土器 浅鉢	口縁～底部	口 底	36.0 14.2	高	16.8	精製/良/淡黄褐色	外面無文、内面、突起下に渦巻き懸垂文、横位多段沈線さらに偏平蛇行懸垂文、渦文描く、内面口縁部に連続刺突文を突起文間一つおきに施文、底部に網代痕。	後期中葉
第78図 PL.152	2	縄文土器 注口土器	胴部～底部	底	7.0			砂粒/良/黄褐色	球形の胴部、口縁部、底部、注口部を欠く、注口周りと背面に同心円文描く、さらに左右に曲線文様を描く。	後期中葉
第78図 PL.152	3	縄文土器 注口土器	注口部					微砂粒/良/淡黄褐色	やや細身で、先端部は薄く仕上げられる。	後期前葉
第78図 PL.152	4	縄文土器 土製円盤	欠損					砂粒/良/黄褐色	不定形で一部欠損、土器転用では無く、板状の土製品。	後期前葉
第78図 PL.152	5	剥片石器 石鏃	完形	長 幅	2.3 1.6	厚 重	0.5 0.8	黒曜石//	凹基無茎鏃、抉り山形、両面からの押圧剥離で作出、作りは丁寧。	
第78図 PL.152	6	礫石器 磨石	完形	長 幅	13.5 8.8	厚 重	4.6 860	粗粒輝石安山岩//	扁平な楕円礫利用、両面使用痕顕著、両側縁部にも使用痕。	
第78図 PL.152	7	礫石器 凹石	欠損	長 幅	(9.3) (7.1)	厚 重	(3.7) (290)	粗粒輝石安山岩//	楕円礫利用、大きく欠損するが、片面に明瞭な凹み穴有す。	
第78図 PL.152	8	礫石器 磨石	完形	長 幅	10.0 9.7	厚 重	5.0 710	粗粒輝石安山岩//	おむすび形の扁平礫、両面に使用痕。	
第79図 PL.152	9	礫石器 磨石	完形	長 幅	13.4 6.1	厚 重	4.1 565	粗粒輝石安山岩//	扁平な長円礫、両面使用、浅い打痕状の凹みあり、両端部に打痕。	
第79図 PL.152	10	礫石器 磨石	ほぼ完形	長 幅	20.6 8.9	厚 重	(4.7) 1320	粗粒輝石安山岩//	扁平なすび形の礫、両面使用、片面は表面の剥離顕著。	

16号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第81図 PL.152	1	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/暗茶褐色	横位並行刻み有す細隆線。	後期前葉
第81図 PL.152	2	縄文土器 注口土器	胴部					微砂粒/良/灰黒色	横位隆線、および沈線。	後期前葉
第81図 PL.152	3	縄文土器 注口土器	胴部					精製/良/灰黒色	沈線による曲線文、細かな刺突文。	後期前葉
第81図 PL.152	4	縄文土器 土製円盤	完形					微砂粒/良/暗褐色	カーブ有す胴部片を再利用。	後期前葉
第81図 PL.152	5	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/黒褐色	無文。	後期前葉
第81図 PL.152	6	縄文土器 深鉢	底部	底	14.0			砂粒/普通/橙褐色	網代痕あり。	後期前葉
第81図 PL.152	7	剥片石器 石鏃	欠損	長 幅	(1.7) (1.6)	厚 重	0.4 (0.5)	流紋岩//	平基無茎鏃、両面からの押圧剥離により作出、石材は脆く、模造品、非実用品と思われる。	
第81図 PL.152	8	剥片石器 石鏃	欠損	長 幅	1.5 (0.7)	厚 重	0.3 (0.2)	赤碧玉//	小型凹基無茎鏃、両脚部を斜めに欠損。	

17号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第83図 PL.152	1	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/茶褐色	縦位の隆線、斜位集合沈線。	中期後葉
第83図 PL.152.	2	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒、金雲母/良/茶褐色	縦位の隆線、斜位集合沈線。	中期後葉
第83図 PL.152	3	剥片石器 石鏃	欠損	長 幅	(1.9) 1.5	厚 重	0.3 (1.0)	細粒輝石安山岩//	凹基無茎鏃、抉り浅く、側縁は薄く円みを呈す。	
第83図 PL.152	4	剥片石器 石鏃	欠損	長 幅	(1.8) (1.4)	厚 重	0.4 (0.6)	黒曜石//	凹基無茎鏃、抉りは小さく逆U字状、片面に素材剥片剥離面を大きく残す、先端部欠損。	
第83図 PL.152	5	剥片石器 石鏃	欠損	長 幅	(1.8) (1.2)	厚 重	0.3 (0.5)	黒曜石//	凹基無茎鏃、抉りは小さく逆U字状、押圧剥離による両面加工が認められる、片脚端部欠損。	
第83図 PL.152	6	剥片石器 石錐	完形	長 幅	3.7 1.6	厚 重	0.5 1.7	黒色頁岩//	扁平で円みを持ったつまみ部に、細身の錐部が延びる。	

18号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第85図 PL.153	1	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/灰褐色	口縁部に横位連続刺突文。	後期前葉
第85図 PL.153	2	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒多く含む/良/茶褐色	無文。	中期後葉
第85図 PL.153	3	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/黒褐色	口縁部くの字に折れる、横位沈線の端が丸まり、縦位隆線が付く。	後期前葉
第85図 PL.153	4	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/淡黄褐色	口縁部突起部、両面に刺突文、沈線文、円孔あり。	後期前葉
第85図 PL.153	5	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/淡黄褐色	波頂部に楕円隆帯文。	後期初頭
第85図 PL.153	6	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/灰褐色	横位縄文施文。	後期初頭
第85図 PL.153	7	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/暗茶褐色	並行垂下沈線、縦位の集合沈線で間を埋める。	中期後葉
第85図 PL.153	8	縄文土器 深鉢	胴部・底部	底	6.0			砂粒/普通/黄褐色	垂下沈線によるU字状文、内面に煤。	中期末、炉体土器
第85図 PL.153	9	縄文土器 深鉢	底部	底	7.0			砂粒/良/茶褐色	不明瞭だが、垂下隆帯、縄文施文か。	中期後葉
第85図 PL.153	10	剥片石器 石鏃	完形	長 幅	1.8 1.5	厚 重	0.4 0.7	チャート//	凹基無茎鏃、両面からの押圧剥離で作り出す、抉りはやや開く逆U字形。	
第85図 PL.153	11	剥片石器 石鏃	ほぼ完形	長 幅	1.9 (1.6)	厚 重	0.4 1.0	黒曜石//	平基無茎鏃、基部片側を僅かに欠く、押圧剥離による両面加工が認められる、製作途中の可能性あり。	
第85図 PL.153	12	剥片石器 石鏃	欠損	長 幅	2.6 2.0	厚 重	0.9 (2.5)	黒曜石//	片側側縁に押圧剥離による剥離が認められる他はほとんど未調整、凹基無茎鏃の未製品。	
第85図 PL.153	13	剥片石器 石鏃	欠損	長 幅	(2.3) (1.3)	厚 重	0.5 (1.5)	黒曜石//	基部を欠く、押圧剥離による両面加工が認められる、やや厚みあり。	
第85図 PL.153	14	剥片石器 石鏃	欠損	長 幅	1.9 (1.2)	厚 重	0.4 (0.7)	赤碧玉//	凹基無茎鏃、抉り深く脚は細く尖る、先端部および片側を大きく欠く。	
第85図 PL.153	15	剥片石器 石鏃	欠損	長 幅	2.7 (1.2)	厚 重	0.6 (0.9)	細粒輝石安山岩//	凹基無茎鏃、抉り深く片脚欠損か、再利用の可能性もあり。	
第85図 PL.153	16	剥片石器 石錐	完形	長 幅	3.5 1.5	厚 重	0.7 3.5	珪質頁岩//	未製品か、やや細身の両側縁部に両面からの押圧剥離により刃部作出、一面に大きく素材剥片の剥離面残す、基部端部には自然面残る。	
第85図 PL.153	17	礫石器 磨製石斧	欠損	長 幅	(10.8) 5.0	厚 重	2.7 (274)	変輝緑岩//	刃部を欠損、基部側の稜はやや円みを有し、刃部に向かってやや明瞭になる。	

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第85図 PL.153	18	礫石器 磨石	完形	長 幅	10.2 9.0	厚 重	5.5 405	粗粒輝石安山岩//	やや扁平な円礫の片面を使用面としている、上面部に凹み穴状の穴が見られるが自然孔か。	
第85図 PL.153	19	礫石器 砥石か	欠損	長 幅	(13.2) (9.1)	厚 重	3.7 (750)	緑色片岩//	両面に溝状の凹み見られるが使用痕は不明瞭、自然礫の可能性もある。	転用品か

19号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第87図 PL.153	1	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/黒褐色	口縁内湾、口縁部に横位沈線、以下沈線による連続曲線文様描き縄文充填。	中期末
第87図 PL.153	2	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/暗褐色	口縁部外傾、端部は内屈、口唇部に円形刺突文、そこから垂下隆線が頸部横位沈線、隆線に繋がる。	後期前葉
第87図 PL.153	3	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/黒褐色	横位並行する細隆線を、２本の連続８字状文で連結、内文は横位沈線。	後期前葉
第87図 PL.153	4	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/黄褐色	口縁部幅広の肥厚隆帯沈線間に連続の刺突文。	後期前葉
第87図 PL.153	5	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/黒褐色	口縁部突起文、円孔有す、上端部を欠く、表裏に円形文。	後期前葉
第87図 PL.153	6	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/黒褐色	横位隆線、以下横位縄文帯を沈線で画す。	後期前葉
第87図 PL.153	7	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/黒褐色	横位沈線間に刺突文。	後期前葉
第87図 PL.153	8	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/淡褐色	並行横位細隆線、縦位８字状文で繋ぐ以下縄文施文。	後期前葉
第87図 PL.153	9	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/黒褐色	横位隆線以下磨消し縄文。	後期前葉
第87図 PL.153	10	縄文土器 深鉢	胴部					微砂粒/良/茶褐色	横位隆帯から渦文隆帯懸垂文、隆帯上に刻み。	中期後葉
第87図 PL.153	11	縄文土器 深鉢	胴部					微砂粒/良/淡黄褐色	隆線文に円形刺突文。	後期前葉
第87図 PL.153	12	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/茶褐色	３本沈線による曲線文。	後期前葉
第87図 PL.153	13	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/灰黄褐色	横位刻み細隆線。	後期前葉
第87図 PL.153	14	縄文土器 浅鉢	口縁部					微砂粒/良/灰白色	無文、内文横位隆線、沈線巡る。	後期前葉
第87図 PL.153	15	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/黒褐色	無文胴部、丸み有し、外面研磨。	後期前葉
第87図 PL.153	16	縄文土器 鉢	口縁～底部	口 底	14.0 6.8	高	6.7	微砂粒/良/灰褐色	小型の鉢形土器、無文、口縁内文横位沈線、底部に網代痕。	後期前葉
第87図 PL.153	17	縄文土器 深鉢	底部	底	10.0			砂粒、小礫/良/橙褐色	無文。	後期前葉
第87図 PL.154	18	縄文土器 注口土器	口縁部	口	7.0			微砂粒/良/茶褐色	外傾する口縁部に1対の環状把手が付く、把手外側に円孔、頂部に向かって組み合わせ８字状文描き、先端部に円孔有す、胴部沈線文。	後期前葉
第87図 PL.154	19	縄文土器 土製円盤	完形					砂粒/良/灰褐色	円形小型円盤。	
第87図 PL.154	20	剥片石器 石鏃	欠損	長 幅	(1.8) (1.1)	厚 重	0.3 (0.4)	黒曜石//	凹基無茎鏃か、押圧剥離による両面加工が認められる、脚を欠く。	
第87図 PL.154	21	剥片石器 石鏃	欠損	長 幅	(2.0) (1.0)	厚 重	0.3 (0.6)	黒曜石//	凹基無茎、両面からの押圧剥離、両脚先端部分を欠く。	
第87図 PL.154	22	剥片石器 石鏃	欠損	長 幅	(1.7) (1.3)	厚 重	0.3 (0.4)	流紋岩//	凹基無茎鏃、抉りは浅い山形状、押圧剥離による両面加工が認められる、先端部、脚一部を欠損。	
第87図 PL.154	23	剥片石器 石鏃	完形	長 幅	1.5 1.2	厚 重	0.3 0.4	チャート//	小型平基無茎鏃、押圧剥離による両面加工が認められる。	
第87図 PL.154	24	剥片石器 石匙	完形	長 幅	6.2 3.0	厚 重	0.9 12.7	珪質頁岩//	縦型、上端に抉りのないつまみが付く、素材はきわめて形の悪い素材で、片側は厚く未整形、片側縁に押圧剥離による両面加工が認められる。	
第88図 PL.154	25	礫石器 磨石	完形	長 幅	10.3 10.0	厚 重	5.4 840	粗粒輝石安山岩//	やや扁平なおむすび型の礫利用、片面がやや膨らむ、両面使用。	
第88図 PL.154	26	礫石器 磨石	完形	長 幅	8.4 7.5	厚 重	5.5 515	粗粒輝石安山岩//	上面円みを有し、使用面としており、使用痕顕著。	
第88図 PL.154	27	礫石器 磨石	ほぼ完形	長 幅	(14.9) 9.6	厚 重	5.7 1100	粗粒輝石安山岩//	やや扁平な楕円礫、両面使用。	
第88図 PL.154	28	礫石器 磨石	完形	長 幅	15.7 10.5	厚 重	4.1 1090	粗粒輝石安山岩//	扁平な楕円礫利用、両面使用。	

20号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第90図 PL.154	1	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/茶褐色	並行垂下沈線で縦位区画、区画内縄文ＲＬ縦位施文。	中期後葉、埋甕
第90図 PL.154	2	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/橙褐色	口縁部渦文突起、以下隆帯による楕円渦巻き文、縄文充填。	中期後葉
第90図 PL.154	3	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/暗茶褐色	隆帯による楕円文様か、縦位条線を充填施文。	中期後葉
第90図 PL.154	4	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/暗茶褐色	Ｈ字状垂下文、両側に斜行沈線。	中期後葉
第90図 PL.154	5	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/茶褐色	３本沈線による並行文、連続三角文。	中期後葉
第90図 PL.154	6	縄文土器 注口土器	口縁部	口	9.5			微砂粒/良/茶褐色	屈曲した幅広の口縁上に１対の環状把手が付く、内外面に３カ所の円孔有し、先端部は円形に突起し隆線で飾る、胴部には連続流れ横Ｓ字状文。	後期、混入品
第90図 PL.154	7	剥片石器 石鏃	完形	長 幅	1.8 1.2	厚 重	0.4 0.4	黒曜石//	凹基無茎鏃、抉り浅い、小型でやや細身、押圧剥離による両面加工が認められる。	
第90図 PL.154	8	剥片石器 打製石斧	ほぼ完形	長 幅	8.4 4.3	厚 重	1.5 46	黒色頁岩//	小型の撥型、刃部円みを呈し使用痕見られる。	

21号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第94図 PL.155	1	縄文土器 深鉢	口縁～胴部	口	18.4			砂粒小/良/赤褐色	外傾して開く口縁、口縁部に横位刻み細隆線巡らし、８字状貼付文４カ所に付す、横位縄文帯で画した中に横連続Ｓ字状懸垂文。	後期前葉、埋設土器
第94図 PL.155	2	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/淡黄褐色	横位並行隆線を８字状隆線で連結。	後期前葉
第94図 PL.155	3	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/黒褐色	小波状口縁、横位縄文帯に縦の区切り文。	後期中葉
第94図 PL.155	4	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/暗褐色	沈線による横位区画文内に斜行沈線文帯、多段施文か、矢羽根状に施文された部分には途中で方向を変え、その間が菱形状になっている部分が見られる、口縁内文は隆線下に横位５本沈線文。	後期中葉
第94図 PL.155	5	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/赤褐色	胴上位に幅広の横位縄文帯。	後期前葉
第94図 PL.155	6	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/暗黒褐色	波状口縁、波頂部隆帯による８字状文、外文は横位並行３本沈線と間隔を空け１本を巡らす、内文は口唇内面刻み、隆線が巡り、下位に２本沈線、隆線下側に沿って赤色顔料痕。	後期中葉
第94図 PL.155	7	縄文土器 深鉢	口縁～胴部	口	28.0			砂粒/良/淡褐色	無文、口縁部に浅い押圧文、内文横位沈線。	後期前葉
第94図 PL.155	8	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/黒褐色	無文、口縁内文横位沈線。	後期前葉
第95図 PL.155	9	縄文土器 注口土器	口縁部	口	9.0			微砂粒/良/淡褐色	口縁ほぼ直立し１対の環状突起が付く、先端部は円孔配し、捻りが見られる、内側に円孔、口唇部に刻み、沈線巡る、外面は口縁下に斜行沈線、２個の円文を縦に描きそこから縦位斜行沈線、間に重矩形文様を描く。	後期前葉
第95図 PL.155	10	縄文土器 注口土器	口縁部、把手					精製/良/黒褐色	口縁部短く立ち上がる、環状突起、先端部丸く作られ、らせん状に沈線が巡る、内面側に円孔、口唇部に刻み。	後期中葉
第95図 PL.155	11	縄文土器 注口土器	口縁部、把手					精製/良/黒褐色	口縁部短く立ち上がる、環状突起、先端部丸く作られ、らせん状に沈線が巡る、内面側に円孔、口唇部に刻み。	後期中葉
第95図 PL.155	12	縄文土器 深鉢	底部	底	8.8			精製/良/黒褐色	無文、内外面研磨、底部網代痕。	後期前葉
第95図 PL.155	13	縄文土器 注口土器	注口部					微砂粒/良/暗赤褐色	注口基部の裏側に渦巻き文、胴部には重弧状文に刻み伴う。	後期前葉
第95図	14	縄文土器 深鉢	口縁～胴部	口	18.4			砂粒小/良/赤褐色	同部片を円形に成形、埋設土器１の底に敷かれる。	後期前葉
第95図 PL.156	15	剥片石器 石鏃	完形	長 幅	2.2 1.6	厚 重	0.3 0.6	黒色頁岩//	凹基無茎鏃、抉りは深く、円みを持つ、押圧剥離による両面加工が認められる、肉薄で作りは丁寧。	
第95図 PL.156	16	剥片石器 石鏃	ほぼ完形	長 幅	1.7 1.6	厚 重	0.3 0.6	黒曜石//	凹基無茎鏃、抉りは円く、短身で両側縁が円みを有すハート型、押圧剥離による両面加工が認められる。	
第95図 PL.156	17	剥片石器 石鏃	ほぼ完形	長 幅	1.8 (1.1)	厚 重	0.4 (0.4)	黒曜石//	凹基無茎鏃、押圧剥離による両面加工が認められる、脚は先端が尖る、片面一部に風化面残る。	
第95図 PL.156	18	剥片石器 石鏃	完形	長 幅	1.1 1.4	厚 重	0.4 0.4	黒曜石//	小型凹基無茎鏃、抉り深く押圧剥離による両面加工が認められる、片面にややカーブした剥離素材面多く残す。	
第95図 PL.156	19	剥片石器 石鏃	完形	長 幅	1.6 1.2	厚 重	0.3 0.3	チャート//	小型凹基無茎鏃、抉りはやや深く、押圧剥離による両面加工が認められる。	
第95図 PL.156	20	剥片石器 石鏃	ほぼ完形	長 幅	1.5 (1.3)	厚 重	0.3 (0.4)	流紋岩//	小型凹基無茎鏃、肉薄の作り、押圧剥離による両面加工が認められる、脚、先端部を僅かに欠く。	
第95図 PL.156	21	剥片石器 石鏃	欠損	長 幅	(2.3) (1.6)	厚 重	0.4 (0.7)	黒色頁岩//	凹基無茎鏃、抉りは深く、脚は細身である、押圧剥離による両面加工が認められる、片脚を欠く。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第95図 PL.156	22	剥片石器 石鏃	欠損	長	(1.2)	厚	0.4	黒曜石//	凹基無茎鏃、抉り大きく弧状を呈す、押圧剥離による両面加工が認められる、先端部を欠く。	
				幅	(1.6)	重	(0.4)			
第95図 PL.156	23	剥片石器 石鏃	欠損	長	(1.2)	厚	0.3	細粒輝石安山岩//	凹基無茎鏃、側縁部は押圧剥離による両面加工が認められる、先端部を欠く。	
				幅	1.6	重	(0.6)			
第95図 PL.156	24	剥片石器 石鏃	欠損	長	(2.5)	厚	0.8	黒曜石//	未製品と見られる、押圧剥離による両面加工が認められる、片脚部分を欠く。	
				幅	(1.9)	重	(1.8)			
第95図 PL.156	25	剥片石器 石鏃	欠損	長	(1.6)	厚	0.5	黒曜石//	凹基無茎鏃、未製品、片側縁未調整。	
				幅	(1.5)	重	(0.8)			
第95図 PL.156	26	剥片石器 石鏃	欠損	長	1.2	厚	0.2	黒曜石//	小型の凹基無茎鏃、抉りは山形で脚が開く形状か、押圧剥離による両面加工が認められる、片脚を欠損。	
				幅	(0.8)	重	(0.1)			
第95図 PL.156	27	剥片石器 石鏃	ほぼ完形	長	1.6	厚	0.4	黒曜石//	平基無茎鏃、小型で片面に素材剥離段階での面を大きく残すため片面が盛り上がる形状、未製品か。	
				幅	1.2	重	0.5			
第95図 PL.156	28	剥片石器 石鏃	欠損	長	1.8	厚	0.4	黒曜石//	平基無茎鏃、剥片素材剥離面多く残り、作りは粗く未製品か。	
				幅	1.7	重	0.8			
第95図 PL.156	29	剥片石器 石鏃	欠損	長	(2.1)	厚	0.5	流紋岩//	突基平基鏃、茎部を欠損か、押圧剥離による両面加工が認められる、やや肉厚、先端を欠く。	
				幅	1.5	重	(1.4)			
第95図 PL.156	30	剥片石器 石錐	完形	長	1.9	厚	0.3	黒曜石//	小型棒状錐、断面は紡錘状で丁寧な作り。	
				幅	0.6	重	0.2			
第96図 PL.156	31	剥片石器 打製石斧	ほぼ完形	長	(9.6)	厚	1.2	細粒輝石安山岩//	小型の撥型、上位両側に浅い抉りが見られる、円刃で片面に大きく自然面残る、刃部摩耗。	
				幅	4.4	重	(64)			
第96図 PL.156	32	礫石器 磨石	欠損	長	6.5	厚	2.7	変輝緑岩//	磨製石斧基部欠損品の再利用か、側縁部に顕著な二次的研磨痕。	
				幅	5.0	重	(177)			
第96図 PL.156	33	礫石器 凹石	ほぼ完形	長	(9.6)	厚	4.2	粗粒輝石安山岩//	偏平な小判型の礫利用、両面に２個、および１個の凹み穴。	
				幅	6.8	重	(435)			
第96図 PL.156	34	礫石器 磨石	完形	長	12.0	厚	3.2	粗粒輝石安山岩//	やや偏平な棒状礫利用、両面に２～３個の小さい凹み穴。	
				幅	5.5	重	370			
第96図 PL.156	35	礫石器 凹石	完形	長	11.3	厚	3.8	粗粒輝石安山岩//	偏平な楕円礫利用、両面に２個一対の凹み穴、一部に煤付着。	
				幅	8.3	重	510			
第96図 PL.156	36	礫石器 磨石	完形	長	11.8	厚	3.8	粗粒輝石安山岩//	やや偏平ななすび形の礫利用、両面に２個一対の凹み穴。	
				幅	6.5	重	474			
第96図 PL.156	37	礫石器 磨石	完形	長	10.2	厚	4.5	粗粒輝石安山岩//	偏平な礫利用、両面使用し浅い打痕状の凹みあり。	
				幅	8.7	重	670			
第96図 PL.156	38	礫石器 磨石	完形	長	10.6	厚	4.6	溶結凝灰岩//	扁平な楕円礫利用、両面を使用面としているが、片面側に浅い凹み穴有す。	
				幅	8.0	重	610			
第96図 PL.156	39	礫石器 磨石	完形	長	13.9	厚	4.0	粗粒輝石安山岩//	偏平でなすび型の礫利用、両面使用痕顕著。	
				幅	7.5	重	560			
第97図 PL.156	40	礫石器 磨石	完形	長	12.5	厚	5.2	粗粒輝石安山岩//	楕円礫利用、両面使用。	
				幅	8.6	重	895			
第97図 PL.156	41	礫石器 磨石	欠損	長	10.8	厚	5.5	粗粒輝石安山岩//	楕円礫利用、膨らんだ面に顕著な使用痕。	
				幅	(7.1)	重	(585)			
第97図 PL.156	42	礫石器 磨石	完形	長	12.5	厚	4.7	粗粒輝石安山岩//	扁平な楕円礫利用、両面使用。	
				幅	10.0	重	780			
第97図 PL.156	43	礫石器 磨石	完形	長	12.5	厚	5.2	粗粒輝石安山岩//	細長い楕円礫利用、ほぼ全面を使用するが、使用痕は余り明瞭ではない。	
				幅	6.5	重	620			
第97図 PL.156	44	礫石器 多孔石	欠損	長	(12.4)	厚	(8.9)	粗粒輝石安山岩//	亜角礫、表面に数個の凹み穴。	
				幅	(16.2)	重	(2460)			
第97図 PL.156	45	礫石器 石皿	完形	長	25.7	厚	14.3	粗粒輝石安山岩//	厚手の自然角礫利用、一面を石皿作業面としている、使用面はやや凹み平滑、裏面には凹み穴が複数穿たれている。	
				幅	21.0	重	7000			

22号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第100図 PL.157	1	縄文土器 深鉢	口縁～底部	口	42.4	高	54.9	砂粒/良/灰褐色	隆帯による楕円渦巻き文、文様内縄文施文、横位沈線以下平行沈線垂下し、無文帯、縄文帯を画す。	中期後葉
				底	9.0					
第101図 PL.157	2	縄文土器 深鉢	口縁～胴部	口	43.5			砂粒/良/灰褐色	横位楕円文、以下垂下平行沈線による無文帯で縄文帯を画す。	中期後葉
第101図 PL.158	3	縄文土器 深鉢	口縁～胴部	口	51.0			砂粒/良/淡茶褐色	口縁部無文部画す、横位刺突文巡る、隆線による渦巻き垂下文、蕨手沈線文、交互に配す、渦巻き文内、縄文充填施文。	中期後葉
第101図 PL.158	4	縄文土器 深鉢	口縁～胴部	口	40.0			砂粒/良/淡茶褐色	隆帯による楕円渦巻き文、文様内縄文施文、横位沈線以下平行沈線垂下し、無文帯、縄文帯を画す、蕨手垂下文。	中期後葉
第102図 PL.158	5	縄文土器 深鉢	口縁～胴部	口	40.0			砂粒/良/茶褐色	口縁部に縄文施文の楕円渦巻き文、胴部、縦位の３本沈線文、縦位区画を構成、区画内に縦位ＲＬ縄文を充填施文。	中期後葉
第102図 PL.158	6	縄文土器 深鉢	口縁～胴部	口	34.0			砂粒/良/褐色	４単位の小波状口縁、沈線で楕円渦巻き文描き縄文充填施文、文様間に縦に２個一対の円文、胴部には背合わせ２本の垂下蕨手沈線と２本沈線により分割、間を縄文ＲＬ施文。	中期後葉
第102図 PL.159	7	縄文土器 深鉢	口縁～底部	口	36.0	高	50.0	砂粒/良/茶褐色	口縁部に楕円渦巻き文、胴部、縦位の２本沈線文、間に蕨手文を持つものを交互に配し縦位区画を構成、区画内に縦位ＬＲ縄文を充填施文。	中期後葉
				底	8.0					

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第102図 PL.159	8	縄文土器 深鉢	口縁～胴部	口	28.0			砂粒/良/暗褐色	口縁部に隆帯による連結楕円文描く、胴部には２本の隆帯による曲線文、間には蕨手垂下文様描く、文様区画内には縄文充填施文。	中期後葉
第103図 PL.159	9	縄文土器 深鉢	口縁～胴部	口	48.0			砂粒/良/茶褐色	口縁部に隆帯による弧状文、円形文交互に配す、以下沈線による逆Ｕ字状文、蕨手垂下文。	中期後葉
第103図 PL.159	10	縄文土器 深鉢	口縁～胴部	口	46.4			砂粒/良/暗茶褐色	口縁部隆帯による楕円渦巻き文描き縄文充填施文、胴部２本の垂下沈線で縄文帯と無文部縦位区画、器面の剥落顕著。	中期後葉
第103図 PL.159	11	縄文土器 深鉢	口縁～底部	口 底	13.0 6.0	高	19.6	砂粒/良/橙茶褐色	口縁部に１対の突起、縦位条線を全面に施す。	中期後葉
第103図 PL.159	12	縄文土器 深鉢	口縁～胴部	口	24.0			砂粒/普通/淡茶褐色	口縁部Ｓ字状沈線文有す突起が付く、沈線による波状文描き、波頂下に逆Ｕ字状文描く、波底部縄文施文後、縦位Ｓ字状文。	中期後葉
第103図 PL.159	13	縄文土器 深鉢	口縁～胴部	口	38.4			砂粒/普通/淡茶褐色	口縁部隆帯による楕円文描き縄文充填施文、胴部２本の垂下沈線と蕨手文で縄文帯と無文部縦位区画。	中期後葉
第104図 PL.160	14	縄文土器 深鉢	口縁～胴部	口	34.0			砂粒多い/良/茶褐色	口縁部に隆帯による楕円渦巻き文、頸部に横位沈線刺突文列、位下沈線による逆Ｕ字状文描くか。	中期後葉
第104図 PL.160	15	縄文土器 深鉢	口縁～胴部	口	20.0			砂粒/良/黄褐色	沈線により連続Ｕ字状文、文様内縄文施文、下位には連続逆Ｕ字状文描き、間には蕨手垂下文。	中期後葉
第104図 PL.160	16	縄文土器 両耳壺	口縁～胴部	口	40.0			砂粒/良/灰褐色	口縁部無文でほぼ直立、横位楕円文、蕨手沈線文、楕円文内縄文充填。	中期後葉
第104図 PL.160	17	縄文土器 深鉢	口縁～胴部	口	14.6			砂粒/良/黒褐色	口縁部突起欠損、口縁に沈線巡らし、以下沈線による楕円文を縦に２段描き、間に縦Ｓ字状文を配す、楕円文内には縄文ＲＬ縦位多段施文。	中期後葉
第104図 PL.160	18	縄文土器 深鉢	口縁～胴部	口	44.0			砂粒多い/良/灰茶褐色	口縁部に隆帯による楕円渦巻き文、以下沈線による逆Ｕ字状文描き縄文充填、被熱により一部還元化。	中期後葉
第104図 PL.160	19	縄文土器 深鉢	口縁～胴部	口	38.0			砂粒/良/褐色	口縁部に沈線による波状文描くが両端は垂下しＭ字状となる、隙間に縦位の楕円文描き下位に蕨手垂下文描く、波状部および楕円文内には縦位の条線文、施文は雑。	中期後葉
第104図 PL.160	20	縄文土器 深鉢	口縁～胴部	口	13.0			砂粒/良/暗褐色	４単位の小波状口縁、横位沈線巡り、以下、逆Ｕ字状文描き間には、蕨手垂下文、縄文ＲＬ縦位充填施文。	中期後葉
第105図 PL.160	21	縄文土器 両耳壺	口縁～胴部	口	34.0			砂粒/良/赤茶褐色	把手部欠損、口縁部無文で沈線による逆Ｕ字状文、垂下沈線蕨手文で縦位区画、逆Ｕ字状文内縄文ＲＬ充填施文。	中期後葉
第105図 PL.160	22	縄文土器 深鉢	胴部～底部	底	9.0			砂粒/良/黄橙色	2本の垂下沈線無文帯と、縄文帯。	中期後葉
第105図 PL.160	23	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒多い/良/黄褐色	2本の垂下沈線無文帯と、縄文帯ＬＲ縦位施文。	埋甕、中期後葉
第105図 PL.160	24	縄文土器 深鉢	胴部～底部	底	6.0			砂粒/良/黄橙色	3本の垂下沈線と縦位縄文帯、縄文ＲＬ縦位。	中期後葉
第105図 PL.161	25	縄文土器 深鉢	胴部～底部	底	7.6			砂粒多い/良/黄褐色	2本の垂下沈線無文帯と、縄文帯、施文不鮮明。	中期後葉
第105図 PL.161	26	縄文土器 深鉢	胴部～底部	底	6.0			砂粒/良/黄橙色	3本の垂下沈線と縦位縄文帯、縄文ＲＬ縦位。	中期後葉
第105図 PL.161	27	縄文土器 深鉢	胴部～底部	底	6.0			砂粒/良/黄橙色	3本の垂下沈線と縦位縄文帯、縄文ＲＬ縦位。	中期後葉
第105図 PL.161	28	縄文土器 深鉢	胴部～底部	底	10.0			砂粒/良/褐色	隆線によるＵ状文か、文様不鮮明。	中期後葉
第105図 PL.161	29	縄文土器 深鉢	胴部～底部	底	7.6			砂粒/良/黄橙色	2本の垂下沈線無文帯と、縄文帯。	中期後葉
第105図 PL.161	30	縄文土器 深鉢	底部	底	6.0			砂粒/良/橙褐色	沈線による垂下文。	中期後葉
第106図 PL.161	31	剥片石器 石鏃	ほぼ完形	長 幅	3.1 1.6	厚 重	0.3 1.0	黒曜石//	凹基無茎鏃、抉りはやや浅く弧状を呈す、押圧剥離による両面加工が認められる、肉薄で丁寧な作り。	
第106図 PL.161	32	剥片石器 石鏃	欠損	長 幅	(3.4) (1.6)	厚 重	0.4 (1.3)	黒曜石//	凹基無茎鏃、抉りは浅く弧状を呈す、やや大型品で押圧剥離による両面加工が認められる、肉薄で丁寧な作り、片脚部を欠損。	
第106図 PL.161	33	剥片石器 打製石斧	完形	長 幅	11.5 4.5	厚 重	1.3 87	細粒輝石安山岩//	やや小型の撥型、上位両側に浅い抉りが見られる、円刃で刃部片面に自然面残る、刃部摩耗。	
第106図 PL.161	34	剥片石器 打製石斧	ほぼ完形	長 幅	9.5 4.8	厚 重	0.8 (48)	黒色頁岩//	撥型であるが片側側縁部は無調整で素材面残る、薄手で、刃部に使用痕見られる。	
第106図 PL.161	35	剥片石器 打製石斧	欠損	長 幅	12.0 6.9	厚 重	1.9 (157)	変質安山岩//	撥型、板状礫を素材とし、両面に大きく自然面を残す、刃部は円く作り出す、基部欠損。	
第106図 PL.161	36	礫石器 磨石	完形	長 幅	10.3 4.7	厚 重	3.4 280	粗粒輝石安山岩//	小型棒状礫、ほぼ全面に使用痕。	
第106図 PL.161	37	礫石器 磨石	完形	長 幅	12.2 8.3	厚 重	4.5 810	閃緑岩//	楕円形の偏平礫利用、両面使用、使用面は平滑。	
第106図 PL.161	38	礫石器 石皿	欠損	長 幅	(10.7) (13.8)	厚 重	(5.3) (880)	緑色片岩//	欠損品、比較的薄手の製品、舟部分は中央がかなり薄くなっている、被熱し脆くなっている、39は同一。	
第106図 PL.161	39	礫石器 石皿	欠損	長 幅	(15.7) (9.2)	厚 重	4.0 (770)	緑色片岩//	欠損品、比較的薄手の製品、舟部分は中央がかなり薄くなっている、被熱し脆くなっている、38は同一。	

23号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第108図 PL.161	1	縄文土器 深鉢	口縁～胴部	口	22.0			砂粒/良/茶褐色	口縁に横位沈線、以下沈線により懸垂渦巻き文、Ｊ字状文様を縦位区画に描出、縄文充填。	後期初頭
第108図 PL.161	2	縄文土器 深鉢	口縁～胴部	口	26.8			微砂粒/良/灰褐色	一対の小突起、両面に円文、沈線によるスペード文、Ｊ字状懸垂文を縦位２段区画で描く。	後期初頭
第108図 PL.162	3	縄文土器 深鉢	口縁部	口	15.0			砂粒/良/灰褐色	口縁にトサカ様の環状突起および円孔有す小突起が付く、環状突起は両端に刺突文有す沈線、連続刺突文で飾られる、文様は磨り消し縄文による矩形、曲線の懸垂文描く。	後期初頭
第108図 PL.162	4	縄文土器 深鉢	口縁～胴部	口	20.0			砂粒/良/灰褐色	頸部が括れる甕型、口縁部小波状で隆帯による渦文、頸部に３本の横位沈線、そこから３本の沈線による横位連結Ｊ字状懸垂文、間には舌状懸垂文。	後期初頭
第108図 PL.161	5	縄文土器 深鉢	口縁～底部	口 底	17.0 11.4	高	25.5	砂粒/普通/黒褐色	やや外傾して立ち上がる、口縁部に２本の沈線、中位に３本の沈線巡らし文様帯を画す、縦位複数沈線、Ｘ状文、三角文を複数沈線で描く、交点部に横位沈線、文様内には連続短沈線を充填。	後期前葉
第109図 PL.162	6	縄文土器 深鉢	口縁部	口	29.0			砂粒/良/黒褐色	無文口縁部。	後期初頭か
第109図 PL.162	7	縄文土器 深鉢	底部	底	13.0			砂粒/良/灰黄褐色	大型土器の底部片、底部中央が円形に窪む。	後期
第108図 PL.162	8	剥片石器 石鏃	欠損	長 幅	1.9 (1.4)	厚 重	0.3 (0.9)	黒曜石//	平基無茎鏃、押圧剥離による両面加工が認められるが、やや粗い作り、側縁下部を欠く。	
第108図 PL.162	9	剥片石器 石鏃	欠損	長 幅	(3.0) (2.6)	厚 重	0.8 (5.7)	チャート//	大型品、押圧剥離による両面加工が認められる、基部は未調整。	
第108図 PL.162	10	剥片石器 石錐	完形	長 幅	3.5 0.9	厚 重	0.6 2.0	流紋岩//	棒状錐、錐部は先端に向かって細くなる、押圧剥離による両面加工により円みを作出。	
第108図 PL.162	11	剥片石器 打製石斧	完形	長 幅	9.3 4.9	厚 重	1.4 85	粗粒輝石安山岩//	撥型、鋭利さはなく打撃により形を作出する。	
第108図 PL.162	12	礫石器 凹石	完形	長 幅	8.7 7.3	厚 重	4.0 280	粗粒輝石安山岩//	楕円礫利用、両面使用、浅い凹み穴、発泡質。	
第108図 PL.162	13	礫石器 磨石	完形	長 幅	8.6 6.8	厚 重	3.8 332	粗粒輝石安山岩//	楕円礫利用、片面やや膨らみ、両面使用。	
第108図 PL.162	14	礫石器 磨石	完形	長 幅	9.4 7.9	厚 重	5.5 635	粗粒輝石安山岩//	楕円礫利用、両面使用。	

25号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第111図 PL.162	1	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/黒褐色	波状突起、円形文で飾る、横位隆帯巡り以下横位磨り消し縄文による重弧状文、交点部に（）状沈線文。	後期中葉
第111図 PL.162	2	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/黒褐色	横位沈線下に沈線による木葉状文十字に描く、交点部に横位並行沈線巡り上下に（）状沈線文。	後期中葉
第111図 PL.162	3	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/茶褐色	口縁部に並行細隆線文、８字状隆線で繋ぐ、以下沈線で磨り消し文様か。	後期前葉
第111図 PL.162	4	縄文土器 浅鉢	口縁部					砂粒/良/黄褐色	無文内口縁部に浅い押圧文、内文は横位多段沈線。	後期前葉
第111図 PL.162	5	縄文土器 深鉢	底部	底	10.0			砂粒/良/茶褐色	無文、底部網代痕。	後期前葉
第111図 PL.162	6	縄文土器 深鉢	底部	底	5.0			精製/良/黒色	小型土器、底部網代痕。	後期前葉
第111図 PL.162	7	剥片石器 石鏃	欠損	長 幅	(1.9) (1.5)	厚 重	0.5 (0.9)	流紋岩//	凹基無茎鏃と思われるが、基部を欠く、片面に素材剥離段階での凹面を大きく残す。	
第111図 PL.162	8	剥片石器 石鏃	欠損	長 幅	(0.7) (1.0)	厚 重	0.3 (0.1)	チャート//	極めて小型の凹基無茎鏃、押圧剥離による両面加工が認められる、先端部、脚の端部を欠く。	
第111図 PL.162	9	礫石器 石錘	完形	長 幅	5.0 3.5	厚 重	0.9 30.9	緑色片岩//	偏平な川原石利用、両端部に擦り切りによる紐掛け溝を作り出す。	
第111図 PL.162	10	礫石器 磨石	完形	長 幅	13.1 6.1	厚 重	4.2 515	粗粒輝石安山岩//	棒状礫利用、両面に凹み穴。	

26号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第113図 PL.163	1	縄文土器 深鉢	口縁～胴部					砂粒/良/淡茶褐色	口縁部小突起、円文の両脇に弧状文、以下複数の沈線による縦位、斜位に矩形文を画す、頸部に沈線巡り以下も同様の文様区画を描く、地には縄文施文。	後期前葉
第113図 PL.163	2	縄文土器 深鉢	口縁～胴部					砂粒/良/淡茶褐色	口縁部小突起、円文の両脇に弧状文、以下複数の沈線による縦位、斜位に矩形文を画す、頸部に沈線巡り以下も同様の文様区画を描く、地には縄文施文。	後期前葉

27号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第115図 PL.163	1	縄文土器 両耳壺	胴部					砂粒/良/茶褐色	把手部欠損、口縁部無文帯を横位隆帯で画し、ＲＬ横位施文。	中期後葉
第115図 PL.163	2	縄文土器 深鉢	底部	底	10.4			砂粒/良/茶褐色	無文底部。	後期前葉
第115図 PL.163	3	剥片石器 石鏃	欠損	長 幅	2.2 (1.3)	厚 重	0.3 (0.4)	黒色頁岩//	凹基無茎鏃、抉りは逆Ｖ字状で脚の先端が尖る、片脚欠損。	
第115図 PL.163	4	剥片石器 石鏃	ほぼ完形	長 幅	(1.9) (1.4)	厚 重	0.6 (1.6)	黒曜石//	肉厚の素材利用した未製品。	
第115図 PL.163	5	礫石器 凹石	完形	長 幅	12.4 7.2	厚 重	5.0 660	粗粒輝石安山岩//	やや偏平な長楕円礫利用、両面に複数の凹み穴有す。	

28号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第118図 PL.163	1	縄文土器 深鉢	口縁～胴部	口	31.0			砂粒/良/暗茶褐色	口縁部横位刻み隆線、５カ所に８字状の貼付文、以下沈線による縄文帯で縦位、斜位文で三角形文を描く。	後期前葉
第118図 PL.163	2	縄文土器 深鉢	口縁～胴部	口	15.0			精製/良/暗黒褐色	薄手土器、口縁部無文帯、以下横位多重沈線文、横連弧状２段短沈線文、横位沈線、以下磨り消し縄文による連続矩形Ｓ字状文描く、文様内はＬＲ細縄文施文。	後期中葉
第118図 PL.163.	3	縄文土器 深鉢	口縁～胴部	口	19.0			砂粒/良/黒褐色	長胴で頸部やや括れる、小波状口縁、波頂部に刻み、円文配す、刺突文隆線文が垂下、頸部円形文付され、横位の３本沈線が頸部に巡る、以下隆線に沿って沈線による（）文が鱗状に重層して描かれる、間隙部分に縄文が充填施文、文様下位に横位沈線。	後期前葉
第118図 PL.163	4	縄文土器 鉢	口縁～底部	口 底	18.0 7.5	高	8.4	砂粒/良/黒褐色	口縁部に４カ所に指頭による内側への押さえあり、無文。	後期前葉か
第118図 PL.163	5	縄文土器 深鉢	胴部～底部	底	10.4			砂粒/良/茶褐色	無文、底部網代痕。	後期前葉
第118図 PL.163	6	縄文土器 深鉢	胴部～底部	底	12.6			砂粒/良/茶褐色	無文、底部網代痕。	後期前葉
第118図 PL.164	7	縄文土器 皿形土器	ほぼ完形	口	6.5	高	2.3	砂粒/良/橙褐色	底部丸み有す、皿形土器、砂粒目立つ。	後期
第118図 PL.164	8	縄文土器 深鉢	底部	底	9.4			砂粒/良/暗茶褐色	無文、底部網代痕。	後期前葉
第118図 PL.164	9	縄文土器 深鉢	底部	底	7.0			砂粒/良/黒褐色	無文。	炉体土器、後期前葉
第118図 PL.164	10	縄文土器 深鉢	底部	底	7.0			微砂粒/良/茶褐色	無文、小型品。	後期前葉
第119図 PL.164	11	剥片石器 石鏃	完形	長 幅	1.5 1.1	厚 重	0.3 0.3	黒曜石//	小型平基無茎鏃、押圧剥離による両面加工が認められる。	
第119図 PL.164	12	剥片石器 石鏃		長 幅	1.8 1.2	厚 重	0.2 0.4	チャート//	平基無茎鏃、押圧剥離による両面加工が認められる、丁寧な作り。	
第119図 PL.164	13	剥片石器 石鏃	ほぼ完形	長 幅	1.9 1.2	厚 重	0.4 0.4	チャート//	小型凹基無茎鏃、抉り浅く押圧剥離による両面加工が認められる。	
第119図 PL.164	14	剥片石器 石鏃	完形	長 幅	1.5 1.2	厚 重	0.3 0.2	流紋岩//	小型凹基無茎鏃、抉りは浅い弧状、押圧剥離による両面加工が認められる。	
第119図 PL.164	15	剥片石器 石鏃	ほぼ完形	長 幅	(1.7) (1.1)	厚 重	0.3 (0.5)	流紋岩//	突基無茎鏃、小型品、押圧剥離による両面加工が認められる、基部側縁部やや突起状に出る。	
第119図 PL.164	16	剥片石器 石鏃	ほぼ完形	長 幅	1.9 1.4	厚 重	0.6 1.0	黒曜石//	無茎鏃の未製品か、片面の中央部分が肥厚。	
第119図 PL.164	17	剥片石器 石鏃	欠損	長 幅	(1.4) (1.0)	厚 重	0.2 (0.3)	チャート//	押圧剥離による両面加工が認められる、先端部尖る、先端部または脚の可能性あり。	
第119図 PL.164	18	剥片石器 石鏃	欠損	長 幅	(1.9) (1.3)	厚 重	0.4 (0.7)	黒曜石//	押圧剥離による両面加工が認められる、先端部片か。	
第119図 PL.164	19	剥片石器 石鏃	ほぼ完形	長 幅	(2.3) (1.7)	厚 重	0.5 (1.6)	黒曜石//	平基無茎鏃、側縁部押圧剥離による両面加工が認められる、基部は無調整である、未製品か。	
第119図 PL.164	20	剥片石器 石鏃	欠損	長 幅	(1.1) (0.9)	厚 重	0.3 (0.2)	黒曜石//	押圧剥離による両面加工が認められる、先端部片。	
第119図 PL.164	21	剥片石器 石鏃	完形	長 幅	2.5 (1.5)	厚 重	0.6 1.2	黒曜石//	突基有茎鏃、押圧剥離による両面加工が認められる、身の部分が短く、茎は太く先端が尖る。	
第119図 PL.164	22	剥片石器 石鏃	欠損	長 幅	(2.0) (0.8)	厚 重	0.4 (0.3)	流紋岩//	細長い鏃の先端部片、押圧剥離による両面加工が認められる。	
第119図 PL.164	23	剥片石器 石錐	欠損	長 幅	(1.9) (0.8)	厚 重	0.4 (0.6)	流紋岩//	先端部が細く仕上げられた錐部につまみ部が付く。	
第119図 PL.164	24	剥片石器 石錐	欠損	長 幅	2.7 1.0	厚 重	0.7 1.1	黒曜石//	紡錘状で中央部が膨らむ、錐部は短い。	
第119図 PL.164	25	剥片石器 石錐	欠損	長 幅	(2.1) 1.6	厚 重	0.7 (1.6)	赤碧玉//	凹基無茎鏃の未製品か、中央部分肥厚し先端部は未調整。	
第119図 PL.164	26	剥片石器 楔形石器	欠損	長 幅	1.9 (2.0)	厚 重	0.8 2.6	黒曜石//	円みを持つ形状で側縁部分は押圧剥離による両面加工が認められる、一部欠損。	
第119図 PL.164	27	剥片石器 打製石斧	完形	長 幅	17.7 8.3	厚 重	2.9 440	黒色頁岩//	やや大型の分銅型、抉りを境に刃部長が異なる、器面風化、刃部に摩耗痕見られる。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第119図 PL.164	28	礫石器 磨製石斧	欠損	長	(9.8)	厚	2.5	変玄武岩//	細身で刃部を欠損。	
				幅	(4.0)	重	(186)			
第119図 PL.164	29	礫石器 磨製石斧	欠損	長	(10.0)	厚	2.4	変玄武岩//	研磨成形、両面に膨らみ有す、刃部欠損。	
				幅	(4.1)	重	(191.2)			
第119図 PL.164	30	礫石器 磨製石斧	欠損	長	(8.8)	厚	3.3	変輝緑岩//	基部片、側縁部に複数の打痕あり。	
				幅	(5.8)	重	(262)			
第119図 PL.164	31	礫石器 磨製石斧	欠損	長	(4.6)	厚	1.22	変玄武岩//	定角式、小型で丁寧な研磨、基部を欠損する。	
				幅	3.2	重	(38)			
第119図 PL.164	32	礫石器 磨製石斧	欠損	長	(2.3)	厚	(1.1)	変質蛇紋岩//	定角式、基部片。	
				幅	(3.3)	重	(16)			
第120図 PL.164	33	礫石器 凹石	完形	長	15.7	厚	3.9	粗粒輝石安山岩//	６面を平らに成形した直方体を呈す、両面に３から４個の大小の凹み穴。	
				幅	5.8	重	519.5			
第120図 PL.164	34	礫石器 磨石	完形	長	14.2	厚	4.1	凝灰質砂岩//	偏平な楕円礫利用、両面使用、極浅い打痕状の凹みあり。	
				幅	7.4	重	745			
第120図 PL.164	35	礫石器 磨石	完形	長	14.0	厚	4.2	溶結凝灰岩//	偏平な楕円礫利用、片面がやや膨らむ形状、両面使用。	
				幅	8.6	重	800			
第120図 PL.164	36	礫石器 凹石	完形	長	11.1	厚	4.3	粗粒輝石安山岩//	偏平な楕円礫利用、両面にやや大きな凹み穴が２ないし３個つながる状況で穿たれる。	
				幅	8.4	重	520			
第120図 PL.164	37	礫石器 磨石	ほぼ完形	長	9.4	厚	5.9	粗粒輝石安山岩//	やや偏平な円礫利用、両面使用により平滑、側面の一部欠損。	
				幅	8.2	重	655			
第120図 PL.164	38	礫石器 磨石	完形	長	11.3	厚	4.0	石英閃緑岩//	やや偏平な楕円礫利用、僅かに肥厚する面を主要使用面とする、裏面に浅い打痕状の凹みあり。	
				幅	8.3	重	610			
第120図 PL.164	39	礫石器 磨石	欠損	長	(10.8)	厚	4.3	粗粒輝石安山岩//	やや偏平な楕円礫利用、両面に浅い凹み、被熱によりひび割れ顕著。	
				幅	(8.0)	重	(604.5)			
第120図 PL.164	40	礫石器 磨石	完形	長	10.1	厚	5.8	粗粒輝石安山岩//	やや偏平な円礫利用、両面使用面、浅い打痕状の凹みあり。	
				幅	8.5	重	660			
第121図 PL.164	41	礫石器 凹石	欠損	長	(10.2)	厚	4.6	粗粒輝石安山岩//	偏平な棒状礫利用、両面に浅い打痕状の凹み穴、半分を欠く。	
				幅	7.1	重	(600)			
第121図 PL.164	42	礫石器 凹石	欠損	長	(11.9)	厚	(3.0)	粗粒輝石安山岩//	偏平な不定型礫利用、両面に浅い凹み穴が１ないし２個。	
				幅	(7.4)	重	(345)			
第121図 PL.164	43	礫石器 磨石	完形	長	11.6	厚	2.5	粗粒輝石安山岩//	偏平な楕円礫、両面使用面、被熱。	
				幅	7.3	重	330			
第121図 PL.164	44	礫石器 石錘	完形	長	4.6	厚	1.3	変輝緑岩//	楕円形の偏平小礫利用、両端に擦り切りによる紐掛け溝が切られている。	
				幅	3.5	重	40			
第121図 PL.164	45	礫石器 石棒	欠損	長	(10.7)	厚		緑色片岩//	断面円形の棒状で、先端部はやや細くなり、端部ほぼ平らに仕上げられている。	
				幅	2.7	重	(171)			
第121図 PL.164	46	礫石器 石皿	欠損	長	(16.3)	厚	9.2	粗粒輝石安山岩//	磨り面やや凹み使用面は平坦である、裏面には複数の凹み穴が穿たれている。	
				幅	23.0	重	(3960)			

29号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第123図 PL.165	1	縄文土器 深鉢	胴部～底部	底	7.5			砂粒/良/橙褐色	複数沈線によるＵ字状、杓子状、対弧状懸垂文。	炉内、後期前葉
第123図 PL.165	2	礫石器 凹石	完形	長	16.6	厚	4.2	変質安山岩//	偏平な棒状礫利用、両面に一対の凹み穴穿たれているが、一面側は極めて浅い。	
				幅	6.9	重	730			

30号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第126図 PL.165	1	縄文土器 深鉢	口縁～胴部	口	13.4			微砂粒/良/黒褐色	口縁部に円文有す小突起が８ないし９カ所か、無文部有し、横位多段沈線、横楕円文、沈線で画した中に重層横Ｓ字状文。	後期中葉
第126図 PL.165	2	縄文土器 深鉢	口縁～胴部	口	10.5			微砂粒/良/黒褐色	３単位の突起、円孔有し頂部は肥厚し円文で飾られる、口縁部に沈線および刻み沈線文、突起間に円文、突起、円文下位にＳ字状文、円文、間にはＸ状の沈線文描き、交点には短沈線付す、構成された菱形の中を縄文施文。	後期中葉
第126図 PL.165	3	縄文土器 深鉢	口縁部	口	24.0			砂粒/良/暗茶褐色	口縁下に横位刻み隆線、以下横位縄文帯文様。	後期前葉
第126図 PL.165	4	縄文土器 浅鉢	口縁～胴部	口	24.2			微砂粒/良/灰白色	３カ所にキノコ状突起、肥厚頭部に小瘤文、内側に多段沈線、左右には刻み有す貼付文、外面無文、内文は突起下に渦巻き文、多段沈線が巡り斜め刻み文、最下沈線の端部は渦文となる、突起の中間点に円孔。	埋甕、後期中葉
第127図 PL.165	5	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/灰黄色	口縁部に円孔有す突起、突起上面に渦文、円孔部にはＳ字状渦文、内面は楕円隆線文で飾る、突起直下に、横位並行細隆線を連続８字状文で連結、以下横位縄文帯。	炉内、後期中葉
第127図 PL.165	6	縄文土器 注口土器	口縁部	口	6.0			精製/良/黒褐色	環状把手、口縁下に沈線文。	後期中葉
第127図 PL.165	7	縄文土器 深鉢	底部	底	9.0			砂粒/良/茶褐色	無文底部、網代痕有す。	後期前葉
第127図 PL.165	8	縄文土器 深鉢	底部	底	11.0			砂粒/良/茶褐色	無文底部。	後期前葉

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第127図 PL.165	9	縄文土器 深鉢	底部	底	12.0			砂粒/良/茶褐色	無文底部、網代痕有す。	後期前葉
第127図 PL.165	10	縄文土器 深鉢	底部	底	10.0			微砂粒/良/橙褐色	無文底部。	後期前葉
第127図 PL.165	11	縄文土器 深鉢	底部	底	11.0			砂粒/良/茶褐色	無文底部。	後期前葉
第127図 PL.166	12	縄文土器 深鉢	底部	底	10.6			砂粒/普通/茶褐色	無文、底部網代痕。	後期前葉
第128図 PL.166	13	剥片石器 石鏃	欠損	長 幅	1.6 1.3	厚 重	0.3 (0.3)	黒曜石//	平基無茎鏃、押圧剥離による両面加工が認められる、片側基部を僅かに欠く、薄手の作り。	
第128図 PL.166	14	剥片石器 打製石斧	欠損	長 幅	(8.9) 8.2	厚 重	3.3 (220)	細粒輝石安山岩//	分銅型の刃部か、横に開き、刃部は直線的。	
第128図 PL.166	15	礫石器 磨製石斧	完形	長 幅	7.1 3.3	厚 重	1.1 46.9	変質蛇紋岩//	定角式、基部は円みを有す、全面良く研磨され、側縁部の稜も明瞭、基部および側縁部に黒色の残留物が見られる。	
第128図 PL.166	16	礫石器 磨製石斧	欠損	長 幅	5.9 3.8	厚 重	1.5 (68)	変玄武岩//	定角式、研磨により稜は明瞭に作り出されている、裏面がやや凹んでいる、製作後の傷が見られる、基部を欠く。	
第128図 PL.166	17	礫石器 凹石	完形	長 幅	12.3 6.6	厚 重	4.1 555	粗粒輝石安山岩//	やや偏平な楕円礫利用、両面に浅い凹み穴有す。	
第128図 PL.166	18	礫石器 磨石	完形	長 幅	18.9 13.8	厚 重	8.8 3665	粗粒輝石安山岩//	大ぶりの礫利用、両面磨り面として使用、小振りでやや深い凹み穴を両面に複数有す。	
第128図 PL.166	19	礫石器 磨石	完形	長 幅	11.0 7.1	厚 重	3.4 420	粗粒輝石安山岩//	偏平礫利用、両面使用面とする、一面に打痕。	
第128図 PL.166	20	礫石器 磨石	欠損	長 幅	(12.2) 10.5	厚 重	4.3 855	粗粒輝石安山岩//	偏平礫利用、両面使用面とする、一面に打痕による浅い凹みあり。	
第128図 PL.166	21	礫石器 凹石	完形	長 幅	(10.5) 6.7	厚 重	4.6 515	粗粒輝石安山岩//	やや偏平な楕円礫利用、両面使用面で片面側に浅い凹み穴有す。	
第128図 PL.166	22	礫石器 磨石	完形	長 幅	12.6 9.5	厚 重	4.7 880	変質安山岩//	偏平な楕円礫利用、両面使用面としており極めて平滑。	
第129図 PL.166	23	礫石器 立石	完形	長 幅	32.7 15.3	厚 重	9.3 7200	粗粒輝石安山岩//	大型長円礫、一端がやや細くなる、両面に数個ずつの凹み穴、竪穴建物壁際に直立状態で出土している。	壁面出土
第129図 PL.166	24	礫石器 磨石	完形	長 幅	12.5 8.7	厚 重	2.9 515	粗粒輝石安山岩//	扁平な楕円礫利用、両面使用。	
第129図 PL.166	25	礫石器 多孔石	完形	長 幅	17.7 18.9	厚 重	11.0 4470	粗粒輝石安山岩//	大ぶりの角礫表面に、10数カ所の凹み穴が穿たれている。	

31号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第131図 PL.166	1	縄文土器 鉢	口縁～底部	口 底	17.5 8.0	高	14.0	微砂粒/良/赤茶褐色	口縁部やや内湾、口縁下に横位沈線、渦巻き文描き、2本沈線による4単位の渦巻き文、文様間に逆U字状文、波状懸垂文。	後期初頭
第131図 PL.166	2	剥片石器 石鏃	欠損	長 幅	(2.4) (1.5)	厚 重	0.5 (1.6)	黒曜石//	突基無茎鏃、押圧剥離による両面加工が認められる、基部はやや張り出す程度、片側を欠く。	
第131図 PL.166	3	礫石器 磨石	完形	長 幅	14.6 9.2	厚 重	5.5 1260	粗粒輝石安山岩//	偏平な俵形の礫利用、両面使用し、浅い凹み穴が見られる。	
第131図 PL.166	4	礫石器 磨石	完形	長 幅	14.3 10.8	厚 重	4.8 1150	粗粒輝石安山岩//	小判型の礫利用、両面使用面で使用痕顕著。	
第131図 PL.166	5	礫石器 磨石	完形	長 幅	14.4 8.2	厚 重	5.7 1055	粗粒輝石安山岩//	やや偏平な楕円礫、両面に浅い打痕状の凹みが見られる、表面に黒色の残留物付着。	
第131図 PL.166	6	礫石器 磨石	完形	長 幅	8.4 6.3	厚 重	5.2 340	粗粒輝石安山岩//	卵形の礫利用、端部に打痕。	

32号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第133図 PL.167	1	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/黒色	縄文ＲＬ多方向施文。	中期末様
第133図 PL.167	2	縄文土器 深鉢	頸部					砂粒多く含む/良/暗茶褐色	隆帯による楕円渦巻き文、縄文充填施文。	中期後葉
第133図 PL.167	3	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒多く含む/良/暗茶褐色	隆帯による楕円渦巻き文か、隆帯剥落、縄文充填施文。	中期後葉
第133図 PL.167	4	縄文土器 深鉢	底部	底	10.0			砂粒多く含む/普通/淡褐色	２本の垂下沈線。	炉内、中期後葉
第133図 PL.167.	5	剥片石器 石鏃	欠損	長 幅	(2.8) (1.5)	厚 重	0.4 (1.4)	黒色頁岩//	基部欠損、長身で押圧剥離による両面加工が認められる。	

33号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第135図 PL.167	1	縄文土器 深鉢	口縁～胴部	口	38.6			砂粒/良/茶褐色	４単位の波状口縁、隆帯による楕円渦巻き文、文様内横位重弧状沈線を充填、以下沈線による逆Ｕ状文、渦巻き懸垂文、地文に集合沈線。	埋甕、中期後葉

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第135図 PL.167	2	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/淡褐色	口縁部隆帯による楕円渦巻き文、楕円文内縄文ＬＲ充填施文、胴部２本沈線で無文帯、間を縄文ＬＲ縦位施文。	中期後葉
第135図 PL.167	3	剥片石器 石鏃	完形	長 2.5 幅 1.6		厚 0.3 重 0.7		黒曜石//	凹基無茎鏃、抉りは浅い、押圧剥離による両面加工が認められる、薄手で作りは丁寧。	
第135図 PL.167	4	剥片石器 石鏃	欠損	長 (2.0) 幅 1.3		厚 0.2 重 (0.6)		黒色頁岩//	凹基無茎鏃、抉り浅く薄手で先端部を欠く。	
第135図 PL.167	5	剥片石器 石鏃	欠損	長 (1.4) 幅 (0.8)		厚 0.3 重 (0.3)		チャート//	先端部片、押圧剥離による両面加工が認められる。	
第135図 PL.167	6	剥片石器 石錐	ほぼ完形	長 (4.3) 幅 1.9		厚 0.7 重 3.9		黒色頁岩//	つまみ部の端部に自然面、錐部は細長く周囲に調整見られる、先端を僅かに欠く。	
第135図 PL.167	7	剥片石器 打製石斧	完形	長 26.3 幅 9.7		厚 4.0 重 1015		細粒輝石安山岩//	大型の撥型、刃部は円みを有し、やや内傾する、両面に自然面残す。	
第135図 PL.167	8	剥片石器 打製石斧	欠損	長 8.2 幅 4.1		厚 1.3 重 (51)		黒色頁岩//	小型の撥型、片面に大きく自然面残す、使用痕あり。	
第135図 PL.167.	9	礫石器 磨石	完形	長 9.9 幅 8.5		厚 7.2 重 910		粗粒輝石安山岩//	亜円礫利用、ほぼ全面を磨り面としている。	
第135図 PL.167	10	礫石器 石皿	欠損	長 (22.2) 幅 (15.0)		厚 (8.6) 重 (3500)		粗粒輝石安山岩//	大型石皿片、磨り面は浅く窪んで平滑、縁部分も欠損。	

34号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第138図 PL.167	1	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/茶褐色	縦位２本沈線による狭い磨り消し帯、縄文帯はＲＬ縦位施文。	炉体土器、中期後葉
第138図 PL.167	2	剥片石器 石鏃	ほぼ完形	長 (2.0) 幅 1.5		厚 0.3 重 0.6		黒曜石//	凹基無茎鏃、押圧剥離による両面加工が認められる、作りは丁寧。	
第138図 PL.167	3	礫石器 磨石	完形	長 9.5 幅 7.8		厚 5.0 重 560		粗粒輝石安山岩//	やや偏平な円礫利用、両面を磨り面としている、極浅い打痕状の凹み穴が見られる。	
第138図 PL.167	4	礫石器 磨石	完形	長 13.0 幅 7.4		厚 4.5 重 585		粗粒輝石安山岩//	不定型な礫を利用、平坦面を使用面とし、浅い凹みが見られる。	

35号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第140図 PL.167	1	縄文土器 深鉢	口縁～胴部	口 20.0				砂粒/良/暗茶褐色	口縁部に隆帯による弧状文、垂下隆線文様、縦楕円文、渦巻き文、間隙を縦位、斜位の集合沈線で埋める。	中期後葉
第140図 PL.167	2	縄文土器 深鉢	底部	底 5.4				精製/良/淡黄褐色	網代痕有す。	後期前葉
第140図 PL.167	3	縄文土器 深鉢	底部	底 12.4				砂粒/良/茶褐色	無文、底部網代痕。	後期前葉
第140図 PL.167	4	剥片石器 石鏃	欠損	長 1.9 幅 (1.5)		厚 0.4 重 (1.1)		黒色安山岩//	平基無茎鏃、押圧剥離による両面加工が認められる、片面研磨か。	
第140図 PL.167	5	礫石器 磨石	欠損	長 (11.1) 幅 7.4		厚 4.4 重 (475)		粗粒輝石安山岩//	楕円礫利用、両面を磨り面としている、使用痕顕著、被熱。	
第140図 PL.167	6	礫石器 凹石	欠損	長 (8.5) 幅 (7.5)		厚 (4.0) 重 (313)		粗粒輝石安山岩//	楕円礫利用、両面を磨り面としている、浅い凹み穴有す、被熱。	

36号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第142図 PL.168	1	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/黄橙色	縦位沈線から集合沈線、平行沈線による円形文。	中期後葉
第142図 PL.168	2	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/灰黄褐色	横位隆帯。２本沈線による三角文、縄文充填。	後期前葉
第142図 PL.168	3	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/灰黄褐色	沈線による曲線文様。	後期前葉
第142図 PL.168	4	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/赤茶褐色	沈線文。	後期前葉
第142図 PL.168	5	剥片石器 石鏃	欠損	長 1.8 幅 1.2		厚 0.3 重 (0.6)		流紋岩//	平基無茎鏃、小型品、押圧剥離による両面加工が認められる、基部片面に深い剥離欠損あり。	
第142図 PL.168	6	剥片石器 石鏃	ほぼ完形	長 2.4 幅 1.2		厚 0.4 重 1.1		チャート//	突基鏃、木の葉形で先端部押圧剥離による両面加工が認められるが、側縁部粗い調整。	
第142図 PL.168	7	剥片石器 打製石斧	完形	長 10.2 幅 4.4		厚 2.6 重 99		変質安山岩//	小型の短冊型、基部から中央部に欠けやや厚く、刃部は薄くなる。	
第142図 PL.168	8	礫石器 磨石	完形	長 16.3 幅 7.7		厚 4.3 重 885		粗粒輝石安山岩//	偏平な長円礫利用、両面使用面、被熱。	
第142図 PL.168	9	礫石器 磨石	欠損	長 11.2 幅 8.4		厚 6.7 重 (880)		粗粒輝石安山岩//	亜円礫利用、ほぼ全面を磨り面としている、表面平滑で被熱。	
第142図 PL.168	10	礫石器 軽石製品	完形	長 7.4 幅 6.3		厚 5.2 重 174		粗粒輝石安山岩//	不定型軽石製品、平らな面があり砥石として利用か、被熱。	
第142図 PL.168	11	礫石器 石皿	完形	長 24.6 幅 18.4		厚 6.5 重 4515		粗粒輝石安山岩//	大型の中央部がやや窪んだ礫を利用か、使用面は僅かに凹み、明瞭な縁は見られない。	

37号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第144図 PL.168	1	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/淡褐色	隆帯による楕円渦巻き文、集合沈線を充填施文。	中期後葉
第144図 PL.168	2	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/暗茶褐色	小波状口縁、隆帯による楕円渦巻き文か、以下縦位磨り消し縄文。	中期後葉
第144図 PL.168	3	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/灰黒色	口縁部に横位沈線、隆線で区切る、以下突起周りに沈線。	後期前葉
第144図 PL.168	4	縄文土器 浅鉢	口縁部					砂粒/良/黒褐色	口縁部に円孔有す小突起、外面横位多段沈線文、内面刺突文伴う隆線、刻み斜線有す多段沈線。	後期前葉
第144図 PL.168	5	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/茶褐色	口縁部環状突起、把手内面沈線、円文で飾る、外面に沈線による文様描く。	後期前葉
第144図 PL.168	6	剥片石器 石鏃	欠損	長 (1.6) 幅 (1.2)		厚 0.3 重 (0.4)		黒曜石//	凹基無茎鏃、抉り浅い、押圧剥離による両面加工が認められる、片脚を欠く。	
第144図 PL.168	7	礫石器 多孔石	欠損	長 17.2 幅 17.7		厚 10.3 重 (3155)		粗粒輝石安山岩//	大ぶりの欠損した角礫表面に、10数カ所の凹み穴が穿たれている。	

38号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第146図 PL.168	1	縄文土器 深鉢	口縁～胴部	口 20.3				砂粒/普通/黄橙色	口縁に刺突隆線巡る、以下横位縄文帯で上下区画し、３本の沈線により、連続三角文。	炉体土器、後期前葉
第146図 PL.168	2	礫石器 磨製石斧	欠損	長 (9.2) 幅 (3.7)		厚 2.3 重 (149)		変玄武岩//	製作時の側縁稜はやや不明瞭で、器面の風化顕著、刃部欠損後敲打具として再利用か。	
第146図 PL.168	3	礫石器 凹石	ほぼ完形	長 11.6 幅 9.1		厚 3.2 重 (455)		珪質変質岩//	偏平な楕円礫利用、両面に２個一対の凹み穴、表面に鉄分の付着。	
第146図 PL.168	4	礫石器 軽石製品(砥石)	欠損	長 (6.6) 幅 5.7		厚 2.5 重 (51)		軽石//	軽石を板状に研磨成形、断面長方形、端部斜めに磨り減っており、砥石として利用か。	

39号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第148図 PL.168	1	縄文土器 深鉢	口縁～胴部	口 31.0				砂粒/良/茶褐色	沈線による楕円文と隆帯による円形文を交互に配し、文様内縄文施文、胴部３本の垂下沈線による無文帯、間は縄文施文。	埋甕、中期後葉
第148図 PL.168	2	剥片石器 石鏃	ほぼ完形	長 2.9 幅 (1.8)		厚 0.7 重 (2.6)		流紋岩//	平基無茎鏃、中央部肥厚、未製品か。	
第148図 PL.168	3	礫石器 磨石	完形	長 12.1 幅 8.7		厚 4.1 重 655		粗粒輝石安山岩//	偏平な楕円礫利用、両面使用、端部に打痕。	

40号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第150図 PL.169	1	縄文土器 深鉢	口縁～底部	口 38.0 底 7.0		高 52.5		砂粒/良/灰褐色	小波状を呈す、隆帯による横位楕円文、縄文充填、胴部２本垂下沈線による磨り消し帯で縄文帯を画す、縄文ＲＬ縦位。	中期後葉
第150図 PL.169	2	縄文土器 深鉢	胴部～底部	底 7.0				砂粒/良/淡褐色	口縁部を欠く、縄文充填した垂下並行沈線で縦位区画、間には対向するＵ字状文、上側は広く、下は細く中に縄文充填。	埋甕、中期後葉
第150図 PL.169	3	剥片石器 石鏃	ほぼ完形	長 2.9 幅 2.1		厚 0.6 重 2.4		黒曜石//	凹基無茎鏃、抉りは浅い、押圧剥離による両面加工が認められる、側縁および先端部斑晶部で欠損。	
第150図 PL.169	4	礫石器 磨製石斧	欠損	長 (6.1) 幅 (3.8)		厚 1.9 重 (88)		変質蛇紋岩//	研磨成形、基部片、欠損面の剥落顕著、欠損後敲打具として再利用か。	
第150図 PL.169	5	礫石器 磨石	完形	長 12.4 幅 8.0		厚 4.1 重 643.4		粗粒輝石安山岩//	偏平な楕円礫利用、両面磨り面として使用し平滑、2個一対の凹み穴、被熱によるひび割れ。	
第150図 PL.169	6	礫石器 凹石	完形	長 12.1 幅 10.1		厚 5.5 重 950		デイサイト//	やや薄手の円礫利用、両面に打痕状の凹みあり。	

42号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第152図 PL.169	1	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/黒褐色	口唇部に沈線、以下縦位沈線文。	後期前葉
第152図 PL.169	2	縄文土器 深鉢	胴部					精製/良/黒褐色	横位多段沈線に縦位区切り文。	後期中葉
第152図 PL.169	3	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/黄橙色	無文。	後期中葉
第152図 PL.169	4	縄文土器 深鉢	頸部					砂粒/良/明黄褐色	横位、縦位の刻み隆線の交点に８字状貼付文。	後期前葉
第152図 PL.169	5	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/灰褐色	縦位沈線文。	後期前葉

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第152図 PL.169	6	縄文土器 浅鉢	口縁部					砂粒/良/黄褐灰色、内面黒色	内面刺突文、隆線、以下曲線文様。	後期中葉
第152図 PL.169	7	縄文土器 注口 ミニチュア	完形	口	1.8	高	4.9	砂粒/良/茶褐色	胴下部がやや膨らみ底部は丸底気味、口縁部左右の突起部には、上下やや斜め方向の貫通孔、注口部は短く突き出る。	後期前葉か
第152図 PL.169	8	剥片石器 石鏃	完形	長 幅	1.8 1.1	厚 重	0.3 0.3	黒曜石//	小型凹基無茎鏃、押圧剥離による両面加工が認められる、丁寧な作り。	
第152図 PL.169	9	剥片石器 石鏃	ほぼ完形	長 幅	1.7 (1.3)	厚 重	0.3 0.4	黒曜石//	小型凹基無茎鏃、押圧剥離による両面加工が認められる、片面研磨か。	
第152図 PL.169	10	剥片石器 打製石斧	ほぼ完形	長 幅	9.0 5.1	厚 重	1.5 94.1	黒色頁岩//	短身の短冊型、片面に自然面残し、刃部はやや薄く作られる。	

44号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第154図 PL.169	1	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/暗茶褐色	口縁内傾、沈線に連続U字状文描き、縄文充填施文。	中期末
第154図 PL.169	2	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/普通/淡褐色	口縁内傾、沈線に連続U字状文描き、縄文充填施文。	中期末
第154図 PL.169	3	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/普通/淡褐色	口縁内傾、沈線に連続U字状文描き、縄文充填施文。	中期末
第154図 PL.169	4	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/黒褐色	波頂部に環状把手か、横位沈線下、連続U字状文描き、縄文充填施文。	中期末
第154図 PL.169	5	縄文土器 深鉢	底部	底	9.4			砂粒/良/茶褐色	無文底部。	中期後葉
第154図 PL.169	6	剥片石器 石鏃	欠損	長 幅	(1.6) (1.6)	厚 重	0.3 (0.7)	黒曜石//	凹基無茎鏃、押圧剥離による両面加工が認められる、脚端部、先端部を欠く。	
第154図 PL.169	7	剥片石器 石鏃	完形	長 幅	1.5 1.3	厚 重	0.3 0.5	黒曜石//	凹基無茎鏃、抉り浅く幅広で短身、押圧剥離による両面加工が認められる。	
第154図 PL.170	8	礫石器 凹石	欠損	長 幅	14.8 (5.5)	厚 重	3.0 (359)	粗粒輝石安山岩//	偏平な長円礫利用、両面に２個一対の凹み穴有す。	
第154図 PL.170	9	礫石器 磨石	完形	長 幅	10.7 8.9	厚 重	5.0 710	粗粒輝石安山岩//	偏平な楕円礫利用、両面使用、一面に浅い凹み穴有す。	
第154図 PL.170	10	礫石器 多孔石	完形	長 幅	24.0 17.5	厚 重	12.0 5800	粗粒輝石安山岩//	自然礫利用、やや平坦な対面に、それぞれ10数個の凹み穴を穿つ。	

45号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第156図 PL.170	1	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/茶褐色	斜沈線横位施文後、横位平行沈線文。	後期前葉
第156図 PL.170	2	縄文土器 浅鉢	口縁部					砂粒/良/黒色	小波状、波頂部に刻み、円文、縦８字状文、外面沈線による横位、斜位の縄文帯。	後期前葉
第156図 PL.170	3	縄文土器 浅鉢	口縁部					砂粒/良/黒色	小波状、波頂部に刻み、円文、縦８字状文、外面沈線による横位、斜位の縄文帯。	後期前葉
第156図 PL.170	4	縄文土器 浅鉢	口縁部					砂粒/良/黒色	無文、内文横位多段沈線文、交互に連続斜め刻み文、器面研磨。	後期前葉
第156図 PL.170	5	縄文土器 深鉢	底部	底	10.4			砂粒/良/淡褐色	無文底部、網代痕あり。	後期前葉
第156図 PL.170	6	縄文土器 深鉢	底部	底	14.0			砂粒/良/黒褐色	無文底部、網代痕あり。	後期前葉
第156図 PL.170	7	礫石器 磨石	完形	長 幅	13.6 9.1	厚 重	5.7 1070	粗粒輝石安山岩//	楕円礫利用、両面を磨り面としているが、やや円みを持った面の使用痕顕著、裏面には浅い打痕状の凹み穴有す。	
第156図 PL.170	8	礫石器 石皿か	完形	長 幅	15.2 11.6	厚 重	8.7 1440	粗粒輝石安山岩//	不定型な礫の上面部に複数の凹み穴。	

46号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第158図 PL.171	1	縄文土器 深鉢	口縁部	口	24.0			砂粒、石英多く含む/良/暗褐色	隆帯による渦巻き連弧文、口縁部縦位集合沈線、胴部横位沈線下に曲線文様。	中期後葉
第158図 PL.171	2	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒、石英多く含む/良/暗褐色	上端部に渦巻き文有す垂下隆線文、横位、縦位の沈線により区画文、区画内は縄文施文。	中期後葉
第158図 PL.171	3	縄文土器 深鉢	口縁～胴部					砂粒、石英多く含む/良/暗褐色	波状口縁、隆帯による連弧文、細沈線充填施文、以下沈線による曲線文様描き、中位に横Ｓ字状文、下位は2本の縦位沈線で区画し２区画ごとに縄文施文。	中期後葉
第158図 PL.171	4	縄文土器 鉢	口縁～底部					微砂粒/良/黒褐色	横位沈線に刻み伴う、以下沈線で磨り消し曲線文描く。	後期初頭
第158図 PL.171	5	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/灰褐色	縄文全面施文。	中期後葉

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第158図 PL.171	6	縄文土器 深鉢	底部					砂粒/普通/褐色	垂下沈線か。	中期後葉
第158図 PL.171	7	縄文土器 鉢	口縁部	口	25.0			微砂粒/良/灰褐色	無文、一対の環状把手が付くと思われる、内面煤付着。	後期
第158図 PL.171	8	縄文土器 深鉢	底部	底	7.0			砂粒/普通/茶褐色	僅かに沈線文、器面風化。	中期後葉
第159図 PL.171	9	剥片石器 石鏃	完形	長 幅	1.9 1.3	厚 重	0.4 0.4	黒曜石//	凹基無茎鏃、抉り深く細身、押圧剥離による両面加工が認められる、やや厚みあり。	
第159図 PL.171	10	剥片石器 石鏃	完形	長 幅	1.5 1.4	厚 重	0.3 0.4	黒曜石//	凹基無茎鏃、短身で基部が開く、押圧剥離による両面加工が認められる。	
第159図 PL.171	11	剥片石器 石鏃	欠損	長 幅	(1.5) 1.2	厚 重	0.3 (0.6)	黒曜石//	凹基無茎鏃、抉りは浅い、押圧剥離による両面加工が認められる、先端部を欠く。	
第159図 PL.171	12	剥片石器 石鏃	ほぼ完形	長 幅	(1.5) 1.6	厚 重	0.3 (0.6)	黒曜石//	平基無茎鏃、押圧剥離による両面加工が認められる、作りはやや粗く、先端部の判別難しい。	
第159図 PL.171	13	剥片石器 石錐	欠損	長 幅	(2.1) (1.1)	厚 重	0.4 (0.9)	チャート//	広がったつまみ部に錐部が付く、先端部を欠く。	
第159図 PL.171	14	剥片石器 石錐	ほぼ完形	長 幅	3.5 1.1	厚 重	0.5 (1.2)	黒色頁岩//	片方が細くなる縦長の剥片利用、一側縁部に簡単な剥離調整、先端部には使用痕。	
第159図 PL.171	15	剥片石器 石錐	完形	長 幅	(2.9) (1.3)	厚 重	0.8 2.7	黒曜石//	未製品とみられる、三角錐状剥片の二縁辺に調整見られる。	
第159図 PL.171	16	剥片石器 打製石斧	完形	長 幅	11.5 4.2	厚 重	1.7 105.0	黒色頁岩//	短冊型、全体に風化が進み、刃部使用による摩耗顕著。	
第159図 PL.171	17	礫石器 磨製石斧	完形	長 幅	4.6 2.5	厚 重	0.6 11.1	変質蛇紋岩//	小型定角式、薄手で刃部やや幅広、作りは丁寧。	
第159図 PL.171	18	礫石器 凹石	完形	長 幅	7.0 5.9	厚 重	3.3 129.0	粗粒輝石安山岩//	やや偏平な小円礫、一面中央に浅い凹み穴有す。	
第159図 PL.171	19	礫石器 凹石	完形	長 幅	11.8 8.4	厚 重	4.2 342	粗粒輝石安山岩//	偏平な楕円礫利用、両面に極浅い凹み穴有す、発泡質の石材。	
第159図 PL.171	20	礫石器 多孔石	欠損	長 幅	(24.0) (20.4)	厚 重	(14.1) (7400)	粗粒輝石安山岩//	欠損した大型片利用、円みを持った面に、数個のやや小さめ凹み穴が穿たれている。	
第159図 PL.171	21	礫石器 石棒	欠損	長 径	(12.0) 10.3	厚 重	- (2100)	デイサイト//	大型石棒の欠損品、断面ほぼ円形で研磨痕、両端面にも部分的に磨痕見られる、また縁は敲打により面取りされている、再利用品か。	

47号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第161図 PL.171	1	縄文土器 深鉢	口縁～胴部					砂粒/良/黒褐色	隆帯による楕円渦巻き文、以下垂下隆帯で縦位区画し、区画内縄文施文。	中期後葉
第161図 PL.171	2	縄文土器 深鉢	頸部					砂粒/良/灰黄色	隆帯による横長楕円文間に、耳状突起、楕円文内に縦位沈線充填。	中期後葉
第161図 PL.171	3	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/茶褐色	隆帯による連弧文、斜位沈線充填。	中期後葉
第161図 PL.171	4	礫石器 凹石	完形	長 幅	13.6 10.3	厚 重	5.4 1160	粗粒輝石安山岩//	やや偏平な楕円礫利用、両面に浅い2個一対の凹み穴有す、煤付着。	
第161図 PL.171	5	礫石器 磨石	欠損	長 幅	(7.2) 8.4	厚 重	5.5 (432)	粗粒輝石安山岩//	俵状の礫利用、両面使用。	
第161図 PL.171	6	礫石器 磨石	完形	長 幅	9.0 7.9	厚 重	4.0 400.2	粗粒輝石安山岩//	偏平な円礫利用、両面使用。	

48号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第163図 PL.172	1	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/暗褐色	波頂部に縦位沈線、円文、以下無文。	後期前葉
第163図 PL.172	2	縄文土器 深鉢	胴部～底部	底	10.0			砂粒/良/茶褐色	無文、底部に網代痕。	後期前葉
第163図 PL.172	3	縄文土器 注口土器	口縁部	口	8.0			精製/良/灰黒色	口縁部短く立ち上がり刻み有す、環状突起は上部に円孔、口縁部の横位２本沈線は把手を囲い、縦沈線有す三角懸垂文描く、さらに曲線文様描き、文様内縄文施文。	後期中葉
第163図 PL.172	4	剥片石器 石鏃	完形	長 幅	1.4 1.5	厚 重	0.3 0.3	黒曜石//	小型凹基無茎鏃、押圧剥離による両面加工が認められる、やや厚みあり。	
第163図 PL.172	5	剥片石器 石鏃	完形	長 幅	2.0 1.6	厚 重	0.5 1.5	黒色安山岩//	平基無茎鏃、押圧剥離による両面加工が認められる。	
第163図 PL.172	6	剥片石器 石鏃	ほぼ完形	長 幅	(1.5) (1.4)	厚 重	0.3 (0.6)	黒曜石//	凹基無茎鏃、押圧剥離による両面加工が認められる、片脚の端部に僅かな欠損。	
第163図 PL.172	7	剥片石器 石鏃	欠損	長 幅	(2.0) (1.9)	厚 重	0.4 (1.1)	黒曜石//	凹基無茎鏃、押圧剥離による両面加工が認められる、片脚、先端部を欠く。	
第163図 PL.172	8	剥片石器 石鏃	欠損	長 幅	(1.9) (1.7)	厚 重	0.4 (0.9)	黒色頁岩//	凹基無茎鏃、押圧剥離による両面加工が認められる先端部欠く。	
第163図 PL.172	9	剥片石器 石鏃	欠損	長 幅	(1.3) 1.3	厚 重	0.2 (0.4)	チャート//	凹基無茎鏃、抉り浅い、押圧剥離による両面加工が認められる、作りは丁寧で先端部を欠く。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第163図 PL.172	10	剥片石器 石鏃	欠損	長	(1.6)	厚	0.3	黒曜石//	押圧剥離による両面加工が認められる、基部を欠く。	
				幅	(1.3)	重	(0.4)			
第163図 PL.172	11	剥片石器 石鏃	ほぼ完形	長	(1.7)	厚	0.3	黒曜石//	凹基無茎鏃、抉り浅く押圧剥離による両面加工が認められる。	
				幅	(1.4)	重	(0.6)			
第163図 PL.172	12	剥片石器 石鏃	欠損	長	(1.5)	厚	0.4	黒曜石//	未製品、片面に素材剥離段階での剥離面残る。	
				幅	1.5	重	(0.8)			
第163図 PL.172	13	剥片石器 石鏃	ほぼ完形	長	(1.8)	厚	0.4	黒曜石//	木の葉状を呈す、押圧剥離による両面加工が認められる、基部は突き出る、未製品とみられる。	
				幅	0.9	重	(0.7)			
第163図 PL.172	14	剥片石器 打製石斧	完形	長	10.9	厚	1.9	細粒輝石安山岩//	撥型、左右非対称で側縁の作りは粗い、両面に自然面、刃部摩耗痕。	
				幅	4.1	重	76.0			
第163図 PL.172	15	礫石器 磨石	欠損	長	(11.8)	厚	4.5	粗粒輝石安山岩//	偏平な楕円礫利用、片面がやや膨らむ形状、両面使用、端部欠損。	
				幅	7.4	重	(560)			
第163図 PL.172	16	礫石器 磨石	完形	長	12.7	厚	6.2	粗粒輝石安山岩//	やや偏平で大振りな楕円礫利用、片面がやや膨らむ形状、両面使用、２個一対の浅い凹み穴。	
				幅	9.5	重	1015			

49号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第165図 PL.172	1	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/暗褐色	口縁に沿って刺突隆線、以下縄文施文後波状沈線文。	中期末
第165図 PL.172	2	縄文土器 深鉢	底部	底	11.0			砂粒/良/茶褐色	無文底部。	中期後葉
第165図 PL.172	3	剥片石器 石鏃	完形	長	1.5	厚	0.3	黒曜石//	凹基無茎鏃、抉り浅い、押圧剥離による両面加工が認められる、局部磨製。	
				幅	1.3	重	0.4			

50号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第167図 PL.172	1	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/茶褐色	沈線による区画文。	中期後葉
第167図 PL.172	2	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/茶褐色	横位細隆線、内面横位多段沈線。	後期前葉
第167図 PL.172	3	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/橙褐色	縦位の磨り消し縄文帯。	中期後葉
第167図 PL.172	4	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/茶褐色	縄文全面施文。	中期後葉
第167図 PL.172	5	剥片石器 石鏃	欠損	長	(1.5)	厚	0.3	黒曜石//	凹基無茎鏃、押圧剥離による両面加工が認められる、脚部片とみられる。	
				幅	(1.4)	重	(0.4)			
第167図 PL.172	6	剥片石器 石鏃	欠損	長	(1.4)	厚	0.3	流紋岩//	凹基無茎鏃、抉り深く長脚、押圧剥離による両面加工が認められる、先端部を欠く。	
				幅	1.4	重	(0.3)			
第167図 PL.172	7	剥片石器 石鏃	欠損	長	(1.6)	厚	0.3	黒曜石//	凹基無茎鏃と思われる、両脚部分斜めに欠損、押圧剥離による両面加工が認められるが、先端部未成形。	
				幅	(1.2)	重	(0.5)			
第167図 PL.172	8	剥片石器 石鏃	ほぼ完形	長	1.8	厚	0.4	黒曜石//	円基無茎鏃、押圧剥離による両面加工が認められる。左右非対称形。	
				幅	(1.6)	重	(0.9)			
第167図 PL.172	9	剥片石器 石鏃	欠損	長	(1.3)	厚	0.3	チャート//	脚部片か、先端は鋭く尖る。	
				幅	(0.6)	重	(0.2)			
第167図 PL.172	10	礫石器 磨製石斧	欠損	長	17.6	厚	3.3	変玄武岩//	乳棒状、基部は細く中央部分がやや広がる、刃部を欠く。	
				幅	5.2	重	(461)			
第167図 PL.172	11	礫石器 磨石	完形	長	7.4	厚	6.5	粗粒輝石安山岩//	円礫、ほぼ全面を使用面としている。	
				幅	7.2	重	525			
第167図 PL.172	12	礫石器 磨石	完形	長	12.0	厚	4.0	粗粒輝石安山岩//	偏平な楕円礫、両面使用面、片面に浅い打痕状の凹みあり。	
				幅	7.8	重	580			

51号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第169図 PL.173	1	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/淡褐色	2本隆線によるＳ字状、Ｊ字状懸垂文、交互に配し、文様間には斜位集合沈線文。	炉体土器、中期後葉
第169図 PL.173	2	縄文土器 深鉢	把手					砂粒/良/茶褐色	波頂部に環状把手、内面沈線、先端部に円形文、把手から口縁にそって刺突文伴う隆帯が延びる、また把手下部には円形懸垂文。	後期初頭
第169図 PL.173	3	剥片石器 剥片	完形	長	2.4	厚	0.7	黒曜石//	押圧剥離による粗い両面加工が認められる厚手の剥片素材、未製品。	
				幅	1.6	重	2.5			
第169図 PL.173	4	剥片石器 石鏃	欠損	長	1.5	厚	0.3	黒曜石//	押圧剥離による両面加工が認められるが粗雑な感じ、素材剥離段階での剥離面残す、基部を欠損か。	
				幅	1.2	重	(0.5)			

52号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第171図 PL.173	1	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/普通/黄褐色	沈線による楕円文。	中期末様

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第171図 PL.173	2	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/橙褐色	無文、口縁やや内湾。	中期後葉
第171図 PL.173	3	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/茶褐色	渦巻き懸垂文、縄文充填。	後期初頭
第171図 PL.173	4	縄文土器 深鉢	胴部					微砂粒/良/淡茶褐色	沈線による剣先懸垂文。	後期初頭
第171図 PL.173	5	縄文土器 有孔鍔付き土器	口縁部					微砂粒/良/茶褐色	口縁部ほぼ直立、短い鍔が巡る。	中期後葉
第171図 PL.173	6	剥片石器 石鏃	欠損	長 幅	2.0 1.7	厚 重	0.8 (2.0)	黒曜石//	押圧剥離による粗い両面加工が認められる、器肉厚く一部欠損、未製品であろう。	
第171図 PL.173	7	剥片石器 打製石斧	完形	長 幅	10.0 4.4	厚 重	1.1 69	黒色頁岩//	小振りの短冊型、基部上端に自然面残る、刃部円みを呈し摩耗痕あり。	
第171図 PL.173	8	剥片石器 打製石斧	ほぼ完形	長 幅	12.1 5.0	厚 重	1.5 98	黒色頁岩//	短冊型、中央部が肥厚し両端薄く作られる、一部自然面残る。	
第171図 PL.173	9	礫石器 磨石	完形	長 幅	15.6 6.3	厚 重	5.5 830	粗粒輝石安山岩//	細長の俵形礫、ほぼ全面使用。	

53号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第173図 PL.173	1	縄文土器 深鉢	口縁～胴部	口	39.0			砂粒/良/淡黄褐色	口縁部隆帯による楕円渦巻き文、文様内縄文充填、胴部２本沈線による磨り消し帯で、縄文帯縦位区画。	埋甕、中期後葉
第173図 PL.173	2	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/橙褐色	沈線による連続U字状垂下文、逆U字状文を一つ置きに描き、間のU字状文下には蕨手垂下文、区画内には、縄文ＲＬ縦位充填施文。	炉体土器、中期末
第173図 PL.173	3	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/茶褐色	凹線下に隆帯および沈線、以下縄文施文。	中期後葉
第173図 PL.173	4	縄文土器 深鉢	底部	底	6.7			砂粒/良/茶褐色	底部に縄文か。	中期後葉
第173図 PL.173	5	縄文土器 土製円盤						砂粒/良/茶褐色	胴部片利用。	中期
第173図 PL.173	6	剥片石器 打製石斧	ほぼ完形	長 幅	9.5 5.6	厚 重	1.7 128	黒色頁岩//	短身でやや幅広、再生品の可能性あり。	
第173図 PL.173	7	礫石器 磨製石斧	欠損	長 幅	(8.5) (6.0)	厚 重	(3.3) (313)	変輝緑岩//	大型の基部片側縁部の稜はやや円みを有す。	
第173図 PL.173	8	礫石器 磨石	完形	長 幅	15.0 7.8	厚 重	4.5 840	粗粒輝石安山岩//	偏平ななすび型、両面使用面、それぞれに浅い打痕状の凹み穴を有す。	

54号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第175図 PL.174	1	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/黄褐色	口縁部横位２本沈線、８字状文有す小突起、以下沈線による垂下文様内に刺突文。	後期初頭
第175図 PL.174	2	縄文土器 深鉢	口縁～胴部					砂粒/良/茶褐色	隆帯による渦文、楕円文様か、縄文充填、胴部逆U字状文、蕨手文。	中期後葉
第175図 PL.174	3	縄文土器 両耳壺	把手・胴部					砂粒/良/茶褐色	両辺が高まった環状把手、把手下に円形文、沈線による楕円文、逆U字状文、蕨手懸垂文、文様内縄文充填。	中期後葉
第175図 PL.174	4	縄文土器 深鉢	底部	底	10.0			砂粒/良/茶褐色	無文。	中期後葉
第175図 PL.174	5	縄文土器 深鉢	底部	底	8.0			砂粒/良/茶褐色	垂下沈線文。	中期後葉
第175図 PL.174	6	剥片石器 石錐	欠損	長 幅	(3.8) (2.9)	厚 重	1.1 (5.6)	チャート//	つまみ部は銀杏葉状を呈す、錐部断面は紡錘形で押圧剥離による両面加工が認められる、先端を欠く。	
第175図 PL.174	7	礫石器 磨製石斧	ほぼ完形	長 幅	5.1 2.2	厚 重	0.85 16.6	変玄武岩//	小型定角式、研磨で成形、作りは良い、被熱。	
第175図 PL.174	8	礫石器 凹石	完形	長 幅	11.8 7.4	厚 重	3.8 510	粗粒輝石安山岩//	偏平な楕円礫利用、両面に浅い凹み穴有す。	
第175図 PL.174	9	礫石器 磨石	欠損	長 幅	(7.1) 8.8	厚 重	3.6 (363)	粗粒輝石安山岩//	偏平な楕円礫、両面使用面。	

55号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第177図 PL.174	1	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/灰褐色	沈線による磨り消し曲線文。	後期前葉
第177図 PL.174	2	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/黒褐色	横位細隆線、以下横位縄文帯。	後期前葉
第177図 PL.174	3	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/黒褐色	横位並行刻み隆線を8字状貼付文で連結、以下横位文様帯か。	後期前葉
第177図 PL.174	4	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/灰褐色	口縁部に刻み隆帯、以下無文。	後期前葉

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第177図 PL.174	5	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/黒褐色	沈線による横位、斜位文様描き、縄文施文。	後期前葉
第177図 PL.174	6	縄文土器 深鉢	頸部					砂粒/良/黒灰褐色	頸部に横位細隆線、以下沈線文様。	後期前葉
第177図 PL.174	7	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/黒色	沈線による波状、曲線文。	後期前葉

56号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第179図 PL.174	1	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/黒色	口縁部に多段沈線文、刺突文、縦位複数沈線で、矩形文様画す、縄文施文。	後期前葉
第179図 PL.174	2	縄文土器 小型鉢	口縁部					微砂粒/良/暗茶褐色	小型無文土器、口唇部薄く仕上げられている、成形時の指頭痕残る。	後期前葉
第179図 PL.174	3	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/黒色	口縁上部に沈線。	後期前葉
第179図 PL.174	4	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/黒色	頸部沈線円形文付し、横位刻み細隆線。	後期前葉
第179図 PL.174	5	縄文土器 深鉢	胴部					微砂粒/良/淡黄褐色	磨り消し、渦巻き沈線文様描く。	後期前葉

57号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第182図 PL.174	1	縄文土器 深鉢	口縁～胴部	口	21.6			砂粒多く含む/良/茶褐色	隆帯による楕円渦巻き文、以下連弧状懸垂文、幅峡逆U字状垂下文描き、間隙を連弧状沈線文で埋める。	中期後葉
第182図 PL.174	2	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒多く含む/良/暗褐色	隆帯による渦巻き文。	中期後葉
第182図 PL.174	3	縄文土器 深鉢	口縁～胴部					砂粒多く含む/良/茶褐色	円形化した楕円渦巻き文を横位連続で描く、集合沈線を充填施文。	中期後葉
第182図 PL.175	4	縄文土器 深鉢	口縁～胴部					砂粒多く含む/良/茶褐色	隆帯による連弧文、内部に横位斜位の沈線充填、以下縄文地に沈線による曲線文様。	中期後葉
第182図 PL.175	5	縄文土器 深鉢	口縁・胴部					砂粒/良/淡茶褐色	隆線による弧状、渦巻き、波状垂下文描き、間隙を集合沈線で埋める、一部に刺突文列。	中期後葉
第182図 PL.175	6	縄文土器 深鉢	口縁～胴部					砂粒多く含む/良/茶褐色	口縁部に渦巻き文、横位隆帯、以下隆帯による末端渦巻き懸垂文様、地には横位集合沈線。	中期後葉
第182図 PL.175	7	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒多く含む/良/茶褐色	横位隆線下に波状、曲線懸垂文、間隙を集合沈線で埋める。	中期後葉
第182図 PL.175	8	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒多く含む/良/黒褐色	縦位、横位の隆線文による区画内に、斜位集合沈線充填。	中期後葉
第182図 PL.175	9	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒多く含む/良/茶褐色	垂下隆線文、H字状、波状文、斜位集合沈線施文。	中期後葉
第182図 PL.175	10	縄文土器 深鉢	口縁～胴部	口	12.5			砂粒/良/茶褐色	口縁部肥厚、以下縄文ＲＬ縦位施文。	炉体土器、中期後葉
第183図 PL.175	11	縄文土器 深鉢	口縁～胴部					砂粒/良/茶褐色	口縁に横位、胴部に縦位の刺突文隆帯。	後期前葉
第183図 PL.175	12	剥片石器 石鏃	ほぼ完形	長 幅	(1.6) 1.3	厚 重	0.3 0.4	黒曜石//	凹基無茎鏃、押圧剥離による両面加工が認められる、薄手である。	
第183図 PL.175	13	剥片石器 石鏃	完形	長 幅	1.8 1.8	厚 重	0.6 1.6	黒曜石//	円みを持った三角形で鋭利さは見られない、押圧剥離による両面加工が認められるが未製品であろう。	
第183図 PL.175	14	剥片石器 石錐	ほぼ完形	長 幅	2.0 0.8	厚 重	0.3 0.4	チャート//	つまみ部は小さく、僅かに張り出すのみ、錐部断面は紡錘形で、押圧剥離による両面加工が認められる。	
第183図 PL.175	15	剥片石器 打製石斧	完形	長 幅	12.9 6.2	厚 重	1.4 150	黒色頁岩//	撥型、円刃で円く広がる、摩耗痕見られる。	
第183図 PL.175	16	礫石器 磨製石斧	欠損	長 幅	(3.7) (3.1)	厚 重	(0.9) (20)	変質蛇紋岩//	定角式の基部片、研磨成形で丁寧な作り。	
第183図 PL.175	17	礫石器 石皿	欠損	長 幅	(26.0) (24.0)	厚 重	8.0 (5700)	粗粒輝石安山岩//	大型石皿の欠損品、使用面はほぼ平らで平滑、縁は奥に向かって高くなる。	
第183図 PL.175	18	礫石器 多孔石	欠損	長 幅	(18.0) (15.5)	厚 重	9.0 (3155)	粗粒輝石安山岩//	大型礫利用、平坦面部に凹み穴数個。	
第183図 PL.175	19	礫石器 多孔石	完形	長 幅	25.8 27.6	厚 重	8.3 7000	粗粒輝石安山岩//	大型礫利用、やや平坦な２面に複数の凹み穴を穿つ、穴の大きさは平均しており、配置もほぼ均等である。	

58号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第187図 PL.176	1	縄文土器 深鉢	胴部～底部	口 底	29.0 8.4	高	36.5	砂粒/良/淡黄褐色	縦位の集合条線文。	埋甕、中期後葉
第187図 PL.176	2	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/灰黄色	隆線による楕円渦巻き文、斜位沈線充填。	中期後葉か
第187図 PL.176	3	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/淡黄褐色	口縁部欠く、胴部に2本の背向する蕨手懸垂文で器面を縦位分割し、区画内に、2列の縦位綾杉沈線文描く。	中期後葉

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第187図 PL.176	4	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/黄褐色	器面摩滅。	中期後葉
第187図 PL.176	5	縄文土器 深鉢	底部	底	6.0			砂粒/普通/灰黄褐色	底部片、欠け口摩耗、二次被熱顕著、器面剥離。	中期後葉か
第187図 PL.176	6	縄文土器 土製円盤	完形					砂粒/良/黄褐色	小型品。	
第187図 PL.176	7	縄文土器 土製円盤	完形					砂粒/良/橙褐色	小型品。	
第187図 PL.176	8	縄文土器 土製円盤	完形					砂粒/良/黒褐色	小型品。	
第187図 PL.176	9	縄文土器 土製円盤	完形					砂粒/良/黒褐色	小型品。	
第187図 PL.176	10	縄文土器 土製円盤	一部欠損					砂粒/良/黄褐色	欠損。	
第187図 PL.176	11	剥片石器 石鏃	欠損	長 幅	(2.6) (2.3)	厚 重	(0.9) (4.1)	チャート//	大型鏃、押圧剥離による両面加工が認められる、肉厚、石槍先端部か。	
第187図 PL.176	12	剥片石器 石錐	欠損	長 幅	(2.0) 1.1	厚 重	0.6 0.9	黒曜石//	小型の撥型を呈す、錐部先端、つまみ部分もを欠損か。	
第187図 PL.176	13	剥片石器 打製石斧	完形	長 幅	11.4 5.3	厚 重	1.5 115	細粒輝石安山岩//	撥型、比較的薄手の作り、刃部摩耗痕顕著。	
第187図 PL.176	14	礫石器 磨石	完形	長 幅	(12.0) 6.4	厚 重	3.8 485	粗粒輝石安山岩//	偏平な楕円礫、両面使用面。	
第187図 PL.176	15	礫石器 磨石	完形	長 幅	15.4 12.4	厚 重	9.5 2370	粗粒輝石安山岩//	大振りの円礫、両面を磨り面としている。	
第187図 PL.176	16	礫石器 凹石	欠損	長 幅	(6.0) 6.2	厚 重	3.7 (85)	デイサイト凝灰岩//	上面に凹み穴、大きく欠損し、欠損面は再調整している。	軽石？
第187図 PL.176	17	礫石器 石棒	欠損	長 幅	(14.7) (7.1)	厚 重	(6.2) (1130)	緑色片岩//	比較的大型の石棒頭部片、先端部を僅かに欠損し、直下に溝による括れを有す、風化顕著。	

59号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第189図 PL.176	1	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/淡黄褐色	口縁部、隆帯による楕円渦巻き文、縄文充填、以下縦位沈線で磨り消し帯、間は縄文ＲＬ縦位施文。	中期後葉
第189図 PL.176	2	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/茶褐色	口縁部２段に横位円形刺突文列、以下櫛歯文による連弧状文。	中期後葉
第189図 PL.176	3	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/橙黄褐色	口縁下にＴ字状の刺突隆線。	後期前葉
第189図 PL.176	4	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/普通/淡褐色	口縁外反、横位沈線による楕円文、間に縦の短沈線文。	中期後葉
第189図 PL.176	5	礫石器 石皿	欠損	長 幅	(19.3) (11.5)	厚 重	8.7 (2785)	粗粒輝石安山岩//	大型石皿の欠損品、磨り面部は大きく剥離欠損しており、平らな剥離面が見られる、磨り面は一部残り縁は余り高くない、被熱。	

60号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第191図 PL.176	1	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/黒褐色	横位刻み隆帯、以下横位縄文帯文様。	後期前葉
第191図 PL.176	2	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/黒褐色	２本の横位刻み細隆線。	後期前葉
第191図 PL.176	3	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/黒褐色	横位沈線文帯、縄文施文。	後期前葉
第191図 PL.176	4	縄文土器 鉢	口縁～胴部	口	18.0			砂粒/良/黒褐色	口縁部大きく開く、横位沈線２本沈線による、横位山連続形文。	後期前葉
第191図 PL.176	5	縄文土器 深鉢	胴部					微砂粒/良/茶褐色	沈線による渦巻き文の端部隆帯となる。	後期前葉
第191図 PL.176	6	剥片石器 石鏃	欠損	長 幅	1.6 (1.5)	厚 重	0.4 (1.0)	チャート//	凹基無茎鏃、抉りは極浅い、押圧剥離による両面加工が認められる、先端および片側基部の一部欠く。	
第191図 PL.176	7	剥片石器 石鏃	欠損	長 幅	(1.2) 1.9	厚 重	0.3 (0.5)	黒曜石//	凹基無茎鏃、脚がやや開く、押圧剥離による両面加工が認められる、先端部欠く。	
第191図 PL.176	8	礫石器 磨石	完形	長 幅	12.9 7.6	厚 重	5.0 785	粗粒輝石安山岩//	やや偏平な楕円礫利用、両面使用面とする。	
第191図 PL.176	9	礫石器 磨石	欠損	長 幅	(10.0) 7.6	厚 重	3.8 (450)	粗粒輝石安山岩//	偏平な礫を利用、両面使用で、中央部が僅かに凹む、被熱。	
第191図 PL.176	10	礫石器 石棒	欠損	長 幅	(16.0) 2.7	厚 重	(2.4) (212)	黒色片岩//	研磨による成形、丸棒状で先端は僅かに細く、端部平らに仕上がられる。	

61号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第193図 PL.177	1	縄文土器 深鉢	口縁～胴部	口	38.4			砂粒/良/暗褐色	口縁部無文、頸部に横位H字状隆線文、文様内縦位沈線で埋める、以下２本単位の隆線による、渦巻き懸垂文、間隙に集合沈線文充填。	中期後葉
第193図 PL.177	2	縄文土器 深鉢	口縁～底部	口 底	11.8 6.0	高	18.3	砂粒/良/茶褐色	小型土器、口縁部連弧文、中を斜沈線で埋める、肩部に横位隆線伴う沈線巡り、４カ所渦文で区切る、以下並行懸垂文で縦6分割、その間を、重弧状沈線文で埋める。	中期後葉
第193図 PL.177	3	縄文土器 深鉢	口縁～胴部	口 底	13.0 6.0	高	20.0	砂粒/良/橙黄褐色	口縁部隆帯による連弧文、接点部分は口縁部、渦巻き文小突起となる、以下胴部は縄文施文。	中期後葉
第193図 PL.177	4	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/黒褐色	口縁部隆帯による、横位弧状楕円文、以下２本垂下沈線により縦位分割し、縄文帯にはＲＬ縦位施文。	中期後葉
第193図 PL.177	5	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/暗茶褐色	口縁部無文帯を刺突文伴う横位２本隆線で画す、以下隆線、捻り隆線により矩形分割、区画文内側に沿って交互刺突文、さらに横位沈線文。	中期後葉
第193図 PL.177	6	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/淡褐色	隆帯による楕円文、沈線文を施文、以下渦巻き懸垂文。	中期後葉
第193図 PL.177	7	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/赤褐色	口縁部に捻り文、左右に沈線伴う隆帯により楕円文構成か、内側に交互刺突文線巡る。	中期後葉
第193図 PL.177	8	縄文土器 有孔鍔付き土器	口縁部					微砂粒/良/暗茶褐色	口縁ほぼ直立し、鍔には上下からの貫通孔、以下沈線文様。	中期後葉
第193図 PL.177	9	縄文土器 深鉢	口縁～胴部	口	14.3			砂粒/良/黒褐色	横位沈線で文様帯画す、平行沈線で重弧状三角文様を上下、横位に描き、縄文充填施文。	後期前葉
第193図 PL.177	10	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/黄褐色	口縁部に連続の山形隆帯。	後期前葉
第194図 PL.177	11	剥片石器 打製石斧	欠損	長 幅	8.2 4.5	厚 重	1.1 (54)	細粒輝石安山岩//	撥型、基部を欠損か、刃部摩耗痕。	
第194図 PL.177	12	剥片石器 打製石斧	欠損	長 幅	9.5 6.7	厚 重	2.1 (173)	細粒輝石安山岩//	撥型の刃部片で先端部薄く仕上げられている、片面に大きく自然面残る。	
第194図 PL.177	13	剥片石器 打製石斧	欠損	長 幅	9.1 6.3	厚 重	2.2 (153)	細粒輝石安山岩//	撥型、刃部先端部および基部を欠く、部分的に自然面残る。	
第194図 PL.177	14	剥片石器 打製石斧	ほぼ完形	長 幅	7.4 4.7	厚 重	1.6 61	変質安山岩//	粗い作りで基部厚く、刃部は薄く大きく開く。	
第194図 PL.177	15	礫石器 磨石	完形	長 幅	9.1 8.9	厚 重	5.0 510	粗粒輝石安山岩//	やや偏平な円礫を利用、両面使用で、中央部が僅かに凹む。	
第194図 PL.177	16	礫石器 凹石	完形	長 幅	12.6 10.0	厚 重	6.0 525	粗粒輝石安山岩//	やや偏平な亜角礫を利用、両面に凹み穴有す、表面がざらつく石材。	

62号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第196図 PL.177	1	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/茶褐色	口縁に横位凹線。	中期後葉
第196図 PL.177	2	縄文土器 鉢	口縁部					砂粒/普通/淡黄褐色	口縁部に横位隆線文様。	中期後葉
第196図 PL.177	3	縄文土器 深鉢	底部	底	9.0			砂粒/良/茶褐色	縄文施文、縦位磨り消し文様帯。	中期後葉
第196図 PL.177	4	縄文土器 土製円盤	完形					微砂粒/良/黄褐色	無文胴部片利用。	中期
第196図 PL.177	5	剥片石器 石錐	ほぼ完形	長 幅	2.2 1.0	厚 重	0.4 0.6	黒曜石//	つまみ部は小さく広がる、錐部押圧剥離による両面加工が認められる、使用痕あり。	
第196図 PL.177	6	剥片石器 打製石斧	欠損	長 幅	(13.3) (9.6)	厚 重	1.9 (370)	細粒輝石安山岩//	板状の大型品、両側縁部は打撃による調整見られる、両面に素材礫の自然面が残る、刃部を欠く。	
第196図 PL.178	7	礫石器 磨石	完形	長 幅	11.9 10.8	厚 重	3.9 770	粗粒輝石安山岩//	偏平な円礫利用、両面使用。	
第196図 PL.178	8	礫石器 磨石	ほぼ完形	長 幅	12.1 13.5	厚 重	4.5 870	粗粒輝石安山岩//	偏平な礫を利用、両面中央に凹み穴有し、側縁部打痕による欠損顕著。	
第196図 PL.178	9	礫石器 磨石	完形	長 幅	15.3 12.7	厚 重	11.6 3430	変質安山岩//	大きい丸石、ほぼ全面磨り面としているが、部分的により平滑な面が認められる。	

63号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第198図 PL.178	1	縄文土器 浅鉢	口縁部					微砂粒/良/淡褐色	無文、内面横位重沈線。	後期前葉
第198図 PL.178	2	縄文土器 浅鉢	口縁部					微砂粒/良/淡褐色	山形小波状口縁、沈線、刻み文、内面刺突文。	後期前葉
第198図 PL.178	3	縄文土器 深鉢	胴部					微砂粒/良/淡褐色	沈線による横位曲線磨り消し縄文文様。	後期中葉
第198図 PL.178	4	縄文土器 土製円盤	欠損					微砂粒/普通/黄褐色	一部欠損。	後期

64号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第200図 PL.178	1	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/上半部黒色、下半部黄橙色	下部が繋がる、懸垂蛇行隆線文の屈曲部に円形文付し、これを４単位描き、間には垂下隆線、蛇行文様内には粗い縄文ＬＲが施文される。	埋甕、後期前葉
第200図 PL.178	2	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/茶褐色	胴上半縄文施文部に、複数の垂下沈線文下端部。	後期前半、埋甕
第200図 PL.178	3	縄文土器 深鉢	口縁部					精製/良/黒色	口縁部に指頭押圧内側に円文、刺突文細隆線垂下し、頸部横位細隆線に繋がり、連結部に8字状貼付文以下沈線による懸垂文。	後期前葉
第200図 PL.178	4	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/灰白色	小波状口縁、沈線渦巻き文、弧状文か、器面摩耗。	後期前葉
第200図 PL.178	5	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/黒褐色	沈線による矩形磨り消し文。	後期前葉
第200図 PL.178	6	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/黄褐色	小突起部に円文、口縁に沿って沈線、以下無文。	後期前葉
第200図 PL.178	7	縄文土器 深鉢	頸部					砂粒/良/黒褐色	８字状文、左右に沈線。	後期前葉
第200図 PL.178	8	縄文土器 深鉢	胴部					微砂粒/良/淡褐色	平行沈線による横位つなぎ文。	後期中葉
第200図 PL.178	9	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/灰黒色	爪形刺突文充填施文。	後期初頭、三十稲場
第200図 PL.178	10	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/暗茶褐色	口縁部小突起、渦文、弧状文、以下複数沈線で、垂下沈線、斜位沈線文。	後期前葉
第201図 PL.178	11	剥片石器 石鏃	完形	長 幅	1.9 1.3	厚 重	0.3 0.5	黒曜石//	凹基無茎鏃、押圧剥離による両面加工が認められる、丁寧な作り。	
第201図 PL.178	12	剥片石器 石鏃	完形	長 幅	1.9 1.4	厚 重	0.3 0.5	黒曜石//	凹基無茎鏃、押圧剥離による両面加工が認められる、左右対称形で丁寧な作り。	
第201図 PL.178	13	剥片石器 石鏃	欠損	長 幅	(1.4) 1.5	厚 重	0.4 (0.5)	チャート//	平基無茎鏃、押圧剥離による両面加工が認められる、先端部欠く。	
第201図 PL.178	14	剥片石器 石鏃	欠損	長 幅	(1.5) (1.0)	厚 重	0.3 (0.4)	チャート//	小型凹基無茎鏃、脚はやや開きぎみに細身の脚が延びる、片面が肥厚、片脚、先端部を欠く。	
第201図 PL.178	15	剥片石器 楔形石器	完形	長 幅	2.3 2.3	厚 重	0.7 3.9	黒曜石//	円みを持ち中央部分が肥厚、側縁押圧剥離による両面加工が認められる。	
第201図 PL.178	16	剥片石器 打製石斧	完形	長 幅	12.2 4.2	厚 重	1.0 86	黒色頁岩//	短冊型だが基部に浅い抉り見られる、両面に自然面が大きく残る。	
第201図 PL.178	17	礫石器 磨製石斧	欠損	長 幅	(9.1) 4.0	厚 重	1.7 (109)	変質蛇紋岩//	定角式、研磨成形、側面の稜は明瞭、刃部を欠く。	
第201図 PL.178	18	礫石器 凹石	完形	長 幅	13.1 7.9	厚 重	3.9 530	粗粒輝石安山岩//	偏平な楕円礫利用、表面の凹凸顕著、両面に凹み穴有す。	
第201図 PL.178	19	礫石器 磨石	完形	長 幅	13.7 7.4	厚 重	3.3 440	粗粒輝石安山岩//	偏平な長円礫利用、平らな面を磨り面としている。	

66号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第203図 PL.179	1	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/茶褐色	隆帯による楕円文、縦位集合沈線充填。	中期後葉
第203図 PL.179	2	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/灰黄褐色	隆帯による楕円文構成か縦位集合沈線充填。	中期後葉
第203図 PL.179	3	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/茶褐色	口縁に横位隆帯、刻み有す隆帯により曲線文様描く、以下撚糸文Ｌ縦位施文。	中期中葉
第203図 PL.179	4	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/黒褐色	横位沈線、隆線に円形文、さらに垂下隆線。	後期前葉
第203図 PL.179	5	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/茶褐色	隆帯によるＵ字状懸垂文、下位に横位、縦位沈線、地文には縦位集合沈線。	中期後葉
第203図 PL.179	6	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/暗赤褐色	沈線による曲線文か、器面風化。	中期後葉
第203図 PL.179	7	縄文土器 深鉢	底部	底	3.5			砂粒/良/灰黄褐色	口縁部に横位楕円文か、縦位集合沈線充填、以下横位隆帯。	中期後葉
第203図 PL.179	8	剥片石器 石鏃	ほぼ完形	長 幅	2.3 1.2	厚 重	0.4 1.0	黒曜石//	凹基無茎鏃、細身で抉り浅い、押圧剥離による両面加工が認められる。	
第203図 PL.179	9	剥片石器 石鏃	欠損	長 幅	(1.7) (1.5)	厚 重	0.3 (0.5)	黒色安山岩//	凹基無茎鏃、抉りは弧状で、やや幅広の逆ハート形、押圧剥離による両面加工が認められる、片脚を僅かに欠く。	
第203図 PL.179	10	剥片石器 石鏃	欠損	長 幅	(1.9) 1.8	厚 重	0.3 (1.0)	珪質頁岩//	凹基無茎鏃、基部やや薄く作られる、押圧剥離による両面加工が認められる、先端部欠く側縁鋸歯状。	
第203図 PL.179	11	礫石器 磨石	ほぼ完形	長 幅	9.2 7.2	厚 重	4.7 (416)	粗粒輝石安山岩//	やや偏平な俵型礫利用、両面に浅い凹み穴、両側縁部に使用痕、被熱しひび割れ。	
第203図 PL.179	12	礫石器 石皿（砥石）	欠損	長 幅	(6.4) (6.2)	厚 重	(3.4) (104)	凝灰質砂岩//	使用面は斜めで、僅かにカーブを有す、石皿あるいは砥石か。	

67号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第205図 PL.179	1	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/赤茶褐色	隆帯による楕円渦巻き文、以下縦位沈線で無文帯、縄文帯を画す。	中期後葉
第205図 PL.179	2	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/暗黒褐色	幅狭のU字状隆帯文を横位、縦位に付す、地文縦位平行線、斜位集合沈線文。	中期後葉
第205図 PL.179	3	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/明褐色	隆帯による連結渦巻き文から２本の懸垂文、斜位沈線文。	中期後葉
第205図 PL.179	4	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/黄褐色	沈線による重三角文。	後期前葉
第205図 PL.179	5	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/灰褐色	横位押圧隆帯。	後期前葉
第205図 PL.179	6	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/黄褐色	口縁肥厚。	後期前葉
第205図 PL.179	7	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/茶褐色	蛇行垂下隆線文、斜位集合沈線地文。	中期後葉
第205図 PL.179	8	縄文土器 深鉢	頸部					砂粒、白色粒多く含む/良/明褐色	横位交互刺突文下に、横２連の渦巻き文、側縁部隆線となり刻み有す、さらに弧状文。	中期中葉
第205図 PL.179	9	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒、金雲母多く含む/良/黒褐色	隆帯による渦巻き垂下文。	中期中葉
第205図 PL.179	10	縄文土器 土製円盤	完形					砂粒/良/灰黄褐色	胴部片利用。	中期
第205図 PL.179	11	剥片石器 石鏃	ほぼ完形	長 幅	(1.3) 1.1	厚 重	0.4 (0.4)	黒曜石//	小型凹基無茎鏃、押圧剥離による両面加工が認められる、厚みあり、先端部を僅かに欠く。	
第205図 PL.179	12	剥片石器 礫器	ほぼ完形	長 幅	8.8 10.7	厚 重	2.0 208	黒色頁岩//	礫から剥ぎ取った剥片利用、片面に大きく自然面残し下辺部に粗い刃部を作り出す。	
第205図 PL.179	13	礫石器 磨石	完形	長 幅	10.4 6.7	厚 重	4.1 424	粗粒輝石安山岩//	偏平な楕円礫利用、両面使用面、僅かに打痕が認められる。	

68号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第207図 PL.179	1	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒多く含む/良/暗茶褐色	横位隆線、以下縦位区画の無文、縄文帯。	中期末
第207図 PL.179	2	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/普通/黄茶褐色	口縁部に沈線、無文。	後期前葉
第207図 PL.179	3	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/黒褐色	横位隆線に貼付円形文から垂下隆線。	後期前葉
第207図 PL.179	4	縄文土器 深鉢	胴部					微砂粒/良/黒色	沈線による曲線文様、縄文充填。	後期初頭
第207図 PL.179	5	縄文土器 土製円盤	完形					砂粒/良/黒褐色	粗く成形。	後期前葉
第207図 PL.179	6	剥片石器 石鏃	欠損	長 幅	(2.1) (1.4)	厚 重	0.4 (0.6)	黒曜石//	凹基無茎鏃、両脚を欠く、押圧剥離による両面加工が認められる。	
第207図 PL.179	7	剥片石器 石鏃	欠損	長 幅	(1.6) (1.6)	厚 重	0.4 (0.7)	黒曜石//	凹基無茎鏃、抉り浅い、押圧剥離による両面加工が認められる、身の中央部に斑晶あり、先端部欠損。	
第207図 PL.179	8	礫石器 凹石	完形	長 幅	15.0 7.2	厚 重	4.7 735	粗粒輝石安山岩//	偏平な長円礫利用、両面に2個一対の凹み穴がやや間隔を置いて穿たれている。	
第207図 PL.179	9	礫石器 凹石	欠損	長 幅	(16.2) (8.0)	厚 重	(3.7) (680)	変質安山岩//	やや大きな偏平礫、片面中央部に凹み穴、約半分を欠損、被熱。	
第207図 PL.179	10	礫石器 凹石	欠損	長 幅	12.0 8.0	厚 重	3.9 530	粗粒輝石安山岩//	偏平な不定型の礫利用、両面に浅い打痕状の凹み穴。	
第207図 PL.179	11	礫石器 凹石	完形	長 幅	8.3 6.2	厚 重	4.2 256	粗粒輝石安山岩//	平坦面を有す卵形の礫利用、両面を使用面とする、浅い打痕状の凹みあり。	

69号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第209図 PL.179	1	縄文土器 深鉢	胴部					微砂粒/良/茶褐色	縦位磨り消し縄文。	後期初頭
第209図 PL.179	2	縄文土器 深鉢	胴部					微砂粒/良/黄褐色	沈線による曲線磨り消し縄文。	後期初頭
第209図 PL.179	3	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/茶褐色	縦位磨り消し縄文帯。	中期後葉
第209図 PL.179	4	縄文土器 深鉢	底部					微砂粒/良/黄褐色	浅い垂下凹線文。	中期後葉

70号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第211図 PL.180	1	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/茶褐色	口縁部隆帯により横位の連結楕円渦巻き文、文様下に弧状楕円区画文描き、縦位沈線、縄文充填施文、以下胴部には、２本懸垂文沈線文、蛇行懸垂文、縄文ＬＲ縦位施文。	炉体土器、中期後葉
第211図 PL.180	2	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/茶褐色	隆帯による、連続Ｕ字状文、沈線による縦位矢羽根文を充填施文。	埋甕、中期後葉
第211図 PL.180.	3	礫石器 磨石	ほぼ完形	長 幅	10.5 6.8	厚 重	5.6 570	粗粒輝石安山岩//	やや偏平な長円礫利用、両面磨り面としている、側縁部打撃による欠損か。	
第211図 PL.180	4	礫石器 凹石	完形	長 幅	12.3 6.8	厚 重	3.5 485	粗粒輝石安山岩//	やや偏平な楕円礫利用、両面磨り面とし、極浅い凹み穴あり。	

71号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第214図 PL.180	1	縄文土器 深鉢	口縁～底部	口 底	42.0 12.0	高	72.5	砂粒/良/茶褐色	平行沈線による磨り消し縄文文様、紡錘文、Ｊ字文、スペード文、剣先文を2段横位連続、補修孔あり。	後期初頭、埋甕
第215図 PL.181	2	縄文土器 深鉢	口縁～胴部	口	31.0			砂粒/良/茶褐色	底径やや小さく、口縁に向かって開く、無節縄文Ｌ縦位全面施文。	後期初頭
第215図 PL.181	3	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/茶褐色	沈線による曲線文様、地文縄文。	後期初頭
第215図 PL.181	4	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/黒褐色	口縁部に2段の横位刺突文、以下曲線文描き、縄文施文。	後期初頭
第215図 PL.181	5	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/茶褐色	横位隆帯。	後期初頭
第215図 PL.181	6	縄文土器 深鉢	突起					砂粒/良/茶褐色	口縁部突起、扇状に広がり頂部は隆帯8字状、側縁部に刺突文列、以下縄文。	後期初頭
第215図 PL.181	7	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/灰黒褐色	縦位沈線による縄文充填垂下文。	後期初頭
第215図 PL.181	8	縄文土器 深鉢	胴部～底部	底	10.6			砂粒/良/茶褐色	無文、底部木葉痕。	後期初頭
第215図 PL.181	9	礫石器 磨石	完形	長 幅	9.2 7.2	厚 重	4.5 440	粗粒輝石安山岩//	やや偏平な楕円礫利用、両面磨り面とし、極浅い打痕状の凹みあり。	

73号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第217図 PL.181	1	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/黒色	横位刻み隆線、以下沈線による横位文様帯。	後期前葉
第217図 PL.181	2	縄文土器 深鉢	口縁～胴部	口	34.0			砂粒多い/良/茶褐色	口縁部に隆帯による楕円渦巻き文、頸部に横位沈線刺突文列、位下沈線による逆Ｕ字状文描くか。	中期後葉
第217図 PL.181	3	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/黄褐色	横位刻み細隆線に８字状貼付文、以下横位沈線文。	後期前葉
第217図 PL.181	4	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/黄橙色	横位刺突細隆線、８字貼付文、以下沈線による弧状文、曲線文様描き縄文充填。	後期前葉
第217図 PL.181	5	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/黄橙色	横位刺突細隆線、８字貼付文、以下沈線による弧状文、曲線文様描き縄文充填。	後期前葉
第217図 PL.181	6	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/黒褐色	沈線による三角意匠文、縄文充填。	後期前葉
第217図 PL.181	7	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/黒褐色	沈線による三角意匠文、縄文充填。	後期前葉
第217図 PL.181	8	縄文土器 深鉢	底部	底	11.0			砂粒/良/茶褐色	無文、器面凹凸顕著。	後期
第217図 PL.181	9	縄文土器 土製円盤	完形					砂粒/良/赤茶褐色	薄手、底部の転用か。	後期
第217図 PL.181	10	礫石器 磨石	完形	長 幅	18.0 7.1	厚 重	5.5 1210	粗粒輝石安山岩//	棒状礫、平坦な両面を磨り面としている、端部に打痕。	
第217図 PL.181	11	礫石器 磨石	完形	長 幅	15.1 8.4	厚 重	4.1 865	粗粒輝石安山岩//	偏平な楕円礫利用、両面に打痕状の浅い凹み、側縁部にも打痕見られる。	
第217図 PL.181	12	礫石器 多孔石	欠損	長 幅	(12.4) 18.3	厚 重	4.5 (1315)	粗粒輝石安山岩//	大型の角礫利用、凹凸面に数個の凹み穴有す。	

74号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第219図 PL.182	1	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/茶褐色	口縁部無文、隆帯により横位楕円渦巻き文、中を交互刺突文、沈線で充填、区画間に突起文。	中期後葉
第219図 PL.182	2	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/橙褐色	横位平行隆帯を渦巻き文で連結、縦位集合沈線充填。	中期後葉
第219図 PL.182	3	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒多く含む/良/茶褐色	口縁部沈線、隆帯による弧状区画文、渦巻き文、縦位沈線充填。	中期後葉
第219図 PL.182	4	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/黒褐色	口縁部横位縄文施文、口縁から平行隆線による渦巻き懸垂文、横位隆線。	中期後葉

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第219図 PL.182	5	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/黒茶褐色	隆帯による楕円渦巻き文。	中期後葉
第219図 PL.182	6	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒多い/良/茶褐色	口縁部沈線、隆帯による弧状区画文、渦巻き文、縦位沈線充填。	中期後葉
第219図 PL.182	7	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒多く含む/良/黒茶褐色	平行隆帯による懸垂弧状文、区画内斜位集合沈線で埋める。	中期後葉
第220図 PL.182	8	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/黒灰褐色	隆帯による楕円区画文、縦位沈線充填、以下沈線文様。	中期後葉
第220図 PL.182	9	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/黒色	縦位集合沈線、以下2本の隆帯付し、以下沈線垂下。	中期後葉
第220図 PL.182	10	縄文土器 深鉢	口縁～胴部					砂粒/良/茶褐色	隆帯による連弧文、斜位の集合沈線充填、以下縄文施文。	中期後葉
第220図 PL.182	11	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/淡黄褐色	口縁部肥厚、隆帯による楕円区画文か、縄文充填。	中期後葉
第220図 PL.182	12	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/灰褐色	隆帯による渦巻き文。	中期後葉
第220図 PL.182	13	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/茶褐色	横位隆帯。	中期後葉
第220図 PL.182	14	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/赤橙色	縦位条線文。	中期後葉
第220図 PL.182	15	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/黒褐色	口縁部外傾し、端部は内屈、無文、頸部に横位沈線巡らし斜位連続刻み文、刺突文。	中期後葉
第220図 PL.182	16	縄文土器 深鉢	胴部					微砂粒/良/灰茶褐色	隆帯による楕円渦巻き区画文、間に捻り隆帯。	中期後葉
第220図 PL.182	17	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/黒色	隆帯で楕円文、S字状文が連結、区画内には横位矢羽根状沈線文、以下横位隆帯で文様帯、交互刺突文、渦巻き懸垂文。	中期後葉
第220図 PL.182	18	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/赤褐色	隆帯による懸垂腕骨文、横位隆線延び、刺突文、隆帯間、弧状沈線蛇行垂下文、縦位沈線充填。	中期後葉
第220図 PL.182	19	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/茶褐色	横位隆線から渦巻き懸垂文、平行隆線文間に蛇行隆線垂下、地文縄文施文。	中期後葉
第220図 PL.182	20	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒多く含む/良/茶褐色	隆線による渦巻き懸垂文様、集合沈線充填。	中期後葉
第220図 PL.182	21	縄文土器 吊り手土器	把手					砂粒/良/茶褐色	吊り手部分、側面に沈線によるS字文様、楕円文、環状突起付く、吊り手上部両面に獣面（イノシシ）模した突起。	中期後葉

75号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第222図 PL.182	1	縄文土器 深鉢	口縁～胴部	口	38.4			砂粒/良/黄褐色	４単位の波状口縁、波頂下隆帯による円形文、垂下沈線により無文帯、縄文帯画す。	中期後葉
第222図 PL.182	2	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/橙茶褐色	口縁下に横位沈線、曲線文か。	中期後葉
第222図 PL.182	3	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/茶褐色	横位沈線間に上下にU字状、逆U字状文、間は縦位縄文帯。	中期後葉
第222図 PL.183	4	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒多く含む/良/茶褐色	平行垂下沈線が計４本垂下し無文帯構成し、縄文帯を画す。	中期後葉
第222図 PL.183	5	縄文土器 深鉢	胴部					微砂粒/良/灰褐色	縦位ハ字状短沈線文。	中期後葉
第222図 PL.183	6	縄文土器 土製円盤	完形					微砂粒/良/黒色	胴部片利用。	中期
第222図 PL.183	7	礫石器 多孔石	欠損	長 幅	(18.3) (18.7)	厚 重	(11.7) (3550)	粗粒輝石安山岩//	大型礫の欠損部分に凹み穴を穿つ、穴は不定型で大きさも不揃いである。	

76号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第224図 PL.183	1	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/茶褐色	横位隆帯、以下楕円文構成か。	中期後葉
第224図 PL.183	2	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/黒褐色	横位隆帯。	中期後葉
第224図 PL.183	3	縄文土器 深鉢	底部	底	8.6			砂粒/良/灰黒色	底部片。	中期後葉
第224図 PL.183	4	縄文土器 土製円盤	完形					砂粒/良/黄白色	丸みを有す矩形。	中期
第224図 PL.183	5	剥片石器 打製石斧	完形	長 幅	11.1 4.2	厚 重	1.1 (68)	黒色頁岩//	短冊型、薄手で両面に自然面残る、刃部はほとんど調整見られず。	

77号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第226図 PL.183	1	縄文土器 深鉢	埋甕 口縁～底部	口 底	34.0 10.5	高	44.5	砂粒/良/黒褐色	口縁無文部下位に押圧有す隆帯が巡る、以下胴部上半部に縄文ＲＬ横位施文。	後期初頭
第226図 PL.183	2	縄文土器 深鉢	口縁～胴部	口	25.6			砂粒/良/暗茶褐色	口縁部無文帯画す横位刺突隆線。	後期前葉
第226図 PL.183	3	縄文土器 深鉢	口縁～底部	底	9.8			砂粒/良/黒褐色	４本の連続押圧文有す垂下隆帯。	後期初頭
第226図 PL.183	4	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/灰褐色	縦位、横位の隆帯交点に円形文。	後期初頭
第226図 PL.183	5	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/黒色	横位隆帯。	後期初頭
第226図 PL.183	6	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/灰褐色	横位隆帯。	後期初頭
第226図 PL.184	7	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/灰黄褐色	口縁下横位隆帯。	後期初頭
第226図 PL.184	8	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/黄白色	沈線文上に貼付文。	後期初頭
第227図 PL.184	9	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/暗灰黒褐色	沈線による磨り消し縄文、渦巻き懸垂文描く。	後期初頭
第227図 PL.184	10	縄文土器 深鉢	口縁～胴部					微砂粒/良/黒褐色	沈線による磨り消し懸垂文様。	後期初頭
第227図 PL.184	11	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/暗茶褐色	沈線による懸垂文様。	後期初頭
第227図 PL.184	12	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/暗褐色	波頂部に円文、頸部に円形貼付文、以下沈線による曲線懸垂文。	後期初頭
第227図 PL.184	13	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/暗茶褐色	口縁部に1対の瘤状突起以下横位縄文帯。	後期初頭
第227図 PL.184	14	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/茶褐色	口縁部突起、両面に刺突文、横位沈線。	後期初頭
第227図 PL.184	15	縄文土器 深鉢	口縁部	口	16.6			砂粒/良/黒褐色	頸部外反、突起上部に刺突文、横位沈線巡り、以下曲線懸垂文様描く。	後期初頭
第227図 PL.184	16	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/黒色	沈線による組み合わせ三角意匠文。	後期初頭
第227図 PL.184	17	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/暗茶褐色	口縁部環状把手、横位隆帯以下胴部粗い刺突文。	後期初頭、三十稲場
第227図 PL.184	18	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒、砂礫/良/暗茶褐色	口縁部に環状把手、以下刻み状の刺突文を横位多段密接施文。	後期初頭、三十稲場
第227図 PL.184	19	縄文土器 深鉢	口縁部、注口部					砂粒/良/茶褐色	波頂下に短い注口、上部に向かう注口先端から口縁部に続く渦巻き状の隆線、内面には注口に向かう円孔とやや上部からの円孔が繋がる。	後期初頭
第227図 PL.184	20	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/黒褐色	橋状突起文、以下沈線伴う環状突起か、頸部横位沈線以下沈線文か、突起内面には両端部に刺突文有す弧状沈線。	後期初頭
第227図 PL.184	21	剥片石器 石鏃	完形	長 幅	(1.7) (1.4)	厚 重	0.3 (0.4)	黒曜石//	小型凹基無茎鏃、抉り浅く押圧剥離による両面加工が認められる。	
第227図 PL.184	22	剥片石器 石鏃	欠損	長 幅	(1.8) (1.5)	厚 重	0.4 (0.5)	黒曜石//	凹基無茎鏃、押圧剥離による両面加工が認められる、片脚を欠く。	
第227図 PL.184	23	剥片石器 石錐	完形	長 幅	(1.6) 0.6	厚 重	0.3 (0.3)	黒曜石//	小型の棒状錐、先端部やや膨らみ使用痕認められる。	
第227図 PL.184	24	礫石器 凹石	完形	長 幅	11.1 9.8	厚 重	5.4 680	細粒輝石安山岩//	偏平な円礫利用、両面に凹み穴、側縁部に打痕。	
第228図 PL.184	25	礫石器 凹石	完形	長 幅	13.2 6.0	厚 重	3.6 480	粗粒輝石安山岩//	やや偏平な棒状礫利用、両面に2個一対の浅い凹み穴、被熱。	
第228図 PL.184	26	礫石器 磨石	完形	長 幅	8.1 7.5	厚 重	5.0 434	粗粒輝石安山岩//	やや偏平な円礫利用、両面磨り面とする。	
第228図 PL.184	27	礫石器 磨石	ほぼ完形	長 幅	(10.0) 8.7	厚 重	4.8 (625)	石英閃緑岩//	偏平な円礫利用、両面磨り面としている、側縁部打撃痕。	
第228図 PL.184	28	礫石器 多孔石	欠損	長 幅	(15.4) (9.9)	厚 重	(8.4) (1825)	粗粒輝石安山岩//	大型礫の欠損部利用、平坦部にやや大きめの凹み穴、を穿つ。	

78 号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第230図 PL.185	1	縄文土器 深鉢	口縁～胴部	口	38.0			砂粒多く含む/良/淡黄褐色	口縁部横位刻み隆帯、胴部平行沈線による逆Ｕ字状文を連続か、文様内縄文施文、器面荒れており文様不鮮明。	後期初頭
第230図 PL.185	2	縄文土器 深鉢	胴部～底部	底	7.4			砂粒/良/茶褐色	口縁部欠損、胴上半部に短い原体の縄文ＬＲが粗く横位施文、以下無文。	埋甕、後期初頭
第230図 PL.184	3	縄文土器 深鉢	口縁～胴部					砂粒/良/灰褐色	口縁部に横位隆帯。	後期前葉
第230図 PL.184	4	縄文土器 深鉢	口縁～胴部	口	21.0			砂粒/普通/橙灰褐色	口縁部横位沈線、以下曲線文様か、器面摩滅顕著。	後期初頭
第230図 PL.184	5	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/黒褐色	横位細隆線、以下横位磨り消し縄文。	後期前葉

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第230図 PL.184	6	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/黒褐色	口縁部横位沈線。	後期前葉
第230図 PL.184	7	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/暗茶褐色	波頂下に貼付文、３あるいは４本単位の沈線により、縦位斜位の文様描く、地文に縄文施文。	前期後半か
第230図 PL.184	8	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/黒褐色	磨り消し縄文による曲線文。	後期初頭
第230図 PL.184	9	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/黒褐色	口縁部沈線、以下無文。	後期前葉
第230図 PL.184	10	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/黒褐色	横位細隆線、以下矩形磨り消し縄文。	後期前葉
第231図 PL.185	11	縄文土器 深鉢	底部	底	9.8			砂粒/良/暗茶褐色	縦位磨り消し縄文。	中期後葉
第231図 PL.185	12	縄文土器 深鉢	底部	底	10.0			砂粒/普通/灰黄褐色	無文底部。	中期後葉
第231図 PL.185	13	縄文土器 土製円盤	完形					砂粒/良/茶褐色	楕円形。	中期
第231図 PL.185	14	縄文土器 土製円盤	完形					砂粒/良/灰黄褐色	胴部片利用。	中期
第231図 PL.185	15	剥片石器 石鏃	完形	長 幅	1.5 (1.6)	厚 重	0.3 0.6	黒曜石//	凹基無茎鏃、押圧剥離による両面加工が認められる、短身で逆ハート型。	
第231図 PL.185	16	剥片石器 石鏃	欠損	長 幅	(1.4) 1.5	厚 重	0.2 (0.5)	黒曜石//	凹基無茎鏃、押圧剥離による両面加工が認められる、薄手で先端部欠く。	
第231図 PL.185	17	剥片石器 石鏃	欠損	長 幅	(1.2) (1.1)	厚 重	0.3 (0.2)	チャート//	小型凹基無茎鏃、脚は開き先端尖る。	
第231図 PL.185	18	礫石器 磨石	完形	長 幅	9.8 9.1	厚 重	5.9 765	粗粒輝石安山岩//	やや偏平な亜円礫、表面に磨り面。	
第231図 PL.185	19	礫石器 磨石	欠損	長 幅	(13.2) 8.6	厚 重	4.7 (935)	粗粒輝石安山岩//	やや偏平な楕円礫利用、両面磨り面として使用、端部を欠く。	
第231図 PL.185	20	礫石器 多孔石	完形	長 幅	30.9 15.2	厚 重	11.3 8000	粗粒輝石安山岩//	大型の長円礫、対面部にそれぞれ10数個の逆円錐状の凹み穴を穿つ。	

79号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第233図 PL.185	1	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/黒褐色	口縁部隆帯による横位楕円文、隆線に沿って刺突文、交互刺突文、以下交互刺突文、縦位沈線。	中期後葉
第233図 PL.185	2	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/黄褐色	口縁部肥厚、文様不鮮明。	中期後葉
第233図 PL.185	3	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/黒褐色	横位沈線、縄文施文。	中期後葉
第233図 PL.185	4	礫石器 凹石	完形	長 幅	14.8 6.5	厚 重	3.9 590	粗粒輝石安山岩//	偏平な長楕円礫利用、両面に２個一対の凹み穴、両端部に打痕。	
第233図 PL.185	5	礫石器 軽石製品	欠損	長 幅	6.8 4.4	厚 重	1.4 (18)	軽石//	不正長方形の板状に成形されている。	
第233図 PL.185	6	礫石器 軽石製品	欠損	長 幅	(3.0) (4.5)	厚 重	(1.2) (9)	軽石//	板状に成形、縁は円みをもつ、砥石か。	

80号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第236図 PL.185	1	縄文土器 深鉢	口縁～胴部	口	18.0			微砂粒/良/暗茶褐色	口縁部平行細隆線、8字状文で連結、以下横位磨り消し縄文帯。	後期前葉
第236図 PL.185	2	縄文土器 深鉢	口縁～胴部					微砂粒/良/暗茶褐色	沈線による渦巻き磨り消し縄文による懸垂文。	後期初頭
第236図 PL.185	3	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/暗黒褐色	小波状、突起有す、以下沈線による横位縄文帯。	後期初頭
第236図 PL.186	4	縄文土器 深鉢	口縁～胴部					砂粒/良/茶褐色	口縁無文帯やや内傾、沈線により縄文充填曲線文描く。	後期初頭
第236図 PL.186	5	縄文土器 深鉢	口縁～胴部					微砂粒/良/暗茶褐色	沈線による渦巻き磨り消し縄文による懸垂文。	後期初頭
第236図 PL.186	6	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/茶褐色	磨り消し縄文による懸垂文。	後期初頭
第236図 PL.186	7	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/黄褐色	頸部外反、以下沈線による曲線懸垂文。	後期初頭
第236図 PL.186	8	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/黄茶褐色	横位隆帯下縄文帯、横位沈線。	後期初頭
第236図 PL.186	9	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/黄褐色	横位隆帯から垂下沈線で縄文帯画す。	後期初頭
第236図 PL.186	10	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒多い/良/灰黄褐色	口縁部に環状突起、以下沈線による懸垂文。	後期初頭
第236図 PL.186	11	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/暗茶褐色	口縁部円文有す小突起、以下横位細隆線。	後期前葉
第236図 PL.186	12	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/茶褐色	口縁部無文部を刻み横位隆帯で画す。	後期前葉

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第236図 PL.186	13	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/茶褐色	口縁部内湾、横位隆帯。	後期初頭
第236図 PL.186	14	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒多い/良/黄褐色	横位隆帯以下縄文。	後期初頭
第236図 PL.186	15	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/黄褐色	横位隆帯。	後期初頭
第236図 PL.186	16	縄文土器 注口土器	胴部	底	5.0			微砂粒/良/黄褐色	細隆線による円形文。	後期前葉
第236図 PL.186	17	縄文土器 蓋	完形	径	6.9	高	1.4	微砂粒/良/黒色	膨らみ有す円盤状、無文、対縁に２個一対の穴を有す。	後期初頭
第236図 PL.186	18	縄文土器 土製円盤	完形					砂粒/良/暗黒褐色	小型品。	後期
第236図 PL.186	19	剥片石器 石鏃	欠損	長 幅	(1.7) (1.3)	厚 重	0.4 (0.6)	黒曜石//	凹基無茎鏃、細身で押圧剥離による両面加工が認められる、両脚および先端部欠く。	
第236図 PL.186	20	剥片石器 石鏃	欠損	長 幅	(1.9) (1.3)	厚 重	0.4 (0.6)	黒曜石//	凹基無茎鏃、脚が牛角状に内湾、押圧剥離による両面加工が認められる、先端部、片脚を欠く。	
第236図 PL.186	21	剥片石器 石鏃	欠損	長 幅	(3.5) (1.7)	厚 重	0.3 (1.6)	粗粒輝石安山岩//	凹基無茎鏃、大型品で、抉り深い、押圧剥離による両面加工が認められる、片側縁から脚部を欠損。	
第236図 PL.186	22	剥片石器 石鏃	欠損	長 幅	(1.5) (1.9)	厚 重	0.5 (1.1)	黒曜石//	平基無茎鏃、押圧剥離による両面加工が認められる、基部がやや薄く、身の部分やや肥厚、先端部を欠く。	
第237図 PL.186	23	剥片石器 打製石斧	完形	長 幅	16.8 7.8	厚 重	2.3 232	黒色頁岩//	分銅型で両刃部は広がらず薄く作られる、先端部がややすぼまる形状を呈す、抉りは中央部にあり小さい、抉り部に自然面残る。	
第237図 PL.186	24	礫石器 凹石	完形	長 幅	11.9 7.8	厚 重	4.7 640	粗粒輝石安山岩//	やや偏平な楕円礫利用、両面に浅い凹み穴、両端部、片側側縁部に打痕。	
第237図 PL.186	25	礫石器 磨石	完形	長 幅	14.2 6.6	厚 重	4.7 740	変質安山岩//	長円礫、使用痕不明瞭。	
第237図 PL.186	26	礫石器 凹石	完形	長 幅	10.0 8.9	厚 重	4.5 391	粗粒輝石安山岩//	大きく窪む小型石皿状で、裏側に安定を保つためなのか、打痕状の凹みあり、発泡質の石材利用。	
第237図 PL.186	27	礫石器 凹石	完形	長 幅	10.7 5.7	厚 重	3.2 280	粗粒輝石安山岩//	偏平礫利用、両面に浅い凹み穴、両側縁部に打撃による僅かな抉れあり。	
第237図 PL.186	28	礫 原石	欠損	長 幅	(5.0) (3.5)	厚 重	(2.0) (70)	ひすい//	ひすい原石と思われる、欠損している。	

81号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第239図 PL.186	1	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/茶褐色	波頂部に円文有す環状隆帯、下部に突起、口縁部無文で以下縄文施文。	後期初頭
第239図 PL.186	2	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/灰褐色	Ｔ字状隆線。	後期前葉
第239図 PL.186	3	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/黒褐色	横位押圧隆帯。	後期前葉
第239図 PL.186	4	縄文土器 深鉢	頸部					砂粒/良/黒褐色	横位平行沈線以下縄文施文。	後期前葉
第239図 PL.186	5	縄文土器 土製円盤	完形					砂粒/良/暗茶褐色	小型品。	後期
第239図 PL.186	6	礫石器 磨製石斧	完形	長 幅	4.2 2.5	厚 重	0.84 17	変玄武岩//	定角式、研磨成形、基部は狭く、刃部は広がる直刃、刃部再研磨品か。	
第239図 PL.186	7	礫石器 磨製石斧	欠損	長 幅	(4.2) 2.0	厚 重	0.85 (15)	変玄武岩//	研磨成形、基部は薄く刃部状に仕上げられる、刃部欠損。	

82号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第243図 PL.186	1	縄文土器 深鉢	口縁～胴部					砂粒/良/茶褐色	沈線による縦位懸垂文様、刺突文有す。	後期初頭
第243図 PL.187	2	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/淡黄褐色	口縁部刻み沈線有す小突起、以下沈線による矩形磨り消し文様。	後期初頭
第243図 PL.187	3	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/淡黄褐色	横位沈線以下曲線垂下文様。	後期初頭
第243図 PL.187	4	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/淡黄褐色	横位沈線以下曲線垂下文様。	後期初頭
第243図 PL.187	5	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/暗茶褐色	縄文施文。	後期初頭
第243図 PL.187	6	縄文土器 深鉢	口縁～胴部	口	33.0			砂粒/良/灰黄褐色	波状口縁、波頂部円形文から口縁および下位に押圧文隆帯が延びる。	後期初頭
第243図 PL.187	7	縄文土器 深鉢	口縁～胴部	口	33.0			砂粒/良/暗茶褐色	横位隆帯。	後期初頭
第243図 PL.187	8	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/暗黄褐色	横位隆帯に付された円形貼付文から垂下隆線。	後期初頭
第243図 PL.187	9	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/茶褐色	垂下刺突隆線、平行垂下沈線による縄文帯。	後期初頭

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第243図	10	縄文土器 深鉢	口縁～胴部	口	33.0			砂粒/良/灰黄褐色	波状口縁、波頂部円形文から口縁および下位に押圧文隆帯が延びる。	後期初頭
第243図 PL.187	11	縄文土器 深鉢	口縁部、把手					砂粒/良/茶褐色	環状把手、内面円文、沈線文、刺突文。	後期初頭
第243図 PL.187	12	縄文土器 注口土器	口縁部、注口部					砂粒/良/黒	短く突き出た注口先端部から、口縁に環状把手が付く、把手部には円孔、沈線による横位楕円文、沈線文。	後期初頭
第243図 PL.187	13	縄文土器 土製円盤	完形					砂粒/良/茶褐色	小型品。	後期
第243図 PL.187	14	縄文土器 土製円盤	完形					砂粒/良/茶褐色	小型品。	後期
第244図 PL.187	15	剥片石器 石鏃	欠損	長 幅	(1.5) (1.5)	厚 重	0.4 (0.5)	チャート//	凹基無茎鏃、押圧剥離による両面加工が認められる、先端部、片脚を欠く。	
第244図 PL.187	16	剥片石器 石鏃	欠損	長 幅	(2.0) (1.6)	厚 重	0.4 (0.9)	チャート//	平基無茎鏃か、押圧剥離による両面加工が認められる、薄手で片側の基部を欠く。	
第244図 PL.187	17	剥片石器 石鏃	欠損	長 幅	(2.5) (1.6)	厚 重	0.4 (1.5)	チャート//	突基有茎鏃か、押圧剥離による両面加工が認められる、基部両脇の剥離調整は余り見られず、欠損の可能性もある。	
第244図 PL.187	18	剥片石器 石鏃	完形	長 幅	2.9 2.0	厚 重	0.5 2.5	黒色頁岩//	側縁に押圧剥離による両面加工が認められる、未製品。	
第244図 PL.187	19	剥片石器 石鏃	ほぼ完形	長 幅	2.0 1.8	厚 重	0.8 1.7	赤碧玉//	凹基無茎鏃、中央部分厚みがあり、未製品か。	
第244図 PL.187	20	剥片石器 石錐	欠損	長 幅	(2.2) 1.5	厚 重	0.5 (0.9)	赤碧玉//	つまみ部は横に延びたＴ字状、錐部は押圧剥離による両面加工が認められる、尖端部僅かに欠く。	
第244図 PL.187	21	礫石器 磨製石斧	ほぼ完形	長 幅	(12.0) 5.5	厚 重	3.7 (394)	変玄武岩//	定角式、研磨成形、厚手で基部は細く、刃部は使用により円くすり減る。	
第244図 PL.187	22	礫石器 磨石	完形	長 幅	12.0 9.7	厚 重	7.6 1350	粗粒輝石安山岩//	やや大振りの円礫、ほぼ全面を使用面としている。	
第244図 PL.187	23	礫石器 多孔石	欠損	長 幅	23.2 (18.3)	厚 重	(7.8) (3720.0)	変質安山岩//	不定型な偏平礫の１面に大小数個の凹み穴を穿つ、裏面欠損。	

83号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第246図 PL.187	1	縄文土器 深鉢	胴部～底部	底	9.4			砂粒/良/茶褐色	垂下沈線により縦位無文帯、縄文帯を画す、無節Ｌ縦位。	中期後葉
第246図 PL.187	2	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/黒褐色	隆帯により縦位縄文帯を画す。	中期末
第246図 PL.187	3	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/普通/茶褐色	口縁部に沈線、以下無文施文。	後期初頭
第246図 PL.187	4	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/普通/茶褐色	口縁部内湾、逆Ｕ字状文か、器面風化。	後期初頭
第246図 PL.187	5	縄文土器 土製円盤	完形					砂粒/良/茶褐色	ほぼ円形の小型品。	中期
第246図 PL.188	6	剥片石器 石鏃	完形	長 幅	1.5 1.0	厚 重	0.3 0.3	流紋岩//	小型凹基無茎鏃、押圧剥離による両面加工が認められる、抉り深く、厚みあり。	
第246図 PL.188	7	剥片石器 石鏃	欠損	長 幅	(1.1) (1.4)	厚 重	0.3 (0.3)	黒曜石//	凹基無茎鏃、押圧剥離による両面加工が認められる、脚は開き気味で端部はやや内湾、先端から基部片側を大きく欠く。	
第246図 PL.188	8	剥片石器 石錐	欠損	長 幅	(3.7) 2.1	厚 重	1.0 (5.3)	細粒輝石安山岩//	つまみ部は扇状に広がり厚みあり、押圧剥離による両面加工が認められる、錐部は先端に向かって細くなる、先端を欠く。	
第246図 PL.188	9	礫石器 磨石	完形	長 幅	10.1 8.3	厚 重	5.7 640	粗粒輝石安山岩//	不定型な円礫利用、平坦な面に浅い凹みあり。	
第246図 PL.188	10	礫石器 石皿	欠損	長 幅	(14.4) (16.7)	厚 重	6.1 (1600)	粗粒輝石安山岩//	長円形を呈す石皿片、使用面は浅く凹み、使用痕見られる。	

84号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第248図 PL.188	1	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/赤茶褐色	円形刺突文伴う横位隆線、以下縄文施文。	中期末葉
第248図 PL.188	2	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/灰褐色	横位隆線以下磨り消し曲線文。	後期初頭
第248図 PL.188	3	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/黄褐色	縄文施文。	後期初頭
第248図 PL.188	4	縄文土器 腕輪	欠損					砂粒/良/茶褐色	断面紡錘状、細縄文施文。	後期
第248図 PL.188	5	剥片石器 石鏃	欠損	長 幅	(1.3) 1.6	厚 重	0.3 (0.4)	黒曜石//	凹基無茎鏃、押圧剥離による両面加工が認められる、先端部を欠く。	

85号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第250図 PL.188	1	縄文土器 深鉢	口縁～胴部	口	34.0			砂粒/良/暗茶褐色	口縁部小波状、横位凹線巡り隆帯による楕円文、渦巻き文、楕円文内縄文充填施文、以下並行垂下沈線により縦位縄文描出。	中期後葉
第250図 PL.188	2	縄文土器 深鉢	口縁～胴部	口	31.0			砂粒多い/良/暗黒褐色	口縁に横位隆帯、以下隆線による渦巻き懸垂文、剣先文、地文には斜位集合沈線縦位施文。	中期後葉
第250図 PL.188	3	縄文土器 深鉢	口縁～胴部					砂粒多い/良/暗黒褐色	横位隆帯に刺突文伴う、垂下蕨手文、懸垂文横位沈線区画内に縦位連続沈線文。	中期後葉
第250図 PL.188	4	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/茶褐色	隆帯による横位楕円渦巻き文か。	中期後葉
第250図 PL.188	5	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒、金雲母/良/茶褐色	隆帯による渦巻き、逆U字状懸垂文、地文斜位集合沈線、横位弧状平行線。	中期後葉
第250図 PL.188	6	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/橙茶褐色	横位隆帯、以下撚糸文R施文。	中期後葉
第250図 PL.188	7	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒多い/良/暗茶褐色	垂下隆帯文、地文には斜位集合沈線。	中期後葉
第250図 PL.188	8	縄文土器 深鉢	頸部					砂粒/良/灰黄褐色	横位隆帯下縄文施文。	中期後葉
第250図 PL.188	9	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/茶褐色	隆帯による垂下曲線文、集合沈線地文。	中期後葉
第250図 PL.188	10	剥片石器 石鏃	欠損	長 幅	(1.4) 1.3	厚 重	0.3 (0.5)	黒曜石//	凹基無茎鏃、押圧剥離による両面加工が認められる、先端部欠く。	
第250図 PL.188	11	剥片石器 石鏃	ほぼ完形	長 幅	(2.0) (1.5)	厚 重	0.4 (0.7)	黒曜石//	凹基無茎鏃、押圧剥離による両面加工が認められる、片脚の端部を僅かに欠く。	
第250図 PL.188	12	礫石器 凹石	完形	長 幅	12.6 9.1	厚 重	5.7 1020	粗粒輝石安山岩//	やや偏平な楕円礫利用、両面使用面、2個一対の浅い凹み穴。	
第251図 PL.188	13	礫石器 磨石	完形	長 幅	13.4 11.2	厚 重	6.1 1260	粗粒輝石安山岩//	大振りな楕円礫利用、両面使用、極浅い打痕状の凹み穴有す。	
第251図 PL.188	14	礫石器 磨石	ほぼ完形	長 幅	13.7 (11.5)	厚 重	8.3 (2030)	粗粒輝石安山岩//	大振りな円礫、明瞭な使用痕は見られない、被熱。	
第251図 PL.188	15	礫石器 磨石	完形	長 幅	8.9 7.9	厚 重	4.7 520	粗粒輝石安山岩//	やや偏平な小円礫利用、両面使用。	
第251図 PL.188	16	礫石器 磨石	欠損	長 幅	(12.0) 7.6	厚 重	3.9 (575)	粗粒輝石安山岩//	偏平な楕円礫利用、両面使用。	
第251図 PL.188	17	礫石器 石皿	完形	長 幅	23.0 18.5	厚 重	5.6 3240	粗粒輝石安山岩//	偏平のやや大型の礫利用、使用面は僅かに凹み、明瞭な縁は見られない、石皿あるいは台石。	

86号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第253図 PL.188	1	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/茶褐色	無文か、僅かに隆帯見られる。	中期後葉
第253図 PL.188	2	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/茶褐色	縦位隆線。	中期後葉
第253図 PL.188	3	縄文土器 腕輪	欠損					砂粒/良/茶褐色	断面紡錘状、細縄文施文。	中期後葉か

87号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第255図 PL.189	1	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/茶褐色	渦巻き懸垂文、蛇行文、縦位および斜位集合沈線文異方向充填施文。	中期後葉
第255図 PL.189	2	縄文土器 深鉢	口縁～胴部					砂粒/良/茶褐色	口縁部に円孔有す小突起文、口縁に沿って刺突文、隆帯が巡る、頸部横位複数沈線文上に8字状貼付文、以下沈線による懸垂文。	後期前葉
第255図 PL.189	3	縄文土器 深鉢	口縁～胴部					砂粒/良/茶褐色	口縁部に円孔有す小突起文、口縁に沿って刺突文、隆帯が巡る、頸部横位複数沈線文上に8字状貼付文、以下沈線による懸垂文。	後期前葉
第255図 PL.189	4	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/茶褐色	連弧文土器、縦位沈線充填、以下櫛歯工具により条線文描く。	中期後葉
第255図 PL.189	5	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/黒褐色	沈線による矩形磨り消し文様、縄文充填。	中期末
第255図 PL.189	6	剥片石器 三角型石器	完形	長 幅	5.2 5.2	厚 重	1.5 37	黒色頁岩//	ほぼ三角形を呈し、やや厚みあり、側縁部は粗い刃部が作り出される。	

88号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第257図 PL.189	1	縄文土器 深鉢	口縁～胴部					砂粒多く含む/良/黒褐色	隆帯による横位楕円渦巻き文、以下縄文施文後蛇行懸垂文。	中期後葉
第257図 PL.189	2	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/茶褐色	連弧文土器、斜位沈線充填、以下渦巻き懸垂文、縄文施文。	中期後葉
第257図 PL.189	3	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/普通/茶褐色	隆帯による楕円渦巻き文。	中期後葉
第257図 PL.189	4	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/黄褐色	隆線による楕円渦巻き文か、斜位沈線充填。	中期後葉
第257図 PL.189	5	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/黒褐色	横位隆帯。	中期後葉
第257図 PL.189	6	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/茶褐色	沈線による矩形文、内部、周囲に刺突文。	中期後葉
第257図 PL.189	7	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒多く含む/普通/黄褐色	隆帯楕円文様内に刺突文、捻り隆帯文。	中期後葉
第257図 PL.189	8	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒、金雲母/良/暗褐色	隆帯による懸垂文、刺突文列で無文部画す、斜位異方向集合沈線。	中期後葉
第257図 PL.189	9	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒、金雲母/良/黒褐色	隆帯による渦巻き懸垂文。	中期後葉
第257図 PL.189	10	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/茶褐色	縦位矢羽根状沈線文。	中期後葉
第257図 PL.189	11	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒、石英多く含む/良/暗褐色	縄文施文。	中期後葉
第257図 PL.189	12	縄文土器 深鉢	胴部～底部	底	5.2			砂粒/良/黄褐色	隆帯による蛇行懸垂文、間に横位、矢羽根状沈線文。	中期後葉
第257図 PL.189	13	縄文土器 深鉢	底部	底	6.0			砂粒/良/茶褐色	無文。	中期後葉
第257図 PL.189	14	剥片石器 石鏃	欠損	長 幅	(2.2) (1.1)	厚 重	0.3 (0.6)	黒曜石//	凹基無茎鏃、押圧剥離による両面加工が認められる、片脚、先端部僅かに欠く。	
第257図 PL.189	15	剥片石器 打製石斧	完形	長 幅	13.0 6.1	厚 重	1.4 141	黒色頁岩//	撥型、円刃で使用による刃部摩耗顕著。	
第257図 PL.189	16	剥片石器 打製石斧	完形	長 幅	9.4 4.1	厚 重	1.2 55	変質安山岩//	小型撥型、円刃で使用による摩耗見られる。	
第257図 PL.189	17	礫石器 磨石	完形	長 幅	12.5 6.5	厚 重	3.5 466	粗粒輝石安山岩//	偏平な長円礫、両面使用、極浅い打痕状の凹み有す。	

89号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第260図 PL.190	1	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒多く含む/良/暗褐色	隆帯による渦巻き懸垂文、、平行懸垂文、蕨手懸垂文、地文斜位集合沈線。	中期後葉
第260図 PL.189	2	縄文土器 深鉢	口縁～胴部	口	18.1			砂粒/良/灰褐色	口縁部に沈線による横位連続波状文、波頂部に逆Ｕ状文、波底部に蕨手文配す、文様内縄文充填。	中期末様
第260図 PL.189	3	縄文土器 深鉢	口縁～胴部					砂粒/良/暗茶褐色	小波状口縁、隆帯による渦巻き懸垂文。	中期後葉
第260図 PL.189	4	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/暗赤褐色	口縁部に隆帯による弧状渦巻き文、横位矢羽根状沈線文、以下縄文施文後蛇行懸垂文。	中期後葉
第261図 PL.190	5	縄文土器 浅鉢	口縁～底部	口 底	43.0 9.0	高	22.5	砂粒/良/茶褐色	無文、口縁部面取りされる、器内外面研磨、底部穿孔。	中期後葉
第261図 PL.189	6	縄文土器 深鉢	口縁～胴部					砂粒/良/暗茶褐色	小波状口縁、隆帯による渦巻き懸垂文。	中期後葉
第261図 PL.190	7	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/黒褐色	横位蛇行隆帯。	中期後葉
第261図 PL.190	8	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/暗茶褐色	隆帯による渦巻き懸垂文。	中期後葉
第261図 PL.190	9	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/暗茶褐色	縦位集合沈線地文、４本の垂下隆帯および蛇行懸垂文。	中期後葉
第261図 PL.190	10	剥片石器 打製石斧	ほぼ完形	長 幅	13.7 5.6	厚 重	1.8 180.6	変質安山岩//	撥型、片側側縁部は厚く自然面残る、未製品か。	
第261図 PL.190	11	剥片石器 打製石斧	欠損	長 幅	(10.4) 5.4	厚 重	2.0 (140.5)	変質安山岩//	短冊型、片面に大きく自然面、刃部および側縁部に簡単な剥離施される。	
第261図 PL.190	12	礫石器 凹石	完形	長 幅	11.5 6.3	厚 重	3.8 389.7	粗粒輝石安山岩//	偏平な楕円礫利用、両面にそれぞれ２個および１個の凹み穴。	
第261図 PL.190	13	礫石器 磨石	完形	長 幅	14.4 10.0	厚 重	4.8 1097.7	粗粒輝石安山岩//	偏平な楕円礫利用、両面使用。	
第261図 PL.190	14	礫石器 磨石	完形	長 幅	15.3 7.4	厚 重	3.9 736.9	粗粒輝石安山岩//	偏平な楕円礫利用、両面使用。	

90号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第263図 PL.190	1	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/赤茶褐色	平行垂下沈線により縦位分割しU字状、逆U字状文を上下に描く、文様内、縄文帯にはＬＲ縦位充填施文。	中期後葉、炉体土器

91号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第265図 PL.190	1	縄文土器 浅鉢	頸部					砂粒、小砂礫/良/橙褐色	口縁屈曲部外側に強く張り出す、沈線による曲線文様、内外面研磨。	中期後葉
第265図 PL.190	2	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/暗茶褐色	口縁部薄く作られる、縄文施文。	中期後葉
第265図 PL.190	3	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/茶褐色	渦巻き隆帯文、斜沈線文。	中期後葉
第265図 PL.190	4	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/暗茶褐色	貼り付け隆線により斜格子文様、波状文描出、さらには蛇行懸垂文見られる。	中期後葉
第265図 PL.190	5	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/暗黒褐色	横位隆帯、曲線文下に縦位撚糸文か。	中期後葉
第265図 PL.190	6	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/暗黒褐色	横位隆帯下に縦位撚糸文か。	中期後葉
第265図 PL.190	7	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/茶褐色	貼付文有す弧状隆線、沈線による楕円文描く。	中期後葉
第265図 PL.190	8	縄文土器 深鉢	突起					砂粒多く含む/良/赤茶褐色	口縁部突起、両面に渦巻き文。	中期後葉
第265図 PL.190	9	礫石器 凹石	完形	長 幅	14.9 12.1	厚 重	7.2 1680	粗粒輝石安山岩//	大振りの円礫利用、片面中央に浅い凹み穴、側縁部に打痕。	

92号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第267図 PL.191	1	縄文土器 深鉢	口縁～胴部	口	34.6			砂粒/良/暗茶褐色	口縁部波状突起、やや外反、下位に隆帯による渦巻き文、左右に楕円文、横位両端蕨手沈線文、以下胴部には平行沈線無文帯で器面縦位分割、縄文帯は幅広で蛇行懸垂文が描かれる、縄文ＲＬ縦位施文。	中期後葉
第267図 PL.191	2	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/白黄褐色	口縁部に沈線伴う横位隆帯、以下縄文施文。	中期後葉
第267図 PL.191	3	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/暗赤褐色	隆帯による楕円文か。	中期後葉
第267図 PL.191	4	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/暗茶褐色	口縁部波状突起、隆帯による楕円渦巻き文、縄文施文。	中期後葉
第267図 PL.191	5	剥片石器 石鏃	完形	長 幅	2.1 1.6	厚 重	0.3 0.6	黒曜石//	凹基無茎鏃、押圧剥離による両面加工が認められる、作りは丁寧。	
第267図 PL.191	6	剥片石器 石鏃	欠損	長 幅	(2.7) (1.6)	厚 重	0.4 (1.4)	黒曜石//	凹基無茎鏃、未製品か、押圧剥離による両面加工が認められる、縦半分を欠く、一部自然面残る。	
第267図 PL.191	7	礫石器 石棒	欠損	長 幅	(22.4) (11.5)	厚 重	(6.8) (2245)	緑色片岩//	大型の石棒先端部分と見られる、先端に向かってやや細くなり、端部は丸頭、被熱。	

土坑　配石　配石土坑　埋甕　焼土

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第295図 PL.191	90坑1	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/暗褐色	横位押圧隆帯。	後期初頭
第295図 PL.191	90坑2	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/普通/淡黄褐色	無文。	後期
第295図 PL.191	90坑3	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/灰黄褐色	無文。	後期初頭
第295図 PL.191	90坑4	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/灰黒色	縄文施文、器面風化。	中期後葉
第295図 PL.191	90坑5	縄文土器 深鉢	底部	底	7.0			砂粒/良/淡黄褐色	無文。	後期
第295図 PL.191	94坑1	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/暗茶褐色	波頂部肥厚突起、細隆線に円形刺突文。	後期前葉
第295図 PL.191	94坑2	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/黒褐色	口縁部に沈線、外面横位沈線文。	後期前葉
第295図 PL.191	126坑1	縄文土器	口縁部					微砂粒/良/灰黒褐色	横位平行刺突文隆帯を連続８字状貼付文で連結、以下横位沈線で縄文帯を画す。	後期中葉
第295図 PL.191	126坑2	縄文土器 深鉢	口縁部					精製/良/淡黄褐色	横位刻み隆線。	後期前葉
第295図 PL.191	126坑3	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/灰黒色	横位隆線。	後期前葉
第295図 PL.191	126坑4	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/黒褐色	補修孔あり、この部分薄くなる。	後期前葉
第295図 PL.191	126坑5	縄文土器 深鉢	胴部					微砂粒/良/黒色	横位沈線。	後期前葉
第295図 PL.191	126坑6	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/黒褐色	縄文施文。	後期前葉
第295図 PL.191	126坑7	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/黄褐色	無文、補修孔あり。	後期前葉
第295図 PL.191	126坑8	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒多く含む/良/黒褐色	口縁部僅かに内湾、無文、輪積み痕あり。	後期前葉、9と同一
第295図 PL.191	126坑9	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒多く含む/良/黒褐色	口縁部僅かに内湾、無文。	後期前葉、9と同一
第295図 PL.191	126坑10	縄文土器 深鉢	底部					砂粒/良/黄褐色	底部網代痕。	後期前葉
第295図 PL.191	126坑11	剥片石器 石鏃	完形	長 幅	1.4 1.3	厚 重	0.2 0.2	黒曜石//	小型凹基無茎鏃、抉り浅い、押圧剥離による両面加工が認められる、比較的薄手で作りは良い。	
第295図 PL.191	128坑1	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/黒色	口縁部に押圧文、刻み細隆線垂下。	後期前葉
第296図 PL.191	131坑1	礫石器 磨石	完形	長 幅	10.6 6.5	厚 重	3.7 384	粗粒輝石安山岩//	偏平な楕円礫利用、両面使用、極浅い打痕状の凹みあり。	
第296図 PL.191	131坑2	礫石器 磨石	完形	長 幅	11.2 8.2	厚 重	5.6 750	粗粒輝石安山岩//	偏平な楕円礫利用、両面使用、片面に極浅い打痕状の凹みあり、被熱。	
第296図 PL.192	132坑1	縄文土器 深鉢	口縁～胴部					砂粒、雲母/良/黒褐色	横位平行細隆線を８字状文で連結、以下鋸歯状沈線文様。	後期前葉
第296図 PL.192	132坑2	縄文土器 深鉢	口縁～胴部					砂粒/良/茶褐色	横位平行細隆線を８字状文で連結するが、両端が刻み文となっている、以下横位沈線文様。	後期前葉
第296図 PL.192	132坑3	縄文土器 深鉢	頸部					砂粒/良/淡黄褐色	横位平行細隆線を連続８字状文で連結。	後期前葉
第296図 PL.192	132坑4	縄文土器 注口土器	口縁～胴部	口	4.2			砂粒/良/黒褐色	把手部欠損、平行沈線による襷状文様、渦巻き文描く文様帯に斜沈線。	後期前葉
第296図 PL.192	132坑5	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/暗茶褐色	無文、胴中位が張る器形、内面に煤。	後期前葉
第296図 PL.192	132坑6	縄文土器 深鉢	底部	底	7.2			砂粒/良/茶褐色	無文、内面黒色。	後期前葉
第296図 PL.192	132坑7	縄文土器 浅鉢	底部	底	11.0			砂粒/良/橙褐色	無文、薄手で底面に煤。	後期前葉
第296図 PL.192	132坑8	礫石器 磨石	完形	長 幅	13.5 7.9	厚 重	5.6 1065	粗粒輝石安山岩//	やや偏平な俵型の礫、両面磨り面とし部分的に打痕あり、被熱。	
第296図 PL.192	132坑9	礫石器 磨石	完形	長 幅	10.8 6.0	厚 重	5.0 500	細粒輝石安山岩//	長卵型の礫、表面平滑。	
第297図 PL.192	133坑1	縄文土器 深鉢	口縁部					精製/良/黒褐色	波状口縁、横位刻み隆帯に円形刺突文付す、以下沈線で画す横位縄文帯。	後期前葉
第297図 PL.192	133坑2	縄文土器 深鉢	口縁部	口	10.8			微砂粒/良/黒色	口縁部高く立ち上がり外反、くの字の胴部外側に横位矢羽根状の刻み文、口縁部横位多段沈線、および横向き渦巻き文、屈曲部上にも上向き渦巻き文。	後期前葉
第297図 PL.192	134坑1	縄文土器 深鉢	口縁～胴部					砂粒/良/暗褐色	口縁部小波状、頸部でやや括れ胴上位で最大径を測る、頸部に横位平行沈線巡り、以下沈線による幅狭文様描く、末端部に円形文付す斜め渦巻き文、Ｌ字状文、楕円文、などが横位連続で描かれるが、規則性は弱い、文様端部はＪ字状、剣先状を表出している部分も見られる、部分的に文様内に列点文施文。	後期初頭

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第297図 PL.192	135坑 1	縄文土器 深鉢	口縁～胴部					砂粒/良/黄褐色	沈線による蛇行懸垂文。	後期初頭
第297図 PL.192	135坑 2	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/灰褐色	口縁内屈、小突起に円文、口縁部沈線、沈線による懸垂文。	後期初頭
第297図 PL.192	135坑 3	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/暗褐色	横位刻み隆帯。	後期初頭
第297図 PL.192	135坑 4	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/白黄褐色	口縁部に沈線による横位縄文帯画し、刺突文配す。	後期初頭
第297図 PL.192	135坑 5	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/黒色	口縁部に沈線による横位縄文帯画し、刺突文配す。	後期初頭
第297図 PL.192	135坑 6	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/橙黄色	横位隆線。	後期前葉
第297図 PL.192	135坑 7	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒多く含む/良/黒褐色	横位、縦位の隆線。	後期初頭
第297図 PL.192	135坑 8	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/暗褐色	横位沈線下にＪ字状懸垂文。	後期初頭
第297図 PL.192	135坑 9	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/黄褐色	横位平行隆帯を繋ぐ円孔環状把手、把手下隆帯延び、逆Ｕ字状文描き縄文充填。	後期初頭
第297図 PL.192	135坑 10	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/茶褐色	沈線による円形、Ｘ状、Ｊ字状文。	後期初頭
第297図 PL.192	135坑 11	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/茶褐色	沈線によるＸ状文描く。	後期初頭
第297図 PL.192	135坑 12	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/黒色	横位、縦位隆帯。	後期前葉
第298図 PL.192	135坑 13	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/黒色	横位、縦位隆帯。	後期前葉
第298図 PL.192	135坑 14	縄文土器 深鉢	底部	底	8.0			砂粒多く含む/良/茶褐色	無文底部、器面風化。	後期初頭
第298図 PL.192	135坑 15	縄文土器 土製円盤	完形					砂粒/良/灰褐色	楕円形。	後期
第298図 PL.192	135坑 16	縄文土器 土製円盤	完形					砂粒/良/灰褐色	胴部片利用。	後期
第298図 PL.193	136坑 1	縄文土器 深鉢	突起					微砂粒/良/黒褐色	口縁突起部、山形で両端が耳状に肥厚。	中期後葉
第298図 PL.193	136坑 2	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/茶褐色	平行隆帯文による懸垂文。	中期後葉
第298図 PL.193	136坑 3	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/茶褐色	無文。	後期前葉
第298図 PL.193	137坑 1	剥片石器 打製石斧	完形	長 幅	23.4 8.7	厚 重	3.5 655	黒色頁岩//	大型分銅型、両刃部共に細長で抉りは深く作られ、片側刃部に自然面残り使用による摩耗見られる。	
第298図 PL.193	138坑 1	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/黒褐色	頸部に８字状貼付文。	後期前葉
第298図 PL.193	138坑 2	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/黄褐色	横位沈線。	後期前葉
第298図 PL.193	138坑 3	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/茶褐色	横位平行細隆線。	後期前葉
第298図 PL.193	138坑 4	縄文土器 注口土器	把手					微砂粒/良/灰褐色	外面に沈線による渦文。	後期前葉
第298図 PL.193	138坑 5	剥片石器 石鏃	ほぼ完形	長 幅	(1.4) 1.8	厚 重	0.4 (0.6)	細粒輝石安山岩//	凹基無茎鏃、抉りは緩い弧状で浅い、短身で先端部にやや厚みあり。	
第298図 PL.193	138坑 6	剥片石器 石鏃	ほぼ完形	長 幅	2.2 (1.3)	厚 重	0.3 0.7	チャート//	未製品、片面に素材剥離段階での剥離面残る縦長剥片利用、両側縁部剥離調整。	
第298図 PL.193	138坑 7	礫石器 磨製石斧	欠損	長 幅	(10.4) 4.8	厚 重	2.5 (202)	変輝緑岩//	定角式、研磨成形、刃部欠損。	
第299図 PL.193	139坑 1	縄文土器 浅鉢	口縁部					微砂粒/良/淡黄褐色	口縁部に２つの円孔、内面横位隆帯、沈線。	後期前葉
第299図 PL.193	140坑 1	縄文土器 両耳壺	把手					砂粒多く含む/良/茶褐色	把手部。	中期後葉
第299図 PL.193	140坑 2	縄文土器 深鉢	底部					砂粒多く含む/良/茶褐色	底部片。	中期後葉
第299図 PL.193	141坑 1	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/灰黄褐色	横位磨り消し縄文帯。	後期前葉
第299図 PL.193	141坑 2	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/黒色	口縁部に円孔、横位沈線、曲線文様。	後期前葉
第299図 PL.193	141坑 3	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/黄茶褐色	横位縄文帯、Ｓ字状文。	後期前葉
第299図 PL.193	141坑 4	縄文土器 深鉢	底部	底	7.0			微砂粒/良/暗赤褐色	横位縄文帯、以下無文、底部網代痕。	後期前葉
第299図 PL.193	141坑 5	縄文土器 深鉢	突起					砂粒/良/黄褐色	環状突起、Ｓ字状に平らな隆帯基調とし、上面平らで円文。	後期前葉
第299図 PL.193	141坑 6	剥片石器 石鏃	ほぼ完形	長 幅	(2.0) (1.6)	厚 重	0.4 (1.0)	黒色頁岩//	凹基無茎鏃、片側側縁に深く大きな抉りが見られ、側面がゆがんだ形状で左右非対称、押圧剥離による両面加工が認められる。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第299図 PL.193	142坑 1	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/黄褐色	横位刻み細隆線。	後期前葉
第299図 PL.193	142坑 2	縄文土器 深鉢	頸部					砂粒/良/淡褐色	隆線の交点に円形貼付文、刺突文。	後期前葉
第299図 PL.193	142坑 3	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/赤褐色	複数沈線文による縦位文様。	後期前葉
第299図 PL.193	142坑 4	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/灰黄褐色	沈線による矩形文様、縄文充填。	後期前葉
第299図 PL.193	143坑 1	縄文土器 深鉢	口縁～胴部					砂粒/良/明褐色	小波状口縁、沈線による横位文様帯画し、連続渦巻き文、縄文充填。	後期前葉
第299図 PL.193	143坑 2	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/黒褐色	波頂部欠損、下位に８字状文、細隆線が左右に延びる、以下沈線による縄文帯。	後期前葉
第299図 PL.193	143坑 3	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/黒色	沈線による波状垂下文。	後期前葉
第299図 PL.193	143坑 4	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/黒色	横位細隆線、以下横位縄文帯。	後期前葉
第300図 PL.193	143坑 5	縄文土器 深鉢	口縁～底部	口 底	37.0 10.8	高	49.0	砂粒/良/淡褐色	無文大型土器、薄手の作り、口縁部に複数の補修孔。	後期前葉
第300図 PL.193	143坑 6	縄文土器 深鉢	底部	底	7.6			砂粒/良/明黒褐色	無文底部。	後期前葉
第300図 PL.193	143坑 7	縄文土器 注口土器	注口部					微砂粒/良/灰黒色	無文、基部から先端に向かってやや細くなる。	後期前葉
第300図 PL.194	143坑 8	剥片石器 石鏃	欠損	長 幅	(1.9) (1.5)	厚 重	0.4 (0.7)	黒曜石//	凹基無茎鏃、押圧剥離による両面加工が認められる、全体に鋭利さ無く、片脚を欠く。	
第300図 PL.193	144坑 1	縄文土器 深鉢	口縁～胴部	口	31.5			砂粒/良/橙茶褐色	波状口縁、口縁部に沈線、波頂下に沈線による連結Ｕ字状文描く、文様内縄文充填。	後期初頭
第300図 PL.193	144坑 2	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/暗褐色	くの字に内屈する口縁部、突起部外面に8字状文、内面に円文、口縁部連続刺突文。	後期前葉
第301図 PL.194	145坑 1	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/灰黒色	沈線文による磨り消し文様か。	後期前葉
第301図 PL.194	145坑 2	縄文土器 深鉢	頸部					微砂粒/良/灰豊色	横位押圧文隆帯。	後期前葉
第301図 PL.194	146坑 1	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒多く含む/良/暗茶褐色	口縁部に横位刻み細隆線、８字状貼付文、以下沈線による横位磨り消し縄文文様。	後期前葉
第301図 PL.194	146坑 2	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/暗黄褐色	沈線による渦巻き文懸垂文、縄文充填。	後期前葉
第301図 PL.194	146坑 3	縄文土器 深鉢	口縁部					精製/良/黒色	沈線による重菱形文。	後期前葉
第301図 PL.194	146坑 4	縄文土器 深鉢	口縁部					精製/良/黒色	横位多段沈線、斜行刻み有す。	後期前葉
第301図 PL.194	146坑 5	縄文土器 注口土器	口縁部					精製/良/暗茶褐色	直立気味に立ち上がる器形、くの字に折れ刻み有す、口縁部は短く外傾、肩部に沈線による曲線文様描く。	後期前葉
第301図 PL.194	146坑 6	縄文土器 深鉢	頸部					砂粒/良/暗赤褐色	横位刻み細隆線、鋸歯状の沈線文。	後期前葉
第301図 PL.194	146坑 7	縄文土器 深鉢	底部	底	13.0			微砂粒/良/白黄褐色	無文、網代痕。	後期前葉
第301図 PL.194	146坑 8	礫石器 磨製石斧	欠損	長 幅	(4.8) 5.1	厚 重	1.7 (72)	変質蛇紋岩//	定角式、研磨成形、やや薄手の作りで両側縁の稜は明瞭に作り出される、基部、刃部先端を欠損。	
第301図 PL.194	147坑 1	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/黒褐色	横位細隆線、沈線による横位縄文帯。	後期前葉
第301図 PL.194	147坑 2	縄文土器 深鉢	頸部～胴部					砂粒/良/橙黄褐色	横位平行刻み細隆線を８字状文で連結、以下横位縄文帯。	後期前葉
第301図 PL.194	147坑 3	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/灰黄褐色	横位縄文帯。	後期前葉
第301図 PL.194	147坑 4	剥片石器 石鏃	ほぼ完形	長 幅	(2.0) (1.3)	厚 重	0.2 (0.4)	チャート//	凹基無茎鏃、抉り浅く押圧剥離による両面加工が認められる、丁寧な作りで側縁は細かな鋸歯状。	
第301図 PL.194	148坑 1	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/暗褐色	波状口縁、口縁部沈線文。	後期前葉
第301図 PL.194	148坑 2	縄文土器 深鉢	突起					微砂粒/良/淡黄褐色	環状突起、両面からの円孔、渦巻き隆帯が飾る。	後期前葉
第301図 PL.194	148坑 3	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/茶褐色	Ｕ字状沈線文、縄文充填。	後期初頭
第302図 PL.194	148坑 4	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/茶褐色	波状口縁、波頂部内面に弧状文、頸部横位沈線巡る。	後期前葉
第302図 PL.194	148坑 5	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/茶褐色	沈線による矩形文様、縄文充填。	後期初頭
第302図 PL.194	148坑 6	縄文土器 土製円盤	完形					砂粒/良/灰黒色	胴部片利用。	後期
第302図 PL.194	148坑 7	縄文土器 土製円盤	完形					砂粒/良/黄白色	底部片利用。	後期
第302図 PL.194	148坑 8	縄文土器 土製円盤	完形					砂粒/良/灰黒色	胴部片利用。	後期
第302図 PL.194	148坑 9	縄文土器 土製円盤	完形					砂粒/良/茶褐色	胴部片利用。	後期

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第302図 PL.194	148坑 10	縄文土器 土製円盤	完形					砂粒/良/灰褐色	胴部片利用。	後期
第302図 PL.194	149坑 1	縄文土器 浅鉢	口縁部					砂粒/良/黄褐色	口縁部刻み、無文、内面刺突文伴う隆帯、以下横位多段沈線、縦位区切り文。	後期中葉
第302図 PL.194	149坑 2	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/黄褐色	縦位沈線、刻み隆帯垂下。	後期前葉
第302図 PL.194	150坑 1	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/暗黒褐色	横位３本の刺突文隆線、連続８字状文で複数箇所連結、以下磨り消し縄文懸垂文、補修孔あり。	後期前葉
第302図 PL.194	150坑 2	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/黒褐色	磨り消し縄文文様。	後期前葉
第302図 PL.194	150坑 3	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/黒褐色	横位細隆線、８字状貼付文、以下沈線による矩形磨り消し文様。	後期前葉
第302図 PL.194	150坑 4	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/暗黄褐色	隆線剥落、沈線による磨り消し縄文。	後期前葉
第302図 PL.194	150坑 5	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/黒色	口縁部に横位細隆線、以下沈線による横位、山連続形文。	後期前葉
第302図 PL.194	150坑 6	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/黒褐色	口縁部に指頭押圧、横位刻み細隆線に８字状貼付文、以下横位縄文文様帯、内面押圧部下位に弧状文、左右に円形文、横位沈線文。	後期前葉
第302図 PL.194	150坑 7	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/黒褐色	口縁部に指頭押圧、横位刻み細隆線に８字状貼付文、以下横位縄文文様帯、内面押圧部下位に弧状文、左右に円形文、横位沈線文。	後期前葉
第302図 PL.194	150坑 8	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/黒色	平行横位刻み細隆線。	後期前葉
第302図 PL.194	150坑 9	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/黒色	口縁部突起上部に刺突文、外面環状円文から（）状に隆線垂下、口縁部に横位沈線。	後期前葉
第302図 PL.194	150坑 10	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/黒色	無文。	後期前葉
第302図 PL.194	150坑 11	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/灰黒褐色	横位細隆線、剥落あり、小突起内面に円文、口縁部に刻み。	後期前葉
第302図 PL.194	150坑 12	縄文土器 深鉢	突起					微砂粒/良/暗灰黒色	環状突起、両側、下位からの円孔、下面Ｓ字状隆帯、上面浅く円形に凹む、小環状突起が付くとみられるが欠損。	遺構外570と同一個体か
第303図 PL.194	150坑 13	剥片石器 石鏃	完形	長 幅	1.7 1.8	厚 重	0.3 0.7	黒曜石//	凹基無茎鏃、基部が広く抉り浅い、短身で押圧剥離による両面加工が認められる。	
第303図 PL.194	150坑 14	剥片石器 石鏃	欠損	長 幅	(1.8) (1.4)	厚 重	0.3 (0.5)	黒曜石//	凹基無茎鏃、押圧剥離による両面加工が認められる、やや幅広の作りで、脚はやや内湾か、脚の一部を欠く。	
第303図 PL.194	150坑 15	剥片石器 石鏃	欠損	長 幅	(1.3) 1.6	厚 重	0.3 (0.4)	流紋岩//	凹基無茎鏃、抉りは開いた山形、押圧剥離による両面加工が認められる、薄手で先端部を欠く。	
第303図 PL.194	150坑 16	礫石器 磨石	欠損	長 幅	(12.2) (16.6)	厚 重	7.6 (1990)	粗粒輝石安山岩//	偏平な大型礫利用、台石か。	
第303図 PL.195	151坑 1	縄文土器 深鉢	口縁～胴部	口	27.0			砂粒/良/暗茶褐色	口縁部円孔小突起、横位平行刺突細隆線を突起下2本の８字状文で連結、以下横位沈線で文様帯画し、上下対向弧状文描き縄文充填施文。	後期中葉
第303図 PL.195	151坑 2	縄文土器 深鉢	口縁～底部	底	6.2			微砂粒/良/茶褐色	３単位の突起有すと思われるが欠損、波頂下に円形文、横位細隆線、以下沈線による横位縄文帯、補修孔見られる、底部網代痕。	後期中葉
第303図 PL.195	151坑 3	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/黄灰白色	口縁部波状突起、横位沈線。	後期前葉
第303図 PL.195	151坑 4	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/黄橙色	無文、頸部やや括れ口縁部外反、口縁内側に肥厚。	後期前葉
第303図 PL.195	151坑 5	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/黒色	無文口縁部片。	後期前葉
第303図 PL.195	151坑 6	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/黒色	口縁無文、頸部に横位沈線。	後期前葉
第303図 PL.195	151坑 7	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/黒褐色	外面無文、内文重弧状文、横位沈線。	後期前葉
第303図 PL.195	151坑 8	縄文土器 浅鉢	口縁部					微砂粒/良/暗茶褐色	口縁部に小粒文、内面横位多段沈線文、刻み文。	後期前葉
第303図 PL.195	151坑 9	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/淡黄褐色	重菱形文。	後期前葉
第303図 PL.195	151坑 10	縄文土器 浅鉢	口縁部					微砂粒/良/黒色	口縁部小突起、外面無文、突起内面に渦文、円文、横位多段沈線文。	後期前葉
第304図 PL.195	151坑 11	縄文土器 深鉢	口縁～胴部					砂粒/良/黄茶褐色	無文。	後期前葉
第304図 PL.195	151坑 12	縄文土器 深鉢	底部	底	9.0			砂粒/良/暗茶褐色	無文、底部網代痕。	後期前葉
第304図 PL.195	151坑 13	縄文土器 注口土器	把手					砂粒/良/茶褐色	環状把手、隆線による８字状文、円文で飾る。	後期前葉
第304図 PL.195	151坑 14	剥片石器 石鏃	ほぼ完形	長 幅	(2.7) (2.0)	厚 重	0.4 (1.3)	黒曜石//	凹基無茎鏃、浅い山形の抉り、押圧剥離による両面加工が認められる。	
第304図 PL.195	151坑 15	剥片石器 石鏃	欠損	長 幅	(1.1) (1.3)	厚 重	0.3 (0.2)	黒曜石//	凹基無茎鏃、抉り深く開いた脚は長く細めの作り、押圧剥離による両面加工が認められる、先端部、片脚を欠く。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第304図 PL.195	151坑 16	礫石器 磨石	完形	長	7.7	厚	4.1	粗粒輝石安山岩//	やや偏平な円礫利用、両面使用。	
				幅	7.6	重	334			
第304図 PL.195	151坑 17	礫石器 多孔石か	欠損	長	(12.4)	厚	(8.9)	粗粒輝石安山岩//	自然礫の一面に数個の凹み穴穿つ、被熱。	
				幅	(15.2)	重	(2050)			
第304図 PL.195	153坑 1	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/黄褐色	刻み垂下隆帯、沈線文。	後期前葉
第304図 PL.195	153坑 2	縄文土器 深鉢	把手					砂粒/良/茶褐色	縦長の橋状把手、上端部円形に凹む。	後期
第304図 PL.195	153坑 3	礫石器 磨石	ほぼ完形	長	8.4	厚	5.2	粗粒輝石安山岩//	小円礫利用、両面に浅い打痕状の凹みあり。	
				幅	7.1	重	450			
第304図 PL.195	154坑 1	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/灰褐色	沈線による楕円文、縦位集合沈線充填。	中期後葉
第304図 PL.195	154坑 2	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/橙褐色	横位沈線間に連続刺突文、以下懸垂文内縄文充填か。	中期後葉
第304図 PL.195	154坑 3	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/赤褐色	垂下沈線により縦位区画、区画内縄文充填施文。	中期後葉
第304図 PL.195	154坑 4	礫石器 凹石	完形	長	11.1	厚	3.9	溶結凝灰岩//	偏平な長円礫、表裏面に２個一対の凹み穴。	
				幅	7.0	重	378			
第305図 PL.195	154坑 5	礫石器 多孔石	完形	長	24.0	厚	13.0	粗粒輝石安山岩//	大型礫のやや円みを持った面に、10個ほどの凹み穴が穿たれる。	
				幅	(20.3)	重	(6700)			
第305図 PL.195	155坑 1	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/淡褐色	無文口縁部。	後期前葉
第305図 PL.195	155坑 2	縄文土器 深鉢	頸部					砂粒/良/淡褐色	横位多段沈線文。	後期前葉
第305図 PL.195	155坑 3	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/黒褐色	沈線による矩形文、三角文、重菱形文、縄文充填。	後期前葉
第305図 PL.196	156坑 1	縄文土器 深鉢	口縁～胴部	口	22.2			砂粒/良/灰褐色	小波状呈す、外面横位細隆線、多段沈線文か、剥落顕著、内面口唇部刻み、横位複数沈線文。	後期前葉
第305図 PL.196	156坑 2	縄文土器 深鉢	頸部					砂粒/良/黄褐色	横位隆線、懸垂沈線文。	後期前葉
第305図 PL.196	156坑 3	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/暗茶褐色	渦巻き文。	後期前葉
第305図 PL.196	156坑 4	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/灰褐色	渦巻き懸垂文。	後期前葉
第305図 PL.196	156坑 5	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/黄白褐色	斜位沈線文。	後期前葉
第305図 PL.196	157坑 1	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/灰黒色	Ｌ字の沈線文、器面剥落。	後期
第305図 PL.196	157坑 2	剥片石器 打製石斧	完形	長	9.9	厚	1.7	細粒輝石安山岩//	撥型、直刃で基部やや厚く刃部先端に向かって薄く作られる。	
				幅	5.0	重	107			
第305図 PL.196	157坑 3	礫石器 磨石	完形	長	14.2	厚	6.9	粗粒輝石安山岩//	やや大振りな礫利用、表面がざらつく石質。	
				幅	11.7	重	1415			
第306図 PL.196	158坑 1	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/灰黄褐色	矩形沈線文。	後期初頭
第306図 PL.196	158坑 2	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/褐色	横位沈線から平行懸垂文、縦位縄文帯。	後期前葉
第306図 PL.196	158坑 3	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/褐色	複数の垂下沈線。	後期前葉
第306図 PL.196	158坑 4	礫石器 磨石	欠損	長	(10.9)	厚	(4.8)	粗粒輝石安山岩//	偏平な円礫利用した磨石の破片。	
				幅	(6.1)	重	(427)			
第306図 PL.196	160坑 1	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒多く含む/良/黒色	外反する口縁部、無文。	中期後葉
第306図 PL.196	160坑 2	縄文土器 深鉢	突起					砂粒/良/茶褐色	口縁部突起、縦楕円の透かし孔有すか、隆線、円文で飾る。	中期後葉
第306図 PL.196	160坑 3	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/茶褐色	複数沈線による懸垂文。	後期前葉
第306図 PL.196	161坑 1	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/茶褐色	隆帯による横位楕円文。	中期後葉
第306図 PL.196	162坑 1	縄文土器 深鉢	口縁～胴部					砂粒/良/黒褐色	口縁部に沈線、以下平行沈線による弧状懸垂文、矩形意匠文。	後期前葉
第306図 PL.196	162坑 2	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/黒色	渦巻き懸垂文。	後期前葉
第306図 PL.196	162坑 3	剥片石器 石鏃	欠損	長	(1.5)	厚	0.3	黒曜石//	凹基無茎鏃、小型品、押圧剥離による両面加工が認められる、片脚を欠く。	
				幅	(1.0)	重	(0.2)			
第306図 PL.196	163坑 1	礫石器 石皿	欠損	長	(13.6)	厚	9.2	粗粒輝石安山岩//	使用面は深く、縁部分は高く作られる。	
				幅	(11.1)	重	(1145)			
第306図 PL.196	164坑 1	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/赤褐色	口縁部横位隆帯による楕円文、内側に沿って交互刺突文巡り、縦位沈線充填。	中期後葉
第306図 PL.196	164坑 2	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/黒褐色	平行隆帯による曲線文、放射状集合沈線文。	中期後葉
第306図 PL.196	164坑 3	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/灰褐色	縄文施文。	中期後葉
第306図 PL.196	164坑 4	剥片石器 石鏃	欠損	長	(2.1)	厚	0.4	黒曜石//	凹基無茎鏃、抉り浅い、押圧剥離による両面加工が認められる、片脚欠。	
				幅	(1.4)	重	(0.7)			

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第307図 PL.196	165坑 1	縄文土器 鉢	頸部					砂粒/良/黒色	横位沈線に弧状文。	後期前葉
第307図 PL.196	165坑 2	縄文土器 深鉢	突起					砂粒/良/橙黄褐色	橋状突起、４脚で円文、沈線文付す。	後期前葉
第307図 PL.196	166坑 1	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/茶褐色	口縁部隆帯による横位楕円文、縦位沈線充填、横位隆帯と渦巻き文、渦巻き文下に２本の垂下隆帯で器面区画、間には幅狭の逆U字状文が配される、地文は斜位、矢羽根状の沈線文。	中期後葉
第307図 PL.196	166坑 2	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/黒褐色	口縁部に８字状貼付文、山形に沈線垂下し内部縄文充填。	後期前葉
第307図 PL.196	166坑 3	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/茶褐色	波頂部、円文、弧状文。	後期前葉
第307図 PL.196	166坑 4	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/茶褐色	横位細隆線、以下沈線による横位縄文帯。	後期前葉
第307図 PL.196	166坑 5	縄文土器 注口土器	胴部					微砂粒/良/黄褐色	沈線による渦巻き懸垂文。	後期前葉
第307図 PL.196	166坑 6	縄文土器 注口土器	胴部					微砂粒/良/灰黒色	渦巻き文、列点文有す楕円文様描く。	後期前葉
第307図 PL.197	166坑 7	縄文土器 深鉢	口縁～胴部	口	44.0			砂粒多く含む/良/暗褐色	無文、粗製土器。	後期中葉
第307図 PL.197	166坑 8	縄文土器 深鉢	口縁部	口	25.0			砂粒/良/淡黄褐色	無文。	後期前葉
第307図 PL.197	166坑 9	縄文土器 浅鉢	口縁部					砂粒/良/黒褐色	口縁内面の肥厚渦巻き文。	後期前葉
第307図 PL.197	166坑 10	縄文土器 浅鉢	底部	底	6.0			精製/良/灰黄褐色	無文、薄手の作り、底部網代痕。	後期前葉
第307図 PL.197	166坑 11	縄文土器 注口土器	注口部					精製/良/灰褐色	無文、中央部が僅かに膨らみ有す。	後期前葉
第307図 PL.197	166坑 12	縄文土器 注口土器	注口部					微砂粒/良/灰褐色	無文、基部から先端に向かって細くなる。	後期前葉
第308図 PL.197	166坑 13	礫石器 凹石	欠損	長 幅	(7.4) (7.3)	厚 重	(3.3) (123)	粗粒輝石安山岩//	偏平な長円礫か、両面に凹み穴。	
第308図 PL.197	166坑 14	礫石器 磨石	完形	長 幅	11.7 8.0	厚 重	3.0 486	粗粒輝石安山岩//	偏平な楕円礫利用、両面使用面。	
第308図 PL.197	167坑 1	縄文土器 深鉢	口縁部	口	23.2			砂粒/良/暗黒褐色	横位平行細隆線を縦８字状文で繋ぐ、以下組み合わせ三角文意匠の磨り消し縄文文様。	後期前葉
第308図 PL.197	167坑 2	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/黒褐色	横位刻み隆線に８字状貼付文、沈線による縄文懸垂文。	後期前葉
第308図 PL.197	167坑 3	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/茶褐色	横位細隆線。	後期前葉
第308図 PL.197	167坑 4	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/黒褐色	沈線による曲線磨り消し縄文。	後期前葉
第308図 PL.197	167坑 5	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/暗褐色	沈線による曲線文様、縄文充填。	後期前葉
第308図 PL.197	167坑 6	剥片石器 石鏃	欠損	長 幅	(0.9) (1.0)	厚 重	0.2 (0.2)	黒曜石//	小型凹基無茎鏃、抉り浅い、押圧剥離による両面加工が認められる、先端部欠。	
第308図 PL.197	167坑 7	礫石器 凹石	欠損	長 幅	(12.7) 7.0	厚 重	4.8 (640)	粗粒輝石安山岩//	やや偏平な長円礫利用、両面に浅い２個一対の凹み穴、ひび割れ顕著。	
第308図 PL.197	168坑 1	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/灰褐色	横位細隆線に8字状文、以下細縄文施文...	後期前葉
第309図 PL.197	169坑 1	縄文土器 深鉢	口縁～胴部	口	40.0			砂粒/良/茶褐色	口縁部横位隆帯から隆帯垂下し器面を縦位区画、隆帯間を弧状隆帯が繋ぐ、縄文施文。	中期後葉
第309図 PL.197	169坑 2	剥片石器 石鏃	完形	長 幅	2.4 2.2	厚 重	0.5 2.5	黒曜石//	凹基無茎鏃の粗く成形された未製品。	
第309図 PL.197	170坑 1	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/黒褐色	横位、斜位沈線文。	後期中葉
第309図 PL.197	170坑 2	縄文土器 注口土器	突起					精製/良/灰黒色	環状把手８字状貼付文、円形文で飾る。	後期中葉
第309図 PL.197	170坑 3	縄文土器 深鉢	口縁～胴部	口	42.0			砂粒/良/黄褐色	無文。	
第309図 PL.197	170坑 4	剥片石器 石鏃	欠損	長 幅	(1.2) 1.5	厚 重	0.3 (0.4)	流紋岩//	凹基無茎鏃、押圧剥離による両面加工が認められる、両脚ハの字に開き、先端部尖る、先端部欠。	
第309図 PL.197	170坑 5	剥片石器 石鏃	欠損	長 幅	(1.3) (1.0)	厚 重	0.3 (0.2)	黒曜石//	押圧剥離による両面加工が認められる、片脚片か。	
第309図 PL.197	170坑 6	剥片石器 石鏃	欠損	長 幅	1.4 (0.9)	厚 重	0.2 (0.3)	黒曜石//	小型平基無茎鏃と思われ、基部に僅か欠損面認める、押圧剥離による両面加工が認められる。	
第309図 PL.198	171坑 1	縄文土器 深鉢	頸部					微砂粒/良/黒褐色	８字状文下に渦巻き懸垂文、横位楕円文。	後期前葉
第309図 PL.198	171坑 2	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/黒褐色	沈線による曲線文。	後期中葉
第309図 PL.198	171坑 3	縄文土器 深鉢	頸部					微砂粒/良/黒褐色	８字状文下に渦巻き懸垂文、横位楕円文。	後期前葉
第310図 PL.198	172坑 1	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/淡褐色	隆線による渦巻き文、押圧あり。	中期後葉

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第310図 PL.198	172坑 2	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/淡褐色	縄文地文、波状懸垂文。	中期後葉
第310図 PL.198	172坑 3	縄文土器 浅鉢	口縁部					微砂粒/良/灰褐色	無文、内面横位多段沈線。	後期前葉
第310図 PL.198	173坑 1	縄文土器 深鉢	口縁～底部	口 底	15.7 7.0	高	22.0	微砂粒/良/黒褐色	３単位の突起、隆線、貼付文弧状短沈線で飾る、突起下に付された円形文から口縁に沿って刻み細隆線、さらに沈線による縄文帯を画す、底部網代痕。	後期中葉
第310図 PL.198	173坑 2	縄文土器 深鉢	口縁～底部	口 底	16.2 9.2	高	21.5	微砂粒/良/暗黒褐色	横位集合沈線、下段部に連続する横Ｓ字状文帯、同様の文様帯をさらに２段描き、その間には横位連続渦巻き懸垂文による磨り消し縄文文様、口縁部に刻み文、底部網代痕。	後期中葉
第310図 PL.198	173坑 3	縄文土器 鉢	口縁～底部	口 底	13.8 6.6	高	8.0	微砂粒/良/淡褐色	10単位の小波状口縁、外面無文、内面口縁に沿って沈線、底部網代痕。	後期中葉
第310図 PL.198	173坑 4	縄文土器 注口土器	口縁～底部	口 底	6.5 6.0			砂粒/良/赤茶褐色	注口先端部を欠く、上位に環状突起、突起基部両側に刺突文、体上部に平行沈線による連続三角意匠文様帯、中央部にの字状文描く、厚手の作りで、底部は研磨されやや凹む。	後期中葉
第310図 PL.198	173坑 5	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/茶褐色	口縁内湾、無文で縦位の成形痕。	後期中葉
第310図 PL.198	173坑 6	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/茶褐色	無文、補修孔あり。	後期中葉
第310図 PL.198	173坑 7	剥片石器 石鏃	欠損	長 幅	(1.8) (1.2)	厚 重	0.4 (0.6)	黒曜石//	凹基無茎鏃の脚部片か。	
第310図 PL.198	173坑 8	剥片石器 石匙	ほぼ完形	長 幅	3.9 5.0	厚 重	0.9 (17)	流紋岩//	横型、片側側縁部に平坦な素材面残る、上部に小振りのつまみが付く、片側が厚く、表面一部が剥離、刃は下縁、上部片側縁部に作出される。	
第310図 PL.198	173坑 9	剥片石器 打製石斧	完形	長 幅	11.9 4.2	厚 重	1.5 85	黒色頁岩//	短冊型、刃部は薄手で摩耗見られる。	
第311図 PL.198	174坑 1	縄文土器 深鉢	口縁部					精製/良/黄褐色	口縁部に連続爪形文。	後期前葉
第311図 PL.198	174坑 2	縄文土器 深鉢	頸部					微砂粒/良/茶褐色	横位沈線以下複数沈線による懸垂文、地文縄文。	後期前葉
第311図 PL.198	175坑 1	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/黒茶褐色	口縁部に円形刺突文列。	後期前葉
第311図 PL.198	176坑 1	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/灰褐色	小波状、円孔有し左右に刺突文、口縁部に平行横位刻み細隆線、８字状文で繋ぐ､以下横位磨り消し縄文。	後期前葉
第311図 PL.198	176坑 2	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/黒色	横位多段沈線文。	後期前葉
第311図 PL.198	177坑 1	縄文土器 深鉢	口縁部	口	30.0			砂粒/良/灰黄黒色	横位平行刻み隆線、以下沈線による横位文様帯画す、平行沈線による連続鋸歯状文描く、文様間上部に弧状懸垂文、文様内縄文充填施文。	後期前葉
第311図 PL.198	177坑 2	縄文土器 深鉢	口縁部					精製/良/黒色	横位細隆線。	後期前葉
第311図 PL.198	177坑 3	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/茶褐色	無文。	後期前葉
第311図 PL.198	177坑 4	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/暗褐色	無文。	後期前葉
第311図 PL.198	177坑 5	縄文土器 深鉢	底部	底	10.0			微砂粒/良/茶褐色	無文、底部網代痕。	後期前葉
第311図 PL.198	177坑 6	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/茶褐色	横位隆線、以下微隆起文による文様描くか。	後期前葉
第311図 PL.198	177坑 7	縄文土器 深鉢	底部	底	10.0			微砂粒/良/茶褐色	無文、底部網代痕。	後期前葉
第311図 PL.199	177坑 8	縄文土器 深鉢	底部	底	12.0			砂粒/良/茶褐色	無文、底部網代痕。	後期前葉
第311図 PL.199	177坑 9	縄文土器 深鉢	底部	底	9.0			砂粒/良/赤茶褐色	無文、底部網代痕。	後期前葉
第311図 PL.199	177坑 10	剥片石器 石鏃	ほぼ完形	長 幅	(1.5) (1.3)	厚 重	0.3 (0.4)	流紋岩//	小型凹基無茎鏃、押圧剥離による両面加工が認められる、脚、先端部僅かに欠く。	
第311図 PL.199	177坑 11	剥片石器 石錐	欠損	長 幅	(2.4) 2.3	厚 重	0.8 (2.6)	流紋岩//	つまみ部が肥厚したＴ字状、縁辺、錐部は押圧剥離による両面加工が認められ錐部、つまみ部の側縁には明瞭な稜が見られる、先端部を欠く。	
第312図 PL.199	177坑 12	礫石器 磨石	欠損	長 幅	10.5 (9.9)	厚 重	5.2 (690)	粗粒輝石安山岩//	やや偏平な円礫利用、両面磨り面。	
第312図 PL.199	177坑 13	礫石器 台石	完形	長 幅	21.6 14.2	厚 重	5.2 2680	粗粒輝石安山岩//	大振りな偏平楕円礫、表面に使用痕および打痕による浅い不定型な凹みあり。	
第312図 PL.199	177坑 14	礫石器 台石	完形	長 幅	26.5 17.5	厚 重	5.7 3400	粗粒輝石安山岩//	大振りな偏平楕円礫利用、使用面に小さな凹み穴見られる。	
第312図 PL.199	177坑 15	礫石器 多孔石	完形	長 幅	30.4 24.1	厚 重	10.1 11300	粗粒輝石安山岩//	大型礫の一面に20個以上の凹み穴が穿たれる、裏面は平らで僅かに凹みが見られる。	
第312図 PL.199	178坑 1	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/茶褐色	横位平行刻み隆線を８字状貼付文で連結、以下横位縄文帯。	後期前葉
第312図 PL.199	178坑 2	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/茶褐色	口縁部に8字状貼付文、以下沈線による、矩形磨り消し縄文。	後期前葉

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第312図 PL.199	178坑 3	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/灰褐色	２本の垂下隆線。	後期前葉
第312図 PL.199	178坑 4	縄文土器 浅鉢	口縁部					微砂粒/良/暗黒褐色	無文。	後期前葉
第312図 PL.199	178坑 5	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/茶褐色	無文。	後期前葉
第312図 PL.199	178坑 6	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/灰黒色	横位隆線、沈線による横位文様帯。	後期前葉
第312図 PL.199	178坑 7	縄文土器 深鉢	頸部					砂粒/良/灰黒色	横位細隆線、横位縄文帯。	後期前葉
第312図 PL.199	178坑 8	縄文土器 深鉢	胴部					微砂粒/良/黒褐色	沈線による斜格子文。	後期前葉
第312図 PL.199	178坑 9	縄文土器 深鉢	底部	底	8.0			砂粒/良/茶褐色	底部網代痕。	後期前葉
第313図 PL.199	179坑 1	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/黒褐色	隆帯による渦巻き文。	中期後葉
第313図 PL.199	179坑 2	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/茶褐色	口縁部隆線による山形文内に渦巻き懸垂文、両側に縦位短隆線文。	中期後葉
第313図 PL.199	179坑 3	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/淡褐色	口縁部肥厚。	中期後葉
第313図 PL.199	179坑 4	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/黄白色	横位隆線文。	中期後葉
第313図 PL.199	179坑 5	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/暗褐色	垂下隆帯、斜位沈線文。	中期後葉
第313図 PL.199	179坑 6	縄文土器 深鉢	底部	底	6.6			砂粒/良/黒色	底部片、欠け口部分を丁寧に研磨、皿状にして再利用。	中期後葉
第313図 PL.200	180坑 1	縄文土器 浅鉢	口縁部					微砂粒/良/灰黒褐色	無文。	後期前葉
第313図 PL.200	180坑 2	縄文土器 深鉢	底部	底	8.0			砂粒/良/赤褐色	底部片、網代痕か。	後期前葉
第313図 PL.200	180坑 3	礫石器 凹石	欠損	長幅	(6.1) 5.2	厚重	3.1 (146)	粗粒輝石安山岩//	偏平な長円礫か、両面に凹み穴。	
第313図 PL.200	181坑 1	縄文土器 深鉢	口縁～胴部	口	11.0			砂粒/良/暗茶褐色	沈線によるによる磨り消し縄文懸垂文。	後期初頭
第313図 PL.200	181坑 2	縄文土器 深鉢	口縁～胴部					砂粒/良/黒褐色	全面縄文施文。	後期初頭
第313図 PL.200	181坑 3	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/茶褐色	口縁部に横位沈線、器面風化。	後期初頭
第313図 PL.200	181坑 4	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/暗茶褐色	横位波状浮線文、斜位集合沈線上に斜めの浮線文で斜格子文表出。	中期後葉
第313図 PL.200	182坑 1	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/黒褐色	２本単位の隆線、異方向集合隆線文。	中期後葉
第313図 PL.200	182坑 2	縄文土器 深鉢	突起					砂粒多く含む/良/灰褐色	隆線で飾る環状突起か。	中期後葉
第314図 PL.200	183坑 1	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/灰褐色	渦巻き隆帯文。	中期後葉
第314図 PL.200	183坑 2	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/黒色	隆帯文。	中期後葉
第314図 PL.200	183坑 3	縄文土器 深鉢	頸部					砂粒、石英粒多く含む/良/茶褐色	横位隆帯文様。	中期後葉
第314図 PL.200	183坑 4	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/茶褐色	縦位沈線、垂下波状集合線文。	中期後葉
第314図 PL.200	184坑 1	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/灰褐色	重弧状懸垂文、地文縄文。	中期後葉
第314図 PL.200	184坑 2	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/赤褐色	垂下隆線、縦位集合沈線。	中期後葉
第314図 PL.200	184坑 3	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/黒褐色	縄文施文、沈線による曲線文。	中期後葉
第314図 PL.200	184坑 4	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/黒褐色	渦巻き文から複数の懸垂沈線文、縄文地文。	後期前葉
第314図 PL.200	184坑 5	剥片石器 石鏃	欠損	長幅	(1.6) 1.7	厚重	0.4 (0.8)	黒色頁岩//	凹基無茎鏃だが抉りほとんど見られず、押圧剥離による両面加工が認められる、先端部を欠く。	
第314図 PL.200	184坑 6	剥片石器 打製石斧	完形	長幅	8.5 4.8	厚重	1.4 82	細粒輝石安山岩//	小型撥型、片面に自然面残す、刃部摩耗。	
第314図 PL.200	185坑 1	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/暗褐色	無文。	後期前葉
第314図 PL.200	185坑 2	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/暗褐色	無文。	後期前葉
第314図 PL.200	186坑 1	縄文土器 深鉢	口縁～底部	底	9.0			砂粒/良/淡黄褐色	無文。	後期前葉
第314図 PL.200	186坑 2	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/茶褐色	渦巻き文、平行垂下文、矩形文様描く、地文縄文。	後期前葉
第314図 PL.200	186坑 3	縄文土器 深鉢	口縁～底部	底	9.0			砂粒/良/淡黄褐色	無文。	後期前葉

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第314図 PL.200	186坑 4	縄文土器 深鉢	胴部					微砂粒/良/黒褐色	横位沈線以下無文。	後期前葉
第314図 PL.200	186坑 5	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/淡褐色	平行沈線による渦巻き文、刺突文付す。	後期前葉
第314図 PL.200	186坑 6	縄文土器 深鉢	口縁～底部	底	9.0			砂粒/良/淡黄褐色	無文。	後期前葉
第314図 PL.200	187坑 1	縄文土器	口縁部					砂粒/良/暗茶褐色	口縁内面横位沈線、縄文施文か。	
第314図 PL.200	187坑 2	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/黒色	横位沈線。	後期前葉
第314図 PL.200	187坑 3	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/橙褐色	口縁部縄文帯を横位沈線で画す。	後期初頭
第314図 PL.200	188坑 1	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/暗褐色	無文。	後期前葉
第315図 PL.200	189坑 1	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/黒褐色	横位細隆線、平行沈線による三角文描く。	後期前葉
第315図 PL.200	189坑 2	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/黒褐色	横位細隆線、横位平行沈線文。	後期前葉
第315図 PL.200	189坑 3	礫石器 磨石	ほぼ完形	長 幅	13.0 7.2	厚 重	5.8 795	粗粒輝石安山岩//	長円礫利用、やや平坦な面を磨り面として使用、使用痕顕著。	
第315図 PL.200	190坑 1	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/茶褐色	円文有す円形隆帯文から垂下沈線文。	後期前葉
第315図 PL.200	190坑 2	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/黒褐色	無文。	後期前葉
第315図 PL.200	190坑 3	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/黄白橙色	沈線による重三角文。	後期前葉
第315図 PL.200	191坑 1	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒多く含む/良/黒褐色	沈線によるＳ字状渦巻き文、平行線文、地文縄文。	後期前葉
第315図 PL.201	192坑 1	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/黒褐色	横位平行沈線内に楕円文、以下曲線文、沈線文内連続刺突文付す。	後期前葉
第315図 PL.201	192坑 2	縄文土器 深鉢	底部	底	14.0			砂粒多く含む/良/茶褐色	無文底部、底部縄文か。	後期前葉
第315図 PL.201	192坑 3	縄文土器 深鉢	底部	底	12.6			砂粒/良/黄褐色	無文底部。	後期前葉
第315図 PL.201	192坑 4	礫石器 石棒	欠損	長 幅	(43.0) 13.2	厚 重	13.5 (14350)	雲母石英片岩//	大型石棒か、頭部は面取りが施される、下部を欠損、欠損部に凹み穴状の穿孔痕か。	
第315図 PL.201	193坑 1	剥片石器 石鏃	欠損	長 幅	(0.9) 1.6	厚 重	0.5 (0.7)	黒曜石//	平基無茎鏃の基部片、両面からの押圧剥離により作出、作りはやや粗く、製作途中での欠損品か。	
第315図 PL.201	194坑 1	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/茶褐色	刺突文伴う横位隆帯、２本隆帯垂下し縦位区画、縄文施文、隆帯蛇行懸垂文。	中期後葉
第315図 PL.201	194坑 2	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒、金雲母多く含む/良/茶褐色	隆帯による区画文、連続蛇行文、縦位集合沈線。	中期後葉
第315図 PL.201	194坑 3	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒、金雲母多く含む/良/茶褐色	隆帯渦巻き懸垂文、横位集合沈線。	中期後葉
第315図 PL.201	194坑 4	縄文土器 鉢	口縁部					微砂粒/良/灰褐色	無文。	後期前葉
第315図 PL.201	194坑 5	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/茶褐色	口縁部押圧文、８字状貼付文、横位隆線、沈線文様。	後期前葉
第316図 PL.201	195坑 1	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/茶褐色	横位隆帯以下縄文施文。	中期後葉
第316図 PL.201	196坑 1	縄文土器 深鉢	口縁～底部	口 底	11.0 7.0	高	14.1	精製/良/黒色	口縁部に沈線、小瘤文、円形文付す、以下横位多段沈線文帯、円形文下位に縦位連続８字状文から菱形文描き左右連結部には複数の蕨手文、上下左右方向に延びる、菱形文下位にも蕨手文、底部網代痕。	後期中葉
第316図 PL.201	196坑 2	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/黒褐色	頸部に横位沈線、蛇行懸垂文。	後期前葉
第316図 PL.201	196坑 3	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/黄褐色	押圧文有す口縁部片。	後期前葉
第316図 PL.201	196坑 4	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/黒色	口縁部に８字状貼付文、以下沈線による並行線文、弧状文、曲線文描く。	後期前葉
第316図 PL.201	196坑 5	縄文土器 深鉢	口縁～胴部					微砂粒/良/灰黒色	波頂部に円文隆線文、頸部横位隆帯に８字状貼付文。	後期前葉
第316図 PL.201	196坑 6	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/茶褐色	渦巻き懸垂文、曲線文描く、地文縄文。	後期前葉
第316図 PL.201	196坑 7	縄文土器 深鉢	胴部					微砂粒/良/茶褐色	垂下条線文。	後期前葉
第316図 PL.201	196坑 8	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/黄褐色	環状把手先端部、８字意匠隆帯。	後期前葉
第316図 PL.201	197坑 1	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/淡黄褐色	口縁部小波状部に渦巻き文。	後期前葉
第316図 PL.201	197坑 2	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/黒褐色	無文、小波状口縁。	後期前葉

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第316図 PL.201	198坑 1	縄文土器 鉢	口縁～胴部	口 底	12.0 6.0	高	6.2	微砂粒/良/黒褐色	口縁部連続の指頭押圧による波状を表出か、横位沈線、胴部には平行沈線による懸垂文描き、縄文充填、底部網代痕。	後期前葉
第316図 PL.201	198坑 2	縄文土器 深鉢	口縁～胴部					砂粒/良/明黄褐色	口縁小突起部に２本の短隆線垂下し、横位平行細隆線に繋がる、以下沈線による幾何学文様描き縄文充填。	後期前葉
第316図 PL.201	198坑 3	縄文土器 深鉢	口縁～胴部					砂粒/良/明黄褐色	横位沈線から複数縦位沈線垂下。	後期前葉
第316図 PL.201	198坑 4	縄文土器 深鉢	胴部					微砂粒/良/黒褐色	口縁部外反、沈線による曲線懸垂文、縄文施文。	後期前葉
第316図 PL.201	198坑 5	縄文土器 小型鉢	胴部					精製/良/黒色	無文、薄手作り。	後期前葉
第316図 PL.201	198坑 6	剥片石器 石鏃	ほぼ完形	長 幅	(1.6) (1.2)	厚 重	0.4 0.6	黒曜石//	小型凹基無茎鏃、抉り極浅く、押圧剥離による両面加工が認められ、厚手の作り。	
第316図 PL.201	198坑 7	礫石器 磨石	完形	長 幅	12.5 7.4	厚 重	3.6 590	粗粒輝石安山岩//	偏平な楕円礫利用、両面使用面、被熱。	
第317図 PL.202	199坑 1	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/暗褐色	環状突起、円形文、沈線で飾る。	後期前葉
第317図 PL.202	199坑 2	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/暗褐色	横位隆線。	後期前葉
第317図 PL.202	199坑 3	礫石器 多孔石	完形	長 幅	20.5 19.4	厚 重	9.1 4600	粗粒輝石安山岩//	大型角礫利用、平坦な両面に複数の凹み穴を穿つ。	
第317図 PL.202	200坑 1	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/黒褐色	無文、口縁部に指頭による押さえ痕。	後期前葉
第317図 PL.202	201坑 1	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/黒褐色	環状突起､円孔有し､端部に刺突文持つ短沈線で飾る。	後期前葉
第317図 PL.202	201坑 2	礫石器 磨石	完形	長 幅	11.9 8.3	厚 重	5.6 860	粗粒輝石安山岩//	やや偏平な楕円礫利用、片面に磨り面使用痕、裏面には浅い打痕状の凹みが２カ所見られる。	
第317図 PL.202	202坑 1	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/赤褐色	口縁部に円文、沈線文。	後期前葉
第317図 PL.202	202坑 2	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/茶褐色	無文。	後期前葉
第317図 PL.202	202坑 3	縄文土器 土製円盤	完形					微砂粒/良/黒褐色	大型土製円盤か。	後期
第317図 PL.202	203坑 1	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/赤茶褐色	口縁部肥厚突起、以下縄文施文。	中期後葉
第317図 PL.202	203坑 2	縄文土器 深鉢	頸部					砂粒/良/茶褐色	８字状貼付文、弧状垂下沈線文。	後期前葉
第317図 PL.202	203坑 3	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/茶褐色	垂下条線文。	後期前葉
第317図 PL.202	204坑 1	縄文土器 深鉢	胴部					微砂粒/良/黒褐色	沈線による幾何学文様。	後期前葉
第317図 PL.202	204坑 2	縄文土器 深鉢	胴部					微砂粒/良/茶褐色	沈線による渦巻き文。	後期前葉
第317図 PL.202	205坑 1	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/赤茶褐色	横位平行隆帯以下、平行垂下隆帯で縦位区画、区画内縦位集合沈線文か。	中期後葉
第317図 PL.202	205坑 2	剥片石器 打製石斧	欠損	長 幅	(10.8) (5.1)	厚 重	1.3 (85)	細粒輝石安山岩//	撥型の基部片か、板状の礫を素材としている、両面に自然面が残る。	
第318図 PL.202	206坑 1	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/茶褐色	押圧文垂下隆帯。	後期前葉
第318図 PL.202	206坑 2	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/茶褐色	隆帯から沈線による垂下文。	後期前葉
第318図 PL.202	207坑 1	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/黒褐色	横位沈線による文様帯画し、縄文施文。	後期前葉
第318図 PL.202	207坑 2	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/茶褐色	口縁部肥厚、縦位沈線。	中期後葉
第318図 PL.202	207坑 3	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/黒褐色	口縁縦位短沈線による刻み、横位隆帯以下沈線文。	中期後葉
第318図 PL.202	207坑 4	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/黄褐色	沈線による斜格子文。	後期前葉
第318図 PL.202	207坑 5	縄文土器 深鉢	底部	底	6.0			微砂粒/良/黒色	無文、底部網代痕。	後期前葉
第318図 PL.202	207坑 6	縄文土器 深鉢	底部	底	10.0			微砂粒/良/茶褐色	底部片、網代痕。	後期前葉
第318図 PL.202	207坑 7	縄文土器 深鉢	底部	底	10.0			微砂粒/良/茶褐色	底部片、網代痕。	後期前葉
第318図 PL.202	208坑 1	縄文土器 深鉢	口縁～底部	口 底	11.8 8.0	高	15.5	精製/良/黒色	横位多段沈線文、以下沈線による懸垂文様、底部網代痕。	後期前葉
第318図 PL.202	208坑 2	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/茶褐色	小突起、両面に円文、口縁から斜めに垂下隆線。	後期初頭
第318図 PL.202	208坑 3	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/黄褐色	無文。	後期前葉

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第318図 PL.202	208坑 4	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/黒褐色	無文。	後期前半
第318図 PL.202	208坑 5	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/茶褐色	横位細隆線。	後期前葉
第318図 PL.202	208坑 6	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/淡褐色	無文。	後期前葉
第318図 PL.202	208坑 7	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/黒褐色	沈線による渦巻き懸垂文、縄文充填。	後期前葉
第318図 PL.202	209坑 1	縄文土器 深鉢	口縁～胴部	口	30.0			砂粒/良/黒褐色	口縁部押圧文、口縁部無文、肩部に平行沈線で横位縄文帯画す、内面平行沈線巡る。	後期前葉
第318図 PL.202	209坑 2	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/暗茶褐色	横位刻み細隆線。	後期前葉
第318図 PL.202	209坑 3	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/黄褐色	横位沈線。	中期後葉
第318図 PL.202	209坑 4	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/黒褐色	肥厚突起、縄文施文、以下楕円文か。	中期後葉
第318図 PL.203	209坑 5	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/茶褐色	横位楕円文。	中期後葉
第318図 PL.203	209坑 6	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/黄褐色	無文。	後期前葉
第318図 PL.203	209坑 7	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/黄褐色	無文。	後期前葉
第318図 PL.203	209坑 8	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/灰褐色	横位沈線、浅い施文。	後期前葉
第318図 PL.203	209坑 9	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/黒褐色	無文、内面平行横位沈線。	後期前葉
第318図 PL.203	209坑 10	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/黒褐色	無文。	後期前葉
第319図 PL.203	209坑 11	縄文土器 注口土器	胴部					砂粒/良/明黄褐色	渦巻き懸垂文。	後期前様
第319図 PL.203	209坑 12	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/黒色	平行沈線によるＸ状文。	後期前様
第319図 PL.203	209坑 13	縄文土器 注口土器	胴部					微砂粒/良/灰黒色	沈線による渦巻き文。	後期前様
第319図 PL.203	209坑 14	縄文土器 深鉢	底部	底	7.0			微砂粒/良/黒色	底部網代痕。	後期前様
第319図 PL.203	210坑 1	縄文土器 深鉢	突起					砂粒/良/茶褐色	口縁部突起、側縁部に隆線および円形刺突列。	中期後葉
第319図 PL.203	210坑 2	縄文土器 深鉢	頸部					砂粒/良/灰黄褐色	沈線による上下対向Ｕ字状文。	中期後葉
第319図 PL.203	210坑 3	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/普通/黒褐色	横位細隆線、器面風化。	後期前様
第319図 PL.203	210坑 4	礫石器 磨石	完形	長 幅	19.0 12.3	厚 重	4.8 1480	粗粒輝石安山岩//	偏平な楕円礫、比較的平坦な面に使用痕、台石か。	
第319図 PL.203	210坑 5	礫石器 多孔石	完形	長 幅	14.7 13.5	厚 重	8.0 2135	粗粒輝石安山岩//	亜角礫の平坦な表裏面に凹み穴を穿つ、表面の凹み穴は逆円錐形で均整が取れ、均等に配置、裏面は中央部に集中して小穴が乱雑に配されている。	
第319図 PL.203	211坑 1	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/暗茶褐色	横位隆帯から隆帯による懸垂文、地文縄文。	中期後葉
第319図 PL.203	211坑 2	縄文土器 深鉢	把手					砂粒/良/茶褐色	渦巻き突起文。	中期後葉
第319図 PL.203	211坑 3	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/黒褐色	縦位磨り消し沈線文、ＲＬ縄文縦位施文。	中期後葉
第319図 PL.203	212坑 1	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/暗茶褐色	小波状下に隆帯による渦巻き文。	中期後葉
第319図 PL.203	212坑 2	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/茶褐色	隆帯および縄文。	中期後葉
第319図 PL.203	212坑 3	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/茶褐色	平行沈線による磨り消し文様。	後期前葉
第319図 PL.203	212坑 4	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/茶褐色	縦位沈線による磨り消し縄文、縄文ＲＬ縦位施文。	中期後葉
第319図 PL.203	213坑 1	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/黒色	横位刻み細隆線、以下横位沈線で横位縄文帯画す。	後期前葉
第319図 PL.203	213坑 2	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/暗赤褐色	横位沈線による横位文様帯画し、縄文施文。	後期前葉
第319図 PL.203	213坑 3	縄文土器 深鉢	口縁～胴部					砂粒/良/茶褐色	波頂部に円形突起、下位に円形文付し、細隆線文が口縁に沿って延びる。	後期前葉
第320図 PL.203	213坑 4	縄文土器 深鉢	口縁～胴部	口	32.4			砂粒/良/茶褐色	無文、補修孔あり。	後期前葉
第320図 PL.203	213坑 5	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/灰褐色	口縁部横位隆帯、以下隆帯による懸垂文か、区画内縄文施文。	中期後葉
第320図 PL.203	213坑 6	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/茶褐色	無文、補修孔あり。	後期前葉

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第320図 PL.203	213坑 7	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/淡灰黄色	無文。	後期前葉
第320図 PL.203	213坑 8	縄文土器 深鉢	底部	底	8.8			砂粒/良/赤茶褐色	無文、底部網代痕。	後期前葉
第320図 PL.203	213坑 9	剥片石器 石鏃	欠損	長幅	(2.0) (1.8)	厚重	0.5 (1.0)	流紋岩//	先端部片、押圧剥離による両面加工が認められる。	
第320図 PL.204	214坑 1	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/黒色	小波頂部に円文、内面横位沈線。	後期前葉
第320図 PL.204	214坑 2	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/黒色	沈線による幾何学文様、縄文充填。	後期前葉
第320図 PL.204	215坑 1	縄文土器 深鉢	口縁～胴部	口	35.0			砂粒/良/灰黒色	平行横位細隆線を縦位８字状隆線が等間隔で連結、以下縄文施文。	後期前葉
第320図 PL.204	215坑 2	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/黒色	横位刻み細隆線、以下平行沈線による横位文様帯。	後期前葉
第320図 PL.204	215坑 3	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/赤褐色	横位刻み隆線、以下沈線による横位文様帯か。	後期前葉
第320図 PL.204	215坑 4	縄文土器 深鉢	口縁部	口	15.0			砂粒/良/黒色	３単位の波状口縁、波頂部から垂下する連続８字状文から平行細隆線が口縁に沿って延び、波頂中間位置にも８字状文付される、以下沈線による横位矩形文様描き縄文施文。	後期前葉
第320図 PL.204	215坑 5	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/茶褐色	横位刻み隆帯、平行多段沈線描き以下縄文施文。	後期前葉
第320図 PL.204	215坑 6	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/黄褐色	沈線による幾何学文様描く。	後期初頭
第320図 PL.204	215坑 7	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/黒色	無文。	後期前葉
第320図 PL.204	215坑 8	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/灰褐色	平行沈線による曲線文、縄文充填。	後期前葉
第320図 PL.204	215坑 9	縄文土器 深鉢	底部	底	8.6			砂粒/良/暗赤褐色	底部圧痕あり。	後期前葉
第321図 PL.204	216坑 1	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/茶褐色	隆帯による楕円文、以下縄文。	中期後葉
第321図 PL.204	216坑 2	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/茶褐色	縦位集合沈線。	中期後葉
第321図 PL.204	216坑 3	剥片石器 打製石斧	欠損	長幅	(9.3) (4.9)	厚重	1.6 (84)	黒色頁岩//	細身の分銅型、抉りは浅く、片面に自然面。	
第321図 PL.204	217坑 1	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/茶褐色	沈線による矩形文様、縄文充填。	後期初頭
第321図 PL.204	217坑 2	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/黒褐色	横位刻み細隆線以下沈線による三角意匠文様、縄文充填施文。	後期前葉
第321図 PL.204	218坑 1	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/茶褐色	隆帯による楕円文構成か、２本沈線垂下し無文帯、縄文帯を画す。	中期後葉
第321図 PL.204	218坑 2	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/茶褐色	２本単位の細沈線斜めに走る、内面に浅い沈線巡る。	後期前葉
第321図 PL.204	218坑 3	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/茶褐色	頸部横位沈線上に８字状貼付文。	後期前葉
第321図 PL.204	220坑 1	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/淡褐色	口縁下に横位凹線、器面風化。	中期後葉
第321図 PL.204	220坑 2	縄文土器 深鉢	突起					砂粒/良/暗茶褐色	把手上部は円形で凹み有す、頂部からの環状把手が付くか。	中期後葉
第321図 PL.204	220坑 3	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/明黄褐色	無文。	中期後葉
第321図 PL.204	220坑 4	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/灰褐色	垂下隆帯、縄文施文。	中期後葉
第321図 PL.204	220坑 5	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/橙褐色	垂下隆帯。	中期後葉
第321図 PL.204	220坑 6	縄文土器 深鉢	胴部					//灰褐色	２本垂下隆帯で無文帯、縄文帯画す。	中期後葉
第321図 PL.204	220坑 7	縄文土器 深鉢	胴部					微砂粒/良/黒褐色	沈線によるＶ字状文、縄文充填。	中期後葉
第321図 PL.204	220坑 8	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/暗茶褐色	波頂部縦楕円の透かし孔有す橋状把手か。	中期後葉
第321図 PL.204	221坑 1	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/黒褐色	沈線による重三角、菱形文描く。	後期前葉
第321図 PL.204	222坑 1	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/黄橙白色	把手部欠損、口縁に横位沈線、刺突文。	後期前葉
第321図 PL.204	222坑 2	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/茶褐色	沈線による曲線文。	後期前葉
第321図 PL.204	222坑 3	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/黄褐色	無文。	後期前葉
第321図 PL.204	223坑 1	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/茶褐色	横位隆帯下に平行沈線による∩状懸垂文。	中期後葉
第322図 PL.204	224坑 1	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/黒褐色	口縁部縄文帯、沈線による逆Ｕ字状文、縄文施文。	中期後葉

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第322図 PL.204	224坑 2	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/黒褐色	口縁に沈線、弧状短沈線文。	後期前葉
第322図 PL.204	225坑 1	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/茶褐色	横位沈線。	中期末様
第322図 PL.204	225坑 2	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/黒褐色	沈線による曲線垂下文。	中期末様
第322図 PL.204	226坑 1	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/茶褐色	横位細隆線、８字状貼付文、以下沈線による横位文様帯。	後期前葉
第322図 PL.204	226坑 2	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/暗茶褐色	横位平行細隆線、以下沈線による幾何学文。	後期前葉
第322図 PL.204	226坑 3	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/黒褐色	無文、口縁内面に横位隆線。	後期前葉
第322図 PL.204	227坑 1	縄文土器 深鉢	胴部					微砂粒/良/暗茶褐色	沈線による横位文様帯、縄文施文。	後期前葉
第322図 PL.204	227坑 2	縄文土器 深鉢	胴部					微砂粒/良/暗茶褐色	沈線による幾何学文。	後期前葉
第322図 PL.205	228坑 1	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/茶褐色	２本沈線による垂下無文帯で縄文帯を画す、縄文ＬＲ縦位施文。	中期後葉
第322図 PL.205	228坑 2	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒多く含む/良/黒褐色	小波頂部下に捻り隆帯、楕円文区画し内面に刺突文、横線、交互刺突文配す、区画文下にも交互刺突文。	中期後葉
第322図 PL.205	228坑 3	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/暗赤褐色	波状口縁、口縁下の隆帯が波頂部で舌状に高まり、２段口縁状を呈す、下部に弧状隆線。	中期末様
第322図 PL.205	228坑 4	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/黄褐色	横位隆帯で無文部画す、以下縄文施文。	中期後葉
第322図 PL.205	228坑 5	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/赤褐色	横位隆帯、以下沈線による逆Ｖ字状文描き縄文充填施文。	中期末様
第322図 PL.205	228坑 6	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/二次被熱/灰色	小波状、波頂下に逆Ｕ字状沈線文か、火を受け、還元化顕著。	中期末様
第322図 PL.205	228坑 7	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/茶褐色	垂下沈線による文様帯、縄文施文。	中期後葉
第322図 PL.205	228坑 8	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/赤茶褐色	沈線による連続Ｕ字状文描き縄文充填施文、下段には紡錘状の沈線文様か。	中期末様
第322図 PL.205	228坑 9	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/茶褐色	２本沈線による垂下無文帯で縄文帯を画す。	中期後葉
第322図 PL.205	228坑 10	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/黄褐色	Ｖ字状沈線文。	中期末様
第322図 PL.205	228坑 11	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/暗茶褐色	垂下隆線で縄文、無文帯を画す。	中期後葉
第323図 PL.205	228坑 12	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/黄褐色	縄文施文。	後期初頭
第323図 PL.205	228坑 13	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/黄褐色	縦位集合条線文。	中期後葉
第323図 PL.205	228坑 14	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/灰褐色	無文。	中期後葉
第323図 PL.205	228坑 15	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/暗褐色	無文。	中期後葉
第323図 PL.205	228坑 16	縄文土器	口縁部					微砂粒/普通/灰褐色	口縁部肥厚し器面風化、細縄文施文か。	中期後葉
第323図 PL.205	228坑 17	縄文土器 鉢	口縁部					微砂粒/良/灰黒褐色	口縁に沿って隆帯巡り、以下懸垂文隆帯文様か。	中期末様
第323図 PL.205	228坑 18	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/二次被熱による発泡/灰褐色	火熱を受け、土器面発泡し、還元化顕著。	中期後葉
第323図 PL.205	228坑 19	縄文土器 深鉢	底部	底	9.0			砂粒/普通/淡黄褐色	無文底部。	中期後葉
第323図 PL.205	228坑 20	剥片石器 石鏃	完形	長 1.9 幅 1.6		厚 0.3 重 0.6		黒曜石//	凹基無茎鏃、押圧剥離による両面加工が認められる、逆ハート型で作りは丁寧。	
第323図 PL.205	228坑 21	礫石器 磨石	完形	長 12.2 幅 11.2		厚 4.6 重 935		変質安山岩//	偏平な円礫利用、両面使用。	
第323図 PL.205	230坑 1	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/灰黒色	横位多段沈線文。	後期前葉
第323図 PL.205	230坑 2	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/黄褐色	横位沈線による縄文帯。	後期前葉
第323図 PL.205	231坑 1	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/茶褐色	口縁部肥厚、横位隆帯。	中期後葉
第323図 PL.205	233坑 1	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/普通/灰褐色	沈線文、器面風化。	中期
第323図 PL.205	233坑 2	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/灰褐色	斜位沈線。	後期前葉
第323図 PL.206	234坑 1	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/黄褐色	小波状、波頂下に楕円渦巻き文、平行沈線垂下し無文帯、縄文帯縦位区画。	中期後葉

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第324図 PL.206	234坑 2	縄文土器 深鉢	突起					砂粒/良/黒褐色	突起上面の渦巻き文から続く沈線垂下。	中期後葉
第324図 PL.206	234坑 3	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/黄褐色	平行沈線による無文帯、縄文帯縦位区画。	中期後葉
第324図 PL.206	234坑 4	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/黄褐色	平行沈線による無文帯、縄文帯縦位区画。	中期後葉
第324図 PL.206	235坑 1	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/茶褐色	口縁部沈線。	後期前葉
第324図 PL.206	235坑 2	縄文土器 深鉢	頸部					微砂粒/良/黒褐色	横位細隆線、以下沈線による曲線文。	後期前葉
第324図 PL.206	235坑 3	縄文土器 深鉢	頸部					微砂粒/良/黒色	横位隆線、集合沈線および曲線文様か。	後期前葉
第324図 PL.206	236坑 1	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒多く含む/良/茶褐色	口縁部に隆帯巡り以下隆帯による腕骨文、蛇行懸垂文、地文に斜位の集合沈線。	中期後葉
第324図 PL.206	236坑 2	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/茶褐色	口縁部片、楕円渦巻文、区画文内縦位沈線。	中期後葉
第324図 PL.206	236坑 3	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/茶褐色	隆帯による楕円文か。	中期後葉
第324図 PL.206	236坑 4	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒、雲母/良/灰褐色	平行垂下隆帯、横位隆帯。	中期後葉
第324図 PL.206	236坑 5	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/黒褐色	渦巻き隆帯垂下文、横位沈線地文。	中期後葉
第324図 PL.206	236坑 6	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/黄橙色	横位楕円集合沈線から渦巻き懸垂文。	中期後葉
第324図 PL.206	236坑 7	剥片石器 石鏃	ほぼ完形	長 1.5 幅 1.2		厚 0.5 重 (0.3)		流紋岩//	凹基無茎鏃、粗い作りで中央が高まり、不均整な形状。	
第324図 PL.206	236坑 8	剥片石器 石鏃	欠損	長 (2.1) 幅 (1.7)		厚 0.4 重 (1.0)		黒曜石//	凹基無茎鏃、押圧剥離による両面加工が認められる、肉薄で片脚、先端を欠く。	
第324図 PL.206	237坑 1	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/茶褐色	口縁部小突起部から斜めに沈線垂下。	中期後葉
第324図 PL.206	237坑 2	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/茶褐色	口縁部肥厚、隆帯文。	中期後葉
第324図 PL.206	237坑 3	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒多く含む/良/茶褐色	垂下隆帯、縦位集合沈線。	中期後葉
第324図 PL.206	238坑 1	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/灰褐色	口縁部に２段の横位刺突文、以下沈線による曲線文様か。	後期前葉
第324図 PL.206	238坑 2	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/茶褐色	沈線による曲線文。	後期前葉
第324図 PL.206	238坑 3	縄文土器 深鉢	底部	底 8.0				砂粒、小砂礫/普通/灰褐色	無文、被熱。	後期前葉
第325図 PL.206	239坑 1	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/茶褐色	隆帯による渦巻き懸垂文、横位隆線。	中期後葉
第325図 PL.206	239坑 2	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/暗黒褐色	口縁部に突起文、斜位刻み、以下垂下沈線。	後期初頭
第325図 PL.206	239坑 3	縄文土器	口縁部					砂粒/良/淡黄褐色	隆帯による渦巻文。	中期後葉
第325図 PL.206	239坑 4	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/普通/黒色	波状口縁、沈線による渦巻き懸垂文か。	後期初頭
第325図 PL.206	239坑 5	縄文土器 浅鉢	口縁部					砂粒/普通/黒色	無文。	中期後葉
第325図 PL.206	239坑 6	剥片石器 打製石斧	完形	長 14.6 幅 5.5		厚 1.8 重 174		細粒輝石安山岩//	撥型、刃部僅かに幅広となる、両側縁は敲打による整形、片面の一部に自然面。	
第325図 PL.206	240坑 1	縄文土器	口縁・胴部	口 46.0				砂粒/良/黄茶褐色	頸部くの字に屈曲、4単位の小波状口縁、波頂下に橋状把手、把手部に両端部に渦巻下垂文描き下位に円孔、体部に沈線による懸垂文。	後期前葉
第325図 PL.206	240坑 2	縄文土器	胴部					砂粒/良/茶褐色	沈線による渦巻懸垂文。	後期初頭
第325図 PL.207	240坑 3	縄文土器	胴部					砂粒/良/茶褐色	沈線による渦巻懸垂文。	後期初頭
第325図 PL.207	240坑 4	縄文土器	口縁部					微砂粒/良/黒褐色	口縁部に円孔有す小突起、以下沈線による曲線文描き、縄文充填施文。	後期初頭
第325図 PL.207	240坑 5	剥片石器 打製石斧	欠損	長 (11.8) 幅 (5.9)		厚 2.3 重 (155)		粗粒輝石安山岩//	撥型、刃部を欠く、両面に自然面残る。	
第325図 PL.207	241坑 1	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/暗茶褐色	横位沈線、円形貼付文、囲うように渦巻き文懸垂文。	後期前葉
第326図 PL.207	242坑 1	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/茶褐色	横位沈線から垂下沈線。	後期前葉
第326図 PL.207	242坑 2	縄文土器 深鉢	胴部					微砂粒/良/茶褐色	沈線による三角意匠文。	後期前葉
第326図 PL.207	243坑 1	縄文土器 ミニチュア	口縁～底部	口 7.0 底 3.0		高 3.0		微砂粒/良/灰黒色	小型手捏ね土器。	後期
第326図 PL.207	243坑 2	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/灰褐色	刺突文。	後期初頭

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第326図 PL.207	243坑 3	縄文土器 深鉢	胴部					微砂粒/良/灰褐色	垂下沈線。	中期後葉
第326図 PL.207	243坑 4	縄文土器 深鉢	底部	底	6.0			砂粒/良/黒褐色	底部網代痕。	後期前葉
第326図 PL.207	244坑 1	剥片石器 石鏃	完形	長 幅	2.3 1.4	厚 重	0.3 0.7	流紋岩//	凹基無茎鏃、抉りは山形、押圧剥離による両面加工が認められる、丁寧な作り。	
第326図 PL.207	245坑 1	縄文土器 深鉢	口縁～胴部	口	26.0			砂粒/良/黒褐色	頸部ややしまり、口縁は僅かに外傾、頸部に平行する刺突細隆線巡り、８字状沈線文で連結、以下沈線で画した横位文様帯内に連続三角文を配し、外枠部分に縄文施文。	後期前葉
第326図 PL.207	245坑 2	縄文土器 深鉢	口縁部					精製/良/黒色	横位平行細隆線。	後期前葉
第326図 PL.207	246坑 1	縄文土器 深鉢	口縁部	口	12.6			砂粒/良/赤茶褐色	口縁部に横位円形刺突列、以下縄文施文後、沈線による逆Ｕ字状懸垂文。	中期後葉
第326図 PL.207	246坑 2	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/普通/茶褐色	口縁部に連続刻み、横位凹線下に縄文。	中期後葉
第326図 PL.207	246坑 3	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/普通/灰褐色	沈線による区画文、器面風化。	中期後葉
第326図 PL.207	246坑 4	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/普通/灰褐色	沈線による区画文、器面風化。	中期後葉
第351図 PL.207	１配１	剥片石器 打製石斧	完形	長 幅	11.0 4.1	厚 重	1.8 90	黒色頁岩//	やや小振りの短冊型、両面に自然面残る刃部、側縁ともに薄く剥離調整成されている。	
第351図 PL.207	２配１	剥片石器 石鏃	欠損	長 幅	(1.7) (1.3)	厚 重	0.3 (0.4)	黒曜石//	小型凹基無茎鏃、押圧剥離による両面加工が認められる、脚の端部僅かに欠く。	
第351図 PL.207	２配２	剥片石器 石錐	欠損	長 幅	(2.6) (1.0)	厚 重	0.4 (1.5)	チャート//	棒状錐、つまみ部広がり薄くなる、錐部基部はやや平坦で、尖端部は円く作り出す、使用痕見られる、先端部欠く。	
第351図 PL.207	６配１	剥片石器 石鏃	完形	長 幅	1.5 1.0	厚 重	0.4 0.5	黒曜石//	小型凹基無茎鏃、側縁部に円みあり、押圧剥離による両面加工が認められる、やや厚手。	
第351図 PL.207	24配１	縄文土器 深鉢	胴部～底部	底	10.4			砂粒/良/暗茶褐色	口縁部を欠く、縄文ＲＬ縦位施文。	中期後葉
第351図 PL.207	26配１	縄文土器 深鉢	口縁～胴部	口	45.0			砂粒/良/灰黄褐色	口縁部に3単位の小突起、円孔有し左右に弧状文、突起下にＹ字状の懸垂隆線が横位沈線に繋がり8字状貼付文、下位に渦巻き文から延びる弧状対向垂下文、複数沈線による懸垂文、地文縄文。	後期前半
第351図 PL.207	26配２	剥片石器 打製石斧	完形	長 幅	21.7 9.3	厚 重	2.2 440	黒色頁岩//	大型分銅型、側縁中央に抉り、薄手で両刃部端に自然面が見られる。	
第353図 PL.207	１配土 1	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/灰黒色	無文。	後期前葉
第353図 PL.207	１配土 2	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/灰褐色	平行沈線による三角意匠文様、縄文充填。	後期前葉
第355図 PL.208	２配土 1	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/黄褐色	小波状、波頂下に弧状沈線、左右に横位偏平Ｕ字状沈線文。	後期前葉
第355図 PL.208	２配土 2	縄文土器 深鉢	胴部					微砂粒/良/灰色	沈線による渦巻き文。	後期初頭
第355図 PL.208	２配土 3	剥片石器 石鏃	ほぼ完形	長 幅	(1.3) (1.1)	厚 重	0.3 (0.3)	チャート//	小型凹基無茎鏃、押圧剥離による両面加工が認められる、側縁鋸歯状剥離。	
第355図 PL.208	２配土 4	剥片石器 石鏃	ほぼ完形	長 幅	1.2 1.1	厚 重	0.3 0.3	黒曜石//	小型凹基無茎鏃、抉り浅く押圧剥離による両面加工が認められるが、作りは粗く、側縁部分にのみ剥離。	
第357図 PL.208	１埋１	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/淡黄褐色	口縁部無文、以下縄文施文。	後期初頭
第359図 PL.208	10焼１	縄文土器 深鉢	胴部					微砂粒/良/黒色	縄文ＲＬ施文。	後期
第359図 PL.208	18焼１	剥片石器 石鏃	欠損	長 幅	(1.3) 1.4	厚 重	0.4 (0.5)	黒曜石//	平基無茎鏃、押圧剥離による両面加工が認められる、先端部欠く。	
第359図 PL.208	19焼１	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/灰黄褐色	沈線により屈曲懸垂文。	後期初頭
第359図 PL.208	19焼２	縄文土器 深鉢	胴部					微砂粒/良/黄褐色	垂下沈線文。	後期初頭
第359図 PL.208	20焼１	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/黒褐色	横位平行沈線か。	中期後葉
第359図 PL.208	20焼２	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/黄緑褐色	横位隆帯。	中期後葉
第359図 PL.208	20焼３	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/茶褐色	隆線による垂下腕骨文、弧状文、間隙を縄文施文。	中期後葉
第359図 PL.208	20焼４	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/黒褐色	垂下渦巻き隆線文。	中期後葉
第359図 PL.208	20焼５	剥片石器 石鏃	完形	長 幅	3.6 2.3	厚 重	0.5 2.0	黒色安山岩//	凹基無茎鏃、比較的大型品で押圧剥離による両面加工が認められる、脚の作りがやや非対称。	

遺構外　土器

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第362図 PL.208	1	縄文土器 深鉢	41O-14 口縁~胴部					砂粒/良/暗茶褐色	波頂部に橋状突起、先端部細く作られ前後左右に円孔、円孔周りを沈線で飾る、以下縄文施文の縦位楕円文、および縦位両端蕨手沈線文を配す、下段文様は曲線文描き縄文充填施文。	中期後葉
第362図 PL.208	2	縄文土器 深鉢	41Q-19 口縁~胴部	口	(24.0)			砂粒/良/茶褐色	口縁部に横位2列の連続円形刺突文、横位隆帯巡り複数の蛇行懸垂文、地文斜位沈線文充填。	中期後葉
第362図 PL.208	3	縄文土器 深鉢	41L-22 口縁部					砂粒/良/茶褐色	楕円渦巻き文、縦位集合沈線充填。	中期後葉
第362図 PL.208	4	縄文土器 深鉢	41L-22 胴部					砂粒/良/茶褐色	2本隆帯による懸垂渦巻き文、縦位沈線地文。	中期後葉
第362図 PL.208	5	縄文土器 深鉢	41K-20 胴部					砂粒/良/茶褐色	横位弧状隆帯文、端部渦巻き垂下文、縦位集合沈線。	中期後葉
第362図 PL.208	6	縄文土器 深鉢	41N-10 胴部					砂粒/良/黒褐色	刻み有す横位隆帯、上位に連続短沈線文、隆帯以下縄文施文。	中期後葉
第362図 PL.208	7	縄文土器 深鉢	41L-23 胴部					砂粒/良/暗茶褐色	隆帯による曲線文、渦巻き懸垂文、地文斜位集合沈線。	中期後葉
第362図 PL.208	8	縄文土器 深鉢	41M-14 口縁部					砂粒/良/茶褐色	小波状下に横位楕円文、縄文充填施文。	中期後葉
第362図 PL.208	9	縄文土器 深鉢	41N-9 胴部					砂粒/良/茶褐色	2本の弧状隆帯、縦位集合沈線。	中期後葉
第362図 PL.208	10	縄文土器 深鉢	41L-12 胴部					砂粒、雲母、長石/良/暗茶褐色	垂下隆帯、縦位刺突文、縦位集合沈線。	中期後葉
第362図 PL.208	11	縄文土器 深鉢	41M-11 口縁部					砂粒/良/暗茶褐色	横位隆帯から2本の垂下隆帯で無文帯画す、左右区画内には縄文施文。	中期後葉
第362図 PL.208	12	縄文土器 深鉢	41O-14 口縁・胴部					砂粒/良/淡褐色	沈線による連続逆U字状文描き、縄文充填施文。	中期後葉
第362図 PL.209	13	縄文土器 深鉢	41O-14 口縁・胴部					砂粒/良/淡褐色	沈線による連続逆U字状文描き、縄文充填施文。	中期後葉
第362図 PL.209	14	縄文土器 深鉢	41L-15 口縁~胴部					砂粒/良/茶褐色	口縁部に円形文から繋がる隆帯、口縁部縄文施文、胴部垂下沈線で無文帯、縄文帯画す。	中期後葉
第362図 PL.209	15	縄文土器 深鉢	41O-19 口縁部					砂粒/良/茶褐色	横位沈線以下縄文ＲＬ施文。	中期後葉
第362図 PL.209	16	縄文土器 深鉢	41K-18 口縁部					砂粒/良/灰褐色	口縁部無文、以下縄文施文後沈線による懸垂磨り消し文。	後期初頭
第362図 PL.209	17	縄文土器 深鉢	41L-12 口縁部					砂粒/良/灰褐色	横位沈線下にU字状、∧状文描き縄文充填。	中期末葉
第362図 PL.209	18	縄文土器 深鉢	41M-21 胴部					砂粒/良/茶褐色	沈線による渦文描く、縄文施文。	後期前葉
第363図 PL.209	19	縄文土器 深鉢	41S-9 口縁~底部	口 底	17.8 8.4			砂粒多く含む/普通/茶褐色	4単位の波状口縁、波頂部に沿って隆帯巡る、以下胴部には縄文施文。	中期後葉
第363図 PL.209	20	縄文土器 深鉢	41L-12 口縁部					砂粒/良/黒褐色	口縁下に渦巻き懸垂文。	中期後葉
第363図 PL.209	21	縄文土器 深鉢	41L-10 口縁部					微砂粒/良/灰黄褐色	横位平行隆帯巡り、下位に曲線文様描くか。	中期後葉
第363図 PL.209	22	縄文土器 深鉢	41J-18 胴部・底部					砂粒/良/赤褐色	縦位集合条線文。	中期後葉
第363図 PL.209	23	縄文土器 深鉢	41M-12 胴部~底部	底	8.0			砂粒/良/淡橙黄褐色	平行垂下隆帯により無文帯、縄文帯を画す。	中期後葉
第363図 PL.209	24	縄文土器 深鉢	41N-20 口縁部					砂粒/良/灰褐色	縦位ハ状沈線文。	中期後葉
第363図 PL.209	25	縄文土器 深鉢	41L-15 胴部					砂粒/良/淡黄褐色	複数の垂下沈線。	中期後葉
第363図 PL.209	26	縄文土器 深鉢	41K-19 口縁部					砂粒/良/暗褐色	口縁部に環状把手、口縁部無文帯以下刺突文。	後期初頭
第363図 PL.209	27	縄文土器 深鉢	41J-18 胴部					砂粒/良/黒褐色	刺突文。	後期初頭
第363図 PL.209	28	縄文土器 深鉢	41L-20 口縁部					砂粒/良/茶褐色	刺突文。	後期初頭
第363図 PL.209	29	縄文土器 深鉢	41M-17 口縁部	口	38.0			砂粒/良/暗茶褐色	口縁部に低い隆帯巡り、2本沈線による逆U字状懸垂文、地文縄文。	後期末
第363図 PL.209	30	縄文土器 深鉢	41K-20 口縁部					微砂粒/良/淡黄褐色	沈線による懸垂文。	後期初頭
第363図 PL.209	31	縄文土器 深鉢	41O-19 口縁部					砂粒/良/黒褐色	横位沈線以下懸垂文。	後期初頭
第363図 PL.209	32	縄文土器 深鉢	41L-20 口縁部	口	27.2			砂粒/良/暗茶褐色	沈線による渦巻き懸垂文、縄文施文。	後期初頭
第363図 PL.209	33	縄文土器 深鉢	41K-16 口縁~胴部					砂粒/良/橙黄褐色	横位沈線、縦位沈線文および楕円文様か。	後期初頭
第364図 PL.209	34	縄文土器 深鉢	41K-12 口縁部					砂粒/良/黒色	沈線による矩形懸垂文様、縄文充填。	後期初頭
第364図 PL.209	35	縄文土器 深鉢	41N-16 口縁部					砂粒/良/黒褐色	沈線による懸垂文文様か、縄文充填。	後期初頭

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第364図 PL.209	36	縄文土器 深鉢	41K-20 口縁部					砂粒/良/灰褐色	沈線による曲線垂下文。	後期初頭
第364図 PL.209	37	縄文土器 深鉢	41J-16 口縁~胴部					微砂粒/良/黒褐色	沈線による曲線文。	後期初頭
第364図 PL.209	38	縄文土器 深鉢	41O-21 口縁部					砂粒/良/灰黄褐色	沈線による三角意匠文。	後期中葉
第364図 PL.209	39	縄文土器 深鉢	41K-12 胴部					砂粒/良/茶褐色	沈線による矩形蛇行文、渦文、逆U字状文様、縄文充填施文。	後期初頭
第364図 PL.209	40	縄文土器 深鉢	41K-15 胴部					砂粒/良/黒褐色	沈線による渦巻き懸垂文、垂下文様、縄文充填施文。	後期前葉
第364図 PL.210	41	縄文土器 深鉢	41O-14 胴部					砂粒/良/黒褐色	沈線による渦巻き基調の曲線懸垂文、縄文充填施文。	後期初頭
第364図 PL.210	42	縄文土器 深鉢	41L-13 口縁部					砂粒/良/暗茶褐色	口縁部に円孔か、沈線による横位文様描き、縄文施文。	後期初頭
第364図 PL.210	43	縄文土器 深鉢	41L-20 胴部					砂粒/良/黄茶褐色	沈線による懸垂文。	後期初頭
第364図 PL.210	44	縄文土器 深鉢	41L-20 胴部					砂粒/良/赤褐色	沈線による懸垂文、縄文施文。	後期初頭
第364図 PL.210	45	縄文土器 深鉢	41M-13 胴部					砂粒/良/淡黄褐色	沈線による渦巻き磨り消し縄文。	後期初頭
第364図 PL.210	46	縄文土器 深鉢	41O-18 胴部					微砂粒/良/暗茶褐色	沈線による渦巻き懸垂文。	後期前葉
第364図 PL.210	47	縄文土器 深鉢	41N-8 口縁部					砂粒/良/茶褐色	波状突起、下位に沈線による横位楕円文を重層か、縄文施文。	中期末様
第364図 PL.210	48	縄文土器 深鉢	41L-15･16 胴部					微砂粒/良/黒褐色	沈線による曲線垂下文。	後期初頭
第364図 PL.210	49	縄文土器 深鉢	41L-17 胴部					砂粒/良/茶褐色	渦巻き磨り消し縄文。	後期初頭
第364図 PL.210	50	縄文土器 深鉢	41K-19 口縁~胴部					砂粒/良/茶褐色	沈線による楕円文から繋がる、垂下懸垂文描く、磨り消し縄文。	後期初頭
第365図 PL.210	51	縄文土器 深鉢	41K-21 口縁~胴部	口	21.6			砂粒/良/灰褐色	口縁下に刺突文有す横位隆帯が捻り隆帯による、橋状把手に繋がりさらに把手下部に円形文を作る、沈線による懸垂文描き縄文充填施文。	後期初頭
第365図 PL.210	52	縄文土器 深鉢	41J-19 突起					微砂粒/良/黒褐色	環状突起、楕円形の円窓、側面部に沈線、端部渦巻き隆帯、以下沈線による懸垂文。	後期初頭
第365図 PL.210	53	縄文土器 深鉢	41J-16 突起					砂粒/良/黒色	渦巻き文突起、隆帯による対弧状沈線、端部に円形文有す。	後期前葉
第365図 PL.210	54	縄文土器 深鉢	41J-21 口縁部					砂粒/良/淡黄褐色	口縁部環状把手、上部に円孔、把手下部から胴部にかけて爪形の刺突文	後期初頭
第365図 PL.210	55	縄文土器 注口土器	41I-18、J-17 口縁~胴部					砂粒/良/茶褐色	口縁部に環状把手、下位に注口、口縁部無文帯を横位隆帯で画す、以下縄文ＲＬ横位多段施文、把手部分にも施文。	中期後葉
第365図 PL.210	56	縄文土器 深鉢	41J-18 口縁部					微砂粒/良/明茶褐色	口縁部に円孔、周りに沈線による渦巻き文様描き、口縁部沈線に繋がる、以下縄文施文。	後期初頭
第365図 PL.210	57	縄文土器 深鉢	41S-15 口縁部					砂粒/普通/茶褐色	小波状、口縁部に連続する刺突文、以下微隆線による幅広凹線、波頂下で肥厚。	後期初頭
第365図 PL.210	58	縄文土器 深鉢	41L-18 口縁部					砂粒/良/淡褐色	口縁部内屈、8字状文描き、両側に円形刺突文を楕円形に配す。	後期前葉
第365図 PL.210	59	縄文土器 深鉢	41L-20 胴部					砂粒/良/黄茶褐色	縄文地に沈線による横位楕円文。	後期中葉
第365図 PL.210	60	縄文土器 深鉢	41J-18 口縁部					微砂粒/良/暗褐色	横位沈線、縄文地に横位、縦位の刺突文列、沈線による楕円文様描く。	後期初頭
第365図 PL.210	61	縄文土器 深鉢	41L-17 口縁部					砂粒/良/黄褐色	口縁部に2段の円形刺突文、以下沈線による文様描き、縄文充填。	後期初頭
第365図 PL.210	62	縄文土器 深鉢	41K-18･19 口縁部					微砂粒/良/黄褐色	くの字に内傾する口縁部、横位楕円文、沈線端に2個の円形刺突文。	後期初頭
第365図 PL.210	63	縄文土器 深鉢	41O-10、N-11 口縁部					微砂粒/良/黒褐色	横位沈線による縄文帯、縦位区切り文、口縁部薄く作られる。	後期中葉
第365図 PL.210	64	縄文土器 深鉢	41K-18 口縁部					微砂粒/良/黄白褐色	横位沈線下に曲線文、刺突文充填	後期初頭
第365図 PL.210	65	縄文土器 深鉢	41L-19 口縁部					砂粒/良/黄褐色	縄文地に横位沈線、赤彩。	後期前葉
第365図 PL.210	66	縄文土器 深鉢	41O-9 口縁部					砂粒/良/黒褐色	口縁部内傾し無文、以下縄文施文。	後期初頭
第365図 PL.210	67	縄文土器 深鉢	41L-23 口縁部					微砂粒/良/茶褐色	横位隆帯、以下縄文施文、補修孔あり。	後期前葉
第365図 PL.210	68	縄文土器 深鉢	41I-17 口縁部					微砂粒/良/淡茶褐色	波頂部に隆帯により8字状文、下部左右に刺突文列、以下縄文施文。	後期初頭
第365図 PL.210	69	縄文土器 深鉢	41L-16 口縁~胴部	口	24.0			砂粒/良/淡黄褐色	口縁部に環状突起、沈線、円孔文で飾る、横位沈線巡り渦巻き懸垂文、斜行沈線文様描き、縄文施文。	後期初頭
第365図 PL.210	70	縄文土器 注口土器	41S-18 口縁~胴部					精製/良/黄白色	算盤玉状、横位隆帯に繋がる弧状隆線文。	後期前葉

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第365図 PL.211	71	縄文土器 深鉢	41J-21 口縁~胴部					微砂粒/良/黒褐色	渦巻き隆帯突起文、沈線文巡り端部に円文有す、内面刺突文、口縁部に連続楕円文描き、端部が隆帯化する、文様内刺突文。	後期初頭
第365図 PL.211	72	縄文土器 深鉢	41T-7 口縁部	口	26.0			微砂粒/良/暗茶褐色	口縁部2山の小突起、それぞれから押圧隆帯が左右に延びる、以下沈線による曲線文様。	後期初頭
第366図 PL.211	73	縄文土器 深鉢	41L-16 口縁部					砂粒/良/黄褐色	突起から口縁部に隆帯、以下隆帯による曲線文描き縄文充填。	後期初頭
第366図 PL.211	74	縄文土器 深鉢	41R-9 口縁~胴部	口	22.0			微砂粒/良/茶褐色	口縁に環状突起、刺突文で飾る、突起から刺突文隆線垂下し、隆線両側に沈線による渦巻き懸垂文描く。	後期前葉
第366図 PL.211	75	縄文土器 深鉢	41J-18 突起・胴部					微砂粒/良/黄白褐色	波頂部に突起、側面からの円孔、隆帯、沈線端部に刺突文、外面沈線による懸垂文描く。	後期初頭
第366図 PL.211	76	縄文土器 深鉢	41J-22 口縁部					微砂粒/良/茶褐色	波頂部に環状突起、沈線による懸垂文。	後期初頭
第366図 PL.211	77	縄文土器 深鉢	41K-18 口縁部					砂粒/良/黒褐色	波状突起、上部欠く、無文。	後期前葉
第366図 PL.211	78	縄文土器 深鉢	41O-14 口縁部					微砂粒/良/黒褐色	波頂部に管状突起、口縁に沿って沈線文。	後期初頭
第366図 PL.211	79	縄文土器	41L-11 突起					砂粒/良/茶褐色	渦巻文突起、弧状沈線。	後期前葉
第366図 PL.211	80	縄文土器 深鉢	41L-15 口縁部					砂粒/良/淡黄褐色	環状突起、円孔異方向に２段。	後期前葉
第366図 PL.211	81	縄文土器 深鉢	41K・L-16 口縁部					砂粒/良/暗黒茶褐色	沈線による縦位区画の懸垂文様。	後期初頭
第366図 PL.211	82	縄文土器 深鉢	41J-18 口縁部					砂粒/良/灰茶褐色	口縁部に2種類の刺突文有す小突起、および円形で沈線、刺突文有す以下沈線による矩形懸垂文描く。	後期初頭
第366図 PL.211	83	縄文土器 深鉢	41L-16 口縁部					砂粒/良/淡黄褐色	口縁部に隆帯、端部鈎状に丸み、以下沈線にを隆帯に沿って巡らし、その延長で垂下文描く。	後期前葉
第366図 PL.211	84	縄文土器 深鉢	41L-20 口縁部					砂粒/良/暗茶褐色	沈線による懸垂文様。	後期初頭
第366図 PL.211	85	縄文土器 深鉢	41L-16・17 口縁部					砂粒/良/黒色	沈線による連続Ｖ字状文。	後期初頭
第366図 PL.211	86	縄文土器 深鉢	41M-20 口縁部					微砂粒/良/淡黄褐色	横位波状沈線文。	後期前葉
第366図 PL.211	87	縄文土器 深鉢	41M-21 口縁部					微砂粒/良/灰褐色	逆Ｕ字状沈線文。	後期初頭
第366図 PL.211	88	縄文土器 深鉢	41J-21 口縁部					砂粒/良/黒赤褐色	沈線よる曲線懸垂文。	後期初頭
第366図 PL.211	89	縄文土器 深鉢	41J-21 口縁部					砂粒/良/黒赤褐色	沈線よる曲線懸垂文。	後期初頭
第366図 PL.211	90	縄文土器 深鉢	41J-19 胴部					砂粒/良/黒色	沈線による懸垂文、文様内刺突短沈線。	後期初頭
第366図 PL.211	91	縄文土器 深鉢	41K-20 胴部					微砂粒/良/黄褐色	沈線による懸垂文、縄文充填。	後期初頭
第366図 PL.211	92	縄文土器 土製円盤	41J-20 胴部					微砂粒/良/灰黒色	胴部辺利用、成形は雑。	後期
第367図 PL.211	93	縄文土器 深鉢	41L-22 胴部					砂粒/良/明黄褐色	沈線による曲線文、垂下文。	後期前葉
第367図 PL.211	94	縄文土器 深鉢	41O-10 頸部					微砂粒/良/灰黒褐色	横位沈線以下、垂下沈線文、曲線文。	後期前葉
第367図 PL.211	95	縄文土器 深鉢	41L-17 胴部					砂粒/良/茶褐色	沈線による渦巻き文。	後期初頭
第367図 PL.211	96	縄文土器 深鉢	41K-20 口縁部					微砂粒/良/茶褐色	平行横位隆帯。	後期前葉
第367図 PL.211	97	縄文土器 深鉢	41K-20 胴部					砂粒/良/黄橙褐色	隆帯懸垂文、円形文付す。	後期前葉
第367図 PL.211	98	縄文土器 深鉢	41K-16 口縁部					砂粒/普通/暗赤褐色	波頂部に環状突起、沈線、刺突文で飾る、突起下に2本の隆帯垂下。	後期前葉
第367図 PL.212	99	縄文土器 深鉢	41K-16 口縁部					砂粒/良/黒褐色	口縁部環状突起、沈線円文で飾る、以下垂下沈線文か。	後期前葉
第367図 PL.212	100	縄文土器 深鉢	41M-21 口縁部					微砂粒/良/灰黒色	口縁くの字に外反、小波状下に8字状文垂下、重弧状沈線文。	後期前葉
第367図 PL.212	101	縄文土器 深鉢	41N-20・21 口縁部					微砂粒/良/黒色	小波状口縁、沈線、円文付す、波頂下に8字状隆帯文。	後期前葉
第367図 PL.212	102	縄文土器 深鉢	41O-22 突起					砂粒/良/黄褐色	波頂部、円孔有す、外面隆帯垂下、内面刺突文、弧状短沈線で飾る。	後期前葉
第367図 PL.212	103	縄文土器 深鉢	41L-21 突起					微砂粒/良/灰褐色	円孔突起、沈線、刺突文で飾る、外面沈線による垂下文様描く。	後期初頭
第367図 PL.212	104	縄文土器 深鉢	41L-20 突起					砂粒/良/暗褐色	波頂部突起、円孔有し、弧状、渦文沈線で飾。	後期前葉
第367図 PL.212	105	縄文土器 深鉢	41L-15 口縁部					砂粒/良/淡黄褐色	口縁部に沈線伴う横位隆帯。	後期前葉
第367図 PL.212	106	縄文土器 深鉢	41M-20 口縁部					微砂粒/良/黒褐色	口縁部小突起、8字状文貼付、内面渦巻き文。	後期前葉

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第367図 PL.212	107	縄文土器 深鉢	41K-22 口縁部					砂粒/良/黒褐色	橋状把手、円孔周りに沈線文、上面部渦巻き文。	後期前葉
第367図 PL.212	108	縄文土器 浅鉢	41O-19 口縁部					微砂粒/良/茶褐色	円孔突起、渦巻き文。	後期前葉
第367図 PL.212	109	縄文土器 深鉢	41K-20 口縁部					精製/良/灰黄褐色	環状突起、円文で飾る、以下垂下沈線。	後期初頭
第367図 PL.212	110	縄文土器 深鉢	41L-21 口縁部					砂粒/良/茶褐色	円孔小突起、横位細隆線を8字状文で繋ぐ。	後期中葉
第367図 PL.212	111	縄文土器 深鉢	41O-20 突起					微砂粒/良/茶褐色	8字状文付す。	後期中葉
第367図 PL.212	112	縄文土器 深鉢	41L-17 突起					砂粒/良/淡黄褐色	把手、隆帯による渦巻き文。	後期前葉
第368図 PL.212	113	縄文土器 深鉢	41L-15 突起					砂粒/良/黒褐色	突起部丸味有し弧状となり、上面に両端に刺突文有す弧状沈線、外面上部沈線で縄文帯画す、以下矩形、弧状文様描出か。	後期初頭
第368図 PL.212	114	縄文土器 注口土器	41N-19~21、0-20・22 口縁~胴部					精製/良/灰黒色	口縁部鍔状に内向、上端部に刻み、横位集合沈線、曲線文、重矩形文描く。	後期中葉
第368図 PL.212	115	縄文土器 深鉢	41K-17 口縁部					微砂粒/良/黒褐色	波頂部突起部欠損、内屈する口縁部に沈線および円形文。	後期前葉
第368図 PL.212	116	縄文土器 深鉢	41N-23 胴部					微砂粒/良/暗茶褐色	円文中心に、沈線による曲線文。	後期前葉
第368図 PL.212	117	縄文土器 深鉢	41O-9 胴部					砂粒/良/暗褐色	横位沈線上位に沈線による対弧状文。	後期中葉
第368図 PL.212	118	縄文土器 深鉢	41K-20 胴部					微砂粒/良/黒褐色	端部に円文有す対向弧状懸垂文。	後期前葉
第368図 PL.212	119	縄文土器 深鉢	41N-9 胴部					砂粒/良/灰褐色	隆帯による楕円文構成か。	中期後葉
第368図 PL.212	120	縄文土器 土製円盤	41M-22 胴部					砂粒/良/茶褐色	土製円盤か、未成品か。	後期前葉
第368図 PL.212	121	縄文土器 深鉢	41K-20 胴部					砂粒/良/茶褐色	円文伴う横位沈線、以下渦巻き懸垂文、地文縄文施文。	後期前葉
第368図 PL.212	122	縄文土器 深鉢	41K-17 頸部					砂粒/良/黒褐色	横位沈線に円文、懸垂渦巻き文、地文縄文施文。	後期前葉
第368図 PL.212	123	縄文土器 深鉢	41J-19 胴部					砂粒/良/灰黄褐色	横位沈線に8字状文、以下沈線による渦巻き懸垂文。	後期初頭
第368図 PL.212	124	縄文土器 深鉢	41K-15 口縁部					砂粒/良/橙黄褐色	口縁部横位渦巻き文様描き刺突文、円形文配す。	後期前葉
第368図 PL.212	125	縄文土器 深鉢	41J-18 口縁~頸部	口	15.0			微砂粒/良/茶褐色	口縁部に渦巻き小突起、頸部横位沈線以下沈線文様描き縄文充填。	後期前葉
第368図 PL.212	126	縄文土器 深鉢	41K-12・16 口縁~胴部	口	16.0			砂粒/良/黒褐色	頸部に付された円形文から口縁に向かってハの字状、横位、下位に沈線文延びる、下位の沈線は横に延び無文部を画す、無文帯下位部分には縄文施文、さらに下位の山形沈線内は無文。	後期前葉
第368図 PL.212	127	縄文土器 深鉢	41K-20 口縁部	口	12.6			微砂粒/良/黒色	小波状、沈線、円文見られる、頸部以下沈線による横位縄文充填文様、円形文付す。	後期前葉
第368図 PL.212	128	縄文土器 深鉢	41R-19 口縁~胴部	口	11.5			砂粒/良/茶褐色	4単位の小突起、縦位沈線に円形押圧文、胴部に付された小突起を中心に沈線による十字形文、間隙部分縄文充填施文。	後期前葉
第368図 PL.213	129	縄文土器 深鉢	41K-18・19 口縁~胴部	口	14.8			微砂粒/良/黒褐色	小波状、無文。	後期前葉
第368図 PL.213	130	縄文土器 深鉢	41K-21 口縁部					微砂粒/良/淡灰黄褐色	波頂部に渦巻き状突起、沈線、刺突文で飾る、上下方向の円孔あり、波頂下に逆U字状沈線文。	後期前葉
第368図 PL.213	131	縄文土器 深鉢	41J-21 口縁~胴部					砂粒/良/黒褐色	波頂部に円孔突起。	後期初頭
第368図 PL.213	132	縄文土器 深鉢	41O-22 口縁部					微砂粒/良/黒褐色	無文、頚部に横位沈線。	後期中葉
第368図 PL.213	133	縄文土器 深鉢	41J-20 口縁部					微砂粒/良/淡黄褐色	口縁部外反、頸部横位隆線巡る。	後期中葉
第368図 PL.213	134	縄文土器 注口土器	41O-23 頸部					精製/良/黒色	口縁部くの字に外傾。	後期前葉
第369図 PL.213	135	縄文土器 深鉢	41J-18 突起					精製/良/黒色	波頂部突起、側面部円孔、上部から内面に向かって隆帯がS字状を呈し、端部に刺突文、器面良く研磨。	後期初頭
第369図 PL.213	136	縄文土器 深鉢	41N-12 口縁部					砂粒/良/黄橙褐色	無文帯画す隆線および沈線、以下縄文施文。	後期初頭
第369図 PL.213	137	縄文土器 深鉢	41O-23 口縁部					微砂粒/良/黒褐色	口縁部に2瘤小突起、無文。	後期前葉
第369図 PL.213	138	縄文土器 深鉢	41L-17 突起					砂粒/良/黒褐色	突起から隆帯左右に延び、以下縄文施文。	後期初頭
第369図 PL.213	139	縄文土器 深鉢	41K-20 突起					砂粒/良/黒褐色	2つの隆帯突起文、以下沈線垂下文。	後期初頭
第369図 PL.213	140	縄文土器 深鉢	41K-14 口縁部					微砂粒/良/短黄褐色	口縁部から胴部に向かう環状把手、円孔有し、隆帯による逆U字状文描きさらに刺突文付す。	後期初頭

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第369図 PL.213	141	縄文土器 深鉢	41K-18 口縁部					微砂粒/良/黄茶褐色	横位連続渦巻き文。	後期前葉
第369図 PL.213	142	縄文土器 深鉢	41K-17 口縁部					微砂粒/良/黒色	橋状突起か、上部欠損、波状部に沿うように刻み隆帯が付される。	後期初頭
第369図 PL.213	143	縄文土器 深鉢	41K-16 口縁部					砂粒/良/暗褐色	波頂部に対弧状隆帯および沈線、沈線端部に刺突文、口縁に沿って沈線、連続円形文配す、内面に円文。	後期前葉
第369図 PL.213	144	縄文土器 深鉢	41K-17 口縁部					砂粒/良/淡黄褐色	横位、斜位隆線の交点に一対の瘤状文。	後期前葉
第369図 PL.213	145	縄文土器 深鉢	41K-17 口縁部					砂粒/良/淡黄褐色	口縁下に横位沈線。	後期前葉
第369図 PL.213	146	縄文土器 深鉢	41M-18 突起					微砂粒/良/淡褐色	小突起、上部に円文、刻み隆帯垂下。	後期初頭
第369図 PL.213	147	縄文土器 深鉢	41K-21 口縁~胴部					砂粒/良/黒褐色	口縁部に横位沈線、頸部横位沈線以下複数の垂下沈線文、縄文充填。	後期前葉
第369図 PL.213	148	縄文土器 深鉢	41M-22 胴部					微砂粒/良/灰褐色	平行垂下沈線内に縦位刺突文列、間には縄文施文。	後期前葉
第369図 PL.213	149	縄文土器 深鉢	41K-21 口縁部					砂粒/良/淡黄褐色	口縁内屈、横位偏平楕円文、押圧文有す、2本沈線による矩形文様、縄文充填施文。	後期前葉
第369図 PL.213	150	縄文土器 深鉢	41K-21 口縁部					砂粒/良/黒褐色	沈線による幾何学文描く、縄文施文。	後期前葉
第369図 PL.213	151	縄文土器 深鉢	41L-19 口縁部					砂粒/良/茶褐色	沈線による幾何学文様描き、縄文充填。	後期前葉
第369図 PL.213	152	縄文土器 深鉢	410-22 口縁部					微砂粒/良/黒褐色	横位沈線で文様帯画す、弧状文、矩形文描き縄文充填。	後期中葉
第369図 PL.213	153	縄文土器 深鉢	41L-17 口縁部					砂粒/良/灰黄褐色	突起から口縁部に隆帯、以下横位隆帯から懸垂文。	後期前葉
第369図 PL.213	154	縄文土器 深鉢	41K-20 口縁~胴部	口	28.0			砂粒/良/淡黄褐色	口縁部外反して直線的に立ち上がる、横位沈線に連弧状懸垂文伴う、縄文充填施文。	後期前葉
第369図 PL.213	155	縄文土器 深鉢	41K-14 口縁部					微砂粒/良/短黄褐色	口縁部から胴部に向かう環状把手、円孔有し、隆帯による逆U字状文描きさらに刺突文付す。	後期初頭
第369図 PL.213	156	縄文土器 深鉢	41J-12 突起					砂粒/良/灰褐色	隆帯のよる円孔8字状突起、裏面刺突文有す沈線。	後期前葉
第370図 PL.213	157	縄文土器 深鉢	41L-17 口縁部					砂粒/良/黄褐色	環状突起、側面に沈線、刺突文、下位にも把手が延びると見られるが欠損。	後期前葉
第370図 PL.213	158	縄文土器 深鉢	41L-16 突起					砂粒/良/淡黄褐色	捻り隆帯による環状把手、隆帯の両端部に円形文。	後期前葉
第370図 PL.213	159	縄文土器 深鉢	410-20 口縁部					微砂粒/良/黄褐色	円形突起、円文で飾る。	後期前葉
第370図 PL.213	160	縄文土器 深鉢	41L-17 口縁部					微砂粒/良/淡褐色	口縁把手部に8字状沈線、頸部に横位沈線、把手下部から沈線隆線垂下、横位3本沈線に弧状貼付文。	後期前葉
第370図 PL.214	161	縄文土器 深鉢	41U-9 口縁部					微砂粒/良/黒褐色	口縁部環状突起、横位沈線巡る、突起下に刺突隆帯垂下し円形文に繋がる、さらに横位、下位に延びて沈線矩形文を画す。	後期前葉
第370図 PL.214	162	縄文土器 深鉢	41T-7 口縁部					砂粒/良/暗褐色	8字状文による橋状把手。	後期前葉
第370図 PL.214	163	縄文土器 深鉢	410-19 口縁部					微砂粒/良/黒褐色	波頂部に螺旋状の突起、沈線伴い先端部は尖る、外面沈線文。	後期前葉
第370図 PL.214	164	縄文土器 深鉢	410-20 口縁部					砂粒/良/黄橙色	口縁部に弧状文、円文。	後期前葉
第370図 PL.214	165	縄文土器 深鉢	41K-20 口縁部					微砂粒/良/暗茶褐色	押圧による内傾口縁、縦位短沈線文、一対の円孔有す、横位沈線以下縄文施文。	後期前葉
第370図 PL.214	166	縄文土器 深鉢	41J-19 口縁部					微砂粒/良/黒褐色	小波状、縦位集合沈線および刺突文、以下8字状文。	後期前葉
第370図 PL.214	167	縄文土器 深鉢	41K-21 口縁部					砂粒/良/黄白色	口縁部小波頂部に弧状文、円形文、横位沈線、以下垂下隆帯。	後期前葉
第370図 PL.214	168	縄文土器 深鉢	410-23 口縁部					砂粒/良/暗茶褐色	円孔周りに沈線による同心円文。	中期紅葉
第370図 PL.214	169	縄文土器 深鉢	410-18 口縁部					砂粒/良/黒褐色	口縁部に横位沈線伴う刺突文および円文。	後期前葉
第370図 PL.214	170	縄文土器 深鉢	41N-21 口縁部					砂粒/良/淡褐色	口縁に押圧文有す偏平楕円沈線文。	後期中葉
第370図 PL.214	171	縄文土器 深鉢	41N-24 口縁部					微砂粒/良/灰黒色	横位隆線。	後期中葉
第370図 PL.214	172	縄文土器 浅鉢	410-23 口縁~胴部					砂粒/良/黄褐色	小突起、内面側に円文、外面円形文付した横位細隆線、内面横位偏平楕円文。	後期中葉
第370図 PL.214	173	縄文土器 注口土器	41N-18 口縁部					精製/良/灰黒色	口縁部僅かに内屈、沈線による楕円文、口唇部に刻み。	後期中葉
第370図 PL.214	174	縄文土器 土製円盤	41K-20 口縁部					微砂粒/良/淡黄褐色	口縁部辺利用、成形は雑。	後期
第370図 PL.214	175	縄文土器 注口土器	41N-19~21、0-20・22 口縁~胴部					精製/良/灰黒色	口縁部鍔状に内向、上端部に刻み、横位集合沈線、曲線文、重矩形文描く。	後期中葉
第370図 PL.214	176	縄文土器 深鉢	410-9 口縁部					微砂粒/良/黄褐色	口縁に横位沈線および縦位短沈線。	後期中葉

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第370図 PL.214	177	縄文土器 深鉢	41N-22 口縁部					微砂粒/良/灰褐色	口縁部短沈線、横位沈線。	後期前葉
第370図 PL.214	178	縄文土器 深鉢	41K-20 口縁部					砂粒/良/淡黄茶褐色	横位平行沈線、縦一対の円形刺突文。	後期前葉
第371図 PL.214	179	縄文土器 深鉢	41L-20 口縁部	口	36.0			砂粒/良/暗褐色	口縁下に横位隆帯。	後期前葉
第371図 PL.214	180	縄文土器 深鉢	41K-18 口縁~胴部					砂粒/良/黒褐色	横位隆帯。	後期初頭
第371図 PL.214	181	縄文土器 深鉢	41K-21 口縁~胴部					砂粒/良/暗茶褐色	横位押圧文隆帯。	後期前葉
第371図 PL.214	182	縄文土器 深鉢	41L-16 口縁部					砂粒/良/黄褐色	押圧文隆帯。	後期初頭
第371図 PL.214	183	縄文土器 深鉢	41K-19 口縁部					砂粒/良/暗茶褐色	横位刻み隆帯。	後期
第371図 PL.214	184	縄文土器 深鉢	41L-20 口縁部					砂粒/良/茶褐色	横位隆帯。	後期前葉
第371図 PL.214	185	縄文土器 深鉢	41L-16 口縁部					砂粒/良/黄褐色	横位隆帯。	後期前葉
第371図 PL.214	186	縄文土器 深鉢	41K-20 口縁部					砂粒/良/暗茶褐色	横位刻み隆帯。	後期初頭
第371図 PL.215	187	縄文土器 深鉢	41L-18 口縁部					砂粒/良/茶褐色	横位押圧文隆帯。	後期前葉
第371図 PL.215	188	縄文土器 深鉢	41L-19 口縁部					砂粒/良/茶褐色	押圧文垂下隆帯。	後期前葉
第371図 PL.215	189	縄文土器 深鉢	41J-20、K-20・21 口縁~胴部					砂粒/良/黒褐色	横位隆帯に付された円形文から隆線垂下。	後期前葉
第371図 PL.215	190	縄文土器 深鉢	41J-18 口縁部					微砂粒/良/灰黄褐色	横位、縦位の押圧文隆帯。	後期初頭
第371図 PL.215	191	縄文土器	41N-18 口縁部					砂粒/良/淡黄褐色	土製円盤か、押圧隆帯部分利用。	後期前葉
第371図 PL.215	192	縄文土器 深鉢	41M-20 口縁部					砂粒/良/茶褐色	口縁部に横位沈線。	後期前葉
第371図 PL.215	193	縄文土器 深鉢	41J-21 口縁~胴部					砂粒/良/赤茶褐色	口縁部横位隆帯、以下隆帯によるH字状懸垂文、交点に円形文。	後期前葉
第372図 PL.215	194	縄文土器 深鉢	41M-11 口縁部					砂粒/良/灰褐色	口縁部より平行細隆線垂下。	後期前葉
第372図 PL.215	195	縄文土器 深鉢	410-20 口縁部					微砂粒/良/黒褐色	垂下刻み隆線、内面に横位沈線。	後期前葉
第372図 PL.215	196	縄文土器 深鉢	41M-11 口縁部					砂粒/良/黄白色	口縁から細隆線垂下。	後期前葉
第372図 PL.215	197	縄文土器 深鉢	41K-19 口縁部	口	28.0			砂粒/良/黄褐色	口縁部円孔小突起、口縁部凹線および円文、突起下位に押圧垂下隆帯、頸部円形文に繋がる、さらに三角文、基調にした沈線文を描き、区画内縄文充填施文。	後期前葉
第372図 PL.215	198	縄文土器 深鉢	41N-19 口縁部					微砂粒/良/黒褐色	波頂部内側に折れ、刻み有す、横位細隆線、8字状貼付文、内面多段沈線。	後期中葉
第372図 PL.215	199	縄文土器 深鉢	41N-19 口縁部					砂粒/良/暗茶褐色	横位刻み細隆線から垂下隆線、内面貼付文下位に渦。	後期中葉
第372図 PL.215	200	縄文土器 深鉢	41K-20 口縁部					微砂粒/良/淡黄褐色	口縁部小波状、横位隆線巡り円文弧状文、刻み隆線垂下、内面円文有す同心円文。	後期前葉
第372図 PL.215	201	縄文土器 深鉢	41N-19 口縁~胴部					微砂粒/良/黒色	口縁部に内側への指頭押圧、そこから延びた垂下隆線が横位隆線と連結。	後期前葉
第372図 PL.215	202	縄文土器 深鉢	41M-20 胴部					砂粒/良/淡黄褐色	口縁から押圧隆帯垂下し、横位隆帯に繋がる、8字状文貼付。	後期前葉
第372図 PL.215	203	縄文土器 深鉢	41K-21 口縁~胴部					砂粒/良/黒褐色	口縁部に横位沈線、頸部横位沈線以下複数の垂下沈線文、縄文充填。	後期前葉
第372図 PL.215	204	縄文土器 深鉢	41M-20 胴部					微砂粒/良/灰褐色	横位沈線以下渦巻き懸垂文、蛇行文、地文細縄文施文。	後期前葉
第372図 PL.215	205	縄文土器 深鉢	41N-24 口縁部					微砂粒/良/黒褐色	横位沈線から重弧状懸垂文。	後期中葉
第372図 PL.215	206	縄文土器 深鉢	41K-21 胴部					砂粒/良/淡黄褐色	横位沈線に8字状貼付文、以下重弧状懸垂文、さらに複数沈線による縦位、斜位文様、縄文地文。	後期前葉
第372図 PL.215	207	縄文土器 深鉢	410-19 胴部					砂粒/良/茶褐色	縦位複数沈線。	後期前葉
第372図 PL.215	208	縄文土器 深鉢	41N-9 胴部					砂粒/良/淡褐色	横位沈線、弧状文、渦巻き文。	後期前葉
第372図 PL.215	209	縄文土器 深鉢	41M-19 口縁部					砂粒/良/灰黒褐色	沈線伴う横位刻み隆帯、頸部横位沈線。	後期前葉
第373図 PL.216	210	縄文土器 深鉢	41N-21 口縁部					砂粒/良/暗褐色	波頂部に円孔、隆線が横位、斜位に垂下。	後期前葉
第373図 PL.216	211	縄文土器 深鉢	410-21 口縁部					砂粒/良/黒褐色	小波状部に円形文、弧状沈線および横位沈線、内面3個の円文。	後期前葉
第373図 PL.216	212	縄文土器 深鉢	41J-20 口縁部					砂粒/良/黒色	小波状、横位凹線下位に連続刻み、頸部以下横位沈線。	後期前葉

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第373図 PL.216	213	縄文土器 深鉢	41J-20 口縁~胴部					微砂粒/良/黄褐色	小波状口縁、波頂部に楕円同心円文、両端に縦一対の刺突文から、下位に刻み隆帯垂下し8字状貼付文、横位複数沈線、対弧状懸垂文。	後期前葉
第373図 PL.216	214	縄文土器 深鉢	41J-20 口縁~胴部					微砂粒/良/黄茶褐色	口縁部から、Ｖ字状に刻み隆線垂下し、横位隆線上の8字状貼付文に繋がる。	後期前葉
第373図 PL.216	215	縄文土器 深鉢	41N-21 口縁部					微砂粒/良/灰黒褐色	横位隆線に8字状文、口縁からＶ字状の垂下隆線、以下斜位沈線。	後期前葉
第373図 PL.216	216	縄文土器 深鉢	41N-18 口縁部					微砂粒/良/茶褐色	小波状、円形文から垂下隆線、内面短沈線、横位沈線。	後期前葉
第373図 PL.216	217	縄文土器 深鉢	41L-19 頸部					微砂粒/良/灰黒色	横位沈線から垂下沈線文。	後期前葉
第373図 PL.216	218	縄文土器 深鉢	41N-10 胴部					砂粒/良/黒褐色	横位細隆線に8字状貼付文。	後期前葉
第373図 PL.216	219	縄文土器 鉢	41M-20 胴部					微砂粒/良/茶褐色	垂下刻み細隆線と横位細隆線連結部に円形文、沈線による矩形文様。	後期前葉
第373図 PL.216	220	縄文土器 深鉢	410-9 胴部					砂粒/良/灰褐色	横位沈線下に垂下沈線文。	後期前葉
第373図 PL.216	221	縄文土器 深鉢	41M-21 口縁部					砂粒/良/茶褐色	横位沈線下に一対の円文、そこから複数の対弧状の懸垂沈線文。	後期前葉
第373図 PL.216	222	縄文土器 深鉢	41N-20 胴部					砂粒/良/黒色	複数沈線による平行、弧状垂下。	後期前葉
第373図 PL.216	223	縄文土器 深鉢	41M-22 胴部					砂粒/良/茶褐色	横位沈線下に矩形文か。	後期前葉
第373図 PL.216	224	縄文土器 深鉢	41L-20 胴部					砂粒/良/黄茶褐色	隆帯による曲線文、渦文、地文弧状沈線。	後期中葉
第373図 PL.216	225	縄文土器 深鉢	410-9 胴部					砂粒/良/淡灰褐色	隆帯による曲線文。	後期前葉
第373図 PL.216	226	縄文土器 深鉢	410-23 胴部					砂粒/良/茶褐色	曲線懸垂文。	後期前葉
第373図 PL.216	227	縄文土器 深鉢	410-20 胴部					微砂粒/良/灰黄褐色	横位沈線、刺突文伴う。	後期前葉
第373図 PL.216	228	縄文土器 深鉢	41J-19 口縁部					微砂粒/良/茶褐色	口縁小波状、無文。	後期前葉
第373図 PL.216	229	縄文土器 深鉢	41L-17 口縁部					微砂粒/良/茶褐色	口縁が違反し、口唇部内屈、無文。	後期前葉
第374図 PL.216	230	縄文土器 深鉢	41T-16、U-15 口縁~胴部					微砂粒/良/明茶褐色	横位沈線で文様帯を画し、磨り消し縄文による三角文、菱形文組み合わせ文様。	後期中葉
第374図 PL.216	231	縄文土器 深鉢	41Q-19 口縁~胴部					微砂粒/良/灰褐色	口縁部円孔小突起、磨り消し縄文沈線による三角文、菱形文の組み合わせ文様描く。	後期前葉
第374図 PL.216	232	縄文土器 深鉢	410-20 口縁部					砂粒/良/灰褐色	沈線による幾何学文。	後期前葉
第374図 PL.216	233	縄文土器 深鉢	41N-21 口縁部					砂粒/良/黒褐色	横位隆線、以下沈線による矩形文様、縄文充填。	後期前葉
第374図 PL.216	234	縄文土器 深鉢	41M-21 口縁部					砂粒/良/茶褐色	沈線による垂下平行沈線分割区画内に、矩形文様描く。	後期前葉
第374図 PL.216	235	縄文土器 深鉢	41M-20 口縁部					砂粒/良/茶褐色	沈線による横位磨り消し縄文帯。	後期前葉
第374図 PL.216	236	縄文土器 深鉢	41N-20 口縁部					微砂粒/良/黒色	沈線による三角意匠文。	後期前葉
第374図 PL.216	237	縄文土器 深鉢	410-23 口縁部					砂粒/良/淡黄褐色	複数沈線による三角文。	後期前葉
第374図 PL.216	238	縄文土器 深鉢	41N-21 口縁部					微砂粒/良/黒褐色	沈線による矩形文様、縄文充填。	後期中葉
第374図 PL.216	239	縄文土器 深鉢	41N-21 口縁部					微砂粒/良/灰黄褐色	横位沈線。	後期中葉
第374図 PL.216	240	縄文土器 深鉢	41V-14 口縁部					砂粒/良/灰茶褐色	口縁部に8字状貼付文、以下横位多段沈線文、貼付文下で交差する、さらに平行沈線による縄文帯により三角文、弧状文を描出か。	後期中葉
第374図 PL.217	241	縄文土器 深鉢	41N-21 胴部					砂粒/良/灰褐色	沈線による三角意匠文。	後期前葉
第374図 PL.217	242	縄文土器 深鉢	41M-21 胴部					砂粒/良/黒褐色	沈線による矩形文様。	後期前葉
第374図 PL.217	243	縄文土器 深鉢	410-23 胴部					微砂粒/良/黒褐色	沈線による三角意匠文。	後期前葉
第374図 PL.217	244	縄文土器 深鉢	410-20 口縁部					微砂粒/良/黒褐色	沈線文。	後期前葉
第374図 PL.217	245	縄文土器 深鉢	41M-20 口縁部					微砂粒/良/黒褐色	沈線による矩形文描き、縄文充填。	後期前葉
第374図 PL.217	246	縄文土器 深鉢	41L-21 口縁部					微砂粒/良/黒色	沈線による重三角文。	後期前葉
第374図 PL.217	247	縄文土器 深鉢	410-23 口縁部					精製/良/黒色	沈線による重菱形文。	後期前葉

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第374図 PL.217	248	縄文土器 深鉢	41L-18 胴部					砂粒/良/黒褐色	三角文意匠の幾何学文描く、縄文充填施文。	後期前葉
第374図 PL.217	249	縄文土器 深鉢	41M-21 胴部					砂粒/良/灰黒褐色	沈線による重菱形文、縄文充填。	後期前葉
第374図 PL.217	250	縄文土器 深鉢	41M-20 胴部					精製/良/黒色	横位沈線による縄文帯。	後期中葉
第374図 PL.217	251	縄文土器 深鉢	41M-19 胴部					砂粒/良/黒褐色	沈線による縄文帯垂下文。	後期前葉
第374図 PL.217	252	縄文土器 深鉢	41M-25 口縁部					微砂粒/良/黒褐色	口縁部に刺突文有す小突起、以下沈線による曲線文。	後期前葉
第374図 PL.217	253	縄文土器 深鉢	41N-21 口縁部					砂粒/良/灰黄褐色	横位沈線、以下曲線懸垂文。	後期中葉
第375図 PL.217	254	縄文土器	410-10 胴部					微砂粒/良/黒褐色	沈線による横位連続渦巻き文、縄文充填。	後期前葉
第375図 PL.217	255	縄文土器 深鉢	41M-20 胴部					微砂粒/良/黒褐色	沈線による渦巻き文、縄文充填。	後期前葉
第375図 PL.217	256	縄文土器 深鉢	41N-21 胴部					微砂粒/良/茶褐色	平行沈線によるによる曲線磨り消し縄文。	後期前葉
第375図 PL.217	257	縄文土器 深鉢	41M-18 口縁部					微砂粒/良/灰褐色	横位沈線で文様帯、斜位集合沈線充填。	後期初頭
第375図 PL.217	258	縄文土器 深鉢	41M-24 口縁部					砂粒/良/茶褐色	平行沈線による三角文。	後期前葉
第375図 PL.217	259	縄文土器 深鉢	410-23 口縁~胴部					砂粒/良/茶褐色	横位多段沈線、以下曲線文様描く。	後期中葉
第375図 PL.217	260	縄文土器 深鉢	41K-21 口縁部					砂粒/良/淡灰黄色	横位沈線、以下条線文による曲線文様。	後期前葉
第375図 PL.217	261	縄文土器 深鉢	410-24 胴部					微砂粒/良/黒褐色	横位平行沈線文間に横位Ｓ字状連続文、以下多段沈線文。	後期中葉
第375図 PL.217	262	縄文土器 注口土器	410-23 頸部~胴部					微砂粒/良/灰黒褐色	集合細沈線横位、縦位施文。	後期中葉
第375図	263	縄文土器 注口土器	41N-19~21、0-20・22 口縁~胴部					精製/良/灰黒色	口縁部鍔状に内向、上端部に刻み、横位集合沈線、曲線文、重矩形文描く。	後期中葉
第375図	264	縄文土器 注口土器	41N-19~21、0-20・22 口縁~胴部					精製/良/灰黒色	口縁部鍔状に内向、上端部に刻み、横位集合沈線、曲線文、重矩形文描く。	後期中葉
第375図	265	縄文土器 注口土器	41N-19~21、0-20・22 口縁~胴部					精製/良/灰黒色	口縁部鍔状に内向、上端部に刻み、横位集合沈線、曲線文、重矩形文描く。	後期中葉
第375図	266	縄文土器 注口土器	41N-19~21、0-20・22 口縁~胴部					精製/良/灰黒色	口縁部鍔状に内向、上端部に刻み、横位集合沈線、曲線文、重矩形文描く。	後期中葉
第375図 PL.217	267	縄文土器 深鉢	41T-14 口縁~胴部	口	27.0			微砂粒/良/暗赤褐色	横位沈線による縄文帯、ＲＬ横位施文、口縁に8字状貼付文か。	後期中葉
第375図 PL.217	268	縄文土器 深鉢	41M-20 口縁部					砂粒/良/黒褐色	横位沈線による縄文帯。	後期前葉
第375図 PL.217	269	縄文土器 深鉢	41N-19 口縁部					砂粒/良/茶褐色	横位沈線帯、縄文施文。	後期中葉
第375図 PL.217	270	縄文土器 深鉢	410-23 口縁部					微砂粒/良/灰褐色	横位多段沈線文、文様帯幅を変え縄文施文。	後期中葉
第375図 PL.217	271	縄文土器 深鉢	41N-21 口縁部					砂粒/良/黒色	横位沈線文。	後期中葉
第375図 PL.217	272	縄文土器 深鉢	41N-24 口縁部					微砂粒/良/灰茶褐色	横位沈線による縄文帯、口縁部に刻み。	後期中葉
第375図 PL.217	273	縄文土器 深鉢	41M-11 口縁部					微砂粒/良/黒褐色	横位沈線による縄文帯。	後期前葉
第375図 PL.217	274	縄文土器 深鉢	410-22・23 口縁部					砂粒/良/黒褐色	緩い波状口縁、刻み有す、横位沈線による縄文帯。	後期中葉
第375図 PL.217	275	縄文土器 深鉢	41N-24 口縁部					微砂粒/良/黒色	小波状口縁、横位沈線による横位文様帯。	後期中葉
第375図 PL.217	276	縄文土器 深鉢	41N-11 口縁部					微砂粒/良/灰黒褐色	横位沈線による縄文帯、内面多段沈線文。	後期中葉
第375図 PL.217	277	縄文土器 深鉢	41L-11 口縁~胴部					微砂粒/良/暗茶褐色	横位沈線。	後期前葉
第375図 PL.217	278	縄文土器 深鉢	41N-17 口縁部					砂粒/良/黒褐色	口縁部連続小波状、以下横位沈線による縄文帯。	後期前葉
第375図 PL.217	279	縄文土器 深鉢	410-22 口縁部					微砂粒/良/灰黄褐色	口縁に刻み、横位沈線で縄文帯画す。	後期中葉
第375図 PL.218	280	縄文土器 深鉢	410-10 口縁部					砂粒/良/茶褐色	横位沈線により縄文帯画す、口唇部に刻み。	後期中葉
第375図 PL.218	281	縄文土器 深鉢	410-18 口縁部					精製/良/黒褐色	横位沈線による縄文帯、内面多段沈線文。	後期中葉
第375図 PL.218	282	縄文土器 深鉢	410-20 口縁部					砂粒/良/灰黄白色	横位沈線による多段縄文帯、内面横位多段沈線、刺突文有す。	後期中葉

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第376図 PL.218	283	縄文土器 深鉢	41N-10 口縁部					微砂粒/良/黒褐色	口縁部に小突起、以下横位沈線による縄文帯、内面多段沈線。	後期中葉
第376図 PL.218	284	縄文土器 深鉢	41N-9 胴部					砂粒/良/黒褐色	沈線で横位縄文帯。	後期前葉
第376図 PL.218	285	縄文土器 深鉢	41N-24 胴部					微砂粒/良/黒色	横位沈線による文様帯、縄文施文。	後期中葉
第376図 PL.218	286	縄文土器 深鉢	410-13 口縁部					砂粒/良/茶褐色	斜沈線文。	後期中葉
第376図 PL.218	287	縄文土器 深鉢	41M-24 口縁部					砂粒/良/黒色	横位沈線文帯、斜位沈線。	後期中葉
第376図 PL.218	288	縄文土器 深鉢	410-9 口縁部					微砂粒/良/灰褐色	沈線による重三角文。	後期前葉
第376図 PL.218	289	縄文土器 深鉢	41N-24 口縁部					微砂粒/良/灰黄褐色	横位沈線下に斜格子状沈線文。	後期中葉
第376図 PL.218	290	縄文土器 深鉢	41M-20 口縁部					砂粒/良/茶褐色	沈線による斜格子文。	後期中葉
第376図 PL.218	291	縄文土器 深鉢	41M-23 口縁部					砂粒/良/黄褐色	斜位沈線、内面に横位沈線。	後期前葉
第376図 PL.218	292	縄文土器 深鉢	41N-10・11・13、0-10・19 胴部					砂粒/良/暗茶褐色	縄文施文後、沈線による斜格子文。	後期
第376図 PL.218	293	縄文土器 深鉢	41N-10・11・13、0-10・19 胴部					砂粒/良/暗茶褐色	縄文施文後、沈線による斜格子文。	後期
第376図 PL.218	294	縄文土器 深鉢	41L-22 口縁部					微砂粒/良/灰黒色	斜位集合沈線。	後期中葉
第376図 PL.218	295	縄文土器 深鉢	41L-16 口縁部					微砂粒/良/灰褐色	斜位沈線。	後期前葉
第376図 PL.218	296	縄文土器 深鉢	41V-12 口縁~胴部	口	24.5			砂粒多く含む/良/暗黒褐色	部分的に横位複数沈線、曲線文様認められるが、不明瞭。	後期前葉
第376図 PL.218	297	縄文土器 深鉢	41M-20 口縁部					微砂粒/良/灰褐色	縄文ＬＲまばらに施文。	後期前葉
第376図 PL.218	298	縄文土器 深鉢	41N-10 口縁部					微砂粒/良/黒褐色	横位細縄文施文。	後期前葉
第376図 PL.218	299	縄文土器 深鉢	41M-20 口縁部					微砂粒/良/黒色	部分的に縄文施文。	後期前葉
第376図 PL.218	300	縄文土器 深鉢	41L-20 口縁~胴部					微砂粒/良/灰褐色	異方向縄文施文。	後期前葉
第376図 PL.218	301	縄文土器 深鉢	410-21 口縁部					砂粒/良/黒褐色	横位細隆線、以下縄文施文。	後期前葉
第376図 PL.218	302	縄文土器 深鉢	41N-18 口縁部					砂粒/良/淡褐色	口縁下に8字状貼付文、以下横位沈線で縄文帯画す。	後期前葉
第377図 PL.218	303	縄文土器 深鉢	41N-20・21 口縁~胴部	口	35.0			砂粒/良/暗茶褐色	朝顔型、口縁に横位刻み隆線巡る、8字状貼付文、以下沈線により横位文様帯画し、渦巻き懸垂文、曲線文描出、縄文充填。48号竪穴建物出土土器接合。	後期前葉
第377図 PL.218	304	縄文土器 深鉢	41N-10 口縁~胴部	口	28.0			微砂粒/良/黄褐色	横位細隆線、円形文貼付、口縁部に小突起、円孔有す、横位沈線で文様帯画し、横位連続楕円文描く、縄文施文。	後期中葉
第377図 PL.218	305	縄文土器 深鉢	410-21~23、P-22 口縁~胴部	口	24.0			微砂粒/良/黒褐色	突起有し隆線渦巻き文、隆線、小瘤文で飾る、横位刻み隆線、円形文有す、以下横位沈線による縄文帯。	後期中葉
第377図 PL.218	306	縄文土器 深鉢	41T-15 口縁部	口	14.0			微砂粒/良/黒色	口縁部刻み細隆線、以下沈線による縄文帯。	後期中葉
第377図 PL.218	307	縄文土器 深鉢	41S-7 口縁~底部	口 底	16.0 8.4	高	15.5	微砂粒/良/茶褐色	2カ所の小突起、縦位8字状貼付文、横位細隆線、以下沈線による連続三角文描く、底部網代痕。	後期前葉
第377図 PL.219	308	縄文土器 深鉢	41N-11 口縁部					微砂粒/良/黒褐色	横位刻み隆線、以下沈線による横位曲線文様帯、縄文充填。	後期中葉
第377図 PL.219	309	縄文土器 深鉢	41N・0-9 口縁~胴部					微砂粒/良/茶褐色	口縁部に小突起、横位細隆線、以下沈線による重菱形文。	後期前葉
第377図 PL.219	310	縄文土器 深鉢	41M-21 口縁部					微砂粒/良/灰褐色	横位刻み細隆線、以下横位沈線文様。	後期前葉
第377図 PL.219	311	縄文土器 深鉢	410-19 口縁部					微砂粒/良/黒褐色	横位刻み細隆線、以下縄文施文。	後期前葉
第377図 PL.219	312	縄文土器 深鉢	410-19 口縁部					微砂粒/良/茶褐色	横位隆線。	後期前葉
第377図 PL.219	313	縄文土器 深鉢	410-23 口縁部					砂粒/良/茶褐色	横位刻み細隆線。	後期中葉
第377図 PL.219	314	縄文土器 深鉢	410-23 口縁部					微砂粒/良/淡黄褐色	横位刻み隆線、8字状貼付文付す、以下横位沈線文。	後期中葉
第377図 PL.219	315	縄文土器 深鉢	41N-19 口縁部					微砂粒/良/黒褐色	横位細隆線。	後期中葉
第377図 PL.219	316	縄文土器 深鉢	410-22・23 口縁部					微砂粒/良/黒色	横位押圧細隆線、内面平行沈線。	後期中葉

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第377図 PL.219	317	縄文土器 深鉢	410-23 口縁部					微砂粒/良/黒褐色	横位刻み細隆線。	後期前葉
第378図 PL.219	318	縄文土器 深鉢	410-11 口縁部					微砂粒/良/灰褐色	横位押圧文細隆線に円形貼付文、以下横位沈線で文様帯画し、沈線により連続楕円文を描く。	後期前葉
第378図 PL.219	319	縄文土器 深鉢	410-22 口縁部					砂粒/良/黒褐色	横位細隆線、以下横位沈線で縄文帯画す。	後期中葉
第378図 PL.219	320	縄文土器 深鉢	410-22 口縁部					微砂粒/良/黒色	横位細隆線、横位沈線文。	後期前葉
第378図 PL.219	321	縄文土器 深鉢	410-22 口縁部					微砂粒/良/黒褐色	横位細隆線、以下沈線による横位文様帯。	後期中葉
第378図 PL.219	322	縄文土器 深鉢	41M-20 口縁部					微砂粒/良/淡灰黄色	平行横位細隆線、以下横位沈線による文様帯構成。	後期前葉
第378図 PL.219	323	縄文土器 深鉢	41N-22 口縁部					微砂粒/良/灰褐色	横位細隆線、以下横位沈線による縄文帯。	後期前葉
第378図 PL.219	324	縄文土器 深鉢	410-23 口縁部					微砂粒/良/暗褐色	横位細隆線に8字状貼付文、以下横位沈線による縄文帯。	後期前葉
第378図 PL.219	325	縄文土器 深鉢	41M-19 口縁部					微砂粒/良/暗褐色	平行横位細隆線、以下横位縄文帯。	後期前葉
第378図 PL.219	326	縄文土器 深鉢	41L-20 口縁部					砂粒/良/暗黒褐色	横位細隆線、以下沈線による三角意匠の幾何学文描く、縄文充填施文。	後期前葉
第378図 PL.219	327	縄文土器 深鉢	410-24 口縁部					微砂粒/良/黒色	横位平行刻み細隆線、以下横位縄文帯。	後期中葉
第378図 PL.219	328	縄文土器 深鉢	41N-20 口縁部					微砂粒/良/黒色	横位刻み細隆線、以下横位沈線による文様帯画す。	後期前葉
第378図 PL.219	329	縄文土器 深鉢	41N-10 口縁部					微砂粒/良/茶褐色	横位隆線、以下横位沈線による横位文様帯。	後期前葉
第378図 PL.219	330	縄文土器 深鉢	41L-20 口縁部					砂粒/良/黄褐色	横位隆線、以下沈線による磨り消し文様。	後期前葉
第378図 PL.219	331	縄文土器 深鉢	41N-21 口縁部					微砂粒/良/淡灰褐色	横位刻み細隆線、横位沈線による縄文帯。	後期中葉
第378図 PL.219	332	縄文土器 深鉢	41L-20 口縁部					微砂粒/良/黒色	横位細隆線に8字状添付文、以下沈線による曲線文。	後期前葉
第378図 PL.219	333	縄文土器 深鉢	41L-20 口縁部					微砂粒/良/茶褐色	横位細隆線、以下沈線による矩形文様、磨り消し縄文。	後期前葉
第378図 PL.219	334	縄文土器 深鉢	41L-20 口縁部					微砂粒/良/黒褐色	横位刻み細隆線、以下沈線による曲線文。	後期前葉
第378図 PL.219	335	縄文土器 深鉢	410-23 口縁部					砂粒/良/黒色	横位細隆線、横位沈線で文様帯画す、沈線による山形文描出か。	後期前葉
第378図 PL.219	336	縄文土器 深鉢	41N-20 口縁部					砂粒/良/灰褐色	横位細隆線に8字状貼付文、以下沈線による横位文様帯描く、貼付文下で下がる。	中期後葉
第378図 PL.219	337	縄文土器 深鉢	41N-19 口縁部					砂粒/良/黒褐色	横位細隆線に8字状貼付文、以下沈線による矩形文様描く。	後期中葉
第378図 PL.219	338	縄文土器 深鉢	410-24 口縁部					微砂粒/良/黒褐色	横位刻み細隆線、8字状貼付文、以下沈線による横位文様帯、斜位文様描く。	後期中葉
第378図 PL.219	339	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/灰黒色	横位細隆線に貼付文、以下磨り消し縄文による曲線文様。	後期中葉
第378図 PL.219	340	縄文土器 深鉢	41M-20 口縁部					微砂粒/良/茶褐色	平行横位細隆線、以下横位沈線による幾何学文様構成。	後期前葉
第378図 PL.219	341	縄文土器 深鉢	41N-21 口縁部					砂粒/良/黒褐色	横位隆線、以下沈線による矩形文様、縄文充填。	後期前葉
第378図 PL.219	342	縄文土器 深鉢	41M-21 口縁部					微砂粒/良/黒色	横位細隆線に8字状貼付文、以下沈線による矩形磨り消し縄文。	後期前葉
第378図 PL.219	343	縄文土器 鉢	410-23 口縁部					砂粒/良/灰茶褐色	横位細隆線に8字状貼付文、以下横位沈線による縄文帯、内面円形文、弧状文。	後期前葉
第378図 PL.219	344	縄文土器 深鉢	41N-10 口縁部					砂粒/良/黒色	横位刻み細隆線、以下沈線による曲線文様帯。	後期中葉
第378図 PL.219	345	縄文土器 深鉢	410-22 口縁部					砂粒/良/灰褐色	横位細隆線、以下平行沈線による幾何学文様。	後期前葉
第378図 PL.219	346	縄文土器 深鉢	41N-10 口縁部					微砂粒/良/暗茶褐色	横位細隆線、以下沈線による幾何学文様、縄文施文。	後期前葉
第378図 PL.219	347	縄文土器 深鉢	41M-21 口縁部					砂粒/良/灰黒褐色	横位細隆線、以下沈線による矩形文。	後期前葉
第378図 PL.219	348	縄文土器 深鉢	41M-21 口縁部					微砂粒/良/黒色	横位細隆線に8字状貼付文、以下沈線による菱形磨り消し縄文。	後期前葉
第379図 PL.220	349	縄文土器 深鉢	41M-20 口縁部					微砂粒/良/黒褐色	横位刻み細隆線、以下沈線で重菱形文描く。	後期前葉
第379図 PL.220	350	縄文土器 深鉢	41M-19 口縁部					微砂粒/良/淡橙褐色	横位細隆線、沈線による幾何学文様描く、縄文充填。	後期前葉
第379図 PL.220	351	縄文土器 深鉢	41M-19 口縁部					砂粒/良/黒褐色	横位刻み隆線以下、幾何学文様。	後期前葉
第379図 PL.220	352	縄文土器 深鉢	41N-21 口縁部					砂粒/良/黒褐色	横位細隆線、以下斜位沈線。	後期中葉
第379図 PL.220	353	縄文土器 深鉢	410-22 口縁部					微砂粒/良/暗茶褐色	波状口縁、刻み細隆線が口縁に沿って巡る、所々円形添付文、以下横位沈線による縄文帯。	後期中葉

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第379図 PL.220	354	縄文土器 深鉢	41N-10 口縁部					砂粒/良/黒色	波頂部に突起、円文、小瘤文、沈線で飾る、以下口縁に沿って細隆線、横位縄文帯を沈線で画す。	後期中葉
第379図 PL.220	355	縄文土器 深鉢	41O-11 口縁部					精製/良/黒色	環状小突起、縦位連続8字状文で複数の細隆線文を連結。	後期前葉
第379図 PL.220	356	縄文土器 深鉢	41O-11 口縁部					微砂粒/良/黒褐色	キノコ状小突起、8字状文、沈線、円形刺突文で飾る、外面刺突細隆線。	後期前葉
第379図 PL.220	357	縄文土器 深鉢	41T-15 口縁部					精製/良/黒色	波頂部に斜めに円形突起、側面に円文、片側に沈線、波頂下の円形文から左右に刺突細隆線延びる、以下磨り消し縄文による偏平三角文描く。	後期前葉
第379図 PL.220	358	縄文土器 深鉢	41O-21 口縁部					微砂粒/良/黒褐色	波頂部に8字状文付し細隆線文、以下沈線による曲線文様描き、縄文充填。	後期前葉
第379図 PL.220	359	縄文土器 深鉢	41O-22 口縁~胴部					微砂粒/良/黒色	波状口縁、8字状添付文付され、横位刻み細隆線左右に延びる、以下横位縄文帯、沈線による横位文様隊描く、波頂下部分Ｖ字に窪む。	後期中葉
第379図 PL.220	360	縄文土器 浅鉢	41M-14 口縁部					微砂粒/良/暗黒褐色	円形突起文、刺突文沈線で飾る、下部に横位刻み細隆線、以下横位沈線による文様帯。	後期中葉
第379図 PL.220	361	縄文土器 深鉢	41N-21 口縁部					砂粒/良/黒褐色	波頂部にキノコ状突起、隆線、小瘤文、渦巻き文で飾る、2カ所の円孔有す円形文から細隆。	後期中葉
第379図 PL.220	362	縄文土器 深鉢	41O-21 突起					微砂粒/良/黒褐色	キノコ状小突起、隆線、円形文、沈線で飾る、外面円形文、細隆線。	後期中葉
第379図 PL.220	363	縄文土器 深鉢	41O-22 口縁部					微砂粒/良/黒褐色	キノコ状突起、沈線、刺突文、隆線、小瘤文で飾る、外面細隆線文以下横位縄文帯、内面沈線文。	後期中葉
第379図 PL.220	364	縄文土器 深鉢	41O-19 口縁部					微砂粒/良/灰黒色	波頂部突起、渦巻き文、円文で飾る、以下8字状貼付文有す横位細隆線。	後期前葉
第379図 PL.220	365	縄文土器 深鉢	41N-10 口縁部					砂粒/良/橙黄褐色	横位細隆線、以下沈線による文様帯画し、波状文描く。	後期前葉
第379図 PL.220	366	縄文土器 深鉢	41N-10 口縁部					微砂粒/良/黒褐色	横位細隆線、以下沈線による曲線文。	後期前葉
第379図 PL.220	367	縄文土器 深鉢	41O-10 口縁部					微砂粒/良/暗褐色	波状口縁、波頂部欠損、円形文から細隆線、以下沈線による曲線文描き、縄文施文。	後期前葉
第379図 PL.220	368	縄文土器 深鉢	41M-19 口縁部					砂粒/良/黒褐色	横位細隆線、8字状貼付文、沈線による渦巻き文様描く。	後期前葉
第379図 PL.220	369	縄文土器 深鉢	41M-21 口縁部					砂粒/良/灰黒褐色	小波状下に付された8字状文から横位細隆線、以下沈線による矩形文。	後期前葉
第379図 PL.220	370	縄文土器 深鉢	41O-22 口縁部					微砂粒/良/茶褐色	横位細隆線、以下沈線による横位文様帯。	後期中葉
第380図 PL.220	371	縄文土器 深鉢	41O-23 口縁部					砂粒/良/黒褐色	口縁部に指頭押圧文、横位刻み細隆線上に8字状添付文、以下横位沈線による渦巻き懸垂文か、縄文充填施文、内面押圧文下に弧状文、円形隆帯文左右に多段沈線文延びる。	後期中葉
第380図 PL.220	372	縄文土器 深鉢	41L-12 口縁部					砂粒/良/茶褐色	横位刻み細隆線、以下横位沈線で横位縄文帯画す円形貼付文有す、以下横位沈線で文様帯画し、上下弧状文描く、口縁部に幅広の小突起有す、内面刻み文、横位多段沈線。	後期中葉
第380図 PL.220	373	縄文土器 深鉢	41O-10 口縁部					砂粒/良/黒茶褐色	口縁部に両面からの押圧文、円形文有す横位刻み細隆線、以下沈線による矩形文様描く、内面押圧文下位に円形文弧状横位沈線。	後期中葉
第380図 PL.220	374	縄文土器 深鉢	41M-23 胴部					砂粒/良/黒色	横位刻み細隆線。	後期前葉
第380図 PL.220	375	縄文土器 深鉢	41M-20 口縁部					微砂粒/良/暗茶褐色	横位細隆線に8字状貼付文、以下沈線による横位縄文帯。	後期前葉
第380図 PL.220	376	縄文土器 深鉢	41O-9 口縁部					微砂粒/良/灰褐色	横位細隆線に8字状貼付文。	後期中葉
第380図 PL.220	377	縄文土器 深鉢	41U-15 口縁~胴部	口	31.0			微砂粒/良/黒褐色	横位平行刻み細隆線を、連続8字状文で連結、以下沈線で画した横位縄文帯、ＬＲ縄文施文。	後期中葉
第380図 PL.220	378	縄文土器 深鉢	41O-10 口縁~胴部					微砂粒/良/灰褐色	横位平行細隆線、8字状文で連結、以下横位沈線による縄文帯画す。	後期前葉
第380図 PL.221	379	縄文土器 深鉢	41V-15 口縁~胴部	口	25.0			微砂粒/良/灰黒褐色	横位平行刻み細隆線、8字状貼付文で連結、以下沈線による縄文帯で横位連続三角文様。	後期中葉
第380図 PL.221	380	縄文土器 深鉢	41M-20 口縁部					微砂粒/良/茶褐色	平行横位刺突文細隆線。	後期前葉
第380図 PL.221	381	縄文土器 深鉢	41N-11 口縁部					砂粒/良/橙褐色	平行横位細隆線か、下側剥落。	後期前葉
第380図 PL.221	382	縄文土器 深鉢	41N-10 口縁部					砂粒/良/黄褐色	横位平行刻み隆線、両端に刺突文有す刻み隆線で繋ぐ、以下横位沈線文様か。	後期前葉
第380図 PL.221	383	縄文土器 深鉢	41N-10 口縁部					微砂粒/良/黒色	横位平行細隆線、以下沈線による幾何学文。	後期前葉
第380図 PL.221	384	縄文土器 深鉢	41O-10 口縁部					砂粒/良/暗褐色	横位平行細隆線。	後期前葉
第380図 PL.221	385	縄文土器 深鉢	41O-10 口縁部					砂粒/良/黒色	横位平行細隆線、8字状文で連結、以下横位沈線による縄文帯画す。	後期前葉
第381図 PL.221	386	縄文土器 深鉢	41O-19 口縁部					砂粒/良/暗茶褐色	平行横位細隆線。	後期前葉
第381図 PL.221	387	縄文土器 深鉢	41M-19 口縁部					微砂粒/良/暗褐色	平行横位細隆線、以下横位沈線による文様帯構成。	後期前葉

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第381図 PL.221	388	縄文土器 深鉢	41M-19 口縁部					微砂粒/良/黒色	平行横位細隆線、以下横位沈線。	後期中葉
第381図 PL.221	389	縄文土器 深鉢	410-22 口縁部					微砂粒/良/黒色	平行横位細隆線、横位沈線文。	後期前葉
第381図 PL.221	390	縄文土器 深鉢	41M-17 口縁部					砂粒/良/黒褐色	3本の横位細隆線、連続8字状文で繋ぐ、補修孔あり。	後期前葉
第381図 PL.221	391	縄文土器 深鉢	41N-9 口縁部					砂粒/良/茶褐色	平行横位細隆線を8字状文で連結、以下横位沈線による文様帯構成か。	後期前葉
第381図 PL.221	392	縄文土器 深鉢	410-24 口縁部					微砂粒/良/黒茶褐色	横位平行細隆線を8字状隆線文が連結。	後期中葉
第381図 PL.221	393	縄文土器 深鉢	410-11 口縁部					微砂粒/良/黒色	横位平行細隆線、8字状文で連結、以下横位沈線による縄文帯画す。	後期前葉
第381図 PL.221	394	縄文土器 深鉢	41M-24 口縁部					砂粒/良/暗茶褐色	横位平行細隆線を8字状文で連結。	後期前葉
第381図 PL.221	395	縄文土器 深鉢	410-23 口縁部					微砂粒/良/黒褐色	平行横位細隆線、以下沈線による幾何学文。	後期前葉
第381図 PL.221	396	縄文土器 深鉢	41N-9 口縁部					砂粒/良/黄褐色	平行横位細隆線を連続8字状文で連結、以下横位沈線による文様帯構成か。	後期前葉
第381図 PL.221	397	縄文土器 深鉢	41N-10 口縁部					砂粒/良/黒褐色	横位刻み細隆線、8字状文で繋ぎ、以下平行沈線による横位文様帯。	後期前葉
第381図 PL.221	398	縄文土器 深鉢	410-10 口縁部					微砂粒/良/灰褐色	横位3本の刺突文細隆線、以下横位沈線。	後期前葉
第381図 PL.221	399	縄文土器 深鉢	410-23 口縁部					微砂粒/良/黒褐色	横位平行細隆線、以下沈線による縄文帯。	後期中葉
第381図 PL.221	400	縄文土器 深鉢	410-23 口縁部					微砂粒/良/黒色	横位3本の細隆線、以下幅狭の縄文帯、内面沈線文。	後期中葉
第381図 PL.221	401	縄文土器 深鉢	410-22 口縁部					砂粒/良/明茶褐色	平行横位の刻み細隆線を、8字状隆線文で連結。	後期前葉
第381図 PL.221	402	縄文土器 深鉢	410-23 口縁部					微砂粒/良/黒褐色	横位平行細隆線、以下沈線による縄文帯。	後期中葉
第381図 PL.221	403	縄文土器 深鉢	410-23 口縁部					微砂粒/良/灰褐色	横位平行細隆線、以下沈線による縄文帯。	後期中葉
第381図 PL.221	404	縄文土器 深鉢	41U-15 口縁~胴部	口	22.0			砂粒/良/灰褐色	横位平行刻み細隆線、連続8字状文で連結、以下無文。	後期中葉
第381図 PL.221	405	縄文土器 深鉢	410-23 口縁部					微砂粒/良/黒褐色	横位平行細隆線、以下横位沈線文。	後期前葉
第381図 PL.221	406	縄文土器 深鉢	410-23･24 口縁部					微砂粒/良/黒褐色	横位平行刻み細隆線、8字状貼付文で連結、以下横位沈線文。	後期前葉
第381図 PL.221	407	縄文土器 深鉢	410-23･24 口縁部					微砂粒/良/黒色	横位3本の細隆線、隆線上の連続8字状文で連結、以下沈線による横位文様帯。	後期中葉
第381図 PL.221	408	縄文土器 深鉢	41N-9 口縁部					砂粒/良/黒褐色	平行横位細隆線、以下横位沈線による文様帯構成か。	後期前葉
第381図 PL.221	409	縄文土器 深鉢	410-23 口縁部					微砂粒/良/黒褐色	4本の横位細隆線。	後期前葉
第381図 PL.221	410	縄文土器 深鉢	41N-10 口縁部					砂粒/良/淡黄褐色	横位平行刺突細隆線、以下横位沈線。	後期前葉
第381図 PL.221	411	縄文土器 深鉢	41N-10 口縁部					砂粒/良/淡黄褐色	横位平行刺突細隆線、8字状文で連結、以下横位沈線による縄文帯、内面隆帯。	後期前葉
第381図 PL.221	412	縄文土器 深鉢	41N-10 口縁部					砂粒/良/淡黄褐色	横位平行刺突細隆線、以下横位沈線。	後期前葉
第381図 PL.221	413	縄文土器 深鉢	41N-10 口縁部					砂粒/良/黒色	横位刻み細隆線、8字状文で繋ぎ、以下平行沈線による横位文様帯。	後期前葉
第381図 PL.221	414	縄文土器 深鉢	410-22 口縁部					微砂粒/良/明黄褐色	横位3本の細隆線。	後期中葉
第381図 PL.221	415	縄文土器 深鉢	410-22 口縁部					微砂粒/良/黒褐色	横位3本の細隆線。	後期中葉
第381図 PL.221	416	縄文土器 深鉢	410-22 口縁部					微砂粒/良/灰褐色	横位平行細隆線、以下横位沈線による縄文帯画す。	後期中葉
第381図 PL.221	417	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/黒色	平行横位刻み細隆線。	後期前葉
第381図 PL.221	418	縄文土器 深鉢	41N-11 口縁部					微砂粒/良/黒褐色	横位平行細隆線、8字状文で連結、以下沈線による三角意匠文。	後期前葉
第381図 PL.221	419	縄文土器 深鉢	41N-19 口縁部					精製/良/黒褐色	口縁部に環状突起、横位平行細隆線を8字状文で連結、以下横位沈線による縄文帯。	後期中葉
第381図 PL.221	420	縄文土器 深鉢	410-23 口縁部					微砂粒/良/黒褐色	波状部からハの字に刻み細隆線垂下。	後期中葉
第382図 PL.222	421	縄文土器 深鉢	410-23 口縁部					微砂粒/良/黒褐色	円孔有す小突起、横位複数細隆線を連続8字状文で繋ぐ。	後期中葉
第382図 PL.222	422	縄文土器 深鉢	410-22 口縁部					微砂粒/良/黒色	波頂部に円孔、裏面隆線による8字状文、波頂下に連続8字状隆線文、それぞれの円文から左右に細隆線延びる、以下沈線による曲線磨り消し縄文。	後期中葉
第382図 PL.222	423	縄文土器 深鉢	410-10 口縁部					砂粒/良/黒色	横位細隆線一部剥落か、以下沈線による重弧状文様か。	後期前葉

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第382図 PL.222	424	縄文土器 深鉢	41M-14 口縁部					微砂粒/良/黒褐色	平行横位細隆線、8字状文で連結、以下横位縄文帯。	後期前葉
第382図 PL.222	425	縄文土器 深鉢	41U-13 口縁部					微砂粒/良/黄茶褐色	波頂部に耳状突起、円文、刻み沈線で飾る、直下に横位平行細隆線を8字状文で連結、以下横位沈線による縄文帯。	後期中葉
第382図 PL.222	426	縄文土器 深鉢	41P･Q-10 口縁部					微砂粒/良/灰黒色	円孔有す小突起、3本の横位刻み細隆線、連続8字状文で連結、以下横位沈線による縄文帯。	後期中葉
第382図 PL.222	427	縄文土器 深鉢	41P･Q-10 口縁部					微砂粒/良/灰黒色	円孔有す小突起、3本の横位刻み細隆線、連続8字状文で連結、以下横位沈線による縄文帯。	後期中葉
第382図 PL.222	428	縄文土器 深鉢	41O-22 口縁部					微砂粒/良/黒褐色	波状口縁、波頂部に円孔、直下に8字状文左右口縁に沿って、平行細隆線が伸びる。	後期中葉
第382図 PL.222	429	縄文土器 深鉢	41M-20 口縁部					微砂粒/良/茶褐色	平行横位細隆線、以下横位沈線による文様帯構成。	後期前葉
第382図 PL.222	430	縄文土器 深鉢	41M-21 口縁部					微砂粒/良/黒褐色	横位平行刻み細隆線、以下沈線による矩形文描く、補修孔あり。	後期前葉
第382図 PL.222	431	縄文土器 深鉢	41O-9 口縁部					微砂粒/良/黒褐色	横位平行隆線、沈線による曲線文。	後期中葉
第382図 PL.222	432	縄文土器 深鉢	41N-24 口縁部					微砂粒/良/黒色	平行横位細隆線、以下横位沈線による文様帯。	後期中葉
第382図 PL.222	433	縄文土器 深鉢	41O-22、P-22 口縁部					精製/良/灰黒褐色	口縁に横8字状文突起、円孔有す、横位平行刻み細隆線、以下沈線により磨り消し縄文文様描く。	後期中葉
第382図 PL.222	434	縄文土器 深鉢	41O-10 口縁部					微砂粒/良/橙褐色	横位平行細隆線、以下横位沈線。	後期前葉
第382図 PL.222	435	縄文土器 深鉢	41O-9 口縁部					微砂粒/良/黒色	丸みを有す波状口縁、平行細隆線に円形文付す、以下横位沈線による横位縄文帯、内面、口縁部に刻み、縦位短沈線はさみ楕円文描く。	後期中葉
第382図 PL.222	436	縄文土器 深鉢	41O-23 口縁~胴部					微砂粒/良/黒色	円文有す小突起、下位の8字状添付文から横位平行細隆線、以下沈線による横位文様帯画し、横位楕円文、矩形文様描く。	後期中葉
第382図 PL.222	437	縄文土器 深鉢	41O-23 口縁~胴部					微砂粒/良/黒色	円文有す小突起、下位の8字状添付文から横位平行細隆線、以下沈線による横位文様帯画し、横位楕円文、矩形文様描く。	後期中葉
第382図 PL.222	438	縄文土器 深鉢	41N･O-9 口縁~胴部					微砂粒/良/黒褐色	幅広の突起、以下横位平行細隆線を8字状文で連結、以下沈線で横位文様帯、上下に対向弧状文描く。	後期中葉
第382図 PL.222	439	縄文土器 深鉢	41N-10 頸部					微砂粒/良/黒色	横位細隆線、以下沈線による幾何学文。	後期前葉
第382図 PL.222	440	縄文土器 深鉢	41O-10 胴部					砂粒/良/茶褐色	横位平行細隆線、8字状文で連結。	後期前葉
第382図 PL.222	441	縄文土器 深鉢	41O-22 胴部					微砂粒/良/黄茶褐色	横位隆線、沈線文。	後期前葉
第383図 PL.222	442	縄文土器 深鉢	41K-20 口縁部					微砂粒/良/灰褐色	無文、内面横位楕円文、弧状文。	後期前葉
第383図 PL.222	443	縄文土器 浅鉢	41N-9･10 口縁部					微砂粒/良/黒褐色	無文、口縁部に指頭押圧、内面沈線による横位U字状文。	後期中葉
第383図 PL.222	444	縄文土器 鉢	41U-13 口縁部					砂粒/良/黄褐色	無文、口縁部に瘤状突起文、短沈線で飾る、円孔有し、内面円形文に横位多段沈線、円形文下位に、中央縦位沈線有すU字状垂下文。	後期中葉
第383図 PL.222	445	縄文土器 鉢	41O-24 口縁部					微砂粒/良/灰白色	無文、内面横位隆帯、以下斜線文伴う多段沈線文。	後期中葉
第383図 PL.223	446	縄文土器 深鉢	41O-20 口縁部					微砂粒/良/黄褐色	無文、内面横位沈線。	後期中葉
第383図 PL.223	447	縄文土器 深鉢	41O-22 口縁部					微砂粒/良/黒色	口縁部押圧刻み、外面弧状沈線、内面刺突文伴う隆帯、以下横位沈線。	後期中葉
第383図 PL.223	448	縄文土器 深鉢	41O-22 口縁部					微砂粒/良/黒褐色	円形波状口縁、外面波状部片側に瘤状突起、以下波状押圧細隆線、内面両端に円孔有す沈線文さらには小瘤文。	後期中葉
第383図 PL.223	449	縄文土器 浅鉢	41O-22 口縁部					微砂粒/良/明茶褐色	口縁部突起、内面渦巻き文、重弧状文。	後期中葉
第383図 PL.223	450	縄文土器 浅鉢	41N-24 胴部					微砂粒/良/黒色	横位沈線による縄文帯、内面斜線文有す多段沈線文。	後期中葉
第383図 PL.223	451	縄文土器 浅鉢	41O-21･22、P-21 口縁部					微砂粒/良/暗黒褐色	複数の小突起有す、外面無文、突起内面縦位短沈線、以下横位複数沈線文、下位には円形文中心に十字に三角文描く。	後期中葉
第383図 PL.223	452	縄文土器 深鉢	41O-23 口縁部					微砂粒/良/黒色	口縁部に瘤状文、口唇部刻み有し、刺突文伴う隆帯、さらに沈線、外面沈線による横位縄文帯。	後期中葉
第383図 PL.223	453	縄文土器 深鉢	41O-22 口縁部					微砂粒/良/黒色	隆線が捻じれて立ち上がる小突起、外面横位沈線、内面多段沈線文。	後期中葉
第383図 PL.223	454	縄文土器 深鉢	41V-15 口縁部					微砂粒/良/灰黄褐色	口縁部肥厚、突起文有す、円文、沈線で飾る、内面には複数沈線による曲線文描く。	後期中葉
第383図 PL.223	455	縄文土器 鉢	41N-21 口縁部					微砂粒/良/灰黄褐色	口縁部に浅い刻み有し、内面刺突文伴う隆帯。	後期中葉
第383図 PL.223	456	縄文土器 浅鉢	41N-19 口縁部					微砂粒/良/灰黄褐色	内面、刺突文伴う隆帯、以下多段沈線。	後期中葉

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第383図 PL.223	457	縄文土器 浅鉢	41M-19 口縁部					微砂粒/良/灰褐色	横位隆線、内面斜線文有す横位多段沈線。	後期中葉
第383図 PL.223	458	縄文土器 浅鉢	41M-19 口縁部					微砂粒/良/黒褐色	内面斜線文有す横位多段沈線。	後期中葉
第384図 PL.223	459	縄文土器 鉢	410-21 口縁部					微砂粒/良/黄褐色	無文、内面横位沈線および弧状文か。	後期中葉
第384図 PL.223	460	縄文土器 浅鉢	41L-11 口縁部					微砂粒/良/黒色	外面無文、内面沈線懸垂文、横位多段沈線。	後期中葉
第384図 PL.223	461	縄文土器 鉢	410-24 胴部					精製/良/灰黒色	無文、内面横位隆帯以下、斜線文有す多段沈線文。	後期中葉
第384図 PL.223	462	縄文土器 鉢	410･N-24 口縁部					微砂粒/良/灰褐色	無文、内面刺突文伴い隆帯および多段沈線。	後期中葉
第384図 PL.223	463	縄文土器 深鉢	410-22 口縁部					精製/良/灰褐色	横位隆線で口縁部無文部画す、内面沈線。	後期中葉
第384図 PL.223	464	縄文土器 鉢	410-22 口縁部					精製/良/黒褐色	無文、内面多段沈線。	後期中葉
第384図 PL.223	465	縄文土器 浅鉢	410-21 口縁部					微砂粒/良/暗茶褐色	無文、口縁部に連続小波状、内面多段沈線文。	後期中葉
第384図 PL.223	466	縄文土器 鉢	410-22 口縁部					精製/良/黒褐色	無文、内面多段沈線、細縄文施文。	後期中葉
第384図 PL.223	467	縄文土器 深鉢	410-9 口縁~底部					微砂粒/良/黒色	小型土器、上面に3カ所の円文有す小突起付す、以下2本沈線で文様帯画す。	後期中葉
第384図 PL.223	468	縄文土器 深鉢	410-10 胴部					砂粒/良/暗褐色	横位平行沈線で文様帯画し、上下に弧状文様描き、縄文充填施文。	後期中葉
第384図 PL.223	469	縄文土器 深鉢	41U-14 口縁~胴部	口	20.8			砂粒/良/橙黒褐色	5単位の小突起、外面無文、内面横位3本の沈線文。	後期中葉
第384図 PL.223	470	縄文土器 深鉢	41U-15 口縁~胴部	口	26.0			微砂粒/良/黄褐色	無文。	後期中葉
第384図 PL.223	471	縄文土器 深鉢	41U-15 口縁~胴部	口	25.0			砂粒/良/暗茶褐色	口縁部僅かに縄文、以下胴部無文。	後期中葉
第384図 PL.223	472	縄文土器 深鉢	41R-16 口縁~胴部	口	(19.0)			砂粒/良/茶褐色	無文、口縁内面に凹線。	後期中葉
第385図 PL.224	473	縄文土器 深鉢	41U-15 口縁~胴部	口	26.0			砂粒/良/淡黄褐色	無文大型深鉢、薄手の作り。	後期中葉
第385図 PL.224	474	縄文土器 深鉢	41S-16 口縁~胴部	口	18.0			砂粒/良/灰黒褐色	3単位の捻れ8字状小突起、口縁以下無文で、頸部に横位沈線か。	後期中葉
第385図 PL.224	475	縄文土器 深鉢	41M-21 口縁部					微砂粒/良/灰黒褐色	口縁部小突起、無文。	後期前葉
第385図 PL.224	476	縄文土器 深鉢	410-10 口縁部					微砂粒/良/黒褐色	口縁に3個の小突起、以下無文。	後期前葉
第385図 PL.224	477	縄文土器 深鉢	410-19 口縁部					砂粒/良/黒褐色	無文。	後期前葉
第385図 PL.224	478	縄文土器 深鉢	41M-25 口縁部					砂粒/良/黒褐色	無文。	後期前葉
第385図 PL.224	479	縄文土器 深鉢	410-23 口縁部					砂粒/良/茶褐色	無文。	後期中葉
第385図 PL.224	480	縄文土器 深鉢	410-23 口縁部					砂粒/良/黒色	無文。	後期中葉
第385図 PL.224	481	縄文土器 深鉢	410-10 口縁部					微砂粒/良/黄褐色	無文。	後期
第385図 PL.224	482	縄文土器 深鉢	410-10 口縁部					微砂粒/良/黄褐色	無文。	後期
第385図 PL.224	483	縄文土器 深鉢	410-15 口縁部					微砂粒/良/灰黒色	無文、浅い凹線状の整形痕。	後期中葉
第385図 PL.224	484	縄文土器 深鉢	410-21 口縁部					砂粒/良/茶褐色	無文。	後期中葉
第385図 PL.224	485	縄文土器 深鉢	41M-23 口縁部					砂粒/良/黄褐色	無文。	後期前葉
第385図 PL.224	486	縄文土器 深鉢	41N-22 口縁部					砂粒/良/茶褐色	無文。	後期前葉
第385図 PL.224	487	縄文土器 深鉢	41M-20 口縁部					砂粒/良/茶褐色	無文。	後期前葉
第385図 PL.224	488	縄文土器 深鉢	41N-21 口縁部					微砂粒/良/黒褐色	無文、口縁部内側僅かに肥厚。	後期中葉
第385図 PL.224	489	縄文土器 深鉢	41M-11 口縁部					微砂粒/良/黒褐色	無文。	後期前葉
第385図 PL.224	490	縄文土器 深鉢	410-10 口縁部					微砂粒/良/橙褐色	沈線による横位文様帯。	後期前葉
第386図 PL.225	491	縄文土器 深鉢	41N-10 口縁部					微砂粒/良/黒褐色	無文。	後期前葉
第386図 PL.225	492	縄文土器 深鉢	41N-10 口縁部					微砂粒/良/黒褐色	無文。	後期中葉
第386図 PL.225	493	縄文土器 深鉢	410-10 口縁部					微砂粒/良/淡黄褐色	無文、口縁内面に横位沈線。	後期前葉

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第386図 PL.225	494	縄文土器 深鉢	41N-20 口縁部					砂粒/良/灰黄褐色	沈線文、補修孔あり。	後期前葉
第386図 PL.225	495	縄文土器 深鉢	41O-21 口縁部					砂粒/良/白黄褐色	口縁部円形刺突伴う沈線、以下無文。	後期前葉
第386図 PL.225	496	縄文土器 深鉢	41N-10 口縁部					砂粒/良/茶褐色	無文。	後期前葉
第386図 PL.225	497	縄文土器 深鉢	41O-21 口縁部					砂粒/良/灰黄色	口縁部外反、無文。	後期中葉
第386図 PL.225	498	縄文土器 深鉢	41M-20 口縁部					砂粒/良/灰褐色	無文、頸部に撫で成形時の段差あり。	後期前葉
第386図 PL.225	499	縄文土器 深鉢	41O-22、P-21・22 口縁~胴部	口	22.8			砂粒/良/灰褐色	3単位の上部に円文有す波状突起、突起下を繋ぐ集合沈線、突起下位に縦位刺突文、さらには連続対弧状懸垂文から続く平行沈線による襷状文様描き、交差部分は捻り文様描く、また集合沈線下位に連弧状文、渦巻き懸垂文。	後期中葉
第386図 PL.225	500	縄文土器 深鉢	41O-17・22 口縁部					微砂粒/良/灰黒色	口縁部円形突起か、以下横位集合沈線文。	後期中葉
第386図 PL.225	501	縄文土器 深鉢	41O-23 口縁部					微砂粒/良/黒褐色	口縁部小突起文、横位連続横Ｓ字状文で上下を画し、横位多段沈線文、垂下沈線文。	後期中葉
第386図 PL.225	502	縄文土器 深鉢	41T-15 口縁部					微砂粒/良/淡茶褐色	押圧による小波状を呈す、横位多段沈線文。	後期中葉
第386図 PL.225	503	縄文土器 深鉢	41M-19 口縁部					微砂粒/良/黒色	横位多段沈線。	後期中葉
第386図 PL.225	504	縄文土器 深鉢	41U-14・15、T-15 口縁~胴部	口	12.0			微砂粒/良/黒色	口縁部に円文有す小突起、横位多段沈線から曲線懸垂文。	後期中葉
第386図 PL.225	505	縄文土器 深鉢	41O-23 口縁部					微砂粒/良/黒褐色	口縁部小突起文、横位連続横Ｓ字状文で上下を画し、横位多段沈線文、垂下沈線文。	後期中葉
第386図 PL.225	506	縄文土器 深鉢	41O-10 口縁部					微砂粒/良/黒色	斜線文有す、横位多段沈線文、以下横位沈線による文様帯。	後期前葉
第386図 PL.225	507	縄文土器 深鉢	41N-10 口縁部					微砂粒/良/黒褐色	横位多段沈線文。	後期中葉
第386図 PL.225	508	縄文土器 深鉢	41L-16 口縁部					微砂粒/良/黒褐色	横位多段沈線。	後期前葉
第386図 PL.225	509	縄文土器 深鉢	口縁部					微砂粒/良/黒褐色	横位集合沈線以下懸垂文。	後期中葉
第386図 PL.225	510	縄文土器 深鉢	41O-23 口縁部					微砂粒/良/茶褐色	横位連続Ｓ字状文、以下横位集合沈線から懸垂文。	後期中葉
第386図 PL.225	511	縄文土器 深鉢	41O-21 口縁部					精製/良/灰黒色	横位集合沈線、口唇部に沈線および斜線文。	後期中葉
第386図 PL.225	512	縄文土器 深鉢	41R-16 口縁部	口	15.0			微砂粒/良/黒色	口縁部に2個一対の小突起が複数個、それぞれの突起部には2個の刺突文有す、横位集合条線を2段描き、その下位には渦巻き基調の文様描く、薄手土器。	後期中葉
第386図 PL.225	513	縄文土器 深鉢	41W-13 口縁~胴部	口	12.0			微砂粒/良/灰黒色	口縁部交互刺突文、以下横位沈線による文様帯画し、横位連続横Ｓ字状文を2段施文。	後期中葉
第386図 PL.225	514	縄文土器 注口土器	41O-23 胴部					精製/良/灰褐色	捻り文。	後期中葉
第386図 PL.225	515	縄文土器 深鉢	41O-23 胴部					微砂粒/良/黒褐色	横位、縦位の連続Ｓ字状文。	後期中葉
第387図 PL.225	516	縄文土器 注口土器	41O-23 口縁部					微砂粒/良/暗茶褐色	口縁部に刻み、横位集合沈線間に、連続横Ｓ字状文。	後期中葉
第387図 PL.225	517	縄文土器 深鉢	41O-21 口縁部					微砂粒/良/黒色	口縁部に小突起、複数沈線による横位文様から連続対弧状沈線垂下し横位集合沈線に繋がる。	後期中葉
第387図 PL.225	518	縄文土器 深鉢	41N-21 口縁部					微砂粒/良/黒色	横位沈線。	後期中葉
第387図 PL.225	519	縄文土器 深鉢	41L-12 胴部					精製/良/黒色	沈線による曲線文。	後期中葉
第387図 PL.225	520	縄文土器 深鉢	41O-10 口縁部					精製/良/黒色	波頂部に8字状貼付文、下位に円孔有す、以下連続刺突文垂下し、左右に斜線文有す多段沈線文。	後期前葉
第387図 PL.225	521	縄文土器 鉢	41O-20・Q-21 口縁部					微砂粒/良/灰黒色	横位多段沈線。	後期中葉
第387図 PL.225	522	縄文土器 深鉢	41L-23 口縁部					砂粒/良/黒褐色	横位平行隆帯、円孔あり、以下無文、内面口縁下に横位隆帯。	中期後葉
第387図 PL.225	523	縄文土器 深鉢	41U-14・15 口縁~胴部	口	12.5			精製/良/黒褐色	口縁部小突起、横位多段沈線文に区切り文有す、内面横位多段沈線。	後期中葉
第387図 PL.226	524	縄文土器 深鉢	41O-16 口縁部					微砂粒/良/黒褐色	横位沈線による縄文帯、縦位区切り文、口縁部に刻み有し、内面隆帯、多段沈線文。	後期中葉
第387図 PL.226	525	縄文土器 深鉢	41O-23 口縁部					微砂粒/良/黒色	円孔有す波頂下に、対弧状沈線文、左右に平行沈線延びる、内面多段横位沈線。	後期中葉
第387図 PL.226	526	縄文土器 深鉢	41O-13 口縁部					砂粒/良/黒褐色	口縁部内屈、横位沈線により縄文帯画し、対弧状の短沈線文。	後期中葉
第387図 PL.226	527	縄文土器 深鉢	41N-24 口縁部					微砂粒/良/暗茶褐色	横位多段沈線、縦位区切り文。	後期中葉

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第387図 PL.226	528	縄文土器 深鉢	41O-24 胴部					微砂粒/良/黒褐色	横位平行沈線、縦位区切り文。	後期中葉
第387図 PL.226	529	縄文土器 浅鉢	41N-15･16 口縁部					微砂粒/良/橙褐色	外面横位多段沈線文、斜沈線伴う。	後期中葉
第387図 PL.226	530	縄文土器 浅鉢	41O-15 口縁部					精製/良/暗茶褐色	横位多段沈線文、縄文施文。	後期中葉
第387図 PL.226	531	縄文土器 深鉢	41M-24 口縁部					微砂粒/良/暗茶褐色	口縁部に小突起、円孔有し、瘤状文貼付、以下沈線による横位文様帯、内面区切り文有す横位多段沈線文。	後期中葉
第387図 PL.226	532	縄文土器 深鉢	41O-20 胴部					微砂粒/良/灰黄褐色	沈線による横位縄文帯。	後期中葉
第387図 PL.226	533	縄文土器 深鉢	41N-19･20 口縁部					精製/良/黒色	波頂部に突起、円文有す、下位に円形文、横位複数沈線、所々に区切り文風の短沈線。	後期中葉
第387図 PL.226	534	縄文土器 深鉢	41M-24 胴部					微砂粒/良/黒褐色	沈線による横位縄文帯、円形文。	後期前葉
第387図 PL.226	535	縄文土器 浅鉢	41O-23 口縁~胴部					砂粒/良/暗茶褐色	外面無文、内面円形懸垂文、横位多段沈線文、円形文下位に縦位区切り文。	後期中葉
第387図 PL.226	536	縄文土器 浅鉢	41O-22 胴部					微砂粒/良/黒色	無文、内面横位多段沈線文を2帯描き、縦位区切り文。	後期中葉
第387図 PL.226	537	縄文土器 鉢	41O-22 胴部					微砂粒/良/灰褐色	沈線による重楕円文、渦巻き文様描き、縄文帯で囲う。	後期中葉
第387図 PL.226	538	縄文土器 深鉢	41N-9 胴部					微砂粒/良/灰黒色	重楕円文、縄文充填。	後期前葉
第387図 PL.226	539	縄文土器 深鉢	41L-13 胴部					砂粒/良/黒色	平行沈線による曲線文様、渦巻き文描く、楕円文外枠に沿って連続刺突文。	後期中葉
第387図 PL.226	540	縄文土器 深鉢	41M-19･20 胴部					微砂粒/良/茶褐色	渦巻き文、刺突文列で曲線文。	後期中葉
第388図 PL.226	541	縄文土器 深鉢	41N-9 底部					砂粒/良/茶褐色	小型土器底部、横位多段沈線。	後期前葉
第388図 PL.226	542	縄文土器 深鉢	41O-22 底部					砂粒/良/茶褐色	底部網代痕。	後期
第388図 PL.226	543	縄文土器 深鉢	41N-9 底部					砂粒/良/茶褐色	無文、底部網代痕。	後期前葉
第388図 PL.226	544	縄文土器 深鉢	41M-25 底部					砂粒/良/茶褐色	無文、底部網代痕。	後期前葉
第388図 PL.226	545	縄文土器 深鉢	41M-21 底部					砂粒/良/茶褐色	網代痕あり。	後期前葉
第388図 PL.226	546	縄文土器 深鉢	41O-22 底部					砂粒/良/灰黄褐色	底部網代痕。	後期中葉
第388図 PL.226	547	縄文土器 深鉢	41O-11 底部					砂粒/良/赤茶褐色	無文、底部網代痕。	後期前葉
第388図 PL.227	548	縄文土器 深鉢	41N･O-10 底部					砂粒/良/黄褐色	無文。	後期前葉
第388図 PL.227	549	縄文土器 深鉢	41N-18 底部					精製/良/黒色	底部網代痕。	後期前葉
第388図 PL.227	550	縄文土器 深鉢	41O-19 底部					砂粒/良/茶褐色	底部網代痕。	後期前葉
第388図 PL.227	551	縄文土器 深鉢	41N-24 底部					微砂粒/良/灰黄褐色	底部網代痕。	後期中葉
第388図 PL.227	552	縄文土器 深鉢	41O-22 底部					砂粒/良/茶褐色	底部網代痕。	後期
第388図 PL.227	553	縄文土器 深鉢	41O-22 底部					微砂粒/良/黒色	底部網代痕。	後期
第388図 PL.227	554	縄文土器 深鉢	41O-23 底部					微砂粒/良/黒褐色	底部網代痕。	後期中葉
第388図 PL.227	555	縄文土器 深鉢	41J-19 底部					砂粒/良/黄褐色	底部網代痕。	後期前葉
第389図 PL.227	556	縄文土器 鉢	41N-22 底部					微砂粒/良/灰黒色	無文底部、網代痕。	後期前葉
第389図 PL.227	557	縄文土器 深鉢	41O-22 底部					微砂粒/良/灰褐色	底部網代痕。	後期中葉
第389図 PL.227	558	縄文土器 鉢	41O-19 底部					微砂粒/良/灰黒色	底部網代痕、高台状。	後期前葉
第389図 PL.227	559	縄文土器 浅鉢	41M-15 底部					微砂粒/良/橙褐色	無文。	後期前葉
第389図 PL.227	560	縄文土器 注口土器	41O-19 口縁~胴部	口	9.5			微砂粒/良/灰褐色	口縁部に一対の環状把手有す、円孔、8字状文で飾る、横位多段沈線、以下曲線文、渦巻き文様描く。	後期中葉
第389図 PL.227	561	縄文土器 注口土器	41Q-18 突起	口	7.0			精製/良/淡黄褐色	一対の獣面付き環状突起、刺突文で目、鼻を描く。	後期前葉
第389図 PL.227	562	縄文土器 注口土器	41N-19 口縁部					精製/良/橙茶褐色	口縁部に一対の環状突起、隆線による8字状文、上部に斜線文で飾られた壺型の突起、上面、内面側に渦巻き文描く、口縁部に刻みおよび沈線巡り、以下横位集合沈線、曲線文描く。	後期前葉
第389図 PL.227	563	縄文土器 注口土器	41P-21 口縁~胴部					精製/良/灰褐色	環状突起､8字状文で飾る､集合沈線による曲線文様描く。	後期前葉

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第389図 PL.227	564	縄文土器 深鉢	41K-21 胴部					砂粒/良/灰黒色	算盤玉状器形、沈線による、重三角文、渦巻き文、楕円文様描く。	後期中葉
第389図 PL.227	565	縄文土器 深鉢	41S-15 口縁部					微砂粒/良/黒褐色	口縁部に環状把手、下位に8字状貼付文、沈線による重楕円文、三角文上下に描き、縄文帯で囲う。	後期中葉
第389図 PL.227	566	縄文土器 注口土器	41J-20 口縁部					微砂粒/良/灰褐色	環状把手付く、沈線による渦巻き文。	後期中葉
第389図 PL.227	567	縄文土器 深鉢	41N-19 把手					微砂粒/良/茶褐色	幅広の橋状把手、正面形は三角形を呈し沈線による渦巻き文、上辺が凹んだ台形文描く、上部に環状突起が付く、両側面に渦巻き文。	後期中葉
第389図 PL.227	568	縄文土器 鉢	41R-17 口縁~胴部	口 底	16.4 9.0			微砂粒/良/淡黄褐色	肩部丸く張り出す器形、口縁部複数の突起、内面に渦巻き文、肩部に横位連続三角文を集合沈線で描出、底部網代痕。	後期前葉
第389図 PL.227	569	縄文土器 注口土器	41J-20 把手					微砂粒/良/茶褐色	幅広の橋状把手、正面形は三角形を呈し沈線による渦巻き文、上辺が凹んだ台形文描く。	後期中葉
第389図 PL.227	570	縄文土器 注口土器	41N-11 把手					微砂粒/良/灰黒色	環状把手、小環状が付く、下部が広く、円孔有す、隆線による曲線文で飾る。	後期中葉
第389図 PL.227	571	縄文土器 深鉢	41N-9 突起					微砂粒/良/黒褐色	突起、渦巻き文、隆線で飾る。	後期前葉
第389図 PL.227	572	縄文土器 深鉢	41N-21 突起					砂粒/良/灰褐色	さなぎ状の突起、先端部に円文。	後期前葉
第389図 PL.227	573	縄文土器	41N-19 突起					微砂粒/良/灰茶褐色	円形貼付文か。	後期中葉
第390図 PL.228	574	縄文土器 深鉢	41U-2 口縁部					砂粒/良/赤褐色	口縁部鍔状に張り出し、U字状の環状把手となる、隆線による曲線文。	後期前葉
第390図 PL.228	575	縄文土器 深鉢	41M-15 突起					砂粒多く含む/良/黒褐色	波頂部突起、隆線による渦巻き文で飾る、突起下にも連続渦巻き文垂下。	後期前葉
第390図 PL.228	576	縄文土器 深鉢	41K-20 突起					微砂粒/良/灰褐色	両面に渦文有す突起文。	後期初頭
第390図 PL.228	577	縄文土器 注口土器	410-21 把手					微砂粒/良/灰褐色	棒状の把手。	後期中葉
第390図 PL.228	578	縄文土器 注口土器	41L-20 注口部					微砂粒/良/黒褐色	先端部欠く、接合部周囲に沈線で画した縄文帯。	後期中葉
第390図 PL.228	579	縄文土器 注口土器	41M-20 注口部					微砂粒/良/灰橙色	基部周囲に刻み隆帯巡る、赤彩痕。	後期前葉
第390図 PL.228	580	縄文土器 土錘	41T-11 ほぼ完形	長 幅	4.9 2.0	厚	1.3	微砂粒/良/暗茶褐色	表裏面縦に沈線めぐり、中央に円孔有す。	後期
第390図 PL.228	581	縄文土器 ミニチュア	41R-18 口縁~底部	口 底	(6.0) (4.8)	高	(6.1)	砂粒/良/橙褐色	小型土器、無文で底部僅かに膨らみ有す。	後期前葉
第390図 PL.228	582	縄文土器 蓋	41K-17 一部欠損					砂粒/良/灰黄褐色	つまみ部欠損。	後期前葉
第390図 PL.228	583	縄文土器 深鉢	41N-11 底部					砂粒/普通/茶褐色	網代痕。	後期前葉
第390図 PL.228	584	縄文土器 甕形土器	410-22 口縁~胴部					砂粒/良/橙茶褐色	口縁部に横位沈線、無文部有し横位沈線、菱形文描き縦位沈線。	晩期末葉
第390図 PL.228	585	弥生土器 壺形土器	410-19 胴部					微砂粒/良/淡黄褐色	横位沈線、三角文描き交点に短沈線、三角文内縄文施文。	弥生中期中葉
第390図 PL.228	586	弥生か 甕	41V-4 口縁~胴部	口	20.0			微砂粒/良/黒褐色	余り膨らみを持たない胴部、口縁は大きく外反、口唇部に連続刻み有す、頸部は横撫、以下小口状工具による斜めの刷毛目整形痕、内面縦位の整形痕。	弥生、北陸系

第４表　Ⅵ区　遺物観察表

遺構外　土器

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第391図 PL.228	1	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/黒茶褐色	突起した隆帯による渦巻き文、弧状隆帯縄文ＲＬ横位充填施文。	後期中葉
第391図 PL.228	2	縄文土器 深鉢	口縁部					砂粒/良/橙茶褐色	口縁部に弧状隆帯、以下垂下隆帯文、刺突文、縦位集合条線文。	中期後葉
第391図 PL.228	3	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒/良/茶褐色	斜位集合沈線に斜位集合細隆線で斜格子文様、上下には横位波状隆線文、以下逆Ｕ字状文垂下、周囲には縦位集合沈線文。	中期後葉

遺構外　石器

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第392図 PL.229	1	剥片石器 石鏃	41V-12 完形	長 2.7	厚 0.5	幅 1.7	重 1.1	流紋岩//	凹基無茎鏃、細身で、抉りは開いた逆V字状、押圧剥離による両面加工が認められる、丁寧な作り。	
第392図 PL.229	2	剥片石器 石鏃	41M-20 ほぼ完形	長 (2.5)	厚 0.5	幅 (1.3)	重 (0.8)	黒曜石//	凹基無茎鏃、抉り深く、開いた逆U字状、やや細身で押圧剥離による両面加工が認められる、側縁部の刃部は細かい丁寧な作り。	
第392図 PL.229	3	剥片石器 石鏃	41K-13 完形	長 1.9	厚 0.3	幅 1.4	重 0.4	流紋岩//	凹基無茎鏃、抉り開いた山形で両脚の先端部が鋭く尖る、押圧剥離による両面加工が認められる、丁寧な作り。	
第392図 PL.229	4	剥片石器 石鏃	0 完形	長 2.2	厚 0.4	幅 1.7	重 0.9	黒曜石//	凹基無茎鏃、押圧剥離による両面加工が認められる。両側辺の中央付近に僅かな抉りが認められる。	
第392図 PL.229	5	剥片石器 石鏃	41L-21 完形	長 2.2	厚 0.4	幅 1.8	重 0.9	流紋岩//	凹基無茎鏃、抉り深く開いた逆U字状、押圧剥離による両面加工が認められる、左右対称で丁寧な作り。	
第392図 PL.229	6	剥片石器 石鏃	完形	長 1.7	厚 0.3	幅 1.3	重 0.3	チャート//	凹基無茎鏃、抉りはやや深い、押圧剥離による両面加工が認められる、作りは丁寧。	
第392図 PL.229	7	剥片石器 石鏃	41S-9 完形	長 2.4	厚 0.4	幅 1.7	重 0.9	流紋岩//	凹基無茎鏃、押圧剥離による両面加工が認められる、器面風化。	
第392図 PL.229	8	剥片石器 石鏃	41N-13 完形	長 2.4	厚 0.3	幅 1.5	重 0.8	黒曜石//	凹基無茎鏃、押圧剥離による両面加工が認められる、丁寧な作りで、均整のとれた形。	
第392図 PL.229	9	剥片石器 石鏃	41T-15 ほぼ完形	長 1.8	厚 0.3	幅 (1.2)	重 0.4	流紋岩//	凹基無茎鏃、押圧剥離による両面加工が認められる。	
第392図 PL.229	10	剥片石器 石鏃	41U-16 ほぼ完形	長 2.1	厚 0.3	幅 (1.7)	重 0.6	黒曜石//	凹基無茎鏃、押圧剥離による両面加工が認められる。	
第392図 PL.229	11	剥片石器 石鏃	0 完形	長 1.6	厚 0.3	幅 1.0	重 0.2	チャート//	凹基無茎鏃、押圧剥離による両面加工が認められる。	
第392図 PL.229	12	剥片石器 石鏃	41M-21 ほぼ完形	長 1.6	厚 0.3	幅 1.3	重 0.3	黒曜石//	小型凹基無茎鏃、抉りは浅い山形、押圧剥離による両面加工が認められる、側縁部細かい鋸歯状、丁寧な作り。	
第392図 PL.229	13	剥片石器 石鏃	41P-20 完形	長 1.5	厚 0.3	幅 1.4	重 0.3	黒曜石//	凹基無茎鏃、抉り円く、押圧剥離による両面加工が認められる、短身鏃。	
第392図 PL.229	14	剥片石器 石鏃	41N-14 完形	長 1.6	厚 0.3	幅 1.4	重 0.3	黒曜石//	凹基無茎鏃、押圧剥離による両面加工が認められる、丁寧な作り。	
第392図 PL.229	15	剥片石器 石鏃	完形	長 2.0	厚 0.3	幅 1.6	重 0.6	珪質頁岩//	凹基無茎鏃、押圧剥離による両面加工が認められる、左右対称で丁寧な作り。	
第392図 PL.229	16	剥片石器 石鏃	41V-12 完形	長 1.5	厚 0.4	幅 1.4	重 0.7	黒曜石//	凹基無茎鏃、小型で厚みあり、押圧剥離による両面加工が認められる。	
第392図 PL.229	17	剥片石器 石鏃	41V-12 ほぼ完形	長 1.9	厚 0.4	幅 1.3	重 0.4	黒曜石//	凹基無茎鏃、抉りは逆V字状で深い、押圧剥離による両面加工が認められる、やや細身。	
第392図 PL.229	18	剥片石器 石鏃	ほぼ完形	長 (1.9)	厚 0.4	幅 (1.2)	重 0.5	黒曜石//	凹基無茎鏃、抉りは浅い、やや細身の作り、押圧剥離による両面加工が認められる。	
第392図 PL.229	19	剥片石器 石鏃	41Q-18 欠損	長 (1.8)	厚 0.4	幅 (1.4)	重 (0.3)	流紋岩//	凹基無茎鏃、抉り深く脚はやや開く、細身で押圧剥離による両面加工が認められる。	
第392図 PL.229	20	剥片石器 石鏃	41Q-16 ほぼ完形	長 1.3	厚 0.2	幅 1.3	重 0.3	流紋岩//	凹基無茎鏃、脚が開く形状、押圧剥離による両面加工が認められるが、先端部僅かに未調整部が残る。	
第392図 PL.229	21	剥片石器 石鏃	41R-7 ほぼ完形	長 1.7	厚 0.4	幅 1.4	重 (0.5)	黒曜石//	凹基無茎鏃、押圧剥離による両面加工が認められる、先端部がやや不自然に細く作られている。	
第392図 PL.229	22	剥片石器 石鏃	41J-18 完形	長 1.6	厚 0.4	幅 1.3	重 0.6	黒曜石//	小型凹基無茎鏃、抉りやや深い、押圧剥離による両面加工が認められる、作りは丁寧。	
第392図 PL.229	23	剥片石器 石鏃	41J-17 ほぼ完形	長 (1.7)	厚 0.3	幅 (1.3)	重 (0.4)	黒曜石//	小型凹基無茎鏃、抉りやや深い、押圧剥離による両面加工が認められる、やや薄手の作り。	
第392図 PL.229	24	剥片石器 石鏃	41P-21 完形	長 1.7	厚 0.4	幅 1.4	重 0.5	黒色頁岩//	凹基無茎鏃、抉り浅い、器面の風化顕著。	
第392図 PL.229	25	剥片石器 石鏃	完形	長 2.0	厚 0.4	幅 1.5	重 1.0	黒曜石//	凹基無茎鏃、抉りは浅い弧状、押圧剥離による両面加工が認められる、両側縁が僅かに膨らむ形状。	
第392図 PL.229	26	剥片石器 石鏃	41M-11 ほぼ完形	長 1.3	厚 0.3	幅 1.1	重 0.2	チャート//	小型凹基無茎鏃、押圧剥離による両面加工が認められる、側縁部鋸歯状、丁寧な作り。	
第392図 PL.229	27	剥片石器 石鏃	41P-20 ほぼ完形	長 (1.2)	厚 0.3	幅 (1.2)	重 0.2	チャート//	小型凹基無茎鏃、脚は開き、押圧剥離による両面加工が認められる、長さ幅がほぼ等しい。	
第392図 PL.229	28	剥片石器 石鏃	41J-19 欠損	長 1.2	厚 0.2	幅 1.0	重 0.2	黒曜石//	小型凹基無茎鏃、押圧剥離による両面加工が認められる、抉り深く脚は左右非対称。	
第392図 PL.229	29	剥片石器 石鏃	41M-20 完形	長 1.4	厚 0.3	幅 1.2	重 0.3	流紋岩//	小型凹基無茎鏃、抉り浅く弧状を呈す、押圧剥離による両面加工が認められる。	
第393図 PL.229	30	剥片石器 石鏃	41J-17 ほぼ完形	長 (2.0)	厚 0.4	幅 (1.5)	重 (0.7)	黒曜石//	凹基無茎鏃、抉り浅い、押圧剥離による両面加工が認められる。	
第393図 PL.229	31	剥片石器 石鏃	完形	長 2.0	厚 0.4	幅 1.7	重 0.6	黒曜石//	平基無茎鏃、押圧剥離による両面加工が認められる。	
第393図 PL.229	32	剥片石器 石鏃	41N-13 欠損	長 (1.9)	厚 0.4	幅 (1.4)	重 (0.8)	黒曜石//	凹基無茎鏃、抉りやや浅く押圧剥離による両面加工が認められる、先端部を僅かに欠く。	
第393図 PL.229	33	剥片石器 石鏃	41O-22 ほぼ完形	長 1.6	厚 0.4	幅 1.4	重 0.8	黒曜石//	平基無茎鏃、押圧剥離による両面加工が認められる。	
第393図 PL.229	34	剥片石器 石鏃	0 欠損	長 (1.6)	厚 0.3	幅 (1.1)	重 (0.3)	チャート//	小型凹基無茎、抉り浅い、押圧剥離による両面加工が認められる、片脚の端部僅かに欠く。	
第393図 PL.229	35	剥片石器 石鏃	41R-16 ほぼ完形	長 (1.6)	厚 0.5	幅 (1.5)	重 (0.6)	チャート//	小型平基無茎鏃、押圧剥離による両面加工が認められる。	
第393図 PL.229	36	剥片石器 石鏃	41O-23 ほぼ完形	長 1.1	厚 0.2	幅 1.0	重 0.2	チャート//	小型平基無茎鏃、押圧剥離による両面加工が認められる、基部中央に僅かな欠けあり。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第393図 PL.229	37	剥片石器 石鏃	41O-22 完形	長 1.5 幅 1.1	厚 0.4 重 0.4			黒曜石//	凹基無茎鏃、抉り浅い、身の中央部に厚みあり、表面全体にざらつきあり。	
第393図 PL.229	38	剥片石器 石鏃	41P-19 完形	長 1.6 幅 1.2	厚 0.5 重 0.6			流紋岩//	平基無茎鏃、側縁部両面からの押圧剥離により作出、石材は脆く、模造品、非実用品と思われる、厚みあり。	
第393図 PL.229	39	剥片石器 石鏃	41K-14 ほぼ完形	長 1.9 幅 1.4	厚 0.4 重 0.8			赤碧玉//	小型凹基無茎鏃、抉りは浅い、押圧剥離による両面加工が認められる。	
第393図 PL.229	40	剥片石器 石鏃	41K-17 ほぼ完形	長 1.9 幅 1.4	厚 0.4 重 1.0			細粒輝石安山岩//	平基無茎鏃、押圧剥離による両面加工が認められる、やや作りは粗く、先端部僅かに欠く。	
第393図 PL.229	41	剥片石器 石鏃	41I-19 ほぼ完形	長 1.8 幅 1.3	厚 0.5 重 0.8			珪質頁岩//	平基無茎鏃、押圧剥離による両面加工が認められる。	
第393図 PL.229	42	剥片石器 石鏃	41O-13 完形	長 1.8 幅 1.5	厚 0.3 重 0.9			黒曜石//	凹基無茎鏃、抉り浅く、剥片素材段階での剥離面を大きく片面に残す、側縁部押圧剥離による両面加工が認められる。	
第393図 PL.229	43	剥片石器 石鏃	41O-13 欠損	長 (3.1) 幅 (1.6)	厚 0.4 重 (1.1)			黒色安山岩//	やや大型の凹基無茎鏃、押圧剥離による両面加工が認められる、脚の側縁端部に円み、片脚を欠く。	
第393図 PL.229	44	剥片石器 石鏃	41R-19 ほぼ完形	長 2.1 幅 1.5	厚 0.4 重 0.8			チャート//	凹基無茎鏃、押圧剥離による両面加工が認められる、基部については左右非対称。	
第393図 PL.229	45	剥片石器 石鏃	41M-11 欠損	長 (1.1) 幅 (2.3)	厚 0.3 重 (0.6)			黒曜石//	凹基無茎鏃、片面に素材剥片の剥離面を大きく残す、脚を欠く。	
第393図 PL.229	46	剥片石器 石鏃	欠損	長 (2.4) 幅 (1.5)	厚 0.5 重 (0.9)			流紋岩//	凹基無茎鏃、押圧剥離による両面加工が認められる、片側脚を欠く。	
第393図 PL.229	47	剥片石器 石鏃	欠損	長 (1.7) 幅 (1.1)	厚 0.4 重 (0.2)			チャート//	凹基無茎鏃、抉りやや深く、両脚はやや開く、押圧剥離による両面加工が認められる、小型品。	
第393図 PL.229	48	剥片石器 石鏃	41N-12 欠損	長 (2.1) 幅 (1.5)	厚 0.4 重 (0.8)			黒色安山岩//	凹基無茎鏃、押圧剥離による両面加工が認められる、両脚を欠く。	
第393図 PL.229	49	剥片石器 石鏃	41K-14 完形	長 (2.2) 幅 1.0	厚 0.4 重 (0.7)			黒曜石//	凹基無茎鏃、抉りは逆Ｖ字状、細身で紡錘状を呈す、押圧剥離による両面加工が認められる。	
第393図 PL.229	50	剥片石器 石鏃	41P-9 欠損	長 (2.1) 幅 (1.5)	厚 0.4 重 (0.9)			流紋岩//	平基無茎鏃、押圧剥離による両面加工が認められる、片側の基部を欠く。	
第393図 PL.229	51	剥片石器 石鏃	4/5	長 (1.1) 幅 (1.0)	厚 0.2 重 0.2			黒曜石//	凹基無茎鏃、押圧剥離による両面加工が認められる。	
第393図 PL.229	52	剥片石器 石鏃	41K-18 ほぼ完形	長 (1.8) 幅 (1.4)	厚 0.3 重 (0.5)			黒曜石//	凹基無茎鏃、押圧剥離による両面加工が認められる、抉り浅く脚の端部は円みを持つ、身の中央部に斑晶が見られる。	
第393図 PL.229	53	剥片石器 石鏃	41U-7 欠損	長 (1.6) 幅 1.4	厚 0.4 重 (0.5)			黒色安山岩//	小型凹基無茎鏃、抉りは逆Ｕ字状で脚の端部欠損、押圧剥離による両面加工が認められる。	
第393図 PL.229	54	剥片石器 石鏃	41J-14 ほぼ完形	長 (1.7) 幅 (1.2)	厚 0.2 重 (0.4)			黒曜石//	凹基無茎鏃、薄い剥片素材を利用、縁辺部に両面からの剥離調整。	
第393図 PL.229	55	剥片石器 石鏃	ほぼ完形	長 (1.3) 幅 (1.3)	厚 0.3 重 (0.3)			黒色安山岩//	小型凹基無茎鏃、押圧剥離による両面加工が認められる。	
第393図 PL.229	56	剥片石器 石鏃	41R-19 4/5	長 (1.7) 幅 (1.1)	厚 0.3 重 (0.3)			黒曜石//	凹基無茎鏃、押圧剥離による両面加工が認められる。	
第393図 PL.229	57	剥片石器 石鏃	41P-14 欠損	長 (2.4) 幅 (1.4)	厚 0.3 重 (0.5)			黒曜石//	凹基無茎鏃、脚が円みを持って外に膨らむ形状、押圧剥離による両面加工が認められる、片脚を欠く。	
第393図 PL.229	58	剥片石器 石鏃	41U-16 欠損	長 (2.0) 幅 (1.5)	厚 0.3 重 (0.5)			チャート//	凹基無茎族、抉り深く脚は長め、押圧剥離による両面加工が認められる、片脚を欠く。	
第393図 PL.229	59	剥片石器 石鏃	41X-1 ほぼ完形	長 (2.1) 幅 (1.3)	厚 0.4 重 (0.6)			黒曜石//	凹基無茎鏃、片面に素材段階での剥離面を残す、左右非対称。	
第393図 PL.229	60	剥片石器 石鏃	41T-7 欠損	長 (1.5) 幅 (1.2)	厚 0.3 重 (0.3)			黒曜石//	小型凹基無茎鏃、押圧剥離による両面加工が認められる、脚の端部を欠く。	
第393図 PL.229	61	剥片石器 石鏃	41N-19 欠損	長 (1.3) 幅 (0.9)	厚 0.3 重 (0.2)			黒曜石//	押圧剥離による両面加工が認められる、先端部片。	
第394図 PL.229	62	剥片石器 石鏃	41Q-10 欠損	長 (1.1) 幅 (0.8)	厚 0.2 重 (0.1)			黒曜石//	極めて小型の凹基無茎鏃、押圧剥離による両面加工が認められる、片脚を欠く。	
第394図 PL.229	63	剥片石器 石鏃	41Q-20 ほぼ完形	長 (1.4) 幅 (0.9)	厚 0.3 重 (0.2)			黒曜石//	小型凹基無茎鏃、押圧剥離による両面加工が認められる、やや細身で片側脚端部を欠く。	
第394図 PL.230	64	剥片石器 石鏃	41N-21 欠損	長 (1.9) 幅 (1.6)	厚 0.2 重 (0.4)			赤碧玉//	長脚の凹基無茎鏃、身幅も極めて狭い作り、押圧剥離による両面加工が認められる、片脚の下部を欠く。	
第394図 PL.230	65	剥片石器 石鏃	41N-21 欠損	長 (1.5) 幅 (1.2)	厚 0.3 重 (0.3)			黒曜石//	小型で細身の凹基無茎鏃、押圧剥離による両面加工が認められる、先端部を欠く。	長脚鏃
第394図 PL.230	66	剥片石器 石鏃	ほぼ完形	長 (1.3) 幅 (1.5)	厚 0.2 重 0.3			流紋岩//	凹基無茎鏃、押圧剥離による両面加工が認められる。先端部の剥離は対象物に接触した際の衝撃剥離の可能性がある。	
第394図 PL.230	67	剥片石器 石鏃	41K-21 欠損	長 (1.0) 幅 1.3	厚 0.3 重 (0.2)			チャート//	小型凹基無茎鏃、両脚開き抉りはやや浅い、押圧剥離による両面加工が認められる、先端部欠く。	
第394図 PL.230	68	剥片石器 石鏃	41M-21 ほぼ完形	長 1.4 幅 1.3	厚 0.2 重 0.3			黒曜石//	小型凹基無茎鏃、押圧剥離による両面加工が認められる、先端部僅かに欠く。	
第394図 PL.230	69	剥片石器 石鏃	欠損	長 (1.5) 幅 1.2	厚 0.3 重 (0.3)			流紋岩//	凹基無茎鏃、抉り極めて浅い、押圧剥離による両面加工が認められる、先端部僅かに欠き、器面の風化顕著。	
第394図 PL.230	70	剥片石器 石鏃	41T-9 ほぼ完形	長 (1.5) 幅 1.3	厚 0.3 重 (0.3)			黒曜石//	凹基無茎鏃、抉りは深くなく弧状を呈す、押圧剥離による両面加工が認められる、薄手の作りで片面に研磨痕。	局部磨製
第394図 PL.230	71	剥片石器 石鏃	1/2	長 (1.7) 幅 2.0	厚 0.5 重 (1.0)			流紋岩//	凹基無茎鏃、押圧剥離による両面加工が認められる。	

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第394図 PL.230	72	剥片石器 石鏃	欠損	長 (1.6) 幅 (1.8)	厚 0.3 重 (0.6)			黒曜石//	凹基無茎鏃、押圧剥離による両面加工が認められる、両脚部非対称の作り、先端部を欠く。	
第394図 PL.230	73	剥片石器 石鏃	41K-16 欠損	長 (1.5) 幅 1.7	厚 0.3 重 (0.7)			チャート//	凹基無茎鏃、抉り深い、押圧剥離による両面加工が認められる、先端部欠。	
第394図 PL.230	74	剥片石器 石鏃	41U-14 欠損	長 (1.3) 幅 (2.1)	厚 0.3 重 (0.9)			黒曜石//	凹基無茎鏃、大型鏃で薄手の作り、押圧剥離による両面加工が認められる、抉りは大きく弧状に入り、脚は短く端部が尖る、基部のみ。	
第394図 PL.230	75	剥片石器 石鏃	41L-13 欠損	長 (1.5) 幅 2.5	厚 0.5 重 (1.7)			黒曜石//	凹基無茎鏃だが抉りは極めて浅い、押圧剥離による両面加工が認められる、幅広でやや短身、先端部を欠く。	
第394図 PL.230	76	剥片石器 石鏃	41O-20 欠損	長 (1.5) 幅 1.5	厚 0.4 重 (0.6)			チャート//	凹基無茎鏃、押圧剥離による両面加工が認められる、先端部欠く。	
第394図 PL.230	77	剥片石器 石鏃	ほぼ完形	長 1.3 幅 1.6	厚 0.3 重 0.4			黒曜石//	凹基無茎鏃、抉りは開いた山形で、短身で側縁部は円みを有す、押圧剥離による両面加工が認められる。	
第394図 PL.230	78	剥片石器 石鏃	41V-12 ほぼ完形	長 (1.1) 幅 (1.1)	厚 0.3 重 (0.2)			黒曜石//	小型の平基無茎鏃、基部中央にごく僅かに抉り状の剥離、押圧剥離による両面加工が認められる。	
第394図 PL.230	79	剥片石器 石鏃	41T-7 欠損	長 (1.1) 幅 1.1	厚 0.3 重 (0.2)			流紋岩//	小型平基無茎鏃、押圧剥離による両面加工が認められる、先端部を欠く。	
第394図 PL.230	80	剥片石器 石鏃	41P-13 ほぼ完形	長 1.3 幅 1.3	厚 0.3 重 (0.3)			黒曜石//	凹基無茎鏃、押圧剥離による両面加工が認められる、作りは粗い脚部に風化面。	
第394図 PL.230	81	剥片石器 石鏃	完形	長 1.7 幅 1.2	厚 0.4 重 0.3			流紋岩//	基無茎鏃、押圧剥離による両面加工が認められる。	
第394図 PL.230	82	剥片石器 石鏃	欠損	長 2.4 幅 1.4	厚 0.6 重 (1.4)			流紋岩//	凹基無茎鏃、押圧剥離による両面加工が認められる、基部に剥離欠損。	
第394図 PL.230	83	剥片石器 石鏃	ほぼ完形	長 2 幅 1.1	厚 0.3 重 0.5			黒曜石//	平基無茎鏃、押圧剥離による両面加工が認められる、細身で側縁部に僅かな欠け。	
第394図 PL.230	84	剥片石器 石鏃	41O-19 ほぼ完形	長 (3.4) 幅 1.8	厚 0.5 重 (2.1)			流紋岩//	凹基有茎鏃、押圧剥離による両面加工が認められる、作りは良く、均整の取れた形状、茎の端部欠損か。	
第394図 PL.230	85	剥片石器 石鏃	41M-22 ほぼ完形	長 (3.7) 幅 1.9	厚 0.6 重 (3.4)			流紋岩//	やや大型の突基鏃、押圧剥離による両面加工が認められる、先端部僅かに欠く、基部は斜めに作出。	
第394図 PL.230	86	剥片石器 石鏃	41M-21 ほぼ完形	長 (1.1) 幅 0.9	厚 0.4 重 (0.2)			流紋岩//	小型の凹基無茎鏃、厚みがあり、鋭利さはない、非実用品。	
第394図 PL.230	87	剥片石器 石鏃	41O-22 欠損	長 1.5 幅 0.7	厚 0.2 重 (0.2)			黒曜石//	小型細身の凹基無茎鏃、抉り極めて浅い、押圧剥離による両面加工が認められる。	
第394図 PL.230	88	剥片石器 石鏃	41U-6 欠損	長 (1.7) 幅 (1.8)	厚 0.4 重 (1.0)			黒曜石//	平基有茎鏃、基部中央からややずれた一に短い茎、押圧剥離による両面加工が認められる、先端部を欠く。	
第394図 PL.230	89	剥片石器 石鏃	41L-22 完形	長 3.0 幅 2.1	厚 0.6 重 3.6			黒色頁岩//	平基無茎鏃、片面に大きく自然面残す、未製品か。	
第394図 PL.230	90	剥片石器 石鏃	41P-22 ほぼ完形	長 2.7 幅 1.5	厚 0.6 重 2.5			黒色安山岩//	凹基無茎鏃、やや長身で膨らみ有す、押圧剥離による両面加工が認められるが、未製品と思われる。	
第394図 PL.230	91	剥片石器 石鏃		長 3.2 幅 2.4	厚 0.8 重 5.9			黒色頁岩//	石鏃の未製品か、卵形で下縁部を中心に押圧剥離による両面加工が認められる。	
第394図 PL.230	92	剥片石器 石鏃	41M-11 欠損	長 (1.0) 幅 (0.9)	厚 0.8 重 (0.2)			黒曜石//	凹基無茎鏃、脚部片。	
第394図 PL.230	93	剥片石器 石鏃	41R-19 ほぼ完形	長 (1.8) 幅 0.7	厚 0.2 重 (0.2)			黒曜石//	小型紡錘状、先端部分がやや細く作られる、押圧剥離による両面加工が認められる、基部欠損。	
第395図 PL.230	94	剥片石器 石錐(ドリル)	41T-13 完形	長 2.4 幅 2.7	厚 0.5 重 2.5			流紋岩//	表裏面に素材剥片段階の剥離面を残す。裏面には素材剥片の主要剥離面が認められる。押圧剥離による両面加工によって尖頭部を作出する。側辺の一部に自然面が認められ角礫を利用している可能性がある。	
第395図 PL.230	95	剥片石器 石錐	41I-18 欠損	長 (2.1) 幅 2.7	厚 0.7 重 (4.8)			黒色頁岩//	つまみ部は両端部円みを有すT字状を呈す、錐部は断面がやや扁平で、先端部を欠く。	
第395図 PL.230	96	剥片石器 石錐	ほぼ完形	長 (2.6) 幅 (1.3)	厚 0.5 重 (1.2)			チャート//	三角形のつまみ部に錐部が作り出される、刃部押圧剥離による両面加工が認められる。	
第395図 PL.230	97	剥片石器 石錐	欠損	長 (2.2) 幅 (1.0)	厚 0.4 重 (0.7)			チャート//	つまみ部欠く、錐部は押圧剥離による両面加工により円みを作出、使用による摩耗見られる。	
第395図 PL.230	98	剥片石器 石錐	41K-13 ほぼ完形	長 2.7 幅 1.0	厚 0.7 重 1.7			黒曜石//	棒状で、つまみ部は角錐形、風化面残す、錐部は先端が尖り、周囲剥離調整あり、未製品の可能性あり。	
第395図 PL.230	99	剥片石器 石錐	41N-13 欠損	長 (2.1) 幅 (0.9)	厚 0.6 重 (1.1)			黒曜石//	角錐状の錐部、側縁に剥離調整見られる、若干の使用痕あり、基部および先端部欠損か。	
第395図 PL.230	100	剥片石器 不明	不明	長 (2.5) 幅 (1.2)	厚 (0.5) 重 1.0			チャート//	押圧剥離による両面加工が認められる。器種形態が不明確であり器種不明とした。	
第395図 PL.230	101	剥片石器 石錐(ドリル)	欠損	長 (2.1) 幅 (1.2)	厚 0.5 重 (0.8)			黒曜石//	三角形のつまみ部、錐部押圧剥離による両面加工が認められる、基部欠損。	
第395図 PL.230	102	剥片石器 石錐	41O-11 ほぼ完形	長 (2.7) 幅 (0.8)	厚 0.4 重 (1.1)			流紋岩//	棒状で、押圧剥離による両面加工が認められる、錐部断面は不正菱形。	
第395図 PL.230	103	剥片石器 石錐	41V-15 ほぼ完形	長 5.5 幅 1.4	厚 1.0 重 7.5			黒曜石//	大型錐、棒状剥片の先を細く錐部としている側縁部に押圧剥離による両面加工が認められる、使用痕あり、先端部僅かに欠損。	
第395図 PL.230	104	剥片石器 石錐(ドリル)	41T-15 欠損	長 (3.4) 幅 0.8	厚 0.5 重 1.9			黒色頁岩//	押圧剥離による両面加工が認められる。先端部欠損。	
第395図 PL.230	105	剥片石器 石錐(ドリル)	4/5	長 (2.8) 幅 0.8	厚 0.5 重 1.1			流紋岩//	押圧剥離による両面加工が認められる。先端部欠損。	
第395図 PL.230	106	剥片石器 石核	41T-19 完形	長 2.3 幅 1.9	厚 1.5 重 4.7			黒曜石//	両極加撃によって小型剥片を剥離する。楔形石器に分類される可能性もあるが、小型剥片を連続剥離する痕跡から石核に分類した。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第395図 PL.230	107	ー 原石	完形	長 4.9 幅 1.9		厚 1.1 重 9.3		黒曜石//	小型角礫である。全面が剥離面で構成されているがいずれも著しく風化が進行しており自然面と判断される。	
第395図 PL.230	108	剥片石器 楔形石器	ほぼ完形	長 3.8 幅 3.5		厚 0.8 重 5.0		流紋岩//	表裏面に両極剥離痕が集中する。裏面には素材剥片の主要剥離面を大きく残す。縁辺部は全体的に風化によって剥落している。	
第395図 PL.230	109	剥片石器 楔形石器	41W-13 完形	長 3.5 幅 2.3		厚 1.1 重 7.9		流紋岩//	表裏面に両極剥離痕が集中する。左側面には両極加撃に伴う剪断面が認められる。	
第395図 PL.230	110	剥片石器 楔形石器	完形	長 2.8 幅 2.7		厚 1 重 8.6		流紋岩//	表裏面に両極剥離痕が集中する。左側面には両極加撃に伴う剪断面が認められる。裏面には素材剥片の主要剥離面を大きく残す。	
第395図 PL.230	111	剥片石器 楔形石器	完形	長 1.9 幅 1.5		厚 0.6 重 1.6		チャート//	表裏面に両極剥離痕が集中する。	
第396図 PL.230	112	剥片石器 スクレイパー	41R-18 完形	長 1.4 幅 4.2		厚 0.7 重 2.5		黒曜石//	弧状剥片、先端が鋭く尖り、内縁に押圧剥離により刃部を作出。	
第396図 PL.230	113	剥片石器 尖頭状石器	41W-13 ほぼ完形	長 (8.5) 幅 3.1		厚 0.9 重 21		黒色安山岩//	表面に素材剥片の主要剥離面を残す。裏面には自然面を残す。両面加工によって尖頭部を作出する。	
第396図 PL.231	114	剥片石器 打製石斧	41Q-22 完形	長 10.3 幅 4.6		厚 1.5 重 75		細粒輝石安山岩//	撥型、円刃で使用痕見られる。	
第396図 PL.231	115	剥片石器 打製石斧	41L-20 完形	長 11.2 幅 4.0		厚 2.1 重 123		変質安山岩//	短冊型、やや厚みがあり刃部は円刃。	
第396図 PL.231	116	剥片石器 打製石斧	4/5	長 (9.7) 幅 4.7		厚 1.3 重 (72)		黒色頁岩//	短冊型、表面の下半部に部分的な摩滅が認められ使用痕の可能性がある。	
第396図 PL.231	117	剥片石器 打製石斧	41V-13 破損完形	長 (11.5) 幅 (4.4)		厚 1.8 重 106		変質安山岩//	短冊型で、上位両側縁部に僅かな抉り、作りは粗く一面に自然面残る、刃部僅かに欠く。	
第396図 PL.231	118	剥片石器 打製石斧	41O-23 完形	長 10.5 幅 4.9		厚 1.3 重 84		黒色頁岩//	撥型、側縁が僅かに膨らみ円刃、基部の片面に自然面が残る。	
第396図 PL.231	119	剥片石器 打製石斧	41L-14 欠損	長 (10.0) 幅 (5.8)		厚 2.4 重 (198)		粗粒輝石安山岩//	短冊型、基部を欠く、中央に横方向の隆線、側縁部は敲打により整形、円刃で鋭利さはない、摩耗見られる。	
第396図 PL.231	120	剥片石器 打製石斧	41P-12 完形	長 5.6 幅 3.2		厚 1.0 重 23		黒色頁岩//	小型短冊型、短身で作りは粗い。	
第396図 PL.231	121	剥片石器 打製石斧	完形	長 11.9 幅 5.3		厚 1.8 重 122		細粒輝石安山岩//	両側縁上部に抉りを持つ短冊型、一面は平らな自然面残す、刃部はやや円みを持ち、使用痕顕著。	
第396図 PL.231	122	剥片石器 打製石斧	41J-21 完形	長 11.0 幅 5.1		厚 1.9 重 118		変質安山岩//	撥型、基部両側縁に浅く抉り、片面に大きく自然面残る。	
第396図 PL.231	123	剥片石器 打製石斧	41Q-9 完形	長 10.0 幅 5.5		厚 1.7 重 107		黒色頁岩//	撥型、円刃で刃部が薄く作られている。	
第396図 PL.231	124	剥片石器 打製石斧	41L-13 完形	長 11.9 幅 6.0		厚 1.0 重 95		黒色頁岩//	撥型、片側側縁部は厚く自然面残る、薄手の刃部。	
第396図 PL.231	125	剥片石器 打製石斧	41L-11 完形	長 13.9 幅 6.7		厚 1.8 重 164		黒色頁岩//	分銅型、両刃部先端が細く作られる、比較的薄手の作り。	
第396図 PL.231	126	剥片石器 打製石斧	完形	長 14.9 幅 8.0		厚 2.9 重 411		黒色頁岩//	分銅型、表面に素材剥片の主要剥離面を大きく残す。大型の横長剥片を素材とする。裏面の一部に自然面を残し円礫を利用する。表裏面の刃部付近に部分的な摩滅が認められ使用痕の可能性がある。	
第397図 PL.231	127	剥片石器 打製石斧	41Q-13 完形	長 12.9 幅 6.7		厚 2.3 重 213		黒色頁岩//	分銅型だが抉り小さく、両刃部が長く先端部円みを帯びる、中央部分肥厚。	
第397図 PL.231	128	剥片石器 打製石斧	41O-23 完形	長 11.0 幅 7.3		厚 2.2 重 167		黒色頁岩//	分銅型、両側縁の抉りは大きく弧状を呈す、刃部使用痕あり。	
第397図 PL.231	129	剥片石器 打製石斧	41N-20 欠損	長 9.4 幅 6.0		厚 1.2 重 79		黒色頁岩//	分銅型、小型で刃部はU字状を呈す、片側の刃部先端を欠損。	
第397図 PL.231	130	剥片石器 打製石斧	完形	長 15 幅 8.1		厚 3.2 重 393		細粒輝石安山岩//	分銅型、抉り深く、表裏面及び側面に摩滅が散在する。	
第397図 PL.231	131	剥片石器 打製石斧	41L-19 欠損	長 (11.6) 幅 (9.6)		厚 1.8 重 (260)		細粒輝石安山岩//	分銅型、抉りは半円状で、刃部は横に広がる円刃、片面に自然面。	
第397図 PL.231	132	剥片石器 打製石斧	41P-22 欠損	長 (11.5) 幅 (7.8)		厚 2.3 重 (202)		黒色頁岩//	分銅型、抉りは非対称で全体に粗雑な作り、片側の刃部先端部分欠損。	
第397図 PL.231	133	礫石器 磨製石斧 ミニチュア	41P-19 完形	長 4.2 幅 1.2		厚 0.55 重 6		変玄武岩//	細身の定角式、研磨成形、基部は薄く刃部状に作られる、全体に丁寧な作り。	
第397図 PL.231	134	礫石器 磨製石斧	41J-18 完形	長 5.8 幅 3.3		厚 1.0 重 34.8		変質蛇紋岩//	定角式、研磨成形、やや刃部が広がる形態。	
第397図 PL.231	135	礫石器 磨製石斧	41Q-14 完形	長 9.4 幅 5.8		厚 2.8 重 266.3		変輝緑岩//	定角式、研磨成形やや厚手で短身、側円の稜は明瞭で、基端部には未研磨部分残る、刃部使用痕。	
第397図 PL.231	136	礫石器 磨製石斧	41Q-14 完形	長 9.2 幅 5.6		厚 2.3 重 133.5		砂岩//	定角式、研磨成形、側円の稜は明瞭で、基端部には未研磨部分残る、刃部使用による片減り見られる。	
第397図 PL.231	137	礫石器 磨製石斧	41J-19 欠損	長 10.1 幅 5.5		厚 2.7 重 (281)		変質蛇紋岩//	研磨成形、両面および側縁部にやや膨らみを持つ、稜はやや不明瞭、基部、刃部は使用による欠損あり。	
第397図 PL.231	138	礫石器 磨製石斧	41R-19 ほぼ完形	長 9.0 幅 4.3		厚 2.5 重 173		変輝緑岩//	研磨による成形、側縁の稜はやや丸みを帯びる、刃部摩耗顕著、再研磨か。	
第397図 PL.231	139	礫石器 磨製石斧	41Q-19 欠損	長 (6.5) 幅 (4.1)		厚 2.7 重 (131)		変玄武岩//	基部片、研磨成形、側縁部の稜はやや丸みを持つ。	
第397図 PL.231	140	礫石器 磨製石斧	41W-7 欠損	長 (8.4) 幅 4.5		厚 (2.5) 重 (141)		変質安山岩//	小振りの磨製石斧、基部を欠き、刃部敲打により刃潰れしている。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第397図 PL.231	141	礫石器 磨製石斧	41M-20 欠損	長 (2.4) 幅 (2.6)	厚 (0.8) 重 (9)			変質蛇紋岩//	小型定角式の基部片、研磨成形、刃部が大きく開く形態か。	
第397図 PL.231	142	礫石器 磨製石斧	41P-18 欠損	長 (3.6) 幅 (3.4)	厚 1.8 重 (36)			変質蛇紋岩//	定角式の刃部片、研磨成形、側縁部の稜は明瞭で、刃部丁寧に作出。	
第397図 PL.231	143	石製品 磨製石斧か	41P-8 欠損	長 (4.0) 幅 (2.3)	厚 0.7 重 13.6			蛇紋岩//	研磨によって全体を丁寧に整形する。側縁部に擦り切り溝が残る、部分的に細かい擦痕が認められる。	
第397図 PL.231	144	礫石器 磨製石斧	41K-19 欠損	長 (3.3) 幅 (4.0)	厚 (1.8) 重 (36)			変質デイサイト//	磨製石斧の欠損品、側縁部の稜は不明瞭でやや丸みを帯びる、鉄分の付着顕著。	
第398図 PL.231	145	礫石器 磨製石斧	41M-20 欠損	長 (5.6) 幅 6.7	厚 3.2 重 (156)			変玄武岩//	大型蛤刃片。	
第398図 PL.231	146	礫石器 磨製石斧	41U-7 欠損	長 (3.3) 幅 (4.7)	厚 (1.2) 重 (22)			変玄武岩//	研磨成形、刃部片。	
第398図 PL.231	147	礫石器 磨製石斧	41O-21 欠損	長 (2.3) 幅 (4.6)	厚 (1.3) 重 (20)			変輝緑岩//	研磨成形、刃部片、使用痕顕著。	
第398図 PL.231	148	礫石器 磨製石斧	41M-20 欠損	長 (3.5) 幅 (4.5)	厚 1.4 重 (24)			変質蛇紋岩//	研磨成形、円刃部の欠損品か。	
第398図 PL.232	149	礫石器 磨石	完形	長 14.2 幅 8.7	厚 5.3 重 995			粗粒輝石安山岩//	やや不整形礫を利用、両面使用、浅い打撃により凹み穴有す。	
第398図 PL.232	150	礫石器 凹石	41U-15 完形	長 12.6 幅 9.0	厚 5.1 重 794			粗粒輝石安山岩//	表裏面の中央に凹みがそれぞれ1カ所認められる。	
第398図 PL.232	151	礫石器 磨石	41U-15 完形	長 10.3 幅 9.2	厚 5.0 重 598			粗粒輝石安山岩//	表面の中央付近に磨り面が認められる。表面の中央に僅かに敲打痕が認められる。	
第398図 PL.232	152	礫石器 磨石	41W-13 完形	長 14.2 幅 9.4	厚 3.8 重 785			粗粒輝石安山岩//	表面のほぼ全面に磨り面が認められる。	
第398図 PL.232	153	礫石器 磨石	完形	長 7.7 幅 6.4	厚 4.2 重 341			変質安山岩//	円礫を利用すると考えられる。表裏面のほぼ全面及び右側面の一部に磨り面が認められる。	
第398図 PL.232	154	礫石器 石皿	41U-15 完形	長 20.1 幅 17.5	厚 5.3 重 3004			粗粒輝石安山岩//	表裏面はほぼ平坦で磨り面が認められる。円礫を利用する。	
第398図 PL.232	155	礫石器 石皿	41R-9 不明	長 (11.8) 幅 (16.1)	厚 8.4 重 (1737)			粗粒輝石安山岩//	内面はほぼ平坦であり中央付近は非常に滑らかである。縁から側面及び底面は比較的滑らかで整っており研磨整形されていると考えられる。	
第398図 PL.232	156	礫石器 石皿	41W-11 1/2	長 (21.9) 幅 11.9	厚 9.1 重 (1913)			粗粒輝石安山岩//	表面に磨り面が認められ滑らかである。側面及び底面は曲面で構成されるが比較的整った形態であり研磨整形されている可能性がある。	
第398図 PL.232	157	礫石器 石錘	41U-13 完形	長 4.4 幅 3.2	厚 (0.8) 重 17			ホルンフェルス//	偏平な小礫利用、両端部に紐掛け部を敲打剥離により作出。	
第398図 PL.232	158	礫石器 石錘	41U-13 完形	長 5.8 幅 2.7	厚 1.0 重 27			変質安山岩//	偏平な小楕円礫利用、両端部に紐掛け溝を擦り切りにより作出。	
第399図 PL.232	159	礫石器 石棒	欠損	長 (17.1) 幅 13.0	厚 9.1 重 (2725)			デイサイト//	大型石棒の頭部片、頭部はマッシュルーム状で尖端部は円く丁寧な成形が見られる、一部を欠損している、被熱。	
第399図 PL.232	160	礫石器 石棒	41K-15 欠損	長 (13.4) 幅 (6.0)	厚 (3.7) 重 (268)			緑色片岩//	石棒の頭部片、頭端部は円く作られ、括れは強い。	
第399図 PL.232	161	礫石器 石棒	41J-17 完形	長 9.5 胴 1.2 頭 1.6	胴 1.1 頭 1.3 重 26			緑色片岩//	小型の石棒、中央がやや太く、両頭部は大きく膨らむ。	
第399図 PL.232	162	礫石器 石棒	欠損	長径 (25.9) (1.6)	厚 - 重 (220)			珪質頁岩//	ほぼ半分に割れた石棒で、両端部がやや細くなる、欠損面は平らに丁寧な研磨痕が見られることから、再利用あるいは砥石として使用していた可能性がある。	
第399図 PL.232	163	礫石器 石棒	41O-19 欠損	長 (18.4) 幅 2.6	厚 2.2 重 (285)			雲母石英片岩//	断面僅かに楕円で、頭部僅かに欠損見られるが、ほぼ平坦で弱い括れを持つ。	
第399図 PL.232	164	礫石器 石棒	欠損	長 (5.4) 幅 2.6	厚 2.1 重 (61)			緑色片岩//	研磨成形、片側がやや細くなる棒状で、断面やや楕円形、両端を欠く。	
第399図 PL.232	165	石製品 石棒	欠損	長 (5.3) 幅 (2.7)	厚 (0.8) 重 (20)			珪質頁岩//	石棒の欠損品とみられる、かまぼこ状で表面研磨痕。	
第399図 PL.232	166	礫石器 石棒	41L-15 欠損	長 (10.9) 幅 10.2	厚 9.5 重 (1925)			デイサイト//	大型石棒の欠損品、断面ほぼ円形で研磨痕、両端面にも部分的に磨痕見られる、また縁は敲打により面取りされている、再利用品か。	
第399図 PL.232	167	礫石器 石棒	41R-14 欠損	長径 (13.5) 7.8	厚 - 重 (1184)			緑色片岩//	大型の石棒の先端部片か、風化顕著で、両端部欠損。	
第399図 PL.232	168	礫石器 石棒	41W-5 欠損	長 (12.4) 幅 13.5	厚 (11.0) 重 (3100)			デイサイト//	大型石棒片、断面はやや楕円を呈す、側面部に研磨痕、両端面は再調整が見られる、再利用品か。	
第399図 PL.232	169	礫石器 石棒	41P-18 欠損	長 (8.0) 幅 (9.9)	厚 (9.2) 重 (1080)			角閃石安山岩//	短い円柱状、上面は平らで縁は面取りされている、石棒の欠損品か。	
第399図 PL.232	170	礫石器 軽石製品	41P-22 欠損	長 5.4 幅 4.0	厚 1.7 重 (10)			軽石//	不定型な軽石製品、下面は平らで使用痕あり、砥石か。	
第399図 PL.232	171	礫石器 多孔石	41R-8 完形	長 17.3 幅 16.4	厚 10.6 重 2943			粗粒輝石安山岩//	表裏面に漏斗状あるいは浅鉢状の孔が多数認められる。側面にも漏斗状の孔が僅かに認められる。その他の部分は自然面であるか判断できない。	
第399図 PL.232	172	礫石器 装身具	41R-18 欠損	長 2.3 幅 (1.4)	厚 1.0 重 3.1			葉ろう石//	勾玉、やや大きい穴が見られる、背面部欠損後に再研磨成形か。	
第399図 PL.232	173	礫石器 装身具	41J-19 完形	長 1.9 幅 1.35	厚 0.35 重 1.2			蛇紋岩//	側縁が弧状の不定方形で下辺部が薄く刃部状を呈す、両面からの穿孔による円孔あり。	

第４表　第３・４面　Ｖ区　遺構計測表
竪穴建物

区	番号	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	形状	重複	計測値 長軸×短軸×深さm	主軸方位	出土遺物	炉	埋甕	時代	備考	時期	調査年度
Ⅴ	1	41Ｓ・Ｔ－９・10	柄鏡型敷石竪穴建物	17竪	4.0×3.9×0.15	N-89° -W	土器・石器	石囲い炉、炉体土器		後期(堀之内2)	壁寄りに敷石	Ⅳ期	H28
Ⅴ	2	41Ｐ・Q-６・７	円形	20竪	5.60×5.56×0.54	N-57° -W	土器・石器	方型石囲い炉、炉体土器	逆位	中期(加E3)	埋め甕正位、平28・29年度調査、焼骨	Ⅰ期	H28・29
Ⅴ	3	41Ｓ・Ｔ－13・14	円形	11・29竪	5.80×5.72×0.40	N-68° -W	土器・石器	地床炉、炉体土器		後期(堀之内2)	11竪を縮小建て替えか・29竪より新、焼骨　３列石	Ⅳ期	H28・29
Ⅴ	4	41Ｕ・Ｖ－13～15	円形	11配石・26竪	(7.5)×(7.5)×0.2	N-81° -W	土器・石器	地床炉		後期(堀之内2)	形状、炉不明。焼骨	Ⅳ期	H28・29
Ⅴ	5	41Ｓ・Ｔ－16・17	敷石竪穴建物	28・38竪	(5.5)×4.5×0.3	N-90° -W	土器・石器	石囲い炉、炉体土器		後期(加B1)	炉の前面に敷石、焼骨　３列石	Ⅴ期	H28・29
Ⅴ	6	41Ｒ・Ｓ－19・20	不明	14・56竪	4.0×3.7×0.35	N-63° -W	土器・石器	石囲い炉		後期(堀之内2)	石囲い炉、炉の前面に石敷き、焼骨。３列石	Ⅳ期	H28・29
Ⅴ	7	41Ｓ－19	不明	69竪	4.0×3.7×0.35	N-47° -W	土器・石器	地床炉か		後期(堀之内2)	焼骨　３列石	Ⅳ期	H28・29
Ⅴ	8	41Ｖ・Ｗ－３・４	円形か		5.8×5.6×0.15	N-０°	土器・石器	地床炉、炉体土器あり		後期(称名寺)	炉、炉体土器あり、範囲不明確	Ⅲ期	H28・29
Ⅴ	9	41Ｓ・Ｔ－11・12	円形か	10竪	4.8×4.08×0.36	N-43° -W	土器・石器	地床炉か		中期	トレンチ掘削時に中期土器検出、焼骨	Ⅰ期	H28・29
Ⅴ	10	41Ｓ・Ｔ－10・11	不明	９・17竪	(5.2) × (5.2) ×0.05	N-74° -W	土器・石器	焼土		後期	焼土（９号焼土）あり、範囲、形状不明、焼骨	Ⅲ期か	H28・29
Ⅴ	11	41Ｓ～Ｕ－13・14	柄鏡か	３・29竪	7.36×7.32×0.5	N-76° -W	土器・石器	方形石囲い炉、炉体土器		後期(堀之内2)	３竪より古、焼骨　　３列石	Ⅳ期	H28・29
Ⅴ	12	41Ｑ・Ｒ－15・16	円形	36竪	5.92×4.32×0.24	N-89° -W	土器・石器	石囲い炉		後期(堀之内2)	敷石か、石囲い炉、焼骨　　５列石	Ⅳ期	H29
Ⅴ	13	41Ｑ－５	円形		(3.4) × (3.4)	―	土器・石器	不明		後期か	南側半分は過年度調査区内、外周に礫が廻る	Ⅳ期	H29
Ⅴ	14	41Ｑ・Ｒ－20・21	柄鏡か	６・42・57・61竪	(6.50) × (6.5) ×0.20	N-63° -W	土器・石器	石囲い炉か		後期(堀之内2)	外縁に礫廻る、焼骨　　３列石	Ⅳ期	H29
Ⅴ	15	41Ｒ－13・14	柄鏡か		(4.16) × (3.96)	N-88° -W	土器・石器	石囲い炉		後期	石囲い炉、奥に埋甕、焼骨	Ⅳ期	H29
Ⅴ	16	41Ｓ－17	柄鏡型敷石	39・54竪	3.8×3.7×0.15	N-99° -W	土器・石器	石囲い炉か		後期	形状、範囲不明瞭、焼骨　３列石	Ⅳ期	H29
Ⅴ	17	41Ｓ・Ｔ－10・11	不明	１・10竪	(5.35) × (5.3)	N-90° -W	土器・石器	地床炉か		中期	形状、範囲不明瞭、焼土あり、焼骨	Ⅰ期	H29
Ⅴ	18	41Ｌ・Ｍ－16・17	柄鏡型敷石	133坑	2.64×2.60×0.08	N-81° -W	土器・石器	石囲い炉		後期	張り出し部は６号列石と接合、方形石囲い、炉は壊れた状態、焼骨	Ⅲ期	H29
Ⅴ	19	41Ｋ・Ｌ－21・22	柄鏡型敷石		3.96×3.64×0.28	N-104° -W	土器・石器	石囲い炉		後期	６号列石東端、接合部に大形の平石、主体部に敷石見られず、石囲い炉、焼骨　　６列石	Ⅳ期	H29
Ⅴ	20	41Ｏ・Ｐ-７・８	円形	２・22竪	5.64×5.56×0.24	N-90° -W	土器・石器	石囲い炉	正位	中期(加Ｅ3)	円形石囲い炉（平石、円礫を組み合わせる）、埋め甕（正位）、２号竪の東に重複しこれを切っていると思われる	Ⅰ期	H29
Ⅴ	21	41Ｌ～Ｎ－22・23	柄鏡型敷石竪穴建物	33・37・45・55・59・64竪	8.90×5.48×0.4	N-92° -W	土器・石器	埋甕炉か		後期	主体部外周に礫複数列廻る、張り出し部大型円礫敷き詰める。33号竪（中期）を切る 、焼骨	Ⅳ期	H29
Ⅴ	22	41Ｏ・Ｐ-８・９	円形	20竪	4.35×4.20×0.35	N-81° -W	土器・石器	石囲い炉	逆位	中期(加Ｅ3)	20号竪の北側に位置、20竪より新、大型土器片出土、二次焼成により発泡した土器あり、下層に炭化物多く含む。焼骨	Ⅰ期	H29・30
Ⅴ	23	41Ｋ・Ｌ－21	柄鏡型敷石	19・53竪	4.48×4.40×0.2	N-110° -W	土器・石器	地床炉か		後期初頭(称名寺)	19号竪の西に位置する、一部重複か、炉は下部のみ残存、焼骨	Ⅲ期	H29
Ⅴ	24	41Ｌ・Ｍ－19	不明				土器・石器				遺物集中、竪穴建物不確定、焼骨	欠番	H29
Ⅴ	25	41Ｗ－12	円形		4.25×4.25×0.2	―	土器・石器	不明		後期	遺物集中するが竪穴建物ではない可能性大、焼骨	Ⅳ期	H29
Ⅴ	26	41Ｕ・Ｖ-13・14	円形	４・11竪	4.12×3.38×0.12	N-95° -W	土器・石器	地床炉		後期	４号竪下、中央に焼土（炉か）、焼骨	Ⅳ期	H29
Ⅴ	27	41Ｎ・Ｍ－18・19	柄鏡型敷石	51竪	5.20×3.90×0.20	N-57° -W	土器・石器	石囲い炉		中期末	北東部に平石と円礫が弧状に配される、焼骨	Ⅱ期	H29
Ⅴ	28	41Ｓ・Ｔ－16・17	柄鏡型敷石	５・38・39・49竪	6.80×6.80×0.45	N-85° -W	土器・石器	埋甕炉か		後期	５号竪の下部に位置する、壁周りに礫廻る、焼骨　３列石	Ⅳ期	H29
Ⅴ	29	41Ｓ・Ｔ－13・14	柄鏡型敷石	３・11竪	4.40×3.70×0.1	N-91° -W	土器・石器	石囲い炉		後期(堀之内1)	３号竪の掘方時に炉、炉体土器、柱穴を確認、焼骨　３列石	Ⅳ期	H29

区	番号	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	形状	重複	計測値 長軸×短軸×深さcm	主軸方位	出土遺物	炉	埋甕	時代	備考	時期	調査年度
V	30	41M・N－11	柄鏡型敷石	71竪	4.10×3.40×0.15	N-95°-W	土器・石器	地床炉		後期	一部を除き長方形に礫が廻る、中央に地床炉、底面に平石。焼骨	Ⅳ期	H29
V	31	41U・V-4・5	柄鏡型敷石		4.55×3.56×0.50	N-90°-W	土器・石器	石囲い炉		後期(称名寺1)	張り出し部に敷石、炉の手前に方形石組遺構、主体部の掘り込み深い	Ⅲ期	H29
V	32	41U－15	不明	49竪	5.0×5.0×0.1	N-90°-W	土器・石器	地床炉		中期(加E3)	11号竪の北西に位置、掘り込み不明、炉あり、17号焼土重複、焼骨	Ⅰ期	H29
V	33	41N－22・23	円形か	21・45・88竪	5.40×5.20×0.45	N-38°-W	土器・石器	石囲い炉か	逆位	中期(加E3)	21号竪に切られる、炉は掘方のみ確認。逆位の埋め甕あり、焼骨	Ⅰ期	H29
V	34	41Q・R－16・17	円形	35竪	5.0×4.9×0.05	N-44°-W	土器・石器	石囲い炉		中期	石囲い炉、35号竪に切られる、炉体土器	Ⅰ期	H29
V	35	41Q・R－17・18	柄鏡か	34竪	3.36×3.26×0.10	N-82°-W	土器・石器	石囲い炉か		後期	34号竪を切る、炉は掘方のみ	Ⅲ期	H29
V	36	41Q・R－15・16	柄鏡か	12竪	6.0×5.6×0.08	N-90°-W	土器・石器	石囲い炉か		後期	12号竪に切られ、一回り大きい、焼骨　５列石	Ⅳ期	H29
V	37	41L・M－23	円形か	21・66竪	3.80×3.70×0.20	N-14°-W	土器・石器	石囲い炉		後期か	21号竪張り出し部が重複、石囲い炉あり、焼骨	Ⅳ期	H29
V	38	41S・T－16・17	柄鏡か	５・28・39竪	4.30×4.0×0.2	N-92°-W	土器・石器	埋甕炉		後期	28号竪と重複、古い、埋甕炉、一回り小さい、焼骨　　３列石	Ⅳ期	H29
V	39	41S－16・17	円形	５・16・28・38竪	4.50×4.3×0.1	N-90°-W	土器・石器	石囲い炉か	逆位	中期	28・38号竪、５号列石に東側を切られる、奥壁寄りに埋甕、炉は３列石構築時に壊される。焼骨	Ⅰ期	H29
V	40	41O・P－22・23	円形	89竪	5.9×5.9×0.3	N-64°-W	土器・石器	石囲い炉	正位	中期	炉の半分を150坑に壊される、埋甕、小礫集中北半分は次年度調査、焼骨	Ⅰ期	H29
V	41	41Q－21・22	欠番				土器・石器				炉不明、焼骨、57号竪の上層部分で欠番とした	欠番	H29
V	42	41Q－21・22	円形か	14・57竪	5.90×4.85×0.30	N-71°-W	土器・石器	石囲い炉か		後期	炉のみ、範囲は推定	Ⅳ期	H29
V	43	41R－16	欠番				土器・石器				竪穴建物ではなく144号土坑とする	欠番	H29
V	44	41O－13	柄鏡型敷石竪穴建物		3.50×2.56×0.08	N-105°-W	土器・石器	石囲い炉		中期末	外周に小礫、石囲い炉、焼骨	Ⅱ期	H29
V	45	41M・N－23	円形	21・33竪	6.0×6.0×0.1	―	土器・石器	不明		後期	21号竪に大部分を切られる、炉は不明	Ⅳ期	H29
V	46	41L・M－24	円形	66・91竪	3.92×3.76×0.22	N-22°-E	土器・石器	石囲い炉		中期(郷土式)	石囲い炉、奥壁に石棒、焼骨	Ⅰ期	H29
V	47	41N－24	円形		3.50×3.0×0.24	―	土器・石器	地床炉		後期	北西半分は次年度に調査	Ⅰ期	H29
V	48	41N・O－21・22	柄鏡型か	50・59竪	4.50×4.20×0.05	N-82°-W	土器・石器	埋甕炉		後期	埋要炉、竪穴建物奥に敷石、焼骨	Ⅳ期	H29
V	49	41U－16	柄鏡型か	５・28・32竪	3.55×3.0×0.1	―	土器・石器	不明		中期末	28号竪に切られる、形状不明、炉と想定した部分は配石土坑の可能性あり、焼骨	Ⅱ期	H29
V	50	41N・O－21	円形	48竪	6.0×5.90×0.12	N-69°-W	土器・石器	石囲い炉		中期	48号竪下に重複、大形の石囲い炉、焼骨	Ⅰ期	H29
V	51	41N・O－19	円形	27竪	4.72×4.60×0.25	N-53°-W	土器・石器	石囲い炉		中期	27号竪下に重複、石囲い炉、炉体土器有、焼骨	Ⅰ期	H29
V	52	41P・Q－19	円形		4.40×4.0×0.18	N-81°-W	土器・石器	石囲い炉		中期	石囲い炉	Ⅰ期	H29
V	53	41L－21	円形	19・23竪	4.16×3.80×0.14	N-85°-W	土器・石器	石囲い炉	逆位	中期	23号竪に東側を着られる、炉体土器、埋め甕あり、焼骨	Ⅰ期	H29
V	54	41S－17・18	円形	16竪・３列	4.56×4.40×0.2	N-76°-W	土器・石器	石囲い炉		中期	４号列石の下、３号列石に東側を切られる、石囲い炉	Ⅰ期	H29
V	55	41M・N－21・22	柄鏡型か	21・64竪	3.72×3.52×0.20	N-88°-W	土器・石器	地床炉		後期	21号竪に切られる、炉は焼土のみ、焼骨	Ⅲ	H29
V	56	41Q・R－20	円形	６・14・61竪	3.60×3.56×0.16	N-64°-W	土器・石器	地床炉		後期	３号列石に東側を切られる	Ⅳ期	H29
V	57	41P・Q－21・22	円形	14・42竪	5.10×4.90×0.20	N-60°-W	土器・石器	石囲い炉		中期	３号列石下、炉体土器	Ⅰ期	H29
V	58	41M・N－17・18	一部張り出しか		5.56×4.56×0.20	N-103°-W	土器・石器	石囲い炉	蓋石正位	中期	石囲い炉、焼土あり、炭化物多し、礫多い、焼骨	Ⅰ期	H29
V	59	41N－21・22	柄鏡型か	21・48・55竪	3.68×3.44×0.06	N-58°-W	土器・石器	石囲い炉		中期	石囲い炉、焼骨	Ⅰ期	H29
V	60	41O・P－20	柄鏡型か	68竪	4.50×4.40×O	N-41°-W	土器・石器	石囲い炉		後期	12号配石が炉であった可能性あり、68号竪を切る、焼骨	Ⅳ期	H29
V	61	41P・Q－20	円形	57・76竪	3.84×3.80×0.52	N-47°-W	土器・石器	石囲い炉		中期	３号列石下、石囲い炉、炉石一石のみ残る。焼骨	Ⅰ期	H29
V	62	41O・P－16・17	柄鏡か	63竪	5.20×5.0×0.26	N-54°-W	土器・石器	石囲い炉		中期	63号竪の北東部に重複、石囲い炉、炉体土器。入口部に部分的な敷石、焼骨	Ⅰ期	H29

区	番号	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	形状	重複	計測値 長軸×短軸×深さcm	主軸方位	出土遺物	炉	埋甕	時代	備考	時期	調査年度
Ⅴ	63	41Ｏ・Ｐ－16	円形	62竪	4.68×4.40×Ｏ	N-60°-W	土器・石器	石囲い炉		後期か	62号竪に重複	Ⅳ期	H29
Ⅴ	64	41Ｍ－22	円形	21・55・78竪	4.80×4.70×0.10	N-72°-W	土器・石器	石囲い炉	正位	後期	石囲い炉、埋甕２基、焼骨	Ⅳ期古	H29
Ⅴ	65	41Ｌ－22	欠番								当初埋甕が見られたため遺構としたが、他の遺構に帰属す炉ことが判明、炉も見られず	欠番	H30
Ⅴ	66	41Ｌ・Ｍ－23	円形	37・86・91竪	5.0×4.50×0.15	N-68°-W	土器・石器	石囲い炉		中期	東側は削平	Ⅰ期	H30
Ⅴ	67	41Ｍ・Ｎ－19・20	円形		5.15×5.00×0.15	N-90°-W	土器・石器	石囲い炉		中期	地床炉、焼骨	Ⅰ期	H30
Ⅴ	68	41Ｏ・Ｐ－20	柄鏡型	60竪	4.25×3.55×0.25	N-70°-W	土器・石器	石囲い炉		後期(称名寺)	60号竪の下に検出、炉石は奥の１石のみ残る。周礫がほぼ一周。	Ⅲ期	H30
Ⅴ	69	41Ｒ・Ｓ－19・20	円形か	７・54竪	4.35×4.15×0.05	N-90°-W	土器・石器	地床炉		後期(称名寺)	７号竪の東に重複、焼骨	Ⅰ期	H30
Ⅴ	70	41Ｍ・Ｎ－12・13	円形	30竪	4.75×4.75×Ｏ	N-70°-W	土器・石器	石囲い炉	正位	中期	削平顕著、埋甕は一部のみ残る。	Ⅱ期	H30
Ⅴ	71	41Ｌ・Ｍ－10・11	円形	30・79竪・ 170・210坑	5.0×5.0×0.15	N-45°-W	土器・石器	地床炉	正位	後期(称名寺)	埋甕の一部は、重複する210坑内より出土、焼骨	Ⅲ期	H30
Ⅴ	72	41Ｎ・Ｏ－10	欠番								遺物集中、竪穴建物でないことが判明	欠番	H30
Ⅴ	73	41Ｌ・Ｍ－18・19	円形	75竪	5.20×5.20×0.1	N-77°-W	土器・石器	石囲い炉		後期	75竪と重複、焼骨	Ⅳ期	H30
Ⅴ	74	41Ｋ・Ｌ－20	円形	23竪・199・ 205坑	4.15×4.0×0.25	―	土器・石器	地床炉		中期	地床炉、床面に炭化物顕著	Ⅰ期	H30
Ⅴ	75	41Ｌ・Ｍ－18・19	円形	73竪・166・ 167・217坑	6.0×5.9×0.15	N-58°-W	土器・石器	石囲い炉	逆位	中期(加Ｅ3)	73竪と重複、焼骨	Ⅰ期	H30
Ⅴ	76	41Ｐ・Ｑ－20・21	円形	61竪・164、 241坑、25配石	3.80×3.60×0.15	N-38°-W	土器・石器	石囲い炉		中期	61号竪と重複、小型	Ⅰ期	H30
Ⅴ	77	41Ｊ・Ｋ－20・21	円形		5.0×5.0×0.1	N-89°-W	土器・石器	地床炉		後期(称名寺)	埋甕２基、炉（炉石無し）、焼骨	Ⅲ期	H30
Ⅴ	78	41Ｌ・Ｍ－21・22	柄鏡型か	64竪・204坑	5.5×4.3×0.15	N-60°-W	土器・石器	石囲い炉	正位	中期末	埋甕２基、石囲い炉、64号竪に切られる	Ⅲ期	H30
Ⅴ	79	41Ｌ・Ｍ－10・11	円形	71・81・82竪・ 170、210坑	4.9×4.9×0.1	N-19°-E	土器・石器	石囲い炉		中期	石囲い炉、焼骨	Ⅱ期	H30
Ⅴ	80	41Ⅰ～Ｋ－20・21	柄鏡型	197・198・202 坑	8.0×5.65×0.1	N-50°-W	土器・石器	地床炉		後期	張り出し部は大型礫を廻らす（当初30号配石）、焼骨	Ⅲ期	H30
Ⅴ	81	41Ｋ・Ｌ－11・12	円形	82竪	6.0×6.0×0.08	―	土器・石器	不明		後期(称名寺)	掘り込み浅く、壁溝廻る、柱穴のみ	Ⅲ期	H30
Ⅴ	82	41Ｋ・Ｌ－11・12	柄鏡型敷石 竪穴建物	81竪	6.4×5.0×0.62	N-89°-W	土器・石器	石囲い炉		後期(称名寺)	掘り込み深く、壁集礫廻る、一部敷石、南東半分は次年度に調査、焼骨	Ⅲ期	H30
Ⅴ	83	41Ｋ－13・14	柄鏡型敷石 竪穴建物	６列	5.1×3.4×0.1	N-102°-W	土器・石器	石囲い炉	正位	中期	壁礫廻る、石囲い炉、張り出し末端部、敷石下に埋甕。	Ⅱ期	H30
Ⅴ	84	41Ｋ・Ｌ－17	円形	６列	4.6×4.5×0.25	N-87°-W	土器・石器	石囲い炉か		中期か	６号列石下	Ⅱ期	H30
Ⅴ	85	41Ｋ－22	円形	19竪	4.6×4.6×0.25	―	土器・石器	不明		中期	６号列石、19号竪張り出しの下、炉は東側調査区外か、焼骨、黒曜石細片。	Ⅰ期	H30
Ⅴ	86	41Ｋ・Ｌ－22・23	円形	21･66竪･179坑	4.5×4.5×0.2	―	土器・石器	不明		中期	削平顕著、炉は不明。	Ⅰ期	H30
Ⅴ	87	41Ｐ－21・22	円形か	40･57竪･151･ 207･208･209･ 218･233･234坑	5.0×5.0×Ｏ	N-40°-W	土器・石器	地床炉か		中期	炉は不明瞭、掘り込み、焼土有。	Ⅰ期	H30
Ⅴ	88	41Ｎ・Ｏ－22・23	円形	21・33竪	5.5×5.5×0.25×	N-95°-W	土器・石器	石囲い炉か		中期	21・33号竪に大きく切られる。北西側および炉の残骸が残る。	Ⅰ期	H30
Ⅴ	89	41Ｏ・Ｐ－23	円形	40竪・150坑	5.75×5.20×0.1	N-47°-W	土器・石器	石囲い炉か	正位	中期	埋め甕（鉢）、焼骨	Ⅰ期	H30
Ⅴ	90	41Ｑ・Ｒ－17	円形	34・35竪	5.2×5.2×0.1	N-49°-W	土器・石器	石囲い炉か		中期	34号に重複、建て替えか。炉の掘方、炉体土器残る。	Ⅰ期	H30
Ⅴ	91	41Ｌ・Ｍ－23・24	円形	46・66竪	6.0×6.0×0.28	N-59°-W	土器・石器	石囲い炉か		中期	46号竪の下に検出、焼骨	Ⅰ期	H30
Ⅴ	92	41Ｐ・Ｑ－17	円形	５列･243･246 坑	4.0×4.0×0.25	N-80°-W	土器・石器	石囲い炉か		中期	５号列石下部に位置する。炉は掘方下部のみ。	Ⅰ期	H30

土坑

区	番号	グリッド	重複	形状	計測値 長軸×短軸×深さ	主軸方位	期	時代	備考
V	90	41W-2		隅丸方形	82×60×46	N-74°-E	Ⅲ	後期	焼骨片
V	92	41W-2		不正長円	92×45×51	N-30°-E		後期	
V	93	41T-9		長円形	89×69×7	N-71°-E		後期	
V	94	41U-11		長円形	145×111×41	N-6°-E	Ⅳ	後期	
V	121	41T-15	17焼土面	長円形	115×65×13	N-54°-W		後期	17焼土面と重複、焼骨片
V	126	41U-15	32竪	円形	96×(68)×26	N-27°-W	Ⅳ	後期	土器、炭化物、焼土、焼骨
V	128	41V-13		円形	113×108×37	N-16°-E	Ⅳ	後期	遺物なし
V	131	41M-14・15		不定形	140×96×16	N-40°-E	Ⅳ	後期	大形礫、炭化物、焼骨
V	132	41M-12		長円形	88×76×52	N-13°-E	Ⅳ	後期	土器、焼骨片、礫
V	133	41M-16	18号竪を切る	長円形	206×108×28	N-20°-E	Ⅳ	後期	土器
V	134	41M-12		円形	170×161×21	N-69°-W	Ⅳ	後期	中央にほぼ完形の土器
V	135	41O-7	20竪の東に重複、これを切る	円形	162×130×82	N-60°-E	Ⅲ	後期	土器、土製円盤
V	136	41N-19	27竪内に重複、これを切る	円形	120×120×19	-	Ⅳ	後期	土器片
V	137	N-18		長円形	42×36×35	N-93°-E	Ⅳ	後期	上縁部に大型打製石斧出土
V	138	41Q-21	42・57竪・231坑	長円形	128×93×27	N-73°-W	Ⅳ	後期	土器片、石鏃、磨製石斧出土
V	139	41O-16		不定形	108×(60)×14	N-52°-W	Ⅳ	後期	焼土、炭化物、焼骨片
V	140	41R-13		円形	105×91×8	N-35°-W	Ⅳ	後期	礫、炭化物
V	141	41O-22	48竪	円形	52×48×24	N-15°-E	Ⅳ	後期	土器片、石鏃
V	142	41O-23	40・88竪 157坑	長円形	122×89×16	N-88°-W	Ⅳ	後期	土器片
V	143	41N・O-11		長円形	107×84×65	N-45°-E	Ⅳ	後期	無文大型深鉢、石鏃
V	144	41R-16	43竪	不定形	236×90×67	N-28°-E	Ⅲ	後期	大型土器片
V	145	41R-17	34・35・90竪	長方形	107×80×36	N-42°-E	Ⅳ	後期	土器小片
V	146	41P-22	87竪	隅丸方形	93×92×33	-	Ⅳ	後期	焼土、土器片、磨製石斧、87竪の炉
V	147	41P-21		円形	65×60×13	-	Ⅳ	後期	土器片、石鏃
V	148	41S-17	16竪	円形	70×65×57	N-25°-W	Ⅳ	後期	土器片、土製円盤
V	149	41Q-22	42竪	長円形	70×51×19	N-47°-E	Ⅳ	後期	土器片
V	150	41O・P-23	40・89竪	円形	125×（81）×77	-	Ⅳ	後期	土器、炭化物、焼骨片、石鏃複数、石鏃、礫
V	151	41P-21・22	57・87竪 207坑	長円形	152×91×26	N-49°-E	Ⅳ	後期	ほぼ完形の土器、炭化物、焼骨片、礫
V	152	41Q-19	52竪	長方形	64×54×13	N-7°-W	Ⅳ	後期	土器少量
V	153	41S-18・19		円形	108×102×17	N-15°-W	Ⅳ	後期	土器、石器
V	154	41Q-18		長円形	80×63×19	N-17°-W	Ⅱ	中期	集石土坑（丸石、多孔石含む）
V	155	41P-20		円形	120×103×28	N-30°-W	Ⅳ	後期	礫、土器片
V	156	41P-20	60・68竪	円形	112×99×51	N-46°-E	Ⅳ	後期	礫、土器片
V	157	41O-23	142坑	長円形	87×63×49	N-23°-E	Ⅳ	後期	土器片、石器
V	158	41R-20	6・56竪	長円形	68×57×49	N-81°-W	Ⅳ	後期	土器片、石器
V	159	41P・Q-21	151坑	隅丸方形	53×49×52	N-64°-W	Ⅳ	後期	
V	160	41O-20	60・68竪	円形	148×139×54	N-17°-E	Ⅳ	後期	大型礫混入
V	161	41M-22	55・64・78竪	円形	83×74×29	-	Ⅰ	中期	
V	162	41Q-20	56・61・76竪	円形	60×55×74	-	Ⅳ	後期	土器片、石鏃
V	163	41M-13		円形	112×111×26	-		後期	土器片、石皿片
V	164	41P-20	61・76竪	長円形	102×71×31	N-10°-E	Ⅰ	中期	土器片、石鏃
V	165	41Q-19	1配石土坑	円形	59×（49）×49	N-29°-E	Ⅳ	後期	土器片
V	166	41L・M-19	73・75竪	円形	190×190×66	N-29°-E	Ⅳ	後期	大型土器片、注口土器。中期土坑との重複
V	167	41L-19	73・75竪	円形	100×95×65	-	Ⅳ	後期	土器片、凹石
V	168	41L-19		円形	70×64×30	-	Ⅳ	後期	
V	169	41Q-19	52竪	長円形	115×63×27	N-16°-W	Ⅰ	中期	大形深鉢、石鏃
V	170	41L-11	71・79竪	円形	109×106×42	-	Ⅳ	後期	土器片、石鏃
V	171	41N-21	71・79竪 177坑	長円形	134×96×43	N-O°	Ⅴ	後期	土器
V	172	41O-13		円形	166×146×71	-	Ⅰ	中期	土器片、後期含む
V	173	41R-19・20		円形	128×122×43	-	Ⅴ	後期	完形土器、注口、打製石斧、石匙
V	174	41R・S-19	69竪	円形	97×90×18	-	Ⅳ	後期	土器片
V	175	41L-19		長円形	134×74×29	N-14°-E	Ⅳ	後期	土器片
V	176	41O-12・13		円形	118×110×72	-	Ⅳ	後期	
V	177	41L・M-11	71・79竪 210坑	円形	111×97×75	N-22°-W	Ⅳ	後期	210土と重複、土器片、石鏃、石錐、磨石、多孔石
V	178	41N-10	72竪	長円形	170×116×28	N-52°-W	Ⅳ	後期	土器片
V	179	41K・L-22・23	86竪 236坑	長円形	185×（159）×31	-	Ⅰ	中期	236土と重複、土器片
V	180	41L-13		円形	95×93×32	N-79°-W	Ⅳ	後期	土器片、凹石
V	181	41M-11・12	70竪	長円形	148×84×54	N-72°-W	Ⅲ	後期初頭	土器片
V	182	41M-14		長円形	121×90×34	N-40°-W	Ⅰ	中期	土器片
V	183	41M-15		円形	83×72×29	N-13°-E	Ⅰ	中期後半	土器片
V	184	41L-12		長円形	180×133×15	N-30°-E	Ⅰ	中期後半	土器片、打製石斧、石鏃
V	185	41K-13		円形	84×77×19	N-12°-W	Ⅳ	後期	土器片
V	186	41O-8・9	192坑	長円形	122×98×26	N-76°-W	Ⅳ	後期	192坑と重複、土器片
V	187	41M-18	73・75竪	円形	81×75×25	N-42°-W	Ⅳ	後期	土器片
V	188	41O-13		円形	79×72×42	N-81°-W	Ⅳ	後期	土器片
V	189	41P-15		円形	125×120×53	N-O°	Ⅳ	後期	土器片
V	190	41O-20	50・60・68竪 242坑	円形	102×98×34	N-70°-W	Ⅳ	後期	土器片
V	191	41Q-19		長円形	85×73×29	N-25°-E	Ⅳ	後期	土器片
V	192	41O-8・9	186坑	円形	110×102×	N-32°-W	Ⅳ	後期	縁に大型石棒
V	193	41Q-21	57・61・76竪　25配石	円形	78×（60）×21	-		後期	石鏃

区	番号	グリッド	重複	形状	計測値 長軸×短軸×深さ	主軸方位	期	時代	備考
V	194	41P-21	57竪 207坑	長円形	107×82×22	N-82°-E	Ⅰ	中期	後期土器1片混入
V	195	41M-11	71竪	円形	79×68×28	N-63°-E	Ⅰ	中期	土器片
V	196	41J-19		長円形	178×124×27	N-83°-E	Ⅳ	後期	小型深鉢、土器片
V	197	41J-18・19	80竪	長円形	99×75×18	N-75°-W	Ⅳ	後期	土器片
V	198	41J-18	80竪 202坑	不定形	139×130×50	N-0°	Ⅳ	後期	鉢型土器、石鏃、磨石
V	199	41K-20・21	74竪	円形	116×106×31	N-54°-W	Ⅳ	後期	土器片、多孔石
V	200	41M・N-19		不定形	106×75×61	N-32°-E	Ⅳ	後期	土器片
V	201	41N-19		円形	87×85×60	N-31°-W	Ⅳ	後期	土器片、凹石
V	202	41J-18	80竪 198坑	円形	114×（43）×35	-	Ⅳ	後期	土器片
V	203	41K-15		長円形	279×146×26	N-37°-W	Ⅳ	後期	土器片
V	204	41M-22	78竪	長方形	110×70×37	N-55°-W	Ⅳ	後期	土器片
V	205	41L-20	74竪	円形	103×87×46	N-88°-W	Ⅰ	中期	土器片、打製石斧
V	206	41I-16		長円形	208×78×23	N-82°-E	Ⅳ	後期	土器片
V	207	41P-21	57・87竪 151・194坑		118×（82）×22	-	Ⅳ	後期	土器片
V	208	41P-21	57・87竪 224坑	長円形	122×99×56	N-7°-W	Ⅳ	後期	土器片
V	209	41P-21・22	87竪	円形	95×91×57	N-45°-E	Ⅳ	後期	土器片
V	210	41L・M-11	71竪 177坑	円形	168×165×146	N-35°-W	Ⅲ	後期初頭	大型土器片（71竪の埋甕）、多孔石
V	211	41P-21	57竪	隅丸方形	82×70×61	N-87°-E	Ⅰ	中期	土器片
V	212	41O-10	72竪	円形	101×86×35	N-67°-W	Ⅰ	中期	土器片
V	213	41O-10	72竪 229土	不定形	151×92×53	N-2°-W	Ⅳ	後期	土器片、石鏃
V	214	41I-19	222坑	隅丸方形	75×73×42	-	Ⅳ	後期	土器片
V	215	41N-10	72竪	円形	165×144×51	N-66°-W	Ⅳ	後期	土器片
V	216	41L・M-16	18竪	隅丸方形	61×57×51	-	Ⅰ	中期	土器片、打製石斧
V	217	41M-19	75竪	長方形	131×90×33	N-30°-E	Ⅳ	後期	土器片
V	218	41P-22	87竪	長円形	80×69×47	N-67°-E	Ⅰ	中期	土器片
V	219	41L-11	調査区外にかかる		（104）×（78）×47	-		不明	
V	220	41O-9・10		隅丸方形	213×202×31	N-16°-W	Ⅰ	中期	土器片
V	221	41N-9		円形	73×71×34	N-15°-E	Ⅳ	後期	土器片
V	222	41I-19	214坑	長円形	116×97×16	N-70°-W	Ⅳ	後期	土器片
V	223	41O-9		長方形	87×68×25	N-15°-W	Ⅳ	後期	土器片
V	224	41P-21	87竪 208坑	円形	65×（41）×61	N-18°-W	Ⅳ	後期	土器片
V	225	41O-9		長円形	58×43×21	N-20°-W	Ⅲ	後期	土器片
V	226	41N-10	72竪	長円形	67×46×22	N-86°-E	Ⅳ	後期	土器片
V	227	41N-9・10		円形	126×109×19	N-40°-W	Ⅳ	後期	土器片
V	228	41M-9・10		円形	（144）×（140）×42	-	Ⅱ	中期末	土器、石鏃、磨石
V	229	41O-10	72竪 213坑	長円形	50×（25）×29	-		不明	
V	230	41N-18	232坑	円形	93×92×52	N-0°	Ⅳ	後期前半	土器片
V	231	41Q-21	57竪	長円形	138×95×46	N-80°-E	Ⅰ	中期後半	土器片
V	232	41M-18	230坑	円形	72×71×34	-		不明	
V	233	41P-22	87竪	長円形	80×58×56	N-65°-W	Ⅰ	中期	土器片
V	234	41O-21・22	48・50・87竪	円形	119×114×57	N-0°	Ⅰ	中期後半	大型土器片
V	235	41O-21	48・50竪	円形	80×76×64	-	Ⅳ	後期	土器片
V	236	41K-22・23	86竪 179坑	円形	108×91×21	N-17°-E	Ⅰ	中期後半	土器片
V	237	41K-19		円形	93×82×19	N-20°-E	Ⅰ	中期	土器片
V	238	41L-24	46・91竪	円形	93×77×29	-	Ⅲ	後期	土器片
V	239	41Q-13		長円形	68×49×76	N-85°-E	Ⅲ	中期末	土器片、打製石斧
V	240	41L-23	66竪	長円形	118×81×31	N-42°-W	Ⅲ	後期	大型土器、打製石斧出土
V	241	41P-20	61・76竪	円形	68×62×57	N-66°-W	Ⅲ	後期	
V	242	41O-20・21	50・68竪 190坑	円形	82×（66）×40	N-14°-W	Ⅳ	後期	土器片
V	243	41Q-17・18	92竪	円形	112×108×46	N-55°-W	Ⅲ	後期	土器
V	244	41P-15		円形か	95×（59）×23	-		中期	石鏃、礫
V	245	41Q-17	34・90竪	長円形	156×96×54	N-81°-W	Ⅳ	後期	大型土器片
V	246	41Q-17	92竪	長円形	115×70×31	N-20°-E	Ⅱ	中期	土器片
V	247	41N-19		長円形	82×63×42	N-77°-E		不明	トレンチ内にて確認

列石

区	番号	グリッド	形状	規模（現状） 長さ×幅×高さ(m)	方位	時代	遺物	備考
V	1	41U・V-15	弧状	5.0×0.5×0.3	N-100°-W	縄文後期	土器、石器	4号竪穴建物の壁際に巡ることから、竪穴建物の一部と考えられる。
V	2	41T・U-15	弧状	3.5×0.8×0.3	N-26°-E	縄文後期	土器、石器	4号竪穴建物の基部に在り、左右に延びる付帯構造の列石と考えられる。
V	3	41Q~S-9~20	弱い弧状	46×2.0×1.1	N-5°-E	縄文後期	土器、石器	長さ46m、比較的大型の礫を使用、竪穴建物、配石多く付帯する、4号列石付随。南端部は残りが悪く、直線的となる。北側に配石多く見られる。
V	4	41R・S-18・19	弧状	7.0×0.8×0.3	N-25°-E	縄文後期	土器、石器	長さ7m、3号列石の北端に接する、西側へ弧状に延びる。
V	5	41O~Q-9~19	弱い弧状	42×2.0×1.0	N-6°-E	縄文後期	土器、石器	約42m、比較的大型礫を使用する、中央から南端部は一部直線的、南端部寄りに鉤状の張り出し構造あり、その先は狭く直線に延びる。北端部風倒木による攪乱あり
V	6	41K・L-12~22	弧状	40×2.5×0.7	N-4°-E	縄文後期	土器、石器	約40m、川原石を比較的傾斜を緩く構築、一部礫が途切れ、東端部分は直線的に並ぶ、別遺構か。3、5号列石に比し、用いられた礫はやや小ぶりである。時期的に古く位置付けられる
V	7	41I・J-18	—	—	-	縄文後期	土器、石器	欠番、排水トレンチで確認、当初列石としたが、最終的に31号配石とした。
V	8	41S・T-6~7	ほぼ直線	5.0×0.7×0.3	N-6°-E	縄文後期	土器、石器	直線的、前後の地山に段差が見られることから、当初は南北に延びていた可能性がある。

配石

区	番号	グリッド	形状（形態）	規模（現状）長さ×幅×高さ(m)	方位	時代	備考
V	1	41Q-20	丸石	1.1×0.8×0.25	N-77° -W	後期	3号列石に付帯、円礫を中心に置く
V	2	41Q-19・20	丸石	0.9×0.85×0.3	N-52° -W	後期	3号列石に付帯、下部に1号配石土坑検出。円礫を中心に置く、奥に蓋石あり。
V	3	41R-19	立石	1.15×0.7×0.3	-	後期	3号列石に付帯、立石が北東にずれている。
V	4	41R-18	丸石	1.5×1.1	N-95° -W	後期	3号列石に付帯、小石が丸石の周りに詰められている
V	5	41R-18	立石	0.8×0.75×0.9	N-69° -W	後期	3号列石に付帯、立石、周囲を方形に石を回す。
V	6	41R-17	立石	1.1×0.7×0.6	N-89° -W	後期	3号列石に付帯、方形に礫を回す、手前に扁平な川原石
V	7	41R-15	立石	1.1×0.85×0.6	N-84° -W	後期	3号列石に付帯、礫で囲う、立石は直立状態で検出、手前に平らな石を据える
V	8	41R-14	集礫	0.75×0.70×0.50	-	後期	やや乱雑に集石、下部に土坑
V	9	41Q-10	集礫	1.15×0.75	—	後期	やや離れて川原石を据えている
V	10	41Q-9・10	立石	0.95×0.75×0.2	N－14°－W	後期	方形に礫を回す
V	11	41V・W-14	長円形	(1.5) ×2.0×0.75	N－78°－W	後期	4号竪穴建物内（敷石竪穴建物の張り出し部または配石土坑の可能性あり）大形平石を壁とする。上部に扁平の大形礫載る。
V	12	41Q-20	石囲い炉	0.52×0.5×0.25		欠番	1面に平石を立てる、60号竪穴建物の炉とした
V	13	41R・S-14・15	立石	1.55×1.13	N－85°－W	後期	3号列石に付帯、立石、手前に平石
V	14	41Q-19	丸石	1.12×0.67	N－35°－W	後期	3号列石に付帯、中央に丸石を置き周囲を礫で囲む
V	15	41R・S-19	立石	0.6×0.45	—	後期	4号列石内、立石か
V	16	41R-19	立石	0.5×0.45×0.25	—	後期	4号列石中にあり、立石か
V	17	41R-12	丸石	0.82×0.62	N－115°－W	後期	3号列石に付帯、円礫を囲う
V	18	41Q-19	方形石組	0.80×0.48	—	後期	3号列石に付帯、平石を四角に配す
V	19	41N-20	列状	4.38×1.80	N－13°－E	後期	5号列石の北端に並行、川原石を列状に配す
V	20	41R-18	立石	0.72×0.70×0.35	—	後期	3号列石に付帯、立石（角礫）
V	21	41R-13	立石	0.50×0.42	—	後期	3号列石に付帯、やや細長い立石の脇に礫
V	22	41Q-14	立石	0.70×0.30×0.4	—	後期	5号列石内、大形立石か
V	23	41Q-15	大型礫	0.22×0.18	—	後期	5号列石内、角礫の立石が倒れた状態
V	24	41L-16	立石	1.95×1.30	N－75°－W	後期	6号列石内、18号竪穴建物の張り出し部前面に位置、大形角礫の周囲に川原石を廻らす
V	25	41Q-20・21	集礫	1.24×0.35	N－65°－W	後期	3号列石北端部に位置、扁平な礫を重層に立てる、北側は壊されている下部に掘り込み
V	26	41N・O-9	大形角礫	3.65×1.52	N－78°－W	後期	並行する石列と、一対の立石、埋甕伴うか
V	27	41K-12	礫を廻らせ中に小礫	1.88×1.78	N－59°－W	後期	6号列石の南端部に検出、礫で囲んだ中に川原石
V	28	41K-16	方形	1.60×1.55	N－31°－W	後期	ほぼ方形に礫を配す
V	29	41I-17	ほぼ円形	2.32×2.0×0.4	N－107°－W	後期	ほぼ円形にやや大きな平たい礫を敷き、西端に立石
V	30	41J-17・18	ほぼ円形	3.0×2.8	—	欠番	欠番。大形の角礫含む礫をやや楕円形に配す、80号竪穴建物の張り出し部とした
V	31	41I・J-18	不定形	1.10×1.0	N－99°－W	後期	扁平な礫を不定形に敷く、さらに北東へ延びている可能性あり

配石土坑

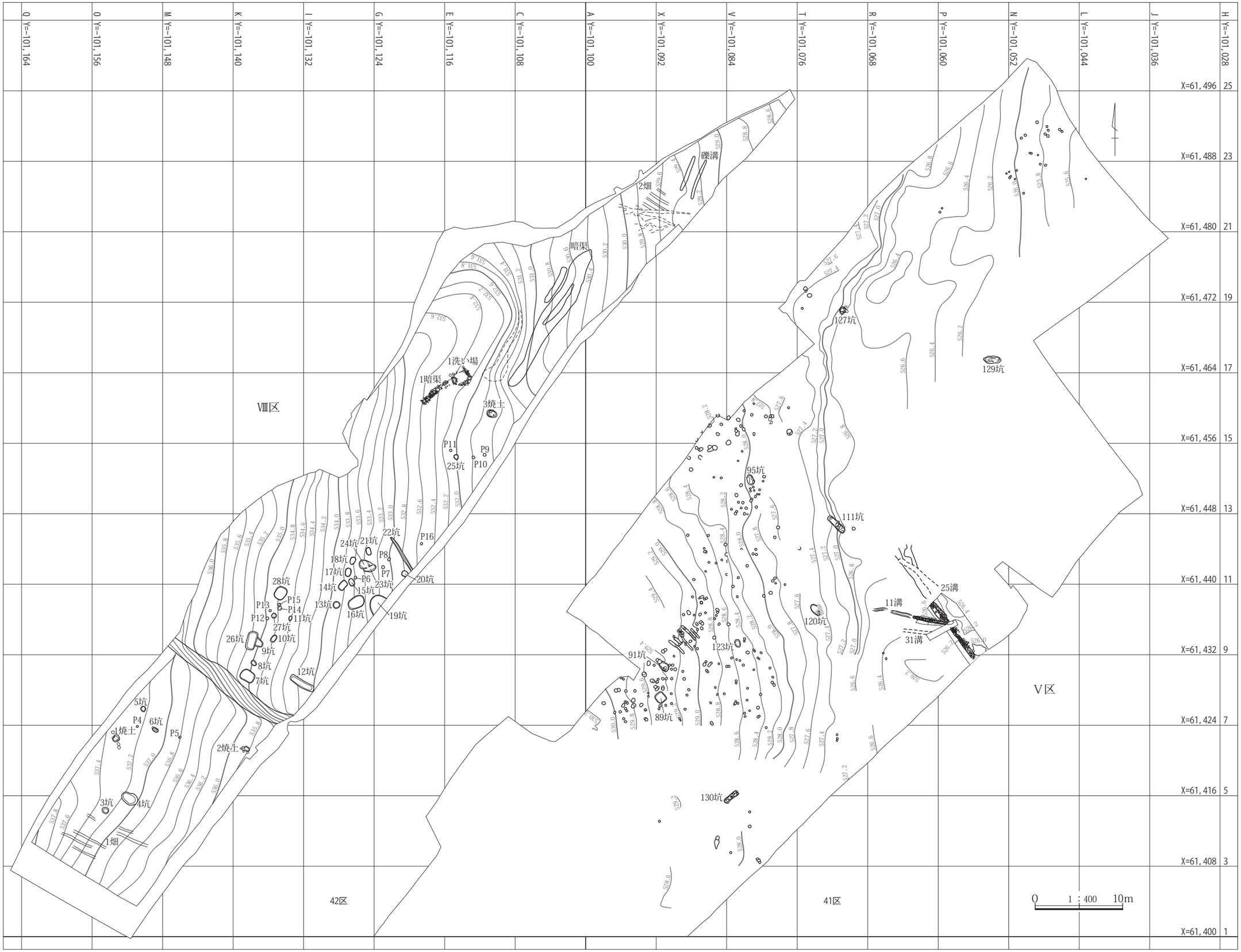
区	番号	グリッド	重複	形状	計測値 長軸×短軸×深さ	主軸方位	時代	備考
V	1	41Q-19・20	2号配石	長方形	1.9×1.0×0.4	N-40° -W	後期	2号配石下、西側に蓋状に石が置かれる。壁面に礫を縦並べる、土器片
V	2	41J・K-20	77号竪穴建物	長円形	1.9×1.0×0.3	N-43° -W	後期	部分的に礫巡る、２基の重複土坑

埋甕

区	番号	グリッド	形状	時代	遺物	備考
41	1	41O-15	正位	後期	深鉢胴部	口縁部、胴下半部欠損、胴部が廻る

焼土

区	番号	グリッド	重複	形状	計測値 長軸×短軸×深さ	主軸方位	時代	遺物	備考
5	9	41S-11	10竪穴建物	不定形	1.0×0.8×0.2		縄文		10号竪穴建物の炉
5	10	41T・U-15・16	32竪穴建物	不定形	0.98×0.59×0.16	N-0°		土器片	
5	11								欠番
5	12								欠番
5	13	41S-10	1号竪穴建物、120号土坑	不定形	1.32×0.9×0.1	N-5°-W			
5	14			長円形			縄文		欠番か
5	15	41M－15・16	なし	隅丸長方形	1.54×0.65×0.12	N-47°-E	縄文	焼骨片、礫	
5	16	41M－13	なし	不定長円形	2.55×1.4×0.22	N-5°-W	縄文	中期土器片、角礫	
5	17	41T－15	32竪穴建物	不定形	1.52×1.0×0.1	N-65°-W	縄文		
5	18	41Q－21	14・42竪穴建物	円形	0.58×0.5×0.08		縄文	石鏃	
5	19	41J－20	77竪穴建物	長円形	1.36×1.3×0.1		縄文	土器片、焼骨、角礫	
5	20	41I－18	80竪穴建物張り出し部下	長円形	(1.25) ×1.1×—	N-72°-W	縄文	土器片、石鏃	80住の張り出し部（30号配石）重複、炉の可能性あり



第400図　Ⅴ・Ⅷ区第２面全体図

第２節　Ⅴ・Ⅷ区第２面から発見された遺構と遺物

１　Ⅴ区から発見された遺構と遺物

Ⅴ区については、平成29・30年度調査において、未調査となっていた一部分の調査を行った。その結果、前回調査において確認した遺構の続き部分を検出した。

また、東宮遺跡（４）2018、において一部記載漏れがあった遺物についても報告する。Ⅷ区については、平成29年度、令和元年度調査の報告を行うが、令和和元年度調査分については、全体図のみを掲載、詳細については次報告とする。

Ⅴ区

１面で調査を行った電柱敷部分の２面、および29年度追加調査において検出された土坑、ピット等の報告である。

遺構番号は28年度時の番号である。なお、28年度調査実施部分については、東宮遺跡（４）2018で報告済みである。

（１）溝

平成28年度調査で検出した11号溝の延長部分、および25、26号溝の合流部分を検出し調査を行った。

28年度調査で検出した11号溝の延長部分、および25、26号溝の合流部分を検出し調査を行った。

11号溝（第401・420図、PL.233. 249）
位置　41Ｐ～Ｕ―10グリッド。
重複　21号溝と交差し25号溝に合流。
平面形状　ほぼ直線状。
主軸方位　Ｎ－80°－Ｗ。
規模　3.45m（全長15.0m）、幅0.4m、深さ0.24m。
埋没土層　茶褐色土主体、小礫混入層が確認された。
遺物　陶器椀。
所見　平成28年度調査で２面において検出した11号溝の続き部分である。角礫を並行して並べ、上を覆うように大小の角礫を載せた暗渠構造を示す。東端部は25・26号溝につながり、連結部には長さ70ｃｍ、幅38ｃｍ程の平石が載せられた状況を確認した。

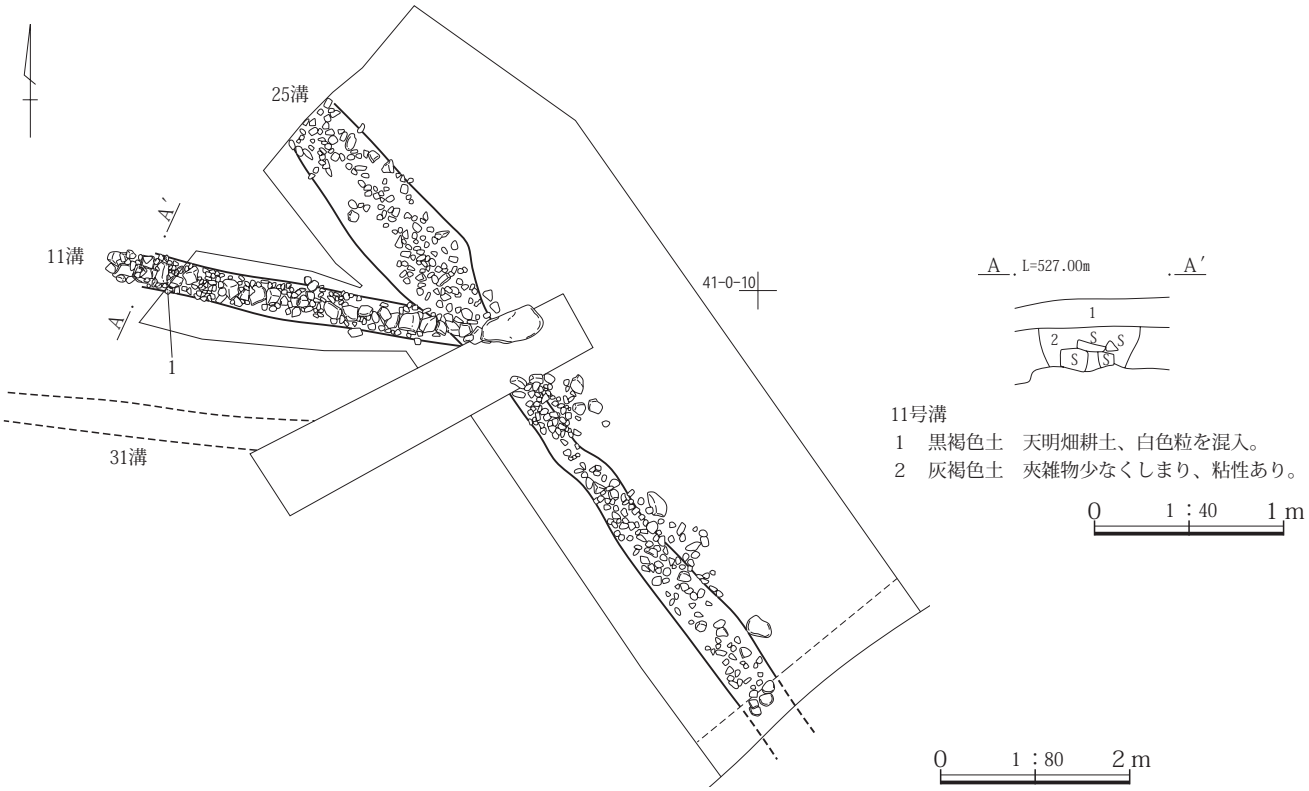
25号溝（第401・420図、PL.233・249）
位置　41Ｔ・Ｕ－16グリッドを起点に41Ｌ－９グリッド。
重複　26号溝、11号溝が合流。
平面形状　ほぼ直線状。
主軸方位　Ｎ－35°－Ｗ。
規模　8.3m（全長30m）、幅0.26 ～ 1.40m、深さ0.34m。
埋没土層　黒褐色土主体、礫多く含み粘性有り。
遺物　内耳鍋片。
所見　28年度調査で２面において検出した25号溝の東端部である。１面１号溝の下に位置し、地山礫が詰め込まれた状況が窺える。連結する11号溝が暗渠と考えられることから、本溝も礫を集積した暗渠機能を有していたものと考えられる。

26号溝（第401図、PL.233）
位置　41Ｔ－16グリッド起点に41Ｌ－９グリッド。
重複　25号溝と合流。
平面形状　ほぼ直線状。
主軸方位　Ｎ－30°－Ｗ。
規模　4.38m（全長27m）、幅0.22 ～ 1.5m、深さ0.13m。
埋没土層　角礫多く含む黒色土主体の単層、やや粘性あり。
遺物　無し。
所見　25号溝の東に並行して作られている。やはり、平成28年度に検出した溝の延長部である、南東部が部分的に残っていた状況で、北西部は狭く、南東部が広がる、残存する最大上幅は約80ｃｍである。また、本溝は１面１号溝のほぼ直下に位置し、１号溝の南に並行する平坦面（３号道）直下に位置している。25号溝同様、暗渠として機能していたと考えられる。

31号溝（第401図）
位置　41Ｐ－９グリッド。
重複　無し。
平面形状　直線状。
主軸方位　Ｎ－80°－Ｗ。
規模　全長（3.0）m、幅約0.4m、深さ0.1m。
埋没土層　角礫含み、黒褐色土主体でやや粘性あり。

遺物　無し。

所見　天明畑の耕作面下浅いところで確認された。11号溝の南に約1.5m離れてほぼ並行する。上幅約0.4mで礫が乱雑に並ぶように検出された。確認した長さは３m程で、28年度の調査区内では確認されていない。掘り込みも畑耕作面から浅く、残りも極めて部分的であり、全容は不明である。



第401図　Ⅴ区11・25・31号溝

（2）土坑

平成28年度の調査において、２面および３面で検出した土坑のうち、東宮遺跡（４）において未報告であったもの、および29年度調査のうち、２面に帰属すると思われる９基について報告する。遺構の帰属時期については中世～江戸時代と思われる。

89号土坑（第402図、PL.233）

位置　41区W－７グリッド。

重複　無し。

平面形状　隅丸方形。

主軸方位　N－35°－W。

規模　長軸1.18m、短軸1.1m、深さ0.41m。

埋没土層　灰褐色土主体、地山小礫多く含む。

遺物　無し。

所見　２面において確認した。隅丸方形で底面も平坦である、遺物は見られないが中世以降と考えられる。

91号土坑（第403・421図、PL.233・249）

位置　41W－８グリッド。

重複　無し。

平面形状　不定長円形。

主軸方位　N－45°－W。

規模　長軸1.81m、短軸0.82m、深さ0.58m。

埋没土層　黒褐色土主体。

遺物　内耳鍋片。

所見　礫が乱雑に投げ入れられた状況を示す、焼骨片、炭化物を僅かに含む、出土遺物、埋土の状況から中世以降の所産と判断される

95号土坑（第403図、PL.234）

位置　41区Ｕ－13・14グリッド。

重複　11・25号竪穴建物を切る。

平面形状　楕円形。

主軸方位　N－19°－W。

規模　長軸1.2m、短軸0.7m、深さ0.38m。

埋没土層　黒褐色土主体。
遺物　縄文期の遺構を壊して構築されているため、混入とみられる縄文土器片が多く出土。
所見　掘り込みラインが不明確で、壁面に縄文期の竪穴建物の周礫が見えるため、明確な土坑とは言えない。

111号土坑（第404図、PL.234）
位置　41Ｒ・Ｓ－12グリッド。
重複　18号溝と重複。
平面形状　長方形。
主軸方位　Ｎ－45°－Ｗ。
規模　長軸2.48m、短軸0.68m、深さ0.26m。
埋没土層　黒褐色土主体。礫を多く含む。
遺物　無し。
所見　東宮遺跡（４）にて報告の18号溝東端部下面に位置、３号列石上位に在り、下部に縄文時代の列石上部が露出。18号溝の掘方の可能性有り、時期は近世。

120号土坑（第404図、PL.234）
位置　41Ｓ－10グリッド。
重複　11号溝、13号焼土。
平面形状　長方形。
主軸方位　Ｎ－52°－Ｗ。
規模　長軸（0.8）m、短軸0.94m、深さ0.1m。
埋没土層　暗茶褐色土主体で部分的に焼土見られる。
遺物　無し。
所見　13号焼土と重複するが、関連は不明である。底部に焼土点在、時期は中世以降。

123号土坑（第404図、PL.234）
位置　41Ｕ－９グリッド。
重複　68号土坑。
平面形状　長円形。
主軸方位　Ｎ－20°－Ｗ。
規模　長軸0.9m、短軸0.65m、深さ0.41m。
埋没土層　締まった粗粒土、灰褐色土主体。
遺物　無し。
所見　（Ⅳ）にて報告の２面68号土坑（近世）の下部に位置、掘り残しの可能性がある。

127号土坑（第405図、PL.234）
位置　41Ｒ－18グリッド。
重複　無し。
平面形状　円形。
主軸方位　Ｎ－11°－Ｗ。
規模　長軸0.71m、短軸0.7m、深さ0.46m。
埋没土層　大小の角礫が入り込んでいた、黒褐色土主体で粗粒。
遺物　無し。
所見　中央にやや大きな角礫が見られ、周囲にやや小振りの石が入り込んでいた。人為的に入れたものと考えられる。時期は近世。

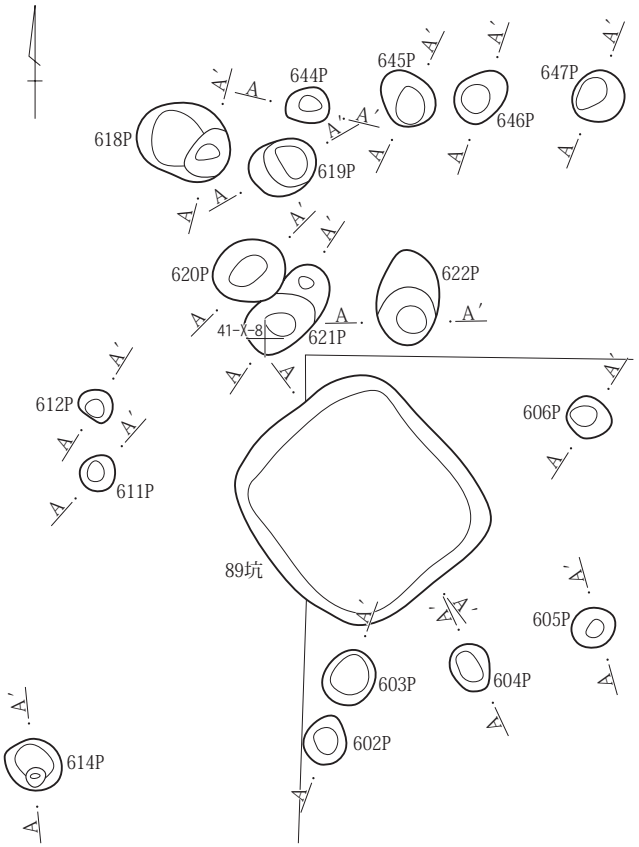
129号土坑（第405図、PL.234）
位置　41Ｎ－17グリッド。
重複　853号ピットが重複。
平面形状　長円形。
主軸方位　Ｎ－11°－Ｗ。
規模　長軸1.99m、短軸0.8m、深さ0.5m。
埋没土層　暗褐色土で大小の焼土ブロックが混在、やや粘性有り、炭化物、焼骨も僅かに見られる。
遺物　焼けた礫、炭化物および焼骨が出土、また混入品と思われる縄文土器片が僅かに出土。
所見　良く焼けた焼土がブロック状に混入、また一部壁面に焼土。 壁面立ち上がりがややオーバーハングする。やや大型の被熱した円礫が出土、時期は中世か。

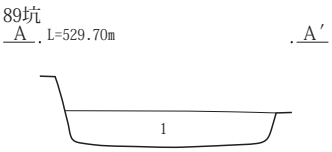
130号土坑（第405図、PL.234）
位置　41Ｕ－４・５グリッド。
重複　17号溝。
平面形状　長円形。
主軸方位　Ｎ－53°－Ｅ。
規模　長軸1.88m、短軸0.49m、深さ0.65m。
埋没土層　地山礫を多く含み、粗粒で砂礫主体土。
遺物　多くの礫に混じり、混入品と思われる縄文土器片が僅かに出土。
所見　２面において検出されている17号溝上に位置、主軸方向がほぼ重なる。礫が多く投げ込まれた状況が見られ、一度に埋没した状況を示す。時期は近世と思われる。

（3）ピット

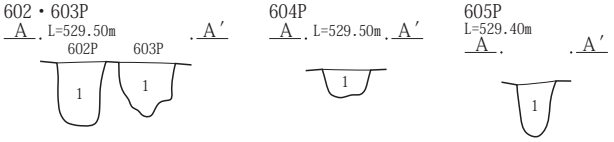
平成28年度の調査で検出したピットについては、東宮遺跡（４）において未報告のものについて記載する、前回報告済のものと併せて一覧表を記載した。

ピットは２面および３面において検出されたもので、時期は中・近世に比定されるものが主である。

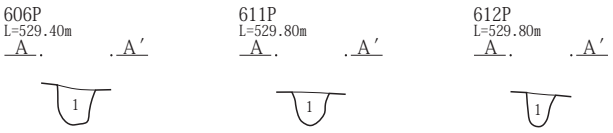




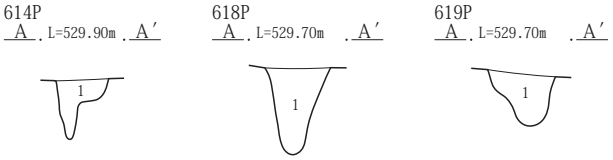
89号土坑
1　灰黄褐色土　φ２～５㎜の灰白・褐色パミスを多く、少量の炭化物φ30㎜前後の角礫を含む。φ10㎜前後のもろい砂岩質の礫あり。



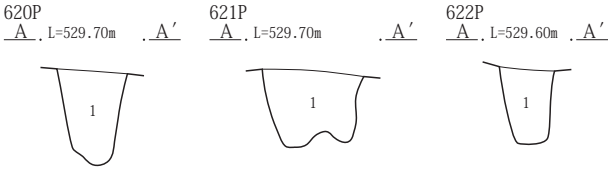
602・603・605号ピット
1　暗褐色土　炭化物と赤褐色の軽石が混入し、中央部に５～10㎝の礫が混入。
604号ピット
1　暗褐色土　炭化物と赤褐色の軽石が混入し、礫は混入していない。



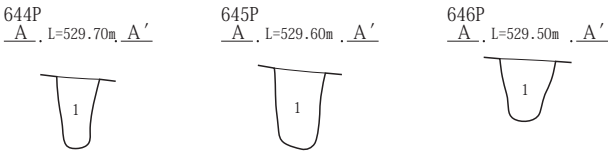
606号ピット
1　褐色土　黄橙の軽石が少量混入。
611・612号ピット
1　暗褐色土　赤褐色と黄橙の軽石が少量混入している。



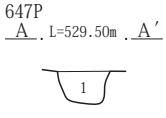
614・618号ピット
1　暗褐色土　赤褐色と黄橙の軽石が少量混入している。
619号ピット
1　暗褐色土　黄褐色土のブロックと赤褐色の軽石が混入している。



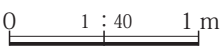
620号ピット
1　暗褐色土　黄橙の細粒を５％程含む。
621号ピット
1　暗褐色土　赤褐色と黄橙の軽石が少量混入している。
622号ピット
1　暗褐色土　黄橙の細粒を含み、炭化物が混入している。



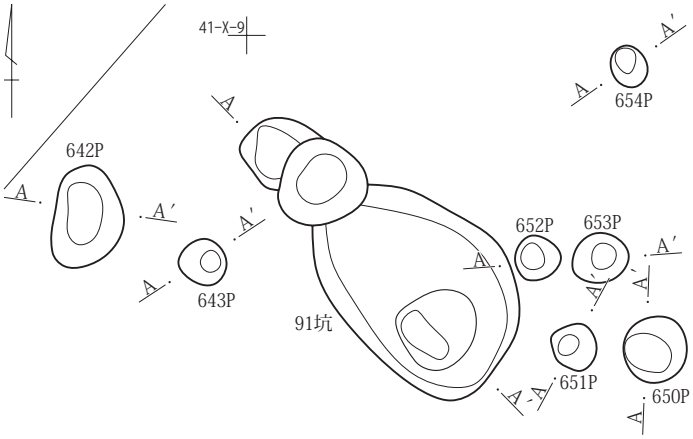
644号ピット
1　暗褐色土　炭化物と橙色の軽石が混入し、底部は10㎝程の礫がつまる。
645号ピット
1　暗褐色土　黄橙と淡黄色の軽石が混入している。
646号ピット
1　暗褐色土　炭化物と淡黄の細粒を含む。底部に３㎝程の礫が混入する。

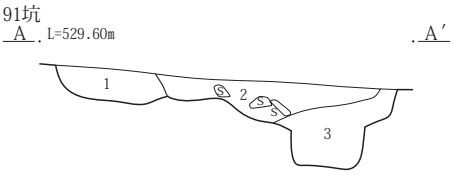


647号ピット
1　暗褐色土　黄橙と淡黄の細粒を含む。断面中央に３㎝程の礫が混入する。

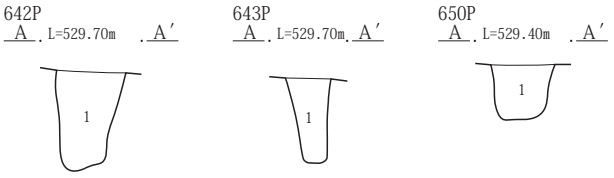


第402図　Ｖ区土坑・ピット（１）

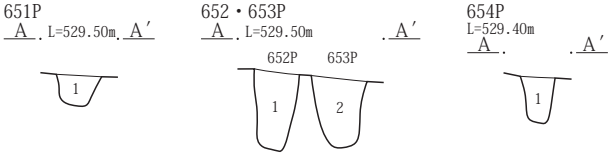




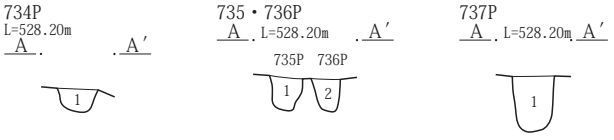
91号土坑
1　灰黄褐色土　φ２～３㎜の灰白・褐色パミスを含む。角礫（φ40㎜）、炭化物を少量認める。
2　にぶい灰黄褐色土　φ２～４㎜の灰白色・褐色パミスを多く、φ30～200㎜の角礫、円礫を主体とする。炭化物あり。
3　暗褐色土　φ２～５㎜の褐色パミスφ10㎜の小礫を含む、粘性あり。



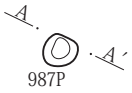
642号ピット
1　暗褐色土　炭化物と淡黄色の細粒を含む。３～５㎝の礫が15％程混入している。
643号ピット
1　暗褐色土　炭化物と淡黄色の細粒を含む。礫の混入はない。
650号ピット
1　暗褐色土　鉄分と黄橙の細粒を含み、炭化物が微かに混入する。

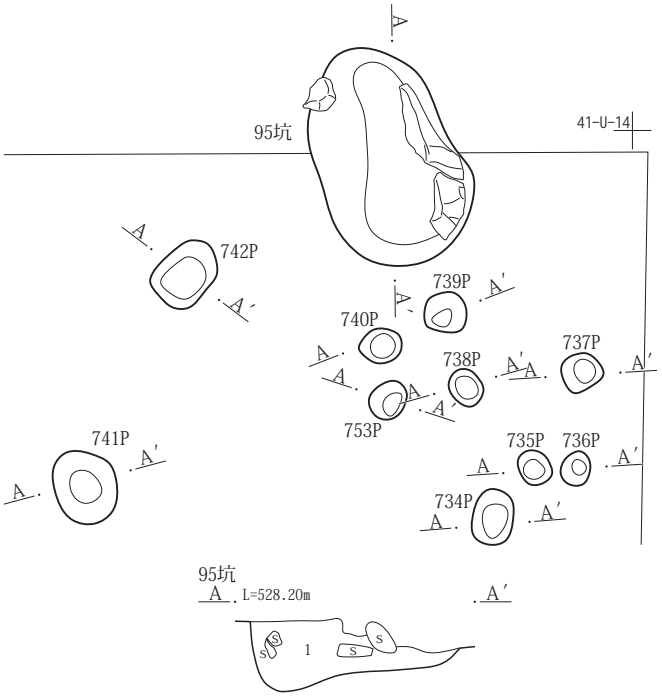


651号ピット
1　暗褐色土　黄橙と赤褐色の細粒を含み、炭化物が混入する。
652・653号ピット
1　暗褐色土　黄橙と赤褐色の細粒を微かに含む。
2　暗褐色土　淡黄色の軽石と炭化物が微かに混入する。
654号ピット
1　暗褐色土　炭化物と黄橙の軽石が微かに混入する。



734号ピット
1　暗褐色土　黄褐色の細粒を含み、炭化物が10％程混入する。
735・736号ピット
1　暗褐色土　赤褐色土・浅黄橙の細粒を含む。
2　暗褐色土　浅黄橙の細粒を含み、炭化物が少量混入する。
737号ピット
1　暗褐色土　黄橙と浅黄橙の細粒を含む。





95号土坑
1　暗褐色土　黄橙の軽石が混入し、10㎝よりも大きい礫が断面の３％程度を占める。

0　1：40　1m

第403図　Ⅴ区土坑・ピット（２

738P
L=528.20m
A　A′
1

739・740P
A　L=528.20m　A′
740P　739P
1　1

741P
A　L=528.40m　A′
1

738号ピット
1　暗褐色土　黄橙と浅黄橙の細粒を含む。炭化物が少量混入する。
739・740号ピット
1　暗褐色土　黄橙の細粒を含み、炭化物が少量混入する。
741号ピット
1　暗褐色土　炭化物が断面中央部に混入し、赤褐色と浅黄橙の細粒を含む。

742P
A　L=528.30m　A′
1

753P
L=528.20m
A　A′
1

742号ピット
1　暗褐色土　赤褐色と浅黄橙の細粒を含む。断面上部に15％程の礫。
753Ｐ号ピット
1　暗褐色土　黄褐色と赤褐色の細粒を含む。炭化物が微かに混入する。

959P
L=528.30m
A　A′
1

987P
L=528.30m
A　A′
1

959号ピット
1　黒褐色土　炭化物と赤褐色・淡黄色の軽石が混入する。
987号ピット
1　黒褐色土　φ２～10㎜の灰白・褐色パミス混入少量の骨片あり。

111坑
41-S-13
A　A′
A　L=527.30m　A′
S　S
1

120坑
A　A′

41-S-10
A　L=527.70m　A′

111号土坑
1　暗黒褐色土　礫（川原石）を混入、黄褐色砂礫土をブロック状に含む。

123坑
A　L=528.60m　A′
1

123号土坑
1　暗褐色土　明黄褐と浅黄橙の軽石が10％程混入し、炭化物も微かに混入する。砂質である。

A　A′
671P

671P
A　L=528.80m　A′
1

711・712P
A　L=528.50m　A′
712P　711P
2　1

671号ピット
1　暗褐色土　黄橙と灰白の細粒を含み、１㎝程の礫が少量混入する。
711・712号ピット
1　暗褐色土　淡黄色の軽石と１㎝程の礫が混入している。
2　暗褐色土　炭化物・灰白色・浅黄橙の細粒を含む。

720P
A　A′
A　A′
A　A′
719P
123坑

718P
A　L=528.60m　A′
1

719P
L=528.60m
A　A′
1

720P
A　L=528.60m　A′
1

712P
711P
718P

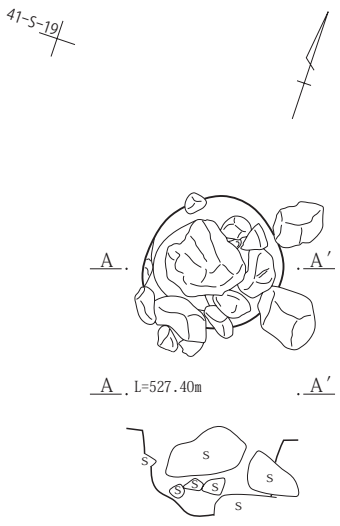
718号ピット
1　暗褐色土　炭化物・赤褐色・黄橙の軽石が30％程混入する。
719号ピット
1　暗褐色土　炭化物と浅黄橙の細粒を20％程含む。
720号ピット
1　暗褐色土　黄橙の細粒を少量含む。

41-V-9

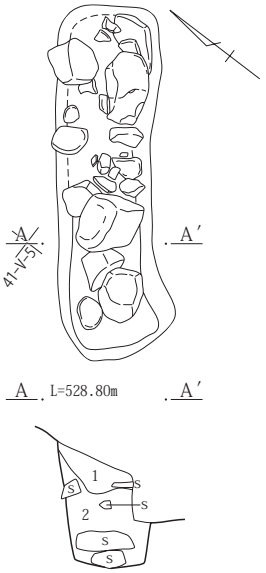
0　1：40　1m

第404図　Ｖ区土坑・ピット（３）

127坑

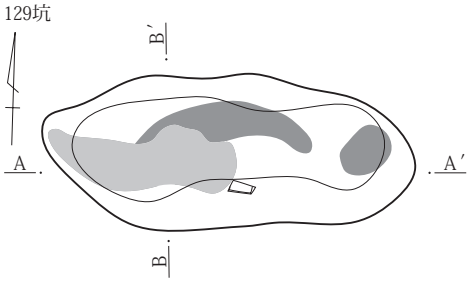


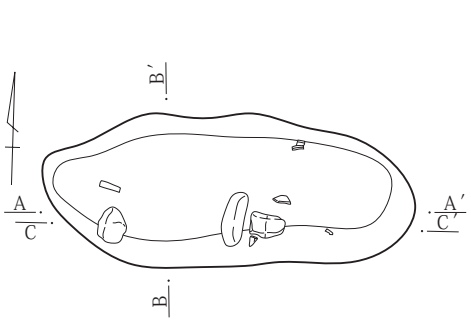
130坑

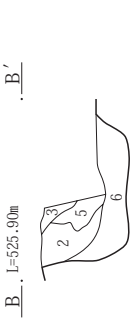


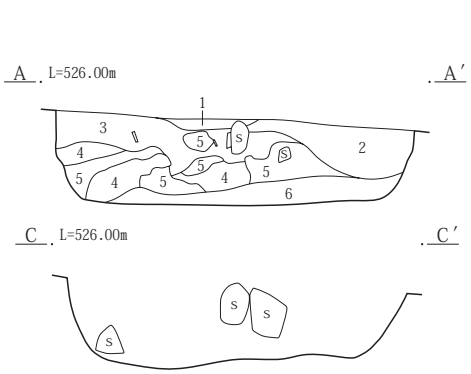
130号土坑
1　黒褐色土　礫、岩砕片多く含む。
2　暗褐色土　１より明るい色調、大きな礫を含む。

129坑





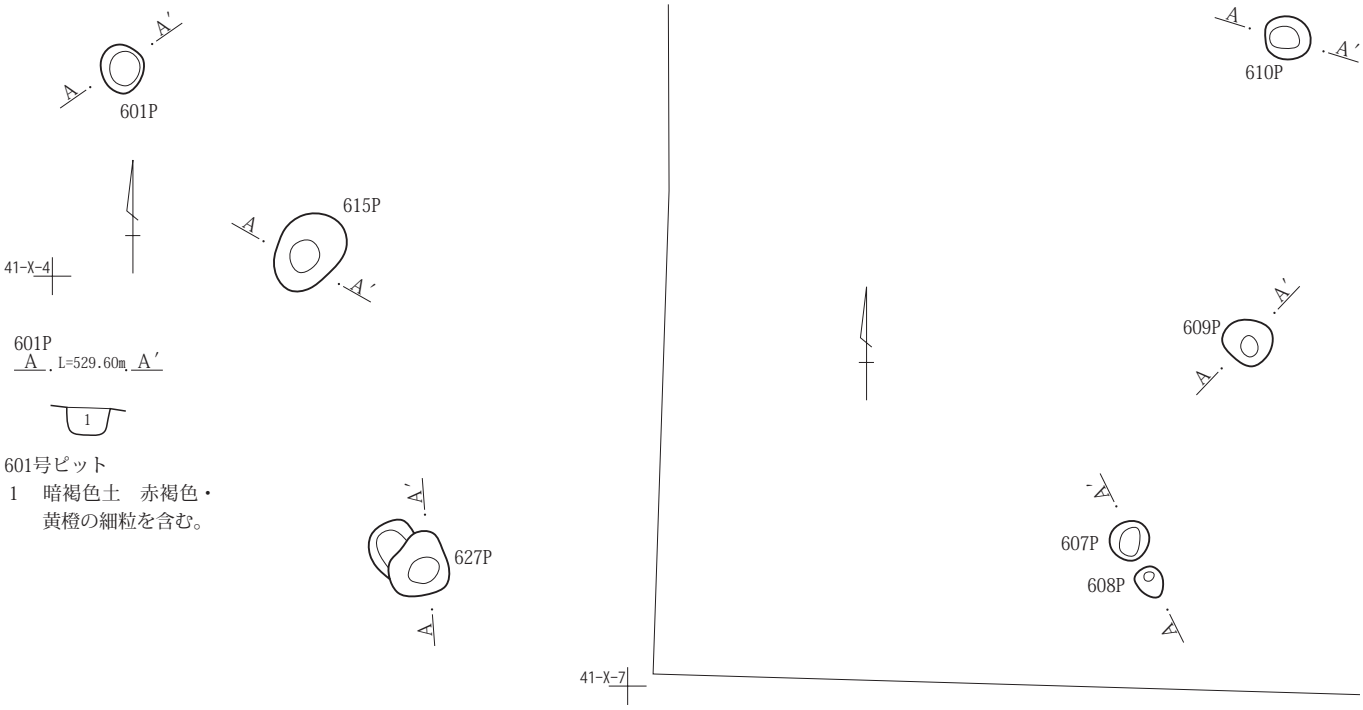




129号土坑
1　茶褐色土　若干の焼土を含み軟質。
2　黒褐色土　焼土粒を僅かに混入、しまりあり。
3　黒褐色土　焼土、炭化物含む。
4　橙褐色土　焼土を多く含みやや軟質。
5　橙褐色土　ブロック状の焼土主体。
6　暗橙褐色土　暗褐色土多く、若干の焼土、炭化物含みしまりあり。

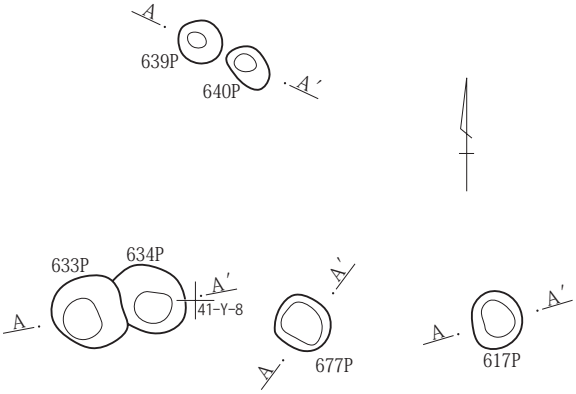
0　1：40　1 m

第405図　Ⅴ区土坑・ピット（４）



601P
A L=529.60m A′
1

601号ピット
1　暗褐色土　赤褐色・黄橙の細粒を含む。



607・608P
A L=529.40m A′
608P 607P
1 1

609P
A L=529.30m A′
1

610P
A L=529.20m A′
1

615P
A L=529.90m A′
1

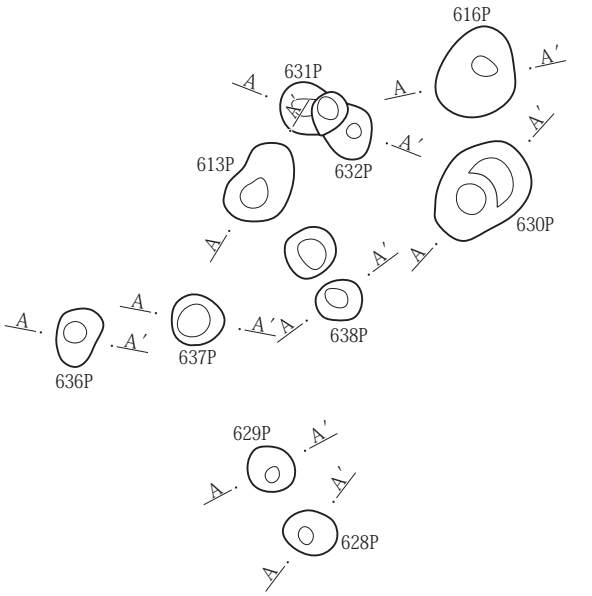
627P
A L=529.80m A′
1

607・608号ピット
1　暗褐色土　炭化物と赤褐色の軽石が混入し、混入している礫は１cm程の礫である。

609・610号ピット
1　暗褐色土　炭化物と赤褐色の軽石が混入し、中央部に５～10cmの礫が混入。

615号ピット
1　暗褐色土　赤褐色と黄橙の軽石が少量混入している。

627号ピット
1　暗褐色土　黄橙の細粒を含み、断面中央部に３～５cmの礫が埋まっている。



613P
A L=530.10m A′
1

616P
A L=530.00m A′
1

617P
A L=529.90m A′
1

613号ピット
1　暗褐色土　鉄分が沈着し、炭化物と黄橙の細粒を７％程含む。

616号ピット
1　暗褐色土　赤褐色と黄橙の軽石が少量混入している。

617号ピット
1　褐色土　黄褐色土のブロックと底部に５cm程の礫が混入している。

0　1：40　1m

第406図　Ⅴ区ピット（１）

628P　A L=530.10m A′　629P　A L=530.10m A′　630P　A L=530.00m A′

628号ピット
1　暗褐色土　黄橙の細粒を含み、３cm程の礫が混入している。
629号ピット
1　暗褐色土　黄橙の細粒を含み、５cm程の礫が断面上部に混入する。
630号ピット
1　暗褐色土　黄橙の細粒を含み、１cm程の礫が断面中央部に少量混入する。

631・632P　A L=530.10m A′　633・634P　A L=530.10m A′

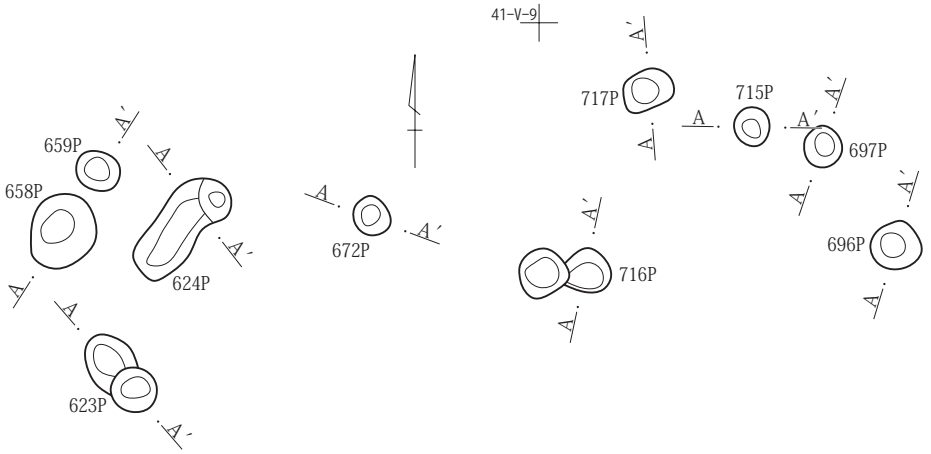
631・632号ピット
1　暗褐色土　淡黄の細粒を含み、炭化物が混入する。
2　暗褐色土　淡黄の細粒を含み、炭化物が混入する。鉄分を含み、炭化物はない。
633・634号ピット
1　暗褐色土　黄橙の細粒を含み、炭化物が混入している。
2　暗褐色土　黄橙の細粒を含み、炭化物が混入している。３cm程の礫が15％程混入している。

636P　A L=530.20m A′　637P　A L=530.10m A′　638P　A L=530.00m A′

636・638号ピット
1　暗褐色土　鉄分が沈着し、黄橙の細粒を少量含む。
637号ピット
1　暗褐色土　黄橙の軽石が混入。底部に５cm程の礫がある。

639・640P　A L=530.00m A′　677P　A L=530.00m A′

639・640号ピット
1　暗褐色土　黄橙の軽石10％程混入する。断面上部に５cm程の礫がある。
2　暗褐色土　黄橙の軽石10％程混入する。礫の混入はなし。
677号ピット
1　暗褐色土　黄橙の軽石を含み、断面中央部に３cm程の礫が集中している。



623P　A L=529.10m A′

623号ピット
1　暗褐色土　黄橙の細粒を含み、炭化物が混入している。

624P　A L=529.00m A′

624号ピット
1　暗褐色土　鉄分と黄橙の細粒を含み、炭化物が少量混入する。

658・659P　A L=529.10m A′

658・659号ピット
1　オリーブ褐色土　黄灰と淡黄の細粒を含み、淡黄色の軽石が混入している。
2　暗褐色土　炭化物と浅黄橙の細粒を含み、淡黄色の軽石が混入している。

672P　L=529.00m　A A′　673P　L=529.00m　A A′

672号ピット
1　暗褐色土　黄橙と褐灰色の細粒を含み、10cm程の礫も混入する。
673号ピット
1　暗褐色土　炭化物と黄橙の軽石が混入する。

0　1：40　1m

第407図　Ⅴ区ピット（２）

692・693P　A L=528.80m A′　692P 693P　1 2
696P　A L=528.70m A′　1
697P　L=528.70m　A A′　1

692・693号ピット
1　暗褐色土　鉄分を含み、浅黄橙の軽石が少量混入する。
2　暗褐色土　鉄分を含み、浅黄橙の軽石が少量混入する。断面中央部で５cm程の礫が混入する。

696号ピット
1　暗褐色土　炭化物と赤褐色の細粒を少量含む。断面右に１cm程の礫が混入する。

697号ピット
1　暗褐色土　炭化物と淡黄色の軽石が混入する。断面中央部に10cm程の礫が混入する。

715P　L=528.80m　A A′　1
716P　A L=528.80m A′　1
717P　L=528.80m　A A′　1

715号ピット
1　暗褐色土　赤褐色と黄橙の細粒を少量含む。

716号ピット
1　暗褐色土　炭化物と黄橙の細粒を20％程含む。

717号ピット
1　暗褐色土　赤褐色と淡黄色の細粒を少量含む。断面中央部に礫あり。

705P　A A′
625・626P　A L=528.90m A′　625P 626P　1 1

625・626号ピット
1　暗褐色土　褐色の軽石と炭化物が少量混入する。

694P　A A′
41-U-8
704P　A A′
694P　L=528.70m　A A′　1

694号ピット
1　暗褐色土　炭化物と赤褐色の細粒を少量含む。

698P　A A′
625P 626P　A A′
703P　A A′

698P　A L=528.70m A′　1
703P　A L=528.60m A′　1

698号ピット
1　暗褐色土　鉄分を含み、黄橙の軽石が混入する。

703号ピット
1　暗褐色土　黄橙と軽石が10％程混入し、鉄分を含む。底部に５cm程の礫。

704P　A L=528.60m A′　1
705P　A L=528.40m A′　1

704号ピット
1　暗褐色土　黄橙と軽石が10％程混入し、鉄分を含む。礫の混入なし。

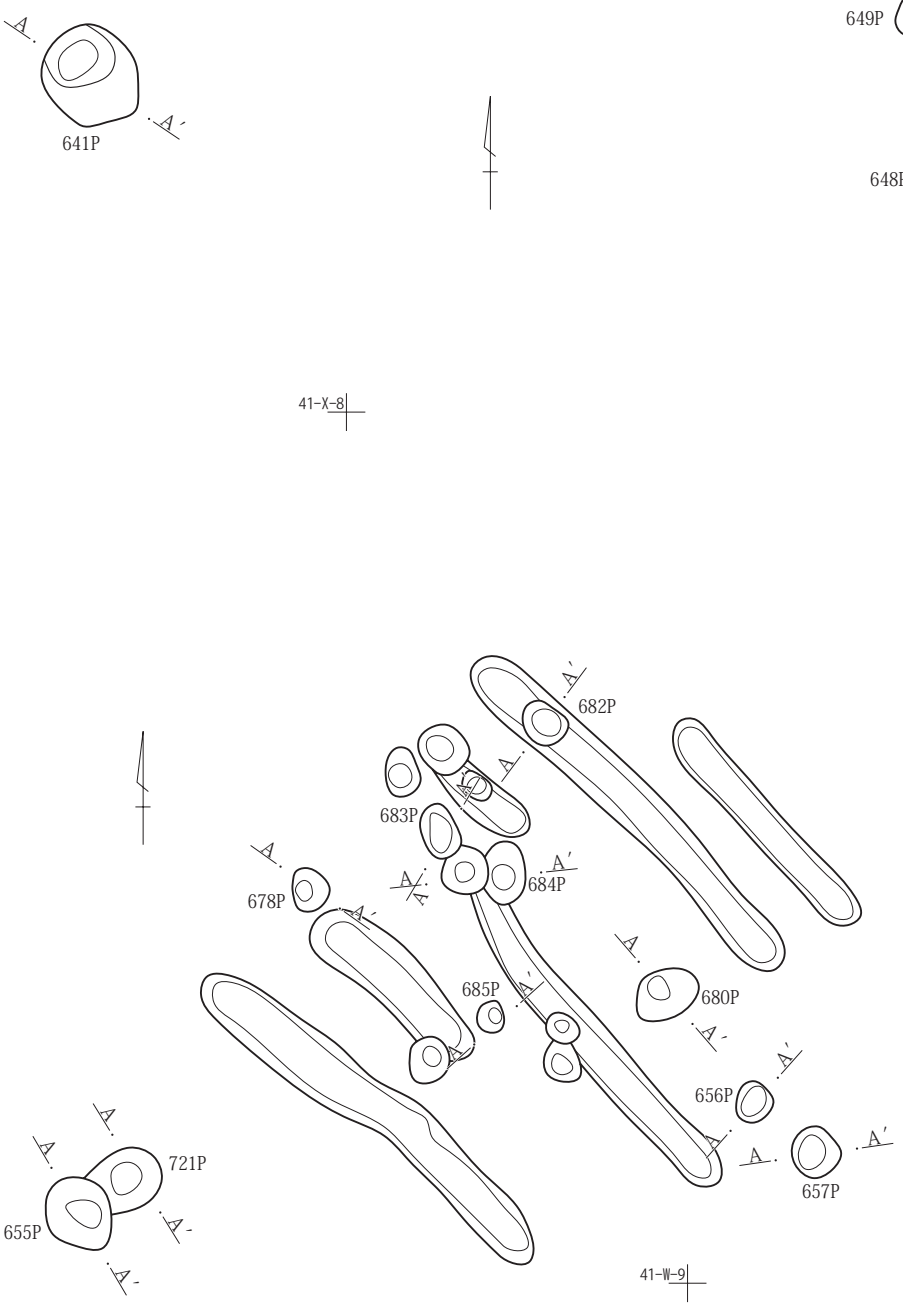
705号ピット
1　暗褐色土　浅黄橙と赤褐色の軽石が１０％程混入し、５cm程の礫が混入。

41-Y-8
635P　A L=530.30m A′　1
635P　A A′

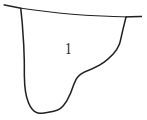
635号ピット
1　暗褐色土　浅黄橙の軽石を含む。
５cm程の礫が断面上部にある。

0　1：40　1m

第408図　Ｖ区ピット（３）



641P
A L=529.80m A′



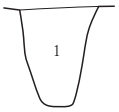
641号ピット
1　暗褐色土　炭化物と淡黄色の細粒を含む。３～５㎝の礫が15％程混入している。

648P
A L=529.30m A′

649P
A L=529.40m A′

648・649号ピット
1　暗褐色土　炭化物と淡黄の軽石が混入。

655P
A L=529.60m A′



656P
L=529.20m
A A′

655号ピット
1　暗褐色土　炭化物と淡黄色の軽石及び黄褐色土のブロックが混入する。

656号ピット
1　暗褐色土　炭化物と黄褐色土のブロックが混入している。

657P
A L=529.20m A′

678P
L=529.50m
A A′

657号ピット
1　暗褐色土　黄橙の細粒を含み、褐灰色の軽石が混入している。

678号ピット
1　暗褐色土　赤褐色土と灰白色の軽石が混入する。

680P
A L=529.20m A′

682P
L=529.30m
A A′

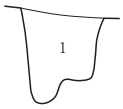
683P
L=529.30m
A A′

680号ピット
1　暗褐色土　炭化物と黄橙の軽石が混入する。

682号ピット
1　暗褐色土　炭化物と赤褐色土の細粒を含む。1㎝程の礫が混入する。

83号ピット
1　暗褐色土　炭化物と黄橙の細粒を含む。断面中央部に10㎝程の礫あり。

684P
A L=529.40m A′



685P
L=529.30m
A A′

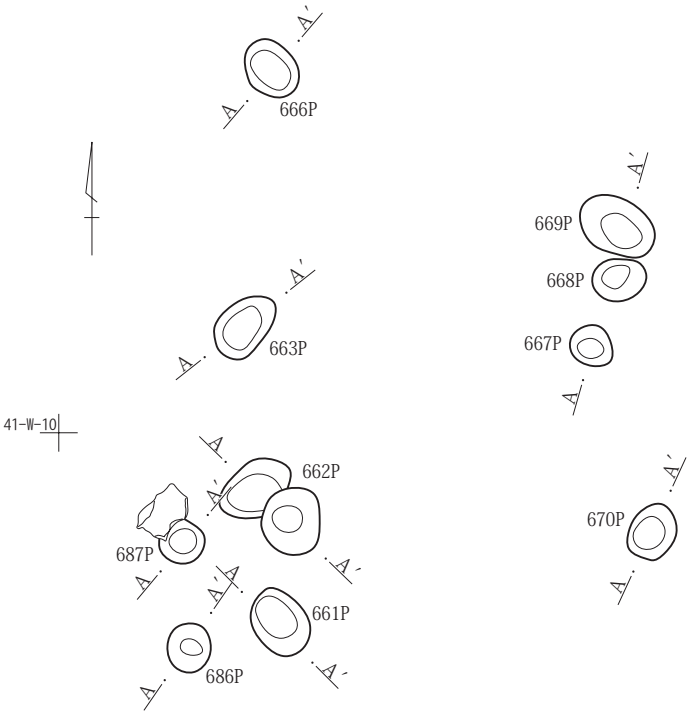
721P
A L=529.50m A′

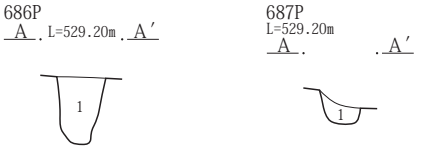
684・685号ピット
1　暗褐色土　炭化物と黄橙の細粒を含む。断面中央部に10㎝程の礫の混入なし。

721号ピット
1　暗褐色土　灰白と黄橙と赤褐の細粒を含む。

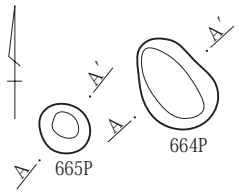
0　1：40　1m

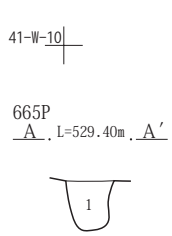
第409図　Ⅴ区ピット（４）



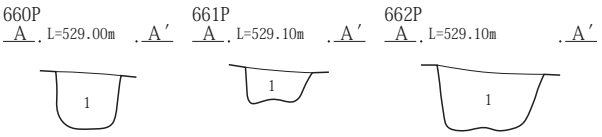


686・687号ピット
1　暗褐色土　炭化物・浅黄橙・黄橙の細粒を含む。

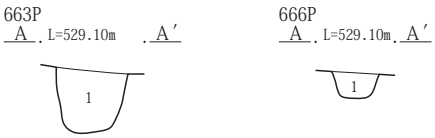




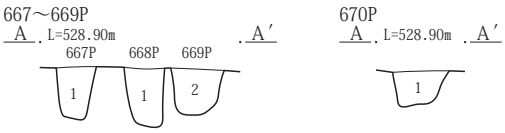
664号ピット
1　暗褐色土　炭化物と黄橙の軽石が10％程混入する。断面右よりも10cm程の礫が混入。
665号ピット
1　暗褐色土　炭化物と黄橙の軽石が10％程混入する。礫の混入なし。



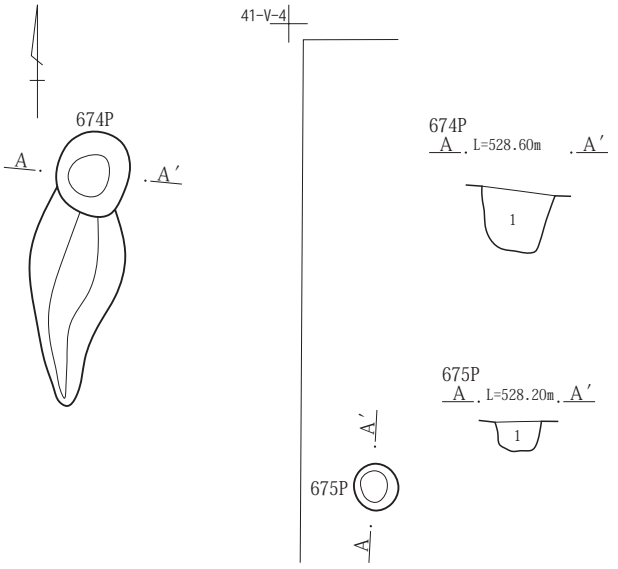
660号ピット
1　暗褐色土　炭化物と浅黄橙の細粒を含み、淡黄色の軽石が混入している。
661・662号ピット
1　褐色土　黄橙の軽石と炭化物が混入する。



663号ピット
1　暗褐色土　淡黄色の軽石が混入する。炭化物も微かに混入する。
666号ピット
1　暗褐色土　鉄分を含み、炭化物と黄橙の軽石が混入する。



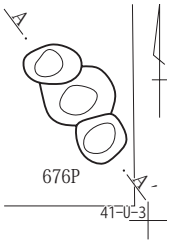
667～669号ピット
1　暗褐色土　黄褐色・赤褐色の細粒を含み、炭化物と５cm程の礫が混入する。
2　褐色土　褐灰色と淡黄色の軽石が15％程混入し、断面左上に５cm程の礫が混入する。
670号ピット
1　暗褐色土　炭化物と黄橙の軽石が混入し、断面右側に５cm程の礫がある。

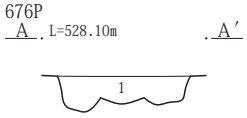


674号ピット
1　褐色土　赤褐色と黄橙の軽石が10％程炭化物が７％程混入し、断面上部に５cm程の礫が混入。
675号ピット
1　暗褐色土　赤褐色と黄橙の細粒を含む。炭化物が微かに混入する。

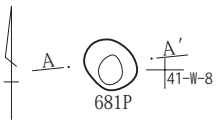
0　1：40　1m

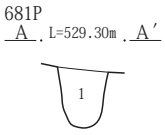
第410図　V区ピット（５）



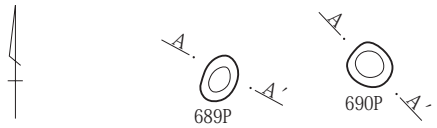


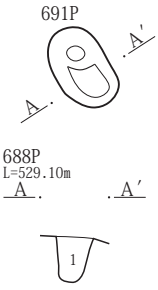
676号ピット
1　暗褐色土　黄橙・浅黄橙・赤褐色の軽石が15%程混入する。



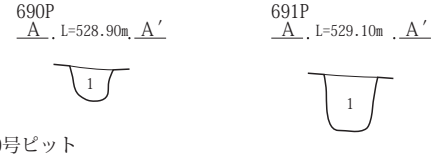


681号ピット
1　暗褐色土　炭化物と淡黄色の軽石が15%程含まれる。

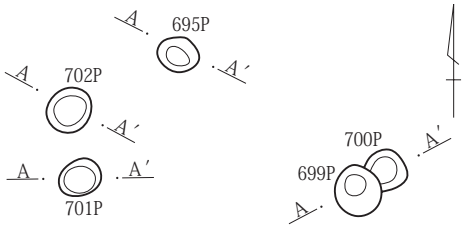


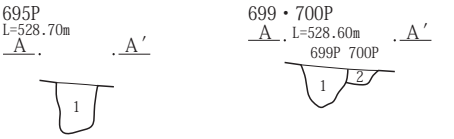


688号ピット
1　暗褐色土　黄橙の細粒を微かに含む。
689号ピット
1　暗褐色土　淡黄色と灰白色の軽石を10%含む。

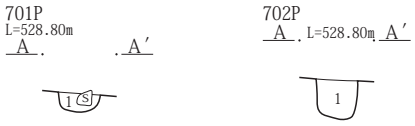


690号ピット
1　暗褐色土　黄橙の軽石と炭化物が10%程混入する。
691号ピット
1　暗褐色土　赤褐色・灰白色・黄橙の軽石を10%程含む。

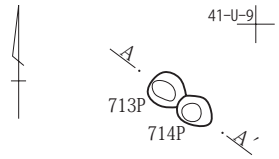


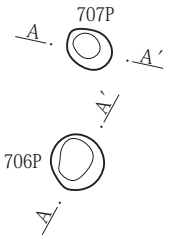


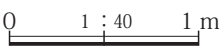
695号ピット
1　暗褐色土　黄橙の細粒を10%程含む。
699・700号ピット
1　暗褐色土　鉄分を含み､炭化物と黄橙の軽石が混入する。700号ピットを掘りぬいている。
2　暗褐色土　鉄分を含み、炭化物と黄橙の軽石が混入する。断面上部に１㎝程の礫。



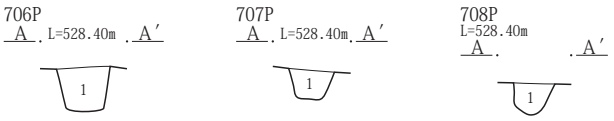
701号ピット
1　暗褐色土　炭化物と黄橙の細粒を含む。断面右に15㎝程の礫あり。
702号ピット
1　暗褐色土　炭化物と黄橙の細粒を含む。断面右に15㎝程の礫はなし。



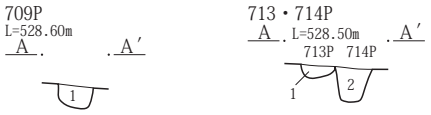




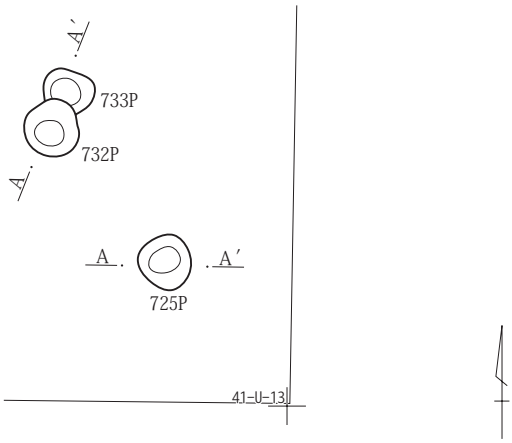
第411図　Ⅴ区ピット（６）

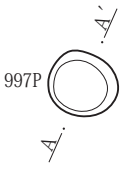


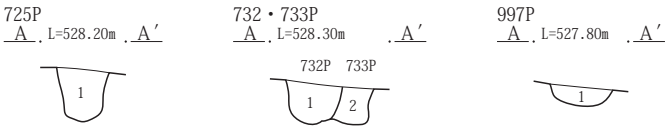
706号ピット
1　暗褐色土　浅黄橙と赤褐色の軽石が10％程混入し、礫の混入はなし。
707号ピット
1　暗褐色土　淡黄色の軽石が少量混入し、断面の右壁部分に５cm程の礫がある。
708号ピット
1　暗褐色土　炭化物と黄橙の軽石が10％程混入する。



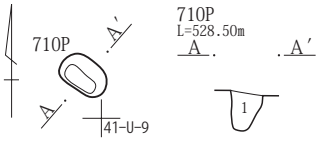
709号ピット
1　暗褐色土　炭化物と黄橙の軽石が10％程混入する。
713・714号ピット
1　暗褐色土　黄橙の細粒を含み、黄褐色土の小ブロックが混入している。
2　暗褐色土　黄橙の細粒を含み、黄褐色土の小ブロックが混入している。断面中央部に３cm程の礫が混入。



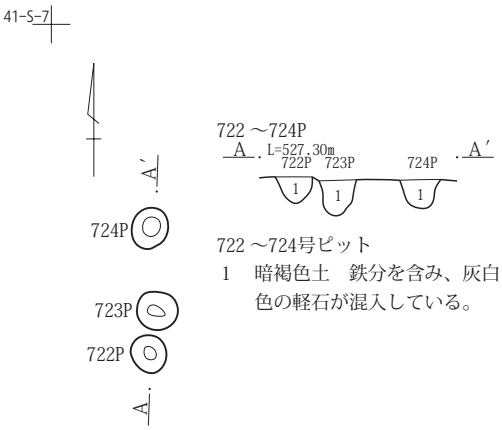




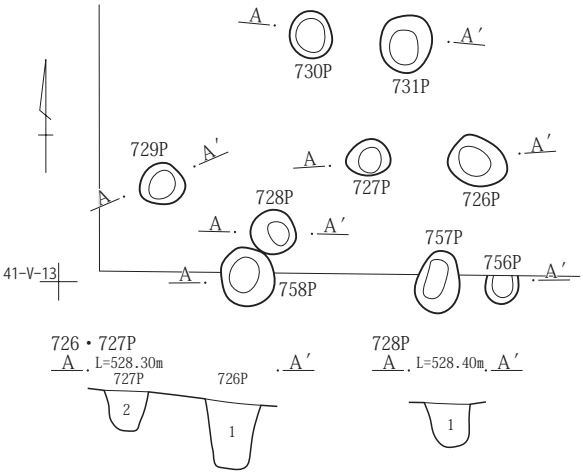
725号ピット
1　黒褐色土　暗赤褐と浅黄橙の細粒を含む。炭化物と１cm程の礫が混入する。
732・733号ピット
1　暗褐色土　黄褐色土の軽石と炭化物が混入する。
2　暗褐色土　炭化物と５cm程の平石が混入する。浅黄橙の細粒を含む。
997号ピット
1　暗褐色土　φ１～２mmの灰白パミス、砂岩質の礫（φ30mm）を含む。φ80mmの角礫が上層に混入。



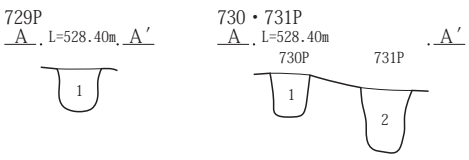
710号ピット
1　暗褐色土　炭化物と黄橙の細粒を20％程含む。



722 ～724号ピット
1　暗褐色土　鉄分を含み、灰白色の軽石が混入している。



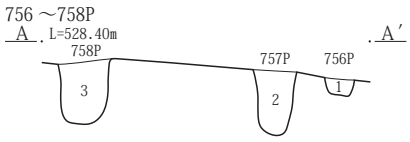
726・727号ピット
1　黒褐色土　暗赤褐と浅黄橙の細粒を含む。炭化物と１cm程の礫が混入する。含まれる粒子が粗い。
2　黒褐色土　暗赤褐と浅黄橙の細粒を含む。炭化物と１cm程の礫が混入する。含まれる粒子が粗い。底部に礫はない。
728号ピット
1　暗褐色土　炭化物と黄橙の軽石断面上部に10cm程の礫が混入する。



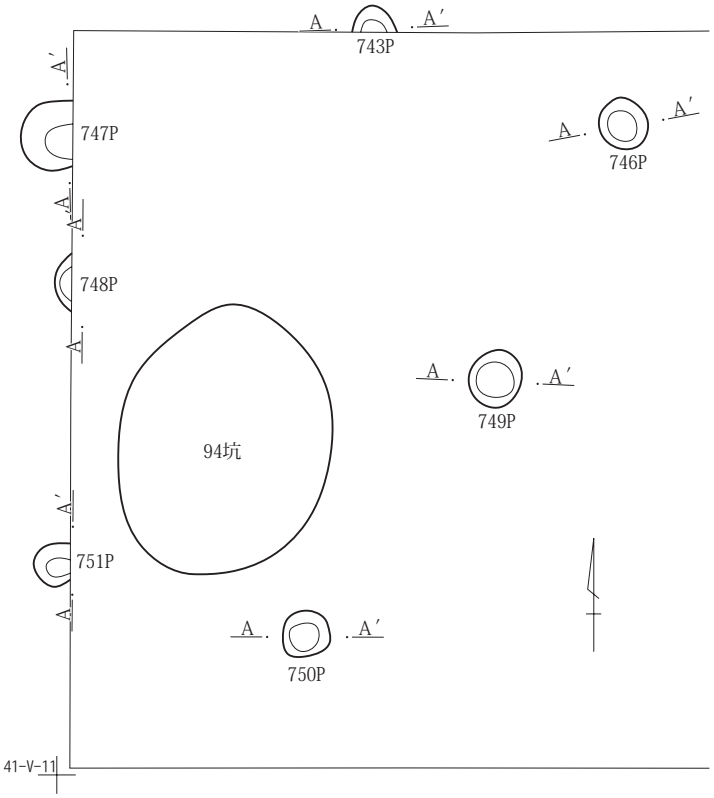
729号ピット
1　暗褐色土　断面中央部に炭化物と５cm程の礫が混入する。灰白と浅黄橙の細粒を含む。
730・731号ピット
1　暗褐色土　黄褐色と浅黄橙の細粒を含む。炭化物と５cm程の礫が混入する。
2　暗褐色土　黄褐色と浅黄橙の細粒を含み、炭化物が少量混入する。

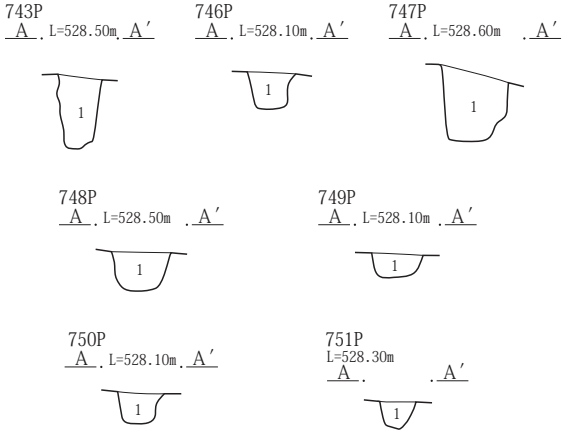
0　1：40　1m

第412図　Ｖ区ピット（７）

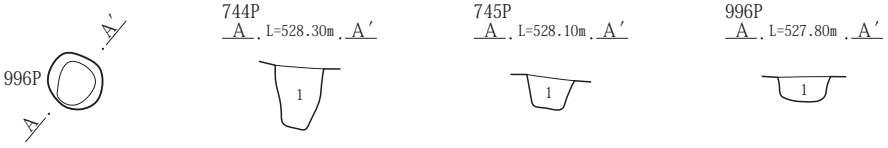


756 ～758号ピット
1　暗褐色土　炭化物と灰白色・黄褐色の軽石が混入。
2　暗褐色土　灰白色・黄褐色の軽石が混入。炭化物がない。
3　褐色土　淡黄色の軽石が混入している。

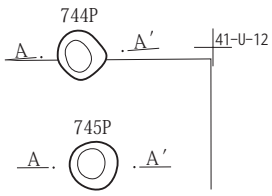


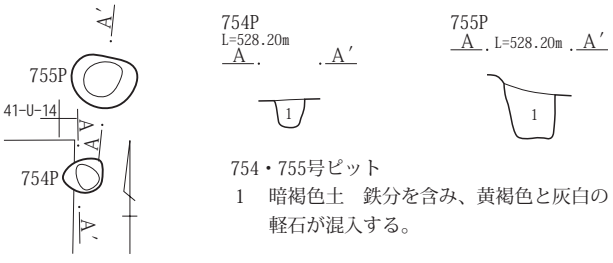


743・746・747・749 ～ 751号ピット
1　暗褐色土　赤褐色・黄橙・淡黄の軽石と炭化物が混入する。
748号ピット
1　暗褐色土　赤褐色・黄橙・淡黄の軽石と炭化物が混入する。断面上部に黒褐色土が10％程混入。



744号ピット
1　暗褐色土　赤褐色・黄橙・淡黄の軽石と炭化物が混入する。
745号ピット
1　暗褐色土　赤褐色・黄橙・淡黄の軽石と炭化物が混入する。底部に20㎝程の礫がある。
996号ピット
1　黒褐色土　φ２～３㎜の灰白・褐色パミス、炭化物を含む。

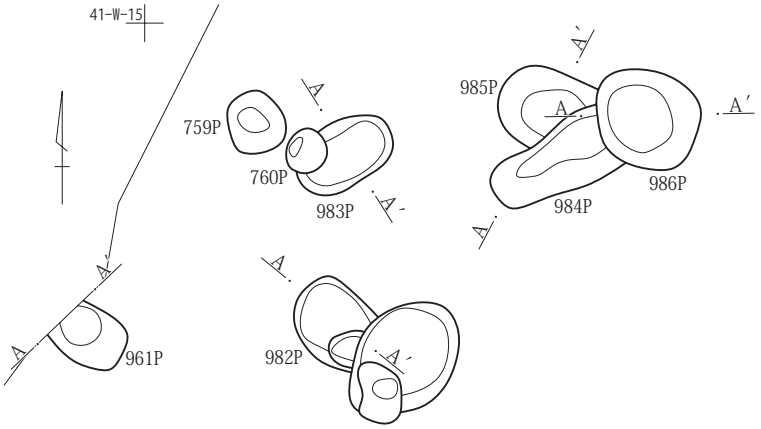


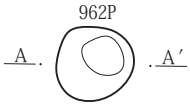


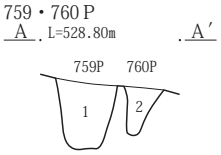
754・755号ピット
1　暗褐色土　鉄分を含み、黄褐色と灰白の軽石が混入する。

0　1：40　1m

第413図　Ⅴ区ピット（８）



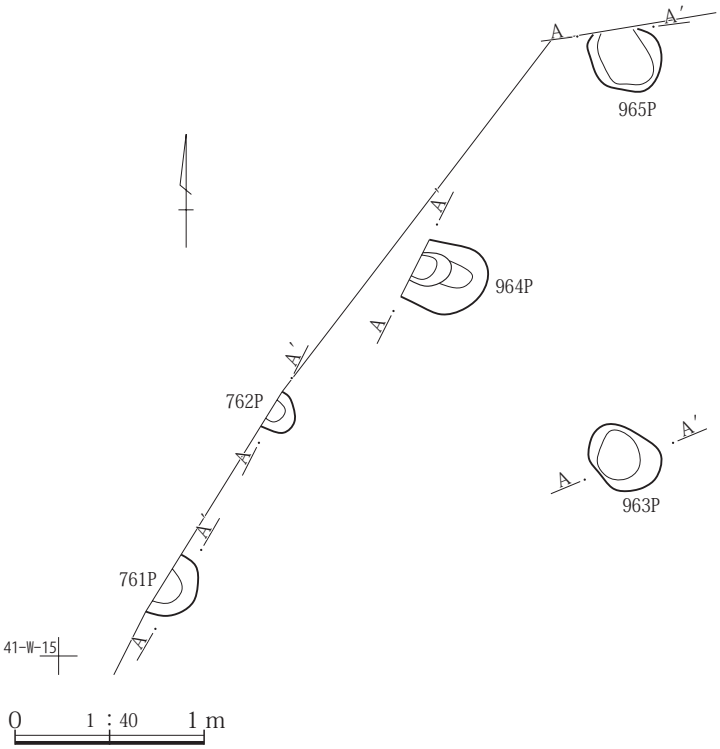


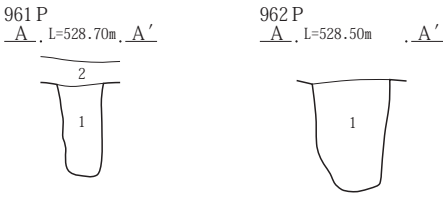


759・760号ピット
1　暗褐色土　黄褐色と赤褐色の細粒を含み、１cm程の礫が約７％混入する。
2　暗褐色土　褐灰色の軽石と礫が混入している。

984・985号ピット
1　黒褐色土　φ２～15㎜の灰褐・明褐色パミスを含む。
2　灰黄褐色土　φ２～10㎜の褐色・明褐色パミスを含む。

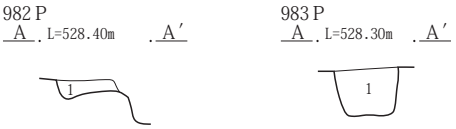
986号ピット
1　暗褐色土　φ２～５㎜の灰色・褐色パミスを含む。φ10㎜の小礫混入。





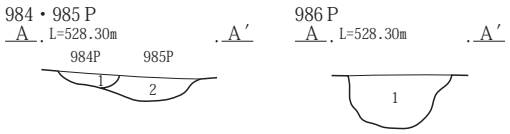
961号ピット
1　黒褐色土　φ２㎜前後の褐色・灰白パミスを含む。骨片が含まれ、４住を壊すピット。
2　黒褐色土　φ２～５㎜の褐色パミスを多く含む。小礫（φ30㎜）を含む粘質土

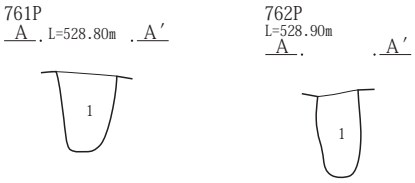
962号ピット
1　黒褐色土　φ２㎜前後の褐色・灰白パミスを含む。骨片あり、４住床面を壊す。



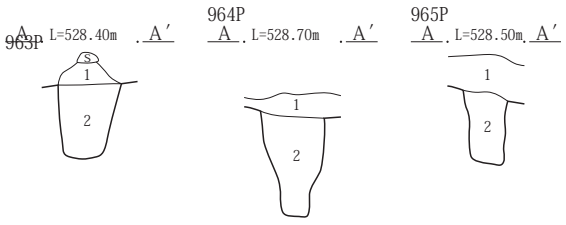
982号ピット
1　灰黄褐色土　灰褐色の砂岩質の礫を含む。砂質性あり。

983号ピット
1　にぶい黄褐色土　φ２～５㎜の褐色･灰白パミスを含む。φ20㎜の砂岩質のもろい礫混入。





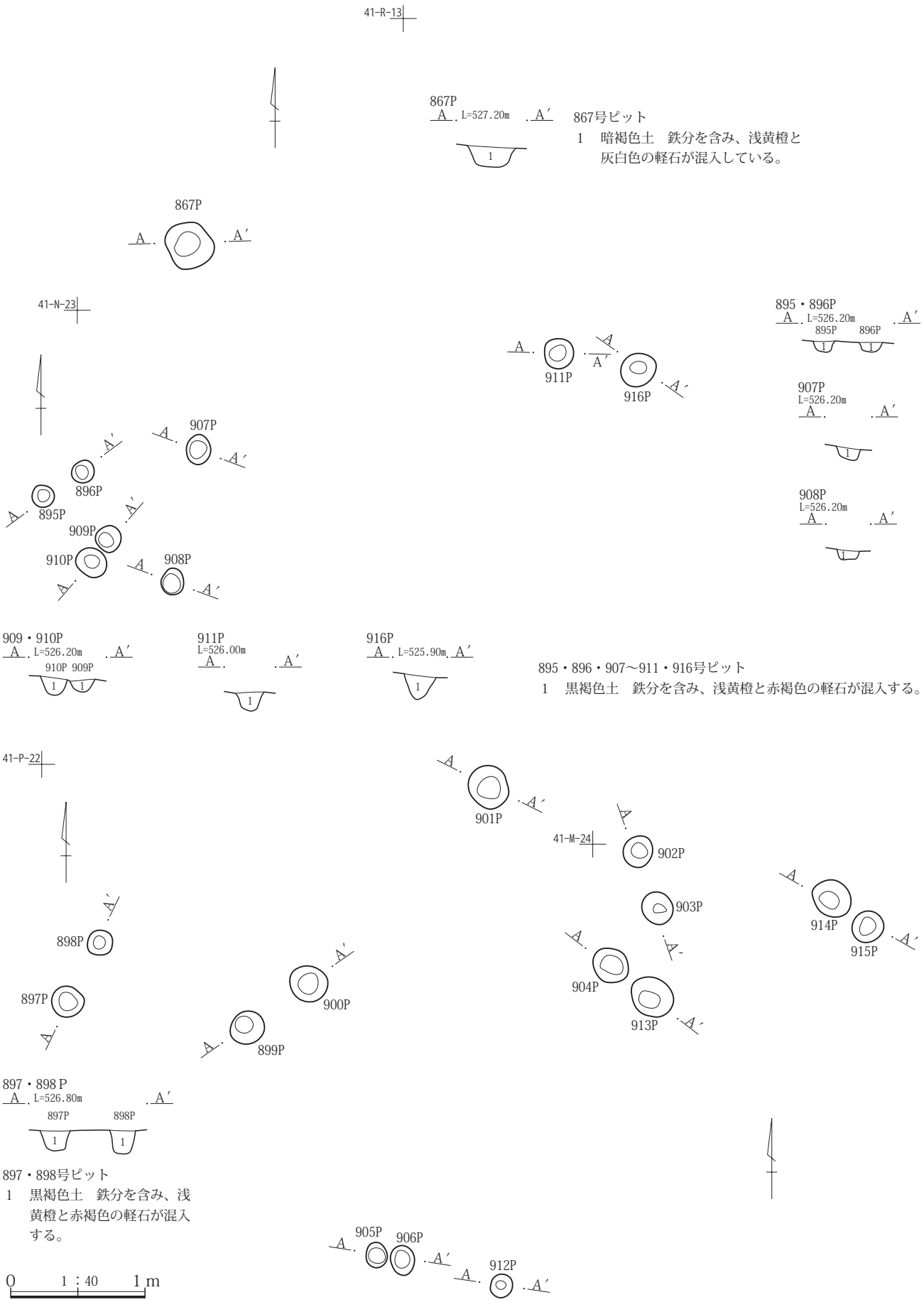
761・762号ピット
1　暗褐色土　炭化物と黄褐色の軽石が少量混入する。底部１：３cm程の礫がある。



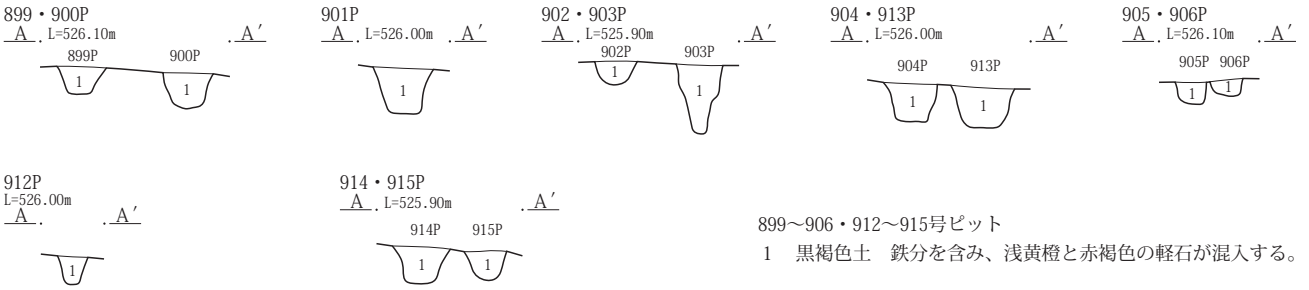
963号ピット
1　暗褐色土　φ１～５㎜の灰白・褐色パミスを含む。上層では砂岩質の礫（φ10～30㎜）が少量混入。
2　黒褐色土　φ２～５㎜の灰白・褐色パミス・炭化物を含む。少量の骨片が認められる。

964・965号ピット
1　黒褐色土　φ２～５㎜の灰白・褐色パミス（φ10～30㎜）の小礫を含む。
2　黒褐色土　φ２～７㎜の灰白・褐色パミス・炭化物を含む。円礫（φ50㎜）砂岩質の礫30㎜を含む。

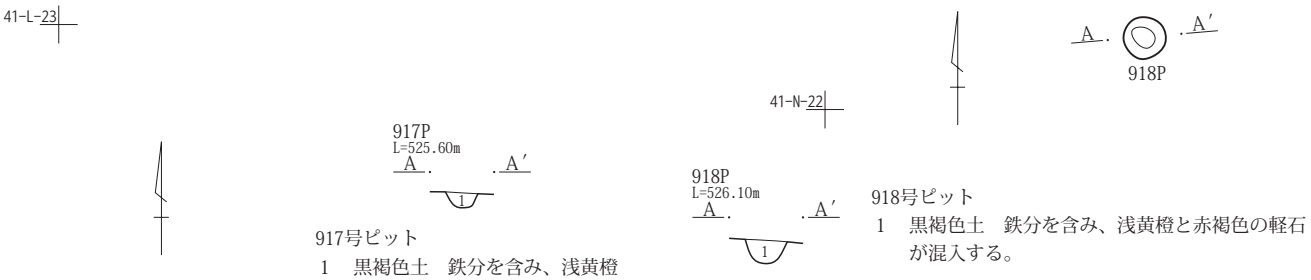
第414図　Ｖ区ピット（９）



第415図　Ⅴ区ピット（10）

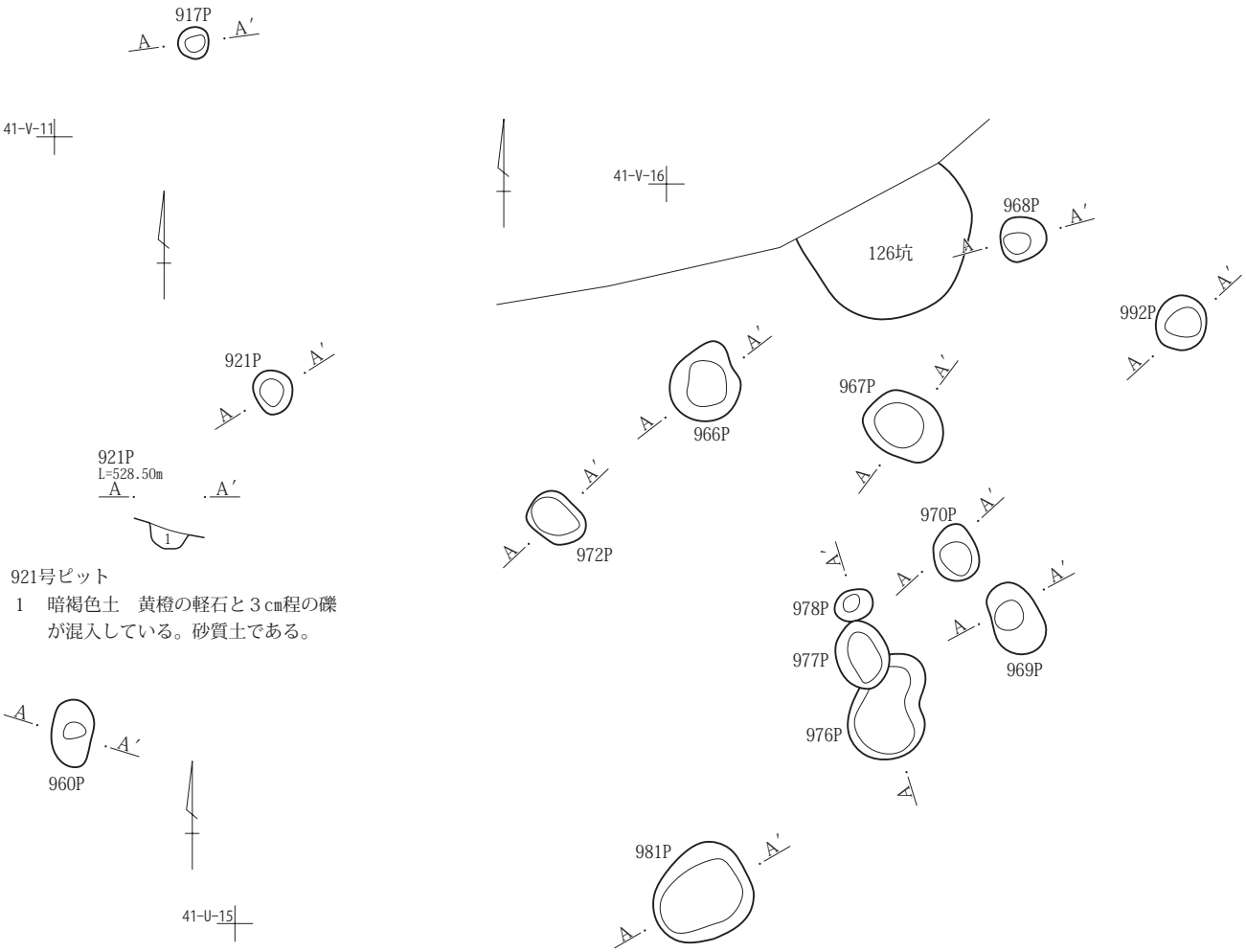


899～906・912～915号ピット
1　黒褐色土　鉄分を含み、浅黄橙と赤褐色の軽石が混入する。



917号ピット
1　黒褐色土　鉄分を含み、浅黄橙と赤褐色の軽石が混入する。

918号ピット
1　黒褐色土　鉄分を含み、浅黄橙と赤褐色の軽石が混入する。



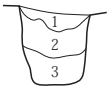
921号ピット
1　暗褐色土　黄橙の軽石と３cm程の礫が混入している。砂質土である。

960号ピット
1　暗褐色土　炭化物と灰白色の軽石上部で赤褐色の軽石が混入する。

0　1：40　1m

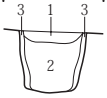
第416図　Ⅴ区ピット（11）

966P
A . L=528.30m . A′



966号ピット
1　黒褐色土　φ２～５㎜の褐色・灰白色パミスを含む。炭化物が混入あり。
2　暗褐色土　φ２～５㎜の灰白・褐色パミスを含む。
3　暗褐色土　２に近似、パミスの混入少ない。

967P
A . L=528.20m . A′



968P
A . L=528.20m . A′

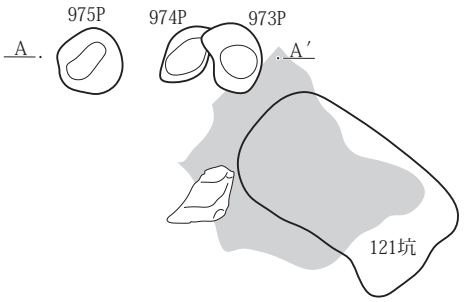
967号ピット
1　黒褐色土　φ２～５㎜の褐色･灰白色パミスを含む。炭化物が混入。
2　黒褐色土　φ２㎜の褐色・灰白色パミスを含む。粘性あり。
3　２と地山の混土。
968号ピット
1　黒褐色土　φ２㎜の褐色･灰白色パミスを含む。φ10㎜の小礫混入。

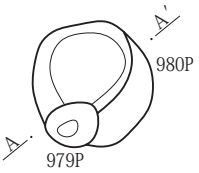
969P
A . L=528.20m . A′

970P
A . L=528.20m . A′

969号ピット
1　黒褐色土　φ２～５㎜の褐色パミス、φ20 ～ 30㎜の小礫を含む。
2　１に近似、小礫の混入ない。
970号ピット
1　黒色土　φ２～３㎜の褐色・灰白色パミスを含む。

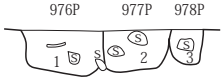
41-U-16





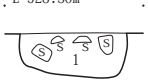
972P
A . L=528.30m . A′

976～978P
A . L=528.30m . A′



972号ピット
1　黒褐色土　φ２㎜の褐色パミスを含む。下層は褐色味が増す。
976～978号ピット
1　黒褐色土　φ２～５㎜の灰白・褐色パミス、φ30㎜の小礫含む。
2　黒褐色土　φ２～３㎜の灰白パミス、φ50 ～ 70㎜の角礫含む。
3　暗褐色土　φ２㎜の灰白パミス、φ70㎜の角礫含む。。

981P
A . L=528.30m . A′



992P
A . L=528.10m . A′

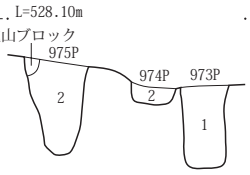
981号ピット
1　黒褐色土　φ２～５㎜の灰白・褐色パミスを含む。φ50 ～ 100㎜の山石を主体とする。
992号ピット
1　灰黄褐色土　φ２㎜、φ10㎜の褐色パミスを少量含む。

971P
L=528.10m
A .
. A′

41-U-16

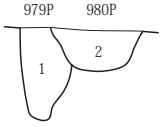
971号ピット
1　黒色土　φ２～３㎜の褐色・灰白色パミスを含む。

973～975P
A . L=528.10m . A′
地山ブロック



973～975号ピット
1　黒褐色土　φ１～５㎜の灰白・褐色パミスを含む。φ10 ～ 20㎜のもろい砂岩質の褐色礫混入。
2　黒褐色土　φ２～５㎜の灰白・褐色パミスを含む。

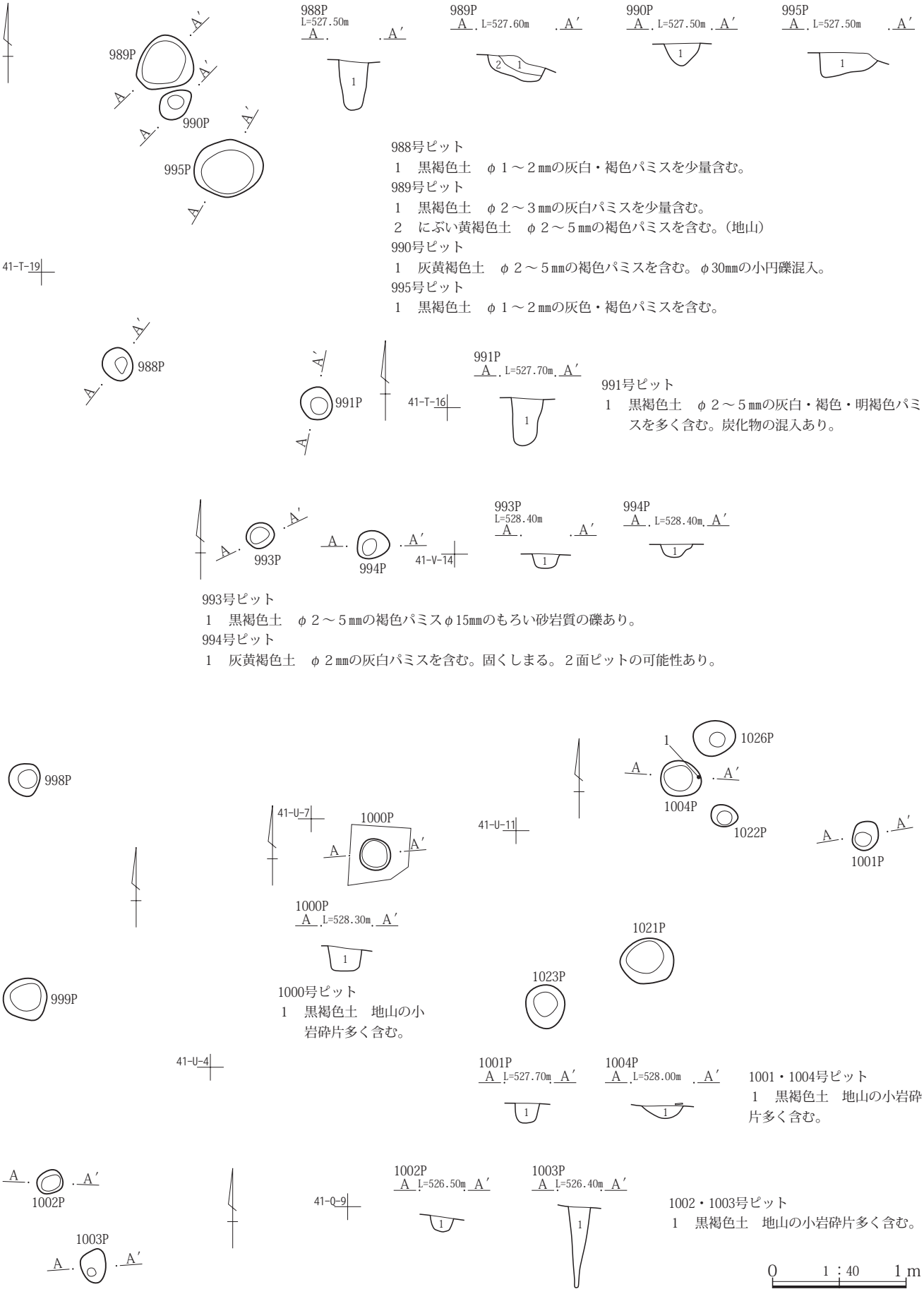
979・980P
A . L=527.70m . A′



979・980号ピット
1　褐色土　φ２～５㎜の灰白・褐色パミスを含む。φ10㎜の砂岩質の褐色礫あり。
2　暗褐色土　φ２～５㎜の灰白・褐色パミスを含む。φ15㎜の砂岩質のもろい礫含む。上面にφ５０㎜砂岩・青灰色の角礫（φ150㎜）混入。

0　1：40　1m

第417図　Ⅴ区ピット（12）



988号ピット
1　黒褐色土　φ１～２㎜の灰白・褐色パミスを少量含む。
989号ピット
1　黒褐色土　φ２～３㎜の灰白パミスを少量含む。
2　にぶい黄褐色土　φ２～５㎜の褐色パミスを含む。（地山）
990号ピット
1　灰黄褐色土　φ２～５㎜の褐色パミスを含む。φ30㎜の小円礫混入。
995号ピット
1　黒褐色土　φ１～２㎜の灰色・褐色パミスを含む。

991号ピット
1　黒褐色土　φ２～５㎜の灰白・褐色・明褐色パミスを多く含む。炭化物の混入あり。

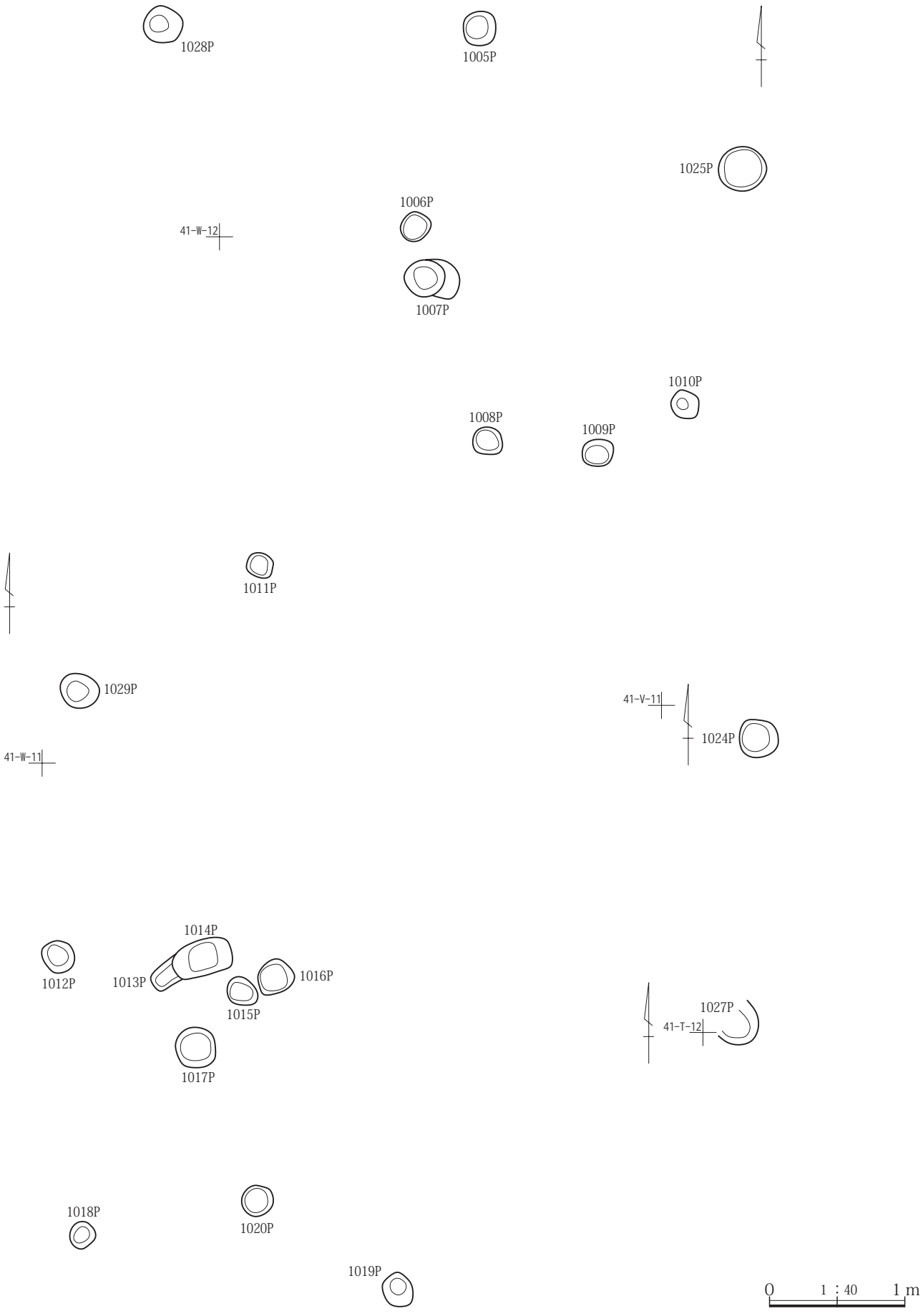
993号ピット
1　黒褐色土　φ２～５㎜の褐色パミスφ15㎜のもろい砂岩質の礫あり。
994号ピット
1　灰黄褐色土　φ２㎜の灰白パミスを含む。固くしまる。２面ピットの可能性あり。

1000号ピット
1　黒褐色土　地山の小岩砕片多く含む。

1001・1004号ピット
1　黒褐色土　地山の小岩砕片多く含む。

1002・1003号ピット
1　黒褐色土　地山の小岩砕片多く含む。

第418図　Ⅴ区ピット（13）



第419図　Ⅴ区ピット（14）

第５表　第２面　Ｖ区ピット一覧表

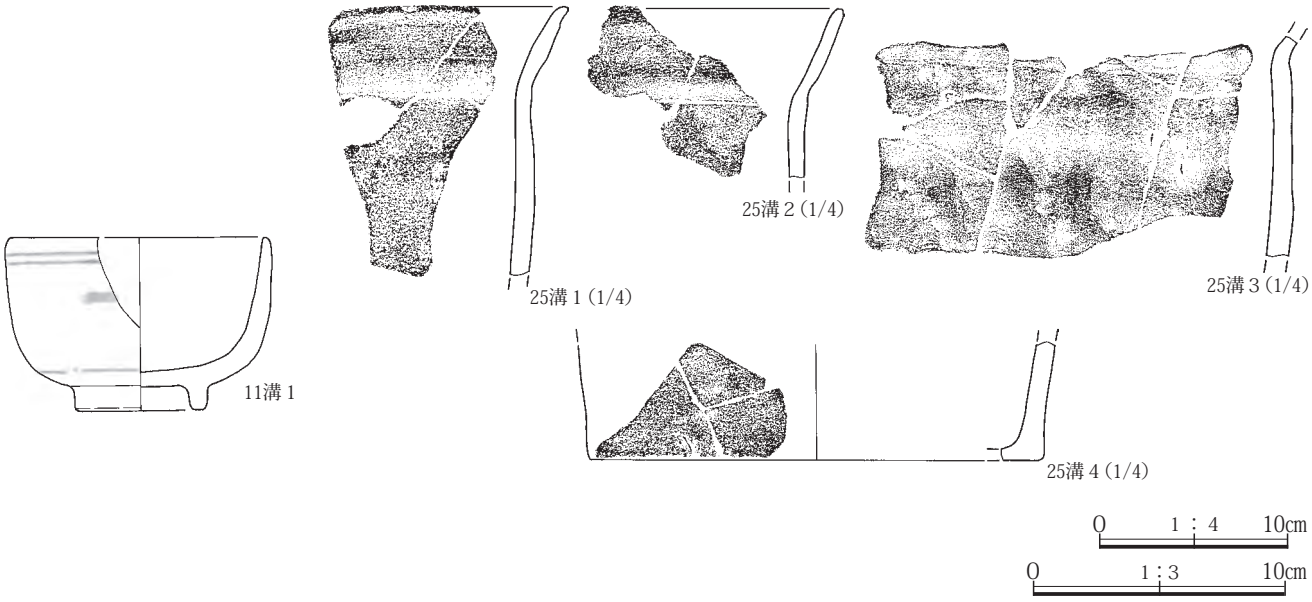
挿図	号	区	面	位置（グリッド）	平面形状	規模（cm）			重複	時代	備考	調査年度
						長軸	短軸	深さ				
第406図	601	Ｖ	3	41W-4	楕円形	26	23	15		中・近世		2016
第402図	602	Ｖ	3	41W-7	楕円形	27	23	34		中・近世		2016
第402図	603	Ｖ	3	41W-7	楕円形	31	27	29		中・近世		2016
第402図	604	Ｖ	3	41W-7	楕円形	26	21	15		中・近世		2016
第402図	605	Ｖ	3	41W-7	楕円形	24	21	28		中・近世		2016
第402図	606	Ｖ	3	41W-7	楕円形	25	22	19		中・近世	内耳鍋	2016
第407図	607	Ｖ	3	41W-7	楕円形	22	21	12		中・近世		2016
第407図	608	Ｖ	3	41W-7	楕円形	18	14	15		中・近世		2016
第407図	609	Ｖ	3	41W-7	方形	一辺	25	26		中・近世		2016
第407図	610	Ｖ	3	41W-7	方形	一辺	24	10		中・近世		2016
第402図	611	Ｖ	3	41X-7	楕円形	20	19	18		中・近世		2016
第402図	612	Ｖ	3	41X-7	楕円形	19	16	17		中・近世		2016
第406図	613	Ｖ	3	41X-7	不整形	46	30	28		中・近世		2016
第402図	614	Ｖ	3	41X-7	楕円形	31	27	31		中・近世		2016
第406図	615	Ｖ	3	41X-7	楕円形	45	33	36		中・近世		2016
第406図	616	Ｖ	3	41X-7	楕円形	49	41	47		中・近世		2016
第406図	617	Ｖ	3	41X-7	楕円形	30	26	19		中・近世		2016
第402図	618	Ｖ	3	41X-8	楕円形	51	39	45		中・近世		2016
第402図	619	Ｖ	3	41W・X-8	楕円形	36	29	27		中・近世		2016
第402図	620	Ｖ	3	41W・X-8	楕円形	38	34	50	621P	中・近世		2016
第402図	621	Ｖ	3	41W・X-7・8	長方形	53	29	41	620P	中・近世		2016
第402図	622	Ｖ	3	41W-8	楕円形	50	33	40		中・近世		2016
第407図	623	Ｖ	3	41V-8	不整形	48	26	37		中・近世		2016
第407図	624	Ｖ	3	41V-8	不整形	63	27	17		中・近世		2016
第408図	625	Ｖ	3	41U-7	不整形	57	32	20		中・近世		2016
第408図	626	Ｖ	3	41U-7	楕円形	24	21	19		中・近世		2016
第406図	627	Ｖ	3	41X-7	不整形	46	34	31		中・近世		2016
第406図	628	Ｖ	3	41X-7	楕円形	29	24	30		中・近世		2016
第406図	629	Ｖ	3	41X-7	楕円形	26	24	40		中・近世		2016
第406図	630	Ｖ	3	41X-7	楕円形	57	44	49		中・近世		2016
第406図	631	Ｖ	3	41X-7	（楕円形）	27	（25）	26	632P	中・近世		2016
第406図	632	Ｖ	3	41X-7	不整形	39	26	36	631P	中・近世		2016
第406図	633	Ｖ	3	41Y-7・8	楕円形	41	38	41	634P	中・近世		2016
第406図	634	Ｖ	3	41Y-7・8	（楕円形）	（42）	34	36	633P	中・近世		2016
第408図	635	Ｖ	3	41Y-7	楕円形	41	34	42		中・近世		2016
第406図	636	Ｖ	3	41Y-7	楕円形	32	22	30		中・近世		2016
第406図	637	Ｖ	3	41X・Y-7	楕円形	27	26	20		中・近世		2016
第406図	638	Ｖ	3	41X-7	楕円形	25	21	38		中・近世		2016
第406図	639	Ｖ	3	41X・Y-8	円形	直径	23	43		中・近世		2016
第406図	640	Ｖ	3	41X-8	楕円形	26	18	37		中・近世		2016
第409図	641	Ｖ	3	41X-8	不整形	56	48	54		中・近世		2016
第403図	642	Ｖ	3	41X-8	楕円形	55	37	53		中・近世		2016
第403図	643	Ｖ	3	41X-8	楕円形	26	24	45		中・近世		2016
第402図	644	Ｖ	3	41W-8	楕円形	23	19	37		中・近世	内耳鍋片	2016
第402図	645	Ｖ	3	41W-8	楕円形	32	26	41		中・近世		2016
第402図	646	Ｖ	3	41W-8	楕円形	31	24	33		中・近世		2016
第402図	647	Ｖ	3	41W-8	楕円形	29	27	18		中・近世		2016
第409図	648	Ｖ	3	41W-8	楕円形	33	30	17		中・近世	縄文土器片２	2016
第409図	649	Ｖ	3	41W-8	楕円形	24	22	33		中・近世		2016
第403図	650	Ｖ	3	41W-8	楕円形	36	33	28		中・近世		2016
第403図	651	Ｖ	3	41W-8	楕円形	25	24	16		中・近世		2016
第403図	652	Ｖ	3	41W-8	楕円形	25	24	42		中・近世		2016
第403図	653	Ｖ	3	41W-8	楕円形	30	26	37		中・近世		2016
第403図	654	Ｖ	3	41W-8	楕円形	22	19	24		中・近世		2016
第409図	655	Ｖ	3	41W-9	楕円形	42	35	53	721P	中・近世	内耳鍋片	2016
第409図	656	Ｖ	3	41V-9	楕円形	21	20	19		中・近世		2016
第409図	657	Ｖ	3	41V-9	方形	一辺	25	16		中・近世		2016
第407図	658	Ｖ	3	41V-8	楕円形	41	35	77		中・近世	縄文土器片７	2016
第407図	659	Ｖ	3	41V-8	楕円形	24	20	28		中・近世		2016
第410図	660	Ｖ	3	41V-9	楕円形	38	34	30		中・近世	縄文土器片１	2016
第410図	661	Ｖ	3	41V-9	楕円形	36	28	18		中・近世		2016
第410図	662	Ｖ	3	41V-9	不整形	56	40	32		中・近世		2016
第410図	663	Ｖ	3	41V-10	楕円形	38	25	33		中・近世		2016
第410図	664	Ｖ	3	41W-10	楕円形	53	37	22		中・近世		2016
第410図	665	Ｖ	3	41W-10	楕円形	29	26	26		中・近世		2016
第410図	666	Ｖ	3	41V-10	楕円形	33	26	14		中・近世		2016
第410図	667	Ｖ	3	41V-10	楕円形	24	22	27		中・近世		2016

挿図	号	区	面	位置（グリッド）	平面形状	規模（cm）			重複	時代	備考	調査年度
						長軸	短軸	深さ				
第410図	668	V	3	41V-10	楕円形	29	23	31		中・近世		2016
第410図	669	V	3	41V-10	楕円形	42	29	24		中・近世		2016
第410図	670	V	3	41V-9	楕円形	30	24	18		中・近世		2016
第410図	671	V	3	41U-9	楕円形	39	31	47		中・近世		2016
第410図	672	V	3	41V-8	楕円形	21	18	14		中・近世		2016
第410図	673	V	3	41V-8	楕円形	22	20	22		中・近世		2016
第410図	674	V	3	41V-3	不整形	146	50	32		中・近世	縄文土器片37,剥片９	2016
第410図	675	V	3	41U-3	円形	直径	24	15		中・近世		2016
第411図	676	V	3	41U-3	不整形	71	37	19		中・近世	縄文土器片２	2016
第406図	677	V	3	41X-7	方形	30	28	21		中・近世		2016
第409図	678	V	3	41W-9	楕円形	23	20	15		中・近世		2016
	679										欠番	2016
第409図	680	V	3	41W-9	楕円形	35	26	18		中・近世		2016
第411図	681	V	3	41W-7・8	長方形	28	24	31		中・近世	縄文土器片１	2016
第409図	682	V	3	41W-9	楕円形	25	20	24		中・近世		2016
第409図	683	V	3	41W-9	楕円形	28	19	12		中・近世		2016
第409図	684	V	3	41W-9	不整形	45	33	48		中・近世		2016
第409図	685	V	3	41W-9	楕円形	17	15	17		中・近世		2016
第410図	686	V	3	41V-9	楕円形	26	23	35		中・近世		2016
第410図	687	V	3	41V-9	(円形)	直径	24	10		中・近世		2016
第411図	688	V	3	41V-7	楕円形	27	18	24		中・近世		2016
第411図	689	V	3	41V-7	楕円形	26	18	11		中・近世		2016
第411図	690	V	3	41V-7	方形	24	22	17		中・近世		2016
第411図	691	V	3	41V-7	長方形	46	29	29		中・近世		2016
第407図	692	V	3	41U-8	楕円形	21	19	23		中・近世		2016
第407図	693	V	3	41U-8	楕円形	26	24	11		中・近世		2016
第408図	694	V	3	41U-8	方形	一辺	22	11		中・近世		2016
第411図	695	V	3	41U-7	楕円形	23	19	26		中・近世		2016
第407図	696	V	3	41U-8	方形	一辺	26	23		中・近世		2016
第407図	697	V	3	41U-8	楕円形	22	20	25		中・近世	縄文土器片１	2016
第408図	698	V	3	41U-7	楕円形	23	20	17		中・近世		2016
第411図	699	V	3	41U-7	楕円形	27	25	22	700P	中・近世		2016
第411図	700	V	3	41U-7	(方形)	22	(19)	8	699P	中・近世		2016
第411図	701	V	3	41U-7	楕円形	23	18	10		中・近世		2016
第411図	702	V	3	41U-7	楕円形	25	22	21		中・近世		2016
第408図	703	V	3	41U-7	方形	34	32	31		中・近世	縄文土器片１	2016
第408図	704	V	3	41U-7	方形	27	25	32		中・近世		2016
第408図	705	V	3	41T-8	楕円形	34	27	36		中・近世		2016
第411図	706	V	3	41T-8	楕円形	30	28	24		中・近世		2016
第411図	707	V	3	41T-8	楕円形	26	21	15		中・近世		2016
第411図	708	V	3	41T-8	楕円形	25	23	17		中・近世		2016
第411図	709	V	3	41U-8	楕円形	21	19	12		中・近世		2016
第412図	710	V	3	41U-9	長方形	27	17	20		中・近世		2016
第404図	711	V	3	41U-9	楕円形	22	17	12		中・近世		2016
第404図	712	V	3	41U-9	楕円形	22	19	19		中・近世		2016
第411図	713	V	3	41U-8	(楕円形)	(19)	18	7	714P	中・近世		2016
第411図	714	V	3	41U-8	楕円形	20	16	18	713P	中・近世		2016
第407図	715	V	3	41U-8	楕円形	21	19	12		中・近世		2016
第407図	716	V	3	41U・V-8	不整形	49	26	10		中・近世		2016
第407図	717	V	3	41U-8	長方形	28	20	13		中・近世		2016
第404図	718	V	3	41U-9	長方形	40	32	13		中・近世		2016
第404図	719	V	3	41U-9	長方形	21	17	7		中・近世		2016
第404図	720	V	3	41U-9	楕円形	29	24	14		中・近世		2016
第409図	721	V	3	41W-9	(楕円形)	(38)	32	32	655P	中・近世		2016
第412図	722	V	3	41R-6	楕円形	21	19	14		中・近世		2016
第412図	723	V	3	41R-6	楕円形	22	20	19		中・近世		2016
第412図	724	V	3	41R-6	楕円形	23	19	15		中・近世		2016
第412図	725	V	3	41U-13	楕円形	29	28	28		中・近世		2016
第412図	726	V	3	41U-13	楕円形	31	25	35		中・近世		2016
第412図	727	V	3	41U-13	楕円形	24	19	21		中・近世		2016
第412図	728	V	3	41U-13	円形	直径	24	23		中・近世	縄文土器片２	2016
第412図	729	V	3	41U-13	楕円形	23	22	23		中・近世		2016
第412図	730	V	3	41U-13	楕円形	25	22	23		中・近世		2016
第412図	731	V	3	41U-13	楕円形	31	26	33		中・近世	縄文土器片１	2016
第412図	732	V	3	41U-13	楕円形	31	30	21	733P	中・近世	縄文土器片３	2016
第412図	733	V	3	41U-13	(楕円形)	28	(20)	19	732P	中・近世		2016
第403図	734	V	3	41U-13	長方形	30	22	12		中・近世	縄文土器片１	2016
第403図	735	V	3	41U-13	長方形	19	16	17		中・近世	縄文土器片36、剥片２	2016

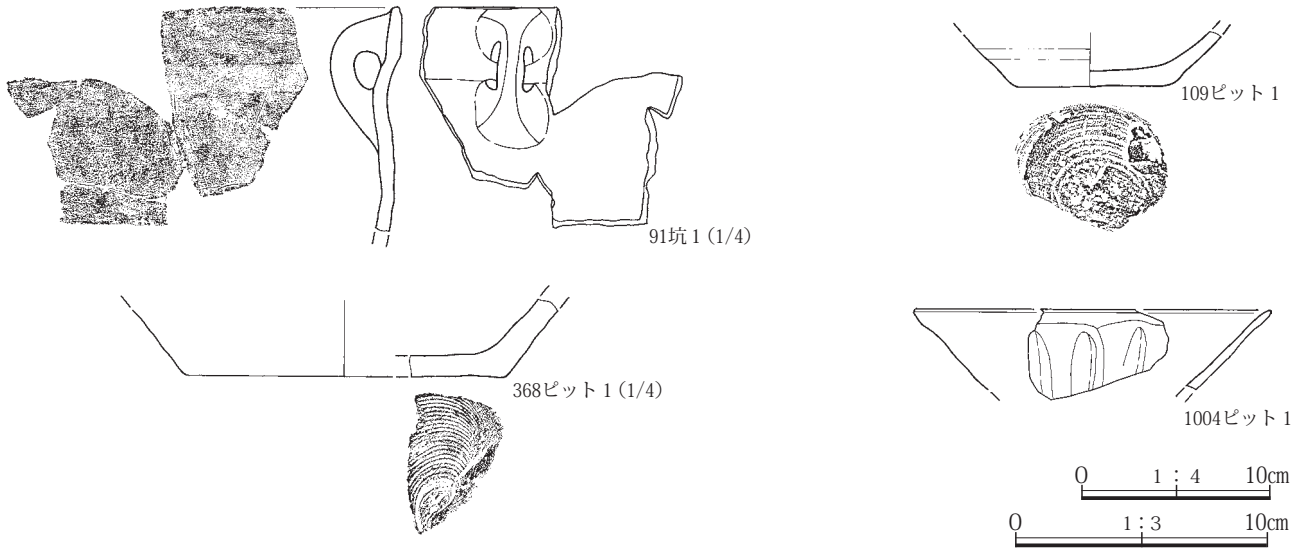
第２面　Ｖ区ピット一覧表

挿図	号	区	面	位置（グリッド）	平面形状	規模（cm）			重複	時代	備考	調査年度
						長軸	短軸	深さ				
第403図	736	V	3	41U-13	楕円形	18	16	17		中・近世		2016
第403図	737	V	3	41U-13	方形	21	19	29		中・近世	縄文土器片１	2016
第403図	738	V	3	41U-13	楕円形	20	16	13		中・近世		2016
第403図	739	V	3	41U-13	方形	一辺	22	26		中・近世	縄文土器片１	2016
第403図	740	V	3	41U-13	楕円形	23	18	12		中・近世		2016
第403図	741	V	3	41U-13	楕円形	41	33	44		中・近世		2016
第403図	742	V	3	41U-13	長方形	38	28	22		中・近世	縄文土器片１	2016
第413図	743	V	3	41U-11・12	（楕円形）	22	（15）	38		中・近世		2016
第413図	744	V	3	41U-11・12	方形	25	23	33		中・近世		2016
第413図	745	V	3	41U-11	円形	直径	26	16		中・近世		2016
第413図	746	V	3	41U-11	円形	直径	25	19		中・近世		2016
第413図	747	V	3	41U・V-11	（楕円形）	36	（27）	39		中・近世		2016
第413図	748	V	3	41U-11	（楕円形）	30	（8）	20		中・近世		2016
第413図	749	V	3	41U-11	円形	直径	28	13		中・近世		2016
第413図	750	V	3	41U-11	方形	一辺	25	16		中・近世		2016
第413図	751	V	3	41U・V-11	（楕円形）	23	（20）	15		中・近世		2016
	752										欠番	2016
	753	V	3	41U-13	楕円形	22	18	11		中・近世		2016
第413図	754	V	3	41T-13	楕円形	21	18	15		中・近世		2016
第413図	755	V	3	41T-14	楕円形	35	27	26		中・近世		2016
第412図	756	V	3	41U-12・13	（楕円形）	18	（15）	9		中・近世		2016
第412図	757	V	3	41U-12・13	楕円形	33	23	34		中・近世		2016
第412図	758	V	3	41U-12・13	楕円形	31	28	33		中・近世		2016
第414図	759	V	3	41V-14	長方形	33	30	36		中・近世		2016
第414図	760	V	3	41V-14	楕円形	24	22	26	983P	中・近世		2016
第414図	761	V	3	41V-15	（楕円形）	35	（19）	42		中・近世	縄文土器片11	2016
第414図	762	V	3	41V-15	（楕円形）	22	（15）	45		中・近世	縄文土器片19	2016
第415図	867	V	3	41R-12	方形	35	33	15		中・近世		2016
第415図	895	V	3	41N-22	円形	直径	16	7		中・近世		2016
第415図	896	V	3	41M・N-22	円形	直径	16	7		中・近世		2016
第415図	897	V	3	41O-21	円形	直径	23	15		中・近世		2016
第415図	898	V	3	41O-21	方形	一辺	18	17		中・近世		2016
第415図	899	V	3	41M-23	楕円形	27	24	15		中・近世		2016
第415図	900	V	3	41M-23	楕円形	29	26	19		中・近世		2016
第415図	901	V	3	41M-24	楕円形	33	29	24		中・近世		2016
第415図	902	V	3	41L-23・24	円形	直径	23	13		中・近世		2016
第415図	903	V	3	41L-23	円形	直径	24	37		中・近世		2016
第415図	904	V	3	41L-23	楕円形	29	25	20		中・近世		2016
第415図	905	V	3	41M-23	楕円形	19	16	11		中・近世		2016
第415図	906	V	3	41M-23	楕円形	22	18	10		中・近世		2016
第415図	907	V	3	41M-22	楕円形	22	18	9		中・近世		2016
第415図	908	V	3	41M-22	楕円形	20	17	8		中・近世		2016
第415図	909	V	3	41M-22	楕円形	19	18	9		中・近世		2016
第415図	910	V	3	41M-22	楕円形	24	20	13		中・近世		2016
第415図	911	V	3	41M-22	方形	一辺	22	14		中・近世		2016
第415図	912	V	3	41M-23	方形	一辺	17	15		中・近世		2016
第415図	913	V	3	41L-23	楕円形	34	28	21		中・近世		2016
第415図	914	V	3	41L-23	楕円形	31	26	20		中・近世	縄文土器片１	2016
第415図	915	V	3	41L-23	楕円形	24	22	16		中・近世		2016
第415図	916	V	3	41L-22	楕円形	27	24	18		中・近世		2016
第416図	917	V	3	41K-22	楕円形	23	22	8		中・近世		2016
第416図	918	V	3	41M-22	円形	直径	22	12		中・近世		2016
	919										欠番	2016
	920										欠番	2016
第416図	921	V	3	41U-10	楕円形	24	22	11		中・近世		2016
	959	V	3	41U-14	方形	一辺	19	10		中・近世		2016
第416図	960	V	3	41U-15	長方形	37	23	24		縄文	剥片１	2016
第414図	961	V	3	41W-14	（長方形）	（37）	30	48		縄文	縄文土器片９	2016
第414図	962	V	3	41V・W-14	楕円形	42	40	59		縄文	縄文土器片９	2016
第414図	963	V	3	41V-15	楕円形	40	31	39		縄文	石鏃１	2016
第414図	964	V	3	41V-15	（楕円形）	（38）	37	53		縄文	縄文土器片９	2016
第414図	965	V	3	41V-15	（楕円形）	（38）	37	38		縄文	縄文土器片３	2016
第416図	966	V	3	41U-15	楕円形	45	38	38		縄文		2016
第416図	967	V	3	41U-15	楕円形	45	35	32		縄文		2016
第416図	968	V	3	41U-15	楕円形	26	25	24		縄文		2016
第416図	969	V	3	41U-15	長方形	41	28	36		縄文		2016
第416図	970	V	3	41U-15	楕円形	32	25	22		縄文		2016
第417図	971	V	3	41U-16	楕円形	21	18	21		縄文		2016

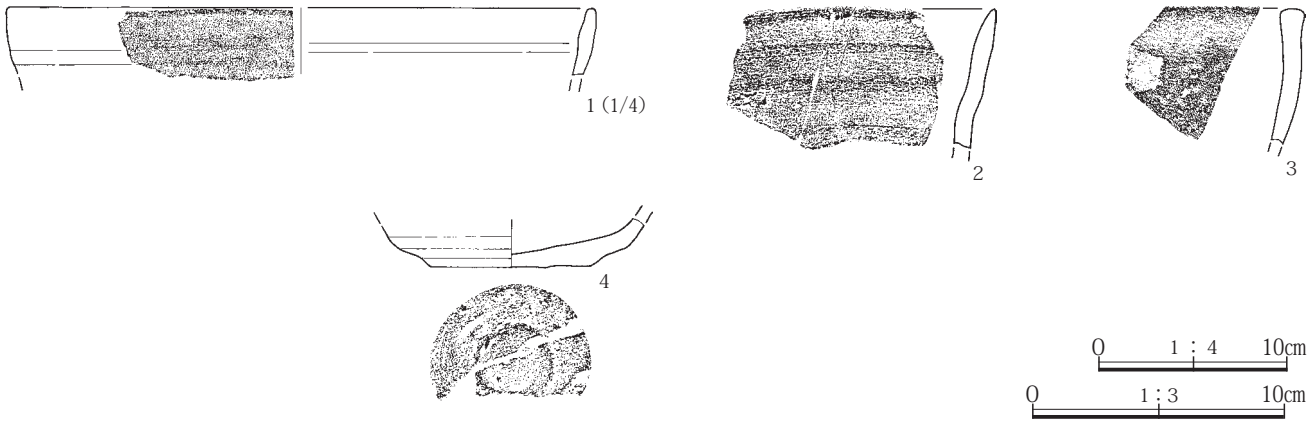
挿図	号	区	面	位置（グリッド）	平面形状	規模（cm）			重複	時代	備考	調査年度
						長軸	短軸	深さ				
第416図	972	V	3	41V-15	長方形	33	25	14		縄文		2016
第417図	973	V	3	41T-15	不整形	38	26	44	974P	縄文	縄文土器片１、剥片１	2016
第417図	974	V	3	41T-15	（楕円形）	(37)	23	10	973P	縄文	縄文土器片２	2016
第417図	975	V	3	41T-15	楕円形	35	34	49		縄文	縄文土器片６	2016
第416図	976	V	3	41U-15	（不整形）	60	43	23	977P	縄文		2016
第416図	977	V	3	41U-15	楕円形	38	29	22	976・978P	縄文		2016
第416図	978	V	3	41U-15	楕円形	22	17	19	977P	縄文		2016
第417図	979	V	3	41T-15	楕円形	28	24	49	980P	縄文		2016
第417図	980	V	3	41T-15	（楕円形）	66	64	22	979P	縄文	縄文土器片10、剥片１	2016
第416図	981	V	3	41U・V-14・15	楕円形	56	50	24		縄文	縄文土器片８	2016
第414図	982	V	3	41V-14	不整形	90	73	10		縄文		2016
第414図	983	V	3	41V-14	（楕円形）	55	34	25	760P	縄文	縄文土器片５、剥片１	2016
第414図	984	V	3	41V-14	（不整形）	(70)	38	7	985・986P	縄文	縄文土器片２	2016
第414図	985	V	3	41V-14	（楕円形）	(46)	43	13	984・986P	縄文	縄文土器片７	2016
第414図	986	V	3	41V-14	楕円形	57	51	28	984・985P	縄文	縄文土器片52、剥片１	2016
	987	V	3	41U-14	楕円形	17	16	13		縄文		2016
第418図	988	V	3	41S-18	楕円形	25	22	37		縄文	縄文土器片２	2016
第418図	989	V	3	41S-19	楕円形	43	40	16		縄文		2016
第418図	990	V	3	41S-19	楕円形	27	20	17		縄文	縄文土器片１	2016
第418図	991	V	3	41T-15・16	楕円形	25	23	36		縄文		2016
第416図	992	V	3	41U-15	楕円形	30	28	34		縄文	縄文土器片３	2016
第418図	993	V	3	41V-14	楕円形	21	19	11	994P	縄文		2016
第418図	994	V	3	41V-14	楕円形	24	21	10	993P	縄文		2016
第418図	995	V	3	41S-19	楕円形	53	43	18		縄文	縄文土器片６	2016
第413図	996	V	3	41T-12	楕円形	31	29	13		中・近世		2016
第412図	997	V	3	41T-12	楕円形	38	34	10		中・近世		2016
第418図	998	V	3	41U-4	円形	25	23	28		中・近世		2017
第418図	999	V	3	41U-4	円形	33	31	14		中・近世		2017
第418図	1000	V	3	41T-6	円形	23	23	17		中・近世		2017
第418図	1001	V	3	41T-10・11	楕円形	23	19	19		中・近世		2017
第418図	1002	V	3	41Q-9	楕円形	20	17	14		中・近世		2017
第418図	1003	V	3	41Q-8	楕円形	22	20	60		中・近世		2017
第418図	1004	V	3	41T-11	楕円形	31	27	11		中・近世	青磁椀	2017
第419図	1005	V	3	41V-12	円形	25	25	31		中・近世	縄文土器片	2017
第419図	1006	V	3	41V-12	円形	22	21	20		中・近世		2017
第419図	1007	V	3	41V-11	楕円形	42	27	35		中・近世	縄文土器片	2017
第419図	1008	V	3	41V-11	円形	22	22	15		中・近世		2017
第419図	1009	V	3	41V-11	円形	23	19	44		中・近世	縄文土器片	2017
第419図	1010	V	3	41V-11	円形	22	20	29		中・近世		2017
第419図	1011	V	3	41V-11	円形	20	17	21		中・近世		2017
第419図	1012	V	3	41V-10	円形	25	23	36		中・近世		2017
第419図	1013	V	3	41V-10	楕円形	(19)	17	19		中・近世		2017
第419図	1014	V	3	41V-10	楕円形	45	27	45		中・近世		2017
第419図	1015	V	3	41V-10	円形	19	25	21		中・近世		2017
第419図	1016	V	3	41V-10	円形	27	24	13		中・近世		2017
第419図	1017	V	3	41V-10	円形	36	30	12		中・近世		2017
第419図	1018	V	3	41V-10	円形	19	18	15		中・近世	剥片	2017
第419図	1019	V	3	41V-10	楕円形	26	22	16		中・近世		2017
第419図	1020	V	3	41V-10	円形	24	23	10		中・近世		2017
第418図	1021	V	3	41T-10	楕円形	41	34	23		中・近世		2017
第418図	1022	V	3	41T-11	楕円形	22	17	23		中・近世		2017
第418図	1023	V	3	41T-10	楕円形	33	29	12		中・近世		2017
第419図	1024	V	3	41U-10	円形	29	29	20		中・近世		2017
第419図	1025	V	3	41V-12	円形	35	34	10		中・近世		2017
第418図	1026	V	3	41T-11	楕円形	32	27	40		中・近世	縄文土器片	2017
第419図	1027	V	3	41S-11・12	楕円形	24	(32)	37		中・近世	剥片	2017
第419図	1028	V	3	41W-12	円形	30	28	43		中・近世	縄文土器片	2017
第419図	1029	V	3	41V-11	楕円形	32	25	15		中・近世		2017



第420図　Ⅴ区11・25号溝出土遺物



第421図　Ⅴ区土坑・ピット出土遺物



第422図　Ⅴ区遺構外出土遺物